別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基	本	計	画
事　　項	記　　入　　欄		備　　考
計　画　の　区　分	学部の設置		
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ガッコウホウジン　リュウコクダイガク 学校法人　龍谷大学		
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	リュウコクダイガク 龍谷大学　（Ryukoku University）		
大　学　本　部　の　位　置	京都府京都市伏見区深草塚本町67番地		
大　学　の　目　的	本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。		
新　設　学　部　等　の　目　的	建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対して、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を養成することを目的とする。		

新設学部等の概要

新　設　学　部　等　の　名　称	修業年限	入学定員	編入学定　員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所　在　地	備　考
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
心理学部 [Faculty of Psychology] 心理学科 [Department of Psychology]	4	255	3年次 10	1,040	学士（心理学） 【Bachelor of Psychology】	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	（1,2年次） 京都市伏見区深草塚本町67番地 （3,4年次） 京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
計		255	10	1,040				

同一設置者内における変更状況

（定員の移行，名称の変更等）

龍谷大学

○学生募集停止
　文学部
　　臨床心理学科（廃止）　（△99）　　（令和3年12月報告済）
　　（3年次編入学定員）　（△2）
　　※令和5年4月学生募集停止
　　（3年次編入学定員は、令和7年4月学生募集停止）

○農学部3年次編入学定員の変更　（令和4年3月認可申請済）
　　植物生命科学科〔定員減〕　　（△2）（令和5年4月）
　　資源生物科学科〔定員減〕　　（△1）（令和5年4月）
　　食品栄養学科　〔定員増〕　　（　4）（令和5年4月）
　　食料農業システム学科〔定員減〕（△1）（令和5年4月）

○令和5年4月名称変更予定　（令和4年4月届出済）
　農学部
　　植物生命科学科　→　生命科学科
　　資源生物科学科　→　農学科

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
心理学部	378 科目	18 科目	14 科目	410 科目	124　単位

教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	心理学部	心理学科	14 (14)	6 (6)	3 (1)	0 (0)	23 (21)	1 (1)	332 (332)	
	既設分	文学部	真宗学科	12 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (15)	1 (1)	386 (386)	
			仏教学科	4 (6)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	390 (390)	
			哲学科	10 (7)	6 (7)	0 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	385 (385)	
			歴史学科	17 (16)	7 (7)	2 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	420 (420)	
			日本語日本文学科	7 (6)	4 (3)	1 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	381 (381)	
			英語英米文学科	6 (6)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	377 (377)	
		経済学部	現代経済学科	9 (11)	16 (16)	8 (8)	0 (0)	33 (35)	0 (0)	431 (431)	
			国際経済学科	11 (13)	9 (7)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	449 (449)	
		経営学部	経営学科	20 (22)	22 (16)	3 (1)	0 (0)	45 (39)	0 (0)	469 (469)	
		法学部	法律学科	34 (38)	12 (9)	3 (3)	0 (0)	49 (50)	0 (0)	487 (487)	
		社会学部	社会学科	10 (11)	6 (6)	4 (3)	0 (0)	20 (20)	2 (2)	156 (156)	
			コミュニティマネジメント学科	6 (7)	5 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (15)	2 (2)	156 (156)	
			現代福祉学科	11 (11)	4 (4)	5 (3)	0 (0)	20 (18)	2 (2)	156 (156)	
		政策学部	政策学科	18 (16)	10 (10)	2 (4)	0 (0)	30 (30)	2 (0)	434 (434)	
		国際学部	国際文化学科	16 (20)	7 (5)	3 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	243 (243)	
			グローバルスタディーズ学科	7 (8)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	165 (165)	
		農学部	生命科学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	3 (3)	227 (227)	令和4年4月名称変更届出
			農学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	4 (4)	241 (241)	令和4年4月名称変更届出
			食品栄養学科	10 (10)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	8 (8)	223 (223)	
			食料農業システム学科	6 (5)	4 (5)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	223 (223)	
		先端理工学部	数理・情報科学課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			知能情報メディア課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			電子情報通信課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			機械工学・ロボティクス課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			応用化学課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			環境生態工学課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
			先端理工学部 計	43 (47)	18 (18)	21 (18)	10 (9)	92 (92)	16 (16)	189 (189)	
		計		285 (299)	165 (151)	70 (65)	10 (9)	530 (524)	41 (39)	— (—)	
		龍谷ミュージアム		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 0	4 (4)	0 0	－ (－)	
		計		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 0	4 (4)	0 (0)	－ (－)	
	合計			286 (300)	168 (154)	70 (65)	10 (9)	534 (528)	41 (39)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	407 人 (407)	67 人 (67)	474 人 (474)
	技術職員	16 (16)	0 (0)	16 (16)
	図書館専門職員	14 (14)	4 (4)	18 (18)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	437 (437)	71 (71)	508 (508)

校地等	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	龍谷大学短期大学部と共用 （法令上の必要面積：4,400㎡） （借用地） ○「校舎敷地／専用」内 ・面積：3,418.00㎡ 期間：永代借用 ・面積：292.87㎡ 期間：20年間 ○「その他／専用」内 ・面積：1,681.64㎡ 期間：20年間 ・面積：27,411.00㎡ 期間：20年間
	校　舎　敷　地	176,588.96 ㎡	89,512.56 ㎡	0.00 ㎡	266,101.52 ㎡	
	運　動　場　用　地	43,900.00 ㎡	65,481.05 ㎡	0.00 ㎡	109,381.05 ㎡	
	小　　計	220,488.96 ㎡	154,993.61 ㎡	0.00 ㎡	375,482.57 ㎡	
	そ　の　他	229,654.31 ㎡	3,949.68 ㎡	0.00 ㎡	233,603.99 ㎡	
	合　　計	450,143.27 ㎡	158,943.29 ㎡	0.00 ㎡	609,086.56 ㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	龍谷大学短期大学部と共用 （法令上の必要面積：4,150㎡）
	175,162.31 ㎡ （ 172,063.48 ㎡ ）	69,239.97 ㎡ （ 69,239.97 ㎡ ）	7,062.04 ㎡ （ 6,062.41 ㎡ ）	251,464.32 ㎡ （ 247,365.86 ㎡ ）	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	184 室	326 室	243 室	39 室 （補助職員　16人）	7 室 （補助職員　16人）	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　　数	
	心理学部	23	室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で共用分 ・図書 2,239,382冊[うち外国書684,139]冊 ・学術雑誌 16,344種[うち外国書4,371種] ・電子ジャーナル 3,188種[うち外国書3,090種] ・視聴覚資料 56,229点
	心理学部	140,615〔48,164〕 （137,864〔46,814〕）	474〔95〕 （474〔95〕）	11〔11〕 （11〔11〕）	1,138 （1,120）	127,925 （127,923）	353 （353）	
	計	140,615〔48,164〕 （137,864〔46,814〕）	474〔95〕 （474〔95〕）	11〔11〕 （11〔11〕）	1,138 （1,120）	127,925 （127,923）	353 （353）	

図書館	面積	閲覧座席数	収　納　可　能　冊　数	大学全体
	25,595.83 ㎡	2,621 席	3,178,470 冊	
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	17,110.21 ㎡	テニスコート　3 面	投球練習場　1 面	
		SETA DOME　1 面		

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区　分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		425千円	425千円	425千円	425千円	－　千円	－　千円	
		共同研究費等		13,200千円	14,256千円	14,256千円	14,256千円	－　千円	－　千円	
		図書購入費	10,010千円	22,750千円	24,570千円	24,570千円	24,570千円	－　千円	－　千円	
		設備購入費	2,918千円	1,777千円	203,504千円	5,270千円	6,984千円	－　千円	－　千円	

学生１人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※ 編・転入学で、本学他学部出身の場合、入学金100千円を減免 編・転入学で、本学短期大学部出身の場合、入学金100千円及び施設費50千円を減免
1年次入学	心理学部	1,267千円	1,267千円	1,267千円	1,267千円	－　千円	－　千円	
※3年次編・転入学	心理学部	－　千円	－　千円	1,367千円	1,267千円	－　千円	－　千円	
	（本学学部出身者）	－　千円	－　千円	（1,267千円）	（1,267千円）	－　千円	－　千円	
	（本学短大出身者）	－　千円	－　千円	（1,217千円）	（1,217千円）	－　千円	－　千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料，寄付金，私立大学等経常経費補助金，受取利息・配当金収入，雑収入　等						

	大学の名称	龍谷大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	文学部						0.99		（1,2年次） 京都市伏見区深草塚本町67番地	
	真宗学科	4	145	3年次 6	589	学士（文学）	0.95	平成4年度		令和2年度入学定員増（10名）
	仏教学科	4	118	3年次 5	477	学士（文学）	0.96	昭和24年度		令和2年度入学定員増（8名）
	哲学科	4	148	3年次 4	592	学士（文学）	1.02	昭和24年度	（3,4年次） 京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	令和2年度入学定員増（10名）
	臨床心理学科	4	99	3年次 2	394	学士（文学）	0.99	平成24年度		令和2年度入学定員増（7名） ※令和5年度より学生募集停止（臨床心理学科）
	歴史学科	4	267	3年次 9	1,071	学士（文学）	0.99	昭和24年度		令和2年度入学定員増（19名）
	日本語日本文学科	4	101	3年次 2	402	学士（文学）	1.01	平成4年度		令和2年度入学定員増（7名）
	英語英米文学科	4	101	3年次 2	402	学士（文学）	0.97	平成4年度		令和2年度入学定員増（7名）
	経済学部						0.97		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	現代経済学科	4	360	3年次 7	1,436	学士（経済学）	0.97	平成18年度		令和2年度現代経済学科入学定員増（18名） 令和2年度国際経済学科入学定員増（12名） 経済学部現代経済学科と国際経済学科は入学時一括募集（600名）を行う
	国際経済学科	4	240	3年次 5	958	学士（経済学）	0.97	平成18年度		
	経営学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学科	4	519	3年次 5	2,060	学士（経営学）	0.97	昭和41年度		令和2年度入学定員増（26名）
	法学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学科	4	445	3年次 5	1,765	学士（法学）	1.01	昭和43年度		令和2年度入学定員増（25名）
	理工学部						―		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和2年度より学生募集停止（理工学部）
	数理情報学科	4	―	―	―	学士（理学）	―	平成元年度		
	電子情報学科	4	―	―	―	学士（工学）	―	平成元年度		
	機械システム工学科	4	―	―	―	学士（工学）	―	平成元年度		
	物質化学科	4	―	―	―	学士（工学）	―	平成元年度		
	情報メディア学科	4	―	―	―	学士（工学）	―	平成15年度		
	環境ソリューション工学科	4	―	―	―	学士（工学）	―	平成15年度		

	学　部　等　の　名　称	修業年限	入学定員	編入学定　員	収容定員	学位又は称号	定　員超過率	開設年度	所　在　地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の状況	社会学部						0.98		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学科	4	210	3年次 5	840	学士(社会学)	0.99	平成元年度		令和2年度入学定員増（10名）
	コミュニティマネジメント学科	4	153	3年次 3	610	学士(社会学)	1.00	平成16年度		令和2年度入学定員増（8名）
	現代福祉学科	4	195	3年次 30	830	学士(社会福祉学)	0.96	平成28年度		令和2年度入学定員増（10名）
	臨床福祉学科	4	―	―	―	学士(社会福祉学)	―	平成10年度		※平成28年度より学生募集停止（臨床福祉学科）
	国際文化学部								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※平成27年度より学生募集停止（国際文化学部）
	国際文化学科	4	―	―	―	学士(国際文化学)	―	平成8年度		
	政策学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学科	4	308	3年次 5	1,226	学士(政策学)	0.98	平成23年度		令和2年度入学定員増（16名）
	国際学部						1.00		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学科	4	372	3年次 20	1,509	学士(国際文化学)	1.00	平成27年度		令和2年度入学定員増（19名）
	グローバルスタディーズ学科	4	135	3年次 10	553	学士(グローバルスタディーズ)	0.98	平成27年度		令和2年度入学定員増（7名）
	農学部						1.01		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	植物生命科学科	4	90	3年次 10	374	学士(農学)	0.98	平成27年度		令和2年度入学定員増（6名）
	資源生物科学科	4	134	3年次 10	548	学士(農学)	1.02	平成27年度		令和2年度入学定員増（8名）
	食品栄養学科	4	80	―	320	学士(農学)	1.00	平成27年度		
	食料農業システム学科	4	134	3年次 10	548	学士(農学)	1.04	平成27年度		令和2年度入学定員増（8名）
	先端理工学部						0.97		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	令和2年4月先端理工学部開設
	数理・情報科学課程	4	103	3年次 2	295	学士(理学)	1.01	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	知能情報メディア課程	4	103	3年次 2	295	学士(工学)	1.05	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	電子情報通信課程	4	103	3年次 2	295	学士(工学)	1.00	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	機械工学・ロボティクス課程	4	113	3年次 2	325	学士(工学)	1.02	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	応用化学課程	4	103	3年次 2	295	学士(工学)	0.95	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	環境生態工学課程	4	103	3年次 2	295	学士(工学)	0.80	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）

大学の名称	龍谷大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況 修士課程									
文学研究科						0.56		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
真宗学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.62	昭和28年度		
仏教学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.27	昭和28年度		
哲学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.07	昭和41年度		
教育学専攻	2	7	－	14	修士(教育学)	0.00	平成6年度		
臨床心理学専攻	2	10	－	20	修士(臨床心理学)	1.75	平成24年度		
日本史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.99	昭和41年度		
東洋史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.49	昭和41年度		
日本語日本文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.56	昭和41年度		
英語英米文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.21	昭和42年度		
法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
法律学専攻	2	25	－	50	修士(法学)	0.42	昭和47年度		
経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
経済学専攻	2	30	－	60	修士(経済学)	0.10	昭和57年度		
経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
経営学専攻	2	30	－	60	修士(経営学)	0.01	昭和57年度		
社会学研究科						0.70		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
社会学専攻	2	10	－	20	修士(社会学)	0.80	平成3年度		
社会福祉学専攻	2	10	－	20	修士(社会福祉学)	0.60	平成3年度		
理工学研究科						0.61		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
数理情報学専攻	2	25	－	50	修士(理学)	0.36	平成5年度		
電子情報学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	0.76	平成5年度		
機械システム工学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	0.60	平成5年度		
物質化学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	1.04	平成5年度		
情報メディア学専攻	2	20	－	40	修士(工学)	0.60	平成19年度		
環境ソリューション工学専攻	2	20	－	40	修士(工学)	0.25	平成19年度		
国際文化学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	※平成31年度より学生募集停止（国際文化学研究科国際文化学専攻）
国際文化学専攻	2	－	－	－	修士(国際文化学)	－	平成12年度		
実践真宗学研究科								京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
実践真宗学専攻	3	30	－	90	修士(実践真宗学)	0.27	平成21年度		

	学　部　等　の　名　称	修業年限	入学定員	編入学定　員	収容定員	学位又は称号	定　員超過率	開設年度	所　在　地	
		年	人	年次人	人		倍			
	政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学専攻	2	20	－	40	修士(政策学)	0.92	平成23年度		
	農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	食農科学専攻	2	30	－	60	修士(食農科学)	0.68	平成30年度		
	国際学研究科						0.89		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学専攻	2	7	－	14	修士(国際文化学)	0.85	平成31年度		
	グローバルスタディーズ専攻	2	4	－	8	修士(グローバルスタディーズ)	0.75	平成31年度		
	言語コミュニケーション専攻	2	4	－	8	修士(言語コミュニケーション)	1.12	平成31年度		
	博士後期課程									
既	文学研究科						0.49		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
設	真宗学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.53	昭和30年度		
大	仏教学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.80	昭和30年度		
学	哲学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和41年度		
等	教育学専攻	3	3	－	9	博士(教育学)	0.00	平成12年度		
の	臨床心理学専攻	3	2	－	6	博士(臨床心理学)	0.66	平成24年度		
状	日本史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	1.50	昭和41年度		
況	東洋史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.33	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.16	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.16	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	3	5	－	15	博士(法学)	0.13	昭和49年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	3	3	－	9	博士(経済学)	0.11	昭和60年度		
	経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学専攻	3	3	－	9	博士(経営学)	0.00	昭和60年度		
	社会学研究科						0.44		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学専攻	3	3	－	9	博士(社会学)	0.33	平成3年度		
	社会福祉学専攻	3	3	－	9	博士(社会福祉学)	0.55	平成3年度		

既設大学等の状況

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
理工学研究科						0.10		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
数理情報学専攻	3	3	―	9	博士(理学)	0.00	平成7年度		
電子情報学専攻	3	3	―	9	博士(工学)	0.11	平成7年度		
機械システム工学専攻	3	3	―	9	博士(工学)	0.00	平成7年度		
物質化学専攻	3	3	―	9	博士(工学)	0.11	平成7年度		
情報メディア学専攻	3	2	―	6	博士(工学)	0.33	平成21年度		
環境ソリューション工学専攻	3	2	―	6	博士(工学)	0.16	平成21年度		
国際文化学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	※平成31年度より学生募集停止（国際文化学研究科国際文化学専攻）
国際文化学専攻	3	―	―	―	博士(国際文化学)	―	平成14年度		
政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
政策学専攻	3	3	―	9	博士(政策学)	0.88	平成23年度		
農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
食農科学専攻	3	5	―	15	博士(食農科学)	0.80	平成30年度		
国際学研究科						0.58		京都市伏見区深草塚本町67番地	
国際文化学専攻	3	2	―	6	博士(国際文化学)	0.50	平成31年度		
グローバルスタディーズ専攻	3	2	―	6	博士(グローバルスタディーズ)	0.66	平成31年度		

大学の名称	龍谷大学短期大学部

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
短期大学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
社会福祉学科	2	85	―	170	短期大学士(社会福祉学)	0.72	昭和37年度		
こども教育学科	2	135	―	270	短期大学士(こども教育学)	0.84	平成23年度		

附属施設の概要	名　称：社会科学研究所 目　的：社会科学における各分野の枠にとらわれず、様々な分野の研究者との共同研究を推進することで、新たな社会科学の創造と発展に寄与することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67番地　紫英館2階 設　立：昭和44（1969）年4月 規　模：634.17㎡ 名　称：人間・科学・宗教総合研究センター 目　的：本学の所有する資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67番地　紫光館3階 設　立：平成13（2001）年9月 規　模：158.40㎡ 名　称：世界仏教文化研究センター 目　的：龍谷大学の建学の精神に基づき，仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し，現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで，国際交流の推進，教育への還元と社会への貢献を目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67番地　紫光館3階 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番の1　西黌123研究室 白亜館2階 設　立：平成27（2015）年4月1日 規　模：386.96㎡ 名　称：Ryukoku Extention Center 目　的：各学問分野の発展を基礎に、本学に対する社会的要請に応えるため、本学の教育・研究機能の公開の拠点とすることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　REC-HALL 京都市伏見区深草塚本町67　紫光館5階 東大阪市荒本北50-5　クリエイション・コア東大阪内 設　立：平成3（1991）年4月 規　模：3,045.75㎡ 名　称：龍谷ミュージアム 目　的：仏教文化を中心とした学術資料の収集、整理、保存、調査、研究及び展示公開等の博物館活動を継続的に行うとともに、本学における教育・研究の成果を広く社会に公開することを目的とする。 所在地：京都市下京区西中辻通正面下ル丸屋町117 設　立：平成23（2011）年4月 規　模：4,166,99㎡ 名　称：科学技術共同研究センター 目　的：科学技術及びその関連分野に関する研究・開発を行い、科学技術の創造と発展に寄与し、あわせて研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成元（1989）年4月 規　模：28.35㎡ 名　称：国際社会文化研究所 目　的：地域、社会、福祉、国際文化、国際共生及びその他の人文社会系に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を推進し，これらの分野における学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成9（1997）年4月 規　模：26.25㎡ 名　称：食と農の総合研究所 目　的：食と農に関する農学を中心とした複合的・学際的・国際的な研究を推進する。また、地域社会との連携をも視野に入れた研究を推進し、これらの分野における学術の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　4号館3階 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：55.00㎡ 名　称：牧農場 目　的：農学部・農学研究科の教育・研究に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市牧二丁目字牧 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：27,411.00 ㎡	

（注）

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

（基本計画書・補足資料）

学校法人龍谷大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4（2022）年度				令和5（2023）年度				
学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学				龍谷大学				
文学部				文学部				
真宗学科	145	3年次 6	592	真宗学科	145	3年次 6	592	
仏教学科	118	3年次 5	482	仏教学科	118	3年次 5	482	
哲学科	148	3年次 4	600	哲学科	148	3年次 4	600	
臨床心理学科	99	3年次 2	400		0	3年次 0	0	令和5年4月学生募集停止
歴史学科	267	3年次 9	1,086	歴史学科	267	3年次 9	1,086	
日本語日本文学科	101	3年次 2	408	日本語日本文学科	101	3年次 2	408	
英語英米文学科	101	3年次 2	408	英語英米文学科	101	3年次 2	408	
経済学部				経済学部				
現代経済学科	360	3年次 7	1,454	現代経済学科	360	3年次 7	1,454	
国際経済学科	240	3年次 5	970	国際経済学科	240	3年次 5	970	
経営学部				経営学部				
経営学科	519	3年次 5	2,086	経営学科	519	3年次 5	2,086	
法学部				法学部				
法律学科	445	3年次 5	1,790	法律学科	445	3年次 5	1,790	
社会学部				社会学部				
社会学科	210	3年次 5	850	社会学科	210	3年次 5	850	
コミュニティマネジメント学科	153	3年次 3	618	コミュニティマネジメント学科	153	3年次 3	618	
現代福祉学科	195	3年次 30	840	現代福祉学科	195	3年次 30	840	
政策学部				政策学部				
政策学科	308	3年次 5	1,242	政策学科	308	3年次 5	1,242	
国際学部				国際学部				
国際文化学科	372	3年次 20	1,528	国際文化学科	372	3年次 20	1,528	
グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560	グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560	
農学部				農学部				
植物生命科学科	90	3年次 10	380	生命科学科	90	3年次 8	376	名称変更 3年次編入学定員の変更（△2）
資源生物科学科	134	3年次 10	556	農学科	134	3年次 9	554	名称変更 3年次編入学定員の変更（△1）
食品栄養学科	80	―	320	食品栄養学科	80	3年次 4	328	3年次編入学定員の変更（4）
食料農業システム学科	134	3年次 10	556	食料農業システム学科	134	3年次 9	554	3年次編入学定員の変更（△1）
先端理工学部				先端理工学部				
数理・情報科学課程	103	3年次 2	416	数理・情報科学課程	103	3年次 2	416	
知能情報メディア課程	103	3年次 2	416	知能情報メディア課程	103	3年次 2	416	
電子情報通信課程	103	3年次 2	416	電子情報通信課程	103	3年次 2	416	
機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456	機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456	
応用化学課程	103	3年次 2	416	応用化学課程	103	3年次 2	416	
環境生態工学課程	103	3年次 2	416	環境生態工学課程	103	3年次 2	416	
				心理学部				
				心理学科	255	3年次 10	1,040	学部の設置（届出）
龍谷大学　合計	4,982	167	20,262	龍谷大学　合計	5,138	175	20,902	

令和4（2022）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学大学院			
文学研究科			
真宗学専攻（M）	20	—	40
仏教学専攻（M）	20	—	40
哲学専攻（M）	7	—	14
教育学専攻（M）	7	—	14
臨床心理学専攻（M）	10	—	20
日本史学専攻（M）	7	—	14
東洋史学専攻（M）	7	—	14
日本語日本文学専攻（M）	7	—	14
英語英米文学専攻（M）	7	—	14
法学研究科			
法律学専攻（M）	25	—	50
経済学研究科			
経済学専攻（M）	30	—	60
経営学研究科			
経営学専攻（M）	30	—	60
社会学研究科			
社会学専攻（M）	10	—	20
社会福祉学専攻（M）	10	—	20
理工学研究科			
数理情報学専攻（M）	25	—	50
電子情報学専攻（M）	25	—	50
機械システム工学専攻（M）	25	—	50
物質化学専攻（M）	25	—	50
情報メディア学専攻（M）	20	—	40
環境ソリューション工学専攻（M）	20	—	40
国際学研究科			
国際文化学専攻（M）	7	—	14
グローバルスタディーズ専攻（M）	4	—	8
言語コミュニケーション専攻（M）	4	—	8
実践真宗学研究科			
実践真宗学専攻（M）	30	—	90
政策学研究科			
政策学専攻（M）	20	—	40
農学研究科			
食農科学専攻（M）	30	—	60

令和5（2023）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学大学院				
文学研究科				
真宗学専攻（M）	20	—	40	
仏教学専攻（M）	20	—	40	
哲学専攻（M）	7	—	14	
教育学専攻（M）	7	—	14	
臨床心理学専攻（M）	10	—	20	
日本史学専攻（M）	7	—	14	
東洋史学専攻（M）	7	—	14	
日本語日本文学専攻（M）	7	—	14	
英語英米文学専攻（M）	7	—	14	
法学研究科				
法律学専攻（M）	25	—	50	
経済学研究科				
経済学専攻（M）	30	—	60	
経営学研究科				
経営学専攻（M）	30	—	60	
社会学研究科				
社会学専攻（M）	10	—	20	
社会福祉学専攻（M）	10	—	20	
理工学研究科				
数理情報学専攻（M）	25	—	50	
電子情報学専攻（M）	25	—	50	
機械システム工学専攻（M）	25	—	50	
物質化学専攻（M）	25	—	50	
情報メディア学専攻（M）	20	—	40	
環境ソリューション工学専攻（M）	20	—	40	
国際学研究科				
国際文化学専攻（M）	7	—	14	
グローバルスタディーズ専攻（M）	4	—	8	
言語コミュニケーション専攻（M）	4	—	8	
実践真宗学研究科				
実践真宗学専攻（M）	30	—	90	
政策学研究科				
政策学専攻（M）	20	—	40	
農学研究科				
食農科学専攻（M）	30	—	60	

令和4（2022）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科			
真宗学専攻（D）	5	ー	15
仏教学専攻（D）	5	ー	15
哲学専攻（D）	2	ー	6
教育学専攻（D）	3	ー	9
臨床心理学専攻（D）	2	ー	6
日本史学専攻（D）	2	ー	6
東洋史学専攻（D）	2	ー	6
日本語日本文学専攻（D）	2	ー	6
英語英米文学専攻（D）	2	ー	6
法学研究科			
法律学専攻（D）	5	ー	15
経済学研究科			
経済学専攻（D）	3	ー	9
経営学研究科			
経営学専攻（D）	3	ー	9
社会学研究科			
社会学専攻（D）	3	ー	9
社会福祉学専攻（D）	3	ー	9
理工学研究科			
数理情報学専攻（D）	3	ー	9
電子情報学専攻（D）	3	ー	9
機械システム工学専攻（D）	3	ー	9
物質化学専攻（D）	3	ー	9
情報メディア学専攻（D）	2	ー	6
環境ソリューション工学専攻（D）	2	ー	6
国際学研究科			
国際文化学専攻（D）	2	ー	6
グローバルスタディーズ専攻（D）	2	ー	6
政策学研究科			
政策学専攻（D）	3	ー	9
農学研究科			
食農科学専攻（D）	5	ー	15
龍谷大学大学院　合計	**502**	**ー**	**1,104**

令和5（2023）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				
真宗学専攻（D）	5	ー	15	
仏教学専攻（D）	5	ー	15	
哲学専攻（D）	2	ー	6	
教育学専攻（D）	3	ー	9	
臨床心理学専攻（D）	2	ー	6	
日本史学専攻（D）	2	ー	6	
東洋史学専攻（D）	2	ー	6	
日本語日本文学専攻（D）	2	ー	6	
英語英米文学専攻（D）	2	ー	6	
法学研究科				
法律学専攻（D）	5	ー	15	
経済学研究科				
経済学専攻（D）	3	ー	9	
経営学研究科				
経営学専攻（D）	3	ー	9	
社会学研究科				
社会学専攻（D）	3	ー	9	
社会福祉学専攻（D）	3	ー	9	
理工学研究科				
数理情報学専攻（D）	3	ー	9	
電子情報学専攻（D）	3	ー	9	
機械システム工学専攻（D）	3	ー	9	
物質化学専攻（D）	3	ー	9	
情報メディア学専攻（D）	2	ー	6	
環境ソリューション工学専攻（D）	2	ー	6	
国際学研究科				
国際文化学専攻（D）	2	ー	6	
グローバルスタディーズ専攻（D）	2	ー	6	
政策学研究科				
政策学専攻（D）	3	ー	9	
農学研究科				
食農科学専攻（D）	5	ー	15	
龍谷大学大学院　合計	**502**	**ー**	**1,104**	

令和4（2022）年度			
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学短期大学部			
社会福祉学科	85	ー	170
こども教育学科	135	ー	270
龍谷大学短期大学部　合計	**220**	**ー**	**440**

令和5（2023）年度				
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学短期大学部				
社会福祉学科	85	ー	170	
こども教育学科	135	ー	270	
龍谷大学短期大学部　合計	**220**	**ー**	**440**	

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
文学部 臨床心理学科 （廃止）	学士 （文学）	文学関係	心理学部心理学科	12	9	心理学部 心理学科	学士 （心理学）	文学関係	文学部臨床心理学科	12	10
									文学部仏教学科	1	0
									文学部英語英米文学科	1	0
									経営学部経営学科	1	1
									短期大学部こども教育学科	1	1
									新規採用	7	2
			計	12	9				計	23	14
文学部 真宗学科	学士 （文学）	文学関係	文学部真宗学科	16	12	文学部 真宗学科	学士 （文学）	文学関係	文学部真宗学科	16	12
			退職	3	3						
			計	19	15				計	16	12
文学部 仏教学科	学士 （文学）	文学関係	文学部仏教学科	9	4	文学部 仏教学科	学士 （文学）	文学関係	文学部仏教学科	9	4
			心理学部心理学科	1	0						
			退職	5	5						
			計	15	9				計	9	4
文学部 哲学科 哲学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部哲学科哲学専攻	8	5	文学部 哲学科 哲学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部哲学科哲学専攻	8	5
			退職	1	1						
			計	9	6				計	8	5
文学部 哲学科 教育学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部哲学科教育学専攻	8	5	文学部 哲学科 教育学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部哲学科教育学専攻	8	5
			退職	3	2						
			計	11	7				計	8	5
文学部 歴史学科 日本史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科日本史学専攻	9	5	文学部 歴史学科 日本史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科日本史学専攻	9	6
			退職	1	1						
			計	10	6				計	9	6
文学部 歴史学科 東洋史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科東洋史学専攻	6	5	文学部 歴史学科 東洋史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科東洋史学専攻	6	5
			退職	2	2						
			計	8	7				計	6	5
文学部 歴史学科 仏教史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科仏教史学専攻	5	2	文学部 歴史学科 仏教史学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科仏教史学専攻	5	2
			退職	2	1						
			計	7	3				計	5	2
文学部 歴史学科 文化遺産学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科文化遺産学専攻	6	4	文学部 歴史学科 文化遺産学専攻	学士 （文学）	文学関係	文学部歴史学科文化遺産学専攻	6	4
			退職	1	1						
			計	7	5				計	6	4

文学部 日本語日本文学科	学士 (文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	12	7	文学部 日本語日本文学科	学士 (文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	12	7
			計	12	7				計	12	7
文学部 英語英米文学科	学士 (文学)	文学関係	文学部英語英米文学科	12	6	文学部 英語英米文学科	学士 (文学)	文学関係	文学部英語英米文学科	12	6
			心理学部心理学科	1	0						
			退職	1	1						
			計	14	7				計	12	6
国際学部 国際文化学科	学士 (国際文化学)	文学関係	国際学部国際文化学科	18	12	国際学部 国際文化学科	学士 (国際文化学)	文学関係	国際学部国際文化学科	18	12
			退職	8	8				新規採用	8	4
			計	26	20				計	26	16
国際学部 グローバルスタディーズ学科	学士 (グローバルスタディーズ)	文学関係	国際学部ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ学科	14	6	国際学部 グローバルスタディーズ学科	学士 (グローバルスタディーズ)	文学関係	国際学部ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ学科	14	6
			退職	1	1				新規採用	1	1
			計	15	7				計	15	7
経営学部 経営学科	学士 (経営学)	経済学関係	経営学部経営学科	41	19	経営学部 経営学科	学士 (経営学)	経済学関係	経営学部経営学科	41	19
			心理学部心理学科	1	1				新規採用	4	1
			退職	1	1						
			計	43	21				計	45	20

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は 学　科　の　分　野	手続きの区分
昭和24年4月	新制大学として文学部を開設し、 仏教学科、哲学科、史学科、文学科を設置	文学関係	設置認可（学部）
昭和51年4月	文学部仏教学科（真宗学専攻・仏教学専攻）、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻）、 文学科（国文学専攻・英文学専攻） 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成4年4月	文学部仏教学科真宗学専攻を改組し、真宗学科を設置	文学関係	設置認可（学科）
	文学科（国文学専攻・英文学専攻）を改組し、 日本語日本文学科、英語英米文学科を設置		
	文学部哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻） カリキュラム変更		学則変更
平成8年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 カリキュラム変更、入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成9年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 夜間主コース開設に伴う入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成13年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 カリキュラム変更	文学関係	学則変更
平成16年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、英語英米文学科 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成18年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 編入学定員設定	文学関係	学則変更
平成19年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 昼夜間区分の一体化　入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更

平成23年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 史学科（国史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成24年4月	文学部臨床心理学科設置	文学関係	設置届出（学科）
	文学部 史学科　→　歴史学科 国史学専攻　→　日本史学専攻	文学関係	名称変更（学科・専攻）
	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
平成25年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科 カリキュラム変更	文学関係	学則変更
平成26年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 臨床心理学科、 歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 カリキュラム変更	文学関係	学則変更
平成27年4月	文学部真宗学科、 仏教学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 臨床心理学科、 歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 日本語日本文学科、 英語英米文学科 カリキュラム変更	文学関係	学則変更
	国際学部国際文化学科、 グローバルスタディーズ学科設置	文学関係	設置届出（学部）
平成28年4月	文学部歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・ 文化遺産学専攻） 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
	文学部真宗学科、 哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 臨床心理学科、 歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻）、 英語英米文学科 カリキュラム変更	文学関係	学則変更
平成29年4月	国際学部国際文化学科、 グローバルスタディーズ学科 入学定員・収容定員変更	文学関係	学則変更
	国際学部国際文化学科 カリキュラム変更		

令和2年4月	文学部真宗学科、 　　哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 　　臨床心理学科、 　　歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・ 　　文化遺産学専攻） カリキュラム変更	文学関係	学則変更
	文学部真宗学科、 　　仏教学科、 　　哲学科（哲学専攻・教育学専攻）、 　　臨床心理学科、 　　歴史学科（日本史学専攻・東洋史学専攻・仏教史学専攻・ 　　文化遺産学専攻）、 　　日本語日本文学科、 　　英語英米文学科 国際学部国際文化学科、 　　グローバルスタディーズ学科 入学定員・収容定員変更		
	国際学部国際文化学科、 　　グローバルスタディーズ学科 カリキュラム変更		
令和3年4月	文学部仏教学科、 　　哲学科（哲学専攻・教育学専攻） カリキュラム変更	文学関係	学則変更
令和5年4月	心理学部心理学科設置	文学関係	設置届出（学部）
	文学部臨床心理学科の学生募集停止	―	学生募集停止（学科）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1 前	2			○				1					
		仏教の思想B	1 後	2			○				1					
		歎異抄の思想Ⅰ	2 前		2		○								兼 2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2 後		2		○								兼 2	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	1	0	0	0	兼 2	
	言語科目	英語総合1（A）	1 前	1			○								兼 24	
		英語総合1（B）	1 前	1			○								兼 24	
		英語総合2（A）	1 後	1			○								兼 24	
		英語総合2（B）	1 後	1			○								兼 24	
		英語総合3（A）	2 前		1		○								兼 13	
		英語総合3（B）	2 前		1		○								兼 16	
		英語総合4（A）	2 後		1		○								兼 13	
		英語総合4（B）	2 後		1		○								兼 16	
		英語セミナーA1	1 前		2		○								兼 2	
		英語セミナーA2	1 後		2		○								兼 2	
		英語セミナーB1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーB2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーC1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーC2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーD1	3 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーD2	3 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーE1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーE2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーF1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーF2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーG1	1 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーG2	1 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーH1	3 前		2		○								兼 2	
		英語セミナーH2	3 後		2		○								兼 2	
		英語セミナーI1	1 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーI2	1 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーJ1	3 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーJ2	3 後		2		○								兼 1	
		英語資格試験セミナー	1 前		2		○								兼 1	集中
		海外英語研修	1 後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語Ⅰ	1 前		2		○								兼 11	
		ドイツ語Ⅱ	1 後		2		○								兼 11	
		ドイツ語ⅢA	2 前		1		○								兼 4	
		ドイツ語ⅢB	2 後		1		○								兼 4	
		ドイツ語ⅢC	2 前		1		○								兼 3	
		ドイツ語ⅢD	2 後		1		○								兼 3	
		フランス語Ⅰ	1 前		2		○			1					兼 9	
		フランス語Ⅱ	1 後		2		○			1					兼 9	
		フランス語ⅢA	2 前		1		○			1					兼 1	
		フランス語ⅢB	2 後		1		○			1					兼 1	
		フランス語ⅢC	2 前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅢD	2 後		1		○								兼 2	
		中国語Ⅰ	1 前		2		○								兼 21	
		中国語Ⅱ	1 後		2		○								兼 20	
		中国語ⅢA	2 前		1		○								兼 8	
		中国語ⅢB	2 後		1		○								兼 7	
		中国語ⅢC	2 前		1		○								兼 5	
		中国語ⅢD	2 後		1		○								兼 4	
		スペイン語Ⅰ	1 前		2		○								兼 8	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	言語科目	スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼 8	
		スペイン語ⅢA	2前		1		○								兼 2	
		スペイン語ⅢB	2後		1		○								兼 2	
		スペイン語ⅢC	2前		1		○								兼 2	
		スペイン語ⅢD	2後		1		○								兼 2	
		コリア語Ⅰ	1前		2		○				1				兼 12	
		コリア語Ⅱ	1後		2		○				1				兼 12	
		コリア語ⅢA	2前		1		○								兼 4	
		コリア語ⅢB	2後		1		○								兼 4	
		コリア語ⅢC	2前		1		○								兼 2	
		コリア語ⅢD	2後		1		○								兼 2	
		ドイツ語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼 2	
		ドイツ語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼 2	
		ドイツ語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼 2	
		フランス語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼 2	
		フランス語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼 2	
		フランス語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼 2	
		フランス語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼 2	
		中国語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼 2	
		中国語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
		中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
		中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーⅡA	3前		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーⅡB	3後		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーⅡC	3前		2		○								兼 1	
		スペイン語セミナーⅡD	3後		2		○								兼 1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼 1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	言語科目	コリア語セミナーＩＤ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーⅡＡ	３前		2		○				1					
		コリア語セミナーⅡＢ	３後		2		○				1					
		コリア語セミナーⅡＣ	３前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーⅡＤ	３後		2		○								兼 1	
		コリア語コミュニケーションⅠ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語コミュニケーションⅡ	３前		2		○								兼 1	
		海外中国語研修講座	２前		2		○								兼 1	集中
		ポルトガル語Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		ポルトガル語Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		ポルトガル語ⅢＡ	３前		2		○								兼 1	
		ポルトガル語ⅢＢ	３後		2		○								兼 1	
		ロシア語Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		ロシア語Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		ロシア語ⅢＡ	３前		2		○								兼 1	
		ロシア語ⅢＢ	３後		2		○								兼 1	
		ラテン語Ⅰ	２前		1		○								兼 1	
		ラテン語Ⅱ	２後		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅰ	２前		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅱ	２後		1		○								兼 1	
		ペルシア語ＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		ペルシア語ＩＢ	２前		2		○								兼 1	
		ペルシア語ⅡＡ	２後		2		○								兼 1	
		ペルシア語ⅡＢ	２後		2		○								兼 1	
		トルコ語Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		トルコ語Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		アラビア語Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		アラビア語Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		日本語	1前・後		1		○								兼 3	
		小計（132科目）	－	4	227	0	－			1	1	0	0	0	兼 149	
	教養科目 人文科学系科目	哲学入門	１前		2		○								兼 1	
		哲学A	１前		2		○								兼 3	
		哲学B	２前		2		○								兼 2	
		倫理学入門	１前		2		○								兼 1	
		倫理学A	１前		2		○								兼 2	
		倫理学B	２前		2		○								兼 2	
		クリティカル・シンキング	１前		2		○								兼 1	
		論理学	２前		2		○								兼 1	
		宗教学入門	１前		4		○								兼 1	
		宗教の世界A	１前		2		○								兼 2	
		宗教の世界B	１後		2		○								兼 2	
		中国の思想A	１前		2		○								兼 1	
		中国の思想B	１後		2		○								兼 1	
		芸術の世界A	２前		2		○								兼 1	
		芸術の世界B	２後		2		○								兼 1	
		日本の文学A	１前		4		○								兼 2	
		日本の文学B	１後		4		○								兼 2	
		日本の文学C	２前		2		○								兼 1	
		アジアの文学A	１前		2		○								兼 1	
		アジアの文学B	１前		2		○								兼 1	
		西洋の文学A	１前		2		○								兼 3	
		西洋の文学B	１後		2		○								兼 3	
		文章表現法A	１前		2		○								兼 3	
		文章表現法B	１後		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	言語と文化	1 前		2		○								兼 2	
			歴史学入門	2 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史A	1 前		4		○								兼 1	
			日本の歴史B	1 後		4		○								兼 1	
			日本の文化	2 後		4		○								兼 1	
			アジアの歴史A	1 前		4		○								兼 3	
			アジアの歴史B	1 後		4		○								兼 2	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 2	
			西洋の歴史A	1 前		4		○								兼 1	
			西洋の歴史B	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史C	2 後		2		○								兼 1	
			現代世界の歴史A	1 前		2		○								兼 2	
			現代世界の歴史B	1 後		2		○								兼 2	
			心理学	1 前		4		○								兼 1	
			心の科学A	1 前		2		○								兼 2	
			心の科学B	1 後		2		○								兼 2	
			応用心理学A	2 前		2		○								兼 1	
			応用心理学B	2 後		2		○								兼 1	
			教育学のすすめA	1 前		2		○								兼 3	
			教育学のすすめB	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会と教育A	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と教育B	2 後		2		○								兼 1	
			教育原論A	2 前		2		○								兼 1	
			教育原論B	2 後		2		○								兼 1	
			学習・発達論A	2 前		2		○								兼 3	
			学習・発達論B	2 後		2		○								兼 3	
			人文科学セミナー	2 通		4		○								兼 7	
			大学論	2前・後		2		○								兼 9	オムニバス
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			0	0	0	0	0	兼 49	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 4	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論A	1 前		2		○								兼 1	
			人権論B	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 2	
			平和学A	2 前		2		○								兼 2	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 2	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会の諸問題	2 後		2		○								兼 2	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	
			企業と会計	2 後		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	英語で学ぶ日本の社会A	1 後		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1 前		2		○								兼 1	
			小計（27科目）	－	0	54	0	－			0	0	0	0	0	兼 37	
		自然科学系科目	数学入門	1 前		2		○								兼 2	
			数学への旅	1 前		2		○								兼 3	
			確率・統計入門	1 前		2		○								兼 2	
			微分と積分	1 前		4		○								兼 1	
			行列と行列式	1 後		4		○								兼 1	
			数理統計学	2 前		4		○								兼 1	
			数理と計算	2 前		2		○								兼 1	
			数学の世界	2 前		4		○								兼 1	
			数理と論証	2 前		2		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅰ	1 前		4		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅱ	2 前		2		○								兼 2	
			地球科学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			地球科学	1 後		2		○								兼 1	
			物理科学の世界	1 前		4		○								兼 1	
			時間と空間の科学	1 前		2		○								兼 2	
			エネルギー入門	2 前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅰ	1 前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅱ	2 前		2		○								兼 1	
			科学論	2 前		2		○								兼 2	
			技術論	2 後		2		○								兼 1	
			平和学B	2 前		2		○								兼 1	
			里山学	1 前		2		○								兼 8	オムニバス
			生物科学のすすめ	1 前		4		○								兼 1	
			生命科学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	オムニバス
			生命科学	1 後		2		○								兼 2	
			生態学のすすめ	1 前		4		○								兼 1	
			人類学のすすめ	1 前		4		○								兼 2	
			日本の自然	1 前		4		○								兼 8	オムニバス
			生命誌	2 前		2		○								兼 1	
			植物の自然誌	2 前		2		○								兼 2	
			動物の自然誌	2 前		2		○								兼 2	
			民族の自然誌	2 前		2		○								兼 1	
			人類進化学	2 前		2		○								兼 1	
			人間の生物学Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			人間の生物学Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			自然誌実習	2前･後		4		○								兼 4	オムニバス
			野外観察法	2 前		2		○								兼 2	集中
			環境学	1 前		4		○								兼 3	
			情報科学入門	2 前		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅰ	2 後		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅱ	3 前		2		○								兼 1	
			情報科学実習	1 後		4		○								兼 2	
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	兼 41	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会とスポーツ	1 前		2		○								兼 2	
			スポーツ技術学演習	1 前		2				○						兼 13	
			人間とスポーツ	1 前		2		○								兼 2	
			スポーツと人権・平和	2 後		2		○								兼 1	
			スポーツ文化史	2 前		2		○								兼 1	
			スポーツ科学最前線	1 前		2		○								兼 1	
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼 14	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 11	オムニバス
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 12	
専攻科目	専門基礎科目		フレッシャーズゼミ	1 前	2				○		4	3	1			兼 2	オムニバス
			心理学基礎演習A	1 後	2				○		5	2	1			兼 2	
			心理学基礎演習B	2 前	2				○		5	4	1				
			心理学基礎演習C	2 後	2				○		5	4	1				
			心理学概論	1 前	2			○				1					
			発達心理学	1 前	2			○				1					
			臨床心理学概論	1 前	2			○								兼 1	
			心理学的支援法	1 後	2			○								兼 1	
			心理学研究法概論	2 前	2			○				1					
			心理学統計法概論	2 前	2			○					1				
			心理的アセスメントⅠ	2 後	2			○				1					
			生涯発達と関係支援	1 後	2			○			2						オムニバス
			心理学とデータサイエンス	2 前	2			○			1	1					共同（一部）
			キャリアと心理	1 前	2			○				1	1				オムニバス
			キャリアデザイン論	1 後	2			○				1					
			人体の構造と機能及び疾病	1 後		2		○					1				
			心理学実験	2 後		1				○	2		1				
			神経・生理心理学	2 後		2		○			1						
			障害者・障害児心理学	2 前		2		○			1						
			福祉心理学	2 後		2		○			1						
			健康・医療心理学	1 後		2		○								兼 1	
			教育・学校心理学	2 前		2		○					1				
			脳と心	2 後		2		○			1						
			乳幼児の発達	2 前		2		○				1					
			児童思春期精神医学	2 前		2		○			1						
			子どもの心理療法	2 後		2		○			1						
			高齢者の心理と福祉	2 後		2		○			1						
			仏教と心理学	2 後		2		○			1	1					オムニバス
			コミュニティとシステム支援	2 前		2		○			1						
			ストレスマネジメント	2 前		2		○					1				
			チーム医療	2 後		2		○					1				
			チーム学校とシステム論	2 後		2		○			1						
			心理学の職業的展開	2 前		2		○			1	1					共同（一部）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門基礎科目	仕事と社会人Ⅰ	2 後		2			○			1					
		心理学プロジェクト社会連携演習	2 後		2			○			1					
		生涯発達臨床心理学	2 前		2		○			1						
		ライフサイクルとカウンセリング	2 後		2		○			7	2					オムニバス
		家族療法とシステムズアプローチ	2 前		2		○			1						
		目からウロコのコミュニケーション学	2 後		2		○				1					
		小計（39科目）	－	30	47	0	－			11	6	3	0	0	兼 4	
	専門発展科目	心理学演習	3･4 前･後	2				○		13	4	2				
		卒業研究	4 通	4				○		13	4	2				
		知覚・認知心理学	3 前		2		○								兼 1	
		精神疾患とその治療	3 前		2		○			1						
		感情・人格心理学	3 前		2		○			1						
		心理関係行政論	3 前		2		○			6	1	1				オムニバス
		司法・犯罪心理学	3 前		2		○			1						
		産業・組織心理学	3 前		2		○			1						
		学習・言語心理学	3 後		2		○								兼 1	
		社会・集団・家族心理学	3 後		2		○								兼 1	
		量的心理学研究	3 前		2		○					1			兼 1	
		質的心理学研究	3 前		2		○			1	1					
		生理学データと現場心理学（基礎）	3 前		2		○			1						
		臨床催眠学	3 前		2		○			1						
		生理学データと現場心理学（応用）	3 後		2		○			1						
		子育てとソーシャルサポート	3 前		2		○			1						
		音楽療法	3 前		2		○				1					
		ダンスセラピー	3 前		2		○								兼 1	
		乳幼児の理解と支援実習	3 前		2				○	1						
		教育と心理支援	3 前		2			○			1					
		発達障害のアセスメント	3 前		2		○			1						
		心理的アセスメントⅡ	3 前		2		○								兼 1	
		不登校・いじめとスクールカウンセリング	3 前		2		○			1						
		青年心理と友人関係	3 前		2		○								兼 1	
		思春期とジェンダー心理学	3 前		2		○								兼 1	
		大人の発達障害	3 前		2		○			1						
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	3 前		2				○	1	1					共同
		中年期の危機とうつ	3 前		2		○								兼 1	
		コミュニティ・アプローチ	3 後		2		○			1						
		愛着障害と親子関係	3 後		2		○								兼 1	
		保育の心理学	3 後		2		○				1					
		障害児支援と療育	3 後		2		○			1						
		学童期の遊びと対人関係	3 後		2			○			1					
		発達障害と応用行動分析	3 後		2		○								兼 1	
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	3 後		2				○	1	1					共同
		フォーカシングと体験過程療法	3 後		2		○			1						
		ひきこもりと精神的健康	3 後		2		○								兼 1	
		認知行動療法	3 後		2		○			1						
		エンカウンターグループと回想法	3 後		2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門発展科目	ビハーラカウンセリング	3 後		2		○			1						
		死生観教育と心理療法	3 後		2			○			1					
		認知症の心と家族支援	3 後		2		○			1						
		高齢者の理解と支援実習	3 後		2				○	2						オムニバス
		人格心理学と精神力動論	3 後		2		○								兼 1	
		医療におけるシステムズアプローチ	3 前		2		○			1						
		緩和ケアとこころの治癒力	3 前		2		○			1						
		家族療法とコミュニケーション・アプローチ	3 前		2		○			1						
		学校システムにおける精神疾患と家族	3 前		2		○			1						
		不登校の解決と協働	3 前		2		○			1						
		発達障がいと家族	3 前		2		○					1				
		ひきこもりと家族支援	3 前		2		○				1					
		虐待と家族支援	3 前		2		○			1						
		ポジティブ心理学	3 前		2		○					1				
		コーチング心理学	3 前		2		○			1						
		コンサルテーション・リエゾン精神医学	3 後		2		○					1				
		構造派家族療法	3 後		2		○			1						
		保護者支援とチーム学校	3 後		2		○			1						
		コンサルテーション演習	3 後		2			○			1					
		特別支援とシステムズアプローチ	3 後		2		○					1				
		ブリーフセラピーとソリューション	3 後		2		○				1					
		非行と家族支援	3 後		2		○				1					
		オープン・ダイアローグ演習	3 後		2			○		1						
		キャリアカウンセリング	3 後		2		○					1				
		スポーツ心理学	3 後		2		○								兼 1	
		スポーツ・メンタルリハーサル	3 後		2		○			1						
		マインドフルネス・ヨーガ	3 後		2				○						兼 1	
		事例演習アドバンスⅠ	4 前		2			○		2						共同
		事例演習アドバンスⅡ	4 後		2			○		4						共同
		仕事と社会人Ⅱ	3 前		2			○			1					
		小計（69科目）		6	134	0	－			13	4	3	0	0	兼 12	
	共通選択科目	法学概論	3 通		4		○								兼 1	
		政治学原理	3 通		4		○								兼 1	
		経済原論	3 通		4		○								兼 1	
		社会学概説	2 通		4		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼 4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
諸課程科目	教職コンピュータ基礎	1 前			2			○						兼 3	
	体育実技	2 後			1			○						兼 1	
	社会科・公民科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
	社会科・公民科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
	学校教育社会学	2 前			2	○								兼 1	
	教職論	2 前			2	○								兼 1	
	特別支援教育概論	2 後			2	○								兼 1	
	教育課程論	2 後			2	○								兼 2	
	道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
	総合的な学習の時間・特別活動論	3 前			2	○								兼 2	
	教育の方法と技術(ICT活用含む)	3 後			2	○								兼 2	
	生徒・進路指導論	2 前			2	○								兼 1	
	教育相談	3 前			2	○			1						
	介護等体験	3 通			2			○						兼 4	共同
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○								兼 4	共同
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○						兼 4	共同
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○						兼 4	共同
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○							兼 4	
	真宗学概論	2 通			4	○								兼 1	
	仏教学概論	2 通			4	○				1					
	真宗教団史	1 通			4	○								兼 1	
	勤式	1 通			4	○								兼 4	オムニバス
	宗門法規	1 前			2	○								兼 1	集中
	教化法	1 通			4	○								兼 4	オムニバス/集中
	（本山教師）仏教史	1 前			1	○				1				兼 1	オムニバス/集中
	（本山教師）宗教概説	1 前			1	○								兼 1	集中
	公認心理師の職責	2 後			2	○				1					
	心理演習	3 前			2		○		1	1	2				
	心理実習A	3 後			2			○	1						
	心理実習B	4 通			2			○	1						
	小計（30科目）	－	0	0	68	－			3	2	2	0	0	兼 25	
合計（410科目）		－	44	758	68	－			14	6	3	0	0	兼 332	

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上【必修42単位、選択必修4単位】を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） １学年の学期区分：2学期 １学期の授業期間：15週 １時限の授業時間：90分		

深草学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	1 前	2			○				1					
		仏教の思想B	1 後	2			○				1					
		歎異抄の思想Ⅰ	2 前		2		○								兼 2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2 後		2		○								兼 2	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	1	0	0	0	兼 2	
	言語科目	英語総合1（A）	1 前	1			○								兼 24	
		英語総合1（B）	1 前	1			○								兼 24	
		英語総合2（A）	1 後	1			○								兼 24	
		英語総合2（B）	1 後	1			○								兼 24	
		英語総合3（A）	2 前		1		○								兼 13	
		英語総合3（B）	2 前		1		○								兼 16	
		英語総合4（A）	2 後		1		○								兼 13	
		英語総合4（B）	2 後		1		○								兼 16	
		英語セミナーA1	1 前		2		○								兼 2	
		英語セミナーA2	1 後		2		○								兼 2	
		英語セミナーB1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーB2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーC1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーC2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーD1	3 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーD2	3 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーE1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーE2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーF1	2 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーF2	2 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーG1	1 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーG2	1 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーH1	3 前		2		○								兼 2	
		英語セミナーH2	3 後		2		○								兼 2	
		英語セミナーI1	1 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーI2	1 後		2		○								兼 1	
		英語セミナーJ1	3 前		2		○								兼 1	
		英語セミナーJ2	3 後		2		○								兼 1	
		英語資格試験セミナー	1 前		2		○								兼 1	集中
		海外英語研修	1 後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語Ⅰ	1 前		2		○								兼 11	
		ドイツ語Ⅱ	1 後		2		○								兼 11	
		ドイツ語ⅢA	2 前		1		○								兼 4	
		ドイツ語ⅢB	2 後		1		○								兼 4	
		ドイツ語ⅢC	2 前		1		○								兼 3	
		ドイツ語ⅢD	2 後		1		○								兼 3	
		フランス語Ⅰ	1 前		2		○			1					兼 9	
		フランス語Ⅱ	1 後		2		○			1					兼 9	
		フランス語ⅢA	2 前		1		○			1					兼 1	
		フランス語ⅢB	2 後		1		○			1					兼 1	
		フランス語ⅢC	2 前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅢD	2 後		1		○								兼 2	
		中国語Ⅰ	1 前		2		○								兼 21	
		中国語Ⅱ	1 後		2		○								兼 20	
		中国語ⅢA	2 前		1		○								兼 8	
		中国語ⅢB	2 後		1		○								兼 7	
		中国語ⅢC	2 前		1		○								兼 5	

深草学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	言語科目	中国語ⅢD	2 後		1		○								兼 4
		スペイン語Ⅰ	1 前		2		○								兼 8
		スペイン語Ⅱ	1 後		2		○								兼 8
		スペイン語ⅢA	2 前		1		○								兼 2
		スペイン語ⅢB	2 後		1		○								兼 2
		スペイン語ⅢC	2 前		1		○								兼 2
		スペイン語ⅢD	2 後		1		○								兼 2
		コリア語Ⅰ	1 前		2		○				1				兼 12
		コリア語Ⅱ	1 後		2		○				1				兼 12
		コリア語ⅢA	2 前		1		○								兼 4
		コリア語ⅢB	2 後		1		○								兼 4
		コリア語ⅢC	2 前		1		○								兼 2
		コリア語ⅢD	2 後		1		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠA	2 前		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠB	2 後		2		○								兼 2
		ドイツ語セミナーⅠC	2 前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅠD	2 後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡA	3 前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡB	3 後		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡC	3 前		2		○								兼 1
		ドイツ語セミナーⅡD	3 後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2 後		2		○								兼 1
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3 前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅠA	2 前		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠB	2 後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠC	2 前		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅠD	2 後		2		○								兼 2
		フランス語セミナーⅡA	3 前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅡB	3 後		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅡC	3 前		2		○								兼 1
		フランス語セミナーⅡD	3 後		2		○								兼 1
		フランス語コミュニケーションⅠ	2 後		2		○								兼 1
		フランス語コミュニケーションⅡ	3 前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠA	2 前		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠB	2 後		2		○								兼 2
		中国語セミナーⅠC	2 前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅠD	2 後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡA	3 前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡB	3 後		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡC	3 前		2		○								兼 1
		中国語セミナーⅡD	3 後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅠ	2 後		2		○								兼 1
		中国語コミュニケーションⅡ	3 前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠA	2 前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠB	2 後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠC	2 前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅠD	2 後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡA	3 前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡB	3 後		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡC	3 前		2		○								兼 1
		スペイン語セミナーⅡD	3 後		2		○								兼 1
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2 後		2		○								兼 1

深草学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	言語科目		スペイン語コミュニケーションⅡ	3 前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩＡ	2 前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩＢ	2 後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩＣ	2 前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーＩＤ	2 後		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡＡ	3 前		2		○				1					
			コリア語セミナーⅡＢ	3 後		2		○				1					
			コリア語セミナーⅡＣ	3 前		2		○								兼 1	
			コリア語セミナーⅡＤ	3 後		2		○								兼 1	
			コリア語コミュニケーションⅠ	2 後		2		○								兼 1	
			コリア語コミュニケーションⅡ	3 前		2		○								兼 1	
			海外中国語研修講座	2 前		2		○								兼 1	集中
			ポルトガル語Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢA	3 前		2		○								兼 1	
			ポルトガル語ⅢB	3 後		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			ロシア語Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢA	3 前		2		○								兼 1	
			ロシア語ⅢB	3 後		2		○								兼 1	
			ペルシア語ＩＡ	2 前		2		○								兼 1	
			ペルシア語ＩＢ	2 前		2		○								兼 1	
			ペルシア語ⅡＡ	2 後		2		○								兼 1	
			ペルシア語ⅡＢ	2 前		2		○								兼 1	
			トルコ語Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			トルコ語Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			アラビア語Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			アラビア語Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			日本語	1前・後		1		○								兼 3	
			小計（128科目）	－	4	223	0	－			1	1	0	0	0	兼 147	
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			哲学A	1 前		2		○								兼 3	
			哲学B	2 前		2		○								兼 2	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学A	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学B	2 前		2		○								兼 2	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			論理学	2 前		2		○								兼 1	
			宗教学入門	1 前		4		○								兼 1	
			宗教の世界A	1 前		2		○								兼 2	
			宗教の世界B	1 後		2		○								兼 2	
			中国の思想A	1 前		2		○								兼 1	
			中国の思想B	1 後		2		○								兼 1	
			芸術の世界A	2 前		2		○								兼 1	
			芸術の世界B	2 後		2		○								兼 1	
			日本の文学A	1 前		4		○								兼 2	
			日本の文学B	1 後		4		○								兼 2	
			日本の文学C	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学A	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学B	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学A	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学B	1 後		2		○								兼 3	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	文章表現法A	1 前		2		○								兼 3	
			文章表現法B	1 後		2		○								兼 1	
			言語と文化	1 前		2		○								兼 2	
			歴史学入門	2 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史A	1 前		4		○								兼 1	
			日本の歴史B	1 後		4		○								兼 1	
			日本の文化	2 後		4		○								兼 1	
			アジアの歴史A	1 前		4		○								兼 3	
			アジアの歴史B	1 後		4		○								兼 2	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 2	
			西洋の歴史A	1 前		4		○								兼 1	
			西洋の歴史B	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史C	2 後		2		○								兼 1	
			現代世界の歴史A	1 前		2		○								兼 2	
			現代世界の歴史B	1 後		2		○								兼 2	
			心理学	1 前		4		○								兼 1	
			心の科学A	1 前		2		○								兼 2	
			心の科学B	1 後		2		○								兼 2	
			応用心理学A	2 前		2		○								兼 1	
			応用心理学B	2 後		2		○								兼 1	
			教育学のすすめA	1 前		2		○								兼 3	
			教育学のすすめB	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会と教育A	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と教育B	2 後		2		○								兼 1	
			教育原論A	2 前		2		○								兼 1	
			教育原論B	2 後		2		○								兼 1	
			学習・発達論A	2 前		2		○								兼 3	
			学習・発達論B	2 後		2		○								兼 3	
			人文科学セミナー	2 通		4		○								兼 7	
			大学論	2前・後		2		○								兼 9	オムニバス
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			0	0	0	0	0	兼 49	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 4	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論A	1 前		2		○								兼 1	
			人権論B	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 2	
			平和学A	2 前		2		○								兼 2	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 2	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会の諸問題	2 後		2		○								兼 2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	地域論	2 前		2		○								兼 1	
			企業と会計	2 後		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会A	1 後		2		○								兼 1	
			英語で学ぶ日本の社会B	1 前		2		○								兼 1	
			小計（27科目）	－	0	54	0	－			0	0	0	0	0	兼 37	
		自然科学系科目	数学入門	1 前		2		○								兼 2	
			数学への旅	1 前		2		○								兼 3	
			確率・統計入門	1 前		2		○								兼 2	
			微分と積分	1 前		4		○								兼 1	
			行列と行列式	1 後		4		○								兼 1	
			数理統計学	2 前		4		○								兼 1	
			数理と計算	2 前		2		○								兼 1	
			数学の世界	2 前		4		○								兼 1	
			数理と論証	2 前		2		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅰ	1 前		4		○								兼 1	
			宇宙の科学Ⅱ	2 前		2		○								兼 2	
			地球科学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			地球科学	1 後		2		○								兼 1	
			物理科学の世界	1 前		4		○								兼 1	
			時間と空間の科学	1 前		2		○								兼 2	
			エネルギー入門	2 前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅰ	1 前		2		○								兼 1	
			自然科学史Ⅱ	2 前		2		○								兼 1	
			科学論	2 前		2		○								兼 2	
			技術論	2 後		2		○								兼 1	
			平和学B	2 前		2		○								兼 1	
			里山学	1 前		2		○								兼 8	オムニバス
			生物科学のすすめ	1 前		4		○								兼 1	
			生命科学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	オムニバス
			生命科学	1 後		2		○								兼 2	
			生態学のすすめ	1 前		4		○								兼 1	
			人類学のすすめ	1 前		4		○								兼 2	
			日本の自然	1 前		4		○								兼 8	オムニバス
			生命誌	2 前		2		○								兼 1	
			植物の自然誌	2 前		2		○								兼 2	
			動物の自然誌	2 前		2		○								兼 2	
			民族の自然誌	2 前		2		○								兼 1	
			人類進化学	2 前		2		○								兼 1	
			人間の生物学Ⅰ	2 前		2		○								兼 1	
			人間の生物学Ⅱ	2 後		2		○								兼 1	
			自然誌実習	2前･後		4		○								兼 4	オムニバス
			野外観察法	2 前		2		○								兼 2	集中
			環境学	1 前		4		○								兼 3	
			情報科学入門	2 前		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅰ	2 後		2		○								兼 1	
			情報科学Ⅱ	3 前		2		○								兼 1	
			情報科学実習	1 後		4		○								兼 2	
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	兼 41	

深草学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○								兼 2	
			現代社会とスポーツ	1 前		2		○								兼 2	
			スポーツ技術学演習	1 前		2				○						兼 13	
			人間とスポーツ	1 前		2		○								兼 2	
			スポーツと人権・平和	2 後		2		○								兼 1	
			スポーツ文化史	2 前		2		○								兼 1	
			スポーツ科学最前線	1 前		2		○								兼 1	
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼 14	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 11	オムニバス
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 12	
専攻科目	専門基礎科目		フレッシャーズゼミ	1 前	2				○		4	3	1			兼 2	オムニバス
			心理学基礎演習A	1 後	2				○		5	2	1			兼 2	
			心理学基礎演習B	2 前	2				○		5	4	1				
			心理学基礎演習C	2 後	2				○		5	4	1				
			心理学概論	1 前	2			○				1					
			発達心理学	1 前	2			○				1					
			臨床心理学概論	1 前	2			○								兼 1	
			心理学的支援法	1 後	2			○								兼 1	
			心理学研究法概論	2 前	2			○				1					
			心理学統計法概論	2 前	2			○					1				
			心理的アセスメントⅠ	2 後	2			○				1					
			生涯発達と関係支援	1 後	2			○			2						オムニバス
			心理学とデータサイエンス	2 前	2			○			1	1					共同（一部）
			キャリアと心理	1 前	2			○				1	1				オムニバス
			キャリアデザイン論	1 後	2			○				1					
			人体の構造と機能及び疾病	1 後		2		○					1				
			心理学実験	2 後		1				○	2		1				
			神経・生理心理学	2 後		2		○			1						
			障害者・障害児心理学	2 前		2		○			1						
			福祉心理学	2 後		2		○			1						
			健康・医療心理学	1 後		2		○								兼 1	
			教育・学校心理学	2 前		2		○					1				
			脳と心	2 後		2		○			1						
			乳幼児の発達	2 前		2		○				1					
			児童思春期精神医学	2 前		2		○			1						
			子どもの心理療法	2 後		2		○			1						
			高齢者の心理と福祉	2 後		2		○			1						
			仏教と心理学	2 後		2		○			1	1					オムニバス
			コミュニティとシステム支援	2 前		2		○			1						
			ストレスマネジメント	2 前		2		○					1				
			チーム医療	2 後		2		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専攻科目	専門基礎科目	チーム学校とシステム論	2後		2		○			1						
		心理学の職業的展開	2前		2		○			1	1					共同（一部）
		仕事と社会人Ⅰ	2後		2			○			1					
		心理学プロジェクト社会連携演習	2後		2			○			1					
		生涯発達臨床心理学	2前		2		○			1						
		ライフサイクルとカウンセリング	2後		2		○			7	2					オムニバス
		家族療法とシステムズアプローチ	2前		2		○			1						
		目からウロコのコミュニケーション学	2後		2		○				1					
		小計（39科目）	－	30	47	0	－			11	6	3	0	0	兼 4	
	諸課程科目	教職コンピュータ基礎	1前			2			○						兼 3	
		体育実技	2後			1			○						兼 1	
		学校教育社会学	2前			2	○								兼 1	
		教職論	2前			2	○								兼 1	
		特別支援教育概論	2後			2	○								兼 1	
		教育課程論	2後			2	○								兼 2	
		生徒・進路指導論	2前			2	○								兼 1	
		真宗学概論	2通			4	○								兼 1	
		仏教学概論	2通			4	○				1					
		真宗教団史	1通			4	○								兼 1	
		勤式	1通			4	○								兼 4	オムニバス
		宗門法規	1前			2	○								兼 1	集中
		教化法	1通			4	○								兼 4	オムニバス
		（本山教師）仏教史	1前			2	○				1				兼 1	オムニバス/集中
		（本山教師）宗教概説	1前			2	○								兼 1	集中
		公認心理師の職責	2後			2	○				1					
		小計（16科目）	－	0	0	41	－			0	2	0	0	0	兼 22	
合計（319科目）			－	38	604	41	－			12	6	3	0	0	兼 314	

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上【必修42単位、選択必修4単位】を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業時間：90分	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

大宮学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	言語科目	ラテン語Ⅰ	2 前		1		○								兼 1	
		ラテン語Ⅱ	2 後		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅰ	2 前		1		○								兼 1	
		ギリシア語Ⅱ	2 後		1		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
	教養科目 自然科学系科目	自然科学史Ⅰ	1 前		2		○								兼 1	
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼 1	
専攻科目	専門発展科目	心理学演習	3･4 前･後	2				○		13	4	2				
		卒業研究	4 通	4				○		13	4	2				
		知覚・認知心理学	3 前		2		○								兼 1	
		精神疾患とその治療	3 前		2		○			1						
		感情・人格心理学	3 前		2		○			1						
		心理関係行政論	3 前		2		○			6	1	1				オムニバス
		司法・犯罪心理学	3 前		2		○			1						
		産業・組織心理学	3 前		2		○			1						
		学習・言語心理学	3 後		2		○								兼 1	
		社会・集団・家族心理学	3 後		2		○								兼 1	
		量的心理学研究	3 前		2		○					1			兼 1	
		質的心理学研究	3 前		2		○			1	1					
		生理学データと現場心理学（基礎）	3 前		2		○			1						
		臨床催眠学	3 前		2		○			1						
		生理学データと現場心理学（応用）	3 後		2		○			1						
		子育てとソーシャルサポート	3 前		2		○			1						
		音楽療法	3 前		2		○				1					
		ダンスセラピー	3 前		2		○								兼 1	
		乳幼児の理解と支援実習	3 前		2				○	1						
		教育と心理支援	3 前		2			○			1					
		発達障害のアセスメント	3 前		2		○			1						
		心理的アセスメントⅡ	3 前		2		○								兼 1	
		不登校・いじめとスクールカウンセリング	3 前		2		○			1						
		青年心理と友人関係	3 前		2		○								兼 1	
		思春期とジェンダー心理学	3 前		2		○								兼 1	
		大人の発達障害	3 前		2		○			1						
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	3 前		2				○	1	1					共同
		中年期の危機とうつ	3 前		2		○								兼 1	
		コミュニティ・アプローチ	3 後		2		○			1						
		愛着障害と親子関係	3 後		2		○								兼 1	
		保育の心理学	3 後		2		○				1					
		障害児支援と療育	3 後		2		○			1						
		学童期の遊びと対人関係	3 後		2			○			1					
		発達障害と応用行動分析	3 後		2		○								兼 1	
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	3 後		2				○	1	1					共同
		フォーカシングと体験過程療法	3 後		2		○			1						
		ひきこもりと精神的健康	3 後		2		○								兼 1	
		認知行動療法	3 後		2		○			1						

大宮学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門発展科目	エンカウンターグループと回想法	3 後		2		○			1						
		ビハーラカウンセリング	3 後		2		○			1						
		死生観教育と心理療法	3 後		2			○			1					
		認知症の心と家族支援	3 後		2		○			1						
		高齢者の理解と支援実習	3 後		2				○	2						オムニバス
		人格心理学と精神力動論	3 後		2		○								兼 1	
		医療におけるシステムズアプローチ	3 前		2		○			1						
		緩和ケアとこころの治癒力	3 前		2		○			1						
		家族療法とコミュニケーション・アプローチ	3 前		2		○			1						
		学校システムにおける精神疾患と家族	3 前		2		○			1						
		不登校の解決と協働	3 前		2		○			1						
		発達障がいと家族	3 前		2		○					1				
		ひきこもりと家族支援	3 前		2		○				1					
		虐待と家族支援	3 前		2		○			1						
		ポジティブ心理学	3 前		2		○					1				
		コーチング心理学	3 前		2		○			1						
		コンサルテーション・リエゾン精神医学	3 後		2		○					1				
		構造派家族療法	3 後		2		○			1						
		保護者支援とチーム学校	3 後		2		○			1						
		コンサルテーション演習	3 後		2			○			1					
		特別支援とシステムズアプローチ	3 後		2		○					1				
		ブリーフセラピーとソリューション	3 後		2		○				1					
		非行と家族支援	3 後		2		○				1					
		オープン・ダイアローグ演習	3 後		2			○		1						
		キャリアカウンセリング	3 後		2		○					1				
		スポーツ心理学	3 後		2		○								兼 1	
		スポーツ・メンタルリハーサル	3 後		2		○			1						
		マインドフルネス・ヨーガ	3 後		2				○						兼 1	
		事例演習アドバンスⅠ	4 前		2			○		2						共同
		事例演習アドバンスⅡ	4 後		2			○		4						共同
		仕事と社会人Ⅱ	3 前		2			○			1					
		小計（69科目）		6	134	0		－		13	4	3	0	0	兼 12	
	共通選択科目	法学概論	3 通		4		○								兼 1	
		政治学原理	3 通		4		○								兼 1	
		経済原論	3 通		4		○								兼 1	
		社会学概説	2 通		4		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	0	16	0		－		0	0	0	0	0	兼 4	

大宮学舎

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
	社会科・公民科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
	道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
	総合的な学習の時間・特別活動論	3 前			2	○								兼 2	
	教育の方法と技術(ICT活用含む)	3 後			2	○								兼 2	
	教育相談	3 前			2	○			1						
	介護等体験	3 通			2			○						兼 4	共同
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○								兼 4	共同
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○						兼 4	共同
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○						兼 4	共同
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○							兼 4	
	教化法	1 通			4	○								兼 4	集中
	心理演習	3 前			2		○		1	1	2				
	心理実習A	3 後			2			○	1						
	心理実習B	4 通			2			○	1						
	小計（15科目）	－	0	0	33	－			3	1	2	0	0	兼 10	
合計（93科目）		－	6	156	33	－			13	4	3	0	0	兼 29	

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目:4単位/言語科目:4単位）、選択必修14単位（言語科目:8単位/人文科学系科目:2単位/社会科学系科目:2単位/自然科学系科目:2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上【必修42単位、選択必修4単位】を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	1前	2			○								兼　1	
		仏教の思想Ｂ	1後	2			○								兼　1	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前		2		○								兼　2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後		2		○								兼　2	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼　3	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	1前	1			○								兼　25	
		英語総合１（Ｂ）	1前	1			○								兼　26	
		英語総合２（Ａ）	1後	1			○								兼　25	
		英語総合２（Ｂ）	1後	1			○								兼　26	
		英語総合３（Ａ）	2前		1		○								兼　17	
		英語総合３（Ｂ）	2前		1		○								兼　16	
		英語総合４（Ａ）	2後		1		○								兼　16	
		英語総合４（Ｂ）	2後		1		○								兼　16	
		英語セミナーＡ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＡ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＢ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＢ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＣ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＣ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＤ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＤ２	3後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＥ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＥ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＦ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＦ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＧ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＧ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＨ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＨ２	3後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＩ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＩ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＪ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＪ２	3後		2		○								兼　1	
		英語資格試験セミナー	1後		2		○								兼　1	集中
		海外英語研修	1後		2		○								兼　2	集中
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼　12	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼　12	
		ドイツ語ⅢＡ	2前		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＢ	2後		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＣ	2前		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＤ	2後		1		○								兼　4	
		フランス語Ⅰ	1前		2		○								兼　9	
		フランス語Ⅱ	1後		2		○								兼　9	
		フランス語ⅢＡ	2前		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＢ	2後		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＣ	2前		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＤ	2後		1		○								兼　2	
		中国語Ⅰ	1前		2		○								兼　22	
		中国語Ⅱ	1後		2		○								兼　21	
		中国語ⅢＡ	2前		1		○								兼　8	
		中国語ⅢＢ	2後		1		○								兼　7	
		中国語ⅢＣ	2前		1		○								兼　7	
		中国語ⅢＤ	2後		1		○								兼　6	
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼　8	
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼　8	
		スペイン語ⅢＡ	2前		1		○								兼　2	
		スペイン語ⅢＢ	2後		1		○								兼　2	
		スペイン語ⅢＣ	2前		1		○								兼　2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	言語科目	スペイン語ⅢＤ	2後		1		○								兼　2	
		コリア語Ⅰ	1前		2		○								兼　11	
		コリア語Ⅱ	1後		2		○								兼　11	
		コリア語ⅢＡ	2前		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＢ	2後		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＣ	2前		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＤ	2後		1		○								兼　3	
		ドイツ語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		ドイツ語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		ドイツ語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		中国語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		中国語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		海外中国語研修講座	2前		2		○								兼　1	集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	言語科目	ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		ポルトガル語ⅢＡ	3前		2		○								兼　1
		ポルトガル語ⅢＢ	3後		2		○								兼　1
		ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		ロシア語ⅢＡ	3前		2		○								兼　1
		ロシア語ⅢＢ	3後		2		○								兼　1
		ラテン語Ⅰ	2前		1		○								兼　1
		ラテン語Ⅱ	2後		1		○								兼　1
		ギリシア語Ⅰ	2前		1		○								兼　1
		ギリシア語Ⅱ	2後		1		○								兼　1
		ペルシア語ⅠＡ	2前		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅠＢ	2前		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅡＡ	2後		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅡＢ	2後		2		○								兼　1
		トルコ語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		トルコ語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		アラビア語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		アラビア語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		日本語	1前・後		1		○								兼　3
		小計（132科目）	－	4	227	0	－			0	0	0	0	0	兼　183
	教養科目 人文科学系科目	哲学入門	1前		2		○								兼　1
		哲学Ａ	1前		2		○								兼　3
		哲学Ｂ	2前		2		○								兼　2
		倫理学入門	1前		2		○								兼　1
		倫理学Ａ	1前		2		○								兼　2
		倫理学Ｂ	2前		2		○								兼　2
		クリティカル・シンキング	1前		2		○								兼　1
		論理学	2前		2		○								兼　1
		宗教学入門	1前		4		○								兼　1
		宗教の世界Ａ	1前		2		○								兼　2
		宗教の世界Ｂ	1後		2		○								兼　2
		中国の思想Ａ	1前		2		○								兼　1
		中国の思想Ｂ	1後		2		○								兼　1
		芸術の世界Ａ	2前		2		○								兼　2
		芸術の世界Ｂ	2後		2		○								兼　2
		日本の文学Ａ	1前		4		○								兼　2
		日本の文学Ｂ	1後		4		○								兼　2
		日本の文学Ｃ	2前		2		○								兼　1
		アジアの文学Ａ	1前		2		○								兼　1
		アジアの文学Ｂ	1前		2		○								兼　1
		西洋の文学Ａ	1前		2		○								兼　3
		西洋の文学Ｂ	1後		2		○								兼　3
		文章表現法Ａ	1前		2		○								兼　2
		文章表現法Ｂ	1後		2		○								兼　2
		言語と文化	1前		2		○								兼　2
		歴史学入門	2前		2		○								兼　2
		日本の歴史Ａ	1前		4		○								兼　1
		日本の歴史Ｂ	1後		4		○								兼　1
		日本の文化	2後		4		○								兼　1
		アジアの歴史Ａ	1前		4		○								兼　3
		アジアの歴史Ｂ	1後		4		○								兼　2
		アジアの文化	2前		2		○								兼　2
		西洋の歴史Ａ	1前		4		○								兼　1
		西洋の歴史Ｂ	2前		2		○								兼　1
		西洋の歴史Ｃ	2後		2		○								兼　1
		現代世界の歴史Ａ	1前		2		○								兼　2

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	現代世界の歴史Ｂ	1後		2		○								兼　2
			心理学	1前		4		○								兼　1
			心の科学Ａ	1前		2		○								兼　2
			心の科学Ｂ	1後		2		○								兼　2
			応用心理学Ａ	2前		2		○								兼　1
			応用心理学Ｂ	2後		2		○								兼　1
			教育学のすすめＡ	1前		2		○								兼　3
			教育学のすすめＢ	1後		2		○								兼　3
			現代社会と教育Ａ	2前		2		○								兼　1
			現代社会と教育Ｂ	2後		2		○								兼　1
			教育原論Ａ	2前		2		○								兼　1
			教育原論Ｂ	2後		2		○								兼　1
			学習・発達論Ａ	2前		2		○								兼　3
			学習・発達論Ｂ	2後		2		○								兼　3
			人文科学セミナー	2前		4		○								兼　7
			大学論	2前・後		2		○								兼　9
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			0	0	0	0	0	兼　50
		社会科学系科目	日本国憲法	1前		2		○								兼　5
			法学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			政治学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			社会学のすすめ	1前		2		○								兼　2
			地理学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			経済学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			経営学のすすめ	1前		2		○								兼　2
			国際学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			文化人類学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			社会調査のすすめ	1前		2		○								兼　2
			社会統計学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			人権論Ａ	1前		2		○								兼　2
			人権論Ｂ	1後		2		○								兼　2
			現代社会とメディア	2前		2		○								兼　2
			現代社会と福祉	2前		2		○								兼　1
			現代社会と法	2前		2		○								兼　2
			環境と社会	2前		2		○								兼　2
			平和学Ａ	2前		2		○								兼　2
			ジェンダー論	2前		2		○								兼　2
			国際社会論	2前		2		○								兼　2
			現代社会の諸問題	2前		2		○								兼　2
			地域論	2前		2		○								兼　1
			企業と会計	2前		2		○								兼　1
			現代社会と労働	2前		2		○								兼　1
			社会思想史	2前		2		○								兼　1
			英語で学ぶ日本の社会Ａ	1前		2		○								兼　1
			英語で学ぶ日本の社会Ｂ	1前		2		○								兼　1
			小計（27科目）	－	0	54	0	－			0	0	0	0	0	兼　41
		自然科学系科目	数学入門	1前		2		○								兼　2
			数学への旅	1前		2		○								兼　3
			確率・統計入門	1前		2		○								兼　2
			微分と積分	1前		4		○								兼　2
			行列と行列式	1前		4		○								兼　1
			数理統計学	2前		4		○								兼　1
			数理と計算	2前		2		○								兼　1
			数学の世界	2前		4		○								兼　2
			数理と論証	2前		2		○								兼　1
			宇宙の科学Ⅰ	1前		4		○								兼　1
			宇宙の科学Ⅱ	2前		2		○								兼　2
			地球科学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			地球科学	1後		2		○								兼　1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	物理科学の世界	1前		4		○								兼　1
			時間と空間の科学	1前		2		○								兼　2
			エネルギー入門	2前		2		○								兼　1
			自然科学史Ⅰ	1前		2		○								兼　1
			自然科学史Ⅱ	2前		2		○								兼　2
			科学論	2前		2		○								兼　2
			技術論	2後		2		○								兼　1
			平和学Ｂ	2前		2		○								兼　1
			里山学	1前		2		○								兼　8
			生物科学のすすめ	1前		4		○								兼　1
			生命科学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			生命科学	1後		2		○								兼　2
			生態学のすすめ	1前		4		○								兼　1
			人類学のすすめ	1前		4		○								兼　2
			日本の自然	1前		4		○								兼　8　オムニバス
			生命誌	2前		2		○								兼　1
			植物の自然誌	2前		2		○								兼　2
			動物の自然誌	2前		2		○								兼　2
			民族の自然誌	2前		2		○								兼　1
			人類進化学	2前		2		○								兼　1
			人間の生物学Ⅰ	2前		2		○								兼　1
			人間の生物学Ⅱ	2後		2		○								兼　1
			自然誌実習	2前・後		4		○								兼　4
			野外観察法	2前		2		○								兼　2　集中
			環境学	1前		4		○								兼　3
			情報科学入門	2前		2		○								兼　1
			情報科学Ⅰ	2後		2		○								兼　1
			情報科学Ⅱ	3前		2		○								兼　1
			情報科学実習	1後		4		○								兼　2
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	兼　42
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前		2		○								兼　2
			現代社会とスポーツ	1前		2		○								兼　2
			スポーツ技術学演習	1前		2				○						兼　15
			人間とスポーツ	1前		2		○								兼　2
			スポーツと人権・平和	2後		2		○								兼　1
			スポーツ文化史	2前		2		○								兼　1
			スポーツ科学最前線	1前		2		○								兼　1
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼　16
			教養教育科目特別講義	1前		2		○								兼　14　オムニバス
			特別講座	1後		12		○								詳細は別途規定
			放送大学科目	1後		4		○								詳細は別途規定
			バークレー語学	1前		12		○								兼　1
			バークレー講義	1前		6		○								兼　1
			バークレーボランティア	1前		6		○								兼　1
			小計（6科目）	－	0	42	0	－			0	0	0	0	0	兼　17

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	臨床心理学基礎演習Ⅰ	1通	4				○		2	2					
	臨床心理学基礎演習Ⅱ	2通	4				○		2	2					
	臨床心理学演習ⅠＡ	3前	2				○		4	1					
	臨床心理学演習ⅠＢ	3後	2				○		4	1					
	臨床心理学演習ⅡＡ	4前	2				○		7	1					
	臨床心理学演習ⅡＢ	4後	2				○		7	1					
	卒業論文	4通	4				○		7	1					
	臨床心理学講読Ａ1	2前		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ａ2	2後		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ｂ1	2前		2		○				1					
	臨床心理学講読Ｂ2	2後		2		○				1					
	臨床心理学講読Ｃ1	3前		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ｃ2	3後		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ｄ1	3前		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ｄ2	3後		2		○								兼　1	
	臨床心理学講読Ｅ1	3前		2		○				1					
	臨床心理学講読Ｅ2	3後		2		○				1					
	臨床心理学特殊講義Ａ	3前		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｂ	3後		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｃ	3前		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｄ	3後		2		○				1					
	臨床心理学特殊講義Ｅ	3前		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｆ	3後		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｇ	3前		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｈ	3後		2		○				1					
	臨床心理学特殊講義Ｉ	3前		2		○			1						
	臨床心理学特殊講義Ｊ	3後		2		○				1					
	心理学概論Ａ	1前	2			○				1					
	心理学概論Ｂ	1後	2			○				1					
	発達心理学概論	1前		2		○								兼　1	
	臨床心理学概論Ａ	1前	2			○								兼　1	
	臨床心理学概論Ｂ	1後	2			○				1					
	対人行動学概論	1後	2			○				1					
	心理学的支援法Ａ	2前		2		○			1						
	心理学的支援法Ｂ	2後		2		○			1						
	障害者・障害児心理学	2前		2		○			1						
	対人援助概論	2後		2		○				1					
	神経・生理心理学	1前		2		○								兼　1	
	健康・医療心理学	1後		2		○								兼　1	
	仏教カウンセリング	2前		2		○			1						
	特別支援教育方法論（教育・学校心理学）	2後		2		○			1						
	感情・人格心理学	3前		2		○			1						
	社会・集団・家族心理学Ａ	3前		2		○								兼　1	
	社会・集団・家族心理学Ｂ	3後		2		○								兼　1	
	ビハーラカウンセリング	3前		2		○			1						
	（公）心理学実験Ａ	3前		1				○	1						
	（公）心理学実験Ｂ	3後		1				○	1						
	心理的アセスメント	3後		2						1					
	心理学研究法Ａ	2前		2		○				1					
	心理学研究法Ｂ	2後		2		○				1					
	心理学統計法Ａ	3前	2			○				1					
	心理学統計法Ｂ	3後		2		○				1					
	人体の構造と機能及び疾病	1後		2		○								兼　1	
	福祉心理学	2前		2		○			1						
	司法・犯罪心理学	3前		2		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	産業・組織心理学	3後		2		○				1					
	精神疾患とその治療	3後		2		○			1						
	心理演習	3前		2			○		1	3					
	法学概論	3通		4		○								兼　1	
	政治学原理	3通		4		○								兼　1	
	経済原論	3通		4		○								兼　1	
	社会学概説	2通		4		○								兼　1	
	キャリア形成論	1前		2		○								兼　1	
	放送大学科目	1後		30		○									詳細は別途規定
	特別講座	1後		30		○									詳細は別途規定
	小計（65科目）	－	32	166	0	－			9	3	0	0	0	兼　13	
諸課程科目	教職コンピュータ基礎	1前			2			○						兼　3	
	体育実技	2後			1			○						兼　1	
	社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼　1	
	社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼　1	
	教職論	2前			2	○								兼　1	
	学校教育社会学	2前			2	○								兼　1	
	教育課程論	2後			2	○								兼　2	
	特別支援教育概論	2後			2	○								兼　1	
	道徳教育指導法	3前			2	○								兼　1	
	総合的な学習の時間・特別活動論	3前			2	○								兼　1	
	教育の方法と技術	3後			2	○								兼　1	
	生徒・進路指導論	2前			2	○								兼　2	
	教育相談	3前			2	○				1					
	介護等体験	2通			2			○						兼　2	
	教育実習指導Ⅰ	4通			1	○								兼　2	
	教育実習指導ⅡＡ	4通			4			○						兼　3	
	教育実習指導ⅡＢ	4通			2			○						兼　3	
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼　3	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	勤式	1通			4	○								兼　4	オムニバス
	宗門法規	1前			2	○								兼　1	集中
	教化法	1通			4	○								兼　4	オムニバス
	（本山教師）仏教史	1前			1	○								兼　2	集中
	（本山教師）宗教概説	1前			1	○								兼　1	集中
	生涯学習概論	1前			2	○								兼　1	
	図書館情報学概論	1前			2	○								兼　1	
	図書館制度・経営論	2後			2	○								兼　1	
	図書館サービス概論	1後			2	○								兼　1	
	情報サービス論	2前			2	○								兼　1	
	情報サービス実習Ａ	2前			1			○						兼　1	
	情報サービス実習Ｂ	2後			1			○						兼　1	
	図書館情報資源概論	1後			2	○								兼　1	
	図書館情報資源特論	2前			2	○								兼　1	
	情報資源組織論	2前			2	○								兼　1	
	情報資源組織実習Ａ	2後			1			○						兼　2	
	情報資源組織実習Ｂ	2後			1			○						兼　2	
	児童サービス論	2前			2	○								兼　1	
	図書・図書館史	1後			2	○								兼　1	
	図書館基礎特論	1後			2	○								兼　1	
	図書館サービス特論	2前			2	○								兼　1	
	図書館情報技術論	2後			2	○								兼　1	
	図書館実習	3前			1			○						兼　1	
	図書館施設論	2前			2	○								兼　1	
	図書館総合演習	3前			2		○							兼　1	
	学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼　1	
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼　1	
	学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼　1	
	読書と豊かな人間性	2後			2	○								兼　1	
	情報メディアの活用	2後			2	○								兼　1	
	公認心理師の職責	2後			2	○			1						
	心理関係行政論	3前			2	○			5	3					オムニバス
	心理実習Ａ	3前			2			○	1						
	心理実習Ｂ	4通			2			○	1						
	小計（52科目）	－	0	0	101	－			6	3	0	0	0	兼　34	
合計（387科目）		－	40	743	101	－			9	3	0	0	0	兼　399	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目：4単位／言語科目：4単位）、選択必修14単位（言語科目：8単位／人文科学系科目：2単位／社会科学系科目：2単位／自然科学系科目：2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上（必修42単位、選択必修4単位）を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業時間：90分	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	1前	2			○								兼　1	
		仏教の思想Ｂ	1後	2			○								兼　1	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前		2		○								兼　2	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後		2		○								兼　2	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼　3	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	1前	1			○								兼　25	
		英語総合１（Ｂ）	1前	1			○								兼　26	
		英語総合２（Ａ）	1後	1			○								兼　25	
		英語総合２（Ｂ）	1後	1			○								兼　26	
		英語総合３（Ａ）	2前		1		○								兼　17	
		英語総合３（Ｂ）	2前		1		○								兼　16	
		英語総合４（Ａ）	2後		1		○								兼　16	
		英語総合４（Ｂ）	2後		1		○								兼　16	
		英語セミナーＡ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＡ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＢ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＢ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＣ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＣ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＤ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＤ２	3後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＥ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＥ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＦ１	2前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＦ２	2後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＧ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＧ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＨ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＨ２	3後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＩ１	1前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＩ２	1後		2		○								兼　1	
		英語セミナーＪ１	3前		2		○								兼　1	
		英語セミナーＪ２	3後		2		○								兼　1	
		英語資格試験セミナー	1後		2		○								兼　1	集中
		海外英語研修	1後		2		○								兼　2	集中
		ドイツ語Ⅰ	1前		2		○								兼　12	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2		○								兼　12	
		ドイツ語ⅢＡ	2前		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＢ	2後		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＣ	2前		1		○								兼　4	
		ドイツ語ⅢＤ	2後		1		○								兼　4	
		フランス語Ⅰ	1前		2		○								兼　9	
		フランス語Ⅱ	1後		2		○								兼　9	
		フランス語ⅢＡ	2前		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＢ	2後		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＣ	2前		1		○								兼　2	
		フランス語ⅢＤ	2後		1		○								兼　2	
		中国語Ⅰ	1前		2		○								兼　22	
		中国語Ⅱ	1後		2		○								兼　21	
		中国語ⅢＡ	2前		1		○								兼　8	
		中国語ⅢＢ	2後		1		○								兼　7	
		中国語ⅢＣ	2前		1		○								兼　7	
		中国語ⅢＤ	2後		1		○								兼　6	
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○								兼　8	
		スペイン語Ⅱ	1後		2		○								兼　8	
		スペイン語ⅢＡ	2前		1		○								兼　2	
		スペイン語ⅢＢ	2後		1		○								兼　2	
		スペイン語ⅢＣ	2前		1		○								兼　2	

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	言語科目	スペイン語ⅢＤ	2後		1		○								兼　2	
		コリア語Ⅰ	1前		2		○								兼　11	
		コリア語Ⅱ	1後		2		○								兼　11	
		コリア語ⅢＡ	2前		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＢ	2後		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＣ	2前		1		○								兼　3	
		コリア語ⅢＤ	2後		1		○								兼　3	
		ドイツ語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		ドイツ語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		ドイツ語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		ドイツ語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　2	
		フランス語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		フランス語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		フランス語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		フランス語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　2	
		中国語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　2	
		中国語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		中国語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		中国語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		中国語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		スペイン語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＣ	2前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーＩＤ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＡ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＢ	3後		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＣ	3前		2		○								兼　1	
		コリア語セミナーⅡＤ	3後		2		○								兼　1	
		コリア語コミュニケーションⅠ	2後		2		○								兼　1	
		コリア語コミュニケーションⅡ	3前		2		○								兼　1	
		海外中国語研修講座	2前		2		○								兼　1	集中

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養教育科目	言語科目	ポルトガル語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		ポルトガル語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		ポルトガル語ⅢＡ	3前		2		○								兼　1
		ポルトガル語ⅢＢ	3後		2		○								兼　1
		ロシア語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		ロシア語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		ロシア語ⅢＡ	3前		2		○								兼　1
		ロシア語ⅢＢ	3後		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅠＡ	2前		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅠＢ	2前		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅡＡ	2後		2		○								兼　1
		ペルシア語ⅡＢ	2後		2		○								兼　1
		トルコ語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		トルコ語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		アラビア語Ⅰ	2前		2		○								兼　1
		アラビア語Ⅱ	2後		2		○								兼　1
		日本語	1前・後		1		○								兼　3
		小計（128科目）	－	4	223	0	－			0	0	0	0	0	兼　181
	教養科目 人文科学系科目	哲学入門	1前		2		○								兼　1
		哲学Ａ	1前		2		○								兼　3
		哲学Ｂ	2前		2		○								兼　2
		倫理学入門	1前		2		○								兼　1
		倫理学Ａ	1前		2		○								兼　2
		倫理学Ｂ	2前		2		○								兼　2
		クリティカル・シンキング	1前		2		○								兼　1
		論理学	2前		2		○								兼　1
		宗教学入門	1前		4		○								兼　1
		宗教の世界Ａ	1前		2		○								兼　2
		宗教の世界Ｂ	1後		2		○								兼　2
		中国の思想Ａ	1前		2		○								兼　1
		中国の思想Ｂ	1後		2		○								兼　1
		芸術の世界Ａ	2前		2		○								兼　2
		芸術の世界Ｂ	2後		2		○								兼　2
		日本の文学Ａ	1前		4		○								兼　2
		日本の文学Ｂ	1後		4		○								兼　2
		日本の文学Ｃ	2前		2		○								兼　1
		アジアの文学Ａ	1前		2		○								兼　1
		アジアの文学Ｂ	1前		2		○								兼　1
		西洋の文学Ａ	1前		2		○								兼　3
		西洋の文学Ｂ	1後		2		○								兼　3
		文章表現法Ａ	1前		2		○								兼　2
		文章表現法Ｂ	1後		2		○								兼　2
		言語と文化	1前		2		○								兼　2
		歴史学入門	2前		2		○								兼　2
		日本の歴史Ａ	1前		4		○								兼　1
		日本の歴史Ｂ	1後		4		○								兼　1
		日本の文化	2後		4		○								兼　1
		アジアの歴史Ａ	1前		4		○								兼　3
		アジアの歴史Ｂ	1後		4		○								兼　2
		アジアの文化	2前		2		○								兼　2
		西洋の歴史Ａ	1前		4		○								兼　1
		西洋の歴史Ｂ	2前		2		○								兼　1
		西洋の歴史Ｃ	2後		2		○								兼　1
		現代世界の歴史Ａ	1前		2		○								兼　2
		現代世界の歴史Ｂ	1後		2		○								兼　2
		心理学	1前		4		○								兼　1
		心の科学Ａ	1前		2		○								兼　2
		心の科学Ｂ	1後		2		○								兼　2

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	応用心理学Ａ	2前		2		○								兼　1
			応用心理学Ｂ	2後		2		○								兼　1
			教育学のすすめＡ	1前		2		○								兼　3
			教育学のすすめＢ	1後		2		○								兼　3
			現代社会と教育Ａ	2前		2		○								兼　1
			現代社会と教育Ｂ	2後		2		○								兼　1
			教育原論Ａ	2前		2		○								兼　1
			教育原論Ｂ	2後		2		○								兼　1
			学習・発達論Ａ	2前		2		○								兼　3
			学習・発達論Ｂ	2後		2		○								兼　3
			人文科学セミナー	2前		4		○								兼　7
			大学論	2前・後		2		○								兼　9
			小計（52科目）	－	0	126	0	－			0	0	0	0	0	兼　50
		社会科学系科目	日本国憲法	1前		2		○								兼　5
			法学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			政治学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			社会学のすすめ	1前		2		○								兼　2
			地理学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			経済学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			経営学のすすめ	1前		2		○								兼　2
			国際学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			文化人類学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			社会調査のすすめ	1前		2		○								兼　2
			社会統計学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			人権論Ａ	1前		2		○								兼　2
			人権論Ｂ	1後		2		○								兼　2
			現代社会とメディア	2前		2		○								兼　2
			現代社会と福祉	2前		2		○								兼　1
			現代社会と法	2前		2		○								兼　2
			環境と社会	2前		2		○								兼　2
			平和学Ａ	2前		2		○								兼　2
			ジェンダー論	2前		2		○								兼　2
			国際社会論	2前		2		○								兼　2
			現代社会の諸問題	2前		2		○								兼　2
			地域論	2前		2		○								兼　1
			企業と会計	2前		2		○								兼　1
			現代社会と労働	2前		2		○								兼　1
			社会思想史	2前		2		○								兼　1
			英語で学ぶ日本の社会Ａ	1前		2		○								兼　1
			英語で学ぶ日本の社会Ｂ	1前		2		○								兼　1
			小計（27科目）	－	0	54	0	－			0	0	0	0	0	兼　41
		自然科学系科目	数学入門	1前		2		○								兼　2
			数学への旅	1前		2		○								兼　3
			確率・統計入門	1前		2		○								兼　2
			微分と積分	1前		4		○								兼　2
			行列と行列式	1前		4		○								兼　1
			数理統計学	2前		4		○								兼　1
			数理と計算	2前		2		○								兼　1
			数学の世界	2前		4		○								兼　2
			数理と論証	2前		2		○								兼　1
			宇宙の科学Ⅰ	1前		4		○								兼　1
			宇宙の科学Ⅱ	2前		2		○								兼　2
			地球科学のすすめ	1前		2		○								兼　1
			地球科学	1後		2		○								兼　1
			物理科学の世界	1前		4		○								兼　1
			時間と空間の科学	1前		2		○								兼　2
			エネルギー入門	2前		2		○								兼　1
			自然科学史Ⅰ	1前		2		○								兼　1

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	自然科学史Ⅱ	2前		2		○								兼　2
			科学論	2前		2		○								兼　2
			技術論	2後		2		○								兼　1
			平和学Ｂ	2前		2		○								兼　1
			里山学	1前		2		○								兼　8
			生物科学のすすめ	1前		4		○								兼　1
			生命科学のすすめ	1前		2		○								兼　3
			生命科学	1後		2		○								兼　2
			生態学のすすめ	1前		4		○								兼　1
			人類学のすすめ	1前		4		○								兼　2
			日本の自然	1前		4		○								兼　8　オムニバス
			生命誌	2前		2		○								兼　1
			植物の自然誌	2前		2		○								兼　2
			動物の自然誌	2前		2		○								兼　2
			民族の自然誌	2前		2		○								兼　1
			人類進化学	2前		2		○								兼　1
			人間の生物学Ⅰ	2前		2		○								兼　1
			人間の生物学Ⅱ	2後		2		○								兼　1
			自然誌実習	2前・後		4		○								兼　4
			野外観察法	2前		2		○								兼　2　集中
			環境学	1前		4		○								兼　3
			情報科学入門	2前		2		○								兼　1
			情報科学Ⅰ	2後		2		○								兼　1
			情報科学Ⅱ	3前		2		○								兼　1
			情報科学実習	1後		4		○								兼　2
			小計（42科目）	－	0	110	0	－			0	0	0	0	0	兼　42
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2前		2		○								兼　2
			現代社会とスポーツ	1前		2		○								兼　2
			スポーツ技術学演習	1前		2				○						兼　15
			人間とスポーツ	1前		2		○								兼　2
			スポーツと人権・平和	2後		2		○								兼　1
			スポーツ文化史	2前		2		○								兼　1
			スポーツ科学最前線	1前		2		○								兼　1
			小計（7科目）	－	0	14	0	－			0	0	0	0	0	兼　16
			教養教育科目特別講義	1前		2		○								兼　14　オムニバス
			特別講座	1後		12		○								詳細は別途規定
			放送大学科目	1後		4		○								詳細は別途規定
			バークレー語学	1前		12		○								兼　1
			バークレー講義	1前		6		○								兼　1
			バークレーボランティア	1前		6		○								兼　1
			小計（6科目）	－	0	42	0	－			0	0	0	0	0	兼　17
専攻科目			臨床心理学基礎演習Ⅰ	1通	4				○		2	2				
			臨床心理学基礎演習Ⅱ	2通	4				○		2	2				
			臨床心理学講読Ａ1	2前		2		○								兼　1
			臨床心理学講読Ａ2	2後		2		○								兼　1
			臨床心理学講読Ｂ1	2前		2		○				1				
			臨床心理学講読Ｂ2	2後		2		○				1				
			心理学概論Ａ	1前	2			○				1				
			心理学概論Ｂ	1後	2			○				1				
			発達心理学概論	1前		2		○								兼　1
			臨床心理学概論Ａ	1前	2			○								兼　1
			臨床心理学概論Ｂ	1後	2			○				1				
			対人行動学概論	1後	2			○				1				
			心理学的支援法Ａ	2前		2		○			1					
			心理学的支援法Ｂ	2後		2		○			1					
			障害者・障害児心理学	2前		2		○			1					
			対人援助概論	2後		2		○				1				
			神経・生理心理学	1前		2		○								兼　1

別記様式第２号（その２の１）

深草学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
専攻科目	健康・医療心理学	1後		2		○								兼　1
	仏教カウンセリング	2前		2		○			1					
	特別支援教育方法論（教育・学校心理学）	2後		2		○			1					
	心理学研究法Ａ	2前		2		○				1				
	心理学研究法Ｂ	2後		2		○				1				
	人体の構造と機能及び疾病	1後		2		○								兼　1
	福祉心理学	2前		2		○			1					
	キャリア形成論	1前		2		○								兼　1
	放送大学科目	1後		30		○								詳細は別途規定
	特別講座	1後		30		○								詳細は別途規定
	小計（27科目）	―	18	96	0	―			6	3	0	0	0	兼　6
諸課程科目	教職コンピュータ基礎	1前			2			○						兼　3
	体育実技	2後			1			○						兼　1
	教職論	2前			2	○								兼　1
	学校教育社会学	2前			2	○								兼　1
	教育課程論	2後			2	○								兼　2
	特別支援教育概論	2後			2	○								兼　1
	生徒・進路指導論	2前			2	○								兼　2
	介護等体験	2通			2			○						兼　2
	勤式	1通			4	○								兼　4	オムニバス
	宗門法規	1前			2	○								兼　1	集中
	生涯学習概論	1前			2	○								兼　1
	図書館情報学概論	1前			2	○								兼　1
	図書館制度・経営論	2後			2	○								兼　1
	図書館サービス概論	1後			2	○								兼　1
	情報サービス論	2前			2	○								兼　1
	情報サービス実習Ａ	2前			1			○						兼　1
	情報サービス実習Ｂ	2後			1			○						兼　1
	図書館情報資源概論	1後			2	○								兼　1
	図書館情報資源特論	2前			2	○								兼　1
	情報資源組織論	2前			2	○								兼　1
	情報資源組織実習Ａ	2後			1			○						兼　2
	情報資源組織実習Ｂ	2後			1			○						兼　2
	児童サービス論	2前			2	○								兼　1
	図書・図書館史	1後			2	○								兼　1
	図書館基礎特論	1後			2	○								兼　1
	図書館サービス特論	2前			2	○								兼　1
	図書館情報技術論	2後			2	○								兼　1
	図書館実習	3前			1			○						兼　1
	図書館施設論	2前			2	○								兼　1
	図書館総合演習	3前			2		○							兼　1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼　1
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼　1
	学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼　1
	読書と豊かな人間性	2後			2	○								兼　1
	情報メディアの活用	2後			2	○								兼　1
	公認心理師の職責	2後			2	○			1					
	小計（36科目）	―	0	0	68	―			1	0	0	0	0	兼　23
合計（329科目）		―	26	669	68	―			6	3	0	0	0	兼　379

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目：4単位／言語科目：4単位）、選択必修14単位（言語科目：8単位／人文科学系科目：2単位／社会科学系科目：2単位／自然科学系科目：2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上（必修42単位、選択必修4単位）を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業時間：90分		

別記様式第２号（その２の１）

大宮学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
教養教育科目	言語科目		ラテン語Ⅰ	2前		1		○								兼　1	
			ラテン語Ⅱ	2後		1		○								兼　1	
			ギリシア語Ⅰ	2前		1		○								兼　1	
			ギリシア語Ⅱ	2後		1		○								兼　1	
			小計（4科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼　2	
	教養科目	自然科学系科目	自然科学史Ⅰ	1前		2		○								兼　1	
			小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼　1	
専攻科目			臨床心理学演習ＩＡ	3前	2				○		4	1					
			臨床心理学演習ＩＢ	3後	2				○		4	1					
			臨床心理学演習ⅡＡ	4前	2				○		7	1					
			臨床心理学演習ⅡＢ	4後	2				○		7	1					
			卒業論文	4通	4				○		7	1					
			臨床心理学講読Ｃ1	3前		2		○								兼　1	
			臨床心理学講読Ｃ2	3後		2		○								兼　1	
			臨床心理学講読Ｄ1	3前		2		○								兼　1	
			臨床心理学講読Ｄ2	3後		2		○								兼　1	
			臨床心理学講読Ｅ1	3前		2		○				1					
			臨床心理学講読Ｅ2	3後		2		○				1					
			臨床心理学特殊講義Ａ	3前		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｂ	3後		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｃ	3前		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｄ	3後		2		○				1					
			臨床心理学特殊講義Ｅ	3前		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｆ	3後		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｇ	3前		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｈ	3後		2		○				1					
			臨床心理学特殊講義Ｉ	3前		2		○			1						
			臨床心理学特殊講義Ｊ	3後		2		○				1					
			感情・人格心理学	3前		2		○			1						
			社会・集団・家族心理学Ａ	3前		2		○								兼　1	
			社会・集団・家族心理学Ｂ	3後		2		○								兼　1	
			ビハーラカウンセリング	3前		2		○			1						
			（公）心理学実験Ａ	3前		1				○	1						
			（公）心理学実験Ｂ	3後		1				○	1						
			心理的アセスメント	3後		2						1					
			心理学統計法Ａ	3前	2			○				1					
			心理学統計法Ｂ	3後		2		○				1					
			司法・犯罪心理学	3前		2		○				1					
			産業・組織心理学	3後		2		○				1					
			精神疾患とその治療	3後		2		○			1						
			心理演習	3前		2			○		1	3					
			法学概論	3通		4		○								兼　1	
			政治学原理	3通		4		○								兼　1	
			経済原論	3通		4		○								兼　1	
			社会学概説	2通		4		○								兼　1	
			放送大学科目	1後		30		○									詳細は別途規定
			特別講座	1後		30		○									詳細は別途規定
			小計（40科目）	－	14	130	0	－			9	3	0	0	0	兼　8	

別記様式第２号（その２の１）

大宮学舎

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部臨床心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
諸課程科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼　1
	社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼　1
	道徳教育指導法	3前			2	○								兼　1
	総合的な学習の時間・特別活動論	3前			2	○								兼　1
	教育の方法と技術	3後			2	○								兼　1
	教育相談	3前			2	○				1				
	教育実習指導Ⅰ	4通			1	○								兼　2
	教育実習指導ⅡＡ	4通			4			○						兼　3
	教育実習指導ⅡＢ	4通			2			○						兼　3
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼　3
	教化法	1通			4	○								兼　4	オムニバス
	（本山教師）仏教史	1前			1	○								兼　2	集中
	（本山教師）宗教概説	1前			1	○								兼　1	集中
	心理関係行政論	3前			2	○			5	3					オムニバス
	心理実習Ａ	3前			2			○	1					
	心理実習Ｂ	4通			2			○	1					
	小計（16科目）	－	0	0	33	－			6	3	0	0	0	兼　13	
合計（61科目）		－	14	136	33	－			9	3	0	0	0	兼　24	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から36単位以上【必修8単位（「仏教の思想」科目：4単位／言語科目：4単位）、選択必修14単位（言語科目：8単位／人文科学系科目：2単位／社会科学系科目：2単位／自然科学系科目：2単位）、選択科目14単位】、学部専攻科目から70単位以上（必修42単位、選択必修4単位）を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 1学年の学期区分：2学期 1学期の授業期間：15週 1時限の授業時間：90分	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「人間と宗教」「神々と仏」「あるがままに見る眼」「いのちあるものすべてへの慈愛」「自己中心的に考える人間存在」「支えあってつながっている宇宙」「仏教の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、釈尊の生涯と思想を中心に学ぶ。	
		仏教の思想B	龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とする。また本講義では、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を活用しながら展開する。「鎌倉仏教の位置と特質」「真実の探求」「自己を徹底的に見つめる」「現実世界への凝視と安らぎへの願い」「あるがままで受け容れられる世界」「あらゆるものは輝いている」「親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神」といった観点から、親鸞の生涯と思想を中心に学ぶ。	
		歎異抄の思想Ⅰ	『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解する。	
		歎異抄の思想Ⅱ	『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎いた門弟の唯円が、親鸞の真意を伝えようとして著したとされるものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解する。	
	言語科目	英語総合1（A）	本講義は、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合1(A)」では、英語を読む力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	
		英語総合1（B）	本講義は、これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合1(B)」では、英語を聴く力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	
		英語総合2（A）	本講義は、「英語総合1(A)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合2(A)」では、英語を読む力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語総合2（B）	本講義は、「英語総合1(B)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合2(B)」では、英語を聴く力を補強することに重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることを目標とする。	
		英語総合3（A）	本講義は、「英語総合1(A)・2(A)」で培った基礎力に積み上げる形で、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合3(A)」では、英語を読む力に加え、英語を書く力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	
		英語総合3（B）	本講義は、「英語総合1(B)・2(B)」で培った基礎力に積み上げる形で、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合3(B)」では、英語を聴く力に加え、英語を話す力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	
		英語総合4（A）	本講義は、「英語総合3(A)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合4(A)」では、英語を読む力に加え、英語を書く力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	
		英語総合4（B）	本講義は、「英語総合3(B)」に引き続き、さらに英語基礎力の向上を図ることに加え、これまでに習得した英語の知識、能力の上に、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む・書く・聴く・話すのいわゆる英語4技能の総合的向上を図る。特に「英語総合4(B)」では、英語を聴く力に加え、英語を話す力の養成にも重点を置き、異文化を理解するために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、講義の予復習や課題の演習を通して自律的な学習態度を身につけることに加え、専門科目での学習につなげることも目標にする。	
		英語セミナーA1	本講義では、TOEIC演習を中心に、日常生活に関するさまざまな情報を英語で収集できる総合的な英語の受信能力の養成を目指す。TOEICはリスニングパート及びリーディングパートで様々な種類の課題が用意されており、総合的な英語の理解力を問う問題構成になっているため、バランスの取れた英語受信能力の強化が可能となる。TOEIC形式の練習問題を繰り返し行うことで、英語資格試験のレベルアップを果たすとともに、自身の英語力を客観的に把握し、継続的な英語学習につなげていくことを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーA2	本講義では、「英語セミナーA1」に引き続き、TOEIC演習を中心に、日常生活に関するさまざまな情報を英語で収集できる総合的な英語の受信能力の養成を目指す。TOEICはリスニングパート及びリーディングパートで様々な種類の課題が用意されており、総合的な英語の理解力を問う問題構成になっているため、バランスの取れた英語受信能力の強化が可能となる。TOEIC形式の練習問題を繰り返し行うことで、英語資格試験のレベルアップを果たすとともに、自身の英語力を客観的に把握し、継続的な英語学習につなげていくことを目標とする。	
		英語セミナーB1	本講義は、現代社会で起きている様々な出来事に関するニュース記事を通して時事英語を習得し、同時に時事問題の理解力を深めることを目指す。海外の新聞やインターネットの記事を読みこなすことによって、英語の文章を一文ごとに丁寧に理解するだけでなく、記事全体の構成なども意識して、文章全体の内容や書き手の意図などを把握することをこころがける。英語の語彙や文法の知識だけでなく、身の回りで起こっている出来事に対する幅広い意見や考え方をも理解することを目標とする。	
		英語セミナーB2	本講義は、「英語セミナーB1」に引き続き、現代社会で起きている様々な出来事に関するニュース記事を通して時事英語を習得し、同時に時事問題の理解力を深めることを目指す。海外の新聞やインターネットの記事を読みこなすことによって、英語の文章を一文ごとに丁寧に理解するだけでなく、記事全体の構成なども意識して、文章全体の内容や書き手の意図などを把握することをこころがける。英語の語彙や文法の知識だけでなく、身の回りで起こっている出来事に対する幅広い意見や考え方をも理解することを目標とする。	
		英語セミナーC1	本講義は、英語母語話者との実践的な会話練習により、海外旅行や留学の際に英語で意思疎通が図れるような基礎的な会話能力の養成を目指す。授業はすべて英語母語話者の教員が担当し、英語のみを使った講義により、日常生活で使える多数の英会話表現を習得する。また、英語を話すときに発音やイントネーションなどを過度に気にすることなく、自身がこれまでの英語学習で身につけた語彙や文法の知識を活用して、相手と積極的に意思疎通を図ろうとする姿勢を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーC2	本講義は、「英語セミナーＣ１」に引き続き、英語母語話者との実践的な会話練習により、海外旅行や留学の際に英語で意思疎通が図れるような基礎的な会話能力の養成を目指す。授業はすべて英語母語話者の教員が担当し、英語のみを使った講義により、日常生活で使える多数の英会話表現を習得する。また、英語を話すときに発音やイントネーションなどを過度に気にすることなく、自身がこれまでの英語学習で身につけた語彙や文法の知識を活用して、相手と積極的に意思疎通を図ろうとする姿勢を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーD1	本講義では、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーD2	本講義では、「英語セミナーD1」に引き続き、英語で書かれた小説や詩を鑑賞することにより、文学作品の背景にある歴史や文化を学びながら、総合的な英語の読解力を高めることを目指す。これまでに慣れ親しんできた教科書の英語とは異なるスタイルの英文を読むことによって、教科書向けに薄められていない生きた英語に触れ、知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を養うことができる。また、単なる文章の訳読ではなく、物語のあらすじや登場人物の感情などを理解し、さらにそれを自分自身の感想として英語で表明できるようになることを目標とする。	
		英語セミナーE1	本講義では、映画や音楽の視聴を通して、英語母語話者の自然なスピードの発話を聞き取ることのできる高度なリスニング能力の養成を目指す。映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、ジャズやポップスなどの歌詞を通じて、英語に親しみ、その文化的背景も確認しながら、英語らしい自然な表現を習得するための基礎を身につける。また、学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。	
		英語セミナーE2	本講義では、「英語セミナーE1」に引き続き、映画や音楽の視聴を通して、英語母語話者の自然なスピードの発話を聞き取ることのできる高度なリスニング能力の養成を目指す。映画・ミュージカル・ドラマなどの台詞や、ジャズやポップスなどの歌詞を通じて、英語に親しみ、その文化的背景も確認しながら、英語らしい自然な表現を習得するための基礎を身につける。また、学んださまざまな英語表現を実際に使用してみることで、英語の総合的な運用能力を向上させることを目標とする。	
		英語セミナーF1	本講義では、教員によるきめ細かな添削指導によって、基礎的な英文法をしっかりと身につけ、文法的に正しく、英語らしい文を書く力の養成を目指す。特に日本語を母語とする学生が間違えやすい英文法に焦点を当て、日本人が英語らしからぬ英文を書いてしまう原因を追求する。学生が日本語と英語の文法的な共通点と相違点を理解することで、日本語とは異なる英語的な発想に気づき、英語のルールにしたがった英語らしい文が書けるようになることを目標とする。	
		英語セミナーF2	本講義では、「英語セミナーF1」に引き続き、教員によるきめ細かな添削指導によって、基礎的な英文法をしっかりと身につけ、文法的に正しく、英語らしい文を書く力の養成を目指す。特に日本語を母語とする学生が間違えやすい英文法に焦点を当て、日本人が英語らしからぬ英文を書いてしまう原因を追求する。学生が日本語と英語の文法的な共通点と相違点を理解することで、日本語とは異なる英語的な発想に気づき、英語のルールにしたがった英語らしい文が書けるようになることを目標とする。	
		英語セミナーG1	本講義では、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーG2	本講義では、「英語セミナーG1」に引き続き、TOEFLやIELTSの演習を中心に、英語圏への留学の準備となるような総合的な英語運用能力の養成を目指す。将来、海外留学を希望する学生に対し、留学前に必要な資格試験の対策や留学後に必要な英語運用能力の向上をサポートする機会を提供する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのバランスのとれたアクティビティをグループや個人で行い、留学先で実際に英語で授業を受ける際に必要な能力、すなわち、英語で意見を述べたり、知的な質問をしたり、答えたりする力を身につけることを目標とする。	
		英語セミナーH1	本講義では、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	
		英語セミナーH2	本講義では、「英語セミナーH1」に引き続き、日常生活のさまざまな問題について英語で議論を行い、自身の意見を英語で発信できる高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。授業は英語母語話者の教員が担当し、すべて英語でオーガナイズされたグループワークやペアワークを行う中で、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべての能力を向上させる機会を得ることができる。これらの知的活動を通して、学生が将来のキャリアや研究、留学のために英語を使用するのに十分な自信を持つとともに、物事を批判的に考えるスキルを身に付けることを目標とする。	
		英語セミナーI1	本講義は、音声学に基づく実践的な発音練習によって、英語の音声的な特徴を理解し、英語らしい発音を身につけることを目指す。英語を構成する一つ一つの音について、英語母語話者による発音を聞き、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）などの音声学的な解説と発音実践を通して、自然な英語音声を身につける機会とする。また、音節やアクセント、イントネーションのパターンを学び、「英語らしい音」につながる基本的な概念を理解することを目標とする。	
		英語セミナーI2	本講義は、「英語セミナーI1」に引き続き、音声学に基づく実践的な発音練習によって、英語の音声的な特徴を理解し、英語らしい発音を身につけることを目指す。英語を構成する一つ一つの音について、英語母語話者による発音を聞き、その中に含まれる母音・子音およびプロソディ（韻律的要素）などの音声学的な解説と発音実践を通じて、自然な英語音声を身につける機会とする。また、音節やアクセント、イントネーションのパターンを学び、「英語らしい音」につながる基本的な概念を理解することを目標とする。	
		英語セミナーJ1	本講義では、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできるよう高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ1」では、英語には英語の文章の書き方が存在することを理解し、物語、対比、比較、原因、結果など、さまざまなスタイルの段落の書き方を学習する。また、実際に英語でパラグラフを書く練習を通してアイデアと議論の構造、スタイル、明確な表現などを習得することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	英語セミナーJ2	本講義では、「英語セミナーJ1」に引き続き、目的に応じてさまざまな種類のパラグラフを書いたり、英語でレポートやエッセイが書くことのできる高度なライティング能力の養成を目指す。「英語セミナーJ2」では、エッセイライティングを中心としたある程度まとまった英語の文章作成能力の向上に重点を置き、実際に300 words程度の英文エッセイを書く練習をすることで、英語における文章の論理展開や段落構成を学び、自身の考えや意見を英語で簡明に表現する技法を習得することを目標とする。	
		英語資格試験セミナー	本講義は、ＴＯＥＦＬ iBT受験の学習を通して、四技能における英語活用能力を向上させる。さらに、講座終了後も、自主学習ができるよう学習方法を学ぶ。 授業では、Listening と Reading を中心に四分野全てを取り扱い、テスト受験準備の導入と基本的な英語運用能力の育成を主な目的とする。毎回の授業では、教科書とプリント教材を使用して、テスト受験に必要なスキルを問題の種類別に基本的なものから紹介し、それらを時間の許す限り反復練習する。ＴＯＥＦＬ iBT受験の学習を通して、四技能における英語活用能力を向上させる。さらに、講座終了後も、自主学習ができるよう学習方法を学ぶ。	集中
		海外英語研修	本講義は、英語力に自信のない低年次生向けに海外の協定大学（オーストラリアカトリック大学またはハワイ大学マノア校）で3週間の語学研修を行い、短期間で効率よく英語力を向上させることを目指す。日本での事前研修の後、現地での少人数の英会話授業で実践的な語学力を養い、また渡航先の歴史や文化について英語で講義を受けて学ぶ。帰国後には英語でレポートを書き、研修の成果を振り返る。一連の研修を通して、言語に対する理解を深め、海外の文化や社会について主体的に考察することができるようになることで、将来の海外留学や継続的な英語学習につなげることを目標とする。	集中
		ドイツ語Ⅰ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		ドイツ語Ⅱ	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにする。初歩的な文法事項についての学習を一通り終わらせる。 自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		ドイツ語ⅢA	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢAでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		ドイツ語ⅢB	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢBでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		ドイツ語ⅢC	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢCでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ドイツ語ⅢD	本講義では、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで培ったドイツ語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。ドイツ語ⅢDでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		フランス語Ⅰ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得します。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		フランス語Ⅱ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得します。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		フランス語ⅢA	本講義では、フランス語を集中的に学習することにより、フランス語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		フランス語ⅢB	本講義では、フランス語を集中的に学習することにより、フランス語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		フランス語ⅢC	本講義では、フランス語を集中的に学習することにより、フランス語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		フランス語ⅢD	本講義では、フランス語を集中的に学習することにより、フランス語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		中国語Ⅰ	本講義では、“ピンイン”による発音の基礎を習得し、初級文法事項を学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		中国語Ⅱ	本講義では、“ピンイン”による発音と初級文法の基礎を固めながら、初歩的なコミュニケーション能力を養成する。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		中国語ⅢA	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢＡでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		中国語ⅢB	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢＢでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	中国語ⅢC	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢＣでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		中国語ⅢD	本講義では、中国語Ⅰ・Ⅱで培った中国語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上をめざす。中国語ⅢＤでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		スペイン語Ⅰ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		スペイン語Ⅱ	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的な表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにします。初歩的な文法事項についての学習を一通りすませる。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		スペイン語ⅢA	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢＡでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		スペイン語ⅢB	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢＢでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		スペイン語ⅢC	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢＣでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		スペイン語ⅢD	本講義では、スペイン語Ⅰ・Ⅱで培ったスペイン語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。スペイン語ⅢＤでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		コリア語Ⅰ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		コリア語Ⅱ	本講義では、正確な発音の習得に努めるとともに、話しことばを中心に基本的表現を習得する。また、書きことばについても注意を向けるようにする。初歩的な文法事項についての学習を一通りすませる。自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	コリア語ⅢA	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＡでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		コリア語ⅢB	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＢでは、特に「読む」「書く」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		コリア語ⅢC	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＣでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		コリア語ⅢD	本講義では、コリア語Ⅰ・Ⅱで培ったコリア語運用能力（聞く・話す・読む・書く）のさらなる向上を目指す。コリア語ⅢＤでは、特に「聞く」「話す」という側面に重点を置いて学習する。自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーＩＡ	本講義では、メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを精読しながら、ドイツ語の原文を味わう。基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩＢ	本講義では、メルヘン、詩、エッセイ、短編小説、ジョーク／コント、メディアのアクチュアルな記事などのドイツ語テキストを精読しながら、ドイツ語の原文を味わう。基本文法を復習しながら、さらに中級レベルの文法を学んでいく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩＣ	本講義では、ドイツ語圏についての基礎的な知識を学ぶ。ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。ドイツ語運用能力の習得が講義の中心である。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーＩＤ	本講義では、ドイツ語圏についての基礎的な知識を学ぶ。ドイツの日常生活における会話の基本文例を学び、様々なシチュエーションに応用できるようにする。ドイツ語運用能力の習得が講義の中心である。様々な会話練習によって会話能力を高めるとともにドイツに関する情報をも学べるようにする。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		ドイツ語セミナーⅡA	本講義では、平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ドイツ語セミナーⅡB	本講義では、平易なドイツ語の文章を正確に読むことを通じ、初級で習得した知識を使えるものにする。テクストを論理的に捉え、正しく理解する力を養成する。どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できるレベルを目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーⅡC	本講義では、日常生活、学生生活におけるさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語セミナーⅡD	本講義では、日常生活、学生生活におけるさまざまな場面で用いられるドイツ語表現を学ぶ。また、アクチュアルなテーマについてドイツ語でディスカッションできる、ドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指す。 基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	本講義では、発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	本講義では、話し言葉を中心に基本的表現を習得する。この過程を通して初歩的な文法事項について学ぶ。「ドイツ語コミュニケーションⅠ」のつづきとなる。基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		フランス語セミナーＩA	本講義は、会話のセミナーである。口頭でやり取りする上で必要な二つの要素、すなわち「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけていくために考えられたセミナーである。フランス映画の動画を見て、聞き取りの練習を行う。また、このセミナーのために用意したテキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。このように、見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーＩB	本講義は、会話のセミナーである。口頭でやり取りする上で必要な二つの要素、すなわち「聞き取ること」と「様々な表現を理解すること」を身につけていくために考えられたセミナーである。フランス映画の動画を見て、聞き取りの練習を行う。また、このセミナーのために用意したテキスト（映画の登場人物の台詞等）・簡単なシナリオを読み、表現の勉強を行う。このように、見たり、聞いたり、読んだりする会話を、ロールプレイにより再現することにより口頭表現を身に付けていく。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーＩC	本講義では、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだフランス語の基礎をしっかり押さえながら、たのしく発展的な学習を行う。フランス語Ⅰ・Ⅱ（そしてⅢ）で学んだ基本的な文法知識や語彙・表現を土台にして、さらに総合的な言語運用能力を高めていくことを目標とする。映像、音声教材を活用して、フランス語で表現できることを少しずつ増やしていく。フランス語で表現できることを増やし。聴き取りの力や読解力を高めることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	フランス語セミナーＩＤ	本講義では、毎回、受講生一人ひとりが自由に作文を行う。テーマも長さも自由であり、各自のもっている辞書や教科書などを最大限に活用して、失敗をおそれずに、できるだけ豊かな内容の文章の作成を行っていただく。各回の授業では、まず、一人ひとりの作文の添削、読み方の確認などをした上で、それぞれの文章について受講生全員が日本語とフランス語を混ぜながら、簡単なディスカッションを行う。仏検受験や留学を考えている受講生には、作文以外にも、それぞれの目的にあった学習の仕方を適宜指導する。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーⅡＡ	本講義では、フランスの日刊紙Le Mondeの記事を読み、記事についてフランス語で簡単なディスカッションを行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーⅡＢ	本講義では、フランスの日刊紙Le Mondeの記事を読み、記事についてフランス語で簡単なディスカッションを行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーⅡＣ	本講義では、フランスの日刊紙Le Mondeの記事を読み、記事についてフランス語で簡単なディスカッションを行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語セミナーⅡＤ	本講義では、フランスの日刊紙Le Mondeの記事を読み、記事についてフランス語で簡単なディスカッションを行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		フランス語コミュニケーションⅠ	本講義で、初めてフランス語を学ぶ２年生以上の方、あるいは、もう一度フランス語を最初から学び直したい方々を対象に設定された、フランス語入門（あるいは再入門）コースである。授業名には「コミュニケーション」とあるが、限られた時間の中で効率よく外国語を習得する目的上、新たな外国語の学習に不可欠である基本語彙と基礎的な文法知識の獲得を中心にすえ、その応用としてフランス語で表現する練習を重ねていく。フランス語の初等文法の習得、簡単な日本語からフランス語への言い換えを目指すとともに、仏和辞典や問題集やテレビ・ラジオの語学講座を利用し、自らフランス語の勉強を続けていける基礎力を身につけることを目標とする。	
		フランス語コミュニケーションⅡ	本講義は、フランス語コミュニケーションⅠの「つづき」である。フランス語コミュニケーションⅠで使用した初学者向け教材の後半部（教科書『クロワッサン』の第７課以降）を中心にすすめ、初級文法の重要課題である複合過去時制を会話や読解において確実に使えるよう練習を継続する。授業名の「コミュニケーション」が表すように、教室ではフランス語で会話することに重きを置く。そして、同時に、フランス語の学習に不可欠な基礎的な文法項目と語彙の習得をも十分に意識し、応用力の高いフランス語の習得を目指す。	
		中国語セミナーＩＡ	本講義は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	中国語セミナーＩＢ	本講義は、「中国語Ｉ」「中国語Ⅱ」を履修済みの学生を対象とした科目である。発音と文法の基礎固めをしながら、会話を中心としたコミュニケーション能力の向上を目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーＩＣ	本講義は、読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼としている。ジャイアントパンダの故郷四川「大熊猫」、「逛拉萨」ラサ、江南の「游古镇」、首都北京の「颐和园观光」と「去文化街」、その他、酒文化や一人っ子、漢方医学と感冒薬など、様々な話題を設定し、実用性の高い会話を授業中で実践していく。本講義を通じて、会話と短文の両面での習熟を目指す。	
		中国語セミナーＩＤ	本講義は、読解力の裏付けのある会話能力の養成を主眼としている。ジャイアントパンダの故郷「四川菜、麻婆豆腐」、「共享单车」、首都北京の「琉璃「文化街」、そして「龙门石窟和武则天」、漢方医学と感冒薬なども、様々な話題を設定し、実用性の高い会話を授業中で実践していく。本講義を通じて、会話と短文の両面での習熟を目指す。	
		中国語セミナーⅡＡ	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーＩ」を履修済みの学生を対象とした科目である。さまざまなタイプの中国語の文章に触れることで、読解力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡＢ	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーＩ」を履修済みの学生を対象とした科目である。さまざまなタイプの中国語の文章に触れることで、読解力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡＣ	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーＩ」を履修済みの学生を対象とした科目である。読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語セミナーⅡＤ	本講義は、「中国語Ⅲ」あるいは「中国語セミナーＩ」を履修済みの学生を対象とした科目である。読解力の裏付けを元とした「聞く」「話す」能力の向上を目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		中国語コミュニケーションＩ	本講義は、中国語の入門講座である。「聞く」「読む」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。発音のピンイン、声調を習得し、文法の使い方も習う。また、日本語と中国語を比較して、両者の違いも明確にする。中国語の正しい発音をしっかりと身につけ、さらに単語だけでなく、短文を覚えることにより、簡単な自己紹介や自己表現ができるようになる。また実用性のある単語を用いて繰り返し練習し、簡単な会話もできるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	中国語コミュニケーションⅡ	本講義は、中国語コミュニケーションの後期の授業で、中国語の初級講座である。「聞く」「話す」「書く」という三つの基本的な方法で学ぶ。前期で習った単語や文法を生かし、さらに新たな内容も習得して、中国語の作文にチャレンジする。また、日中の言語の相違点も明確にして、理解を深める。文章を書くことだけでなく、日常的な会話ができるようになる。また、中国語検定準4級のレベルを身につけることができることを目指す。	
		スペイン語セミナーＩＡ	本講義では、スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。また、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができるになることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＢ	本講義では、スペイン語の基本文法をしっかり学び、平易なスペイン語で会話する能力とメールや手紙を書く能力を身に付ける。また、西和辞典を使いel mundoやABCなどのスペイン語新聞を読むことができるになることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＣ	本講義では、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーＩＤ	本講義では、スペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化に親しむとともに、他民族のものの考え方、生き方を理解していく。本講義を通じて、人間としての視野を広げ、他の人、他の民族をよりよく理解できる人間となり、彼らとのコミュニケーションを深める事により、自分自身が豊かになると同時に、社会に何らかの貢献ができる一助となることを目指す。言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡＡ	本講義は、すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、主に前半は直説法、後半は接続法を学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡＢ	本講義は、すでに得たスペイン語の基礎的な文法知識を復習するのに加えて、より複雑な新しい文法事項も学び、スペイン語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。文法事項では、主に前半は直説法、後半は接続法を学習する。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語セミナーⅡＣ	本講義では、これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」「話す」を中心とした授業を行い、スペイン語圏において日常生活の状況に即したやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	スペイン語セミナーⅡD	本講義では、これまでに学んだスペイン語の文法知識を土台とし、「聞く」「話す」を中心とした授業を行い、スペイン語圏において日常生活の状況に即したやりとりができる程度のスペイン語力の育成を目指す。また言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		スペイン語コミュニケーションⅠ	本講義では、スペイン語の初歩的な文法を学習し、基礎的な文法知識とコミュニケーション力を習得する。簡単な日常会話が可能なスペイン語力を獲得することを目指す。	
		スペイン語コミュニケーションⅡ	本講義では、『スペイン語コミュニケーションI』で習得したスペイン語の文法知識とコミュニケーション力をさらに高度なものにする。簡単な日常会話が可能なスペイン語力を獲得することを目指す。	
		コリア語セミナーＩＡ	本講義では、初級の文法運用と共に読み・聞き・話す・書きの総合的な文の運用能力や基礎会話を身につけることで、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。 会話を中心とした授業を行い、ハングル能力検定試験の3級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		コリア語セミナーＩB	本講義では、駅などの公共の場で見つけたハングル表記、韓国ドラマ・映画などで出る簡単な会話を覚える、学習した初級文法を使って場面別の会話練習を行うことにより、身近で経験できる韓国語体験や、韓国人との簡単なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。ハングル能力検定試験の4級程度の文法表現や語彙表現を覚えることを目標とする。	
		コリア語セミナーＩC	本講義では、初級授業を履修した学生を対象として、実用的なコリア語の読み、書き、聞き取り、会話等の総合的な技能を高めるとともに、コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で話ができるようにする、日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーＩD	本講義では、初級授業を履修した学生を対象として、実用的なコリア語の読み、書き、聞き取り、会話等の総合的な技能を高めるとともに、コリア語という言語を通して異文化、自文化について考える機会とする。日常の様々な場面を想定し、与えられた主題についてコリア語で話ができるようにする、 日韓の文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅡA	本講義は、声に出してリズム良く「読む」事と、辞書を手がかりに自分が言いたいことを「書く」という側面に重点を置いて学習する。コリア語を少しハードに、集中的に学習したい学生のための授業である。コリア語を集中的に学習することにより、コリア語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	
		コリア語セミナーⅡB	本講義は、声に出してリズム良く「読む」事と、辞書を手がかりに自分が言いたいことを「書く」という側面に重点を置いて学習する。コリア語を少しハードに、集中的に学習したい学生のための授業である。コリア語を集中的に学習することにより、コリア語運用能力を実用のレベルまで高めることを目指す。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	コリア語セミナーⅡC	本講義では、コリア語を通じて情報を受信する練習を行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		コリア語セミナーⅡD	本講義では、コリア語を通じて情報を受信する練習を行う。基本的な文法事項に習熟した上で、自律的に学習を進めることができる。その上で、学習した内容を用いて積極的にコミュニケーションをはかることができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	
		コリア語コミュニケーションⅠ	本講義では、文字の発音と基本的な音韻規則について学び、正確に発音できることに重点を置く。次に、授業計画に沿った各文法事項の理解度をテキストの＜練習＞問題を通じてその都度確認することで文法知識の確実な定着を図る。また、テキストの＜実践会話＞を用いた対話練習などを通じて実践へと繋げていく。さらに、ハングルで自分だけの名刺を作成するなど、テキスト内のアイテムをフルに活用しながら楽しくコリア語学習を進めていく。 簡単な挨拶と自己紹介ができる、基礎語彙を使ったごく簡単な日常会話ができることを目標とする。	
		コリア語コミュニケーションⅡ	本講義では、特に「話す」力に重点を置き、テキスト内の基本的な語彙、文型を確認しつつ、音声資料や教師の発音に倣ってペア、またはグループで対話練習をすることで、より高度なコミュニケーション能力を養うための土台をつくる。また、テキスト内の文法・会話項目だけでなく、必要に応じて韓国・朝鮮の文化、ニュース等も取り上げる。 文字を見ないで疑問、否定、過去、尊敬などの文を組み立てることができる、基本的な会話がスムーズにできるようになることを目標とする。	
		海外中国語研修講座	本講義は、上海師範大学の講師による中国語の授業を中国語で受講するプログラムであり、全て中国語で行われる。到達目標として、言語に対する理解を深め、自律的に学習することができる。また、文化や社会について主体的に考察することができることを目指す。	集中
		ポルトガル語Ⅰ	本講義では、はじめてポルトガル語を学ぶ学生を対象に、やさしい会話の教材を用いて、ごく初歩的な単語や表現を学ぶ。何よりもブラジルの言葉と文化に親しむことを第一目標として、言葉だけでなく、歴史や文化に関する事柄にも目を向ける。ことばの学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。到達目標として、基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		ポルトガル語Ⅱ	本講義では、前期で学んだことを復習しながら、さらに基本的な会話表現を学ぶ。ブラジルの言葉と文化に親しむことを第一の目標とする。そのため、言葉の学習の合間に、歴史や文化に関する事柄を取り上げ、資料にもとづいて解説する。授業はブラジル中心に進めるが、さらに広い視野からポルトガル語を学べるよう、適宜、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		ポルトガル語ⅢA	本講義では、「ポルトガル語Ⅰ」、または「ポルトガル語Ⅱ」から継続して受講する学生や、以前に学んだことのある学生を対象として、上記科目で学んだ基礎項目や会話文を練習問題のプリントを使用し、同じテキストの未習項目を継続して学ぶ。会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ポルトガル語ⅢB	本講義では、「ポルトガル語ⅢＡ」から継続して、同じテキストの未習項目を学ぶ。表現力を高めるうえで欠かせない完了形や未来形、受動態、さらに接続法の使い方を習得するよう努める。会話表現のみならず、文法をきちんと押さえながら学ぶことによって、「聞いて話す力」と「読んで書く力」を養う。授業はブラジルを中心に進めて行くが、ポルトガルの大航海時代や日本の南蛮貿易、キリシタン史などの興味深いエピソードにも触れる。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ロシア語Ⅰ	本講義では、ロシア語の基礎文法と簡単な会話を学ぶ。ロシア語だけでなく、魅力たっぷりのロシア文化やロシア社会についても映像資料も使用して紹介していく。到達目標として、基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができることを目指す。	
		ロシア語Ⅱ	本講義では、ロシア語の基礎文法と簡単な会話を学ぶ。この授業ではロシア語だけでなく、魅力たっぷりのロシア文化やロシア社会についても映像資料も使用して紹介していく。到達目標として、自分にとって身近な事柄について、基本的な語句や表現を組み立ててやりとりをすることができることを目指す。	
		ロシア語ⅢA	本講義では、すでに学習したロシア語Ⅰ、Ⅱを基礎にロシア語の会話力をつける。ロシア語の発音練習を通じて、修飾語の表現、単文及び複文における目的や理由の表現、一致・不一致定語、動詞の支配等を学修する。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ロシア語ⅢB	本講義では、すでに学習したロシア語Ⅰ、Ⅱを基礎にロシア語の会話力をつける。ロシア語の発音練習を通じて、修飾語の表現、単文及び複文における目的や理由の表現、一致・不一致定語、動詞の支配等を学修する。到達目標として、自分にとって身近な事柄や関心のある事柄について、やりとりをすることができる。単純な方法で結びつけられた、脈絡あるテクストを作ったり理解することができることを目指す。	
		ラテン語Ⅰ	ラテン語を使って残された学術文書は膨大である。歴史、法律、文学、哲学、宗教、言語、美学等の分野はもちろん、数学、音楽、天文学、生物学、物理学など、われわれが現在学習するあらゆる学問分野において、その基盤となっているラテン語の文書は数多くある。こうした文書を直接読みこなすためには、多年にわたる学習を必要とする。本講義では、そのための第一歩となるような講義を行う。到達目標として、簡単なラテン語文を読めるようになることを目指す。	
		ラテン語Ⅱ	ラテン語を使って残された学術文書は膨大である。歴史、法律、文学、哲学、宗教、言語、美学等の分野はもちろん、数学、音楽、天文学、生物学、物理学など、われわれが現在学習するあらゆる学問分野において、その基盤となっているラテン語の文書は数多くある。こうした文書を直接読みこなすためには、多年にわたる学習を必要とする。本講義では、そのための第一歩となるような講義を行う。到達目標として、辞書を引いて、ラテン語の文章を読めるようになることを目指す。	
		ギリシア語Ⅰ	本講義では、古典ギリシア語の基礎から出発し、最終的には簡単な文献であれば独力で読めることを目指す。	
		ギリシア語Ⅱ	古典ギリシア語の基礎から出発し、最終的には簡単な文献であれば独力で読めるくらいになるまでを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目	ペルシア語ＩＡ	本講義では語学セミナーとして、ペルシア語の基礎を、文字、発音、基礎文法、あいさつにわたって初心者にもわかりやすく一から練習を行う。また、文法を動詞の過去形、現在形の活用まで時間をかけて段階的に学ぶ。同時に日常会話を、あいさつから自己紹介、時間表現、旅行での表現などシチュエーションに分けて無理なく練習する。授業の一環として、イラン音楽文化、生活や社会文化の紹介も行う。ペルシア文字を覚えること、基礎文法を現在形まで理解すること、イランの文化・社会の基礎的特色を理解することを目標とする。	
		ペルシア語ＩＢ	本講義は語学セミナーとして、ペルシア語の基礎を、文字、発音、基礎文法、あいさつにわたって初心者にもわかりやすく一から練習を行う。また、文法を動詞の過去形、現在形の活用まで時間をかけて段階的に学ぶ。同時に日常会話を、あいさつから自己紹介、時間表現、旅行での表現などシチュエーションに分けて無理なく練習する。授業の一環として、イランの生活や社会文化の紹介も行う。ペルシア文字を覚えること、基礎文法を現在形まで理解すること、ペルシア語圏の文化・社会の基礎的特色を理解することを目標とする。	
		ペルシア語ⅡＡ	本講義では、ペルシア語セミナーIA・IBに続いて、イランなどの国語であり、シルクロードとイスラーム世界の主要言語のひとつであるペルシア語を、ネーティヴ教員による会話の練習を中心に学ぶ。ペルシア語セミナーIA・IBで学んだ基礎文法を基に、イラン現地で実際に少しでも話せることを目標に、日常生活や旅行の場面に分けて練習する。その過程で、ペルシア語に多い慣用表現を学ぶ。ペルシア語の基礎文法を理解すること、必要最小限のボキャブラリーを身につけること、イラン人とコミュニケーションしたり、イランに旅行などで滞在した際に必要最低限のペルシア語表現ができること、ペルシア語の簡単な散文や詩を読み、アート面での豊かさを理解することを目標とする。	
		ペルシア語ⅡＢ	本講義では、ペルシア語セミナーIA・IBに続いて、イランなどの国語であり、シルクロードとイスラーム世界の主要言語のひとつであるペルシア語を、基礎文法と文章講読にわたって学ぶ。文法はペルシア語セミナーＩA・IBで学んだ内容の復習からはじめ、複合動詞、関係詞、仮定法などを学んでいく。これを終わらせた後、ペルシア語のアート面の豊かさ、音韻の美しさなどを理解するため、簡単な文章の講読を行う。これらの学習を通じて、ペルシア語の総合能力を培う。ペルシア語の基礎文法を理解すること、必要最小限のボキャブラリーを身につけること、ペルシア語の簡単な散文や詩を読み、アート面での豊かさを理解することを目標とする。	
		トルコ語Ⅰ	本講義では、トルコ共和国を中心に、世界に6000万人以上の話者がいるとされる現代トルコ語の基礎を学ぶ。実際にトルコ共和国に旅行する際、あるいは日本でトルコ人と出会った際に使える、実用的なトルコ語知識を提供する。同時に、日本人には未だ馴染みの薄いトルコ共和国、あるいはトルコ人に関する情報を、様々な写真・動画・音楽なども交えながら紹介する。 トルコ共和国を旅行する際に有用な会話表現の習得、街の看板やレストランのメニュー、各種施設の案内板やパンフレットなどを最低限理解するための読解能力の獲得により、高度な文法を独学するための土台となる基礎的な文法知識の確立を目指す。	
		トルコ語Ⅱ	本講義は、トルコ語Ⅰの履修者を対象に、現代トルコ語の初級会話能力、及び文章読解能力を提供する。まず、トルコ語Ⅰでは扱いきれなかった文法事項を確認した後に、会話練習と様々な種類の文章の講読を行う。トルコ語の文法を網羅的に理解する、トルコ人との簡単な日常会話を行う能力を習得する、ある程度長い文章の読解能力を身に付ける、トルコ語の辞書の扱いに慣れることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	言語科目		アラビア語Ⅰ	アラビア語は、中東と北アフリカで広く使われている言語であるとともに、イスラームという宗教の言語でもある。本講義では、アラビア語学習の基礎として、会話表現と初級文法、そして簡単な文章の読み方について説明する。アラビア文字の表記と発音の仕方を覚え、母音記号の振ってある文の読み書きができるようになること、簡単な会話表現を身につけながら初級文法の基礎を理解できるようになることを目標とする。	
			アラビア語Ⅱ	アラビア語は、中東と北アフリカで広く使われている言語であるとともに、イスラームという宗教の言語でもある。本講義では、アラビア語学習の基礎として、会話表現と初級文法、そして簡単な文章の読み方について説明する。会話表現を例としながらアラビア語の初級文法を身につけること、辞書の使い方を覚えアラビア語の簡単な文章が読めるようになることを目標とする。	
			日本語	本講義では、主として1・2年生の留学生を対象として、「日本語によるアカデミックなコミュニケーション活動に主体的に参加することができるようになること」、「社会的、文化的な事柄に対して多角的な見方ができ、協働作業や異文化間における仲介者として行動できるようになること」を到達目標とする。特に専門課程で、学習を円滑に始められるレベルの日本語能力を身につけられるよう、留学生のニーズに基づいた課題を用意し、基本的なスタディ・スキル（学習技術）を身につける活動を扱う。	
	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	本講義では、哲学が長らく対象としてきた「私とは何か」ではなく、自分についての「語り」であり、またその語りを限界づける「他者」の構造に特に注目する。私たちは誰もが、他者を巻き込まずして自分を物語ることなど不可能だということ、人は他者なしには生きられない、その「愛と暴力」の構造について、古今の哲学者や文学者、心理学者や歴史家たちの理論やテキストをふまえつつ、深く執拗に考察する。本講義を通じて、告白や自伝という語りの制度の（おもにヨーロッパ的な）変遷を知ること、告白が持つ暴力姓を多角的に考察できる知見を身につけることを目標とする。	
			哲学A	本講義では、人間的な「自由」、その行為者である「自己」、それに関わる「世界」といった問題を、古代ギリシアに始まる西洋哲学の歴史を概観しつつ考察していく。本講義を通じて、哲学という学問領域の特徴、その独自性を理解する、人間の諸問題に対する様々な哲学的立場や主張を学びその意義を理解する、また、これらの理解を基に自分の考察を明確に論証的に述べることが可能になることを目標とする。	
			哲学B	本講義では紀元前から１７世紀に至る西洋哲学、とくに「世界や自然とは何か？」という問いを巡る自然哲学について講義を行う。つまり、哲学と科学(自然に関する学)とが混然一体となった西洋の自然哲学について解説する。この自然哲学の思想の変遷と共に、各時代の「世界観」ないし「自然観」が変化する様を理解しながら、現在の「世界観」や「自然観」について、それがどのようなものなのかについて考える。また、西洋の自然哲学は、「世界」や「自然」を論ずるとき、同時に、その「世界」・「自然」の中で生きる「人間」、そして「人間の知識・認識」についても論ずる。この点も講義で取り扱う。以上の内容を踏まえて、本講義では21世紀に生きる、われわれの「世界観」・「自然観」について問い直すことはもちろん、世界や自然に対する、われわれの態度が、どのようにあるべきか、この問いについて深く考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	倫理学入門	本講義では、異質なものを排除するこの「正常であるべし」という発想がいかに発明され、いかに拡散していったかという歴史的な過程を論じる。また、20世紀前半を席巻した――そして21世紀においても、その外見や構造を変化させながらも、益々洗練された仕方で浸透しつつある――いわゆる優生学(eugenics)を中心に現代史・現代思想史をふりかえることで、「ふつうで自然なプロセス」が抱える問題点を明確にする。現代人の「死生観」を構成している歴史状況や科学技術、公共政策、教育制度、メディア・ネットワークなどについて、大まかな見通しを得ること、また、その上で人や動物の生き死について考え、判断するさいに必要な視点を養うことを目標とする。	
			倫理学A	環境汚染や気候変動によって大きな影響を受けるのは、生態系や社会のなかで最も弱い立場にある生物でありひとである。誰が最も環境汚染や気候変動の被害を受けやすいかという観点に立ったアプローチは、社会のなかの不公正な構造を浮き彫りにし、私たち自身の生活のあり方を問うものでもある。持続可能な社会の可能性を探ることは、これから私たちがどのような未来を選択するのかを自らに問いかけることであり、どのひとも取りこぼさない社会を構想することである。本講義では、持続可能性の視点から環境倫理を学び、具体的な事例を手掛かりに倫理的な課題について考察する。本講義を通じて、環境倫理の議論で用いられる概念と理論を学び、環境問題を分析する視点を理解すること、尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができることを目標とする。	
			倫理学B	本講義では、倫理学とは何か、倫理的問題についてどのように考えるべきなのか、現代の倫理学の理論にはどのようなものがあるのか、といったテーマについて概観する。倫理学の諸理論（功利主義・義務論・徳倫理学・ケアの倫理など）を学ぶことで、様々な倫理的問題のとらえ方を身につける。また、フェミニズムと倫理、ジェンダー論と倫理、現代の倫理思想における「性的差異と共生」について考察する。本講義を通じて、倫理学の諸理論を学ぶことで、倫理学的なものの考え方を知ること、様々な倫理的問題のとらえ方を身につけること、様々な倫理的問題の解決策を深く考えることを目標とする。	
			クリティカル・シンキング	大学での学びでは、単に講義内容を理解しておぼえるだけでなく、問題を批判的に考え、探求していくことが大切である。そのために必要となるのが、論理的・批判的な思考力「クリティカルシンキング」である。本講義では、論理的に分析する方法や、その内容を批判的に考えるための方法を学ぶ。具体的な素材を使って演習形式で訓練しながら、論理的・批判的に読み・考え・議論するためのスキルを身につける。	
			論理学	本講義では、伝統的論理学の基礎的な項目の習得を通じて、理性的思考の基礎体力としての論理の意義を論じる。論理には、我々を縛る堅苦しい枠という一般的なイメージが付きまとう。しかし、論理本来の姿とは、個人の偏見や社会の常識といった枠組みを離れ、自由な思考を通じてそれを克服していく創造的な能力なのである。論理学という学問の特徴、その意義を理解し、基本的な知識を習得する。また、対象を論理的な問題として捉えなおし、論理的に解決する実践的な力を獲得する。	
			宗教学入門	本科目の目的は、神学（教学）・宗教哲学・実証的宗教（諸）学それぞれにおける宗教事象への問いかけの意義を知ることで、宗教に対する学問的アプローチの基本的事項を学ぶことである。またそれと同時に、世界中の宗教現象を広く扱い、諸文化における宗教の役割や宗教の文化的差異などを学ぶことを通じて、現代における宗教の意義について考察する。はたして宗教は人間にとって必要なのか。非科学的な宗教を信じるなんて、どうかしているのではないか。宗教的な存在、例えば神は、存在するのか。世界にはどのような宗教があるのか。宗教と政治はどのような関係にあるべきなのか。メディアを賑わせている宗教紛争はいったいなぜ起こっているのか。そもそも宗教とは何なのか。――本講義では、こういった問題について、具体的な事例もふまえながら考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	宗教の世界A	本科目の目的は、日本における諸宗教のあり方や人々の宗教意識を考えるなかで、様々な宗教的世界観などについての基本的なことがらを学ぶことである（ただし、本学では他で学ぶ機会の多い仏教については、本科目では基本的に扱わない）。日本語の「宗教」という語には、キリスト教や仏教をはじめとする創唱宗教しか含めず、習慣や風習となっている宗教心の発露（自然宗教）が排除される傾向がある。この屈折の背景には複雑な歴史的経緯が絡んでいるのだが、そこに現代日本のさまざまな病理が潜んでいるのである。本科目では、現代の日本人が一般的に持っている「宗教」観を批判的に考察し、その歴史的由来を問い尋ねることによって、錯綜した「宗教」意識の問題点を浮かび上がらせ、「宗教」への偏見を取り除くことを目指す。	
			宗教の世界B	本科目の目的は、世界における諸宗教のあり方や人々の宗教意識を考えるなかで、様々な宗教的世界観などについての基本的なことがらを学ぶことである（ただし、本学では他で学ぶ機会の多い仏教については、本科目では基本的に扱わない）。現代世界においては宗教が再びプレゼンスを高めており、どんな社会問題を理解する際も、宗教的な側面についての知識は欠かせない。しかし、高校までは宗教を学ぶ機会がほとんどなく、学生は偏見に満ちていることが多い。本科目では、そうした偏見を取り除き、宗教についての客観的な知識を身につけることを目指す。	
			中国の思想A	本講義では、中学校・高校の国語の授業で触れてきたであろう「論語」について、改めて考察する。『論語』は、前近代中国の学術の根幹を成す書物であり、それゆえに前近代日本でも学術の根幹となり、広く読まれて来た。 『論語』には何が書いてあるのか、本講義では幾つかの章を精読することで、それについて考える。これにより、「古典」の持つ意味について自分なりの見解を持つことをめざす。	
			中国の思想B	あらゆる「知」は書物によって伝えられる。つまり、世の中には無数の書物が存在する。無数にあるがゆえ、「分類」が重要となる。数多ある書物を分類することによって「知」は体系化される、と言ってよいかも知れない。 本講義を通じて、前近代中国の図書分類である「四部分類」の誕生過程を追い、その分類が現代日本に及ぼす影響を考察することにより、「図書分類」について自分なりの見解を持つことを目指す。	
			芸術の世界A	芸術のジャンルを一つ、あるいは複数選び、古典的な芸術作品の鑑賞を通じて、音楽、美術、あるいは映像芸術について基礎的な理解と観賞能力を養う。成長社会から成熟社会へのグローバルな変化の中で、芸術を通して人間そのものの複雑さに対する理解を深め、社会人としての豊かな感性と知力を持てるようになることを目標とする。	
			芸術の世界B	芸術のジャンルを一つ、あるいは複数選び、最近の動向、あるいは現代の新傾向を紹介しながら、音楽、美術あるいは映像芸術について基礎的な理解と観賞能力を養う。成長社会から成熟社会へのグローバルな変化の中で、芸術を通して人間そのものの複雑さに対する理解を深め、社会人としての豊かな感性と知力を持てるようになることを目標とする。	
			日本の文学A	前半では、古今東西のさまざまな文学論・文学作品を参照しつつ、「文学」とは何かについて概観する。文学の枠組みは、時代や場所によって変わるが、文学を成り立たせる根本の構成要素は変わらないことを理解する。後半では、日本文学の代表的なテクストを精読していく。従来の定説に安住せず、作家の実存、時代状況、テクスト構造などに注目することで、新しい読みの地平を拓いていく。そのことを通して、私たちがどこから来て、何者で、どこへ向かおうとしているかを歴史的に問い直し、大学人としての教養を身につけることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	日本の文学B	本講義では、「文学」を散文・韻文（物語・小説・和歌など）に限定せず、映像などを含めたハイブリッドなものとして捉え、私たちの身近にあるものを分析対象とする。たとえば、私たちの日常は、情報や広告であふれている。現代の広告の原点である江戸時代の広告を確認し、各年代のポスター・看板・コマーシャルなどを、それが作成された当時や社会を知る資料として位置づける。コマーシャルやキャッチコピーなどを、たんなる商品・消耗品としてではなく、時代や社会を表わす文学資料として扱えるようになることを目的とする。	
			日本の文学C	本講義では、文学とナショナリズムの関係を吟味する。ナショナリズムは国民国家の成立と深く関係している。いっぽう個人の実存に結びつく近代文学も、国民国家の成立と深く関係している。つまり、文学とナショナリズムは、国民国家が生み出した双生児と捉えることができる。両者の関係がもっともホットになる、①明治初年代、②昭和10年代、③現代、に時期を区分し、具体的な作家やテクストを吟味するとともに、ナショナリズムに対する免疫を身につけることを目指す。	
			アジアの文学A	アジア各地には多様な文学作品が存在するが、わけても中国とインドの文学は、本国だけでなく周辺諸国に広く伝わった。それらの物語は現代に至るまで、時代のニーズに合わせてたびたび翻案（リライト）されてきた。その意味で、単なる文学作品ではなく、大きな「文学伝統」を形成していると言える。また、世界宗教の一つである仏教の文学もアジア全域に波及し、各国語の説話や芸能の形で親しまれている。本講義では、この三領域の代表的な作品の魅力を、やさしい日本語訳に親しみながら理解することをめざす。ただし、単に作品のあらすじや名場面をなぞるのではなく、それらの物語がアジア各地の社会・文化に及ぼした影響を多面的に把握することを重視する。アジアに広く伝播した主要な文学の内容・特色を理解し、文学がアジア各地で果たしてきた社会的・文化的役割を理解することを目指す。	
			アジアの文学B	19世紀以降にアジアの諸国・諸地域で生まれた近現代文学を、二つの視点から考察する。第一の視点は、文学作品が、その地に暮らす人々の感性や考え方、習俗といった文化的特質を、多かれ少なかれ反映していることを踏まえ、文学作品から抜粋したテキストを味読することで、各国・各地域の文化を感じ取る。第二の視点は、これらの文学の多くが、アジアの近代化という大きな社会的変化に呼応する形で書かれ、人々に受容されてきたということを踏まえ、地域ごとに異なる近代化のプロセスにも目を向け、「なぜこの時、この作品が生まれたか」を考察する。この二つの視点を意識して読むことで、アジアの近現代文学が、現実の文化・社会と様々に関わりつつ発展してきたことの理解を深める。授業で取り上げる近現代アジアの主要な文学作品について、その内容・特色を理解し、授業で取り上げる諸作品と、各国・各地域の文化的特質や近代化の過程との関わりを理解することを目指す。	
			西洋の文学A	本講義では、「西洋」とはなにか、「文学」とはなにか、文学にあらわれた西洋的なものとは何か、といった問いを（そもそもこうした問いが成り立ちうるのかも含め）、考えてみると同時に、文学作品に対してどのような理論的アプローチが可能かについて概観する。同時に、受講学生には自らの読書遍歴と人間の自己形成とのかかわりについて振り返る機会とする。 文学作品に対してどのようなアプローチが可能か理解すること、文学とは何か、文学を書くこと・読むことにどんな意味があるのか、自分なりの答を見つけること、自らの文学的社会化について考察することを目標とする。	
			西洋の文学B	本講義では、文学テクストのいくつかを紹介し、読んでもらいながら、それぞれの文学テクストに対してどのようなアプローチが可能か、どのように読めるか、その魅力、今日性、問題性とは何なのかを考える。紹介された文学作品に対してどんなアプローチが可能か理解するとともに、文学とは何か、文学を書くこと・読むことにどんな意味があるのか、自分なりの答を見つけること、自らの文学的社会化について考察することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	文章表現法A	本講義では、的確で印象的な「日本語」の文章表現力を身につけることを目的とする。説得力のある的確な表現力を体得するため、いくらかの実践的なトレーニングを行う。また、硬軟をとりまぜた課題（テーマ）を設定し、じっさいに受講者に文章を書いてもらい、それを相互批評しながら、みずからの文章表現力を磨く。これにより、書き、読み、伝えることをとおして、基本的なリテラシーを高め、文章表現の愉しさを体感する。	
			文章表現法B	本講義では、的確で印象的な「日本語」の文章表現力を身につけるため、情報の共有とともに「自己省察を深める」ことを重視する。講義を通じて、「書く・読む・伝える」という三つの力を高めるとともに、自分のあり方を見つめ、それを通じてより良い生き方を考えることをめざす。授業内では、自己省察の営みにつながる三つの課題（テーマ）を設定し、じっさいに文章を作成する。そして、作品を相互批評しながら、自らの文章表現力を磨く。	
			言語と文化	本講義では、多岐にわたる初期近代の文化を、主にイギリスの言語と文化を中心とし、（１）恋愛詩と宮廷文化、（２）自然と哲学、（３）宗教と科学と魔術の三つのテーマに焦点を当てて考察する。英語の歴史的背景を理解することによって英語への理解を深めること、言語、文化、歴史の有機的な関連を理解すること、現代的な世界観、価値観のもととなった初期近代の文化を理解することで現代的な世界観を相対化する視点を獲得することを目標とする。	
			歴史学入門	本講義では、日本を含めたユーラシアおよび世界の歴史を横軸（地域）と縦軸（時間）に沿って学ぶと共に，習得した歴史的事象の基礎知識をもとに、歴史学を学ぶ意義について理解を深める。歴史学は過去の事象を暗記する科目ではなく、過去の事象を用いて、人間や社会についての考察を深めるための学問分野である。人間や社会は、いま何故かくあるのかを解き明かす学問という歴史学の性質を、本講義では理解する。歴史学を通して、現代人のものの考え方や現代社会が、どのように捉えなおされるのかということを学ぶ。歴史学が過去の事象を暗記するための学問分野ではなく、過去の事象を用いて、人間や社会に関する考察を行うものであることを説明できること、歴史的な考察によって社会や人間に新たな側面を見出せるということを具体的事例をもとに説明できるようになることを目指す。	
			日本の歴史A	本講義では、現在の日本が、歴史的にいかに形成されたのかを、主に近代日本の政治・経済・外交・軍事の観点から理解する。近世社会がどのように近代社会につくりかえられていったのか、そうして形成された近代社会はどのような特徴を持っていたのか、そうした近代社会がなぜ、どのように敗戦に至るのかということを概観することで、現代社会の下地を理解する。近代日本の統治構造の特徴を説明することができること、近代日本における政治主体の内在的な意識を理解し、その歴史的展開を説明することができるようになることを目指す。	
			日本の歴史B	本講義では、現在の日本が、歴史的にいかに形成されたのかを、主に国際情勢と現代日本の政治・経済・外交から理解する。近代社会がどのように現代社会につくりかえられていったのか、そうして形成された現代社会はどのような特徴を持っているのか、現在の日本が抱える歴史的な課題はいかなるものであるのかを概観する。戦後日本の統治構造の特徴を説明し、その問題点を指摘できる、戦後日本の政治主体の動向を理解しその歴史的展開を説明できることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	日本の文化	日本の出版文化は近世において花開くが、その後、明治以降の近代において、膨大な数の書籍が発行されることとなった。そうした明治以降に発行された書籍の多くは、現在、国立国会図書館デジタルコレクション等のデジタルアーカイブスで閲覧することが可能である。本講義では、近代日本で発行された書籍を通じて、日本の近代文化について造詣を深め、現代社会の基礎となっている近代という時代を多面的に理解する。近代に刊行された書籍それぞれの時代背景を説明できる、またそれぞれが当該時期の社会に与えた影響を考察・説明できること、デジタルアーカイブスを自在に閲覧できるようになることを目指す。	
			アジアの歴史A	現代社会に生きる我々が未来に対する指標を得るためには，過去の人々の営みを正確に理解・分析し，それを鏡として活用することが必要不可欠である。国際化が劇的に進行している現在，日本に暮らす我々が周辺諸国のありように対して無関心でいることは到底許されない情況にある。このような観点に基づき，本授業では，わが国と関わりの深い中国とその周縁地域（モンゴル・中央アジアなど）に注目し，古代から前近代に至る当該地域の歴史を，政治・社会・文化など多方面から考察する。中国を含めたアジアの歴史を大局的かつ多面的に理解・把握する能力を養うことを目標とする。	
			アジアの歴史B	過去から現在に到る人間の営みが、聖的存在に対する畏怖・憧憬や超克的思惟に発する「宗教（思想を含む）」と共にあったことは異論のないところである。世界各地に形成された宗教は，その時々の政治・社会・文化などに多大な影響を与えてきた。人類の歴史を考えるうえで宗教は不可分の要素として位置づけられる。このような視点に基づき、本講義では東アジア世界に大きな影響を与えた中国の歴史を、宗教（とくに仏教）との関係性に留意しつつ政治・社会・文化など多方面から論じる。古代から前近代に至る中国の歴史を宗教との関係性を踏まえて正確に理解することを目標とする。	
			アジアの文化	本講義では、中国史の一部であるにもかかわらず、日本人にも馴染み深い三国志を題材に、「書かれる形式」によって、如何に内容が変容してゆくか、を追う。例えば、「教科書」「歴史書」「小説」「詩」……これらすべてある意味で「形式」である。また、身近なところで言えば、同じ作品であっても、単行本であるか文庫本であるかで「形式」が異なるということも可能である。そして、「形式」と「内容」は深く結びついている。本講義では、そのことを体感し、「書かれる形式」と「内容」の関係について、自分なりの見解を持つようになることを目指す。	
			西洋の歴史A	本講義では、中世封建社会から、帝国主義時代が始まる19世紀末までのヨーロッパの歴史の流れをおおまかにおさえながら、世界経済の発展と近代化・工業化によって民衆の生活がどのように変貌したのかを考える。高校までの授業ではあまり扱われない側面、とくに民衆の生活を取り上げ、ヨーロッパ近代の影の部分、切り捨てられていった部分に光をあてていく。その中で、私たちが生きている現代社会を相対化し、批判的に理解する眼を養う。	
			西洋の歴史B	本講義では、ヨーロッパの歴史を、一国あるいは複数の国の文化に焦点を当てながら概観する。その際に、中世から現代までの西洋史の歴史のトピックを取り上げ、政治と社会との関連をつけ、西洋以外の文化との交流、摂取などにも注目する。中世以降の西欧社会と文化にかかわって、一つあるいはそれ以上の時代の特徴を説明することができる、歴史とともに文化や人々の心性も変化していることを認識しその具体例を一つ以上挙げることができる、一国あるいは複数の国民文化がどのようにして形成されてきたのか、具体例を挙げて論じることができる、表現の自由、出版の自由が芸術や学術の興隆とどのような関係あるのか、具体例を挙げて論じることができることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	西洋の歴史C	本講義では、古代、あるいは中世から近現代までの西洋の歴史で著名な人物を何名か取りあげ、西洋の近代国家の形成と関連させながら、論じることにする。取り上げる人物には、女性に限定するなど、一定の関連性をもたせ、西欧における市民権あるいは民主主義に関わる一つあるいはそれ以上の概念の歴史的起源ないし変遷を説明できる、主権国家あるいは国民国家の形成にかかわって、時代にまたがる主要な変化を一つあるいはそれ以上簡単に説明できる、近代西洋で発展する国民国家が抱えた人権や平和に関する問題や課題について一つか二つ指摘できることを目標とする。	
			現代世界の歴史A	本講義では、グローバル／グローバリズム／グローバリゼーションという言葉が席巻する現代世界の構造および深層を理解することを目的として、植民地時代から19世紀後半までのアメリカ合衆国（以下、アメリカ）の歴史を、主に近代ヨーロッパの歴史と可能なかぎり関連づけながら、アメリカ史において現代世界の構造を規定する諸制度や価値観がいかに形成されてきたのかを考察する。そうした知的思考を経て、近代アメリカやヨーロッパのもたらしたさまざまな制度、文化、考え方などの功罪について、事実に基づいて冷静に考える力を養う。	
			現代世界の歴史B	アメリカ史を学ぶ上で、「人種」や「エスニシティ」という概念がもった意味を理解することは欠くことができない。本講義では、「移民の国」と形容されることの多いアメリカ合衆国を題材に、様々な移民やマイノリティ集団が自らの「人種」や「エスニシティ」というものをどのように規定していったのか、さらにはそのことがアメリカ社会及び、「人種」・「エスニシティ」という概念とどのような影響関係をもっていたのかということを考察する。特に20世紀前半のアメリカ史の主要な年代的知識を修得しアメリカの歴史についての特質を挙げることができるようになること、国や文化状況が異なれば観点も異なることを認識し、それを尊重することを目標とする。	
			心理学	本講義では、われわれ「ヒト」がどのような進化を遂げてきたのか、またその進化の過程でおこった「大脳新皮質の拡大」や「心」の複雑化について科学的なデータを基に理解を深める。具体的には、欲求と動機づけ、感覚と知覚、学習、記憶、言語・思考、感情、パーソナリティ、知能、心の病、心理アセスメント・心理療法、社会行動、家族心理学、心理学の生活への応用、統計等をテーマに「ヒト」とは何か、心理学とは何かを理解し、人間関係を円滑にする手立てについて考える力を養うことを目的とする。	
			心の科学A	本講義では、私たちがどのようにして心を発達させてきたのか、について乳幼児の発達を見ることで理解を深める。具体的には、発達の基礎、発達段階、運動・言語・情動・認知の発達等をフロイトやエリクソン，ピアジェと言った著名な研究者の理論から学び、子どもの心の発達に関する基礎知識の習得をめざすとともに、子どもの心の発達に関する知識を利用して、将来どのように子どもと関わっていくかについて考えることを目的とする。	
			心の科学B	本講義では、私たちがどのようにして心を発達させてきたのか、について生涯発達の視点から理解を深める。具体的には、愛着、友人関係、発達のつまずき、障害、児童期から老年期までの発達について、ボウルビィやエリクソンと言った著名な研究者の理論から学び、心を育む要因に関する基礎知識の習得をめざすとともに、障害児における心の発達の理解、児童期以降の心の発達の理解を目的とする。	
			応用心理学A	現在，教育・医療・福祉などの領域で用いられている心理臨床の実践や研究の基礎をなす臨床心理学を概観し、この学問領域の全体的な見取り図を得ることをねらいとする。 臨床心理学は心理学の応用的領域に位置し、心理学で得られたさまざまな知見を対人援助に用いることを目的としている。本授業では、①臨床心理学の成り立ちや対象、②心理的アセスメント、③心理学的支援という３つの視点から理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	応用心理学B	臨床心理学には多くの観点やテーマがあるが、本授業の前半では、発達臨床心理学に焦点を当て、発達の各時期で顕著となる発達課題や心理的問題の意味を読み解く。後半では、心理的アセスメントやさまざまな分野における心理学的支援について解説し、ワークなども取り入れながら、心理臨床的支援の視点を学ぶ。各時期の発達の様相および生じやすい心理学的問題を理解すること、さまざまな分野での心理学的支援の実際や方法の説明ができることを目標とする。	
			教育学のすすめA	本講義では、教育の現代的状況を踏まえながらも、教師や教育実践、道徳教育のあり方などをどのように考えるかという学校教育の基本的な問題に立ち返り、教育思想史、教育人間学といった観点から検討する。これによって教育を多様な視点から学問的に捉えていく。本講義を通じて、学校教育の基本的な問題についての基礎的な知識を身に付けること、教育思想史や教育人間学などのものの見方や考え方を理解すること、現代的状況を踏まえ、教育の基本的な問題を自分なりに考察できることを目標とする。	
			教育学のすすめB	本講義では、「教育学のすすめＡ」からさらに一歩進んで、学校教育に留まらない仕方で教育をより理論的に考える。具体的には、子どもとはいかなる存在か、学ぶとはどういうことか、家族とはどのようなものかといった基本的な問題に立ち返り、発達論や学習論などの教育学の基本的な理論を学ぶ。さらに教育思想史、教育哲学などの観点から多様な教育のあり方を学問的に考察する。子ども、家族、学習のあり方など、学校教育にとどまらない教育学の基本問題についての基礎的な知識を身につけること、発達論や学習論などの教育学の基本的な理論を理解すること、教育思想史、教育哲学などのものの見方や考え方を踏まえて、自分なりに教育について考察できることを目標とする。	
			現代社会と教育A	現代社会において、私たちは流動性のもとで不安に苛まれながら競争へと関与し、絶えず自己を評価し改善することを迫られている。本講義では、いじめ、不登校、発達障害など、教育の現代的な問題や状況を取り上げ、その歴史的・人間学的な検討を通して、現代社会を捉えるいくつかの枠組みを示す。これによって現代を特徴づける人間関係や居場所のあり方などを考えるとともに、よりよい社会に向けてどのような関係が可能かを考察する。現代の教育問題に関して、その歴史や教育学的な捉え方についての基本的な知識を身につけ、様々な教育問題を社会のあり方という観点から多角的に捉えることができることを目指す。	
			現代社会と教育B	現代社会において、私たちは流動性のもとで不安に苛まれながら競争へと関与し、絶えず自己を評価し改善することを迫られている。本講義では、子どもたちの困難（障害や貧困など）と知識・能力のあり方という二つの軸を中心に、現代社会の教育状況を具体的かつ構造的に把握する。その上で社会と教育の関係について多角的に考察する。現代の子どもたちや教育状況に関して、その歴史や教育学的な捉え方についての基本的な知識を身につけるとともに、現代社会の教育状況を構造的に捉えることができること、社会と教育の関係について多角的に考察できることを目標とする。	
			教育原論A	教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説する。人間の成長や発達、教育の理念や思想など、教育学の基礎的な概念や枠組みを理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	教育原論B	本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降の教育に関わるさまざまな思想や実践が展開されてきた歴史をたどり、学校の制度的な展開や教育の思想の歴史を理解したうえで、現代的な教育の課題を検討する。人間の成長や発達，教育の理念や思想など教育学の基礎的な概念や枠組みを理解するとともに、現代的な教育の課題を理解できるようになることを目指す。	
			学習・発達論A	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義を行う。学習・発達論Aでは特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程に重点を置き、ピアジェの認知発達理論、エリクソンの心理社会的発達理論を基礎に、胎生期から青年期までの発達を扱う。また、それぞれの発達段階の特徴を踏まえた上で、学校生活に代表される集団生活や学習の過程について講義するとともに、就学以前に生じる発達に関わる問題についても扱う。発達に関する基礎概念やこれまでの発達心理学を支えてきた理論や各論に至る背景、乳幼児から児童期の終わりまでの上昇過程の変化、青年期における自我同一性の獲得、乳幼児期から幼児期に生じる発達に関わる問題、これらを踏まえた幼児、児童、生徒の学習過程や動機づけについて理解することを目指す。	
			学習・発達論B	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義をする。学習・発達論Bでは特に幼児、児童及び生徒の学習の過程に重点を置き、学習のしくみや記憶の特徴、メタ認知、学習方略、動機づけなどと共に、授業の過程や学級集団の特徴、教育評価や教育統計について講義を行う。教育心理学の基礎的事実や法則など基本となる内容を教育実践と関連づけて理解すること、教育心理学の新しい話題や知識について理解すること、教育実践に生きる知識、技能、理論について理解することを目指す。	
			人文科学セミナー	人文学、人文科学に関わる諸問題を総合的に検討し、多様な視点から広い意味での文化事象あるいは心理学、教育学の問題を考察することを目的とする。授業は少人数のセミナー方式で行い、受講生の問題発見能力、テキストを読解する能力、プレゼンテーション能力、文章作成能力などを向上させることを目標とする。	
			大学論	（概要）今ある大学はどうしてできたのだろうか、今の学生と昔の学生はどう違うのか、大学とはどういう存在なのか、大学で学ぶとは高校までの学びとどう違うのだろうか、以上のような問いを本講義で考えていくことにする。 進学することは珍しくなく、むしろ普通のことになり、他方では大学を出てもなかなか就職できなくなって大きな社会問題になってきている。このようななかで、今、大学とは何か、あらためて問い直されている。本講義では、前期・後期各5人の教員のチェーン・レクチャーで、龍谷大学の歴史、欧米の大学の理念と歴史、最近の大学改革の理念と動向、大学で学ぶ意味について論じる。大学制度の成立と発展の歴史、龍谷大学の歴史について基礎的な知識を得ること、最近の大学の変化を踏まえ、あるべき大学像について自分なりの考えを述べることができること、龍谷大学で学ぶ意味について、自分なりの考えを述べることができることを目標とする。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	大学論	（オムニバス方式／全15回）　前期開講分 （30　上垣　豊／3回） 　西欧における大学の起源と発展ならびに近代の大学と社会の関係について講義する。 （58　中野　寛之／2回） 　科学研究と大学、具体的には基礎科学研究やポスドク問題等について講義する。 （85　岡本　健資／3回） 　私立大学と建学の精神をはじめ、龍谷大学の歴史や教育について講義する。 （102　入谷　秀一　／5回） 　大学の自由や教養の形成ならびに現代の反知性主義について講義する。 （117　手嶋　泰伸／2回） 　近代日本における教養や、新制大学と教養教育について講義し、大学で学ぶ「教養」について考える。 （オムニバス方式／全15回）　後期開講分 （27　井上　善幸／3回） 　私立大学と建学の精神をはじめ、龍谷大学の歴史や教育について講義する。 （30　上垣　豊／3回） 　西欧における大学の起源と発展ならびに近代の大学と社会の関係について講義する。 （69　松居　竜五／2回） 　東京大学が果たしてきた役割について講義する。 （88　久保　利久／2回） 　米国の大学システムについて講義する。 （94　竹内　綱史／5回） 　大学の自由や教養との関わり，大学で学ぶ意義について講義する。	オムニバス方式
		社会科学系科目	日本国憲法	憲法の基本原理と日本国憲法に関する基本的な知識を身につける。本講義を通じて、立憲主義など憲法の基本原理と日本国憲法についての基礎的な知識・素養を身に付け、それを基にして憲法に関係する報道、論評等をより良く理解できるようにする。また、日本国憲法に関心を持ち、受講後にさらに自ら進んで学習をするモチベーションを持ち、自ら進んで学習をすることの出来る学習方法を習得できるようにする。	
			法学のすすめ	基本的な法的思考を身につける。本講義は、法学入門として明治期から戦後にかけての日本近代法の「あゆみ」(歴史)を学ぶことを目的とする。本講義で取り上げる各テーマに関する法制度の基本的知識を獲得することと法制度の構造を概括的に把握することを目標とする。併せて、法制度の担い手たち(法学者、法曹(裁判官・検察官・弁護士・政治家・官僚等)の考え方や活動を理解し、本講義で取り上げる各テーマに関する法制度がどの様に形成されるのかプロセスを理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	政治学のすすめ	政治学の見方に関する基本的知識の修得と現実の政治現象に関して理解する。特に政治を自分事として捉えながら、社会科学的に見つめることができるような力を身につけることをめざす。授業の後半では、現代政治における具体的なイシューを取り上げ、現実政治の課題についても考察する。政治学は、国家や法律、選挙や政党などが連想されがちであるが、本講義ではそうした制度にかかわる事象に加えて、制度とは異なる次元の多様な政治の在り方にも着目する。	
			社会学のすすめ	基礎的な社会学の見方や考え方を理解することを目標とする。今まで「当たり前」だと思っていたことが『当たり前』ではないことに、「普通」「常識」だと思っていたことが『普通』『常識』ではないことに気づくのが社会学であると言われている。本講義では、今私たちが生きている社会がどんなものなのか、そこで何が起きているのかを知るために、社会学の考え方や言葉がどのように用いられて来たのかを学ぶ。これにより、現代社会のさまざまなテーマに関心を寄せ、人々の会話や行為を見つめ、社会学のものの見方でその在り様をつかむことを目指す。	
			地理学のすすめ	基礎的な地理学の見方や考え方を理解することを目標とする。本講義では地理学の成り立ちや、そのなかで育まれてきた見方や考え方を紹介する。そして、「環境」や「地域」といった普段よく耳にする言葉について、それらが説明する事柄が何なのか、地理学における議論を踏まえながら具体的に考える。また、交通や通信といった技術の変化にも着目しながら、身近な暮らし（生活）が置かれた状況について、地理学の視点から読み説いていく。これらを通じ、地理学の持つ独自の考え方や概念について基礎的な理解を深めるとともに、現代世界における「ひろがり」や「つながり」、そして「まとまり」の本質が何なのかを探る。	
			経済学のすすめ	基礎的な経済学の見方や考え方を理解することを目標とする。本講義では、現代国際経済の理論と政策を紹介する。主に、政治と国際貿易政策、先進国と途上国、国際生産要素の移動、国際マクロ経済協力などの観点から分析する。これによって、現状の国際経済におけるグロバリゼーションの短所と長所、及び国際関係の理論と政策を理解することをめざす。	
			経営学のすすめ	基礎的な経営学の見方や考え方を理解することを目標とする。本講義では、経営学を初めて履修する学生を対象に、企業の経営問題を把握するために必要とされる、企業とその管理の基礎理論を学ぶ。これによって、現代の日本企業の経営の実状についての理解をめざす。	
			国際学のすすめ	国際社会の諸問題についての基礎知識を理解することを目標とする。本講義では、国際社会で生じているさまざまな社会現象、国境を越えて取り組むべき社会問題について幅広く学ぶ。新聞やニュースでとりあげられる問題を広い視点で理解し、一つの情報や視点に流されることなく、自ら考える力を身につけることを目指す。	
			文化人類学のすすめ	文化人類学的な視点から文化認識や他者認識のあり方を学ぶ。「文化人類学」は、「他者としての世界の民族(集団)や文化・社会に関する知識を整理し、分析することを目的とする学問」である。本講義を通じて「文化人類学」の思考法を身につけることにより、異なった文化(的存在)や社会、制度や組織などに対する粗放なイメージ(偏見)を、確固たる「知識」へと改めること、また、異文化的他者を相対化することで、ひいては自己への認識をも高めることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	社会調査のすすめ	社会調査法の基礎について理解することを目標とする。本講義では、社会調査の意義・目的、データを収集・分析しレポートとしてまとめる社会調査の一連のプロセスの基礎を学ぶ。前半は、質的調査のひとつインタビュー調査を、実際に受講生各自がインタビュー調査を実施し、インタビューレポートを作成することで実践的に学ぶ。後半は、質問紙を用いた統計調査（いわゆるアンケート調査）を中心に学びつつ、実際にシンプルな調査を受講生と共に企画・実施し、収集したデータの分析、調査レポートの書き方について学ぶ。このような社会調査の基礎を身につけることに加え、「調査データにだまされない」力を身につけることを、到達目標とする。	
			社会統計学のすすめ	統計学の初歩を理解することを目標とする。本講義では、最初に販売量や株価の変動、経済力や実力の格差などを表す散布度（分散、標準偏差）、平均や標準偏差の異なる試験の成績を比較するための標準化変数と偏差値などの記述統計を学ぶ。そののち、標本の中のデータを使って真の平均、比率、分散、分散比などを推測する方法（推測統計）を学ぶ。また、「データサイエンス」の要素についても取り入れることをめざす。推定・検定を学ぶために必要となる前提的基礎知識と、推定・検定の基本的考え方を理解し、それらについての計算が一通り出来るようになることを目標とする。	
			人権論Ａ	人権問題の現状を理解し、それらに向き合う方法について考察する。本講義では、教育の場やアルバイトの場といった身近なところで生じている人権問題を素材に、人権状況の現実を確認するとともに、法制度の活用や運動、政治への働きかけ等によっていかなる解決が可能なのかを考察する。本講義全体を通じて、なぜ、いじめや差別という問題が生じるのか、日本は「人権先進国」といえるのか、について考察する。	
			人権論Ｂ	人権問題の現状を理解し、それらに向き合う方法について考察する。本講義では、主要な人権問題につき国際的な動向を踏まえつつ、その解決法を探るという観点から、刑事事件の被疑者・被告人、先住民族、外国人、そして労働者にスポットを当てて考察する。本講義を通じて、現実にある人権問題や人権を保障するための基本的な法制度を理解し、様々な人権問題に向き合う方法について考察することができるようになることを目指す。	
			現代社会とメディア	現代社会において情報やメディアが果たす役割を理解し、メディア・リテラシーを身につけることを目指す。本講義では、マスメディアを一面的に批判するだけでなく、それらが蓄積したものを私たちが共有し、少数のオルタナティブな当事者の声をどのように捉え、受け止め、表現し、対話に結びつけられるのかについて考察する。マスメディアの現状、歴史と役割を理解するとともに、SNSやコミュニティメディアを含む現在のメディア状況が俯瞰できるようになること、また、ネット時代のメディア・リテラシーを身につけ、ネット情報に翻弄されないために、何が必要かが理解できるようになることを目標とする。	
			現代社会と福祉	現代社会の諸問題を福祉的な視点から考える。本講義では、介護や医療、年金、雇用、生活保護、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考察する。福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く学ぶことで、社会生活に向けて最低限必要な社会保障の教養を身に着けることを目標とする。	
			現代社会と法	現代の社会問題と法との関係を理解する。本講義では、刑事政策の定義や基本原理、刑事政策の基本問題と量刑の基本原理についての理解を深め、刑事司法全体を俯瞰し、理論的かつ批判的に分析する能力を身につけることを目標とする。具体的には、犯罪や非行現象を科学的に分析・理解するための原理や法則を修得すること、刑罰論の諸問題にかかる実践的な知識を身につけること、施設内および社会内の処遇の制度と現状を体験的学習によって理解することで、説得力ある議論を展開する基盤を身につけること、少年非行、薬物依存、触法精神障害などに関する理解を深めることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 教養科目 社会科学系科目	環境と社会	様々な環境問題を理解し、その解決のための基本的な考え方を学ぶ。本講義では、環境問題の解明と解決の道を探求する環境社会学について、実例を通して代表的な理論について理解を深めるとともに、研究や発展的学習につなげるための手がかりを提供する。本講義を通じて、環境問題の代表的な問題群が、自然科学的な問題だけでなく、社会制度・経済政策を含んだ複合的なものであることを理解し、かつ身近なものとの連関を通して、自らの生活や地域社会のあり方が大規模な地球環境問題と密接にかかわっていることを理解する。	
	平和学A	受講生が、自分なりの平和概念を身につけることを目標とする。本講義では、国際関係・国際政治に関する基本的な考え方を学習することを通じて、世界各地で相次ぐ武力衝突、つまり戦争や紛争の原因と国際社会の対応について理論、歴史、構造的な側面から注目する。それを踏まえた上で、東アジアの情勢と日本の安全保障について理解を深めるとともに、国際関係を注目する際の姿勢および観点について理解を深めていくことを目指す。	
	ジェンダー論	ジェンダー論的視点から現代社会を見つめなおす。人間の「性」に関わる事柄は、しばしば「当り前」で、「自然」なものと思われているかもしれないが、男らしさや女らしさ、性別による役割分業などは、社会によってつくられたものである。ジェンダー論はこのように社会的につくられた「性」の諸問題を問うものである。本講義ではその基礎的態度を得ることを目的とし、基本的な用語・概念を解説することと共に、現代社会における「性」にかかわる具体的な主題を取り上げ、検討する。ジェンダーの基本概念を理解し説明すること、また、ジェンダーの視点から現代社会の様々な課題に気付き、それらを自らの生と関係付けて考えることができるようになることを目標とする。	
	国際社会論	グローバルな視点や国際的な視点から現代社会の課題や問題を学ぶ。本講義の基本関心は、「ポスト資本主義の行方」にある。つまり、本講義を通じて「資本主義はどこからきて、どこに向かおうとしているのか」について考察する。また、国際政治経済学の観点から、政治（権力）と経済（市場）が相互に依存関係にあると見なした上で、広く深く掘り下げて考察を加える。資本主義以後の新しい社会を構想するに当たって、幅広い知見を総合し、新しい価値観を形成していく素材を提供する。本講義を通じて、多様な価値観を前提に問題解決力を身につけること、また、グローバル化に向き合い、メディアリテラシーを身につけることを目指す。	
	現代社会の諸問題	現代社会の諸問題を捉え、その背景や関係性を理解する。本講義では、日本の現代社会が直面しているさまざまな問題の背景と実態、そしてその現場で問題に向き合う若い世代の起業やNPO等の活動から、問題の解決、政策提言に結びつく糸口を探る。本講義を通じて、社会の課題を発見するために何が必要かを理解し解決方法を検討できるようになること、また、解決の道は賛否や二者択一ではなく、さまざまなグレーゾーンの意見の存在を認め、異なる意見を理解しようと務め、話し合える空間をつくることができるようになることを目指す。	
	地域論	リージョナルな事象を実証的に捉え、地域的な課題や問題を考える。本講義では、「地域」を理解するためのいくつかの考え方を学ぶとともに、そうした「地域」を人口から読み解いていくための基礎的知識について解説する。人口などの統計データを用いて、地域の基本的な特徴を把握することができるようになること、また、現代日本の人口にかかわる地域的な問題や課題について、人口などの統計データと関連づけて説明できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	現代社会の仕組みや課題を会計学の視点から考える。実務の社会では、企業の経営者が自ら行っている事業活動を様々な人達に対して説明する際に、貸借対照表や損益計算書などのいわゆる財務諸表と呼ばれる報告書が利用されている。その財務諸表を作る際の具体的な手続きや、その手続きの過程で得られる情報などを使って、企業経営に活用する技術のことを「会計」という。本講義では、それら報告書について概説した後に、その報告書の利用あるいは企業内における会計情報の利用について学習する。本講義の履修により、ビジネス・パーソンに最低限必要とされる、わが国の企業会計制度や財務諸表分析などの基本的な知識の修得を目指す。	
			現代社会と労働	社会科学的視点から労働をめぐる諸問題・諸現実を考える。現在の日本では、ブラック企業、ワーキング・プア、過労死・過労自殺、ハラスメントなどが社会的な問題となっている。また、何らかの事情で働けなくなること、働きつづけることが困難となった場合における保障の問題等もある。本講義では、これらの日本の現状を具体的な事件などから明らかにしながら、ディーセントな労働と生活とは何か、それを実現するにはどうすればいいのかを考察する。本講義を通じて、働くうえで必要となる基本的な経済的・法律的知識を身につけること、ディーセントな労働と生活について、国際基準や外国の事例も参考にしながら理解できるようになることを目標とする。	
			社会思想史	社会のあり方と思想の関連について理解することを目標とする。社会や国家についての考え方は、古代から現代までの多くの人々の思索の継承の上に成り立っている。本講義では、ソクラテス・プラトンから現代にいたるまで、代表的な社会思想の歴史をたどることで、社会や国家について考察しつつ、社会思想史の基本的な知識を修得することを目指す。	
			英語で学ぶ日本の社会A	本講義では、現代の日本社会において生じている様々な課題や問題について考察する。具体的には、家族、性別、人種、仕事、教育、経済、平等等をテーマとして取り上げる。グローバル化の加速や高齢化社会といった状況を踏まえ、上記テーマがどのように変化してきたのかについて、詳しく説明する。なお、本講義は日本人学生及び留学生を対象した国際共修科目であり、英語で提供される。受講あたっては、TOEFL® ITP500、IELTS™ 5.0、TOEIC®650以上と同等の英語力を有していることを条件とする。 本講義を通じて、日本社会における複雑な状況を理解するための多角的な考察ができるようになることをめざす。	
			英語で学ぶ日本の社会B	本講義では、国内外における世界の問題に焦点を当て、日本経済やビジネス環境における概要を説明する。学生は授業で学んだことを分析し、時事問題やニュース記事についてディスカッションやプレゼンテーションを行う。なお、本講義は日本人学生及び留学生を対象した国際共修科目であり、英語で提供される。受講あたっては、TOEFL® ITP500、IELTS™ 5.0、TOEIC®650以上と同等の英語力を有していることを条件とする。 各種記事や事例を学びつつ、データや統計を用いることで、人々がビジネスにおいてどのように行動し、意思決定を行うのかについて理解するための知識を深めることをめざす。	
		自然科学系科目	数学入門	ユークリッドの「原論」に基づく初等幾何は重要な基礎的教養と見なされてきた。数学的論証はあらゆる人類の営みを「正しく」行なうために重要であることは誰もが認めることである。しかしながら、公理系に基づく技巧的な証明法だけを学ぶのは良い学習法ではない。本講義では初等幾何と座標を用いる解析幾何を両方学ぶことにより、平面幾何の基本を身につけることを目指す。	
			数学への旅	本講義では、3次方程式を解くことをテーマに講義を進める。まず中学・高校で習った２次方程式の復習から始めて、次に因数分解を用いて３次方程式を調べる。複素数について学んだ後に、一般的な３次方程式を解く方法について学ぶ。３次方程式の解き方を通して、興味深い問題を自力で解決し、検証する力を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	確率・統計入門	本講義では、統計学の初歩と確率の考え方、確率的な分布の基礎について学ぶ。具体的には、「場合の数」の求め方から始め、場合の数の割合である「（離散的な）確率」について学修する。本講義を通じて、確率・統計に関する基礎的なアイデアおよび計算技術の習得を目指す。	
			微分と積分	微分積分学は、自然科学においてだけでなく、金融工学や確率・統計などを勉強する際にも非常に大切な学問である。本講義では、その微分積分学の基礎的な部分に焦点を当てて学修する。本講義を通じて、微分積分学における基礎的なアイデア・計算能力の習得を目指す。	
			行列と行列式	線形代数学は、微分積分学とともに現代文明の基礎となっている数学である。ベクトル空間の間の「線形写像」は「行列」によって表示でき、これによって連立１次方程式は統一的に理解できる。さらに、行列の特徴を表わす「行列式」は面積・体積に関係している。本講義では、これらの簡単な具体例に基づいて学ぶことにより、基本的な計算ができるようになることを目指す。	
			数理統計学	統計学は、金融工学や保険商品の開発、また市場調査など実にさまざまな場面で用いられる。本講義では、数学の基本にあたり、社会科学や情報科学など、各方面の専門科目を学ぶための基礎知識ともなる領域である統計学について、統計学の基礎や統計学に関わる諸理論について学修する。本講義を通じて、統計学における基礎的なアイデアや計算技術の習得を目指す。	
			数理と計算	本講義では、整数と確率に関する問題を題材として取り扱い、論理的思考、計算能力を身につけることを目指す。具体的には各種就職試験において出題される「数的推理」に関する問題を題材として取り扱い、演習および解説を行う。 本講義を通して、各種就職試験において出題されることの多い「数的推理」などの「問題」を正確に解答できるだけでなく、論理的思考、計算能力の獲得を通して、さまざまな学問にも役立つ数学的教養の涵養を目指す。	
			数学の世界	数学の分野の中に物事の「最適化」について考える「オペレーションズリサーチ（OR）」と呼ばれるものがある。例えば、利益を最大にするにはどうすれば良いか、またコストを最小限に止めるにはどうすれば良いか、などはORで取り扱うトピックの一つである。本講義では、最適化を考える上で最も基礎となる「線形計画(linear programming)」という問題を主に扱う。これにより、線形計画法における基礎的な概念の習得を目指す。	
			数理と論証	本講義では、数学における基本的な論証法を学ぶ。整数に関する様々な命題を材料として。通常の「数学」の授業では省略されることの多い論証の部分を中心に学修する。数学における基本的な論証法を学ぶことを通して、「場合分け」などに代表されるように、数学の世界に限らず日常生活のあらゆる場面においても有益であることを認識し、「数学」の学びに対する関心を喚起することを目指す。	
			宇宙の科学Ⅰ	宇宙で生じる自然現象を、観測の立場から宇宙での様々な現象を考察するとともに、さらにその現象について、理論的により深く考察する。本講義を通して、宇宙で生じる自然現象についての理解を深め、テレビ・雑誌・新聞等で報道される宇宙の話題について、関心を喚起させることを目指す。さらに、自然科学に基づく現代的宇宙観を、自分自身の世界観（コスモロジー）を広げ深めるための素材に昇華できることを目指す。	
			宇宙の科学Ⅱ	宇宙の科学Ⅰ程度の知識を前提とし、天体物理学、宇宙論、地球惑星科学、太陽地球環境学等から、特定の話題を講義する。現代の宇宙科学技術に立脚した、自分なりの宇宙観を確立することを目指す。また、宇宙科学分野の最先端の知見を楽しむことができ、知人と気軽に宇宙に関連する話題について語ることができるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	地球科学のすすめ	我々の生きている地球はどのように形作られてきたのか、また、地球上ではどのような現象が発生しているのか、自然科学的観点から、地球の成り立ちと地球の仕組みについて解説する。また、地球上で生じる自然科学的諸現象（地震/火山噴火/台風/温泉湧出など）についてのメカニズム等についても詳しく解説する。本講義を通じて、地球科学の基礎知識をもつことができること、地球についての知識をもとに我々人類のありかたや地球環境問題を考えることができるようになることを目指す。	
			地球科学	私たちの生きている地球は、いったいどのような遍歴を経て、どのように現在に至ったのか？本講義では、地球に起こった出来事を時間の軸に沿って追って行く。個体地球の発達と生命の進化の関わりを解説する、またそれらをひも解く地層や化石の見方、位置づけ、生活環境などとの関係も学習し、壮大な地球と生命の歴史と現在・未来の関連性を考察する。本講義を通じて、我々人間が自然と共存し自然を理解するために、地球と生命の歴史があった上で現在の自然が存在していることを学習できるようになること、さらにはこれからの未来の自然・地球環境についても考えるきっかけを作り、それらを基本とした様々な地球科学に関係する事象について考えられるようになることを目指す。	
			物理科学の世界	古代から現代にかけて形成されてきた物理的世界への理解の諸段階を確認しながら、マクロ的・ミクロ的世界を考察する科学的作法を考える。具体的な物理現象を例にとりながら、物理学の原理や法則を説明することができ、また逆に様々な自然現象を物理学的に論じることができるようになることを目指す。	
			時間と空間の科学	物理学的な立場から時間と空間の概念を考える。時間と空間に対する無自覚な自分自身の常識や思考の枠組みを自覚化し、それらの概念が覆されていくさまを、アインシュタインの特殊相対性理論を中心として眺めていく。「論理的に思考する力」「問題を発見する力」を身につけ、時間と空間に関する不思議な現象について知人と語ることができるようになることを目指す。	
			エネルギー入門	自然科学を支える最も重要な概念のひとつである『エネルギー』。我々が直面する様々なエネルギー問題を理解するための基礎として、主として物理学的な立場からエネルギー科学の基本とその実際的応用を概説する。エネルギーについての正しい概念とエネルギー問題に対する適切な判断力を持つことができるようになることを目指す。	
			自然科学史Ⅰ	現代社会は近代科学の成果によって成立しているといっても過言ではない。こうした近代科学はいつ頃、どのように萌芽し発展してきたのか。古代・中世・近代・現代の自然科学の歴史を概観し、科学の発展とそれに関連する当時の社会の変化を考え、近代科学の前史、誕生、発展を考察する。近代科学の歴史的発展を具体例を交えて説明できるようになることを目指す。	
			自然科学史Ⅱ	自然科学史Ⅰ程度の知識を前提とし、自然科学における特定の分野のこれまでの足跡に触れながら、近代科学の歴史的発展を特定の分野の事例を交えて説明できるようになることを目指す。例えば、日本の江戸時代の科学（自然科学）を講じる場合は、科学に相当する近世までの知的営みをとりあげ、その歴史的変遷の概要をたどるとともに、自然研究の発展がそれを取り巻く文化・社会・自然状況、あるいは人間生活の営為とどのようにかかわりあうものであったかを、具体例を通じて考察する。人類が科学的な知を形成してきた歴史について関心を持つこと、近世日本における自然科学分野の発展について基礎的な知識を得ること、とくに重要と思われる歴史的事象については、経緯、背景や意義までを理解し自分のことばで説明できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	科学論	科学の営みを社会や文化との関わりから捉えることで、科学と私たちがどのように結びつき、そこにはいかなる問題が潜んでいるのか、そして科学はどうあるべきなのかを考察することを目的とする。具体的例としては、医療やバイオテクノロジーなどの現代的問題を題材にとりあげ、科学と社会の関係性について問い直すことを通し、科学に対する理解を深め、責任ある市民として科学とどのように向き合うべきかを考察し、科学について幅広い観点から理解を深め、科学を適切に判断するリテラシーの涵養を目指す。	
			技術論	技術は科学と結びつき、現代社会に必要不可欠な存在となっている。技術と科学が融合した科学技術は現代および未来の社会にとって魅力ある点を多く備えるが、過剰に利便性を追求するスマートデバイスの開発を牽引する科学技術、生命誕生や長寿に過度に関与する科学技術、軍事兵器の開発や増大に深く関与する科学技術などに目を向けるならば、それらの存在が私たちの社会に良好なものだけをもたらすとは必ずしも言えない。こうした科学技術の発展をこれまでの歴史を通して確認し、かつ科学技術の多面性を種々の事例を通して見て取り、各事例に対する考察や議論を行う。歴史的事例を通じて、現代社会における技術の意義や多面性について自らの見解を論じることができることを目指す。	
			平和学B	科学技術という観点から「平和」を考える。科学技術が現代社会の今後を左右する巨大な力をもつゆえに、私たちはそれらをとりまく様々な可能性に注視する必要がある。科学技術の発展は、主に企業・国・大学の研究機関によって担われてきているが、これらの諸機関が軍事研究に関与する場合、科学技術の発展が直接的もしくは間接的に平和維持に反する事象に利用される可能性がある。これまでの世界と日本の過去の関連事例を振り返り、科学技術・戦争・平和の関係について考察する。科学技術の観点から、平和を維持する、もしくは破壊するメカニズムを具体的に論じること、平和という視点にもとづく科学技術の発展の過去・現在・未来を自らの見解を交えて論じることを目指す。	
			里山学	（概要）龍谷大学は2001年に、絶滅危惧種のオオタカの棲む瀬田学舎隣接地の里山（38ha）の大規模造成をやめ、里山を活用した新たな教育・研究と地域社会との連携にむけて動き始めた。以来この里山は「龍谷の森」と呼ばれるようになり、2004-08年には、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」を、2009年からは「里山学研究センター」を開設し、生物多様性・環境計測調査、社会人文科学・地域共生学調査研究により里山の総合研究を行っている。本講座は、それらの研究成果の公開の場でもあり、現場からの声を聴くことで理解を深めることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （31　牛尾　洋也／1回） 里山の開発の歴史と今日の課題について概説する。 （73　宮浦　富保／1回） 里山の歴史と現状について概説する。 （74　村澤　真保呂／1回） 「里山」という問題について概説する。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	里山学	（85　岡本　健資／1回） 里山と仏教について概説する。 （95　谷垣　岳人／2回） 野外実習を行うとともに、昆虫と里山について概説する。 （96　丹野　研一／7回） 里山学全般の実習及び総括を行うとともに、持続可能な新しい企業モデルの実践、考古植物学から提案する新しい小麦生産、京都モデルフォレスト運動、農業生産～近江日野からの現場レポート、料理で結ばれる里山と都市、里山と子供たちについて概説する。 （99　友永　雄吾／1回） オーストラリア先住民族の環境利用について概説する。 （230　高柳　敦／1回） 人々の暮らしと野生動物について概説する。	オムニバス方式
			生物科学のすすめ	本講義は、本学における生物系講義のなかでも主としてマクロレベル（個体レベル）の生物科学をあつかう。我々をとりまいている生物の世界がどのように形成されてきたのかについて、最近の進化学の立場から解説する。さらに遺伝や人体、環境をふくめた私たちの生活にかかわる生物学を解説し、環境問題・自然保護などに関する実例についても取りあげる。本講義を通じて、生物の多様性と特性を理解し、現在残されている自然を守るための基礎知識を身につけることを目指す。	
			生命科学のすすめ	（概要）本講義は、本学における生物系講義のなかでも主としてミクロレベル、すなわち細胞や遺伝子など分子レベルの生物科学を取りあつかう。DNA、RNA、タンパク質のはたらきによって、細胞の機能ひいては個体の形や特性がどのように影響を受けるのかといった、細胞生物の規則性を学ぶ。生命科学の視点から様々な学問分野の内容に触れることで、新聞の科学記事が難なく理解できるような基礎知識を習得し、細胞や体内で起こる事象への理解を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （312　本多　忠紀／全15回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生物分類と系統、生命の起源と代謝をはじめ、細胞やウイルス、シグナル伝達、生命の基本単位である細胞とその構成成分、タンパク質の構造と機能、遺伝子をテーマに講義を行う。 （197　河本　恭子／7回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生物分類と系統、生命の起源と代謝をはじめ、細胞やウイルス、シグナル伝達をテーマに講義を行う。 （353　和田　七夕子／8回） 生命科学の基礎について概説する。主に、生命の基本単位である細胞とその構成成分、タンパク質の構造と機能、遺伝子をテーマに講義を行う。	オムニバス方式
			生命科学	本講義では、生物学の基礎を復習しながら、特にヒト（自分自身）に関わる生命現象を学ぶ。生命科学関係のニュースが理解できる。自分が生物であり、他の生物も含めたシステムの一部であるという視点を持つことを目標とする。	
			生態学のすすめ	生物は、周囲の環境の影響を受け、また周囲の環境にさまざまな影響を与えながら生きている。この生物と環境との関係を明らかにするのが生態学である。私たち人間もこの生態系の構成メンバーの一員であり、生態系からさまざまな恩恵を受けている。本講義では、身近な生き物を例として、生態学の基本的な概念や生態系の機能と環境問題との関連について考える。生態系の現状を知り、生物多様性を保全する取り組みについて理解できることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	人類学のすすめ	本講義では、人間の生物学的な側面に注目し、ヒト以外の霊長類も含めた視点から、その進化の過程を概説する。まずヒト以外の霊長類の進化と適応について学ぶことにより、人類が誕生した背景について理解を深める。内容としては、霊長類の分類や系統、形態的特徴とその機能的意義、進化史、古環境などを取り上げる。ついで、人類の起源とその進化について述べる。主に化石人類を対象とし、現在知られている最古の人類化石から現代人に至る数百万年にわたる進化の道筋を見ていくことで、人類進化に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。	
			日本の自然	（概要）日本列島の形成やプレートテクトニクス、大気・水環境等の地球環境の背景から、植物・昆虫、水生生物・鳥類・哺乳類など、多角的な視点から日本列島の自然と人間活動による環境破壊、そして自然再生・生態修復の現在を紹介する。さらにフィールドワークを通じて日本の自然への学びを深める。日本の自然が多角的に理解できるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全30回） （95　谷垣　岳人／3回） 身近な自然である里山の昆虫相について解説する。 （111　山田　誠／2回） 身近にある温泉について、地球の仕組みの視点から解説する。 （147　上西　実／8回） 日本の川や湖など淡水域に生息する水生生物について、その生態的特徴や分布について解説する。 （165　梶田　学／3回） 鳥類の基本的な特徴（生態や形態）について概説するとともに、身近な野鳥の生活を紹介し、それを通して鳥類の中にある多様性やその進化、人との関わりなどについて解説する。 （171　鎌倉　真依／3回） 日本の植生分布の変遷とそれを作り出してきた要因について概説するとともに、都市化に伴う植生の孤立化や多様性の減少などといった社会的問題についても触れる。 （222　須藤　明子／3回） 日本の生物多様性の危機と保全について解説する。また、野生動物と人の共存における現状と課題について、具体例を挙げて、最新情報を紹介する。 （254　内藤　陽子／3回） 地球全体の気候システムにも視野を広げ、その一部である日本の気象の特徴を解説する。 （322　三上　禎次／5回） 日本列島の形成やプレートテクトニクスなどをもとに地質分野の日本の自然を解説する。また日本における火山・地震などの災害と防災についても触れる。	オムニバス方式
			生命誌	「生命誌」は、46億年という長い地球の歴史と共に歩んできた生命の誕生と進化をたどる、旅のような学問分野である。自分が今ここにいられるのはなぜか？自分とは何か？生命とは何か？そして、生きるとはどういう事なのか？本講義では、地球と生命の歴史を学びながら、今ここに在る自分へとつながる壮大なドラマを紹介する。生命の誕生と進化について理解し、自分とは何かを意識し、周辺環境も併せて持続可能な社会を作っていける知識を身に付けることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	自然科学系科目	植物の自然誌	本講義では、私たちの暮らしをとりまく植物ワールドについて、文・理の別なく多角的視点から紹介する。植物とはどういうものなのかについて、歴史文化・栽培技術・進化分類・生長生理・食農といった多岐にわたる視点から理解を深める。身近な植物を多くとりあげて解説し、科学的に深く理解することで、より充実した世界観を身につけることを目標とする。	
			動物の自然誌	地球上には多種多様な生物が、様々な環境に生息する。本講義では、生態系の仕組みとともに、動物がどのような生活形態を持ち、そこでどのような行動が見られるのか、解説する。その上で、絶滅が危惧される動物に対して私たちの生活が与える影響についても実例を取り上げて紹介し、保全のためにどのような対策が取られているのかについて学ぶ。動物に見られる、社会・行動・生態などについての基礎的知識を得ること。また、これらの知識を実生活に関連付けられることを目標とする。	
			民族の自然誌	人々は自然をいかにとらえ、利用し、ときに対峙してきたのだろうか？人と自然との関わりを理解するには、さまざまな学問領域を横断する総合的な観点が必要である。本講義では、さまざまな実体験、説明や文献を用いながら、民族自然誌とその周辺領域（自然史や生態学）における基礎的な理論および知見、ならびにそれらと人びとの生活・地域社会との関係を取り扱う。本講義を通じて、民族自然誌の観点から文化・社会および自然を理解する力が向上することを目指す。	
			人類進化学	本講義では、ヒトになる（ホミニゼーション）とはどういうことかをテーマとして、進化のしくみ、霊長類や人類の特徴と進化史を概観したのち、ヒトを特徴付けるさまざまなトピックを取り上げて、その進化について論ずる。本講義を通じて、私たち現生人類がもつ様々な身体的、社会的特徴が、進化の過程で、いつ、どのように獲得されてきたのか理解する。	
			人間の生物学Ⅰ	わたしたち人間のからだは、生物として環境に適応する進化の過程でつくられてきた。本講義では、人間の解剖学的特徴のうち、筋肉や骨格、内臓の構造や機能について学修する。本講義を通じて、人体の構造と機能について、進化の観点も交えながら理解を深めることを目指す。	
			人間の生物学Ⅱ	生物は、この世界に生れ落ち、成長し、子孫を残すために競争し、うまく生き抜いたものも、やがて年老いて、いつかは死んでいく。本講義では、人間の生物学的側面のうち、外界の情報を受け取ったり、外界からの侵入者を防御する仕組みや、次世代を残すための生殖、成長や老化、死などについて学ぶ。本講義を通じて、人体の構造と機能について、進化の観点も交えながら理解を深めることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教育科目	自然科学系科目	自然誌実習	（概要）身近な自然や生き物の観察を通して、「人間と自然との関わり合い」「森林や河川における生態」「地質からみる大地の歴史」をテーマに、野外での臨地講義や実習室での室内実習を行い、自然環境や生き物の生態などへの理解を深めることを目指す。 （オムニバス方式／全30回）　前期開講分 （111　山田　誠／6回） 基本的な水の知識を学び、自然における水のありようについて概説する。 （147　上西　実／18回） 森林や河川に生息している多種多様な生物を観察し、その形態や生態、その他の生物や環境との関わり合いについて理解を深める。 （322　三上　禎次／6回） 実際の岩石を観察し、大地の自然を身近に感じるようになることをめざす。 （オムニバス方式／全30回）　後期開講分 （96　丹野　研一／6回） 身近な植物や日本の植生環境に関して、植物観察を通して理解を深める。稲荷山、深草キャンパスなどを歩いて解説する。 （147　上西　実／24回） 森林や河川に生息している多種多様な生物を観察し、その形態や生態、その他の生物や環境との関わり合いについて理解を深める。	オムニバス方式
			野外観察法	身近な自然生態系（森・川など）、生物（植物・動物等）などの観察と講義により、自然と触れ合う手ほどきをする。自然観察をとおして、自然の構造、また人間活動と自然との関わりを体得し、自然環境保全の手がかりをつかむ。	集中
			環境学	現在、地球上で顕在化している環境問題を広く知り、その原因や影響を探り、どのような対策が行なわれているのかを考えさせる講義。２つのテーマで講義は展開し、一方は、地球の環境問題において切っても切り離せない地球の仕組みの理解を深めることに重点を置き、地球の成り立ちから、大気・水などの循環の仕組み、過去から現在までの地球環境の変遷など、地球環境システムを自然科学の観点から解説するとともに、種々の環境問題を取り上げ、自然科学の観点からそれらの問題について考察する。もう一方は、地球温暖化を中心とした地球環境問題への国内外の取組・対策を取り上げる。地球環境問題に対し、国際社会はどのように対処してきたのか、1970年代から現在に至るまでの経緯を辿るとともに、その解決を目指した取組の成果と課題を概観する。顕在化している環境問題を広く理解し、どのように対策を立てていくべきかを考えることができるようになることを目標とする。	
			情報科学入門	コンピュータを単なる道具として使うだけでなく、そのしくみや基本となる概念を学ぶことで、有益な道具として利用可能となる。講義形式で、コンピュータの成り立ちからコンピュータやネットワークの仕組みまでを学ぶ。	
			情報科学Ⅰ	コンピュータの仕組みや基本となる概念を深く知るため、コンピュータを構成する各要素技術について解説する。個別の技術についてより詳しく学ぶことで、コンピュータ総体についての理解も深まる。	
			情報科学Ⅱ	コンピュータの理論面を知ることで、「コンピュータは万能である」という幻想を捨てて、常に限界をかかえるコンピュータの実像について知る。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	情報科学実習	コンピュータのしくみを理解するために、簡単なプログラミングの実習を行なう。ここでは、まず逐次実行型のコンピュータを理解する。その上で、イベント駆動型などのプログラミングにも触れて、GUIを用いたより実践的なプログラミング技術も習得する。	
			健康とスポーツ	近年、急速なテクノロジーの発展や社会情勢の変化に伴う心身の不調など、現代社会がもたらす健康問題の解決策として、心身の健康に関する教育の充実や生涯にわたるスポーツライフの実現の重要性が唱えられている。他方、健康づくりには「運動」と「栄養」、「休養」の三要素が重要であり、これら三要素の質と量などの内容に加え、それぞれの相互の関係により、生体や精神面への効果が異なる。 本講義では、健康およびスポーツ科学の観点から、生涯にわたる心身の健康の保持増進に関わる知見について、日常生活の中で実践し得る基礎理論から概説する。特に、生活習慣病などの身体的な健康問題や精神的な健康問題とスポーツとの関わりを解説することを通して、生涯にわたるスポーツライフを構築するための具体的方策について検討する。	
			現代社会とスポーツ	スポーツは、現代社会において極めて重要な社会現象となっている。私たちは、日常生活の中で遊びや気晴らしとして、レクリエーションとして、競技として、教材として、商品として等、様々なかたちでスポーツと関わっている。本講義では、身の回りで日常的に起こっているスポーツ諸事象の中から、スポーツと社会との関係を知る上での基本的なトピックや「問題点」を選び、スポーツの社会的機能や意義、役割について検討を行う。これにより、スポーツの諸事象における課題について、社会との関わりを考えながらとらえ多角的に考察できること、また、自分のスポーツ実践や観戦なども含めて現代社会とスポーツとの関係を認識し、スポーツを通してよりよい社会を築いていくことに貢献しようとする意欲を持つことを目指す。	
			スポーツ技術学演習	スポーツは、「人間の発達」や「人間の可能性」について考え、経験できる活動であり、本演習はこれらを学ぶ唯一の科目である。演習で開設している７種目（テニス・バドミントン・バスケットボール・バレーボール・卓球・フットサル・フィットネス）の中から１種目を選択し、半期間履修することを通して、受講者自らが個人あるいはチームの課題を発見し、それを解決する方法を理論と実践を通して身につける。また、スポーツを科学的に分析し、実践・応用できる能力や人間の発達、可能性について考察できる素養を身につけるとともに、他者との共同作業を行うことを通して、コミュニケーション能力を身に付けることを目指す。	
			人間とスポーツ	スポーツは、これまでの身体活動、すなわち「実践する」他に、「みる」、「支える」、「企画する」など、そのとらえ方が広く拡大、多様化し、パラダイム変換する中で、近年では、健康づくり政策と経済効果、地域の活性化などスポーツのもたらす効果に対する期待が高まっている。本講義では、「競技スポーツ」のみならず、「生涯スポーツ」としてのスポーツについて、発育発達期から成熟期、また中高年期までのライフステージに応じた効果的な運動（スポーツ）と関りについて考察する。また、障がいスポーツや女性スポーツの他、近年、スポーツ界で生じているいじめや暴力、ハラスメントなど、様々な問題、課題等について、スポーツを多角的な視点から考えることで、生涯にわたるスポーツとの関わり方について考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	スポーツ科学系科目	スポーツと人権・平和	スポーツは社会に対して大きな影響力を持っているため、スポーツにおける人権侵害や不祥事は、我々に対して、現代社会の問題点を鮮やかに浮き彫りにする。一方で、スポーツにおける先進的取り組みや平和への呼びかけは、その影響力ゆえに、社会を変革するきっかけにもなり得る。 本講義では、スポーツとは何か、スポーツと人権はどのような関係にあるか、スポーツと平和はどのような関係にあるかについて、歴史を踏まえた上で、具体的な事例を通して考察する。スポーツと人権というテーマでは、スポーツ界における人権侵害とその保障、平等の実現という側面と、スポーツによる（スポーツを利用した）人権の擁護という側面の二つの側面から検討する。スポーツと平和というテーマでは、スポーツが平和な国際社会の実現においてどのような意味をもつかを考察する。	
			スポーツ文化史	本講義では、それぞれの時代や社会でスポーツその他の身体文化がどのように位置づけられてきたかについて、国家、権力、階級、植民地主義、経済、教育、民族、宗教・儀礼、マスメディア、ジェンダー、グローバリズムなどとの関わりを視野に入れながら考える。文化論的な観点からスポーツを考察しようとする場合、そこに盛り込まれている意味を読み取ることは、重要な作業である。このような観点から、スポーツをめぐる表象分析のための手がかりとしてスポーツ記事やスポーツ映画などを適宜取り上げる。スポーツという文化を通じて人間・社会への洞察を深め、それぞれのスポーツ現象がどのような社会的基盤のもとに表出しているのかについて論じられるようになることを目指す。	
			スポーツ科学最前線	本講義では、スポーツ科学が何のために、何を研究の対象として、またどんな研究方法で研究がおこなわれているのか、そして、これまでどのようなことが明らかにされているのか、さらにスポーツ科学の今後の課題や展望は何か、これらのことについて広く浅く出来るだけわかりやすく具体的実例を交えておもしろく紹介する。トップアスリートを含めたパフォーマンス向上のための競技スポーツにおいて、今日どのような科学的成果が取り入れられ、またどのような研究手法がとられているか、それらが一般人のスポーツパフォーマンス向上にどのように役立てることができるのかも含め、さまざまな角度から具体的事例をあげて紹介する。スポーツのパフォーマンス分析やトレーニング方法について、より科学的な見方･考え方ができるようになり、スポーツ科学を実践に取り入れる必要性とその方法についての理解を深めることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教養科目	教養教育科目特別講義	（概要）本講義では、本学の「建学の精神」をふまえ、ボランティアやＮＰＯ・ＮＧＯなど市民活動の基本的な内容を理解し、社会の中で市民活動が持つ意味を学ぶ。具体的には、ボランティア・ＮＰＯの主な活動分野である国際協力、災害復興、環境保全、まちづくり、こども、社会福祉、スポーツなどの専門家が、それぞれの現状や課題についてわかりやすく講義を行う。また、本学ボランティア・ＮＰＯ活動センターの活動内容を紹介し、「ボランティア活動を通じた自分自身の学びと成長」について考える。 本講義を通じて、受講生が「建学の精神」をふまえ、ボランティアやＮＰＯ・ＮＧＯなど市民活動が社会の中で持つ意味を深く理解し、学生自身が市民社会の担い手として「より善き社会」をつくりあげるために具体的に行動できることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （45　阪口　春彦／1回） 福祉分野におけるボランティアの意義を学ぶ。 （55　筒井　乃り子／5回） ボランティアやＮＰＯ・ＮＧＯなどの市民活動についての基本的な考え方などを学ぶ。 （63　浜井　浩一／1回） 罪を犯した人が更生するために欠かせない地域の支援について、国内外の様々な制度や活動事例をとおして学ぶ。 （71　松永　敬子／1回） スポーツボランティアの意義と取り組み事例について学ぶ。 （76　八幡　耕一／1回） 観光分野におけるボランティアの現在・未来について学ぶ。 （80　石原　凌河／1回） 東日本大震災から考えるこれからの災害復興支援活動について学ぶ。 （84　打本　弘祐／1回） 「建学の精神」と仏教者の社会活動（ビハーラ）、臨床宗教師の取り組みについて学ぶ。 （92　島根　良枝／1回） インドのグッドプラクティスから学ぶ効果的な支援のための発想と視点について学ぶ。 （95　谷垣　岳人／1回） 森林・里山保全活動の事例や、自然と人間、都市と農村の共生について学ぶ。 （118　中根　智子／1回） 国際協力の分野で大学生など若者が参加できるボランティア活動について学ぶ。 （120　村田　智美／1回） 住民参加とボランティア活動について学ぶ。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	教育科目	バークレー語学	語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムの語学科目。このプログラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレーで主にオーラルコミュニケーション能力の向上を目的とした現地の英語プログラムに参加する。	
		バークレー講義	語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムの講義科目。このプラグラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレーにある学生交換協定校による「Introduction to Contemporary American Society」「Cultural Diversity in American Society and Religion」を英語で受講し、アメリカ社会の現状と多文化共生を理解する。	
		バークレーボランティア	語学（英語）・講義（アメリカ文化）・ボランティア活動（ボランティア活動を通じた語学運用能力と、異文化理解）を組み合わせた海外研修プログラムのボランティア活動科目。このプラグラムは主に初年次生を対象とし、本学での授業を受講の後、カリフォルニアのバークレー地域の小学校、老人福祉施設等でボランティア活動を行い、その活動記録をまとめるとともに英語による最終プレゼンテーションを行う。米国でのボランティアを通して、コミュニティに対する意識を高めるとともに、英語運用能力を高めることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	フレッシャーズゼミ	（概要）本科目は、10名の教員によるオムニバス方式の演習である。ここでは、大学で幅広くかつ専門的に学ぶために必要となる基礎力養成と、大学での学びと卒業後の社会参加のあり方について教員や受講生同士の対話による検討を通して、学生が主体的に深く学ぶ姿勢を身につけることを目指す。 教員5名を1グループとし、5クラスを担当する。 （オムニバス方式／全15回×10クラス） （2　吾勝　常行／3回、21　梅野　智美／3回） 論文や文献、新聞等による情報収集と要約・レジュメ作成の基礎力を養成する。 （5　児玉　龍治／3回、17　小正　浩徳／3回） 誕生から今に至るまでの生活から心理学的問いを発見する。 （7　髙林　学／3回、13　水口　政人／3回） 日常のコミュニケーションから心理学的問いを発見する。 （16　許　秀美／3回、18　野呂　靖／3回） 大学での学びと卒業後の社会参加を考える。 （22　志田　望／3回、23　牧　久美子／3回） コミュニケーションとディスカッション、プレゼンテーションの基礎力を養成する。	オムニバス方式
		心理学基礎演習Ａ	（概要）本演習は、「フレッシャーズゼミ」での学修内容を踏まえ、心理学における各領域の基礎知識を修得する上で必要となる、主体的に学ぶ姿勢を身に付けることを目的とし、グループワークやディスカッション、レポート等の作成を通して基礎的な調査方法を学ぶ。 （2　吾勝　常行） 大学での学びは、受講生各自が主体的に学び、目標達成感を経験することが大切である。そこで、この演習では学びの基本を身につけることを目的とする。具体的には、グループワークを活用して、人と対話すること、傾聴すること、会話に参加すること等の体験学習をとおして対人コミュニケーションのエッセンスについての理解を深め、「人を理解すること」を目的とする。対話や傾聴、会話への参加等は日常的に行っていることであるが、この演習では、対人コミュニケーションのエッセンスを理解することにより、より高度な対話スキルを意識的に使えるようになることを目的とする。そのためには、多様な場面におけるより客観的な観察、具体的な対応方法、コミュニケーション能力の向上を目的とした演習を行い、それを学術的な文章として記述できるようにする。 （5　児玉　龍治） 本科目は、心理学に関わる課題を受講生が設定し、レジュメを作成し、発表を行うことを中心とした演習を行う。また、そうしたことを通して、大学での学びの訓練を行い、自らの考えをレジュメやレポートとしてまとめ、相手に分かりやすく伝える能力を養う。具体的には、①レジュメのアウトラインの作成方法、②レジュメの作成方法、③レジュメの発表方法、④レジュメをレポートにまとめる方法、⑤文献の収集と整理の方法などを取り上げていきたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学基礎演習Ａ	（6　滋野井　一博） 本科目は、「フレッシャーズゼミ」の学修内容を踏まえ、①心理学領域の学びや調査研究に関する基礎的な知見や取り組む姿勢に関する学修、②自己理解・他者理解に関する学修、③心理学領域に関する学術的な論文の収集と接し方の３点を中心とした演習を行う。具体的には心理学領域において、興味のあるテーマに関する先行研究の収集・検討を各課題に応じて個別またはグループ形態にて展開していく。このような履修を踏まえて個別のテーマに立ち戻り、次年度の演習に向けた課題レポートを作成する。また、履修課題としてまとめた知見や調べて得られた情報について整理・発表する活動を通して、人に関する履修に求められる倫理的視点を踏まえたアプローチと情報共有のあり方について検討していく。 （7　髙林　学） 主体的に学ぶことを目標とし、学びの基本を身につけることを目指す。そのためには、自分で考える能力を身につけることが重要である。心理学全般に対する興味関心を広げ、自ら興味を持ったテーマについての文献や書籍の検索の仕方、書籍や論文の読み方などを学ぶ。また、自分なりの興味関心についてグループワークでのディスカッションを通して、自分の意見を主張したり、他者の意見を聞いたりする立場を交互に体験し、体験を通して自分自身のコミュニケーション能力の向上につながるようにする。 （13　水口　政人） フレッシャーズゼミでの学修内容をふまえ、心理学研究の基礎を学ぶ。具体的には、各グループで設定したリサーチクエスチョンを明らかにするための方法を検討し、それに基づいた調査等を実施する。この結果についてグループ発表を行い、さらにディスカッションを行う。これらを通じて、心理学研究を行うための課題の発見とその課題に対する論理的な思考やデータ分析の基礎力を養成する。 （17　小正　浩徳） 本演習では、フレッシャーズゼミで学修した内容をふまえて、大学における心理学研究の基礎を学ぶ。具体的には、受講生同士のグループを作り、そのグループでリサーチクエスチョンを設定する。設定したリサーチクエスチョンを明らかにするための方法を検討し、それに基づいた調査等を実施する。この結果についてグループ発表を行い、さらにディスカッションを行う。これらを通じて、心理学研究を行うための課題の発見とその課題に対する論理的な思考やデータ分析の基礎力を養成する。 （20　堀内　詩子） 大学での学びは、主体的に学ぶことであり、学びの基本を身につけることを目指す。臨床心理学にとって重要なことのひとつは、「自分を理解すること」である。それは、人と対話すること、傾聴すること、会話に参加することなど、日常的に意識せずに行っている行動である。それらについて、より高度なスキルを意識的に使えるようになることを目的とする。そのために、様々な場面における客観的な観察、応対の具体的な方法、コミュニケーション能力の向上のため、臨床心理学的な立場からの演習を行い、それを学術的な文章として整理できるようにする。 （21　梅野　智美） 本演習では、フレッシャーズゼミでの学修内容をふまえ、心理学研究の基礎を学ぶ。具体的には、各グループで設定したリサーチクエスチョンを明らかにするための方法を検討し、それに基づいた調査等を実施する。この結果についてグループ発表を行い、さらにディスカッションを行う。これらを通じて、心理学研究を行うための課題の発見とその課題に対する論理的な思考やデータ分析の基礎力を養成する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学基礎演習A	（22　志田　望） 心理学を学ぶ上では、人の行動や感情、関係性など、複雑な要因について主体的に調べ、人と議論し知識を深めることが基本的なスキルとして求められる。本講義では、各自の学生が興味関心のある領域を入り口として、「問い」をたてること、資料収集の方法、資料の分析・考察の仕方を体験的に身に着けることを目標とする。 （23　牧　久美子） 主体的に学ぶことを目標とし、学びの基本を身につけることを目指す。心理学に対する興味関心を広げ、自ら興味を持ったテーマについての文献等の検索の仕方、書籍や論文の読み方などを学ぶ。また、各自の興味関心について、自分の意見を主張したり、他者の意見を聞いたりする立場をグループディスカッションを通して体験し、コミュニケーション能力の向上につながるようにする。	
		心理学基礎演習B	（概要）本演習は、「心理学基礎演習A」での学修内容を踏まえ、心理学における各領域の基礎知識を修得した上で、研究テーマの設定方法や論文の書き方の基礎の修得を目指す。これらを通じて心理学研究を実践するための基礎的な知識の獲得と、主体的かつより探求的に研究に取り組む姿勢を養成する。 （2　吾勝　常行） この演習では、受講生各自の問いを発見し、資源を活用することでその問いを昇華し、研究テーマ（仮）を設定することを目的とする。具体的には、「心理学基礎演習A」で身につけた大学での学び方をとおして自らの問いを発見し、グループワークや個人学修、図書館利用やインターネットを活用した文献検索等で得られた資源を活用してさらに発展させ、研究テーマとして実証するための調査研究の基本的な手続きについて習得する。またその結果を整理して、一定の形式で記述・考察して発表やディスカッションを行う。この一連のプロセスをとおして、心理臨床学的な物事の考え方と調査方法を習得することを目的とする。 （6　滋野井　一博） 本科目は、心理学基礎演習Aの学修を踏まえ、①児童期及び青年期の子どものこころの発達と問題にその対する心理的援助の機能的意義の探究、②卒業論文作成に向けた演習活動を視野に入れた心理学領域における人や心に関する「問い」を発掘と研究テーマの探究の２点を中心とした演習を行う。具体的には、まず、心理学領域において興味・関心が事象から研究のテーマと動機の裏付けとなる心理的・社会的背景を整理していく。次に研究の目的設定に向けたキーワードに関する先行研究の収集とその概観をまとめていく。演習形式としては各演習の課題に応じて個別またはグループ形態にて展開していく。 （7　髙林　学） テーマにもとづいた文献検索と、それらを整理したり要約したりの作業を通して、自らの意見を述べられるようにする。論文作成の基礎となる、論理的に主張する力、考察する力を身につけ、他者に読ませるための文章を書くための基礎的な力を養う。そのため、グループ研究を通して人間関係を学び、主張する力を身につけるようにする。グループ発表では、プレゼンテーションについて学び、他者の発表に対する意見を述べたり、他者からの問いに答えたりする体験を通してコミュニケーションについて考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学基礎演習B	（10　藤原　直仁） 本演習は，自分が今どのようなことに関心があるのかを再確認し，その関心を深めていくきっかけを提供できる場となるように進める。大学では自らの関心を，自らが深めていこうとする姿勢をもつことが何よりも大切である。心理学部へ入学した学生は，少なからず心理学に関心をもっていると思われる。しかし，その関心を深めていくには，さまざな角度からのアプローチを考える必要がある。そうしたアプローチのあり方を学修することで，関心をもつ対象を考察するための自分なりの視点をつかむことを，本演習の目的とする。 （13　水口　政人） 心理学基礎演習Aで学修した内容をふまえ、その発展的な演習を行う。具体的には、心理学研究における論文構成のあり方を学び、実験や調査をグループで実施し、レポート作成をすることを通じて、論文の書き方の基礎の修得を目指す。また、日常生活における心理学的な疑問に関するグループディスカッション等により、研究テーマについての検討を行う。これらを通じて心理学研究を実践するための基礎的な知識の獲得と、主体的かつより探求的に研究に取り組む姿勢を養成する。 （15　伊東　秀章） 日常生活にどのような心理が介在しているのかを探り、検討する力を身につける。それぞれの学生の関心が高い心理学に関係するテーマを選択し、文献を検索する力をつけ、整理・分析する力をつける。その結果から、そのテーマの課題を見つけ出し、大学生を対象とした調査を行う。調査を行い、その結果を分析し、考察する過程を通じて、心理学研究法の具体的な応用方法と専門領域を学ぶ。 （17　小正　浩徳） 本演習では、心理学基礎演習Aで学修した内容をふまえ、その発展的な演習を行う。具体的には、心理学研究における論文構成のあり方を学び、教員が課した心理学実験や調査をグループで実施、レポート作成をすることを通じて、論文の書き方の基礎の修得を目指す。また、研究テーマの生成を目指して、日常生活における心理学的な疑問に関するグループディスカッション等により検討を行う。これらを通じて心理学研究を実践するための基礎的な知識の獲得と、主体的かつより探求的に研究に取り組む姿勢を養成する。 （19　廣橋　諒一） 大学での学びにおいては、自ら問いや課題を立て、探求するテーマを設定し、先行研究の概観や仮説検証を通して、自らの問いや課題を整理し、考察していくことが必要となる。本科目では今後卒業論文を作成するにあたって必要となる研究テーマを探究し、心理臨床の主要な実践領域に関してグループ学習を行いながら研究の基礎的な手続きを習得する。また、グループ学習で検討したことをまとめ、発表することを通して受講生同士が相互に学びを深め、各自の研究テーマの探索に繋げる。 （20　堀内　詩子） 人を理解する方法は様々であり、臨床心理学の視点から客観的に研究するという行為を通して、自らの参照枠に気づいたり、視点を修正できるようにすることを目的とする。そのため、臨床心理学の４領域と臨床心理学の対象と活動領域について理解を深める。また、臨床心理学研究の基本、臨床心理学研究における倫理、研究をすすめるためのステップ等、臨床心理学研究の基礎講義と演習を行う。これらの演習を通じて客観的な視点の獲得と、実践的な研究方法の基礎を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学基礎演習B	（21　梅野　智美） 本演習では、心理学基礎演習Aで学修した内容をふまえ、その発展的な演習を行う。具体的には、心理学研究における論文構成のあり方を学び、実験や調査をグループで実施し、レポート作成を通じて、論文の書き方の基礎の修得を目指す。また、日常生活における心理学的な疑問に関するグループディスカッション等により、研究テーマについての検討を行う。これらを通じて心理学研究を実践するための基礎的な知識の獲得と、主体的かつより探求的に研究に取り組む姿勢を養成する。	
		心理学基礎演習C	（概要）本演習は、「心理学基礎演習B」での学修内容を踏まえ、心理学の各領域における専門性を理解した上で、調査・研究、ディスカッションなど実践的な演習を通して、心理学研究の研究方法を理解し、3年次以降の演習での心理学研究を行うための知識や技能の養成を目指す。 （2　吾勝　常行） この演習では、受講生各自が興味関心をもつ領域についての研究テーマの絞り込みと、5・6セメスターでの調査研究のための基礎的な作業を行う。具体的には、「心理学基礎演習B」で設定した各自の研究テーマ（仮）を見直し、さらに図書館利用やインターネットを活用した文献検索等により研究テーマのブラッシュアップ（改善）を図る。先行文献の収集・読み込みを通してまとめ、各自の研究テーマに適った調査方法の選択を指導する。その上で、ゼミ発表を複数回行う。複数回行うことで、各自の研究テーマの絞り込みと質疑応答によるブラッシュアップ（改善）を図り、より質の高い研究テーマに仕上げることを目的とする。 （6　滋野井　一博） 本科目は、心理学基礎演習Bの学修を踏まえ、更に興味・関心のある研究論文の収集・分析を検討し、テーマを絞り込むためのキーワードをもとに先行研究の概観を整理していく。研究目的の設定に向けた予備的な調査が必要となる場合は、その調査を個別またはグループ形態にて実施していく。その結果を踏まえて、各自のテーマに立ち戻り、心理学演習を視野に入れた個別の課題レポートを作成するとともに相互発表による意見交流を踏まえて、取り組んでいる研究の意義の確認や本調査に向けた研究計画を検討する。 （7　髙林　学） 各自の関心事にもとづいて文献を検索し、それらを要約して先行研究の概観を作成し発表することを通して、自分自身のテーマに関する理解を深めることや、研究論文作成の手続きやその形式について学ぶ。人を対象としたさまざまな研究方法の理解を促し、研究計画書の作成に取り組む。それらの発表を通した質疑応答から、プレゼンテーションでのコミュニケーションや人間関係について理解を深める。特に、研究倫理についての講義を行い、人を対象とする研究での配慮についてディスカッションを通して考察する。 （10　藤原　直仁） 本演習は，心理学基礎演習Bで再確認した心理学領域における自らの関心をベースにして，その内容へのアプローチのあり方を深化させることができるように進める。 そのためには，基本的なアカデミック・スキル（調べる，読む，書く，話す等）を身につける必要がある。 たとえば，プレゼンテーション力を高めるには，そうしたスキルを磨くことが大切である。本演習では，学生個々が発表するために必要となる文献検索のあり方等の学修を通して，アカデミック・スキルを向上させることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学基礎演習Ｃ	（13　水口　政人） 心理学基礎演習Bで学修した内容をふまえ、心理学研究を行うにあたり必要となる先行研究の収集と分析ならびにその整理方法について実践的演習を行う。具体的には、自ら課題を設定し、先行研究について収集する。収集した研究論文を教員が示した方法に則って要約し、先行研究のレビューを作成する。これらを通じて心理学研究を行うための文章力や表現力を養成し、卒業研究でのテーマ設定の基礎づくりを行う。 （15　伊東　秀章） 心理学を活用してどのような人が社会で活動しているのか、また、その領域の課題があるのかを学ぶ。心理援助現場など、それぞれの特徴は異なり、さらに組織や施設によって体制も多様である。事例論文や調査研究を図書館などを活用して入手し、各研究領域の概観を作成し、検討する。その上で、各研究領域に対してリサーチクエスションを作り、実際に心理学を応用して働いている専門家へインタビュー調査を行う。インタビュー結果をまとめる過程を通じて、心理学研究法の具体的な応用方法と専門領域を学ぶ。 （17　小正　浩徳） 本演習では、心理学基礎演習Bで学修した内容をふまえ、心理学研究を行うにあたり必要となる先行研究の収集と分析ならびにその整理方法について実践的演習を行う。具体的には、受講生が自ら課題を設定し、その課題に関する先行研究を学術雑誌やJ-stageやciniiなどを通じて収集する。収集した研究論文を教員が示した方法に則って要約を作り、先行研究のレビューを作成する。これらを通じて心理学研究を行うための文章力や表現力を養成し、次の心理学演習や卒業研究のテーマ設定の基礎づくりを行う。 （19　廣橋　諒一） 大学での学びにおいては、自ら問いや課題を立て、探求テーマを設定し、先行研究の概観や仮説検証を通して、問いや課題を整理し、考察していくことが必要となる。本科目では各自の研究テーマを絞り込んでいくために、受講生それぞれが興味関心のある領域や研究テーマに関する先行研究の概観を整理し、リサーチクエスチョンを立て、まとめた結果をゼミ内で発表することで受講生相互に学びを深める演習を行う。また、研究テーマを検討するにあたって予備的調査が必要な場合には、その調査を実施してまとめることで臨床心理学的な課題探究力を身につける。 （20　堀内　詩子） 人を理解する方法は様々であり、臨床心理学の視点から客観的に研究するという行為を通して、自らの参照枠に気づいたり、視点を修正できるようにすることを目的とする。そのため、臨床心理学の４領域と臨床心理学の対象と活動領域について理解を深める。また、臨床心理学研究の基本、臨床心理学研究における倫理、研究をすすめるためのステップ等、臨床心理学研究の基礎講義と演習を行う。これらの演習を通じて客観的な視点の獲得と、実践的な研究方法の基礎を身につける。 （21　梅野　智美） 本演習では、心理学基礎演習Bで学修した内容をふまえ、心理学研究を行うにあたり必要となる先行研究の収集と分析ならびにその整理方法について実践的演習を行う。具体的には、自ら課題を設定し、先行研究について収集する。収集した研究論文を教員が示した方法に則って要約し、先行研究のレビューを作成する。これらを通じて心理学研究を行うための文章力や表現力を養成し、卒業研究でのテーマ設定の基礎づくりを行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学概論	心理学の歴史と成り立ちについて学び、体系的に学ぶ。また、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できるようになる。特に基礎心理である、認知心理学・教育心理学・社会心理学を中心に、学習を深める。心理学の基礎を成す、動物実験などの研究を踏まえて、現代心理学がどのような科学観によって成立しているのかを学び、人を対象とした心理学の実験から応用的な考え方を養う。また、資料や動画などを用いて、机上の学問ではなく、自分自身や生活に根付いた学問であることを学ぶ。	
		発達心理学	本授業では発達を生涯続くものとして捉え生涯発達を軸に扱っていく。その方法として、基礎的な理論の概要を把握した上で、発達を認知機能の発達と感情と社会性に関する発達の2つの側面で再考する。エリクソンの理論を軸に乳幼児期、児童期に加えて、青年期、中年期、老年期までの生涯を通した発達（発達課題）を扱い、学習障害や発達障害など非定型の発達についても触れる。また臨床心理学との繋がりから、自己の発達、他者との関係の発達についても理解をし、人を支援していくために、発達という観点から人を見立てていくための必要な知識の習得を目指す。	
		臨床心理学概論	臨床心理学は対人援助を目的とした実践的な学問である。公認心理師および臨床心理士の専門業務としては、保健医療、福祉、教育その他の分野において専門的知識及び技術をもち、様々な援助と情報提供などを行うものである。臨床心理学の基礎には様々な考え方がある。臨床心理学の成り立ちについて概説するとともに、臨床心理学の代表的な理論をはじめ、それぞれの領域における基本的な概要の説明を行い、臨床心理学の全体像を理解することができるよう講義を進める。	
		心理学的支援法	臨床心理学を基盤とした心理学的支援法である心理臨床行為の概要（心理面接・心理アセスメント・コミュニティアプローチ・研究）を理解したうえで、カウンセリングの歴史から代表的な心理療法について、要支援者の関係者を含む地域支援の意義、心理臨床行為の前提としてのコミュニケーション方法と倫理的配慮、心の健康教育について学ぶ。	
		心理学研究法概論	科学的な認識論によって人の心理の記述をどのように行うのかについての基本的な考え方を学ぶ。特に、帰納的推論を活用した質的研究法と、演繹的推論を活用した量的研究法について、データ取得と分析の方法、結果の読み取り方について学ぶ。質的研究法では、面接法や自由記述式質問紙法などのデータ取得方法、KJ法などの具体的な分析方法を学ぶ。量的研究法では、質問紙法や実験法などのデータ取得方法、記述統計・推測統計などの具体的な分析方法を学ぶ。	
		心理学統計法概論	臨床心理学の領域では様々な研究法がある。その中から「観察法」「面接法」「質問紙法」を取り上げ、データの収集と処理、記述に関する講義を行う。必要に応じて演習の形式も取り入れ、卒業論文における研究手法を体験的に学び、技術として身に着けることを目的とする。	
		心理的アセスメントⅠ	心理的アセスメントについて基礎的な内容を扱う。アセスメントの方法は、面接法、観察法、知能検査や発達検査、人格検査（質問紙法・投影法）など、多岐にわたる。その概要を理解するとともに、簡単な心理検査などを体験しながら学ぶことを目的とする。また、アセスメントで得られた結果をフィードバックすることや、支援を求める人の利益に繋がるために心理師として求められる専門性や倫理観などにも触れ、家族史の扱い方やラポールを築く重要性などにも言及していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	生涯発達と関係支援	（概要）本講義では、対人援助の方法論を大きく２つに分けて捉え、その両方の立場や方法について講義によって理解を深める。 （オムニバス形式／全15回） （3　赤津　玲子／7回） 家族療法の認識論として発展したシステム論にもとづくシステムズアプローチは、個人の心ではなく、人間関係とその状況にアプローチする関係支援の理論である。その背景となる家族療法の諸理論について説明しシステム論について学び、不登校やひきこもりで本人が来談できない関係者支援の方法と実際について理解を促す。 （4　内田　利広／8回） 対人援助の対象となるのは、様々な悩みや不安を抱えたクライエントであるが、その悩みや不安は人間の発達段階におけるあらゆる時期で起こる可能性がある。本講義の前半では、そのような人間の一生涯にわたる発達段階において、発生する悩みや苦悩の現状、その発達的な特徴や支援の在り方について、解説する。	オムニバス方式
		心理学とデータサイエンス	（概要）本講義は，心理学領域におけるデータサイエンスの入門的科目と位置づけ，心理学とデータサイエンスのつながりについての基本的理解を深めることを主たる目的とする。 （共同（一部）／全15回） （10　藤原　直仁／15回） 導入，基礎，心得の3つで構成し，「社会におけるデータ・AIの利活用」，「データリテラシー」，「データ・AIの利活用における留意事項」の解説を行う。 （17　小正　浩徳／3回） 本科目の応用的展開を視野に入れると，「心理学の職業的展開」をあわせて履修することが望ましく、本科目と「心理学の職業的展開」の関連についての解説を行うことを通して，両科目併修による学修効果の向上を図る。	共同（一部）
		キャリアと心理	（概要）本科目は、学生自身のキャリア形成の基礎となるものである。大学での学びを大学卒業後の進路選択や職業選択、長期的な人生設計に役立てられるように、講義やディスカッションを通して考える機会とする。具体的には、大学で心理学や教養科目を学ぶことの意義、社会参加する際に必要となるマナーとコミュニケーション、自己分析と自分史作成などを行う。 あわせて、上回生やOBOGから就職活動に関する経験を聞くことや、キャリアセンターとも協働し、大学で学んだことを社会にどう生かしていくのかといったことも検討する。 （オムニバス方式／全15回） （18　野呂　靖／9回） 大学で教養科目を学ぶ意義と、社会参加で必要となるマナーとコミュニケーション等について講義を行う。 （22　志田　望／6回） 大学で心理学を学ぶ意義と自分史作成、自己分析等について講義を行う。	オムニバス方式
		キャリアデザイン論	本科目は、学生自身のキャリア形成の基礎となるものであり。ここでは、将来社会に参加することについて見通しをもつことと自分自身のキャリアデザイン力の涵養を目指す。具体的には、キャリアに関する諸理論を概観し、キャリアデザインがなぜ必要とされているのかを考える。また、就職と退職について人生設計の視点から考える。就職については、大学のキャリアセンターとも協働をし、業界・企業研究の方法と実際について取り上げ、退職については、老年期の発達課題といった視点からも検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病	身体の仕組みに関する生理学的な知識、身体疾患により起こる症状を理解し、それらが人々の生活に及ぼす影響について学ぶ。そして、身体的変化が人の心理やその関係者に与える影響を知り、生理・心理・社会という視点の重要性について学ぶことを目的とする。	
		心理学実験	本講義では，心理学における実験について，①実験の計画立案，②統計に関する基礎的な知識を習得するために，トピック的な事項も含め解説する。講義中，簡単な実験も行う予定であるが，本講義の主たる目的は，心理学における実験とは何かについての基本的理解を深めることにある。 なお，本講義の具体的内容には，①レポートの書き方，②心理学実験の倫理，③調整法，④極限法，⑤恒常法，⑥マグニチュード推定法，⑦一対比較法，⑧正反応・誤反応，⑨実験とモデル構成，⑩反応時間，⑪潜在性，⑫実験と理論構成，及び⑬統計の基礎の13項目を含む。 公認心理師受験資格取得を希望している学生は，必ず履修すること。	
		神経・生理心理学	本講義では，①脳神経系の構造及び機能，②記憶，感情等の生理学的反応の機序，③高次脳機能障害の概要に関する基礎的な知識を習得するために，神経・生理心理学領域におけるトピック的な事項も含め解説する。本講義の主たる目的は，神経・生理心理学への基本的理解を深めることにあり，必要に応じて視聴覚資料も活用する。 なお，本講義の具体的内容には，①脳神経系の解剖，②神経系の情報伝達，③大脳皮質の機能局在，④脳神経系機能の研究方法，⑤神経の可塑性と環境の影響，⑥感覚・知覚と脳神経系，⑦運動と脳神経系，⑧記憶と脳神経系，⑨感情と脳神経系，⑩動機づけと脳神経系，⑪高次脳機能障害，⑫精神疾患と脳神経系の12項目を含む。 公認心理師受験資格取得を希望している学生は，必ず履修すること。	
		障害者・障害児心理学	本科目は、①身体障害、知的障害及び精神障害に関する診断基準や行政的な定義にみる障害特性に関する概要、②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援の２点を中心とした講義を行う。具体的には、身体障害、精神障害、神経発達症（発達障害）に関する医学的・心理的な病理特性等について概説するとともに、障害における「生物・心理・社会モデル」をふまえたうえで、医療・教育・福祉等の現場での障害者及び障害児自身やその家族・関係者が抱える課題と多職種連携を視野に入れた支援のあり方について検討を行う。 公認心理師受験資格を志向する学生は本科目の単位履修の検討を期待する。	
		福祉心理学	本科目は、① 福祉現場において生じる問題及びその背景、② 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、③ 虐待および認知症についての基本的知識の３点を中心とした講義を行う。具体的には、社会福祉にまつわる歴史や近年の動向、理念、制度、法律を概説するとともに、福祉職と心理職についてその専門性の同異点と連携のあり方を検討する。また、虐待と認知症に焦点をあて、心理職が児童・家庭・高齢者・障害者等の福祉現場にて他職種と協働していくために必要な支援方法や倫理、心理的アセスメントについても取り上げていく。 公認心理師受験資格を得たい学生は必ず本科目の単位を取得すること。	
		健康・医療心理学	心療内科を中心とした医療現場での疾患の具体例を取り上げながら、人の健康には、生物学的な身体的問題だけでなく、社会的な環境的要因や日常的な心理的要因などが関与することを理解できるようにする。これによって医療領域での医学的視点の基礎となっているbio-psycho-social modelを理解できることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	教育・学校心理学	本科目では、①教育現場において生じる問題及びその背景、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を中心とした講義を行う。具体的には、教育にまつわる制度、法律を概説するとともに、教育分野での心理学的支援における倫理を検討する。また、教育現場にて教員、家族その他関係する職種と協働していくために、発達心理学、教育心理学、特別支援教育などの知見も踏まえつつ、アセスメントや心理学的支援方法について具体的に説明をする。公認心理師受験資格を得たい学生は必ず本科目の単位を取得すること。	
		脳と心	”Decade of the Brain” が唱えられたのは，1990年であった。そして近年の脳科学の発展に伴い，「脳」と「心」のつながりへの関心が高まり，「心」の座が「脳」にあるとの考えが共有される中で，従来とは異なる切り口から「心」を捉えようとする研究も広がりをみせてきている。 本講義は，「脳」と「心」の関係についてどのようなアプローチが心理学や隣接領域において行われているかについて，トピック的な事項も含め多面的に紹介し解説することを通して，「心」について考える際の新たな視点の獲得を主たる目的とする。	
		乳幼児の発達	本授業では、特に臨床心理学の観点から乳幼児の発達について捉え、主な養育者との関係性や自我の芽生えなどを扱う。人生の始まりである乳幼児期は、生活の土台、人間関係の土台、自己の土台を築く時期である。また乳児院や児童養護施設における子どもの心身の発達、子育てをする側（保護者）の心理についても理解を深め、乳幼児と親との関係、社会との繋がりについて考えながら、子どもが成長していく過程を追うことを目的とする。	
		児童思春期精神医学	授業は講義形式で行い、小テストにより各講義の理解度を確認する。児童・思春期に比較的頻度が高くみられる精神疾患についての基礎的な概念を理解することを目標とする。授業は、定型的な発達過程に言及した上で、児童・思春期にみられる主たる精神障害である、神経発達症、抑うつ障害、不安症、摂食障害、排泄症、強迫症、および統合失調症スペクトラム、双極性障害などの状態像、治療（薬物療法、心理社会的介入）について概説する。	
		子どもの心理療法	子どもの心理療法では、本人のセラピーとしては遊戯療法が中心に行われる。非指示的遊戯療法を中心に公表されている事例を通して解説する。なお、子どもを対象とする際には子どもの心の理解、親子関係、家族関係の理解が必要になる。日本文化における家族の在り方を理解しつつ家族を含めた、並行面接、同室面接について解説する。また、精神分析の観点から子どもの心の理解を深めることを目的とする。	
		高齢者の心理と福祉	本科目は、福祉領域における高齢者の心理的理解と心理的支援、介護者の心理的支援などに焦点を当てながら講義を行う。具体的には、①高齢者の心理の理解（心理アセスメント）、②高齢者への心理的支援（個別カウンセリング、グループ・アプローチ）、③介護者の心理的危機への対応（コンサルテーション、心理教育、危機介入）、④社会資源の有効な活用方法（環境調整）、⑤高齢者の死と看取りにおける心理的支援などを取り上げてきたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	仏教と心理学	（概要）仏教と対人コミュニケーションについて理解を深めるための講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （2　吾勝　常行／8回） 自己実現を目的とした心理カウンセリングが、仏教の知見とどのように融合し、対人場面で活用されているかを検討するとともに、地域支援という観点から対人コミュニケーションの社会性について理解を深めることを目的とする。 （18　野呂　靖／7回） 自己と他者がどのように関係しあい、また自己がどのように他者との関わりのなかで形成されるかというコミュニケーションの問題について、仏教の基本的な関係理論（縁起・空）を踏まえつつ、東アジアに展開した宗教・哲学思想における対人コミュニケーション理論について理解を深めることを目的とする。	オムニバス方式
		コミュニティとシステム支援	福祉領域では、虐待、非行、不登校、ひきこもりなどさまざまな問題が山積されている。それらの背景には家族問題があり、保護者らへの支援が不可欠であると指摘されている。しかし、保護者ら自身が問題を抱えていたり、援助要請意欲が低かったりなど、支援が難しい現実もある。そのため、支援のためには個人の成長を促し傾聴するだけではなく、家族療法の認識論であるシステム論を用いた支援で人間関係にアプローチしていく方法が有効であると考えられる。また、多様な問題に対する多職種の連携への働きかけ方について検討する。	
		ストレスマネジメント	私たちは日々さまざまなストレスにさらされて生きている。本講義では、ストレスの性質（種類や心身に与える影響など）を理解し、自身のストレスの捉え方やストレスに対する反応のしかたのパターンを探る。そのうえで、健康でより生産的な生活を送るために、ストレスの効果的な対処法やコミュニケーション法を学ぶ。具体的には、リラクゼーション法、マインドフルネス、アサーティブなコミュニケーション、ポジティブ心理学的介入法などを体験的に学習する。学生は卒業後の日常生活でもストレスに面したときにこれらの対処法を活用し、ストレスを効果的にマネジメントできるようになることが大きな目標となる。	
		チーム医療	近年、わが国の保健医療分野では、病院で働く専門職が協力し合い患者への様々なケアを行う「チーム医療」に対する関心が高まっている。また、心理職の国家資格化によって、保険医療分野における心理職の職場は、精神科や心療内科にとどまらず、小児科、内科、外科など多岐に拡がり、チーム医療における心理職の需要が今後高まっていくことが予想される。しかし、現在ではチーム医療における心理職の役割が不明瞭であり、多くの課題が挙げられている。本講義では、精神科や小児科などで行われているチーム医療の現状について視覚的教材（医療番組や映画）などを用いて多くの事例を取り上げ、チーム医療における心理職の役割について学びを深める。	
		チーム学校とシステム論	学校臨床は1997年にスクールカウンセラーの配置が始まって以降、大きく変化している。当初は不登校など問題を抱えた児童・生徒を対象とした個人療法が中心であったが、現在では、保護者のカウンセリングや教師のコンサルテーション、心理教育など、スクールカウンセラーの担う役割には多くの期待が寄せられている。また、スクールソーシャルワーカーの配置を含め、多職種支援が求められ、チーム学校としてあるべき姿勢が問われている。本講義では、システム論にもとづくカウンセリング、チーム学校としての支援方法の理論を学び、学校現場での協働について検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	心理学の職業的展開	（概要）本講義は、社会の中で心理学がどのように活用されているのか、また心理学に どのような期待が寄せられているのかを学ぶものである。 （共同（一部）／全15回） （10　藤原　直仁／3回） 本科目にかかる基礎的理解を深めるには、「心理学とデータサイエンス」をあわせて履修することが望ましく、「心理学とデータサイエンス」の関連についての解説を行うことを通して、両科目併修による学修効果の向上を図る。 （17　小正　浩徳／15回） 受講生は、製造、流通、サービス、金融等の業種において、心理学がどのように活用されているのか、その応用可能性についてグループディスカッション等で検討を行う。その上で、人事やマーケティング、営業、商品開発などの担当者を招聘し、その業種や企業において心理学の応用可能性や期待に関するレクチャーを受ける。	共同（一部）
		仕事と社会人Ⅰ	本科目は、「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学ぶ。オン・ザ・ジョブ・トレーニングなど企業等が社員研修として行っていることを題材に演習形式で授業を行う。 特にここでは、企業と顧客におけるコミュニケーションに焦点をあて、サービス業や小売業、営業等で求められるコミュニケーションやビジネスマナーについて、心理学部での学びと企業等で行う研修を融合させた学修を行う。	
		心理学プロジェクト社会連携演習	本科目では、地域社会等の諸課題について、心理学的アプローチを活かした協働的能動学習を通じて解決方策を実践的に探究する。 課題解決型学習（PBL）を実施する中で、自ら考え行動する力、企画力、調査力、課題解決力、コミュニケーション力、チーム力を養うとともに、社会における心理学の学びの意義を実感することを目的とする。	
		生涯発達臨床心理学	人は生涯をかけて発達をすると言われている。人間の発達を誕生から死に至るまでの心身の変化とみなす生涯発達心理学の視点から、各発達段階の特徴と課題について概観する。また、その発達のプロセスで出会うさまざまな課題に対する心理臨床的な関わりの実際を事例を挙げながら論じ、心理臨床的支援について理解する。これら生涯発達に関する知識を習得したうえで、発達がめざましい「子ども」をメインにし、影響を与える家族・家庭の意義や機能などについて学ぶ。さらには、現代における子育て家庭の課題や子どもの心の健康に関する課題について理解を深める。私らしさ（個性）をもって生まれたひとりの人間が、周りの人や環境とやりとりしながら成長･発達していく、ダイナミックで柔軟な発達がイメージできることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門基礎科目	ライフサイクルとカウンセリング	（概要）本授業は、生涯発達臨床エリアの教員が、それぞれの専門領域、臨床心理学における理論的背景について、具体的な臨床実践の現場や働き方も含めて解説し、3回生以降のゼミ選択の基礎となる科目である。 （オムニバス方式／全15回） （2　吾勝　常行／2回） 仏教と心理学、ビハーラカウンセリングについての理論と実践の講義を行う。 （4　内田　利広／3回） 学校臨床、体験過程論的心理療法についての理論と実践の講義を行う。 （5　児玉　龍治／2回） 福祉臨床、エンカウンターグループについての理論と実践の講義を行う。 （6　滋野井　一博／1回） 発達障害、障害児支援と療育についての理論と実践の講義を行う。 （8　武田　俊信／1回） 児童思春期精神医学、認知行動療法についての理論と実践の講義を行う。 （12　三林　真弓／1回） 乳幼児と子育て、コミュニティ心理学についての理論と実践の講義を行う。 （14　森田　喜治／1回） 子どもの心理療法、心理面接における見立てについての理論と実践の講義を行う。 （17　小正　浩徳／2回） 学童期の子ども理解、死生観教育についての理論と実践の講義を行う。 （20　堀内　詩子／2回） 乳幼児の心理、音楽療法についての理論と実践の講義を行う。	オムニバス方式
		家族療法とシステムズアプローチ	家族療法はアメリカでの統合失調症の家族研究から始まった。当初は家族が治療の対象とされていたが、現在では家族と一緒に治療する方向に大きく変化している。本講義では家族療法の背景理論であるシステム論、コミュニケーション論、家族ライフサイクル論、構造派家族療法など、家族支援の理論からその流れを学ぶ。また、日本で展開したシステム論にもとづくシステムズアプローチが取り組む、不登校支援、ひきこもり支援等、本人が来談できない関係者支援の方法について学び、個人を人間関係と状況の中で理解し支援する方法について理解する。	
		目からウロコのコミュニケーション学	デカルト的二元論の科学観から、ベイトソン的な円環的認識論への飛躍について学びを深める。具体的には、エントロピーとパターン、システム論、人間コミュニケーションの語用論などの基礎的な学びを踏まえた上で、実際の人間同士のコミュニケーションを心理面接の逐語や動画の分析を行いながら学ぶ。また、日常の会話のパターンを観察・記述し、分析できる力を養う。会話の成り立ちと心理学の関係性について検討し、心理学的問題へのアプローチを学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	心理学演習	（概要）本演習では、心理学基礎演習で学修した内容を踏まえ、卒業研究を行うにあたっての実践的な指導を行う。 （1　吉川　悟） 心理学には様々な研究テーマが存在している。各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で発表、ディスカッションを行う。これらの体験を通して、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （2　吾勝　常行） この演習ではビハーラ活動領域（終末期医療、緩和ケア、高齢者介護等）を主な研究テーマとして、卒業研究に必要な演習を行う。また研究には量的・質的研究、受講生各自の選択した研究テーマがあり、各自の選択に対応した指導を行う。具体的な進め方として、各自作成した研究計画に基づき、5・6セメでは予備研究論文の作成、7・8セメでは卒業研究（論文）の作成と提出を目的とする。卒業研究（論文）における実証的な研究方法の手続きを習得するためには、文献の検索と熟読、調査データの収集と分析、調査結果の記述方法、卒業研究の目的と方法と結果の整合性の再検討等を習熟する必要がある。卒業研究（論文）提出後は、口述試問に向けた準備を行う。なお、ゼミ発表や研究報告会を適宜行う。 （3　赤津　玲子） 心理学には様々な研究テーマが存在している。各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で発表、ディスカッションを行う。これらの体験を通して、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （4　内田　利広） 臨床心理学には、様々な研究テーマが存在しているが、この演習では「教育臨床、思春期・青年期の心理と親子関係」を中心に取り上げ、PCA（パーソン・センタード・アプローチ）・体験過程療法の視点から子どもが示すこころの悩みや問題行動に対応した心理的援助の在り方についてディスカッションを通して学習する。そして、各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で討議する。これらの経験から、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	心理学演習	（5　児玉　龍治） 本科目は、3回生においては、卒業研究に向けたテーマの設定と先行研究の整理の方法に焦点を当てながら演習を行う。具体的には、①テーマ設定に向けた問題意識の深め方、②先行研究の収集と概観のまとめ方、などを取り上げていきたい。4回生においては、卒業研究完成に向けた、研究の方法、及び結果、考察の作成方法に焦点を当てながら演習を行う。具体的には、①研究対象者と研究方法の選定、②研究における倫理的配慮、③結果と考察のまとめ方、などを取り上げていきたい。 （6　滋野井　一博） 本科目では、①心理学領域における児童期及び青年期の心の機能に関する自らの「問い」の発見・生成・探究②自らの「問い」とする事象を研究の目的とするための心理社会的背景や先行研究の概観の検討③一連の履修を通して、自らの心や思考の変容過程を見つめ、自己理解を深めていく学修の3点を基に演習を展開していく。具体的に５セメスター・６セメスターでは、自らの研究の「問い」の探究に必要となる研究対象や方法について、十分な倫理的視点を踏まえた予備調査を通して、研究の意義の確認と本調査に向けて研究を実施していく上で求められる資質・技能の獲得を目指す。次いで７セメスター・８セメスターでは、予備調査を踏まえ先行研究を再検討し、卒業論文作成のための具体的な研究計画を立案・修正しながら履修生相互の意見交流から得られた視点や情報を活用して各自の研究を展開していく。 （7　髙林　学） 心理学には様々な研究テーマが存在している。各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で発表、ディスカッションを行う。これらの体験を通して、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （8　武田　俊信） 授業は講義形式に実習型式を適宜採り入れ、心理学的研究法の2代潮流である量的研究と質的研究について実際に研究が可能になる程度の理解度と実践力の養成を目指す。授業では研究倫理や先行研究の文献検索および文献の読み方にはじまり、各研究法について深く学んでいく。量的研究法についてはデータの解析法、質的研究法についてはインタビューの仕方、コーディングの方法などについてもふれる予定である。 （9　東　豊） 臨床心理学には、様々な研究テーマが存在しているが、この演習では「医療・福祉臨床」を中心に取り上げ、医療現場における臨床心理の立場やチームとして臨床活動をするための基礎的な姿勢について学ぶ。そして、各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で討議する。これらの経験から、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	心理学演習	（10　藤原　直仁） 本演習は，心理学基礎演習での学修を踏まえ，学生個々が卒業研究を進めるうえで必要となる主体的学修を促進することを目的とする。 具体的には，卒業研究に向け学生が関心のあるテーマを選び，考察を深めていくことが中心となる。これらの学修を通して，学生が自主的・積極的に研究を進めていこうとする態度を涵養するとともに，その研究内容をまとめる方法を具体的に学修する。 そのために本演習は，心理学基礎演習での学修をベースにして，心理学領域において自らが関心をもつ対象についての理論的な知識や実践的な技術を深めることができるように，より専門的な学修を進める。 （12 三林　真弓） 臨床心理学には、様々な研究テーマが存在しているが、この演習では「母子臨床」を中心に取り上げ、臨床心理学的な観点から、例えば絵本などの媒体を用いた母子交流の理解を身に付ける。そして、各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で討議する。これらの経験から、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （13　水口　政人） 心理学には様々な研究テーマが存在している。各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で討議する。これらの経験から、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （14　森田　喜治） 心理学では、多くの理論があり、多くの概念が存在するが臨床心理学の実践においては対象を理解する感受性が重要な役割をする。特に演習では遊戯療法についての実践的なアプローチについての指導を含め、箱庭、夢分析、投映法などの表現性心理学の体験、さらに講師オリジナルの表現方法の解説を実践的に行うことで、目に見えない心の世界を感じとる感受性を養成することを目的とする。 （15　伊東　秀章） 心理に関係する社会的問題についての事例研究や質的研究を取り上げ、社会的問題のパターンを分析し、応用する視点を体得する。また、自身の体験や、対人関係のコミュニケーションを記述することを通じて、自己分析を行い、自身や対人関係をメタ化できる力を身につける。これらの過程を通じて、心理に関係する社会的問題の具体的な事例研究や質的研究から学ぶ方法を体得し、また、日常の生活の中の自身をメタ認知できる能力を育み、心理学応用性を涵養する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	心理学演習	（17　小正　浩徳） 本演習では、心理学基礎演習Cで学修したことをもとに、卒業研究を行うにあたり実践的な指導を行う。ここでは、「人間の心の発達」ということを大きなテーマに、「グリーフケア」「死生観」「個別最適化」「特別支援教育」や受講生が自ら設定した研究のためのキーワードをふまえて、先行研究をまとめテーマを設定、研究の実施と発表、ディスカッションを行う。具体的には、５，６セメスターでは先行研究をまとめそこで得られた知見についてディスカッションを行うことを通じて、卒業研究にむけたテーマの具体化を目指す。７，８セメスターでは、それぞれが設定した研究テーマについて方法の検討を行い調査や実験等を実施し、得られた結果についてディスカッションを行うことを通じて、考察を行う。これらを通じて、受講生は卒業研究を完成させることとなる。 （19　廣橋　諒一） この演習では臨床心理学研究を行う上で必要となる専門の文献や研究論文を読みこなす力や探索的研究の手続き、基礎的研究方法を身につけることで、調査研究データの収集・分析を行い、その結果をまとめ、整理して発表、ディスカッションを行う演習を実施する。それらの学びを通して作成した予備研究論文を再検討し、卒業論文の研究テーマを深め、卒業論文作成に関わる本調査やその結果に基づく考察を行い、卒業論文を完成させる。また、ゼミ内で卒業論文の発表を行い、口頭発表と質疑応答の方法について学ぶ。 （20　堀内　詩子） 臨床心理学には、様々な研究テーマが存在しているが、この演習では「子ども臨床・音楽と心理学」を中心に取り上げ、臨床心理学における心理の考え方、それらを生かした様々な治療法、心理検査、クライエントの理解を身に付ける。そして、各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、研究論文の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、各自の関心領域におけるリサーチクエスチョンの立て方を演習を通して学び、予備調査としての位置づけとなる探索的研究を行い、データの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめをゼミ形式で討議する。これらの経験から、予備研究論文（ミニ・レビュー）の作成を義務づける。 （22　志田　望） 各自の学生が興味関心のある領域に関する臨床心理学的な研究を行うための取り組みを行う。研究計画の作成と並行して、調査方法、データ分析、考察記述の指導を行う。期末にはそれぞれが研究発表を行い、卒業論文にふさわしい研究を作成することを目標とする。 （23　牧　久美子） 各自の関心事に基づいて文献を検索し、それらを要約する作業とその発表を通して、卒業研究の作成手続きと、発表のための方法を学ぶ。また、調査方法、研究方法やデータの処理に関わる演習を行う。そして、それぞれの研究に関連する著書・論文を検討し、論文のまとめを発表し、ディスカッションを行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	卒業研究	（概要）心理学にかかわる領域での卒業研究の指導を行う。研究テーマを深め、研究方法の手続きや調査結果の整理の仕方、考察の書き方などを明らかにし、4年間の集大成としての卒業研究の作成を目標とする。 （1　吉川　悟） 心理学におけるさまざまな研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、先行研究の見直しをしたり研究計画を修正したりして発表し、その実現可能性についてディスカッションを通して吟味する。研究計画を実行し、データを採取、分析して結果の考察を行う。これらを基礎として、授業中に発表を行いディスカッションしながら修正する。ディスカッションを基に再度考察し、卒業論文の手直しを行い、プレゼンテーションのための準備を行う。 （2　吾勝　常行） ビハーラ活動領域（終末期医療、緩和ケア、高齢者介護等）に焦点を絞るとともに、臨床心理学における実証的な研究方法の手続きに基づいた卒業研究（論文）の指導を行う。具体的には、受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討するとともに、研究計画について見直しをする。個別指導として、研究テーマの決定、データの収集、分析とその解釈、考察の検討を行う。卒業研究（論文）提出後は、口述試問に備えて発表会を開催し、討議を行う。 （3　赤津　玲子） 心理学におけるさまざまな研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、先行研究の見直しをしたり研究計画を修正したりして発表し、その実現可能性についてディスカッションを通して吟味する。研究計画を実行し、データを採取、分析して結果の考察を行う。これらを基礎として、授業中に発表を行いディスカッションしながら修正する。ディスカッションを元に再度考察し、卒業論文の手直しを行い、プレゼンテーションのための準備を行う。 （4　内田　利広） 「教育臨床、思春期の親子関係」に焦点を絞るとともに、臨床心理学における実証的な研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、研究計画を発表し、その実現可能性について吟味する。そして、研究計画を実行し、データを採取し、データ解析および結果の解釈を行う。これを基礎として、授業中に発表してディスカッションを行う。これをもとに卒業論文の手直しを行い、口頭試問前にさらに全体で発表会を行う。卒業論文のチェックポイントは、自分の関心のあるテーマが、心理学の研究法という枠に適合しているかという論理性と独創性、さらに参考文献の適切さなどが挙げられる。 （5　児玉　龍治） 本科目では、卒業研究に向けた指導を行う。具体的には、①テーマの設定、②先行研究の概観の作成、③予備調査の計画と実施、④本調査の計画と実施、⑤方法の作成、⑥結果の作成、⑥考察の作成、⑦参考文献、資料の作成、⑧卒業研究発表に向けた要旨の作成、などについて指導していく予定である。個別指導とともに、受講生同士で支え合いながら卒業論文を作成する機会を大切にしていきたい。最後の卒業研究発表に向けた準備として、個別にリハーサルを行っていきたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	卒業研究	（6　滋野井　一博） 本科目は、①心理学領域に関する自らの「問い」を探究した卒業研究作成、②相互の研究発表に基づく意見交流の２点を中心とした学修を展開する。具体的には、これまでの履修過程を踏まえて、卒業研究作成に向けて着目してきた話題の心理社会的背景や先行研究の概観を再検討し、研究テーマを決定する。研究テーマが決定すると、そのテーマに添って、研究目的を設定し、調査する対象と方法を明確にする。研究方法については、妥当性と信頼性を踏まえて検証し、得られた調査データの整理と分析を行う。分析した調査結果を基に論文として必要となる表現・論理性などを考慮しながら結果・考察を検討する。研究過程に関する中間発表や意見交流を踏まえて、研究の進捗状況の確認・調整および卒業研究に係る記載内容の再考・校正を重ねながら最終稿を作成する。この過程を通して、４年間の総決算として取り組んできた心理学に関する研究の意義について総括していく。 （7　髙林　学） 心理学におけるさまざまな研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、先行研究の見直しをしたり研究計画を修正したりして発表し、その実現可能性についてディスカッションを通して吟味する。研究計画を実行し、データを採取、分析して結果の考察を行う。これらを基礎として、授業中に発表を行いディスカッションしながら修正する。ディスカッションを元に再度考察し、卒業論文の手直しを行い、プレゼンテーションのための準備を行う。 （8　武田　俊信） 臨床心理学の研究方法の手続きに則った卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、研究計画を発表し、その実現可能性について吟味する。そして、研究計画を実行し、データを採取し、データ解析および結果の解釈を行う。これを基礎として、授業中に発表してディスカッションを行う。これをもとに卒業論文の手直しを行い、口頭試問前にさらに全体で発表会を行う。卒業論文のチェックポイントは、IntroductionのResultsの論理性、サンプルと統計処理の妥当性、Discussionのつながり、参考文献の適切さなどが挙げられる。 （9　東　豊） 「医療臨床」に焦点を絞るとともに、臨床心理学における実証的な研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、研究計画を発表し、その実現可能性について吟味する。そして、データを採取し、データ解析および結果の解釈を行う。これを基礎として、授業中に発表してディスカッションを行う。これをもとに卒業論文の手直しを行い、口頭試問前にさらに全体で発表会を行う。卒業論文のチェックポイントは、研究テーマの絞り込みと、それに関する過去の文献の精読である。 （10　藤原　直仁） 卒業研究では，心理学演習での学修を踏まえ，研究内容をまとめた論文の体裁や文章表現の添削指導等を行うなど，研究完成に向けた個別指導を進める。指導は学生個々の関心を踏まえ進めることが基本であるが，他の学生の研究内容や進捗状況を知ることも自らの研究を進めるにあたり有用であるため，研究成果を学生が相互に共有できるよう，報告会等の場も設定する。 以上のようなプロセスを通して，自らが関心をもった対象についての研究成果を，第三者が評価できるような形（論文等）にまとめあげることが，卒業研究の目的である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	卒業研究	（12　三林　真弓） 「母子臨床」に焦点を絞るとともに、臨床心理学における実証的な研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、研究計画を発表し、その実現可能性について吟味する。そして、研究計画を実行し、データを採取し、データ解析および結果の解釈を行う。これを基礎として、授業中に発表してディスカッションを行う。これをもとに卒業論文の手直しを行い、口頭試問前にさらに全体で発表会を行う。卒業論文のチェックポイントは、研究デザインの斬新さ、倫理的配慮も含めたデータの適切な取り扱い、調査結果と考察の論理性である。 （13　水口　政人） 心理学におけるさまざまな研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、先行研究の見直しや研究計画の修正をして発表し、その実現可能性についてディスカッションを通して吟味する。研究計画を実行し、データを採取、分析して結果の考察を行う。これらを基礎として、授業中に発表を行いディスカッションしながら修正する。ディスカッションを基に再度考察し、卒業論文の手直しを行い、プレゼンテーションのための準備を行う。 （14　森田　喜治） 卒業研究については、特に指定するものではない。受講者の興味を持っている内容について研究を進めていくことを目的とする。講師の専門分野は児童福祉を含め、子どもの遊びから見られる心のあり方、対人関係であり、それらについての内容であればより深く指導できるものと思われる。 （15　伊東　秀章） それぞれの学生が学びたい領域についての文献を集め、整理し、総説を作成できる力を身につける。その上で、その領域の課題を発見し、自ら問いを立て、リサーチクエスションを作成して、調査を行う。この調査結果を分析し、考察することを通じて、オリジナリティのある社会への発信力を身につける。またこれらの過程を通じて、特定の心理学領域の専門性を高めるとともに、主体的に社会の問題を発見し、解決するための仮説を創造する力を身につける。 （17　小正　浩徳） 本科目は、心理学部で学んだ知識と実践方法の集大成として、自らテーマとしての問いを設定し研究を行い、その結果を研究論文として文章化と報告を行うものである。 ここでは、データサイエンスとしての心理学研究を行うことを通じて、論理的思考力と論理的文章力を養うとともに、社会に参加し就労した際に必須となるコミュニケーション力やデータに基づいたプレゼンテーション力等を養成していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	卒業研究	（19　廣橋　諒一） ４年間の学修の集大成として、臨床心理学領域における卒業論文の指導を行う。各自の関心に基づく卒業論文の研究テーマを深め、研究計画を策定し、必要となる専門的文献や先行研究の概観、調査研究方法に沿ってデータの収集、分析を行い、その結果の考察を行う。研究論文として「問題・目的・方法・結果・考察」を卒業論文の形式に沿って作成できることを身につける。また、口頭試問での研究課題の発表や質疑応答のための演習を実施する。 （20　堀内　詩子） 「子ども臨床や音楽的関わり」に焦点を絞るとともに、臨床心理学における実証的な研究方法の手続きに基づいた卒業論文の指導を行う。受講生各自が前年度に作成した予備研究論文を再検討することにより、テーマに添って、何をどのような方法で研究するかを明確にする。実際に研究に着手する研究計画を発表し、その実現可能性について吟味する。そして、データを採取し、データ解析および結果の解釈を行う。これを基礎として、授業中に発表してディスカッションを行う。これをもとに卒業論文の手直しを行い、口頭試問前にさらに全体で発表会を行う。卒業論文のチェックポイントは、研究方法の妥当性と信頼性について重点を置く。 （22　志田　望） 臨床心理学にかかわる領域での卒業論文の指導を行う。各自が行った予備研究を基本として、研究方法の検討、研究実施、結果・考察の整理を行う。また、調査研究に関する留意事項についての指導や、卒業論文の形式に沿った文章作成について指導する。 （23　牧　久美子） 大学生活、授業、ゼミ、または実習などから、学生自らが興味関心のあるテーマを設定し、大学での学びの集大成として卒業研究をおこなう。研究テーマの絞り方、資料・文献の調べ方、研究方法、論文執筆方法などについて解説・指導をおこなう。また、学生同士が互いの研究計画について意見を交換し、異なる研究テーマから刺激やヒントを得るための機会も提供する。	
		知覚・認知心理学	本科目では、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害に関する概説とその支援に関する講義を行う。具体的には、人の感覚と構造を説明したうえでその障害への支援について検討を行う。また、認知・思考について、その基本的特性や記憶や注意に関するメカニズムについて説明したうえで、その障害への支援について検討を行う。これらの障害の支援に関して、特に医療や福祉領域等との連携のあり方も概説を行う予定である。 公認心理師受験資格を得たい学生は必ず本科目の単位を取得すること。	
		精神疾患とその治療	授業は講義形式で行い、小テストにより各講義の理解度を確認する。頻度が高い精神疾患の概要を理解することを目標とする。近年の診断分類の主流であるDSM-IVについて取り上げ、その分類にそって毎回各精神疾患（うつ病、双極性障がい、統合失調症、薬物依存、パーソナリティ障がい、ADHD、自閉症、アスペルガー障がい、神経症、認知症等）について基礎的な講義を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	感情・人格心理学	感情や人格（パーソナリティ）という心理学概念について、今日までどのような研究や理論化がなされてきたか主に4つの観点、①感情に関する理論及び感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③人格（パーソナリティ）概念および形成過程、④人格の類型・特性、に基づいて解説し、その臨床的応用と日常生活への活用を考える。まず、感情や人格が心理学の歩みのなかでどのように扱われ、研究が進んできたかについて説明し、個人として感情や人格がどのように発達し、自己形成されていくのかについてプロセスを追って例示する。それら授業で学んだことを活かし、自己理解、他者理解、人間関係についての見識を深めることができることを目指す。	
		心理関係行政論	（概要）本科目は、①保健医療分野に関係する制度、②福祉分野に関係する制度、③教育分野に関係する制度、④司法・犯罪分野に関係する制度、⑤産業・労働分野に関係する制度という５つの分野とその分野における法律や制度について、基礎的な知識を学び、その課題を検討する。講義は8名の教員によるオムニバス方式で実施する。 （オムニバス方式／全15回） （3　赤津　玲子／2回） 司法・犯罪分野に関係する法律・制度について講義を行う。 （4　内田　利広／2回） 教育分野に関係する法律・制度について講義を行う。 （5　児玉　龍治／2回） 高齢者福祉に関係する法律・制度について講義を行う。 （6　滋野井　一博／2回） 障害児・障害者福祉に関係する法律・制度について講義を行う。 （8　武田　俊信／2回） 保健医療分野に関係する法律・制度について講義を行う。 （13　水口　政人／2回） 産業・労働分野に関係する法律・制度について講義を行う。 （17　小正　浩徳／1回） 公認心理師法に求められる法律・制度の知識を学ぶ意義について理解を深める。 （22　志田　望／2回） 福祉分野に関係する法律・制度について講義を行う。 なお、公認心理師受験資格取得を目指す学生は必ず受講すること。	オムニバス方式
		司法・犯罪心理学	司法・犯罪領域の多くは公的な機関や施設であり、警察や裁判所、病院など多職種が関わって成立している。身近な事件はニュースを通して知ることが多い一方で、どのような法律の下でどのような援助職が関わっているのかを知ることは難しい。本講義では、犯罪・非行、家事事件に関する基本的知識について、テキストと講義をもとに理解する。また、司法領域の法的枠組みを理解すると同時に、その枠組みの中で関わっている専門職の役割について学び、支援の可能性と限界について検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	産業・組織心理学	本科目では、①職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援、②組織における人の行動に関する講義を行う。具体的には、産業・組織心理学の概要を整理し、この分野の歴史や近年の動向、産業・組織にまつわる制度、法律を解説する。加えて、職場におけるダイナミクスやリーダーシップ等について心理学的観点からの概説を行う。 また、キャリア観の発達と形成や、職場におけるメンタルヘルスなども取り上げ、この分野における心理学的支援の実際についても検討を行う予定である。 公認心理師受験資格を得たい学生は必ず本科目の単位を取得すること。	
		学習・言語心理学	本科目では、①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序について、その概説を中心とした講義を行う。具体的には、学習と行動に関する心理学の知見について整理するとともに、これらの心理学を基礎においた支援方法について解説する。また、言葉の発達について整理するとともに、脳機能に由来する言語の障害とその支援について解説する。加えて、医療、福祉、教育領域等との連携のあり方も検討を行う予定である。 公認心理師受験資格を得たい学生は必ず本科目の単位を取得すること。	
		社会・集団・家族心理学	くらしと結びついたという意味では、心理学の研究分野の中でも社会心理学がその最短距離にある。くらしの中の身近な問題に目を注ぎ、人間の行動を理解していく。こうした親しみやすい性格を利用して社会心理学への内発的興味を促進し、社会的現実が形成される心理的過程を理解することを目的とする。	
		量的心理学研究	量的心理学研究の一つとして、調査研究を取り上げ、尺度作成の中で具体的にどのような手順および分析を通して、妥当性と信頼性が検討されるのかについて学び、調査研究の成り立ちを理解する。そうした成り立ちを背景になされた複数の調査研究結果から得られた知見をもとに、新たな研究アイデアをどのように生み出すことができるかについて、理解を深める。	
		質的心理学研究	質的心理学研究は、近年、人を対象とした研究領域で発展している研究方法である。従来の自然科学の研究方法は、実験や質問紙調査等をもとに発展してきた。しかし一方で、人を対象とする科学では、実験のように特殊な状況を作り出し研究することや、多くの人に当てはまるかもしれない理論を提案することはできるが、人の個別性や事例性を検討するには不足があると考えられている。本講義では、質的心理学の立場からデータを収集する方法、その分析方法を学び、卒業研究に生かせるようにする。	
		生理学データと現場心理学（基礎）	本講義では，近年注目されている生理学データの臨床場面（現場）への応用について，その有用性や課題等にかかる基礎的な事項を解説する。具体的には，生体反応の計測技術について，中枢反応，抹消反応で用いられる指標を紹介すると同時に，生理心理学的指標の応用に向けた歴史的背景や理論等の説明を通して，生理学的データを活用する際の留意点や倫理的配慮等についての基本的な理解を深めることを主たる目的として講義を進める。	
		臨床催眠学	催眠はメスメリズム以降、心理療法では非常に有用な方法として展開してきた。実際に国内外を問わずにトラウマ治療の１つとして有益なことが明らかになっている。しかし一方で、エビデンスに欠けること、トランスに関する議論から心理療法としては誤解されている点が多い。本講義では古典的な催眠ではなく、Erickson,M.のコミュニケーションを用いた催眠のプロセスについて理解するための方法として観察すること、声掛けの仕方など実際のプロセスを体験する。その上で、自らの体験を振り返り考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	生理学データと現場心理学（応用）	本講義では，近年注目されている生理学データの臨床場面（現場）への応用について，その有用性や課題等を臨床場面における応用事例を踏まえて解説する。具体的には，生理心理学的指標を用いた認知機能評価や健康，犯罪，スポーツ等への応用の可能性の解説を通して，生理学的データの臨床場面への応用の実際（（現場での有用性）について理解を深めるとともに，生理学的データ活用の展望について考察することを主たる目的として講義を進める。	
		子育てとソーシャルサポート	「少子高齢化」が進行し我が国の喫緊の課題となっている現在、その対策のひとつとして子育て支援が注目されている。子どもを産み、育てるという行為は有史以前より脈々と続いてきたことであるが、ここで改めて「子育て」とはいったい何なのか、その歴史を振り返る。子育てを通した親子の愛着関係にも触れ、上手く構築できないときの心理臨床的な介入についても事例を挙げ検討する。受講生自身が「子育てされてきたこと」を振り返って思いを巡らしたり、さらにこれから「自分が子育てすること」をイメージしたりしながら、自己理解を深めることを目指す。また、子育て支援策の１つとしてソーシャルサポートが挙げられる。ソーシャルサポートは元々社会心理学の専門用語であるが、その概念を例を挙げながら説明し、主に親と乳幼児を支援するためソーシャルサポートにはどのような人的資源があり、どのような機関が存在するかについて学び理解を深める。	
		音楽療法	音楽療法の基礎となる知識や理論に触れ、音楽療法の概観や効能について学ぶ。受動的音楽療法と能動的音楽療法を理論と体験をつなげながら学ぶ。音楽のもつ「聴く」「表現する」ということの能動性について、体験的に学ぶ機会となることを目的とする。具体的には、子どもを対象にした、母子とつなぐ音楽療法・療育の中での音楽との関わり、精神科リハビリを目的とした音楽療法、ターミナルケア、老年期の運動機能の維持としての音楽療法を扱う。	
		ダンスセラピー	ダンスセラピーは、身体と精神は不可分であり、身体の動きは内的な精神状態を反映しているという考えを基礎に治療的手段として身体の動きやダンスを用いる心理療法である。本講義では、臨床心理学の影響を受けながら発展してきたダンスセラピーの実際について触れながら、「ダンスはコミュニケーションであり人間の基本的欲求を満たすものである」ことを基本とするマリアン・チェイスの理論を中心に様々な技法について紹介する。講義と併せて実際に身体を動かし体験的にも理解を深める機会を入れ、心身一如の観点から自己理解、対人理解、相互作用への関心を深め非言語的コミュニケーション方法の重要性を知ることを目的とする。 対人援助場面だけでなく日常場面でも活かせる共感的理解の一つのスキルとして役立てられるよう進めていきたい。	
		乳幼児の理解と支援実習	人間は、産まれてすぐの乳幼児期の発達が最もめざましい。その乳幼児期の発達理論を概観しながら、この時期の特徴と様相を学ぶ。具体的には、乳幼児期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解し、その過程でみられる特有の問題についてどのような心理的支援の方法があるかについても学ぶ。さらには、実際に乳幼児と関わりのある専門職の人をゲストスピーカーとして招いて現場の声を聞くとともに対人援助職者の「子ども観」について考える。また、履修生が子育て広場に出向き、実際に親や乳幼児と触れ合う体験なども行い、学びや気づきを深めることを目指す。	
		教育と心理支援	本科目は、教育現場で求められる「個別最適化された学び」と「協働的な学び」について、心理学の観点からその実践の考察を行う。具体的には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、臨床心理学などの観点から、学校に通う児童生徒の「読む」「書く」「聞く」「話す」「推論する」ことへの支援に関して、事例等を取り上げながら受講生同士のディスカッションにより検討を行う。これらを通じて、心理学的観点から具体的な指導方法を教育現場へ行うために必要なこととは何かについて受講生それぞれが考える力を養成する。 毎回、必要となる知識については講義を行うが、基本的には演習形式で進めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	発達障害のアセスメント	本科目は、①発達障害の特性とその概要、②発達障害に関するアセスメントの２点を中心とした講義を行う。具体的には、神経発達症（発達障害）に関する医学的・教育的・福祉的な知見を概説とともに、発達支援として発達臨床、教育臨床、福祉臨床および臨床心理的地域援助実践における教育職および心理職専門職としての実務経験を通して、自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動症、限局性学習症等における「生物・心理・社会モデル」を踏まえた、医療・教育・福祉等の現場における支援を展開していく際に心理職として求められるアセスメントのあり方について検討を行う。 なお、公認心理師受験資格を志望する学生の選択履修科目の単位として位置付ける。	
		心理的アセスメントII	心理的アセスメントの中でも、特にコミュニケーションを通してのアセスメントについて学ぶ。まず、PDIと呼ばれる検査実施後のやりとりを含めて査定を行う描画を用いた心理検査について学ぶ。その後、描画テストを含めた心理検査のテストバッテリーの実際と検査を活用した支援例やカウンセリングの流れの中で行われる見立てを学び、やりとりの中でアセスメントを行い支援に活かす視点を深める。	
		不登校・いじめとスクールカウンセリング	学校臨床における大きな課題である不登校やいじめの問題について、まずはその現状、その背景について理解を深める。特に児童期・思春期の子どもたちの心の世界に目を向け、どのような友人関係、家族関係、集団心理の力動などが働いているかを理解する。さらに、そのような現状の子どもへの支援として、スクールカウンセラーによる活動について理解を深め、学校現場における様々な子どもたちの問題行動に対し、スクールカウンセラーとしてどのような機能や役割を果たすことが出来るのかを説明できるようになることを目指す。	
		青年心理と友人関係	青年期は「疾風怒濤の時代」と表されるように、多くの心理的変化を伴う時期である。そのような最中にある青年の心理的特徴や心理的危機について学ぶ。またそのような変化の中で、友人関係のありようも変化していく。さらに、変化していく友人関係の中で、友人関係に支えられ共に成熟していく。このような青年期の特徴について理解を深めることとする。	
		思春期とジェンダー心理学	思春期は、自分とはいったい何者なのかといったアイデンティティの問題に取り組む時期であり、ジェンダーを含むセクシュアリティの問題もそこには大きく関わっている。本授業では、LGBTなど性の多様性への理解を深めるとともに、「心の窓」として機能するアニメやゲーム、アイドルなど、いわゆる広義のサブカルチャーを通して思春期の子どもの心理への理解を深める。また、サブカルチャーに立ち現れるジェンダーの問題についても取り上げ、思春期の子どもを支援する際の多様な視点を得ることを目的とする。	
		大人の発達障害	授業は講義形式で行い、授業の理解度の確認に小テストを併用する。成人の神経発達症で最も頻度が高くみられる自閉スペクトラム症とADHDの状態像、介入方法の概要を把握することを目標とする。授業では、児童期の神経発達症について取り上げた後に成人期になって事例化する神経発達症の特徴と心理社会的なアプローチを中心に取り上げる。	
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	本授業は、児童・思春期の子どもたちが通う学校現場へ実際に出向いて、子どもたちの様子を観察するとともに、子どもたちと共に過ごし、関係を作ることで、どのような関わり、支援が可能であるかを体験的に学ぶ実習の科目である。まずは、実際の学校現場の現状、システム、実習における留意点等の講義を行うことで、実習への準備をする。その後、実際に何回か学校現場に出向いて、子どもたちと触れ合うことになる。なお、本授業は、現場での実習になるので、社会人としての意識（時間厳守、服装など）、守秘義務等の倫理観を求める。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	中年期の危機とうつ	中年期以降の年齢層の自殺率は非常に高い。岡本（2004）は20代～70代の男女2000人を対象とした生涯学習に関する調査で、35歳～70歳以上のどの年齢層にも「自分の生き方そのものの探求」に高いニーズがあることを明らかにしているが、「生涯学習プログラムとしての実践例はほとんど見られない」と報告している。中年期危機の問題は深刻であるにも関わらず、実際のプログラムは未開発なのである。そこで本講義では、人生の後半以降のメンタルヘルスとwell-beingについての臨床心理学的な支援の実際について講義を進める。中年期以降の心身の変化、ライフサイクル上の課題等に触れつつ、この危機を、人生後半に向かう分岐点（crisis）として捉え、自己実現への可能性とその支援について受講者と共に考えていく。	
		コミュニティ・アプローチ	コミュニティ心理学の基礎を学ぶ。コミュニティ心理学は、臨床心理地域援助の基本となるコミュニティアプローチに理論的な基盤を与えるものである。世の中には実際に自分自身と近しいコミュニティもあれば全く接したことがないコミュニティも存在する。各コミュニティがどのような経緯で誕生し、所属する人々に対し、どのような機関や人が連携して、どのような方法でアプローチできるかについて事例を通して理解する。コミュニティ心理学の基本的な立場として「人間は本質的に強く、有能で、価値ある存在であり、主体的に生きることができる力を潜在的に備えている（植村,2007）」とする心理学観がある。個人の内的世界を重視する臨床心理学の考え方とは異なる視座で学ぶことにより、幅広い心理学的な世界を身につけることを目指す。	
		愛着障害と親子関係	プレゼンテーションソフトを活用した講義（加えて、適宜、関連映像を使用）という授業形態をとり、受講者が（１）愛着障害の病理学、（２）愛着の正常発達経路および養育関係、（３）その治療手段と要綱を理解することを目標とする。愛着（アタッチメント）の基礎理解から始め、各発達段階での諸様相を追い、親子関係での世代間伝達などを概観する。その後、不安定な愛着の問題や愛着障害の発生の機序を論じ、最後に、教育や児童福祉の現場で観察される愛着の問題を病理論的・治療論的に検討したい。	
		保育の心理学	食事や排泄など生活自律に向けた取り組みや、社会的な関係性の発達など幼児は「遊び」を通して学んでいく。幼児にとって、遊ぶということは学びであり生活である。本授業では「遊び」をどのように成長につなげていくのか、遊びを通した保育場面におけるこどもの心身の発達に加えて、ウィニコットの遊びの理論を用い、臨床心理学的にどのように遊びを捉えるかについて言及していく。また、保育カウンセリングの現状や課題などにも触れ、学校教育との連続性についても触れていく。	
		障害児支援と療育	本科目は、①乳幼児期・児童期・思春期・青年期における障害の特性と概要、②障害児支援と療育の２点を中心とした講義を行う。具体的には、乳幼児期・児童期・思春期・青年期における障害の特性について先天性・後天性および外因性（器質性）心因性・内因性等の視点から各障害の特性について概説するとともに、発達臨床、教育臨床、福祉臨床および臨床心理的地域援助実践における教育職および心理専門職として発達支援に関する実務経験を通して、医療・教育・福祉の対人援助の専門職との協働の視点から心理職に求められる資質や求められる基礎的な技能について学修していくとともに「生物・心理・社会モデル」を踏まえた、医療・教育・福祉等の現場における多様な障害児支援や療育を展開のあり方について検討を行う。 なお、公認心理師受験資格を志望する学生の選択的な科目の単位として位置付ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	学童期の遊びと対人関係	本科目は、「遊び」のもつ心理学的意義について発達心理学と臨床心理学の観点から検討を行う。具体的には、「遊び」の発達について整理していくとともに、学童期における「遊び」の特徴とその「遊び」がもたらす対人関係について取り上げる。なお、講義方法はPBL型とする。受講生は、教員が提示する課題に対してその解決方法をグループで検討し、検討に基づいて文献等を調べ、発表とディスカッションを行う。そこからさらなる課題をグループで設定し検討、発表とディスカッションを繰り返す。これを通じて、「遊び」のもつ心理学的意義について受講生それぞれが考察を行う。 毎回必要となる知識について講義を行うが、基本的には演習形式で進めていく。	
		発達障害と応用行動分析	発達障害を中心に、特別な教育的ニーズのある子どもについての基礎的知識と理解・支援の実際について学ぶ。講義は配布資料による講義を中心に、発達障害に関連する諸検査を含めたアセスメント、アセスメントに基づく判断仮説、指導計画、応用行動分析を中心とした具体的な指導方法等についてふれる。また、一部演習も取り入れ、実践に役立てるための理解を深める。	
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	本授業は、支援実習Ⅰを受講し、さらに子どもたちとの関わり、支援を継続し、関係を深めていきたいという学生のための授業である。支援実習Ⅰでの体験を踏まえ、さらに子どもたちとの関わりを長期にわたり継続していくことで、児童・思春期の子どもたちの現状をより深く理解し、またそれぞれの子どもが示す行動や発言をどのように理解したらよいかを、定期的な集まりの場（ギャザリング）を設けることで、理論と実践の往還による理解の深まりを目指す。なお、本授業は、現場での継続した実習になるので、より高い社会人としての意識（時間厳守、服装など）と倫理観（守秘義務・個人情報の取り扱い）を求める。	共同
		フォーカシングと体験過程療法	フォーカシングは、ユージン・ジェンドリンによって創始された対人援助のための具体的な技法である。その背景となっている体験過程論についてまずは理解を深め、人間の体験の在り方、人の心が変化するとはどのようなことなのかを、理論的に理解する。その上で、フォーカシングの具体の進め方について、6つのステップごとに解説を行い、後半では演習として体験的なリスニングの方法について、ペアでの実習を通して理解を深める。	
		ひきこもりと精神的健康	ひきこもりは現代の社会問題の一つとして捉えられ、ひきこもり支援は行政でもなされている。一概にひきこもりと表されていても、さまざまな背景がある。本授業では、ひきこもりへの理解を深め、精神的健康を損なわないようにする支援だけでなく、より精神的健康を促進するような支援の可能性についての発想を学ぶ。	
		認知行動療法	授業は講義形式と実習型式を併用する。適宜、理解度の確認のための小テストを行う。医療などで心理社会的なアプローチとして頻用される認知行動療法の基本的な原理と実際の習得を目標とする。認知行動療法の概念的なバックボーンである協働的実証主義と理論的な核といえる認知モデルの理解を主として講義を展開する。ロールプレイやコラム表の作成などの実習も必要に応じて取り入れる。	
		エンカウンターグループと回想法	本科目は、カール・ロジャーズが人生の後半に力を入れて発展させたエンカウンターグループ、及び、今日、高齢者へのグループ・アプローチとして発展してきているグループ回想法に焦点を当てながら講義を行う。具体的には、①エンカウンターグループとは、②ファシリテーター（促進者）によるファシリテーション、③参加者のグループプロセス・個人プロセス、④エンカウンターグループの位置づけと意義、⑤回想法とは、⑥グループ回想法とは、⑦グループ回想法の実践、などを取り上げていきたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	ビハーラカウンセリング	キリスト教に基づくホスピスに影響を受け、1985年、ビハーラは仏教精神に基づく、ターミナルケア施設の呼称として提唱された。ビハーラとはサンスクリット語で、休養の場等を意味する。現在は病院における終末期医療に限らず、高齢者介護、子育て支援、ボランティアに至るまでその対象を展開している。その活動で重視されるのが仏教精神に基づくビハーラカウンセリングである。本講では、視聴覚教材を用いて現場での課題について考え現場実習に備えるとともに、死生観や要支援者とその家族への支援の方略の一つとして理解を深めることを目的とする。なおビハーラカウンセリングは、本学の独自科目の一つとして開講される。	
		死生観教育と心理療法	本科目は、今後さらに必要となるだろう「緩和ケア」や「グリーフケア」について、心理学的支援のあり方の検討を行う。具体的には、キューブラーロスの著作である「On Death and Dying」、また、ガンなどの病気や自死にまつわるニュース等をふまえて、「死」について当事者が何を感じ思うのか、その家族や関係者が何を感じ思うのかを、受講生同士のディスカッションを通じて考えを深めていく。同時に、受講生自身の「死ぬこと」「生きること」をテーマとしたディスカッションも行い、自らの死生観を問いなおすことも行う。これらを通じて、心理学的支援とりわけ心理療法を行うにあたり根幹となるような「死生観」の教育を、受講生自身が実体験することにより考察していく。 毎回必要となる知識について講義を行うが、基本的には演習形式で進めていく。	
		認知症の心と家族支援	本科目は、認知症を持つ人の心の世界の理解、及び認知症を持つ人と共に生きていく家族に対する心理的理解と心理的支援に焦点を当てながら講義を行う。具体的には、①認知症とは（認知症の定義）、②認知症の症状（中核症状と周辺症状）、③認知症を持つ人の心の世界、④一見、不可解に思える行動の奥にある認知症を持つ人の心理、⑤認知症を持つ人への心理的支援、⑥認知症を持つ人の家族に対する心理的支援、などを取り上げていきたい。	
		高齢者の理解と支援実習	（概要）高齢者の心理についての理解を深め、実習を通してさらに理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （2　吾勝　常行／7回） 青年期と老年期の世代間相違を意識化することは重要である。そこで、本講では生涯発達的な視点から、老年期における心理的特徴と必要な支援について講義する。特に身体・心理・家族・仕事・獲得と喪失・適応等をキーワードに課題を絞る。実習では、認知症高齢者への支援、高齢者のひきこもりや孤独死、家族介護者の介護疲れとその支援等、身近な課題を取り上げてロールプレイを実習する。実習を重ね検討することで、要支援者のニーズへの理解を深めることを目的とする。 （5　児玉　龍治／8回） 高齢者の心理について、受講生がこれまで受けてきた講義での知識の理解をまとめ、その上で主に体験的な学びを通して、その理解をより深めていく実習を行う。具体的には、①高齢者の心理についての知識の理解のまとめ、②学内での受講生同士によるロールプレイング（役割演技法）の体験とそのふりかえり、③学外でのボランティア活動などの体験とそのふりかえり、④学内、学外での体験のまとめとしての発表、及びレポート作成、などを行っていきたい。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	人格心理学と精神力動論	本講義では、パーソナリティへの理解の視点として、精神力動論の立場からアプローチを行う。精神分析理論を基盤としたパーソナリティの情緒的発達、心のメカニズム、対象関係のありようなどについての基礎的な知見や、行動や症状の背景にある葛藤や無意識的な心の働きを知る方法について学ぶ。その上で、自分自身の体験に基づきながら、自分自身の心や他者との関係性への関心と理解を深めて、探索していく手がかりとすることを目標とする。	
		医療におけるシステムズアプローチ	精神科や心療内科で行われているシステムズアプローチの実際を多くの事例をもとに学ぶ。IP（患者と認定された人）だけでなく、その家族や医療者側との相互作用の中で症状・問題の解決あるいは膠着が進む様を理解し、効果的な関わりについてともに考える。	
		緩和ケアとこころの治癒力	がん患者の緩和ケアに関する基本的な医療的知識に加え、心理・社会的なサポートに関する方法論について概説する。特に、終末期医療病棟における具体的な支援の方法や、心理士として緩和ケアに関わる上での留意点について概説し、患者の心理的な回復力を高めるための考え方を学ぶことを目的とする。	
		家族療法とコミュニケーション・アプローチ	家族療法は、アメリカにおいて統合失調症の家族研究から始まった。当時は家族も治療されるべきと位置づけられていたが、その後さまざまな理論が生み出され変遷を重ねてきた。本講義では、家族療法の中でもコミュニケーション・アプローチとして位置づけられている方法について学ぶ。コミュニケーション・アプローチでは、問題は解決しようとする行動によって一層大きくなり、それによって解決行動が強化され、問題が維持されると捉える。その循環を変えることができれば、問題とされる行動が消失すると捉える。これらの治療理論について事例から学び、理解を促進する。	
		学校システムにおける精神疾患と家族	学校臨床の現場では、精神疾患に罹患する児童・生徒が増えている。摂食障害や強迫性障害などの低年齢化も指摘されており、診断名がついた児童・生徒への対応が求められている。特に、精神科・心療内科の受診を勧めることによる影響やそのタイミング、受診後の学校現場での対応は、学校ごとの地域性も鑑みなければならず、現場ごとの試行錯誤に頼らざるを得ない。本講義では、学校現場で把握しておくべき疾患などについての理解を促し、その対応と限界について事例を用いて検討し理解する。	
		不登校の解決と協働	スクールカウンセラーとして学校現場で働くには、個人面接だけではなく、面接情報を共有し、方向性を見出していくような働きかけが必要である。特に、不登校への支援のためには保護者面接、教員のコンサルテーション、事例検討などさまざまな働きかけが求められている。本講義では、システム論の立場から学校全体のチームの一員として取り組むために必要な情報収集、見立て、それにもとづく働きかけの方法を学ぶ。また、担任や養護教諭、管理職らと協働していくために必要な情報収集と見立て方について事例をとおして検討していく。	
		発達障がいと家族	発達障がいは、障がいのある本人だけではなく、その家族への支援も重要となる。本講義では、家族の発達段階という視点から、発達障がいを持つ子どもとその家族に起こりうる課題と、その具体的な対応方法に関する指標について学ぶことを目的とする。	
		ひきこもりと家族支援	ひきこもり支援においては、当事者が相談援助の場に初めから登場することはく少なく、「ひきこもりに悩む家族」が相談に訪れることが通常であることから従来の個人精神療法とは異なる視点での対応が必要となる。加えて若年層のひきこもりだけでなく、8050問題のように長期高年齢化によるひきこもりは社会問題として地域社会の支援のあり方が問われている。そこで、講義やグループワークを通してひきこもりケースの理解、ひきこもりと精神疾患や障害との関連、文化社会的背景の理解について学ぶとともに、家族を含む相談対象者に対する援助手法や地域社会と連携した支援のあり方について理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	虐待と家族支援	虐待問題は、近々の社会問題としてあげられており、その背景にはさまざまな家族問題があると捉えられている。特に、要支援や要保護とみなされた家族支援は、保護者が防衛的になることで関係づくりが困難を極めることが多い。また、教育、司法、福祉、医療など領域の異なる多職種連携の難しさが指摘されている。本講義では、家族理解のためのさまざまな理論を学び、虐待防止のための家族支援について検討する。また、システム論にもとづく多職種連携の方法について学び、虐待問題への対応や支援の在り方について検討する。	
		ポジティブ心理学	ポジティブ心理学とは、個人やコミュニティが成長し、人々が有意義で充実した生活を送ることを可能にする試みに関する科学的研究のことである。長きにわたり心理学の分野では、人々の病理的な側面を治療したり研究したりすることに重きを置いてきたが、ポジティブ心理学では人々が元からもっている力や長所に注目する。講義では、ポジティブ心理学が蓄積してきた研究結果を示し、ウェルビーイングを高めるためのコンセプトやその背景について学ぶ。議題には、強み、希望、思いやり、自尊心、自己効力感、感謝、ゆるし、レジリエンス、クリエイティビティ、スピリチュアリティなどが含まれる。また、学生はウェルビーイングを高めるためのいくつかのポジティブ心理学的介入を日常生活で実践することで体験的にも学習する。	
		コーチング心理学	本科目では、コーチング心理学の概要および実践する上で必要となるスキルに関する講義を行う。具体的には、まずコーチングが発展してきた歴史や理論背景について理解し、続いてどういった場面でいかに活用され、どのような効果を期待できるか等について学んでいく。また、必要に応じてグループワークやペアワークを行い、実際に体験し、お互いにフィードバックを与え合うことで理解を促す。スポーツチームやビジネス組織における新しい指導方法として注目されるコーチングを習得したい人に有益と思われる。	
		コンサルテーション・リエゾン精神医学	医療現場ではさまざまな領域でチーム医療や多職種連携が行われるようになり、心理職も精神科や心療内科だけでなく、内科や外科、小児科など多くの身体科における貢献が求められている。本講義では、身体科に入院・通院する患者の身体疾患に伴う不安や気分の落ち込み、不眠などの精神症状に対して多職種と協働して治療とケアを行う「コンサルテーション・リエゾン精神医学」について学ぶ。緩和ケアチームや認知症ケアチーム、周産期医療などの事例を通して、心理職が医療チームとどのように協働するのか、また患者や家族のQuality of Life（QOL：生活の質）をどのように支援するのか、について考えていく。また、効果的な多職種との連携についてシステムズアプローチの視点から学びを深める。	
		構造派家族療法	構造派家族療法はMinuchin,S.によって提言された家族療法で、支援者が家族の一員として積極的に支援に参加し、家族とのコミュニケーションに働きかける方法である。とりわけ、家族の構造を変化させることを中心として個人の症状の回復を図ろうとするものである。本講義では、例えばサブシステム間の繋がりなど家族構造図の理解と、その構造の読み取り変化の方向性の可能性を考えることが求められる。家族のやりとりに参加したり、各自の認識に働きかけたり、機能不全のパターンを現出させたりなど、多彩な方法について理解する。	
		保護者支援とチーム学校	不登校など子どもの不適応問題の背景には、多様化した家族関係があると考えられている。背景に、育児放棄や過干渉、モンスターペアレントなど、保護者自身の問題があるように捉えられる。そのため、本講義では不適応の子どもの支援として保護者支援が不可欠であると捉え、保護者に問題があるという前提ではなく、保護者が面接への動機づけを高めるような方法を学ぶ。また、学校が１つのチームとして機能し、保護者と一緒に問題に対応できるようなシステムを構築しつつ支援できるよう検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	コンサルテーション演習	現代社会の心理学的問題へのアプローチのために、悩んでいる本人への援助だけではなく、その関係者へのコンサルテーションは重要な課題である。本講義では、学校臨床におけるスクールカウンセラーによる学校教員へのコンサルテーション、また、病院臨床における心理士と医師の連携、そして、引きこもり支援のための家族面接などをテーマに演習を行う。関係者へのアプローチ方法としての、個別のコンサルテーションにおける関係形成と介入、またオープン・ダイアローグやリフレクションを応用したディスカッションを体験的に学ぶ。	
		特別支援とシステムズアプローチ	特別支援教育において、発達障がいのある本人への療育的対応だけではなく、教員、家族をはじめとした関係者と本人とのコミュニケーション相互作用をシステムとして捉える視点を学ぶことで、多様な問題に対する具体的対応を考慮するための指標を獲得することを目的とする。	
		ブリーフセラピーとソリューション	短期療法（ブリーフセラピー）の源流となったミルトン・エリクソンの実践と、関連する心理療法の諸派に関する歴史と概略を述べ、そこから発展した解決志向アプローチの方法論について述べる。具体的な事例や技法に関する講義の中で、その考え方を理解できるようになることを目的とする。	
		非行と家族支援	非行臨床においては非行少年への支援と同時に非行からの立ち直りを支える家族や地域社会を考慮に入れた支援を検討することが肝要である。そこで、非行少年の処遇や矯正施設における非行少年の心理アセスメントや治療・教育等の基本的知識について学ぶことに加え、非行に至る背景を生物心理社会的要因から多面的に理解した上で、少年の発達過程を保証しつつ立ち直りを支えるための家族環境や家族力の回復、地域とのつながりといった社会資源を含めた臨床心理学的援助のあり方について講義形式で学ぶことを目的とする。	
		オープン・ダイアローグ演習	オープン・ダイアローグは家族療法の展開の中で、フィンランドで開発された対話のアプローチである。支援者と非支援者という二者関係にとどまらない、支援チームと非支援者の家族の複数名による協働実践である。参加する全ての人の声に耳を傾け、関り、応答し、新しい現実を作り出す。問題への対処について、専門家だけで決めることはなく、参加者全員の対話そのものが支援の方向性を決め、オープンな意思決定を行う。本講義では演習を通じて対話のための対話を体験し、オープン・ダイアローグの対話実践について考察する。	
		キャリアカウンセリング	キャリアとは、職業のみならず生涯にわたるプロセスのことを意味している。私たちは日々、自分自身や状況が変化していく中で、継続的にキャリアと人生の決定をしていくこととなる。本講義では、キャリアカウンセリングの目的と目標、キャリアカウンセラーの果たす役割、キャリア開発を促進するための理論や技法について学習する。また、学生が自身の興味関心、価値観、スキル、個性、使命など、キャリア開発に影響を与える多くの要因について自己探索し、今後のライフデザインについて考察する機会を提供する。	
		スポーツ心理学	講義を通じて、スポーツ、運動、体育などの場面におけるひとの感情、思考、及び行動について心理学側面より学習をする。ひとには、選手、指導者、専門家、保護者を含む。本授業終了時には、スポーツ、運動、体育に関連する場面における、多様な人々の心理的傾向、メンタルヘルス、人々を取り巻く環境、リーダーシップ、心理的スキルトレーニング、ダイバーシティなどについて理解をすることができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	専門発展科目	スポーツ・メンタルリハーサル	本科目では、メンタル・リハーサルの概要および実践する上で必要となるスキルに関する講義を行う。特に、スポーツ選手のパフォーマンス向上のための活用を主なテーマと位置づけている。この分野が発展してきた経緯や背景、周辺理論を理解するにとどまらず、実際の活用事例紹介や、グループによるディスカッション機会も取り入れていく予定である。なお受講に際して、スポーツ活動の経験や現在の取り組み状況は問わない。	
		マインドフルネス・ヨーガ	マインドフルネスおよびヨーガが何であるのかを理解し、近年、第三世代の認知行動療法としてエビデンスを有することになったマインドフルネスとヨーガの関係を学ぶ。また、マインドフルネスの効果機序を理解するとともに、マインドフルネス・トレーニングとしてのヨーガを実践することで、自らのマインドフルネスを耕し、自らのWell-Beingの向上を目指す。 基本的キーワードを講義するとともに、マインドフルネス・ヨーガ実技の実践を重ね、マインドフルネス尺度や健康尺度を通して自らのWell-Beingの変化を確認できるようにする。	
		事例演習アドバンスⅠ	公認心理師の受験資格取得を目指す大学生は、そのための専門的な講義や演習を履修している。しかし、実際のカウンセリングについて知る機会がほとんどない。そのため、本講義では大学院生の担当しているケースのスーパーヴィジョンへの陪席を通し、カウンセリングについて理解する機会をもつ。そのためには、守秘義務に関する理解の周知、事例理解に関する基礎的な知識の取得について事前及び事後の講義を通して理解を促す。スーパーヴィジョンへの陪席によって、実際のカウンセリングに触れることで、心理職としての自分自身の将来について検討することができる。	共同
		事例演習アドバンスⅡ	本講義では大学院生の担当しているケースのスーパーヴィジョンへの陪席を通し、カウンセリングについて理解する機会をもつ。事例演習アドバンスⅠを履修している学生のみが履修可能である。守秘義務に関する理解の周知、事例理解に関する基礎的な知識の取得について事前及び事後の講義を通して理解を促す。スーパーヴィジョンへの陪席によって、実際のカウンセリングに触れること、実際に心理職を目指している大学院生に直接質問したり等を通して、心理職としての自分自身の将来について検討することができる。	共同
		仕事と社会人Ⅱ	本科目は、「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学ぶ。オン・ザ・ジョブ・トレーニングなど企業等が社員研修として行っていることを題材に演習形式で授業を行う。 特にここでは、職場内で求められるスキルに焦点をあて、公務員、事務職、企画職等で求められる文書マナーやロジカルシンキング等について、心理学部での学びと企業等で行う研修を融合させた学修を行う。	
	共通選択科目	法学概論	国内社会においても国際社会においても、法は人間の日常生活及び国家の活動に密接に結びついている。本講義では、国内社会及び国際社会において法がどのように制定され、作用しているのかについて検討を加える。国内法及び国際法が、存外に人間の日常生活と結びついた存在であるということを理解してもらえれば幸いである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	共通選択科目	政治学原理	経済状況が急激に悪化する中、市場に頼るだけでは人びとの暮らしは安定しないという実感が広まりつつある。税金や社会保障制度、経済政策など、政治が適切に資源を配分し、社会の進むべき方向性を打ち出すことがますます期待されるようになっている。だが、その一方で政策決定のスピードや透明度、政策実施の効率性など様々な面で日本の政治のありようは批判を浴びている。日本の政治の特徴とは一体なんであろうか。この授業では、現実に起こっているさまざまな政治現象を題材に、政治学がそれをどう理解してきたか、そして日本の政治や社会とはどのようなものかについて考えてみたい。授業では、政治現象をとらえるための理論や新しい用語をいろいろと紹介する。これらの理論や概念は、それ自体ではあるべき政治の姿や具体的な政治選択の方向性を導くものではないが、政治との自分なりの距離感をつかむためのツールとしての意義を持つものである。なお、国際政治については後期に扱う予定である。	
		経済原論	この講義では、近代経済学の基本的な法則や理論をできるだけ分かりやすく説明し、同時に、こうした基礎知識をもとに現実の日本経済が抱えているさまざまな問題についても解説する。最初に、経済学の出発点として近代・現代経済学の成立と略史および基本概念・分析方法などに触れ、前期では、主として経済分析のツールをマスターし、後期には、分野ごとに経済の仕組みと動向などについて学ぶ。なお、近代経済学はミクロ経済学（消費者や企業など個別経済主体の合理的行動を分析する分野）とマクロ経済学（経済成長率や失業率あるいは物価水準といった一国の経済全体の動きを考察する分野）に大別されるが、講義範囲はその両方にまたがる。	
		社会学概説	社会を構成する個人や集団と社会の仕組みの関わりについて考察するとともに、産業化・情報化・少子高齢化・国際化などによって変化しつつある現代日本社会について論じる。前半では、社会学の基礎的な概念や方法をとりあげ、社会学的思考の一端にふれる。後半では、家族関係や地域社会、国家などの身近な題材をとりあげ、現代日本社会の特質と変化しつつある諸側面、またそれらが孕んでいる諸問題について論じる。	
諸課程科目		教職コンピュータ基礎	社会の情報化が進むなかで、教育現場においても情報化が進んでいる。また、生徒は情報化社会で育ってきており、教員よりも情報機器に慣れていることが多い。こうしたことを背景として、教育に携わるためには、最低限の知識と技術を身につけることが重要になっている。この科目では、上記の目標を達成するために、情報機器の操作を身につけることが目的であるが、単に「操作できる」ことにとどまらず、コンピュータをきちんと理解して、それを活用するという「正しい使い方」を身につけることを目標とする。	
		体育実技	スポーツの技能向上をめざして1）スポーツの独自の面白さを認識する、2）スポーツ技能を系統的に獲得する、3）スポーツ技術と自己の体格・体力との関係性について理解する、4）グループ活動の方法を実践し理解することの重要性を学ぶ。「できること」と「わかること」との統一をめざし、言語による教授－学習がいかに重要かを理解できるようになるための方法論を一緒に考えていく。スポーツが「できる」ことと「わかる」の関係性を理解し、自主的主体的にスポーツに参加できる態度を身につけることを到達目標とする。	
		社会科・公民科教育法Ⅰ	高等学校の公民科の学習指導要領の内容を解説し、授業の実際例や実践的課題について考察する構成とする。また、実践的指導力を身に付けるために、授業構想、教材研究、指導案作成、模擬授業・合評、学習評価等に取り組むことを通して、「公民的分野」に係る具体的な研究や考察を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	社会科・公民科教育法Ⅱ	高等学校の公民科の学習指導要領の内容を解説し、同教科のねらいに沿いつつ、教科特有の実践的課題の解決や生徒の主体的な学習を伸ばす内容を含める構成とする。また、実践的指導力を身に付けるため、公共、倫理、政治・経済のそれぞれの科目について、授業構想、教材研究、指導案作成、模擬授業・合評、学習評価等に取り組むことを通して、「公民科」に係る具体的な研究や考察を行う。	
	学校教育社会学	学校教育の構造・機能・意味を社会学的に読み解くことを講義の到達目標とする。学校文化・組織の社会学、及び教育問題を社会学の観点から、らせん形に講義内容を編成することで上述の目標を達成することができるようにしたい。具体的には、「学校教育とは何か」「現代社会と教育」「学校文化・組織」「いじめ問題」「不登校問題」「教師の多忙」等のテーマを取り扱う。また、あわせて諸外国の事情や対応についても学んでいく。	
	教職論	学校をめぐる様々な課題や今日の教育改革の中で求められている「教師像」について考察し、教職の意義、教師の役割・職務内容などへの理解を深め、「教師とは何か」、「教職とは何か」を考える。教師としての個人的力量や学校組織・社会とのつながりのなかで教育活動に取り組んでいる教師という仕事を実態に即してとらえることにより、学生自らが望ましい教師像を描き、教職への意欲を高めていくことを支援する。	
	特別支援教育概論	インクルーシブ教育を進めるために必要な基本的原理や制度、子どもの発達や障害種別による支援等について、具体的な事例や教育実践を通じて学び合う。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒ひとり一人が持つねがいや要求を理解し、彼らの意欲を引き出し、自信と喜びを伴う能力と人格の統一的発達を目指す教育指導・支援のあり方について考察する。実践事例を基にした受講生によるグループ討論や支援計画づくり等の演習を適宜行い、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の立場に立った特別支援教育の担い手としての自覚を養う。	
	教育課程論	すべての教育活動には目的あり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本科目では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。	
	道徳教育指導法	道徳の時間を指導する教員としての力量を付けることを大きなねらいとし、「道徳の時間」における指導の方法、資料の発掘と活用、ねらいの絞り方、授業展開の工夫等について、できるだけ教育現場での実践を教材にしながら講義を進める。同時に実際に「道徳の時間」の指導案を作成し、授業をおこなうことで、実践的な指導力を付ける。	
	総合的な学習の時間・特別活動論	特別活動ならびに総合的な学習の時間は各教科教育や道徳教育、家庭・地域や関係機関と相互に関連して営まれている。本講義では、特別活動ならびに総合的な学習の意義を理解し、指導計画の作成や指導の在り方を学ぶ。具体的には、特別活動における現状と課題について考察し、学級活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解し、教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解する。また、総合的な学習については、総合的な学習で培う資質・能力を理解し、実践する上での留意点や探求型の学習指導法を学び、総合的な学習の時間のあり方について考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	教育の方法と技術（ICT活用含む）	学校教育は、板書を中心とした従来型の授業が中心であるが、視聴覚メディアを活用した授業も各地で実施されている。この授業では、まず授業の設定方法について概観した後、視聴覚メディアを活用した教育方法について講義する。主な内容は、「授業の設計方法について概観し指導案を作成する」「各種メディアやICT機器の特性について考察し授業での活用方法について学ぶ」「教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ」「プレゼンテーション理論・技法について学び教育への応用を考える」「教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ」	
	生徒・進路指導論	本講義では、まず生徒指導・進路指導の本質的な意義や原理を説明した上で、様々な具体的な問題事象を取り上げ、その原因・背景・対処について実証的な考察を加える。そして、生徒指導を行う上で教員が個人として、また組織の一員としてどのような資質や能力が必要であり、どのような役割が求められ、どのような法令の知識が必要かについて、教育実践に結びつくように講義を行う。	
	教育相談	学校現場では保護者対応や不登校、いじめなど心の問題を1つの要因とする様々な事象が発生している。スクールカウンセラーが学校に配置されるようになった今日、教師自身も心理学カウンセリング的素養が必要である。なぜなら現在の児童・生徒や保護者に対する教育には、教師の人間性に豊かさや、柔軟な姿勢、援助法を身につけておかなければ、学校で起こる様々な問題に対応できない。本講義では、教育活動における心理的・カウンセリング的な基礎的態度と具体的な対応のあり方について理解を深めていきたい。	
	介護等体験	今日、障がい者や高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等を行うことは、人として生きる権利を尊重しつつ、社会の一員として生活することを自覚できる人間形成をめざす教育に携わろうとする教職希望者にとって、欠かすことのできない社会的体験である。「介護等体験」では、特別支援（盲・聾・養護）学校や社会福祉施設での多様な体験の中でボランティア意識をより高めるとともに、その後の広範な社会的活動の実践に繋げる。	
	教育実習指導Ⅰ	教育実習は、教職課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては、生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。そのために実習生は、教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。3年次までに修得した教職課程に関連する科目を基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが目的である。	
	教育実習指導ⅡＡ	「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での3週間実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待する。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	
	教育実習指導ⅡＢ	「高等学校での教育実習」に参加することが中心となり、「高等学校での2週間の実習」が原則である。教育実習は、教師としての在り方を実践的に学ぶ場である。たとえ教育実習生とはいえ、教壇に立つ以上は指導者としての責任が求められるので、常に学問的に探求する姿勢を貫きながら、同時に生徒の発達の援助者としての真摯な取組を期待したい。なお、実習前に直前指導、実習後に事後指導として個人面談を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	教職実践演習（中・高）	本科目は、教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活用を通じて身に付けた資質能力が、教員としての最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③生徒理解や学校経営等に関する事項④教育内容等の指導力に関する事項の4つを中心に展開する。	
	真宗学概論	浄土真宗の開祖である親鸞の思想を中心に、真宗の基本的知識を学ぶ。 親鸞思想が、仏教の思想的潮流の中でいかなる位置にあるのかを確認しながら、親鸞思想の基礎的内容を体系的に講義し、本願寺派の教師資格に求められる真宗教義の基本構造についての理解を深める。	
	仏教学概論	仏教を体系的に理解することを目標に、釈尊の生涯が意味するところを説明し、仏教が「真理の宗教」とされる理由・仏教が説く縁起の思想について講義する。原始仏教から部派仏教、そして大乗仏教へと講義し、インドから中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。本講義を通して私たち個々人にとっての仏教とは何なのか、さらに現代における仏教の意義を考察することをめざす。	
	真宗教団史	親鸞によって開かれた浄土真宗の教えは、その門弟や子孫によって受け継がれ、現在まで継承されている。その展開には、教団という組織の存在や、時代背景が大きく関連している。本講義では、親鸞の生涯をはじめとして、大谷廟堂の建立、第三代宗主覚如や第八代宗主蓮如の活躍などを中心に、本願寺教団がどのように誕生し、今日に至るまでいかなる発展を遂げたのかについて、時代背景を踏まえつつ考えていく。	
	勤式	（概要）浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上での必須の一つが勤式である。本講義では、寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学修する。 （オムニバス方式／全30回） （250　寺本　聖史／8回） 基本作法（合掌礼拝等）の指導のほか、御文章（聖人・流・末代無智・信心獲得）についての講義、音楽理論・本願寺派の声明や読経作法の指導を行う。 （269　楢本　昌広／5回） 葬儀規範や葬場勤行の指導を行うほか、本願寺の報恩講を教授する。 （307　邊春　真乗／5回） 葬儀規範や葬場勤行の指導を行う。 （328　桃園　裕成／12回） 勤式を学ぶ心得と年間講義概要のガイダンスの講義、基本作法（合掌礼拝等）の指導の他、荘厳、正信偈の出拠・歴史、読誦の説明を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	宗門法規	本科目は、浄土真宗本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているが、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかという点を中心に、宗教法人法及び浄土真宗本願寺派の定める規則（宗門法規）等をもとに学修する。	集中
	教化法	（概要）宗教においては、その教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に、浄土真宗は、聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本科目では、その布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、考察していく。現在の布教現場にあたっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮しながら、理論面と共に実践的側面の習得を目指す。 （オムニバス方式／全30回×2クラス） （167　加藤　真悟／5回×2クラス） 主に教化伝道の理論と実践について担当する。浄土真宗の教化伝道について、浄土真宗の教義に焦点をあてて講義を進める。 （259　中川　大城／6回×2クラス） 主に宗門の教化伝道について担当する。同朋運動や門信徒会運動、宗門の組織教化など、浄土真宗の聞法について講義を進める。 （325　宮部　雅文／19回、351　和氣　秀剛／19回） 主に教化伝道の理論及び実践について担当する。教化伝道の理論では、生きる意味や仏教の目的、社会における宗教の役割などを講義する。教化伝道の実践では、法話布教の作法や法話原稿の作成方法などを指導する。	オムニバス方式
	（本山教師）仏教史	（概要）本科目では、本願寺派教師資格課程科目である「仏教史」について、主としてインド仏教から日本仏教への歴史的展開を講義する。具体的には釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教への展開、南アジア、東アジア（中国・朝鮮半島・日本）への仏教伝来、大蔵経の成立等に関する基礎的な内容を取り扱う。 （オムニバス／全8回） （18　野呂　靖／3回） 主に日本における仏教の歴史的展開を中心に、仏教伝来以降の各時代区分における歴史的事象をトピックにあげ、取り扱う。 （83　内田　准心／5回） 主にインド・中国における仏教の歴史的展開を中心に釈尊滅後の仏典結集、大乗仏教の展開、インドから中国への仏教東漸のあゆみについて取り扱う。	オムニバス方式 集中
	（本山教師）宗教概説	本講義では、本願寺派教師資格課程科目である「宗教概説」として位置付けられている。主に、浄土真宗・親鸞教義・親鸞教学の豊かな学びに資するべく、世界の諸宗教について講義する。 具体的には、原始宗教・民族宗教・世界宗教のカテゴリーに分類し、その特徴等を概観しつつ、個々の宗教の基本的な内容を紹介する。	
	公認心理師の職責	公認心理師として求められる必要不可欠な知識や職務、法的義務などについて講義やディスカッションを通して学ぶ。公認心理師は心理学に関する専門的知識や技術をもって保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野において活動を行う。そのことを次の８項目を中心に学ぶ。①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等への安全の確保、④情報の適切な取り扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧他職種連携及び地域連携。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（心理学部心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	心理演習	公認心理師として求められる知識及び技能の基本的水準の習得を目指し、心理支援における具体的場面を設定したロールプレイングや事例検討などを実施する。そこで、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援などの知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、④他職種連携及び地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について習得できることを目指す。	
	心理実習A	公認心理師資格取得に必須の実習科目で、医療・福祉・教育・司法・産業の５領域での実習を実施する科目である。まず初年次には、２０時間を目処として、学外実習のための「事前研究」の上で学外実習を実施し、その後「お礼状の作成、実習の振り返り」などを行うことで、公認心理師の職務を把握することを目的とする。	
	心理実習B	公認心理師資格取得に必須の実習科目で、医療・福祉・教育・司法・産業の５領域での実習を実施する科目である。４年次では、通年で６０時間を目処として、学外実習を行う。前年同様に、「事前研究」の上で学外実習を実施し、その後「お礼状の作成、実習の振り返り」などを行うことで、公認心理師の職務を把握することを目的とする。	

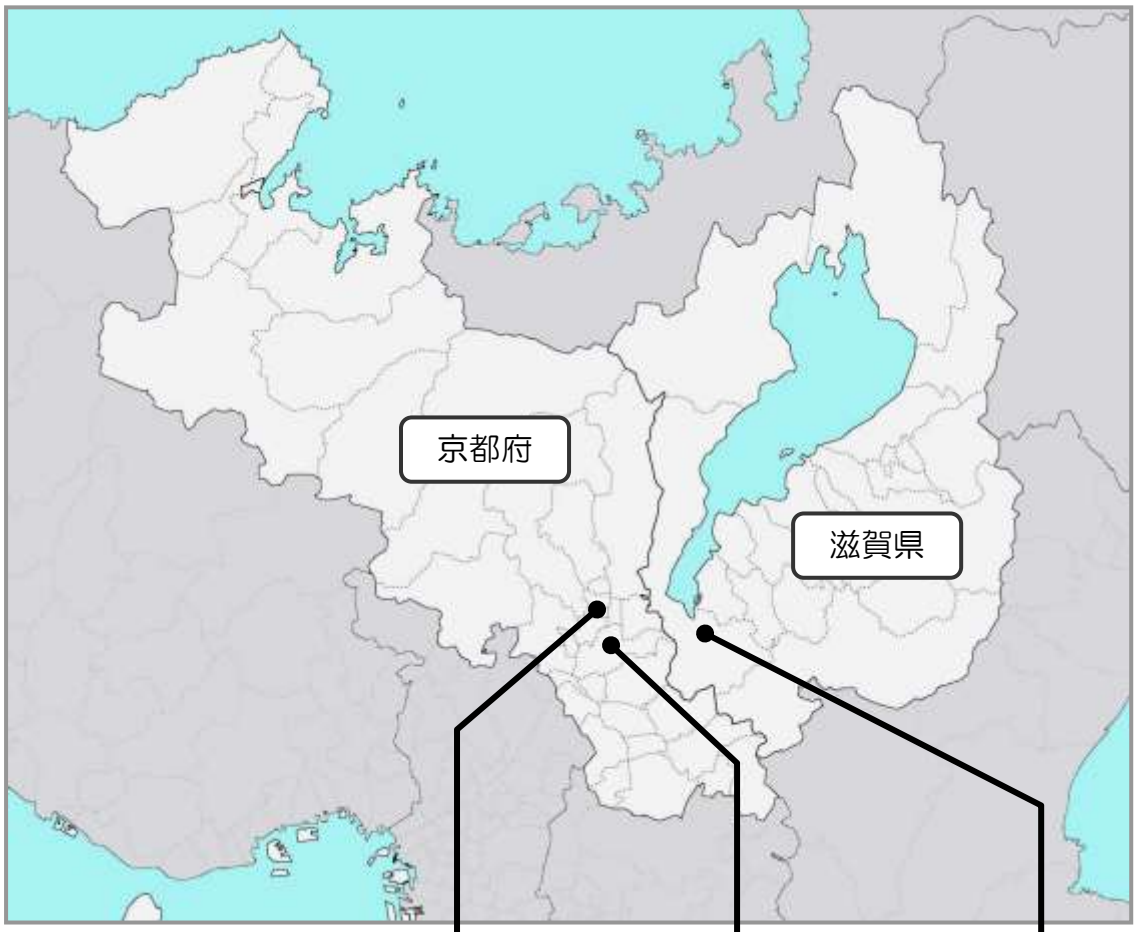
（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

京都府・滋賀県内における位置関係図



龍谷大学　大宮学舎

京都市下京区七条通大宮東入ル
大工町 125 番地の 1

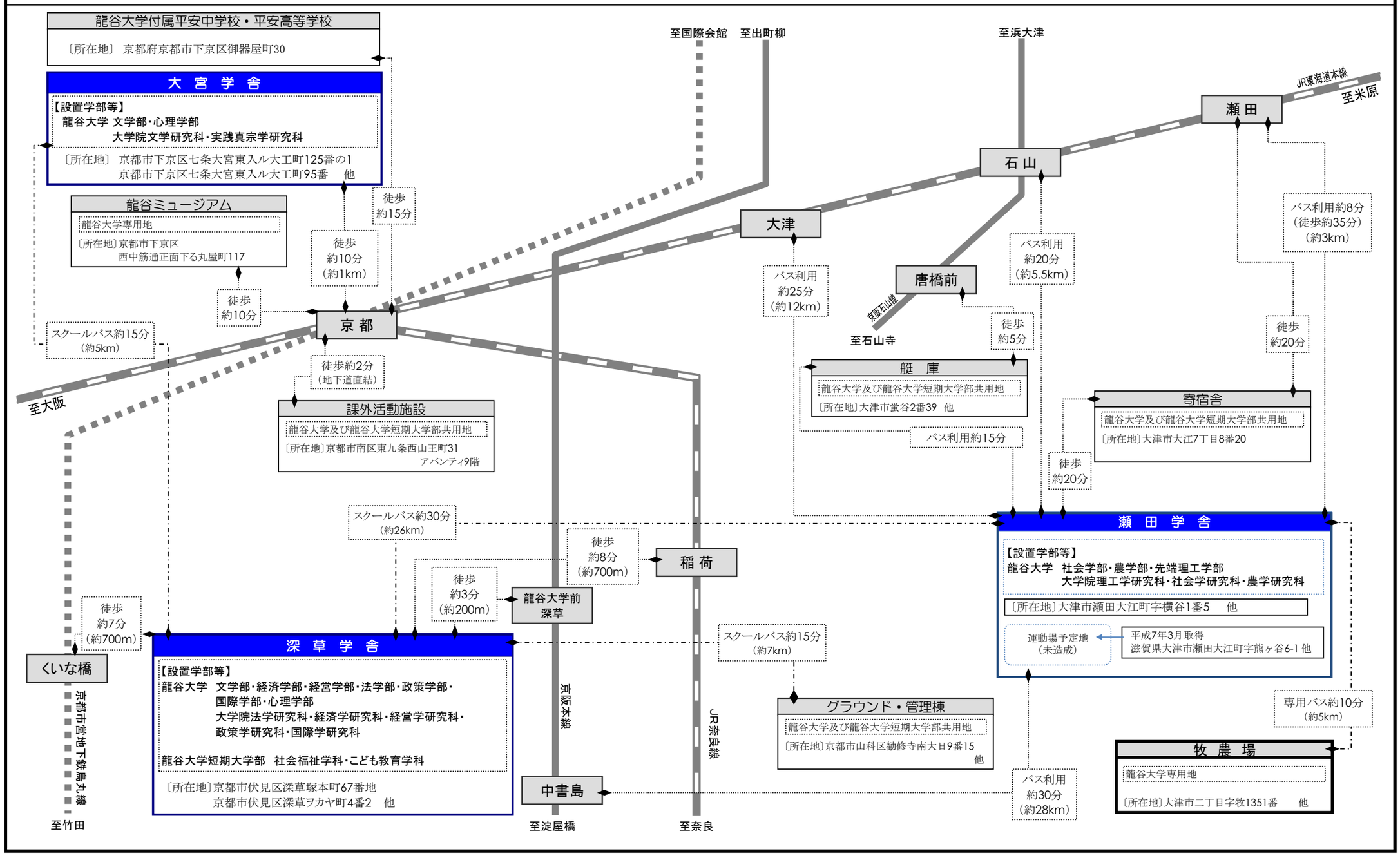
龍谷大学　深草学舎

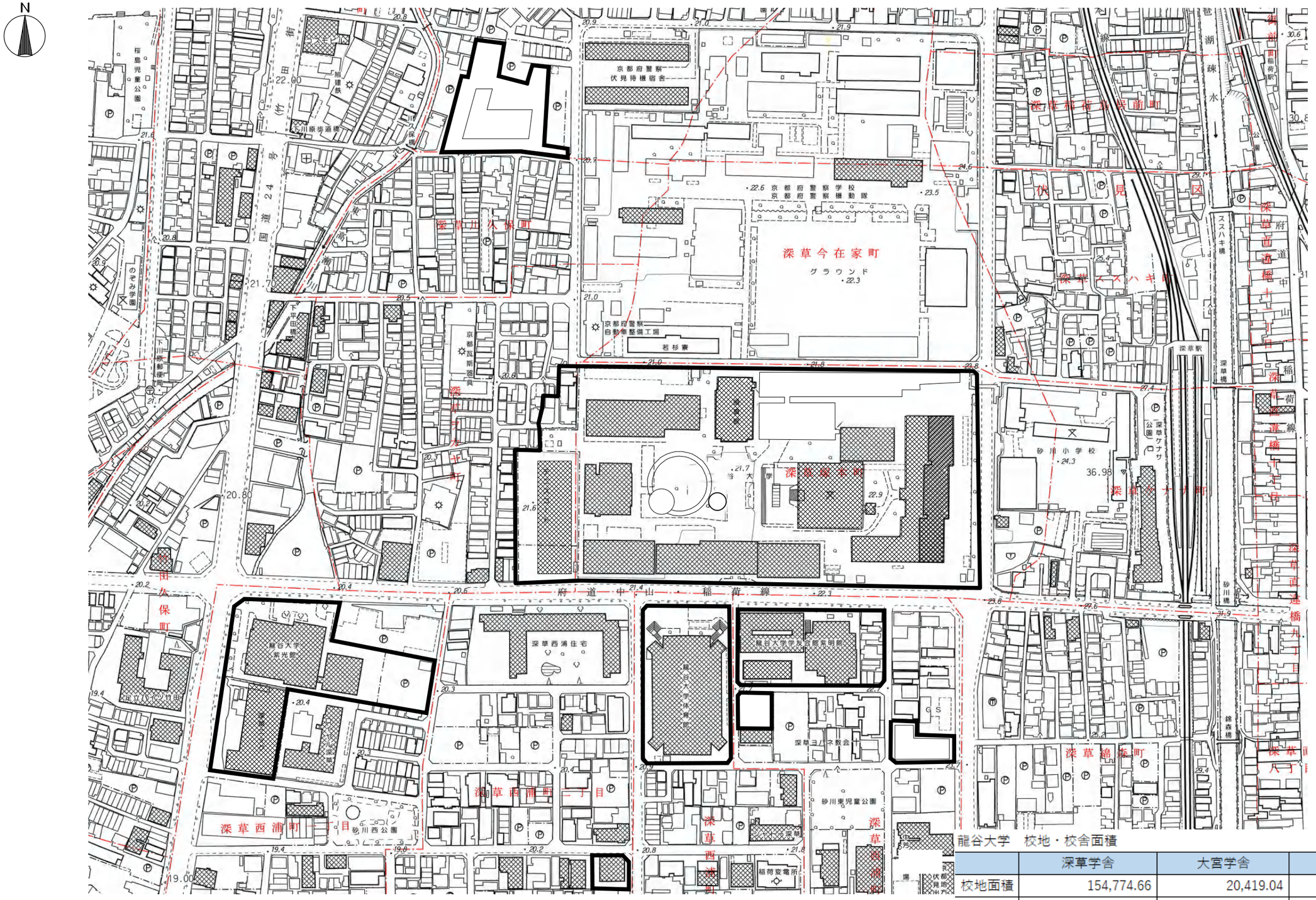
京都市伏見区深草塚本町 67 番地

龍谷大学　瀬田学舎

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 番 5

最寄り駅からの距離や交通機関の概要





龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

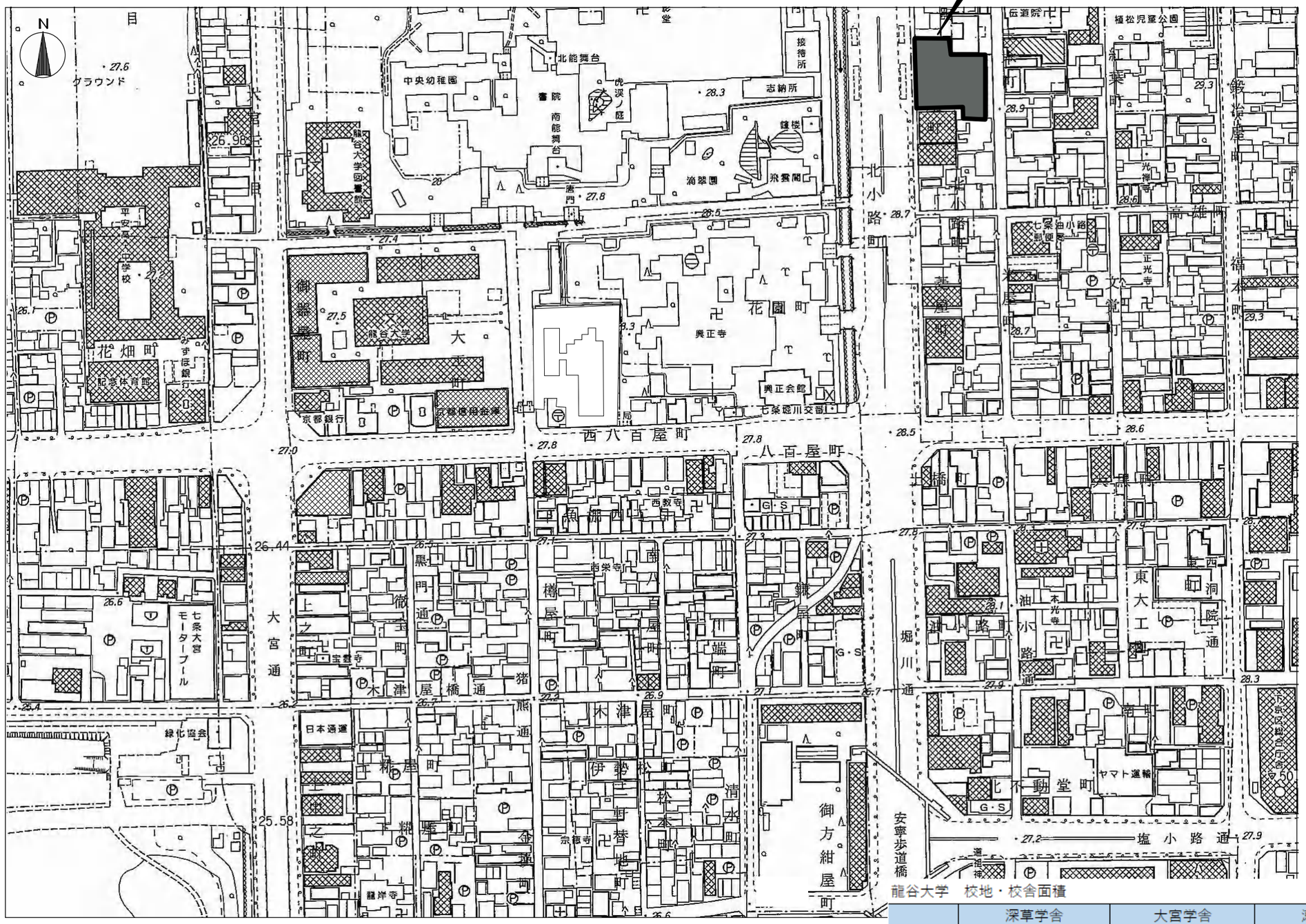
設計名称	学校法人　龍谷大学　深草学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	
				図面番号	



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

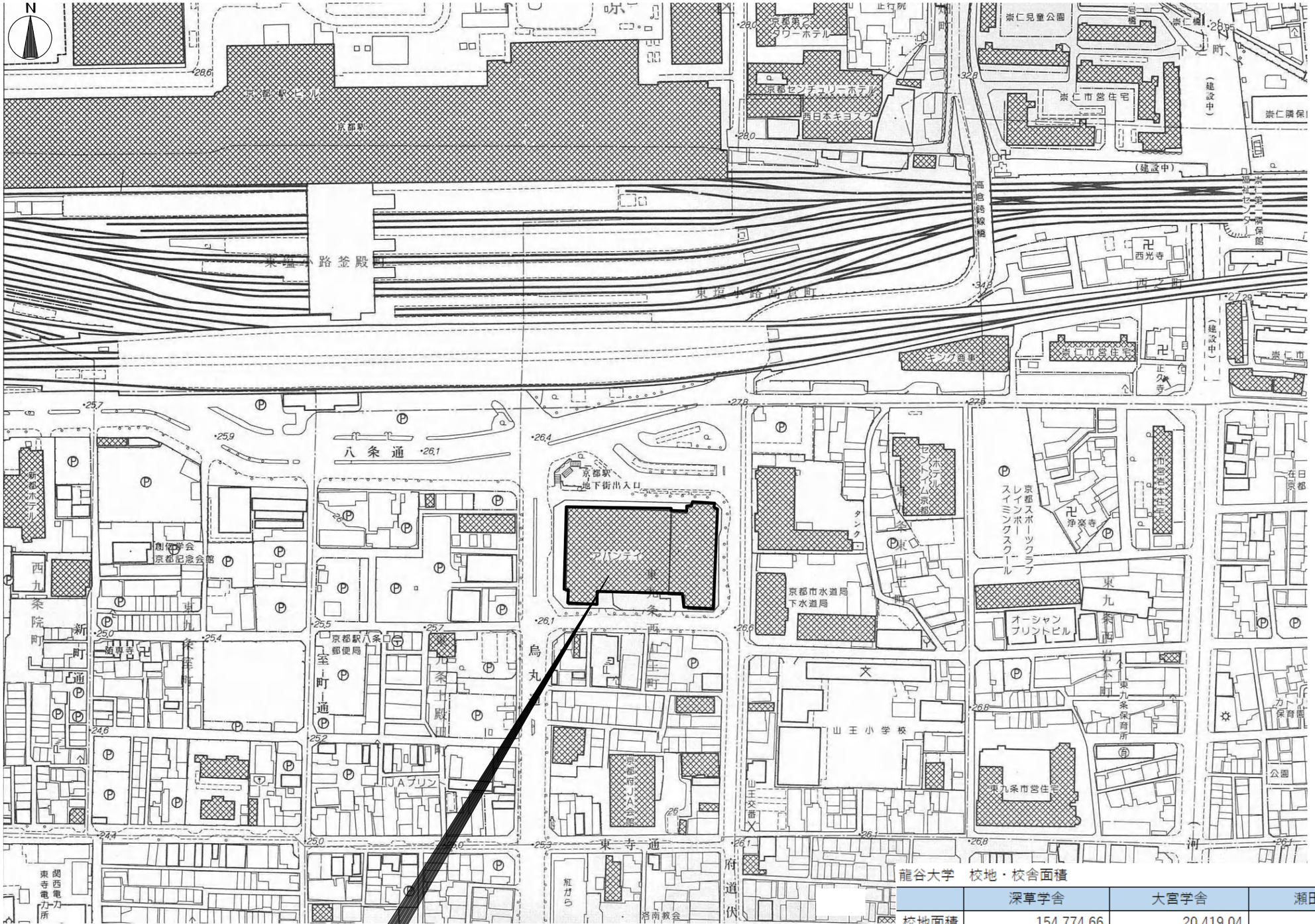
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号

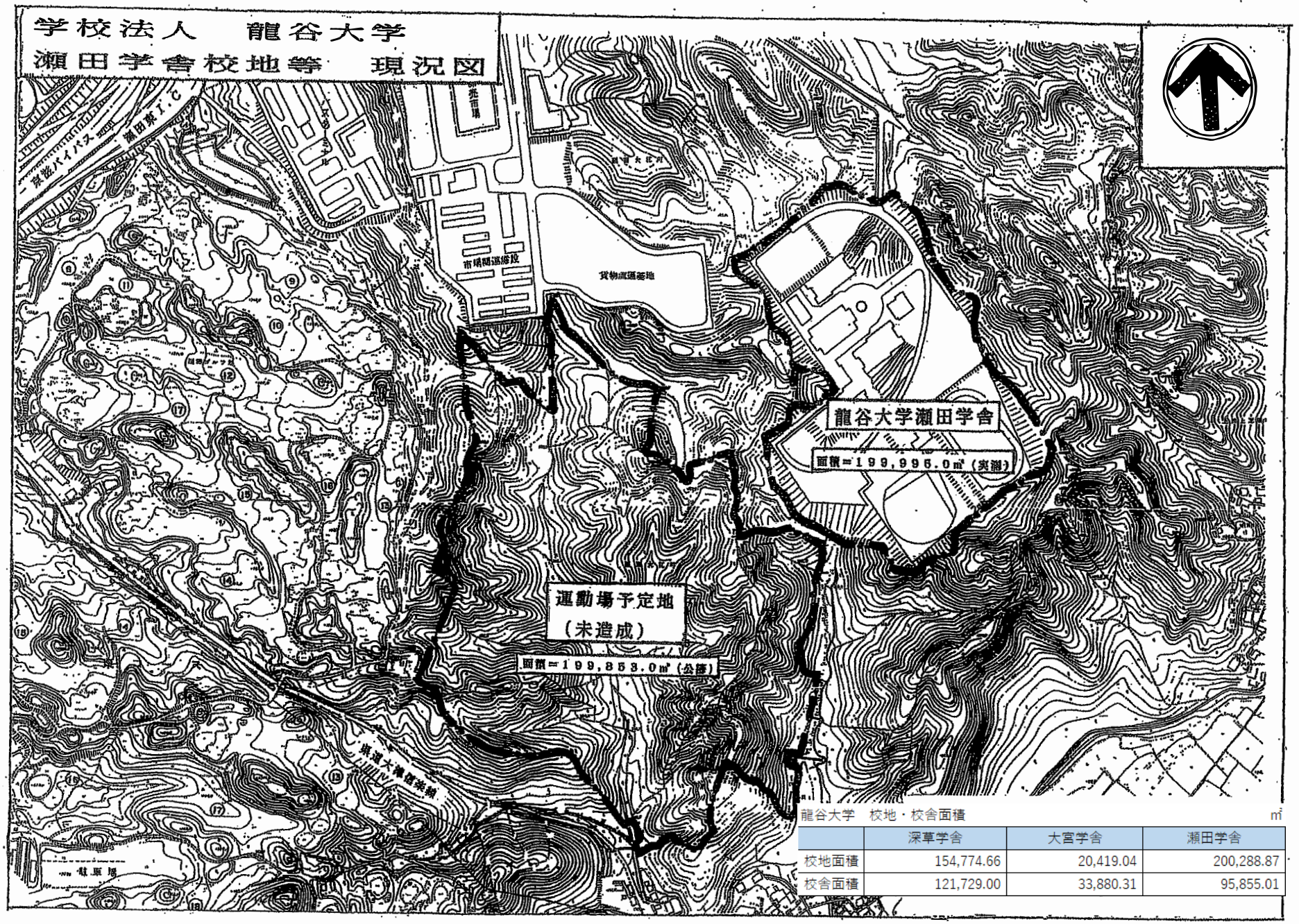


アバンティ

龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

設計名称	学校法人　龍谷大学　アバンティ　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	121,729.00	33,880.31	95,855.01

設計名称	学校法人　龍谷大学　南大日校地（運動場）校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号

○龍谷大学学則（案）

昭和24年２月21日

第１章　総則

第１条　本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい,浄土真宗の精神に基づく大学として,広く知識を授けるとともに，深く専門の諸学科を教授研究し，併せて有為の人材を養成することを目的とする。

第１条の２　本学は教育研究の向上をはかり，前条の目的を達成するため，自らの点検・評価を行う。

２　前項の目的を達成するため，点検の項目，実施体制は別に定める。

第２条　本学に次の学部を置き，各学部にはそれぞれに掲げる学科，課程及び専攻を置く。

学部	学科・課程	専攻
文学部	真宗学科	
	仏教学科	
	哲学科	哲学専攻
		教育学専攻
	歴史学科	日本史学専攻
		東洋史学専攻
		仏教史学専攻
		文化遺産学専攻
	日本語日本文学科	
	英語英米文学科	
経済学部	現代経済学科	
	国際経済学科	
経営学部	経営学科	
法学部	法律学科	
社会学部	社会学科	
	コミュニティマネジメント学科	
	現代福祉学科	
政策学部	政策学科	
国際学部	国際文化学科	
	グローバルスタディーズ学科	

農学部	生命科学科	
	農学科	
	食品栄養学科	
	食料農業システム学科	
先端理工学部	数理・情報科学課程	
	知能情報メディア課程	
	電子情報通信課程	
	機械工学・ロボティクス課程	
	応用化学課程	
	環境生態工学課程	
心理学部	心理学科	

第２条の２　各学部の教育理念・目的は，次のとおりとする。

学部名	教育理念・目的
文学部	建学の精神に基づいて，人文学の知的体系の研究・教授を通じ，現代社会の複雑な変化や諸問題に，自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ，社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。
経済学部	建学の精神に基づいて，経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し，さらに国際的・地域的な多様性を理解して，課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。
経営学部	建学の精神に基づいて，経営学の理論を修得させることに加えて，実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また，激しい時代の変化に対応でき，社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。
法学部	建学の精神に基づいて，日本国憲法の理念を基礎に，法学と政治学の教育・研究を通じて，広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し，鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，自立的な市民を育成することを目的とする。
社会学部	建学の精神に基づいて，多様な価値観が錯綜する現代におい

	て，人が営む共同体である「社会」のあり方を学び，人と人，人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。
政策学部	建学の精神に基づいて，共生の哲学を基礎に，政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ，社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに，自ら発見した問題を社会と連携して解決できる，公共性を深く理解し，高い市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。
国際学部	建学の精神に基づいて，異文化への理解と敬意を深めるとともに，自文化についての発信力を養い，グローバル化が加速する時代において，柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。
農学部	建学の精神に基づいて，人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い，農学の立場から正しい判断ができる力を備えた，持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。
先端理工学部	建学の精神に基づいて，自然・社会と科学との調和を重視し，幅広い教養と理工学の各専門分野における基礎知識・技能を身に着け，持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った技術者・研究者を育成することを目的とする。
心理学部	建学の精神に基づいて，現代社会が抱える諸課題に対し，心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ，主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

第３条　本学に大学院を置く。大学院の学則は別にこれを定める。

２　本学に留学生別科を置く。留学生別科については別に定める。

第４条　本学学部の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科・課程・専攻			入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	真宗学科		145名	6名	592名
	仏教学科		118名	5名	482名
	哲学科	哲学専攻	74名	2名	300名
		教育学専攻	74名	2名	300名
	歴史学科	日本史学専攻	81名	3名	330名
		東洋史学専攻	74名	2名	300名
		仏教史学専攻	65名	2名	264名
		文化遺産学専攻	47名	2名	192名
	日本語日本文学科		101名	2名	408名
	英語英米文学科		101名	2名	408名
	小計		979名	30名	3,976名
経済学部	現代経済学科		360名	7名	1,454名
	国際経済学科		240名	5名	970名
	小計		600名	12名	2,424名
経営学部		経営学科	519名	5名	2,086名
法学部		法律学科	445名	5名	1,790名
社会学部	社会学科		210名	5名	850名
	コミュニティマネジメント学科		153名	3名	618名
	現代福祉学科		195名	30名	840名
	小計		558名	38名	2,308名
政策学部		政策学科	308名	5名	1,242名
国際学部	国際文化学科		372名	20名	1,528名
	グローバルスタディーズ学科		135名	10名	560名
	小計		507名	30名	2,088名
農	生命科学科		90名	8名	376名

学部	農学科	134名	9名	554名
	食品栄養学科	80名	4名	328名
	食料農業システム学科	134名	9名	554名
	小計	438名	30名	1,812名
先端理工学部	数理・情報科学課程	103名	2名	416名
	知能情報メディア課程	103名	2名	416名
	電子情報通信課程	103名	2名	416名
	機械工学・ロボティクス課程	113名	2名	456名
	応用化学課程	103名	2名	416名
	環境生態工学課程	103名	2名	416名
	小計	628名	12名	2,536名
心理学部	心理学科	255名	10名	1,040名
合計		5,138名	175名	20,902名

第５条　本学学部の修業年限は４年とし，８年を超えて在学することはできない。

第６条　本学学部に４年以上在学し，所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し，学長は各学部教授会の議を経て卒業を認定する。ただし，学長は，所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については，３年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては別にこれを定める。

２　学長は，前項により卒業の認定を受けた者に対し，卒業証書及び本学学位規程に定める学士の学位を授与する。

３　卒業認定の時期は，学年末とする。ただし，学長が特別の事情があると認める者に対しては，学期の末とすることができる。

第７条　削除

第２章　通則

第１節　学年・学期・休業日

第８条　学年は，４月１日に始まり翌年３月31日に終る。

第９条　学年を原則として次の２学期に分ける。

第１学期　４月１日から９月30日まで

第２学期　10月１日から翌年３月31日まで

第10条　休業日は，次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

(3)　創立記念日（５月21日）

(4)　春期休業（３月１日から３月31日まで）

(5)　夏期休業（８月１日から９月20日まで）

(6)　冬期休業（12月24日から翌年１月７日まで）

２　前項の休業日については，事情により変更することがあり，授業を行うことができる。

３　臨時の休業については，学長がそのつど定める。

第２節　学籍の取得，喪失，異動

第11条　入学は，毎学年の始めとする。ただし，特別の事情のある場合は，学期の始めとすることができる。

第12条　次の各号の１に該当する者は，学部第１学年に入学することができる。ただし，必要と認めたときは，高等学校卒業程度の選抜試験を行う。

(1)　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8)　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達した者

第13条　本学の第３年次及び第２年次に転入学又は編入学を希望する者については，選考の上これを許可することがある。

２　第３年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

(1)　大学に２年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

３　第２年次に入学できる者は，次の各号の１に該当する者とする。

(1)　大学に１年以上在学した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　高等専門学校を卒業した者

第14条　第19条の規定により本学を中途退学をした者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の２　第20条第１項第１号により除籍された者が，再び入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，入学を許可することがある。

第14条の３　前３条の規定により入学した者の在学すべき年数及び在学し得る年数については，第６条及び第５条の規定にかかわらず教授会が定める。

第15条　入学志願者は，所定の書式にしたがい入学願書，履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。

第16条　入学の許可を得た者は，所定の入学誓書，保証書及び住民票記載事項証明書を指定の期日までに提出しなければならない。

第17条　保証人は１名とする。

２　保証人は,その学生の在学中にかかる一切の事件について責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡したとき又はその資格を失ったときは,新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

４　保証人が転居等をしたときは，ただちにその旨を届けなければならない。

第18条　学生が疾病又はその他の事由により，３月以上修学を中止しようとするときは，学長の許可を得て１学期間又は１学年間休学することができる。

２　休学中の者が引き続き休学を希望するときは，休学期間の延長をすることができる。

３　休学期間は連続して２年，通算して４年を超えることはできない。

４　休学期間は在学期間に算入しない。

第18条の２　休学した者が復学しようとするときは，所定の様式により，学長に願出なければならない。

第18条の３　他の大学へ転学を希望する学生は，学長に願出てその許可を受けなければな

らない。

第18条の４　本学先端理工学部において，第３年次及び第２年次に転課程を希望する者については，先端理工学部教授会の議を経て，これを許可することがある。

２　第３年次に転課程できる者は，先端理工学部に２年以上在学した者とする。

３　第２年次に転課程できる者は，先端理工学部に１年以上在学した者とする。

第19条　疾病又はその他の事由で退学しようとするときは，保証人と連署して願出なければならない。

第19条の２　外国の大学又は短期大学等で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

第20条　学生が次の各号の１に該当するときは，これを除籍する。

(1)　定められた期間内に学費を納入しない者

(2)　第５条に定める期間に修了できない者

(3)　第18条に定める休学期間を終えても復学できない者

２　前項に規定するほか，死亡したときも除籍する。

第３節　受験料，学費（入学金・授業料・実験実習料・実習料・留学実習料・施設費）及びその他納付金

第21条　入学試験の受験料・併願審査料は，別に定める。

第22条　学費は，次のとおりとする。

（単位　円）

	金額												備考
	文学部（歴史学科文化遺産学専攻を除く。） 経済学部 経営学部	文学部歴史学科文化遺産学専攻	政策学部	社会学部	国際学部国際文化学科	国際学部グローバルスタディーズ学科	農学部生命科学科農学科	農学部食品栄養学科	農学部食料農業システム学科	先端理工学部数理・情報科学課程	先端理工学部知能情報メディア課程電子情報通信	心理学部	

	法学部										課程 機械工学・ロボティクス課程 応用化学課程 環境生態工学課程		
入学金	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	編入学生及び転入学生の入学金は，160,000円を減免する。ただし，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の
授業料	761,000	761,000	761,000	761,000	806,000	961,000	979,000	979,000	979,000	1,029,000	1,029,000	1,007,000	

													学生が転学部，転学科，転課程及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。 　再入学生の入学金は，全額免除とする。
実験実習料	—	—	—	35,900	—	—	143,600	193,600	35,900	143,600	143,600	—	
実習料	—	35,900	15,000	—	10,000	—	—	—	—	—	—	—	
留学実習料	—	—	—	—	—	170,000	—	—	—	—	—	—	
施設費	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	390,000	440,000	260,000	340,000	390,000	260,000	入学初年度（1年次）の施設費は260,000円を減免する。 　本学短

													期大学部出身者が本学へ編入学する場合は，編入初年度及び2年度目（3年次・4年次）の施設費をそれぞれ50,000円減免する。

2　前項のほか，教職課程及び教育実習等実習を履修する者の履修料及び実習費については，学費等納入規程に定めるところによる。

第22条の２　学年の中途で退学する者は，当該学期分の学費は納入しなければならない。

2　停学期間においても，学費は納入しなければならない。

第22条の３　休学者の学費は，当該学期の休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料は，200,000円とする。

第22条の４　本節に規定するほか，受験料，学費及びその他の納付金については別に定める学費等納入規程による。

第４節　懲戒

第23条　学生が本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反した場合，その内容，軽重等を考慮し，別に定める学生懲戒規程により，次の懲戒を加える。

(1)　戒告

(2)　停学

(3)　退学

第24条　削除

第３章　教育課程

第１節　通則

第25条　文学部，経済学部，経営学部，法学部，社会学部，政策学部，国際学部，農学部，先端理工学部及び心理学部の教育課程における授業科目は，専攻科目と教養教育科目とし，学修方法によりそれぞれ必修科目，選択必修科目，選択科目に区分する。

２　前項に規定するほか，経済学部，経営学部，法学部及び政策学部の教育課程に，専攻科目として学部共通コース科目を置く。

３　前２項に規定するほか，各学部において，教育上必要があるときは寄付講座科目等を設けることができる。

４　第54条に規定する外国人留学生のために，前３項に規定する授業科目の他に，日本語科目を置く。

第25条の２　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　前項の授業は，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち，前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第26条　各授業科目の単位数を定めるにあたっては，１単位の授業科目につき45時間の学修を必要とする内容をもつものとして構成し，次の基準によって計算する。

(1)　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

(3)　１つの授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前２号に規定する基準を考慮して教授会が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，特別研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を認定することが適切と教授会が認める場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

第26条の２　各授業科目の授業は，原則として15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし，教育上必要があり，かつ，十分な教育効果をあげることができると教授会

が認める場合は，この限りでない。

第27条　授業科目を履修し，その試験に合格した者には所定の単位を与える。

第28条　試験は100点を満点とし，60点以上を合格とする。

第29条　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

２　本学各学部において取得できる教育職員免許状の種類は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	教科	免許状の種類
文学部	真宗学科	宗教	中学校教諭一種免許状
	仏教学科		高等学校教諭一種免許状
	哲学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状
			高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状
			高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	国際経済学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
経営学部	経営学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
		商業	
法学部	法律学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
社会学部	社会学科	社会	中学校教諭一種免許状

		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	コミュニティマネジメント学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
	現代福祉学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
政策学部	政策学科	社会	中学校教諭一種免許状
		公民	高等学校教諭一種免許状
国際学部	国際文化学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	グローバルスタディーズ学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
農学部	生命科学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	農学科	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		農業	高等学校教諭一種免許状
	食品栄養学科	栄養教諭一種免許状	
	食料農業システム学科	農業	高等学校教諭一種免許状
先端理工学部	数理・情報科学課程	数学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
		情報	高等学校教諭一種免許状
	知能情報メディア課程	情報	高等学校教諭一種免許状
	電子情報通信課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	機械工学･ロボティクス課程	工業	高等学校教諭一種免許状
	応用化学課程	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	環境生態工学課程	理科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状

心理学部	心理学科	公民	高等学校教諭一種免許状

第29条の２　削除

第２節　開設科目

第30条　本学各学部で開設する授業科目及び単位数は，別表１のとおりとする。

第30条の２　経済学部，経営学部，法学部及び政策学部において，学部共通コース科目として開設する授業科目及び単位数は，別表２のとおりとする。

第31条　本学において，日本語及び日本事情に関する科目として開設する授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。

第32条　本学において，教育職員免許状取得に関する科目として開設する授業科目は，別表４のとおりとする。

２　削除

第33条　文学部，国際学部，農学部及び先端理工学部において，博物館学芸員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表６のとおりとする。

第33条の２　本学において，本願寺派教師資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表７のとおりとする。

第33条の３　削除

第33条の４　削除

第33条の５　削除

第33条の６　本学において，図書館司書資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表10のとおりとする。

第33条の７　本学において，学校図書館司書教諭資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表11のとおりとする。

第33条の８　農学部食品栄養学科において，栄養士資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表12のとおりとする。

第33条の９　農学部食品栄養学科において，管理栄養士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表13のとおりとする。

第33条の10　農学部食品栄養学科において，食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表14のとおりとする。

第33条の11　社会学部現代福祉学科において，社会福祉士受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表15のとおりとする。

第33条の12　社会学部現代福祉学科において，精神保健福祉士受験資格取得に関する科目

として開設する授業科目は，別表16のとおりとする。

第33条の13　心理学部において，公認心理師受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表17のとおりとする。

第33条の14　社会学部において，社会教育主事資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表18のとおりとする。

第３節　履修方法

第34条　本学各学部において，卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

(1)　文学部

真宗学科　124単位以上

仏教学科　124単位以上

哲学科　124単位以上

歴史学科　124単位以上

日本語日本文学科　124単位以上

英語英米文学科　124単位以上

(2)　経済学部

現代経済学科　124単位以上

国際経済学科　124単位以上

(3)　経営学部

経営学科　125単位以上

(4)　法学部

法律学科　124単位以上

(5)　社会学部

社会学科　124単位以上

コミュニティマネジメント学科　124単位以上

現代福祉学科　124単位以上

(6)　政策学部

政策学科　124単位以上

(7)　国際学部

国際文化学科　124単位以上

グローバルスタディーズ学科　124単位以上

(8)　農学部

生命科学科　124単位以上

農学科　124単位以上

食品栄養学科　124単位以上

食料農業システム学科　124単位以上

(9)　先端理工学部

数理・情報科学課程　124単位以上

知能情報メディア課程　124単位以上

電子情報通信課程　124単位以上

機械工学・ロボティクス課程　124単位以上

応用化学課程　124単位以上

環境生態工学課程　124単位以上

（10）心理学部

心理学科　124単位以上

２　授業科目等の学修にあたっては，各学部教授会が定める教育課程に従い，履修すること。

３　履修しようとする授業科目については必ず履修登録をしなければならない。

４　国際学部グローバルスタディーズ学科については，本条第１項第７号に定める単位数に加え，別に定める英語運用能力測定テストの基準スコアを取得しなければならない。

第35条　開設科目について，学生の専攻との関係で，教授会が教育上有益であると認めるときは，当該授業科目の区分以外の区分に係る授業科目として履修させることがある。

第36条　教授会が教育上有益と認めるときは，他学部専攻科目を，当該学部専攻科目として履修させることができる。

２　教授会が必要と認めるときは，前項の規定とは別に他の学科・課程・専攻の専攻科目を，当該学科・課程・専攻の専攻科目として履修させることができる。

第37条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生に他大学の授業を履修させることができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については，教授会の議に基づき，第38条第２項の規定により認定した単位数と合わせて60単位を限度として認定する。

３　前項の規定は，第19条の２により学生が外国の大学等に留学する場合に準用する。

第38条　教授会が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に大学又は短期大学において

履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の単位認定は，編入学の場合を除き，前条第１項及び第３項により認定した単位と合わせて60単位を限度として認定する。

３　前２項の既修得単位の取扱いについては，別に定める。

第39条　第13条の規定により編入学した者が，編入学の条件となった学校において修得した単位は，本学において修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定において，認定すべき授業科目，単位数等必要な事項はそのつど教授会が個別に定める。

第40条　本節に規定するほか授業科目の配当年次等，履修すべき科目等履修に必要な事項は，各学部履修要項で定める。

第41条　削除

第42条　削除

第43条　削除

第44条　削除

第45条　削除

第46条　削除

第47条　削除

第48条　削除

第49条　削除

第50条　削除

第51条　削除

第52条　削除

第53条　削除

第４章　外国人留学生・科目等履修生等

第54条　外国人で，大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可することができる。

第55条　削除

第56条　本学以外の機関等の長で，その職員等を本学に派遣して特定の事項について研修又は研究させることを希望する者のある時は，受託研修員又は受託研究員として入学を許可することがある。

第56条の２　本学において，特定の事項について研究することを志願する者があるときは，学術研究生として入学を許可することがある。

第57条　削除

第58条　削除

第58条の２　一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは，科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生に対し，学則第27条の規定を準用し単位を認定する。

第59条　他の大学の学生で，本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは，当該他大学との協議に基づき，科目等特別履修生として履修を許可することがある。

第60条　外国人留学生，受託研修員，受託研究員，学術研究生，科目等履修生及び科目等特別履修生については，別に定める。

第５章　公開講座

第61条　教授会で必要と認めたときは公開講座を開設する。ただし，公開講座規程は別にこれを定める。

第６章　職員組織

第62条　本学に学長，事務局長，副学長，学部長及び総務局長を置く。

２　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

第62条の２　本学に専任の教育職員（教授，准教授，講師，助教及び助手），事務職員（事務員，医務員，技能員，守衛及び用務員）及び学医を置く。

２　事務組織に関する規程は別に定める。

第７章　教授会・評議会・事務協議機関

第63条　教授会は各学部に置き，専任の教授，准教授，講師，助教，助手をもって組織する。ただし，教授会の議により構成員を変更することができる。

第64条　教授会は次の各号を審議決定する。ただし，全学的に決定を要する事項を除く。

(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の審議決定が必要なものとして学長が定めるもの

２　前項第３号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1)　教育職員の人事に関する事項

(2)　学部長及び評議員の選考に関する事項

(3)　研究及び教授に関する事項
(4)　教育課程の編成，履修の方法及び試験に関する事項
(5)　学業評価に関する事項
(6)　学生の退学，休学，復学及び留学に関する事項
(7)　学生の補導厚生に関する事項
(8)　学部内諸規程の制定改廃に関する事項
(9)　学位称号に関する事項
(10)　その他学部における重要な事項

3　教授会は，前２項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について，審議決定することができる。

第65条　評議会は，学長，事務局長，副学長，総務局長，学部長，学長室長，各学部の教授会から選出された者各２名及び事務職員の中から選出された者10名をもって構成する。

第66条　前条に規定する役職者以外の評議員の任期は２年とする。ただし，重任を妨げない。

第67条　評議会は，次の各号の事項を審議決定する。
(1)　学長の選考基準に関する事項
(2)　学則の改正及び大学内規の制定改廃に関する事項
(3)　学部，学科・課程その他重要な施設の設置廃止に関する事項
(4)　学部，その他学内諸機関の連絡・調整に関する事項
(5)　職員の採用及び昇任についての基準に関する事項
(6)　職員の休職に関する事項
(7)　職員の定年に関する事項
(8)　職員の処分の審査に関する事項
(9)　名誉教授の承認に関する事項
(10)　給与に関する事項
(11)　予算・決算に関する事項
(12)　その他大学における重要事項

第68条　削除

第69条　事務協議機関は，事務遂行に必要な事項について協議する。

第８章　付属施設

第70条　本学に次の付属施設を置く。

(1)　図書館

(2)　世界仏教文化研究センター

(3)　社会科学研究所，科学技術共同研究センター，国際社会文化研究所，食と農の総合研究所

(4)　人間・科学・宗教総合研究センター

(5)　Ryukoku Extension Center

(6)　龍谷ミュージアム

(7)　診療所

２　前項付属施設に関する規程は別に定める。

付　則

第71条　省略

付　則（昭和50年９月26日第４条改正）

この学則は，昭和51年度の入学生から適用する。

付　則（昭和51年２月23日第19条，第20条改正）

この学則は，昭和51年２月23日から施行する。

付　則（昭和51年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和51年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学者及び昭和50年度並びに昭和51年度の編入学者，転入学者には適用しない。

付　則（昭和51年３月９日第10条，第22条，第30条，第31条改正，第19条の２，第54条新設）

この学則は，昭和52年４月１日から施行する。

付　則（昭和53年３月24日第22条改正）

この学則は，昭和53年４月１日から施行する。

付　則（昭和54年２月９日第２節，第13条，第22条，第26条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条，第68条改正）

第１条　この学則は，昭和54年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和54年度以降の入学者から適用する。

付　則（昭和55年４月１日第12条，第３節，第21条，第22条，第26条の２改正）

第１条　この学則は，昭和55年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和56年４月１日第12条，第18条，第22条，第37条，第41条改正，第18

条の２新設）

第１条　この学則は，昭和56年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和57年４月１日第16条，第22条，第29条，第33条，第34条，第37条，第41条，第42条改正）

第１条　この学則は，昭和57年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定中昭和49年度以前入学者の授業料及び昭和56年度以前入学者の施設費については，なお従前の規定を適用する。

２　第33条，第34条，第41条及び第42条の改正規定は，昭和56年度以前の入学者については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和58年４月１日第４条，第18条，第22条，第22条の３，第27条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条改正，第27条の２新設）

この学則は，昭和58年４月１日から施行する。ただし，第22条の改正規定は，昭和49年度以前入学生については，なお従前の規定を適用し，第30条第１項第３号及び第４号（宗教教育学，教育方法学を除く。），第33条第１項第３号，第34条第３号，第37条第１項第３号及び第４号，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第３号の改正規定は，昭和57年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和59年４月１日第18条，第22条，第30条，第33条，第34条改正）

この学則は，昭和59年４月１日から施行する。ただし，第30条第１項第４号，同号オの（ア），第33条第１項第４号，第34条第４号の改正規定は，昭和58年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和60年４月１日第２条，第22条第１項，第41条第１項第４号，第42条第４号，第57条，第59条，第60条，第65条，第68条改正，第54条第２項追加）

第１条　この学則は，昭和60年４月１日から施行する。ただし，第２条第２項は，留学生別科設置認可の日（昭和59年12月20日）から適用する。

第２条　第41条第１項第４号及び第42条第４号の改正規定は，昭和58年度以後の入学者から適用する。

付　則（昭和60年６月27日第21条，第30条，第31条，第33条，第34条，第35条，第37条，第38条，第39条，第41条，第42条及び第43条改正）

第１条　この学則の第21条は，昭和60年６月27日から施行する。

第２条　この学則の第30条第１項第１号，第31条，第33条第１項第１号，第34条第１号，

第35条，第37条第１項第１号，第38条第１号，第39条，第41条第１項第１号，第42条第１号及び第43条は，昭和61年４月１日より施行する。ただし，昭和60年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和61年３月26日第22条，第30条，第33条，第34条，第37条，第38条，第41条，第42条，第65条及び第68条改正）

第１条　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。

第２条　第４条の規定にかかわらず昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90人
		仏教学〃	90
	哲学科	哲学〃	50
		教育学〃	50
	史学科	国史学〃	50
		東洋史学〃	50
		仏教史学〃	50
	文学科	国文学〃	50
		英文学〃	50
	社会学科	社会学〃	60
		社会福祉学〃	60
	小計		650
経済学部経済学科			500
経営学部経営学科			500
法学部法律学科			500
合計			2,150

２　前項の規定については，前条の規定にかかわらず期間付入学定員関係学則の変更が，文部大臣により認可された日（昭和60年12月25日）から施行する。

第３条　第30条第１項第３号，第33条第１項第３号，第34条第１項，第34条第３号，第37条第１項第３号第４号，第38条第１項，第38条第３号，第41条第１項第３号，第42条第１項及び第42条第３号の改正規定は，昭和61年度入学生から適用する。

付　則（昭和61年７月31日第22条第１項改正）

第１条　この学則は，昭和61年７月31日から施行し，昭和62年度入学生から適用する。

第２条　昭和61年度以前の入学者については，なお従前の規定による。ただし，昭和62年度以降の授業料については，この改正規定を適用する。

付　則（昭和63年４月１日全部改正）

１　この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

２　昭和62年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（抄）（平成元年４月１日第２条，第４条，第７条，第２章第３節，第22条，第３章，第29条，第31条～第34条，第４章，第56条，第60条，第62条，第63条，第70条，別表１～別表３，別表５～別表８，別表11改正，別表９，別表10新設）

１　この学則は，平成元年４月１日から施行する。

２　昭和63年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	90名
		仏教学〃	90名
	哲学科	哲学〃	50名
		教育学〃	50名
	史学科	国史学〃	50名
		東洋史学〃	50名
		仏教史学〃	50名
	文学科	国文学〃	50名
		英文学〃	50名
	小計		530名
経済学部		経済学科	470名

経営学部	経営学科	470名
法学部	法律学科	480名
理工学部	数理情報学科	100名
	電子情報学科	80名
	機械システム工学科	80名
	物質化学科	80名
	小計	340名
社会学部	社会学科	120名
	社会福祉学科	80名
	小計	200名
合計		2,490名

付　則（平成２年３月27日第22条第１項，第29条，第32条，別表５～別表８，別表11改正，第29条の２，別表13新設）

１　この学則は，平成２年４月１日から施行する。

付　則（平成３年３月25日第22条，第29条第２項，別表１―１，別表２―１，別表３―１，別表４，別表５～別表８，別表10～別表11，別表13改正）

１　この学則は，平成３年４月１日から施行する。

２　平成２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成３年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
文学部	仏教学科	真宗学専攻	120名
		仏教学〃	120名
	哲学科	哲学〃	90名
		教育学〃	90名
	史学科	国史学〃	80名
		東洋史学〃	80名
		仏教史学〃	80名

	文学科	国文学〃	100名
		英文学〃	100名
	小計		860名
経済学部		経済学科	600名
経営学部		経営学科	600名
法学部		法律学科	600名
理工学部		数理情報学科	115名
		電子情報学科	90名
		機械システム工学科	90名
		物質化学科	90名
		小計	385名
社会学部		社会学科	220名
		社会福祉学科	120名
		小計	340名
合計			3,385名

付　則（平成４年３月21日第２条第１項，第４条，第６条第１項，第６条第２項，第22条，第29条第２項，第34条第１項第１号，第65条，第70条第１項，別表４～別表８改正，第１条の２新設，第７条削除）

１　この学則は，平成４年４月１日から施行する。ただし，第６条第２項については，平成３年７月１日から施行する。

２　平成３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が決めるところにより，この学則に定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第６条第２項の規定は，学校教育法第68条の２第１項の改正により平成３年度以前の卒業生についても適用する。

４　第４条の規定にかかわらず平成４年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科等		入学定員
文学部	真宗学科	120名
	仏教学科	120名

	哲学科	哲学専攻	90名
		教育学専攻	90名
	史学科	国史学専攻	80名
		東洋史学専攻	80名
		仏教史学専攻	80名
	日本語日本文学科		100名
	英語英米文学科		100名
	小計		860名
経済学部		経済学科	600名
経営学部		経営学科	600名
法学部		法律学科	450名
		政治学科	150名
		小計	600名
理工学部		数理情報学科	115名
		電子情報学科	90名
		機械システム工学科	90名
		物質化学科	90名
		小計	385名
社会学部		社会学科	220名
		社会福祉学科	120名
		小計	340名
合計			3,385名

付　則（平成４年５月25日第21条改正）

この学則は，平成４年５月25日から施行する。

付　則（平成５年３月25日第４条，第９条，第10条第２項，第21条，第22条，第25条第１項，第25条第２項，第26条，第26条の２，第30条～第36条，第38条第２項，第４章，第59条，第60条，別表１―１～別表13改正，第58条の２新設，第34条第３項追加）

１　この学則は，平成５年４月１日から施行する。

２　平成４年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，

教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成６年３月24日第22条第１項，第22条の３，第60条，第62条，第７章，第65条，第67条，第69条，別表１～別表８改正，第33条の２，第62条の２，別表11新設，第58条削除）

1　この学則は，平成６年４月１日から施行する。

2　第62条及び第65条の副学長に関する規定は，学校法人龍谷大学寄附行為の変更が文部大臣により認可された日（平成６年５月12日）から施行する。

3　平成５年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成７年３月27日第22条第１項，第22条の３，第25条第３項，第31条，別表１～別表７改正）

1　この学則は，平成７年４月１日から施行する。

2　平成６年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成８年３月25日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第30条～第33条の２，第34条第１項第１号及び同項第４号，第65条，別表１～別表５改正，別表７，別表８，別表11繰下・改正，別表９，別表10繰下，別表７新設，第34条第１項第７号追加）

1　この学則は，平成８年４月１日から施行する。

2　平成７年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第４条の規定にかかわらず平成８年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

	学部・学科等		入学定員
文学部	真宗学科		111名
	仏教学科		111名
	哲学科	哲学専攻	87名

		教育学専攻	87名
	史学科	国史学専攻	77名
		東洋史学専攻	77名
		仏教史学専攻	77名
	日本語日本文学科		96名
	英語英米文学科		97名
	小計		820名
経済学部		経済学科	560名
経営学部		経営学科	560名
法学部		法律学科	425名
		政治学科	135名
		小計	560名
理工学部		数理情報学科	115名
		電子情報学科	90名
		機械システム工学科	90名
		物質化学科	90名
		小計	385名
社会学部		社会学科	220名
		社会福祉学科	120名
		小計	340名
国際文化学部		国際文化学科	360名
合計			3,585名

付　則（平成９年３月25日第４条，第17条第１項，第22条第１項，第29条第２項，第33条，第34条第１項第１号～第３号，別表１～別表４，別表９，別表11，別表12改正，第２条の２，第36条の２新設，第68条削除）

１　この学則は，平成９年４月１日から施行する。

２　平成８年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成９年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおり

とする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名		15名
		教育学専攻	87名		15名
	史学科	国史学専攻	77名		15名
		東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名
経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部	法律学科		425名		
	政治学科		135名		
	小計		560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会学部	社会学科		220名		
	社会福祉学科		120名		
	小計		340名		
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
合計			3,585名	50名	435名

付　則（平成10年３月26日第２条第１項，第４条，第22条第１項，第29条第２項，

第34条第１項第６号，別表５，別表６，別表９，別表10改正）

１　この学則は平成10年４月１日から施行する。

２　平成９年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第４条の規定にかかわらず平成10年度から平成11年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			入学定員	編入学定員	入学定員
			昼間・昼間主コース		夜間主コース
文学部	真宗学科		111名		60名
	仏教学科		111名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名		15名
		教育学専攻	87名		15名
	史学科	国史学専攻	77名		15名
		東洋史学専攻	77名		15名
		仏教史学専攻	77名		15名
	日本語日本文学科		96名		20名
	英語英米文学科		97名		20名
	小計		820名		235名
経済学部		経済学科	560名		100名
経営学部		経営学科	560名		100名
法学部		法律学科	425名		
		政治学科	135名		
		小計	560名		
理工学部	数理情報学科		115名		
	電子情報学科		90名		
	機械システム工学科		90名		
	物質化学科		90名		
	小計		385名		
社会	社会学科		220名	30名	
	地域福祉学科		140名	30名	

学	臨床福祉学科		130名	30名	
部	小計		490名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	50名	
計			3,735名	140名	435名

付　則（平成11年３月25日第22条第１項，別表２，別表４，別表５改正，第33条の３，別表13新設）

１　この学則は平成11年４月１日から施行する。

２　平成10年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成12年３月23日第６条第１項，第22条第１項，第34条第１項第６号，第37条第１項，第37条第２項，第38条第２項，別表３～別表７，別表９，別表10改正）

１　この学則は，平成12年４月１日から施行する。

２　平成11年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第６条の改正規定は，短期大学，高等専門学校及び専修学校専門課程からの編入学者には適用しない。また，再入学者及び転入学者で，平成12年３月31日以前の期間が，本学の修業年限に通算される者には適用しない。

４　第37条第２項及び第38条第２項の改正規定は，教授会が認めた場合に限って，平成11年度以前の入学生に対しても適用できるものとする。

５　第４条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース						夜間主コース
			入学定員					編入学定員	入学定員
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学部	真宗学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科		111名	91名	91名	91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名
		教育学専攻	87名	72名	72名	57名	57名		15名

	史学科	国史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	77名	62名	62名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		96名	86名	86名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		97名	87名	87名	62名	62名		20名
	小計		820名	685名	685名	575名	575名		235名
経済学部		経済学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	500名	500名	445名	445名	445名		100名
法学部		法律学科	380名	380名	340名	340名	340名		
		政治学科	120名	120名	110名	110名	110名		
		小計	500名	500名	450名	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		115名	115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	機械システム工学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	物質化学科		90名	90名	90名	90名	85名		
	小計		385名	385名	385名	385名	362名		
社会学部	社会学科		220名	220名	220名	220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	140名	140名	140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	130名	130名	130名	115名	30名	
	小計		490名	490名	490名	490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	360名	360名	360名	50名	
合計			3,555名	3,420名	3,260名	3,150名	3,027名	140名	435名

付　則（平成13年３月23日第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第12条第３号～第６号，第13条第１項及び同条第２項，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第３号，第36条第１項及び同条第２項，第36条の２，第70条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表10，別表12改正，第33条の４，別表14新設，第13条第３項追加）

１　この学則は，平成13年４月１日から施行する。

2　平成12年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コースを適用する。

4　第29条第２項の理工学部数理情報学科，電子情報学科の高等学校一種免許状「情報」については，平成12年度入学生から適用する。

5　第４条の規定にかかわらず平成13年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース					夜間主コース
			入学定員				編入学定員	入学定員
			平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度		
文学部	真宗学科		91名	91名	91名	91名		60名
	仏教学科		91名	91名	91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
		教育学専攻	72名	57名	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	62名	52名	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		86名	61名	61名	61名		20名
	英語英米文学科		87名	62名	62名	62名		20名
	小計		685名	575名	575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名	445名	445名		100名
経営学部		経営学科	445名	445名	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名	340名	340名		
		政治学科	110名	110名	110名	110名		
		小計	450名	450名	450名	450名		
理工学	数理情報学科		115名	115名	115名	107名		
	電子情報学科		90名	90名	90名	85名		
	機械システム工学科		90名	90名	90名	85名		

部	物質化学科		90名	90名	90名	85名		
	小計		385名	385名	385名	362名		
社	社会学科		220名	220名	220名	155名	30名	
会	地域福祉学科		140名	140名	140名	120名	30名	
学	臨床福祉学科		130名	130名	130名	115名	30名	
部	小計		490名	490名	490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	360名	360名	50名	
合計			3,260名	3,150名	3,150名	3,027名	140名	335名

付　則（平成14年３月25日第22条第１項，第25条第１項，第38条第１項及び同条第２項，第70条第１項第４号及び同条同項第５号，別表１，別表３～別表７，別表９改正，第70条第１項第３号追加，第33条の３，別表13削除）

１　この学則は，平成14年４月１日から施行する。ただし，第70条第１項の改正規定は，人間・科学・宗教総合研究センター規程の施行日（平成13年９月27日）から適用する。

２　平成13年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）及び経営学部夜間主コース在学生の学費については，第22条夜間主コース（経済学部）を適用する。

４　別表５（第30条関係）(2)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

５　別表９（第32条関係）(5)の改正規定については，平成13年度入学生から適用する。

６　前項の規定にかかわらず平成14年４月１日現在理工学部に在籍する者が旧教育職員免許法によって教育職員免許状を取得する場合は，以下の表を適用する。

	授業科目	単位数
教職に関する科目	教育原論	4
	発達と教育	4
	教育制度論	2
	教育情報技術演習	1
	教育情報処理基礎講座	1
	数学科教育法	4
	工業科教育法	4

	理科教育法	4
	道徳教育の研究	2
	教育指導論Ⅰ	2
	教育指導論Ⅱ	2
	教育実践研究Ⅰ	1
	教育実践研究Ⅱ	2
	教育実践研究Ⅲ	2
	教育社会学	4
	同和教育論	2
教科に関する科目	職業指導	4

付　則（平成15年３月26日第２条第１項，第２条の２第１項及び同条第２項，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第２号，同条同項第４号及び同条同項第５号，第36条の２，別表２～別表７，別表９，別表12改正，第33条の５，別表15新設，第22条第２項追加）

１　この学則は，平成15年４月１日から施行する。

２　平成14年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　経済学部夜間主コース及び経営学部夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

４　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部

入学金	200,000	200,000	200,000
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	—	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000
授業料	657,000
施設費	180,000

5　第22条の規定にかかわらず，第２年次，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第２年次の場合は前項第１号を，第３年次，第４年次の場合は前項第２号を適用させる。

6　第34条第１項第４号の改正規定については，平成13年度入学生から適用させる。

7　第４条の規定にかかわらず平成15年度から平成16年度までの入学定員は，次のとおりとする。

学部・学科・専攻			昼間・昼間主コース			夜間主コース
			入学定員		編入学定員	
			平成15年度	平成16年度		入学定員
文学部	真宗学科		91名	91名		60名
	仏教学科		91名	91名		60名
	哲学科	哲学専攻	57名	57名		15名
		教育学専攻	57名	57名		15名
	史学科	国史学専攻	52名	52名		15名
		東洋史学専攻	52名	52名		15名
		仏教史学専攻	52名	52名		15名
	日本語日本文学科		61名	61名		20名
	英語英米文学科		62名	62名		20名

	小計		575名	575名		235名
経済学部		経済学科	445名	445名		
経営学部		経営学科	445名	445名		
法学部		法律学科	340名	340名		
		政治学科	110名	110名		
		小計	450名	450名		
理工学部	数理情報学科		100名	100名		
	電子情報学科		80名	80名		
	機械システム工学科		80名	80名		
	物質化学科		80名	80名		
	情報メディア学科		80名	80名		
	環境ソリューション工学科		80名	80名		
	小計		500名	500名		
社会学部	社会学科		220名	155名	30名	
	地域福祉学科		140名	120名	30名	
	臨床福祉学科		130名	115名	30名	
	小計		490名	390名	90名	
国際文化学部		国際文化学科	360名	360名	50名	
合計			3,265名	3,165名	140名	235名

付　則（平成16年３月12日第２条第１項，第４条，第12条第１号，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１～別表７，別表９改正）

１　この学則は平成16年４月１日から施行する。

２　平成15年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

３　第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース入学試験による入学生については，この限りではない。

①　昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
入学金	200,000	200,000	200,000
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

② 文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

入学金	50,000
授業料	657,000
施設費	180,000

4 第22条の規定にかかわらず，第３年次又は第４年次に入学（編入学，転入学，再入学）する場合は，前項の規定を適用する。ただし，文学部夜間主コース（文学部社会人特別コース入学試験による入学生は除く）については，第３年次の場合は前項第１号を，第４年次の場合は前項第２号を適用する。

5 前項の規定にかかわらず，再入学の場合，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。

付 則（平成17年３月25日第22条第２項，第22条の３，第65条，別表１，別表３～別表６，別表９改正）

1 この学則は平成17年４月１日から施行する。

2 平成16年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3 第22条の規定にかかわらず，平成14年度以前入学生の学費については，次のとおりとする。ただし，文学部社会人特別コース学生については，この限りではない。

①昼間・昼間主コース生

文学部夜間主コース生（平成14年度の入学者）

（単位：円）

	文学部 経済学部 経営学部 法学部 国際文化学部	理工学部	社会学部
授業料	731,000	949,000	731,000
実験実習料	―	143,600	35,900
施設費	200,000	280,000	200,000

②文学部夜間主コース生（平成13年度以前の入学者）

経済学部・経営学部の夜間主コース在学生

（単位：円）

授業料	657,000
施設費	180,000

4　第22条の規定にかかわらず，第４年次に再入学する場合は，前項の規定を運用する。ただし，文学部社会人特別コース学生はこの限りではない。

付　則（平成18年３月27日第２条第１項，第４条，第12条第６号～第８号，第29条第２項，第34条，別表１～別表７，別表９改正，第33条の６及び第33条の７新設，第12条第５号，別表16，別表17追加）

1　この学則は平成18年４月１日から施行する。

2　平成17年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　経済学部経済学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成18年12月21日第62条の２第１項，第63条改正）

この学則は，平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成19年３月27日第４条，第22条第１項及び同条第２項，第４節，第23条，第25条第１項，第29条第１項及び同条第２項，第33条，第33条の４，第34条第１項第１号，別表１～別表７，別表９，別表11，別表12改正，第23条第１号～第３号追加，第２条の２，第24条，第36条の２削除）

1　この学則は平成19年４月１日から施行する。

2　平成18年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部昼間主コース及び夜間主コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成20年３月26日第４条，第25条，別表１～別表７，別表９改正，第２条の２新設，第３条第２項追加，第２条第２項削除）

1　この学則は平成20年４月１日から施行する。

2　平成19年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成21年３月26日第26条第１項第１号及び同条同項第２号，同条第２項，第34条第１項第３号，別表１～別表４，別表６，別表７改正，第26条第１項第３号追加）

1　この学則は平成21年４月１日から施行する。

2　平成20年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第34条第１項第３号の改正規定については，平成20年度入学生から適用する。

付　則（平成22年３月24日第２条の２第１項，第25条第２項及び同条第３項，第30条，第31条～第33条の２，第33条の４～第33条の７，第70条第１項第５号，別表１改正，別表８，別表11，別表12，別表14～17繰上，別表９，別表10繰上・改正，第30条の２，別表２新設，第25条第２項，第70条第１項第５号追加，別表２～別表７，別表13削除）

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　平成21年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成22年４月28日第21条改正）

この学則は平成22年５月20日から施行する。

付　則（平成23年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項及び同条第３項，第22条の３，第25条第１項及び同条第２項，第29条第２項，第30条の２，第34条第１項第４号，第65条，別表１～別表５，別表７改正，第34条第１項第８号追加，第22条第２項削除）

1　この学則は平成23年４月１日から施行する。

2　平成22年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部社会人特別コースについては，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　文学部社会人特別コースの在学生の学費等については，次のとおりとする。

（単位：円）

授業料	施設費	休学在籍料
365,500	100,000	100,000

5　法学部政治学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規程を適用する。

付　則（平成24年３月26日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第１号，別表１，別表４，別表６，別表８，別表10改正，第29条の２，第32条第２項，別表５削除）

1　この学則は平成24年４月１日から施行する。

2　平成23年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学部史学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

4　経済学部については，変更後の規定にかかわらず，平成24年度の教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成25年３月25日第22条第１項，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成25年４月１日から施行する。

2　平成24年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第22条中の施設費にかかる改正規定については，平成25年度の編入学生から適用する。

付　則（平成25年５月27日第26条の２改正）

この学則は平成25年５月27日から施行し，平成25年４月１日から適用する。

付　則（平成26年３月28日第６条第１項，第34条第１項第５号，別表１，別表２改正）

1　この学則は平成26年４月１日から施行する。

2　平成25年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するとき

は，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成26年３月28日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，別表１，別表４，別表７改正，第33条の８，第33条の９，別表12，別表13新設，第34条第９号及び同条第10号追加）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日別表１改正）

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（平成26年12月15日第２条，第４条，第29条第２項，第34条第１項第６号，別表１，別表４改正）

この学則は平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第64条第１項，第70条第１項，別表１，別表２，別表４，別表７改正，第33条の10，別表14新設，第62条第２項，第64条第２項及び同条第３項追加）

改正　平成28年３月23日

1　この学則は平成27年４月１日から施行する。

2　平成26年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　国際文化学部については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成27年３月25日別表１，別表４改正，第33条の５，別表９削除）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年３月25日別表１改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年４月20日第21条改正）

この学則は，制定日（平成27年４月20日）から施行する。

付　則（平成27年４月20日第４条改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成27年12月10日第４条改正）

この学則は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月23日第２条の２，第65条改正，付則（平成27年３月25日）旧第２項繰下，第33条の11，第33条の12，別表15，別表16新設，付則（平成27年３月25日）第２項追加）

1　この学則は，制定日（平成28年３月23日）から施行し，平成27年４月１日から適用する。

2　第33条の11の改正規定については，平成21年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

3　第33条の12の改正規定については，平成24年度以降の入学生及び編入学生から適用する。

付　則（平成28年３月23日第２条，第２条の２，第４条，第２章第３節，第22条第１項，第22条の４，第29条第２項，第33条の11，第33条の12，第34条第１項第６号，別表１，別表４，別表15，別表16改正）

1　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

2　平成27年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成27年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成29年３月22日第65条，別表１，別表２改正）

1　この学則は，平成29年４月１日から施行する。

2　平成28年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成28年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第22条第２項，第25条第１項，第70条第１項第３号，別表１，別表２，別表４改正，第33条の13，別表17新設）

1　この学則は，平成30年４月１日から施行する。

2　平成29年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成29年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年３月22日第29条第２項，別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成30年12月20日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第

１項，第29条第２項，第33条の４，第34条第１項，第36条第１項及び同条第２項，第67条第１項第３号，別表１，別表４，別表７改正）

1　この学則は，平成32年４月１日から施行する。

2　理工学部数理情報学科，電子情報学科，機械システム工学科，物質化学科，情報メディア学科，環境ソリューション工学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表２，別表14改正，第34条第４項追加）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。ただし，別表１政策学部開設科目（第30条関係）第１号中，特別講座に係る改正規定は，平成23年度入学生から適用する。

2　平成30年度以前の入学生については，前項ただし書きを除き，なお従前の規定による。

3　平成30年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成31年３月20日別表４改正）

この学則は平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日第22条第１項改正）

1　この学則は，平成31年４月１日から施行する。

2　平成30年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

付　則（平成31年３月20日第４条改正）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日別表１，別表４改正，第13条の２新設）

この学則は，平成32年４月１日から施行する。

付　則（令和元年５月23日第４条改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和元年７月26日第22条第１項改正）

この学則は，令和２年４月１日から施行し，令和２年度入学生から適用する。

付　則（令和２年３月19日第２条の２，第29条第２項，第33条，別表１，別表２，別表４，別表６，別表15，別表16改正，第33条の14，別表18新設，別表５削除）

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　令和元年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和元年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日別表１，別表２，別表７，別表15，別表16改正，第25条の２新設）

1　この学則は，令和３年４月１日から施行する。

2　令和２年度以前の入学生については，第25条の２の改正規定を除き，なお従前の規定による。

3　令和２年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日第４条改正）

この学則は，令和４年４月１日から施行する。

付　則（令和３年12月20日第33条，別表1改正，第33条の４，別表8削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年12月20日第２条，第２条の２，第４条，第22条第１項，第25条第１項，第29条第２項，第33条の13，第34条第１項第１号，別表１，別表４，別表７，別表17改正，第34条第１項第10号新設）

1　この学則は，令和**5**年４月１日から施行する。

2　令和**4**年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　文学部臨床心理学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和４年３月15日第29条第２項，第34条第４項，別表１，別表２，別表４改正，第18条の４新設，第13条の２削除）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，教授会が履修を認める必要があると判断するときは，教授会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第２条，第４条，第22条第１項，第29条第２項，第34条第8号，別表1改正）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　農学部植物生命科学科及び資源生物科学科については，変更後の規定にかかわらず，当

該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

別表１

文学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2

英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1

スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2

中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩA	2
スペイン語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2
コリア語セミナーＩD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2

ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語ⅠA	2
ペルシア語ⅠB	2
ペルシア語ⅡA	2
ペルシア語ⅡB	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2

芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2

現代社会と教育B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	
学習・発達論B	2	
人文科学セミナー	4	
大学論	2	
日本国憲法	2	
法学のすすめ	2	
政治学のすすめ	2	
社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経済学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
国際学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	
人権論A	2	
人権論B	2	
現代社会とメディア	2	
現代社会と福祉	2	
現代社会と法	2	
環境と社会	2	
平和学A	2	
ジェンダー論	2	
国際社会論	2	
現代社会の諸問題	2	
地域論	2	
企業と会計	2	
現代社会と労働	2	

社会思想史	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
データサイエンス・ＡＩ入門	2	
数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	

日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	12
放送大学科目	4
バークレー語学	12
バークレー講義	6
バークレーボランティア	6

(2)　専攻科目

①　真宗学科

授業科目	単位数

真宗学概論A1	2	
真宗学概論A2	2	
真宗学の世界A	2	
真宗学の世界B	2	
真宗学概論B1	2	
真宗学概論B2	2	
浄土教理史A	2	
浄土教理史B	2	
真宗教学史A	2	
真宗教学史B	2	
真宗伝道学A	2	
真宗伝道学B	2	
真宗聖典学A	2	
真宗聖典学B	2	
浄土教概論	2	
比較思想論	2	
教理史特殊講義A1	2	
教理史特殊講義A2	2	
教理史特殊講義B1	2	
教理史特殊講義B2	2	
教学史特殊講義A1	2	
教学史特殊講義A2	2	
教学史特殊講義B1	2	
教学史特殊講義B2	2	
教義学特殊講義A1	2	
教義学特殊講義A2	2	
教義学特殊講義B1	2	
教義学特殊講義B2	2	
教義学特殊講義C1	2	
教義学特殊講義C2	2	
伝道学特殊講義A1	2	

伝道学特殊講義A2	2
伝道学特殊講義B1	2
伝道学特殊講義B2	2
伝道学特殊講義C1	2
伝道学特殊講義C2	2
教理史講読A1	2
教理史講読A2	2
教理史講読B1	2
教理史講読B2	2
教理史講読C1	2
教理史講読C2	2
教学史講読A1	2
教学史講読A2	2
教学史講読B1	2
教学史講読B2	2
教義学講読A1	2
教義学講読A2	2
教義学講読B1	2
教義学講読B2	2
教義学講読C1	2
教義学講読C2	2
教義学講読D1	2
教義学講読D2	2
教義学講読E1	2
教義学講読E2	2
伝道学講読A1	2
伝道学講読A2	2
伝道学講読B1	2
伝道学講読B2	2
伝道学講読C1	2
伝道学講読C2	2

真宗学基礎演習ＩA	2
真宗学基礎演習ＩB	2
真宗学基礎演習ⅡA	2
真宗学基礎演習ⅡB	2
教理史演習ＩA	2
教理史演習ＩB	2
教学史演習ＩA	2
教学史演習ＩB	2
教義学演習ＩA	2
教義学演習ＩB	2
伝道学演習ＩA	2
伝道学演習ＩB	2
教理史演習ⅡA	2
教理史演習ⅡB	2
教学史演習ⅡA	2
教学史演習ⅡB	2
教義学演習ⅡA	2
教義学演習ⅡB	2
伝道学演習ⅡA	2
伝道学演習ⅡB	2
卒業論文	4
布教伝道論Ⅰ	2
布教伝道論Ⅱ	2
文書伝道論Ⅰ	2
文書伝道論Ⅱ	2
真宗教団史	4
哲学概論	2
宗教学概説A	2
宗教学概説B	2
宗教史A	2
宗教史B	2

キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

② 仏教学科

授業科目	単位数
仏教学概論A1	2
仏教学概論A2	2
仏教学概論B1	2
仏教学概論B2	2
仏教聖典学概論A	2
仏教聖典学概論B	2
仏教文化学概論A	2
仏教文化学概論B	2
インド哲学概論A	2
インド哲学概論B	2
インド仏教教学史A	2
インド仏教教学史B	2
中国仏教教学史A	2
中国仏教教学史B	2
日本仏教教学史A	2
日本仏教教学史B	2
仏教学特殊講義A1	2
仏教学特殊講義A2	2
仏教学特殊講義B1	2
仏教学特殊講義B2	2
仏教学特殊講義C1	2
仏教学特殊講義C2	2
仏教学特殊講義D1	2
仏教学特殊講義D2	2
仏教学特殊講義E1	2
仏教学特殊講義E2	2

仏教学特殊講義F1	2
仏教学特殊講義F2	2
仏教学特殊講義G1	2
仏教学特殊講義G2	2
仏教学特殊講義H1	2
仏教学特殊講義H2	2
仏教学特殊講義I1	2
仏教学特殊講義I2	2
仏教学特殊講義J1	2
仏教学特殊講義J2	2
仏教学基礎演習A	2
仏教学基礎演習B	2
仏教学基礎演習C	2
仏教学基礎演習D	2
仏教漢文入門A	2
仏教漢文入門B	2
仏教学講読A1	2
仏教学講読A2	2
仏教学講読B1	2
仏教学講読B2	2
仏教学講読C1	2
仏教学講読C2	2
仏教学講読D1	2
仏教学講読D2	2
仏教学講読E1	2
仏教学講読E2	2
仏教学講読F1	2
仏教学講読F2	2
仏教学講読G1	2
仏教学講読G2	2
仏教学講読H1	2

仏教学講読H2	2
仏教学講読I1	2
仏教学講読I2	2
仏教学演習 I	4
仏教学演習 II	4
卒業論文	4
インドの仏教と文化A	2
インドの仏教と文化B	2
仏教と異思想A	2
仏教と異思想B	2
現代アジアの仏教と社会A	2
現代アジアの仏教と社会B	2
サンスクリット語仏典入門A1	2
サンスクリット語仏典入門A2	2
サンスクリット語仏典入門B1	2
サンスクリット語仏典入門B2	2
パーリ語仏典入門A	2
パーリ語仏典入門B	2
チベット語仏典入門A1	2
チベット語仏典入門A2	2
チベット語仏典入門B1	2
チベット語仏典入門B2	2
仏典情報研究論A	2
仏典情報研究論B	2
仏教美術（イコノロジー）入門A	2
仏教美術（イコノロジー）入門B	2
アジアの仏教と文化	2
日本の仏教と文化	2
仏教と日本の文化A	4
仏教と日本の文化B	2
仏教と日本の文化C	2

仏教と日本の文化D	2
仏教漢文の世界A	2
仏教漢文の世界B	2
古都の仏教	2
世界の仏教	2
仏教と人生の課題	2
哲学概論	2
宗教学概説A	2
宗教学概説B	2
宗教史A	2
宗教史B	2
キリスト教神学	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

③　哲学科

専攻	授業科目	単位数
哲学	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	哲学特殊講義(A)A	2
	哲学特殊講義(A)B	2
	哲学特殊講義(B)A	2
	哲学特殊講義(B)B	2
	哲学特殊講義(C)A	2
	哲学特殊講義(C)B	2
	哲学特殊講義(D)A	2
	哲学特殊講義(D)B	2
	哲学特殊講義(E)A	2

	哲学特殊講義(E)B	2
	哲学基礎演習ⅠA	2
	哲学基礎演習ⅠB	2
	哲学基礎演習ⅡA	2
	哲学基礎演習ⅡB	2
	哲学講読A1	2
	哲学講読A2	2
	哲学講読B1	2
	哲学講読B2	2
	哲学講読C1	2
	哲学講読C2	2
	哲学講読D1	2
	哲学講読D2	2
	哲学講読E1	2
	哲学講読E2	2
	哲学講読F1	2
	哲学講読F2	2
	哲学講読G1	2
	哲学講読G2	2
	哲学講読H1	2
	哲学講読H2	2
	哲学講読I1	2
	哲学講読I2	2
	哲学講読J1	2
	哲学講読J2	2
	哲学演習ⅠA	2
	哲学演習ⅠB	2
	哲学演習ⅡA	2
	哲学演習ⅡB	2
	卒業論文	4

	古代哲学史	2
	中世哲学史	2
	近世哲学史A	2
	近世哲学史B	2
	現代哲学史	2
	宗教史A	2
	宗教史B	2
	科学哲学	2
	社会哲学	2
	現代倫理学特論	2
	美学概説	2
	キリスト教神学	2
	聖書研究	2
	論理学特論	2
	形而上学特論	2
	現代哲学特論	2
	社会学概説	4
	社会活動ボランティア	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会事業概説	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4

	心理学概論	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
教育学	教育学概論	4
	西洋教育史	4
	日本教育史	4
	教育心理学	2
	特別支援教育論	2
	教育社会学	4
	教育学特殊講義(A)A	2
	教育学特殊講義(A)B	2
	教育学特殊講義(B)A	2
	教育学特殊講義(B)B	2
	教育学特殊講義(C)A	2
	教育学特殊講義(C)B	2
	教育学特殊講義(D)A	2
	教育学特殊講義(D)B	2
	教育学特殊講義(E)A	2
	教育学特殊講義(E)B	2
	教育学特殊講義(F)A	2
	教育学特殊講義(F)B	2
	教育学特殊講義(G)A	2
	教育学特殊講義(G)B	2
	教育学特殊講義(H)A	2
	教育学特殊講義(H)B	2
	教育学特殊講義(I)A	2
	教育学特殊講義(I)B	2
	教育学特殊講義(J)A	2
	教育学特殊講義(J)B	2

	教育学特殊講義(K)A	2
	教育学特殊講義(K)B	2
	教育学基礎演習ＩA	2
	教育学基礎演習ＩB	2
	教育学基礎演習ⅡA	2
	教育学基礎演習ⅡB	2
	教育学講読A1	2
	教育学講読A2	2
	教育学講読B1	2
	教育学講読B2	2
	教育学講読C1	2
	教育学講読C2	2
	教育学講読D1	2
	教育学講読D2	2
	教育学演習ＩA	2
	教育学演習ＩB	2
	教育心理学演習ＩA	2
	教育心理学演習ＩB	2
	教育学演習ⅡA	2
	教育学演習ⅡB	2
	教育心理学演習ⅡA	2
	教育心理学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	心理学概論	2
	社会教育概論	4
	生涯学習概論	4
	比較教育学	4
	教育行政学A	2
	教育行政学B	2
	社会教育計画	4

	社会教育特講Ⅰ	4
	社会教育特講Ⅱ	4
	社会教育特講Ⅲ	4
	教育心理学研究法	2
	矯正教育論Ⅰ	2
	矯正教育論Ⅱ	2
	学習・言語心理学	2
	発達心理学概論	2
	知覚・認知心理学	2
	心理学史	2
	現代社会論	4
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	教育情報処理演習	2
	地理学（地誌）	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	4
	社会学概説	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	社会事業概説	4
	文化人類学概論	4
	キリスト教神学	2

	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30

④　歴史学科

専攻	授業科目	単位数
日本史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2
	日本史概説ⅡB	2
	日本宗教史A	2
	日本宗教史B	2
	日本史学特殊講義(A)A	2
	日本史学特殊講義(A)B	2
	日本史学特殊講義(B)A	2
	日本史学特殊講義(B)B	2
	日本史学特殊講義(C)A	2
	日本史学特殊講義(C)B	2
	日本史学特殊講義(D)A	2
	日本史学特殊講義(D)B	2
	日本史学特殊講義(E)A	2
	日本史学特殊講義(E)B	2
	日本史学特殊講義(F)A	2
	日本史学特殊講義(F)B	2
	日本史学特殊講義(G)A	2
	日本史学特殊講義(G)B	2

	日本史学特殊講義(H)A	2
	日本史学特殊講義(H)B	2
	日本史学特殊講義(I)A	2
	日本史学特殊講義(I)B	2
	日本史学特殊講義(J)A	2
	日本史学特殊講義(J)B	2
	日本史学特殊講義(K)A	2
	日本史学特殊講義(K)B	2
	日本史学講読A1	2
	日本史学講読A2	2
	日本史学講読B1	2
	日本史学講読B2	2
	日本史学講読C1	2
	日本史学講読C2	2
	日本史学講読D1	2
	日本史学講読D2	2
	日本史学講読E1	2
	日本史学講読E2	2
	日本史学講読F1	2
	日本史学講読F2	2
	日本史学講読G1	2
	日本史学講読G2	2
	日本史学講読H1	2
	日本史学講読H2	2
	日本史学基礎演習ⅠA	2
	日本史学基礎演習ⅠB	2
	日本史学基礎演習ⅡA	2
	日本史学基礎演習ⅡB	2
	日本史学演習Ⅰ	4
	日本史学演習Ⅱ	4

	卒業論文	4
	日本文化史Ⅰ	2
	日本文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	歴史地理学	4
	考古学（日本）A	2
	考古学（日本）B	2
	民俗学（日本）A	2
	民俗学（日本）B	2
	美術史（日本）A	2
	美術史（日本）B	2
	史料学（日本）A	2
	史料学（日本）B	2
	古文書学	4
	古文書学入門	4
	社会事業史	4
	西洋史	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	経済原論	4
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	社会学概説	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30

	特別講座	30
東洋史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2
	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2
	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	東洋史学特殊講義(A)A	2
	東洋史学特殊講義(A)B	2
	東洋史学特殊講義(B)A	2
	東洋史学特殊講義(B)B	2
	東洋史学特殊講義(C)A	2
	東洋史学特殊講義(C)B	2
	東洋史学特殊講義(D)A	2
	東洋史学特殊講義(D)B	2
	東洋史学特殊講義(E)A	2
	東洋史学特殊講義(E)B	2
	東洋史学特殊講義(F)A	2
	東洋史学特殊講義(F)B	2
	東洋史学特殊講義(G)A	2
	東洋史学特殊講義(G)B	2
	東洋史学特殊講義(H)A	2
	東洋史学特殊講義(H)B	2

	東洋史学講読(A)	4
	東洋史学講読(B)	4
	東洋史学講読(C)A	2
	東洋史学講読(C)B	2
	東洋史学講読(D)A	2
	東洋史学講読(D)B	2
	東洋史学講読(E)A	2
	東洋史学講読(E)B	2
	東洋史学講読(H)	4
	東洋史学講読(I)A	2
	東洋史学講読(I)B	2
	東洋史学文献読解入門A	2
	東洋史学文献読解入門B	2
	東洋史学基礎演習Ⅰ	4
	東洋史学基礎演習Ⅱ	4
	東洋史学演習Ⅰ	4
	東洋史学演習Ⅱ	4
	卒業論文	4
	西洋史	4
	中国文化史Ⅰ	2
	中国文化史Ⅱ	2
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	考古学（アジア）A	2
	考古学（アジア）B	2
	民俗学（アジア）A	2
	民俗学（アジア）B	2
	美術史（アジア）A	2
	美術史（アジア）B	2
	史料学（アジア）A	2

	史料学（アジア）B	2
	文化人類学概論	4
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	地理学（地誌）	4
	日本史A	2
	日本史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
仏教史学	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	仏教史学入門A	2
	仏教史学入門B	2
	仏教文化史概論A	2
	仏教文化史概論B	2
	インド仏教史A	2
	インド仏教史B	2

	西域仏教史A	2
	西域仏教史B	2
	中国仏教史A	2
	中国仏教史B	2
	日本仏教史A1	2
	日本仏教史A2	2
	日本仏教史B1	2
	日本仏教史B2	2
	仏教美術史A	2
	仏教美術史B	2
	仏教史学特殊講義A1	2
	仏教史学特殊講義A2	2
	仏教史学特殊講義B1	2
	仏教史学特殊講義B2	2
	仏教史学特殊講義C1	2
	仏教史学特殊講義C2	2
	仏教史学特殊講義D1	2
	仏教史学特殊講義D2	2
	仏教史学特殊講義E1	2
	仏教史学特殊講義E2	2
	仏教史学特殊講義F1	2
	仏教史学特殊講義F2	2
	仏教史学特殊講義G1	2
	仏教史学特殊講義G2	2
	仏教史学特殊講義H1	2
	仏教史学特殊講義H2	2
	仏教史学特殊講義I1	2
	仏教史学特殊講義I2	2
	仏教史学講読A1	2
	仏教史学講読A2	2

	仏教史学講読B1	2
	仏教史学講読B2	2
	仏教史学講読C1	2
	仏教史学講読C2	2
	仏教史学講読D1	2
	仏教史学講読D2	2
	仏教史学講読E1	2
	仏教史学講読E2	2
	仏教史学講読F1	2
	仏教史学講読F2	2
	仏教史学講読G1	2
	仏教史学講読G2	2
	仏教史学講読H1	2
	仏教史学講読H2	2
	仏教史学基礎演習ⅠA	2
	仏教史学基礎演習ⅠB	2
	仏教史学基礎演習ⅡA	2
	仏教史学基礎演習ⅡB	2
	仏教史学演習ⅠA	2
	仏教史学演習ⅠB	2
	仏教史学演習ⅡA	2
	仏教史学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	真宗史A	2
	真宗史B	2
	倫理学概論	2

	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	法学概論	4
	政治学原理	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	30
	特別講座	30
文化遺産学	文化遺産学基礎演習A	2
	文化遺産学基礎演習B	2
	文化遺産学基礎演習C	2
	文化遺産学基礎演習D	2
	文化遺産学演習ⅠA	2
	文化遺産学演習ⅠB	2
	文化遺産学演習ⅡA	2
	文化遺産学演習ⅡB	2
	卒業論文	4
	文化遺産学概論A	2
	文化遺産学概論B	2
	考古学実習	2
	文化遺産学概説	4
	文化財実習	2
	日本史概説ⅠA	2
	日本史概説ⅠB	2
	日本史概説ⅡA	2

	日本史概説ⅡB	2
	東洋史概説Ⅰ	4
	東洋史概説Ⅱ	4
	仏教史概説A1	2
	仏教史概説A2	2
	仏教史概説B1	2
	仏教史概説B2	2
	史学概論A	2
	史学概論B	2
	史学概論C	2
	史学概論D	2
	史学概論E	2
	文献史学特殊講義A	2
	文献史学特殊講義B	2
	考古学特殊講義A	2
	考古学特殊講義B	2
	美術史特殊講義A	2
	美術史特殊講義B	2
	文化財科学特殊講義A	2
	文化財科学特殊講義B	2
	文化財行政特殊講義A	2
	文化財行政特殊講義B	2
	古文書学講読A	2
	古文書学講読B	2
	文化財資料講読A	2
	文化財資料講読B	2
	日本考古学講読A	2
	日本考古学講読B	2
	文化財科学講読A	2
	文化財科学講読B	2

	建築史概論	2
	工芸史概論	2
	博物館概論	2
	生涯学習概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館情報・メディア論	2
	西洋史	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	歴史地理学	4
	地理学（地誌）	4
	社会学概説	4
	経済原論	4
	法学概論	4
	政治学原理	4
	哲学概論	2
	倫理学概論	2
	宗教学概説A	2
	宗教学概説B	2
	キャリア形成論	2
	放送大学科目	8
	特別講座	30

⑤　日本語日本文学科

授業科目	単位数
日本文学概論A	2
日本文学概論B	2
日本語学概論A	2

日本語学概論B	2
日本文学史（古典）A	2
日本文学史（古典）B	2
日本文学史（近代）A	2
日本文学史（近代）B	2
情報出版学概論A	2
情報出版学概論B	2
日本語教育概論A	2
日本語教育概論B	2
古典文学特殊講義(A)A	2
古典文学特殊講義(A)B	2
古典文学特殊講義(B)A	2
古典文学特殊講義(B)B	2
古典文学特殊講義(C)A	2
古典文学特殊講義(C)B	2
古典文学特殊講義(D)A	2
古典文学特殊講義(D)B	2
古典文学特殊講義(E)A	2
古典文学特殊講義(E)B	2
古典文学特殊講義(F)A	2
古典文学特殊講義(F)B	2
近代文学特殊講義(A)A	2
近代文学特殊講義(A)B	2
近代文学特殊講義(B)A	2
近代文学特殊講義(B)B	2
近代文学特殊講義(C)A	2
近代文学特殊講義(C)B	2
情報出版学特殊講義(A)A	2
情報出版学特殊講義(A)B	2
情報出版学特殊講義(B)A	2
情報出版学特殊講義(B)B	2

情報出版学特殊講義(C)A	2
情報出版学特殊講義(C)B	2
情報出版学特殊講義(D)A	2
情報出版学特殊講義(D)B	2
日本語学特殊講義(A)A	2
日本語学特殊講義(A)B	2
日本語学特殊講義(B)A	2
日本語学特殊講義(B)B	2
日本語学特殊講義(C)A	2
日本語学特殊講義(C)B	2
日本語学特殊講義(D)A	2
日本語学特殊講義(D)B	2
古典文学講読(A)A	2
古典文学講読(A)B	2
古典文学講読(B)A	2
古典文学講読(B)B	2
古典文学講読(C)A	2
古典文学講読(C)B	2
古典文学講読(D)A	2
古典文学講読(D)B	2
近代文学講読(A)A	2
近代文学講読(A)B	2
近代文学講読(B)A	2
近代文学講読(B)B	2
近代文学講読(C)A	2
近代文学講読(C)B	2
情報出版学講読(A)A	2
情報出版学講読(A)B	2
情報出版学講読(B)A	2
情報出版学講読(B)B	2
情報出版学講読(C)A	2

情報出版学講読(C)B	2
日本語学講読(A)A	2
日本語学講読(A)B	2
日本語学講読(B)A	2
日本語学講読(B)B	2
日本語日本文学基礎演習A	2
日本語日本文学基礎演習B	2
日本語日本文学基礎演習C	2
日本語日本文学基礎演習D	2
古典文学演習ＩA	2
古典文学演習ＩB	2
近代文学演習ＩA	2
近代文学演習ＩB	2
情報出版学演習ＩA	2
情報出版学演習ＩB	2
日本語学演習ＩA	2
日本語学演習ＩB	2
古典文学演習Ⅱ	4
近代文学演習Ⅱ	4
情報出版学演習Ⅱ	4
日本語学演習Ⅱ	4
卒業論文	4
中国文学ＩA	2
中国文学ＩB	2
中国文学ⅡA	2
中国文学ⅡB	2
中国文学史A	2
中国文学史B	2
仏教文学A	2
仏教文学B	2
書道（書写を含む）A	2

書道（書写を含む）B	2
メディア論A	2
メディア論B	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
言語習得（発達）論A	2
言語習得（発達）論B	2
情報処理法Ⅰ	2
情報処理法Ⅱ	2
画像映像処理法Ⅰ	2
画像映像処理法Ⅱ	2
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

⑥　英語英米文学科

授業科目	単位数
英語圏文学概論A	2
英語圏文学概論B	2
英語学概論A	2
英語学概論B	2
英米文化概論A	2
英米文化概論B	2
英米文学特殊講義(A)A	2
英米文学特殊講義(A)B	2
英米文学特殊講義(B)A	2
英米文学特殊講義(B)B	2
英米文学特殊講義(C)A	2
英米文学特殊講義(C)B	2
英米文学特殊講義(D)A	2
英米文学特殊講義(D)B	2
英語学特殊講義(A)A	2

英語学特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(A)A	2
英米文化特殊講義(A)B	2
英米文化特殊講義(B)A	2
英米文化特殊講義(B)B	2
英語英米文学基礎演習A	2
英語英米文学基礎演習B	2
英語英米文学基礎演習C	2
英語英米文学基礎演習D	2
English Listening A	1
English Listening B	1
English Academic Writing　ＩA	1
English Academic Writing　ＩB	1
英米文学講読(A)A	2
英米文学講読(A)B	2
英米文学講読(B)A	2
英米文学講読(B)B	2
英米文学講読(C)A	2
英米文学講読(C)B	2
英米文学講読(D)A	2
英米文学講読(D)B	2
英米文学講読(E)A	2
英米文学講読(E)B	2
英語学講読(A)A	2
英語学講読(A)B	2
英語学講読(B)A	2
英語学講読(B)B	2
英米文化講読(A)A	2
英米文化講読(A)B	2
英米文化講読(B)A	2
英米文化講読(B)B	2

英文学演習ＩA	2
英文学演習ＩB	2
米文学演習ＩA	2
米文学演習ＩB	2
英語学演習ＩA	2
英語学演習ＩB	2
英米文化演習ＩA	2
英米文化演習ＩB	2
英文学演習ⅡA	2
英文学演習ⅡB	2
米文学演習ⅡA	2
米文学演習ⅡB	2
英語学演習ⅡA	2
英語学演習ⅡB	2
英米文化演習ⅡA	2
英米文化演習ⅡB	2
卒業論文	4
英文学史A	2
英文学史B	2
米文学史A	2
米文学史B	2
英語発達史A	2
英語発達史B	2
英国文化史A	2
英国文化史B	2
米国文化史A	2
米国文化史B	2
言語学概論A	2
言語学概論B	2
英語音声学A	2
英語音声学B	2

Oral Communication IA	1
Oral Communication IB	1
Oral Communication ⅡA	1
Oral Communication ⅡB	1
Oral Communication ⅢA	1
Oral Communication ⅢB	1
English Academic Writing ⅡA	1
English Academic Writing ⅡB	1
英語圏文化論A	2
英語圏文化論B	2
イングリッシュ・レクチャーⅠ	2
イングリッシュ・レクチャーⅡ	2
国際文化交流研修	8
海外研修	4
バークレー語学	10
バークレー講義	4
バークレーボランティア	6
キャリア形成論	2
放送大学科目	30
特別講座	30

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経済学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1

英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1

ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2

ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2

スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1
ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語ⅠA	2
ペルシア語ⅠB	2
ペルシア語ⅡA	2

ペルシア語ⅡB	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2

日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2

経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2

宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2

情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	4
放送大学科目	4
バークレー語学	12
バークレー講義	6

(2) 専攻科目

① 現代経済学科

授業科目	単位数
現代と経済	2
ミクロ経済学入門Ⅰ	2
ミクロ経済学入門Ⅱ	2
マクロ経済学入門Ⅰ	2
マクロ経済学入門Ⅱ	2
統計学入門	2
社会経済学入門	2
経済数学	4
日本経済論	4
経済史	4
統計学	4
ミクロ経済学A	2
ミクロ経済学B	2
マクロ経済学	4

社会経済学	4
財政学	4
金融論	4
経済政策	4
国際経済学	4
経済学史	4
入門演習	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
ゲーム理論	4
経済成長と循環	2
不確実性と情報の経済学	2
行動経済学	2
産業組織論	4
ファイナンス理論	4
企業金融論	4
労働経済学	4
ホスピタリティ・ビジネス論	2
地域産業論	4
観光経済論	2
サービス経済論	4
中小企業論	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2
環境経済学	4
総合政策論	4
公共経済学	4
社会政策	4
租税論	4
都市経済学	2
NPO論	2

医療経済学	2
生活福祉論	4
地方財政論	4
経済統計学	4
計量経済学	4
応用計量経済学	4
データサイエンス入門	4
データサイエンス	2
データ分析と問題解決	2
情報システム論	4
国際政治経済学	4
国際貿易政策	2
比較経済論	4
国際金融論	4
国際ビジネス論	2
中国経済論	4
ヨーロッパ経済論	4
アメリカ経済論	4
開発経済学	4
地域経済論	4
国際協力論	4
農業・資源経済学	4
アジア経済論	4
海外フィールド実習	4
アジア経済史	4
日本経済史	4
経済地理学	4
ヨーロッパ経済史	4
アメリカ経済史	4
経済思想史	2
演習Ⅰ	4

演習Ⅱ	4	
卒業研究	4	
経済英語Ⅰ	2	
経済英語Ⅱ	2	
経済英語Ⅲ	2	
留学英語Ⅰ	4	
留学英語Ⅱ	2	
留学英語Ⅲ	4	
留学英語Ⅳ	2	
Business　Communication Ⅰ	2	
Business　Communication Ⅱ	2	
経済学の技法Ⅰ	2	
経済学の技法Ⅱ	2	
情報と経済	2	
社会調査の技法	2	
フィールドワークの技法	2	
簿記論Ⅰ	2	
簿記論Ⅱ	2	
経営学総論	4	
財務会計入門	2	
財務会計論	2	
商学総論	4	
中級商業簿記	2	
上級商業簿記	2	
工業簿記	2	
原価計算論	2	
政治学原理	4	
民法	2	
経済法	2	
行政法	4	
憲法	4	

労働法	2
商法	2
キャリア形成論Ⅰ	2
キャリア形成論Ⅱ	2
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2
現代特別講義A	2
現代特別講義B	2
現代特別講義C	2
現代特別講義D	2
現代特別講義E	2
現代特別講義F	2
現代特別講義G	2
現代特別講義H	2
現代特別講義I	2
現代特別講義J	4
国際特別講義A	4
国際特別講義B	2
選択特別講義A	2
選択特別講義B	2
選択特別講義C	2
選択特別講義D	2
選択特別講義E	2
選択特別講義F	2
放送大学科目	8
特別講座	24

② 国際経済学科

授業科目	単位数
現代と経済	2
ミクロ経済学入門Ⅰ	2
ミクロ経済学入門Ⅱ	2

マクロ経済学入門Ⅰ	2	
マクロ経済学入門Ⅱ	2	
統計学入門	2	
社会経済学入門	2	
経済数学	4	
日本経済論	4	
経済史	4	
統計学	4	
ミクロ経済学Ａ	2	
ミクロ経済学Ｂ	2	
マクロ経済学	4	
社会経済学	4	
財政学	4	
金融論	4	
経済政策	4	
国際経済学	4	
経済学史	4	
入門演習	2	
基礎演習Ⅰ	2	
基礎演習Ⅱ	2	
国際政治経済学	4	
国際貿易政策	2	
比較経済論	4	
国際金融論	4	
国際ビジネス論	2	
中国経済論	4	
ヨーロッパ経済論	4	
アメリカ経済論	4	
開発経済学	4	
地域経済論	4	
国際協力論	4	

農業・資源経済学	4
アジア経済論	4
海外フィールド実習	4
アジア経済史	4
日本経済史	4
経済地理学	4
ヨーロッパ経済史	4
アメリカ経済史	4
経済思想史	2
ゲーム理論	4
経済成長と循環	2
不確実性と情報の経済学	2
行動経済学	2
産業組織論	4
ファイナンス理論	4
企業金融論	4
労働経済学	4
ホスピタリティ・ビジネス論	2
地域産業論	4
観光経済論	2
サービス経済論	4
中小企業論	2
地域産業活性化プロジェクトⅠ	4
地域産業活性化プロジェクトⅡ	2
環境経済学	4
総合政策論	4
公共経済学	4
社会政策	4
租税論	4
都市経済学	2
NPO論	2

医療経済学	2
生活福祉論	4
地方財政論	4
経済統計学	4
計量経済学	4
応用計量経済学	4
データサイエンス入門	4
データサイエンス	2
データ分析と問題解決	2
情報システム論	4
演習Ⅰ	4
演習Ⅱ	4
卒業研究	4
経済英語Ⅰ	2
経済英語Ⅱ	2
経済英語Ⅲ	2
留学英語Ⅰ	4
留学英語Ⅱ	2
留学英語Ⅲ	4
留学英語Ⅳ	2
Business　Communication Ⅰ	2
Business　Communication Ⅱ	2
経済学の技法Ⅰ	2
経済学の技法Ⅱ	2
情報と経済	2
社会調査の技法	2
フィールドワークの技法	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
経営学総論	4
財務会計入門	2

財務会計論	2	
商学総論	4	
中級商業簿記	2	
上級商業簿記	2	
工業簿記	2	
原価計算論	2	
政治学原理	4	
民法	2	
経済法	2	
行政法	4	
憲法	4	
労働法	2	
商法	2	
キャリア形成論Ⅰ	2	
キャリア形成論Ⅱ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅰ	2	
ファイナンシャル・プランニング入門Ⅱ	2	
現代特別講義A	2	
現代特別講義B	2	
現代特別講義C	2	
現代特別講義D	2	
現代特別講義E	2	
現代特別講義F	2	
現代特別講義G	2	
現代特別講義H	2	
現代特別講義I	2	
現代特別講義J	4	
国際特別講義A	4	
国際特別講義B	2	
選択特別講義A	2	
選択特別講義B	2	

選択特別講義C	2
選択特別講義D	2
選択特別講義E	2
選択特別講義F	2
放送大学科目	8
特別講座	24

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経営学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2

英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1

中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2

フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2

コリア語コミュニケーションⅡ	2	
海外中国語研修講座	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	1	
ラテン語Ⅱ	1	
ギリシア語Ⅰ	1	
ギリシア語Ⅱ	1	
ペルシア語ⅠA	2	
ペルシア語ⅠB	2	
ペルシア語ⅡA	2	
ペルシア語ⅡB	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	
アラビア語Ⅱ	2	
哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	

宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2

応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2

現代社会の諸問題	2
地域論	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4
生命科学のすすめ	2

生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	12
バークレー語学	12
バークレー講義	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数

情報リテラシー	1
現代のビジネス	2
簿記入門	2
経営と情報	2
現代の企業会計	2
現代企業の成り立ち	2
現代社会と企業	2
経営とコンピュータ利用	2
マーケティングの基礎	2
企業の国際化	2
企業経営の管理	2
日本と世界の経済	2
初級商業簿記	2
経営管理論	2
経営戦略論	2
国際経営論	2
オペレーションズ・マネジメント	2
マーケティング論	2
マーケティング・リサーチ	2
人的資源管理論	2
組織行動論	2
経営組織論	2
商品学	2
商品開発論	2
経営学原理	2
中小企業経営論	2
ロジスティクス	2
国際経営戦略論	2
経営立地論	2
アジア企業経営論	2
経営意思決定論	2

企業経営を視る	2
財務会計入門	2
財務会計論	2
中級商業簿記	2
上級商業簿記	2
工業簿記	2
原価計算論	2
管理会計論	2
会計監査論	2
国際会計論	2
キャッシュフロー会計論	2
会計情報解読論	2
財務管理論	2
連結会計論	2
所得税法	2
法人税法	2
証券市場論	2
現代金融論	2
現代銀行論	2
株式会社論	2
企業統治論	2
企業倫理論	2
産業技術論	2
マクロ経済学	2
経済原論	2
経営史	2
流通システム論	2
日本経営史	2
日本経済論	2
多国籍企業論	2
国際比較経営史	2

国際比較社会論	2
国際比較経営論	2
国際流通論	2
中国ビジネス論	2
現代中国のビジネス	4
起業論A	2
起業論B	2
経営革新論	2
公共経営論	2
京都企業論	2
環境経営論	2
ものづくりの現場	2
地域と企業	4
民法	2
商法	2
会社法	2
労働法	2
経済法	2
経営データの分析A	2
経営データの分析B	2
経営情報システム論	2
経営数学	2
プログラミングおよび実習A1	2
プログラミングおよび実習A2	2
プログラミングおよび実習B1	2
プログラミングおよび実習B2	2
経営情報活用論	2
情報産業論	2
意思決定の科学	2
地域企業論	2
経営学基礎論	2

ビジネスコミュニケーションA（英）	2
ビジネスコミュニケーションB（英）	2
ビジネスコミュニケーションA（中国）	2
ビジネスコミュニケーションB（中国）	2
経営基礎総合	2
上級外国語A（ドイツ）	2
上級外国語B（ドイツ）	2
上級外国語C（ドイツ）	2
上級外国語D（ドイツ）	2
上級外国語A（フランス）	2
上級外国語B（フランス）	2
上級外国語C（フランス）	2
上級外国語D（フランス）	2
上級外国語A（中国）	2
上級外国語B（中国）	2
上級外国語C（中国）	2
上級外国語D（中国）	2
上級外国語A（スペイン）	2
上級外国語B（スペイン）	2
上級外国語C（スペイン）	2
上級外国語D（スペイン）	2
上級外国語A（コリア）	2
上級外国語B（コリア）	2
上級外国語C（コリア）	2
上級外国語D（コリア）	2
スポーツと経済	2
スポーツマネジメント論	2
スポーツ政策論	2
スポーツマーケティング論	2
特講・我が社の経営と京都	2
特講・映画・映像概論	2

特講・食農のビジネスフロンティア	4
実践・メディアと表現技法	2
実践・情報とセキュリティ	2
実践・マイ・キャリアデザイン	2
実践・グローバル時代の「多様性と調和」のマネジメント	2
実践・現場から学ぶ放送メディア論A	2
実践・現場から学ぶ放送メディア論B	4
実践・消費者問題を考える	2
事例を通じて学ぶリスク・マネジメント	2
Global Understanding and Communication	4
京都市の産業と産業政策	2
フレッシャーズゼミ	2
基礎演習	4
演習	12
応用演習	2
留学生入門演習A	2
留学生入門演習B	2
留学生入門演習C	2
特別講座	12
アジア政治論	4
中国政治論	2
アジア経済論	4
中国経済論	4
国際金融論	4
ファイナンス理論	4
統計学	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

法学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数

仏教の思想A	2	
仏教の思想B	2	
歎異抄の思想Ⅰ	2	
歎異抄の思想Ⅱ	2	
英語総合1(A)	1	
英語総合1(B)	1	
英語総合2(A)	1	
英語総合2(B)	1	
英語総合3(A)	1	
英語総合3(B)	1	
英語総合4(A)	1	
英語総合4(B)	1	
英語セミナーA1	2	
英語セミナーA2	2	
英語セミナーB1	2	
英語セミナーB2	2	
英語セミナーC1	2	
英語セミナーC2	2	
英語セミナーD1	2	
英語セミナーD2	2	
英語セミナーE1	2	
英語セミナーE2	2	
英語セミナーF1	2	
英語セミナーF2	2	
英語セミナーG1	2	
英語セミナーG2	2	
英語セミナーH1	2	
英語セミナーH2	2	
英語セミナーI1	2	
英語セミナーI2	2	
英語セミナーJ1	2	

英語セミナーJ2	2	
英語資格試験セミナー	2	
海外英語研修	2	
ドイツ語Ⅰ	2	
ドイツ語Ⅱ	2	
ドイツ語ⅢA	1	
ドイツ語ⅢB	1	
ドイツ語ⅢC	1	
ドイツ語ⅢD	1	
フランス語Ⅰ	2	
フランス語Ⅱ	2	
フランス語ⅢA	1	
フランス語ⅢB	1	
フランス語ⅢC	1	
フランス語ⅢD	1	
中国語Ⅰ	2	
中国語Ⅱ	2	
中国語ⅢA	1	
中国語ⅢB	1	
中国語ⅢC	1	
中国語ⅢD	1	
スペイン語Ⅰ	2	
スペイン語Ⅱ	2	
スペイン語ⅢA	1	
スペイン語ⅢB	1	
スペイン語ⅢC	1	
スペイン語ⅢD	1	
コリア語Ⅰ	2	
コリア語Ⅱ	2	
コリア語ⅢA	1	
コリア語ⅢB	1	

コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
ドイツ語セミナーＩC	2
ドイツ語セミナーＩD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2

中国語コミュニケーションⅡ	2	
スペイン語セミナーⅠA	2	
スペイン語セミナーⅠB	2	
スペイン語セミナーⅠC	2	
スペイン語セミナーⅠD	2	
スペイン語セミナーⅡA	2	
スペイン語セミナーⅡB	2	
スペイン語セミナーⅡC	2	
スペイン語セミナーⅡD	2	
スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
コリア語セミナーⅠA	2	
コリア語セミナーⅠB	2	
コリア語セミナーⅠC	2	
コリア語セミナーⅠD	2	
コリア語セミナーⅡA	2	
コリア語セミナーⅡB	2	
コリア語セミナーⅡC	2	
コリア語セミナーⅡD	2	
コリア語コミュニケーションⅠ	2	
コリア語コミュニケーションⅡ	2	
海外中国語研修講座	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	
ポルトガル語Ⅱ	2	
ポルトガル語ⅢA	2	
ポルトガル語ⅢB	2	
ロシア語Ⅰ	2	
ロシア語Ⅱ	2	
ロシア語ⅢA	2	
ロシア語ⅢB	2	
ラテン語Ⅰ	1	

ラテン語Ⅱ	1	
ギリシア語Ⅰ	1	
ギリシア語Ⅱ	1	
ペルシア語ⅠA	2	
ペルシア語ⅠB	2	
ペルシア語ⅡA	2	
ペルシア語ⅡB	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	
アラビア語Ⅱ	2	
哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	
宗教の世界A	2	
宗教の世界B	2	
中国の思想A	2	
中国の思想B	2	
芸術の世界A	2	
芸術の世界B	2	
日本の文学A	4	
日本の文学B	4	
日本の文学C	2	
アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	

西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4

大学論	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会と福祉	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2

数学の世界	4	
数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	
民族の自然誌	2	
人類進化学	2	
人間の生物学Ⅰ	2	
人間の生物学Ⅱ	2	
自然誌実習	4	
野外観察法	2	
環境学	4	

情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	4
バークレー語学	12
バークレー講義	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
裁判と人権	2
法と裁判	2
法哲学Ⅰ	2
法哲学Ⅱ	2
法社会学A	2
法社会学B	2
日本法制史A	2
日本法制史B	2
西洋法制史A	2
西洋法制史B	2
外国法Ⅰ	2
外国法Ⅱ	2
現代中国の法と社会	2
生命倫理と法	2

憲法Ⅰ	4	
憲法Ⅱ	4	
憲法Ⅲ	2	
行政法Ⅰ	4	
行政法Ⅱ	2	
行政法Ⅲ	2	
税法	2	
労働と法	2	
労働法Ⅰ	4	
労働法Ⅱ	2	
社会保障法	4	
環境と法	2	
宗教法	2	
刑事法入門	2	
刑法Ⅰ―A	2	
刑法Ⅰ―B	2	
刑法Ⅱ―A	2	
刑法Ⅱ―B	2	
刑事政策	2	
刑事訴訟法Ⅰ	4	
刑事訴訟法Ⅱ	2	
少年法	2	
国際環境法	2	
国際法Ⅰ	4	
国際法Ⅱ	2	
国際法Ⅲ	2	
民法Ⅰ―A	2	
民法Ⅰ―B	2	
民法Ⅰ―C	2	
民法Ⅱ	4	
民法Ⅲ	4	

民法Ⅳ	2
民法Ⅴ―A	2
民法Ⅴ―B	2
消費者法	2
民事法発展ゼミⅠ	2
民事法発展ゼミⅡ	2
民事法発展ゼミⅢ	2
民事法発展ゼミⅣ	2
民事訴訟法Ⅰ	4
民事訴訟法Ⅱ	2
民事訴訟法Ⅲ	2
知的財産法	2
不動産登記法	2
商法Ⅰ	4
商法Ⅱ	2
商法Ⅲ	2
商法Ⅳ	2
経済法	2
国際取引法	2
国際私法	4
企業法務の実際	2
法律実務論A	2
法律実務論B	4
キャリアデザイン	2
司法実務特別講義	2
ワークショップ司法実務	2
法律事務実務Ⅰ	2
法律事務実務Ⅱ	2
法律事務実務Ⅲ	2
法律事務実務Ⅳ	2
特別講義A	4

特別講義B	4
特別講義C	4
特別講義D	4
特別講義E	2
特別講義F	2
特別講義G	2
特別講義H	2
特別講義I	2
特別講義J	2
特別講義K	2
特別講義L	2
特別講義M	2
特別講義N	2
特別講義O	2
特別講義P	2
特別講義Q	2
特別講義R	2
現代社会と政治	2
現代世界の政治	2
現代世界の地域紛争	2
政治学原論	4
政治思想史A	2
政治思想史B	2
日本政治史	4
西洋政治史	4
マスコミ論Ⅰ	2
マスコミ論Ⅱ	2
行政学	2
現代公務員論	2
非営利非政府組織論	2
地方自治論	2

政策過程論	2	
都市政策論	2	
外交史	2	
中国政治論	2	
アメリカ政治論	2	
ヨーロッパ政治論	2	
中東政治論	2	
国際政治論	4	
アフリカ政治論A	2	
アフリカ政治論B	2	
開発援助論	2	
アジア政治論	4	
政治学特講A	2	
政治学特講B	2	
政治学特講C	2	
政治学特講D	2	
政治学特講E	2	
政治学特講F	4	
政治学特講G	2	
環境政策論Ⅰ	2	
環境政策論Ⅱ	2	
スポーツ法学	2	
スポーツ政策論	2	
地域スポーツ論	2	
国際関係論Ⅰ	2	
国際関係論Ⅱ	2	
現代国際関係史	2	
国際ジャーナリズム論	2	
ヨーロッパ研究A	2	
ヨーロッパ研究B	2	
ヨーロッパ研究C	2	

ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2
東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
政策学研究発展ゼミⅠ	4
政策学研究発展ゼミⅡ	4
政策学研究発展ゼミⅢ	4
政策学研究発展ゼミⅣ	4
政策学研究発展ゼミⅤ	4
国際研究発展ゼミⅠ	2
国際研究発展ゼミⅡ	2
国際研究発展ゼミⅢ	2
国際研究発展ゼミⅣ	2
国際研究発展ゼミⅤ	2
法律文献購読A	2
法律文献購読B	2
政治文献購読A	2
政治文献購読B	2
時事英語入門	2
時事英語発展	2
法政応用英語入門A	2
法政応用英語入門B	2
法政応用英語発展A	2
法政応用英語発展B	2
コミュニケーション英語A	2
コミュニケーション英語B	2

コミュニケーション英語C	2	
コミュニケーション英語D	2	
発展コミュニケーション英語	2	
バークレーボランティア	6	
基礎演習	2	
法政入門演習	2	
法政ブリッジセミナー	2	
法政アクティブリサーチ	4	
アドヴァンスト司法セミナーA	2	
アドヴァンスト司法セミナーB	2	
アドヴァンスト司法セミナーC	2	
演習Ⅰ	4	
演習Ⅱ	6	
経済原論	4	
財政学	4	
社会政策	4	
経済政策	4	
地域経済論	4	
経済史	4	
公共経済学	4	
日本経済論	4	
地方財政論	4	
金融論	4	
アジア経済論	4	
国際経済学	4	
国際協力論	4	
日本経済史	4	
ヨーロッパ経済史	4	
政策立案論	4	
国際NGO論	4	
経営学総論	4	

財務会計入門	2
財務会計論	2
経営学原理	2
経営組織論	2
証券市場論	2
多国籍企業論	2
国際経営論	2
国際比較経営史	2
簿記論Ⅰ	2
簿記論Ⅱ	2
現代金融論	2
日本経営史	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
青少年問題	2
日本史概説	4
外国史概説	4
倫理学概論	4
心理学概論	4
放送大学科目	8
特別講座	12

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

社会学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
海外英語研修	2
ドイツ語ⅠA	1
ドイツ語ⅠB	1
ドイツ語ⅡA	1

ドイツ語ⅡB	1
フランス語ⅠA	1
フランス語ⅠB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ⅠA	1
中国語ⅠB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1
コリア語ⅠA	1
コリア語ⅠB	1
コリア語ⅡA	1
コリア語ⅡB	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学M	2
日本の文学N	2
アジアの文学A	2

アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	
言語学入門	2	
歴史入門	2	
日本の歴史M	2	
日本の歴史N	2	
日本の文化	2	
アジアの歴史M	2	
アジアの歴史N	2	
アジアの文化	2	
西洋の歴史M	2	
西洋の歴史N	2	
心理学入門	2	
心理学A	2	
心理学B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	
学習・発達論B	2	
日本国憲法	2	
法学のすすめ	2	
政治学のすすめ	2	
社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経済学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
国際学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	

人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2
現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2

現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
教養教育科目特別講義	8
バークレー語学	12
バークレー講義	6
バークレーボランティア	6

(2) 専攻科目

① 社会学科

授業科目	単位数
社会学入門演習	2
社会学への招待	2
社会調査入門	2
社会学の成立	2
社会学概論	4
ライティング実習ⅠA	1
ライティング実習ⅠB	1
社会学基礎ゼミナール	2
ライティング実習ⅡA	1
ライティング実習ⅡB	1
社会学演習ⅠA	2
社会学演習ⅠB	2
社会学演習ⅡA	2
社会学演習ⅡB	2
卒業論文	4
近代社会史A	2
近代社会史B	2
近代社会史C	2

社会学の展開	2	
社会学テーマ演習	2	
外書講読A	2	
外書講読B	2	
社会人類学	2	
比較社会論	2	
宗教社会学	2	
現代宗教論	2	
宗教学概論	4	
仏教学概論	4	
真宗学概論	4	
文化社会学	2	
カルチュラルスタディーズ	2	
社会問題の社会学	2	
医療社会学	2	
社会意識論	2	
集団と組織の社会学	2	
社会運動論	2	
地域社会論	2	
地域再生の社会学	2	
自然地理学	4	
人文地理学	4	
地誌	4	
環境社会学	2	
エスニシティ論	2	
逸脱の社会学	2	
コミュニケーション論	2	
心理学概論	4	
家族社会学	2	
教育社会学	2	
子ども社会学	2	

差別論	2	
情報社会論	2	
都市社会学	2	
法社会学	2	
法学概論	4	
言語と社会	2	
環境思想	2	
哲学概論	4	
観光社会学	2	
消費社会論	2	
スポーツ社会学	2	
マスメディア論	2	
びわ湖・滋賀学	2	
民俗学	2	
日本史概説	4	
歴史社会学	2	
グローバリゼーション論	2	
外国史概説	4	
労働社会学	2	
経済原論	4	
NPO・NGO論	2	
ジェンダーの社会学	2	
アイデンティティ論	2	
考現学	2	
市民社会論	2	
政治学概論	4	
社会学特殊講義	2	
社会統計学Ⅰ	2	
社会統計学Ⅱ	2	
質的調査法	2	
量的調査法	2	

社会調査実習	4
社会調査情報処理実習A	1
社会調査情報処理実習B	1
生涯学習概論	4
生涯学習支援論	4
社会教育経営論	4
社会教育実習	2
社会教育演習	2
社会教育課題研究	2
矯正・保護入門	2
矯正概論A	2
矯正概論B	2
矯正教育学A	2
矯正教育学B	2
矯正社会学A	2
矯正社会学B	2
犯罪心理学A	2
犯罪心理学B	2
成人矯正処遇	2
更生保護概論A	2
更生保護概論B	2
保護観察処遇	2
青少年問題	2
現場主義入門	2
協定型インターンシップ	2
社会共生実習ＩA	2
社会共生実習ＩB	2
社会共生実習ⅡA	2
社会共生実習ⅡB	2
社会共生実習ⅢA	2
社会共生実習ⅢB	2

ジャーナリズム史	2	
心と身体と宗教	2	
コモンセンス論	2	
キャリアデザイン論	2	
多様性の倫理学	2	
性と人権	2	
デジタルメディア論Ⅰ	2	
デジタルメディア論Ⅱ	2	
プロジェクトマネジメント	2	
コミュニティ論	2	
リスクマネジメント	2	
まちづくり論	2	
地域発展学	2	
キャリアプランニング論	2	
地域と語り	2	
地域保健学	2	
比較宗教論	2	
ファシリテーション技法	2	
運動心理学	2	
寺院活動論	2	
レクリエーション運営	2	
レクリエーション実技A	1	
健康とライフスタイル	2	
仏教福祉活動論	2	
スポーツマネジメント論	2	
メディア特論A	2	
報道論Ⅰ	2	
報道論Ⅱ	2	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	
現代ニュース論Ⅰ	2	
現代ニュース論Ⅱ	2	

地域社会とメディア	2
メディア特論B	2
世界とメディア	2
メディアと倫理	2
メディアと技術	2
高齢者福祉論Ⅰ	2
児童福祉論Ⅱ	2
障害者福祉論Ⅱ	2
精神保健福祉制度論	2
生活問題論	2
人間の心理と発達	2
障害児支援論	2
家族福祉論	2
支援コミュニケーション論	2
ライフコースとセーフティネット	2
民法	2
社会政策論	2
地方自治論	2
多文化共生論	2
社会企業論	2
ボランティア論	2
国際福祉論	2
社会貢献論	2
コミュニティデザイン	2
国際福祉英会話	2
特別講座	8

② コミュニティマネジメント学科

授業科目	単位数
入門ゼミナール	2
入門実習	2
基礎ゼミナールⅠ	2

基礎ゼミナールⅡ	2
参画ゼミナールⅠ	2
参画ゼミナールⅡ	2
参画ゼミナールⅢ	2
参画ゼミナールⅣ	2
卒業研究	4
コミュニティマネジメント実習Ⅰ	4
コミュニティマネジメント実習Ⅱ	4
コミュニティマネジメント実習Ⅲ	4
情報処理実習ⅠA	1
情報処理実習ⅠB	1
情報処理実習ⅡA	1
情報処理実習ⅡB	1
コミュニティマネジメント入門	2
リーディングとライティングⅠ	2
シティズンシップ論	2
多様性の倫理学	2
地域と語り	2
健康とライフスタイル	2
クラブ活動演習A	2
ジャーナリズム史	2
現代ニュース論Ⅰ	2
宗門法規	2
コミュニティマネジメント特論1A	2
コミュニティマネジメント特論1B	2
コミュニティマネジメント特論2A	2
コミュニティマネジメント特論2B	2
コミュニティマネジメント特論3A	2
コミュニティマネジメント特論3B	2
コミュニティマネジメント特論4A	2
コミュニティマネジメント特論4B	2

真宗史	4
日本仏教史	4
（本山教師）仏教史	1
（本山教師）宗教概説	1
勤式	4
教化法	4
リーディングとライティングⅡ	2
キャリアデザイン論	2
プロジェクトマネジメント	2
コミュニティ論	2
コモンセンス論	2
クラブ活動演習B	2
地域スポーツ論	2
現代ニュース論Ⅱ	2
メディアと倫理	2
メディアと技術	2
バークレーボランティア	4
哲学概論	4
地域と社会動態	2
地域と経済	2
自然地理学	4
地誌	4
質的調査法	2
ファシリテーション技法	2
日本の宗教論	2
運動心理学	2
レクリエーション運営	2
地域保健学	2
心と身体と宗教	2
はなし技法	2
日本史概説	4

地域社会とメディア	2
メディア表現技法Ⅰ	2
ビデオ制作演習Ⅰ	2
報道論Ⅰ	2
メディア特論A	2
デジタルメディア論Ⅰ	2
ジャーナリズム論Ⅰ	2
まちづくり論	2
寺院活動論	2
比較宗教論	2
真宗学概論	4
宗教学概論	4
仏教学概論	4
リスクマネジメント	2
性と人権	2
文献講読	2
外国史概説	4
経済原論	4
政治学概論	4
メンタルトレーニング	2
アウトドアスポーツ演習A	2
アウトドアスポーツ演習B	2
レクリエーション実技A	1
人文地理学	4
心理学概論	4
メディア表現技法Ⅱ	2
ビデオ制作演習Ⅱ	2
報道論Ⅱ	2
メディア特論B	2
量的調査法	2
報道写真入門	2

ジャーナリズム論Ⅱ	2	
法学概論	4	
仏教福祉活動論	2	
キャリアプランニング論	2	
レクリエーション実技B	1	
レクリエーション演習	2	
スポーツマネジメント論	2	
ニュースライティング演習	2	
地域発展学	2	
スポーツマネジメント演習	2	
デジタルメディア論Ⅱ	2	
世界とメディア	2	
生涯学習概論	4	
生涯学習支援論	4	
社会教育経営論	4	
社会教育実習	2	
社会教育演習	2	
社会教育課題研究	2	
矯正・保護入門	2	
矯正概論A	2	
矯正概論B	2	
矯正教育学A	2	
矯正教育学B	2	
矯正社会学A	2	
矯正社会学B	2	
犯罪心理学A	2	
犯罪心理学B	2	
成人矯正処遇	2	
更生保護概論A	2	
更生保護概論B	2	
保護観察処遇	2	

青少年問題	2	
現場主義入門	2	
協定型インターンシップ	2	
社会共生実習ＩA	2	
社会共生実習ＩB	2	
社会共生実習ⅡA	2	
社会共生実習ⅡB	2	
社会共生実習ⅢA	2	
社会共生実習ⅢB	2	
差別論	2	
社会問題の社会学	2	
集団と組織の社会学	2	
子ども社会学	2	
エスニシティ論	2	
宗教社会学	2	
コミュニケーション論	2	
家族社会学	2	
逸脱の社会学	2	
環境社会学	2	
地域社会論	2	
社会人類学	2	
都市社会学	2	
社会意識論	2	
現代宗教論	2	
地域再生の社会学	2	
比較社会論	2	
情報社会論	2	
医療社会学	2	
法社会学	2	
社会運動論	2	
スポーツ社会学	2	

びわ湖・滋賀学	2
NPO・NGO論	2
高齢者福祉論Ⅰ	2
児童福祉論Ⅱ	2
障害者福祉論Ⅱ	2
精神保健福祉制度論	2
生活問題論	2
人間の心理と発達	2
障害児支援論	2
家族福祉論	2
支援コミュニケーション論	2
ライフコースとセーフティネット	2
民法	2
社会政策論	2
地方自治論	2
多文化共生論	2
社会企業論	2
ボランティア論	2
国際福祉論	2
社会貢献論	2
コミュニティデザイン	2
国際福祉英会話	2
放送大学科目	12
特別講座	12

③　現代福祉学科

授業科目	単位数
基礎ゼミナールA	2
基礎ゼミナールB	2
真宗学概論	4
仏教学概論	4
仏教福祉論	2

社会福祉原論	4
社会イノベーション実践論	2
ソーシャルワークの理論と方法	4
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
ソーシャルワークの基盤と専門職	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
高齢者福祉論Ⅰ	2
高齢者福祉論Ⅱ	2
児童福祉論Ⅰ	2
児童福祉論Ⅱ	2
障害者福祉論Ⅰ	2
障害者福祉論Ⅱ	2
地域福祉論	4
貧困に対する支援	2
社会学と社会システム	2
医学概論	2
経済原論	4
法学概論	4
政治学概論	4
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
精神保健福祉制度論	2
精神医学と精神医療	4
精神保健福祉の原理	4
社会福祉史	2
日本史概説	4
生活問題論	2
人間の心理と発達	2
心理学概論	4
哲学概論	4
社会福祉実践論	2

手話コミュニケーション論	2
現代福祉学演習ＩA	2
現代福祉学演習ＩB	2
現代福祉学演習ⅡA	2
現代福祉学演習ⅡB	2
卒業研究	4
保健医療と福祉	2
社会福祉調査の基礎	2
福祉サービスの組織と運営	2
社会保障論	4
刑事司法と福祉	2
権利擁護を支える法制度	2
心理学と心理的支援	2
ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
精神障害リハビリテーション論	2
精神保健福祉援助技術論	4
精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
精神保健福祉援助演習Ⅱ	4
医療ソーシャルワーク	2
家族福祉論	2
臨床心理学理論と方法	2
社会政策論	2
居住福祉論	2
地方自治論	2
多文化共生論	2
宗教学概論	4
社会企業論	2
支援コミュニケーション論	2
ボランティア論	2

社会貢献論	2	
国際福祉論	2	
国際福祉英会話	2	
外国史概説	4	
自然地理学	4	
人文地理学	4	
地誌	4	
ライフコースとセーフティネット	2	
民法	2	
コミュニティデザイン	2	
障害者教育総論	2	
障害者発達論	2	
スクールソーシャルワーク	2	
障害児支援論	2	
ソーシャルワーク実習Ⅰ	6	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	
情報処理実習ⅠA	1	
情報処理実習ⅠB	1	
情報処理実習ⅡA	1	
情報処理実習ⅡB	1	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4	
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	
精神保健福祉援助実習	6	
社会福祉調査実習	2	
ケアワーク実習	2	
生涯学習概論	4	
生涯学習支援論	4	
社会教育経営論	4	

社会教育実習	2
社会教育演習	2
社会教育課題研究	2
矯正・保護入門	2
矯正概論A	2
矯正概論B	2
矯正教育学A	2
矯正教育学B	2
矯正社会学A	2
矯正社会学B	2
犯罪心理学A	2
犯罪心理学B	2
成人矯正処遇	2
更生保護概論A	2
更生保護概論B	2
保護観察処遇	2
青少年問題	2
現場主義入門	2
協定型インターンシップ	2
社会共生実習ＩA	2
社会共生実習ＩB	2
社会共生実習ⅡA	2
社会共生実習ⅡB	2
社会共生実習ⅢA	2
社会共生実習ⅢB	2
差別論	2
社会問題の社会学	2
集団と組織の社会学	2
子ども社会学	2
エスニシティ論	2
宗教社会学	2

コミュニケーション論	2
家族社会学	2
逸脱の社会学	2
環境社会学	2
地域社会論	2
社会人類学	2
都市社会学	2
社会意識論	2
現代宗教論	2
地域再生の社会学	2
比較社会論	2
情報社会論	2
医療社会学	2
法社会学	2
社会運動論	2
スポーツ社会学	2
びわ湖・滋賀学	2
NPO・NGO論	2
ジャーナリズム史	2
心と身体と宗教	2
コモンセンス論	2
キャリアデザイン論	2
多様性の倫理学	2
性と人権	2
デジタルメディア論Ⅰ	2
デジタルメディア論Ⅱ	2
プロジェクトマネジメント	2
コミュニティ論	2
リスクマネジメント	2
まちづくり論	2
地域発展学	2

キャリアプランニング論	2
地域と語り	2
地域保健学	2
比較宗教論	2
ファシリテーション技法	2
運動心理学	2
寺院活動論	2
レクリエーション運営	2
レクリエーション実技A	1
健康とライフスタイル	2
仏教福祉活動論	2
スポーツマネジメント論	2
メディア特論A	2
報道論Ⅰ	2
報道論Ⅱ	2
ジャーナリズム論Ⅰ	2
現代ニュース論Ⅰ	2
現代ニュース論Ⅱ	2
地域社会とメディア	2
メディア特論B	2
世界とメディア	2
メディアと倫理	2
メディアと技術	2
特別講座	12

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

政策学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2

歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2

海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1
スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1

ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
ドイツ語セミナーＩC	2
ドイツ語セミナーＩD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩC	2
フランス語セミナーＩD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩC	2
中国語セミナーＩD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーＩA	2

スペイン語セミナーＩB	2
スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2
コリア語セミナーＩD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1

ギリシア語Ⅱ	1	
ペルシア語ⅠA	2	
ペルシア語ⅠB	2	
ペルシア語ⅡA	2	
ペルシア語ⅡB	2	
トルコ語Ⅰ	2	
トルコ語Ⅱ	2	
アラビア語Ⅰ	2	
アラビア語Ⅱ	2	
哲学入門	2	
哲学A	2	
哲学B	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
論理学	2	
宗教学入門	4	
宗教の世界A	2	
宗教の世界B	2	
中国の思想A	2	
中国の思想B	2	
芸術の世界A	2	
芸術の世界B	2	
日本の文学A	4	
日本の文学B	4	
日本の文学C	2	
アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	

文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
法学のすすめ	2

社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
国際学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	
人権論A	2	
人権論B	2	
現代社会とメディア	2	
現代社会と福祉	2	
環境と社会	2	
平和学A	2	
ジェンダー論	2	
国際社会論	2	
現代社会の諸問題	2	
地域論	2	
企業と会計	2	
現代社会と労働	2	
社会思想史	2	
英語で学ぶ日本の社会A	2	
英語で学ぶ日本の社会B	2	
データサイエンス・ＡＩ入門	2	
数学入門	2	
数学への旅	2	
確率・統計入門	2	
微分と積分	4	
行列と行列式	4	
数理統計学	4	
数理と計算	2	
数学の世界	4	

数理と論証	2	
宇宙の科学Ⅰ	4	
宇宙の科学Ⅱ	2	
地球科学のすすめ	2	
地球科学	2	
物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	
民族の自然誌	2	
人類進化学	2	
人間の生物学Ⅰ	2	
人間の生物学Ⅱ	2	
自然誌実習	4	
野外観察法	2	
環境学	4	
情報科学入門	2	

情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	4
特別講座	6
バークレー語学	12
バークレー講義	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
コミュニケーション・ワークショップ演習	2
演習Ⅰ	6
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4
キャリア・コミュニケーション演習	2
グローカル戦略実践演習	2
企業のCSR実践演習	2
政策学研究発展演習Ⅰ	4
政策学研究発展演習Ⅱ	4
政策学研究発展演習Ⅲ	4
政策学研究発展演習Ⅳ	4
政策学研究発展演習Ⅴ	4
政策実践・探究演習ⅠA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠA（海外）	4

政策実践・探究演習ⅡA（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡA（海外）	4
政策実践・探究演習ⅠB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅠB（海外）	4
政策実践・探究演習ⅡB（国内）	4
政策実践・探究演習ⅡB（海外）	4
地域課題発見演習	4
政策学を学ぶ	2
現代社会の市民性を学ぶ	2
持続可能性と共生を学ぶ	2
情報処理を学ぶ	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションA	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションB	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションC	2
グローバル・シチズンシップ・エデュケーションD	2
政策学入門（政治学）	2
政策学入門（経済学）	2
政策学入門（法律学）	2
行政学	2
政策学のための統計・数学	2
地方自治論	2
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
環境経済学	2
地域経済学	2
財政学	2
国際政治学	2
経済学A（ミクロ経済学）	2
経済学B（マクロ経済学）	2
地域・都市政策総論	2
環境政策総論	2

地域公共人材総論	2
地域ガバナンス論	2
地方自治法	2
都市計画論	2
政策コミュニケーション論	2
価値創造論	2
地場産業論	2
文章技法の基礎を学ぶ	2
開発援助論	2
地方財政論	2
地域経済政策	2
都市再生政策	2
健康政策	2
文化・観光政策	2
コミュニティメディア政策	2
景観・まちなみ保存政策	2
比較地域政策論	2
アジアの地域・都市政策	2
欧州の環境政策	2
アジアの環境政策	2
科学技術政策	2
政策史	2
非営利非政府組織論	2
国際法	2
キャリアデザインのための企業研究	2
政策学のための文章技法	2
環境社会政策論	2
環境法政策	2
国際政治史	2
グローカル・コミュニケーション英語A	2
グローカル・コミュニケーション英語B	2

政策総合英語A	2	
政策総合英語B	2	
政策評価論	2	
地域コミュニティ政策	2	
比較社会政策	2	
欧州の地域・都市政策	2	
北米・中南米の地域・都市政策	2	
交通運輸政策	2	
保全生態学	2	
環境社会学	2	
政策過程論	2	
公務員論	2	
公共政策学	2	
行政法	2	
農村地域再生政策	2	
環境エネルギー政策	2	
社会的企業論	2	
国際ビジネス論	2	
地球環境政策論	2	
言語政策	2	
地域レジリエンス論	2	
中国政治論	2	
刑事政策	2	
民法入門	2	
ヨーロッパ政治論	2	
国際環境法	2	
行政争訟法	2	
労働法入門	2	
国家補償法	2	
環境と法	2	
放送メディア論A	2	

放送メディア論B	4
映画文化産業論	2
初級商業簿記	2
矯正概論	4
更生保護概論	4
更生保護制度	2
成人矯正処遇	2
保護観察処遇	2
矯正教育学	4
矯正社会学	4
犯罪心理学	4
矯正医学	2
犯罪学	2
被害者学	4
矯正・保護入門	2
青少年問題	2
バークレーボランティア	6
国内インターンシップ	4
国内インターンシップ	2
留学生入門演習	2
地域公共人材特別講座	12
特別講座	12
放送大学科目	8

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

国際学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2

歎異抄の思想Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4
日本の文化	4
アジアの歴史A	4

アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学A	2
心の科学B	2
応用心理学A	2
応用心理学B	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2

社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2

物理科学の世界	4	
時間と空間の科学	2	
エネルギー入門	2	
自然科学史Ⅰ	2	
自然科学史Ⅱ	2	
科学論	2	
技術論	2	
平和学B	2	
里山学	2	
生物科学のすすめ	4	
生命科学のすすめ	2	
生命科学	2	
生態学のすすめ	4	
人類学のすすめ	4	
日本の自然	4	
生命誌	2	
植物の自然誌	2	
動物の自然誌	2	
民族の自然誌	2	
人類進化学	2	
人間の生物学Ⅰ	2	
人間の生物学Ⅱ	2	
自然誌実習	4	
野外観察法	2	
環境学	4	
情報科学入門	2	
情報科学Ⅰ	2	
情報科学Ⅱ	2	
情報科学実習	4	
健康とスポーツ	2	
現代社会とスポーツ	2	

スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
海外英語研修	2
教養教育科目特別講義	4

(2) 専攻科目

① 国際文化学科

授業科目	単位数
English Communication Ⅰ —Speaking	1
English Communication Ⅰ —Writing	1
English Communication Ⅰ —Reading	1
English Communication Ⅰ —Seminar A	2
English Communication Ⅰ —Seminar B	2
English Communication Ⅱ —Speaking	1
English Communication Ⅱ —Writing	1
English Communication Ⅱ —Reading	1
English Communication Ⅱ —Seminar A	2
English Communication Ⅱ —Seminar B	2
English Communication Ⅲ —Speaking	1
English Communication Ⅲ —Writing	1
English Communication Ⅲ —Reading	1
English Communication Ⅳ —Speaking	1
English Communication Ⅳ —Writing	1
English Communication Ⅳ —Reading	1
フランス語Ⅰ	3
フランス語Ⅱ	3
フランス語Ⅲ	3
フランス語Ⅳ	3
中国語Ⅰ	3

中国語Ⅱ	3
中国語Ⅲ	3
中国語Ⅳ	3
コリア語Ⅰ	3
コリア語Ⅱ	3
コリア語Ⅲ	3
コリア語Ⅳ	3
日本語Ⅰ	3
日本語Ⅱ	3
日本語Ⅲ	3
日本語Ⅳ	3
日本語セミナーA	2
日本語セミナーB	2
日本語セミナーC	2
日本語セミナーD	2
語学研修A（英語）	2
語学研修B（英語）	4
語学研修A（フランス語）	2
語学研修B（フランス語）	4
語学研修A（中国語）	2
語学研修B（中国語）	4
語学研修A（コリア語）	2
語学研修B（コリア語）	4
バークレー語学	12
基礎演習A	2
基礎演習B	2
国際文化学入門	2
調査分析の基礎A	2
調査分析の基礎B	2
キャリア・ガイダンス	2
多文化交流入門	2

宗教学概論	2
自然人類学概論	2
環境共生論入門	2
まちづくり入門	2
社会心理学	2
言語とこころ入門	2
歴史入門	2
東アジアの地域交流	2
現代経済と文化	2
文化人類学入門	2
日本語論文表現（初級）	2
日本語論文表現（上級）	2
映像文化入門	2
大衆文化入門	2
メディア文化入門	2
比較演劇入門	2
物語と文学	2
比較文化入門	2
インターンシップ・実習指導	2
English Workshop A	2
English Workshop B	2
English Workshop C	2
English Workshop D	2
上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
フランス語セミナーⅠ	4
フランス語セミナーⅡ	4

フランス語セミナーⅢ	4
中国語セミナーⅠ	4
中国語セミナーⅡ	4
中国語セミナーⅢ	4
コリア語セミナーⅠ	4
コリア語セミナーⅡ	4
コリア語セミナーⅢ	4
日本語セミナーE	2
日本語セミナーF	2
日本語セミナーG	2
日本語セミナーH	2
ペルシア語セミナーⅠA	2
ペルシア語セミナーⅠB	2
ペルシア語セミナーⅡA	2
ペルシア語セミナーⅡB	2
トルコ語セミナーⅠ	2
トルコ語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅠ	2
アラビア語セミナーⅡ	2
スペイン語セミナーⅠ	2
スペイン語セミナーⅡ	2
ドイツ語セミナーⅠ	2
ドイツ語セミナーⅡ	2
ロシア語セミナーⅠ	2
ロシア語セミナーⅡ	2
ロシア語セミナーⅢ	2
ロシア語セミナーⅣ	2
ポルトガル語セミナーⅠ	2
ポルトガル語セミナーⅡ	2
ポルトガル語セミナーⅢ	2
ポルトガル語セミナーⅣ	2

実践フランス語A	2
実践フランス語B	2
実践フランス語C	2
実践フランス語D	2
実践中国語A	2
実践中国語B	2
実践中国語C	2
実践中国語D	2
実践コリア語A	2
実践コリア語B	2
実践コリア語C	2
実践コリア語D	2
住居学概論	2
居住環境概論	2
多文化交流論A	2
多文化交流論B	2
多文化共生と宗教	2
キリスト教の文化A	2
キリスト教の文化B	2
環境人類学	2
環境保全論	2
フィールド実習	2
中東政治論	2
イスラームの文化A	2
イスラームの文化B	2
イスラームの社会A	2
イスラームの社会B	2
言語とこころA	2
言語とこころB	2
音声学概論	2
NGO／NPO論	2

国際政治学入門	2
都市計画論	2
比較宗教思想	2
自然と文化	2
社会調査法	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
比較言語学	2
Exploring Cultures	2
世界の宗教と日本	2
日本の宗教	2
日本の仏教文化	2
アジアの仏教文化	2
アジアの文化遺産	2
東アジアの古代文化	2
中央アジアと日本	2
日本の経済と社会	2
国際人口移動	2
国際経済と日本	2
海外における日本観	2
オセアニアと日本	2
パンパシフィックの移民	2
日本の社会	2
日本の言語文化	2
日本語からみた歴史と文化	2
日本語教育入門	2
日本語教育実践	2
日本の思想	2
日本の近現代と国際関係	2
京ことばと京文化	2
世界と日本の民俗	2

世界と日本の文学	2	
Comparative Culture	2	
映像文化論A	2	
映像文化論B	2	
映像文化論C	2	
映像文化論D	2	
映像文化論E	2	
大衆文化論A	2	
大衆文化論B	2	
大衆文化論C	2	
大衆文化論D	2	
大衆文化論E	2	
メディア文化論A	2	
メディア文化論B	2	
メディア文化論C	2	
メディア文化論D	2	
芸術表現法A	2	
芸術表現法B	2	
芸術表現法E	2	
日本の美術	2	
アジアの美術	2	
西洋の美術	2	
音楽芸術論A	2	
音楽芸術論B	2	
アートマネジメント	2	
伝統芸能論	2	
欧米の演劇	2	
観光学入門	2	
観光社会論	2	
国際観光論	2	
ホスピタリティ論	2	

観光心理学	2
観光文化論A	2
観光文化論B	2
京都観光学A	2
京都観光学B	2
文化・観光政策	2
旅行の法律	2
旅行の契約	2
国内旅行の実務	2
海外旅行の実務	2
グローバル時代のキャリア設計	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
心理言語学	2
応用言語学	2
Contemporary Literature	2
国際関係入門	2
Introduction to Sociolinguistics	2
Introduction to Cultural Anthropology	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
国際政治経済学	2
異文化間コミュニケーション論	2
Career English	2
Critical Reading	2
Study Abroad Project A	6
Study Abroad Project B	6
バークレー講義	6

バークレーボランティア	6
国際文化実践Ⅰ	2
国際文化実践ⅡA	2
国際文化実践ⅡB	2
国際文化実践ⅡC	2
国際文化実践ⅡD	2
国際文化実践ⅡE	2
国際文化実践ⅡF	2
国際文化実践ⅡG	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ	2
卒業論文	6

② グローバルスタディーズ学科

授業科目	単位数
英語(Reading)Ⅰ	2
英語(Writing)Ⅰ	2
英語（Oral Communication）Ⅰ	2
英語(Reading)Ⅱ	2
英語(Writing)Ⅱ	2
英語（Oral Communication）Ⅱ	2
Business English through TOEIC（Basic A）	2
Business English through TOEIC（Basic B）	2
Academic English through IELTS（Basic A）	2
Academic English through IELTS（Basic B）	2
Business English through TOEIC（Advanced A）	2
Business English through TOEIC（Advanced B）	2
Academic English through IELTS（Advanced A）	2
Academic English through IELTS（Advanced B）	2
Career English	2

リサーチ方法論A	2
リサーチ方法論B	2
ITリテラシーA	2
ITリテラシーB	2
グローバルスタディーズA	2
グローバルスタディーズB	2
グローバルスタディーズC	2
グローバルスタディーズD	2
宗教学概論	2
会話分析入門A	2
会話分析入門B	2
言語習得論	2
異文化間コミュニケーション論	2
Contemporary Literature	2
Discussion ＆ Debate	2
Advanced Writing Strategies	2
Critical Reading	2
Introduction to Sociolinguistics	2
心理言語学	2
応用言語学	2
言語教育政策論	2
通訳・翻訳研究A	2
通訳・翻訳研究B	2
English for Global Studies	2
Global Englishes and Communication	2
英語教育特殊研究	2
国際関係入門	2
政治思想概論	2
国際開発協力論	2
グローバル・ヒストリー入門	2
Introduction to Cultural Anthropology	2

Globalization of Education	2
Postcolonialism	2
Sustainability Studies	2
ナショナリズム研究	2
国際政治経済学	2
多国籍企業論	2
安全保障論	2
文化遺産学	2
国際人権論	2
グローバリゼーションとエシックス	2
グローバル市民社会論	2
南アジアの言語	2
グローバリゼーションとアフリカ	2
グローバリゼーションと東アジア	2
グローバリゼーションと南アジア	2
グローバリゼーションとヨーロッパ	2
グローバリゼーションとラテンアメリカ	2
グローバル・ガバナンス論	2
宗教文化学入門	2
グローバル・キャリア入門	2
インターンシップ・実習指導	2
実践フランス語A	2
実践フランス語B	2
実践中国語A	2
実践中国語B	2
実践コリア語A	2
実践コリア語B	2
ペルシア語セミナーⅠA	2
ペルシア語セミナーⅠB	2
ペルシア語セミナーⅡA	2
ペルシア語セミナーⅡB	2

トルコ語セミナーⅠ	2
トルコ語セミナーⅡ	2
アラビア語セミナーⅠ	2
アラビア語セミナーⅡ	2
ドイツ語セミナーⅠ	2
ドイツ語セミナーⅡ	2
自然人類学概論	2
社会心理学	2
歴史入門	2
現代経済と文化	2
文化人類学入門	2
映像文化入門	2
大衆文化入門	2
メディア文化入門	2
物語と文学	2
比較文化入門	2
English Workshop A	2
English Workshop B	2
English Workshop C	2
English Workshop D	2
上級英語A	2
上級英語B	2
Advanced English A	2
Advanced English B	2
Advanced English C	2
Advanced English D	2
多文化交流論A	2
多文化交流論B	2
多文化共生と宗教	2
環境人類学	2
環境保全論	2

フィールド実習	2
中東政治論	2
言語とこころA	2
言語とこころB	2
NGO／NPO論	2
国際政治学入門	2
都市計画論	2
比較宗教思想	2
英語外書講読A	2
英語外書講読B	2
比較言語学	2
Exploring Culture	2
日本の経済と社会	2
国際人口移動	2
国際経済と日本	2
海外における日本観	2
オセアニアと日本	2
パンパシフィックの移民	2
Comparative Culture	2
観光学入門	2
観光社会論	2
国際観光論	2
ホスピタリティ論	2
観光心理学	2
観光文化論A	2
観光文化論B	2
グローバル化とキャリア形成	2
インターンシップ・アブロードⅠ	2
インターンシップ・アブロードⅡ	4
SNSを活用した異文化交流実践	2
Study Abroad Project A	6

Study Abroad Project B	6
海外研修	4
プロジェクト演習	2
演習Ⅰ	2
演習Ⅱ	2
演習Ⅲ	2
演習Ⅳ	2
卒業論文	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

農学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2

英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
海外英語研修	2
ドイツ語ＩA	1
ドイツ語ＩB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ＩA	1
フランス語ＩB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ＩA	1
中国語ＩB	1
中国語ⅡA	1
中国語ⅡB	1
コリア語ＩA	1
コリア語ＩB	1
コリア語ⅡA	1
コリア語ⅡB	1
ドイツ語セミナーＩA	2
ドイツ語セミナーＩB	2
フランス語セミナーＩA	2
フランス語セミナーＩB	2
中国語セミナーＩA	2
中国語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2

哲学入門	2	
倫理学入門	2	
倫理学A	2	
倫理学B	2	
クリティカル・シンキング	2	
宗教学のすすめ	2	
宗教の世界	2	
日本の文学M	2	
日本の文学N	2	
アジアの文学A	2	
アジアの文学B	2	
西洋の文学A	2	
西洋の文学B	2	
言語学入門	2	
歴史入門	2	
日本の歴史M	2	
日本の歴史N	2	
日本の文化	2	
アジアの歴史M	2	
アジアの歴史N	2	
アジアの文化	2	
西洋の歴史M	2	
西洋の歴史N	2	
心理学入門	2	
心理学A	2	
心理学B	2	
教育原論A	2	
教育原論B	2	
学習・発達論A	2	
学習・発達論B	2	
日本国憲法	2	

法学のすすめ	2	
政治学のすすめ	2	
社会学のすすめ	2	
地理学のすすめ	2	
経済学のすすめ	2	
経営学のすすめ	2	
国際学のすすめ	2	
文化人類学のすすめ	2	
社会調査のすすめ	2	
社会統計学のすすめ	2	
人権論A	2	
人権論B	2	
現代社会とメディア	2	
現代社会と福祉	2	
現代社会と法	2	
現代社会と労働	2	
現代社会の諸問題	2	
環境と社会	2	
平和学A	2	
ジェンダー論	2	
国際社会論	2	
地域論	2	
企業と会計	2	
社会思想史	2	
情報倫理	2	
情報社会とメディア	2	
データサイエンス・ＡＩ入門	2	
生活の中の数学	2	
生活の中の統計技術	2	
生活の中の化学	2	
生活の中の物理	2	

生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2
教養教育科目特別講義	8
バークレー語学	12
バークレー講義	6
バークレーボランティア	6

(2) 専攻科目

① 生命科学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2

食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2

収穫後生理学	2	
植物病理学Ⅰ	2	
身近な植物	2	
森林生態学	2	
雑草学Ⅰ	2	
飢饉・救荒論	2	
昆虫学Ⅰ	2	
虫と農業	2	
土壌学Ⅰ	2	
微生物学Ⅰ	2	
生物統計学	2	
農業気象学	2	
畜産学概論	2	
水産学概論	2	
農業環境工学	2	
基礎生物学実習	2	
基礎化学実習	2	
遺伝学Ⅱ	2	
分子育種学Ⅰ	2	
分子育種学Ⅱ	2	
花き野菜園芸学Ⅰ	2	
果樹園芸学Ⅰ	2	
分子生物学	2	
植物生理・生化学Ⅱ	2	
ゲノム情報学Ⅰ	2	
ゲノム情報学Ⅱ	2	
ゲノム工学	2	
植物資源学Ⅰ	2	
植物栄養学Ⅰ	2	
植物－微生物相互作用学	2	
線虫学Ⅰ	2	

農薬学	2
昆虫学Ⅱ	2
微生物学Ⅱ	2
生命科学実習A	2
生命科学実習B	2
農学部インターンシップA	2
農学部インターンシップB	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

② 農学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
有機化学	2
分析化学	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2

調理のサイエンス	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
地学実験	2
物理学実験	1
生物物理学実習	1
入門ゼミ	2
基礎演習Ⅰ	2
基礎演習Ⅱ	2
生物学基礎	2
遺伝学Ⅰ	2
植物育種学	2
植物生理・生化学Ⅰ	2
作物学Ⅰ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2

森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
発酵醸造学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
基礎生物学実習	2
基礎化学実習	2
植物資源学Ⅰ	2
植物資源学Ⅱ	2
分子育種学Ⅰ	2
分子育種学Ⅱ	2
作物学Ⅱ	2
花き野菜園芸学Ⅰ	2
花き野菜園芸学Ⅱ	2
果樹園芸学Ⅰ	2
果樹園芸学Ⅱ	2
雑草学Ⅱ	2
植物栄養学Ⅰ	2
植物栄養学Ⅱ	2
土壌学Ⅱ	2
応用昆虫学	2
植物病理学Ⅱ	2
線虫学Ⅰ	2
線虫学Ⅱ	2
農薬学	2

農場実習	2
農学専門実験	2
農学部インターンシップA	2
農学部インターンシップB	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

③　食品栄養学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2

虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
生物統計学	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
農業を支える植物細胞の力	2
分子から見た生命	2
遺伝の考え方	2
花と果物の科学	2
植物栽培の考え方	2
生活を支える微生物の力	2
日本・京滋の食料と農業	2
欧米の食料と農業	2
アジア・アフリカの食料と農業	2
日本の歴史と農業	2
世界の歴史と農業	2
科学史・農学史入門	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
地学概論	2
物理学概論	2
化学概論	2
生物物理学	2
生物物理学実習	1

入門ゼミ	2	
管理栄養士基礎演習	2	
科学英語	2	
健康管理概論	2	
公衆衛生学Ⅰ	2	
公衆衛生学Ⅱ	2	
生化学	2	
分子栄養学	2	
解剖生理学	2	
運動生理学	2	
臨床医学概論	2	
臨床病態学	2	
微生物学	2	
食品化学	2	
食品学	2	
食品機能・加工論	2	
食品衛生学	2	
調理学	2	
有機化学	2	
分析化学	2	
基礎生物化学	2	
生化学実験	1	
解剖生理学実験	1	
栄養生理学実験	1	
微生物学実験	1	
食品学実験Ⅰ	1	
食品学実験Ⅱ	1	
食品加工学実習	1	
食品衛生学実験	1	
調理学実習Ⅰ	1	
調理学実習Ⅱ	1	

基礎栄養学	2	
応用栄養学	2	
ライフステージ栄養学	2	
栄養評価論	2	
スポーツ栄養学	2	
栄養教育論Ⅰ	2	
栄養教育論Ⅱ	2	
栄養カウンセリング論	2	
学校栄養指導論	2	
学校栄養実践論	2	
臨床栄養学Ⅰ	2	
臨床栄養学Ⅱ	2	
臨床栄養学Ⅲ	2	
臨床栄養管理学	2	
臨床栄養実践論	2	
公衆栄養学	2	
公衆栄養活動論	2	
栄養疫学	2	
給食経営管理論Ⅰ	2	
給食経営管理論Ⅱ	2	
管理栄養士総合演習	2	
臨地実習指導	1	
基礎栄養学実習	1	
応用栄養学実習	1	
栄養教育論実習	1	
臨床栄養学実習Ⅰ	1	
臨床栄養学実習Ⅱ	1	
公衆栄養学実習	1	
給食経営管理実習Ⅰ	1	
給食経営管理実習Ⅱ	1	
給食経営管理実習（校外）	1	

臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2
特別臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
特別臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
特別臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	1
農学部インターンシップA	2
農学部インターンシップB	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
特別研究	6

④　食料農業システム学科

授業科目	単位数
農学概論	2
食と農の倫理	2
食の循環実習Ⅰ	2
食の循環実習Ⅱ	2
収穫後生理学	2
植物病理学Ⅰ	2
身近な植物	2
森林生態学	2
雑草学Ⅰ	2
飢饉・救荒論	2
昆虫学Ⅰ	2

虫と農業	2
土壌学Ⅰ	2
微生物学Ⅰ	2
農業気象学	2
畜産学概論	2
水産学概論	2
農業環境工学	2
農業を支える植物細胞の力	2
分子から見た生命	2
遺伝の考え方	2
花と果物の科学	2
植物栽培の考え方	2
生活を支える微生物の力	2
社会福祉論	2
食品の安全と法律	2
食と嗜好の科学	2
食の文化論	2
暮らしの中の食品学	2
身体のしくみと栄養	2
調理のサイエンス	2
大学の学びとキャリア	2
キャリア形成論	2
情報教育論	2
入門ゼミ	2
SDGsと食料農業システム概論	2
基礎演習	2
くらしと経済	2
会社と農家のしくみ	2
事例に学ぶ食品マーケティング	2
ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2

数学基礎	2	
統計処理実習	2	
基礎統計学	2	
基礎経営学	2	
基礎会計学	2	
基礎社会学	2	
食料・農業経済学	2	
日本・京滋の食料と農業	2	
欧米の食料と農業	2	
アジア・アフリカの食料と農業	2	
日本の歴史と農業	2	
世界の歴史と農業	2	
科学史・農学史入門	2	
農業政策論	2	
地域農業経済論	2	
環境経済学	2	
熱帯農業論	2	
国際食料需給論	2	
国際農村発展論	2	
国際協力論	2	
アグリフードビジネス論	2	
農企業経営論	2	
フードビジネスマーケティング論	2	
フードビジネスファイナンス論	2	
農業組織団体論	2	
農業法律学	2	
食料流通システム論	2	
食と農の安全安心論	2	
農村社会学	2	
食料環境社会学	2	
ソーシャルキャピタル論	2	

地域マネジメント論	2
比較食文化論	2
比較地域文化論	2
現代社会と食	2
食料農業システム実習A	2
食料農業システム実習B	2
食料農業システム実習C	2
食料農業システム実習D	2
食料農業システム実習E	2
食料農業システム実習F	2
農学部インターンシップA	2
農学部インターンシップB	1
海外農業体験実習A	2
海外農業体験実習B	2
農学部特別実習A	2
農学部特別実習B	2
農学部特別実習C	1
農学部特別講義	2
総合演習Ⅰ	2
総合演習Ⅱ	2
総合演習Ⅲ	2
総合演習Ⅳ	2
特別研究	6

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

先端理工学部開設科目（第30条関係）

(1) 教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2

歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3	1
英語総合4	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2
英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
海外英語研修	2
ドイツ語ＩA	1
ドイツ語ＩB	1
ドイツ語ⅡA	1
ドイツ語ⅡB	1
フランス語ＩA	1
フランス語ＩB	1
フランス語ⅡA	1
フランス語ⅡB	1
中国語ＩA	1

中国語ＩＢ	1
中国語ⅡＡ	1
中国語ⅡＢ	1
コリア語ＩＡ	1
コリア語ＩＢ	1
コリア語ⅡＡ	1
コリア語ⅡＢ	1
ドイツ語セミナーＩＡ	2
ドイツ語セミナーＩＢ	2
フランス語セミナーＩＡ	2
フランス語セミナーＩＢ	2
中国語セミナーＩＡ	2
中国語セミナーＩＢ	2
コリア語セミナーＩＡ	2
コリア語セミナーＩＢ	2
哲学入門	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
宗教学のすすめ	2
宗教の世界	2
日本の文学M	2
日本の文学N	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
言語学入門	2
歴史入門	2
日本の歴史M	2

日本の歴史N	2
日本の文化	2
アジアの歴史M	2
アジアの歴史N	2
アジアの文化	2
西洋の歴史M	2
西洋の歴史N	2
心理学入門	2
心理学A	2
心理学B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2
現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
現代社会と労働	2

現代社会の諸問題	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
地域論	2
企業と会計	2
社会思想史	2
情報倫理	2
情報社会とメディア	2
データサイエンス・ＡＩ入門	2
生活の中の数学	2
生活の中の統計技術	2
生活の中の化学	2
生活の中の物理	2
生活の中の生物学	2
生活の中の地学	2
現代の技術	2
生命と科学	2
自然観察法	2
里山学	2
植物の自然誌	2
環境の科学	2
人類の科学	2
情報と人間	2
現代社会と栄養	2
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学A	1
スポーツ技術学B	1
スポーツ文化論	2

教養教育科目特別講義	2
バークレー語学	12
バークレー講義	6
バークレーボランティア	6

(2) 専攻科目

① 数理・情報科学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
協定型インターンシップ	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2
プログラミング及び実習Ⅰ	1
数理情報基礎演習A	2
微積分及び演習Ⅰ	3
線形代数及び演習Ⅰ	3
数理情報基礎演習B	2
情報と職業	2
ディジタルクリエイティブ基礎	2
クラウドコンピューティング演習	2
微積分及び演習Ⅱ	3
線形代数及び演習Ⅱ	3
データ分析	2
プログラミング及び実習Ⅱ	2
情報処理システムⅠ	2

微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
確率統計Ⅰ	2
数値計算法及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3
情報処理システムⅡ	2
プロジェクト演習	2
フーリエ解析及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
集合と論理	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
数理・情報科学の学びと社会	1
数理情報演習	1
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
機械学習Ⅰ	1
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1

拡散現象の数理Ⅱ	1	
機械学習Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
確率モデル及び演習	2	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
セミナーⅠ	4	
セミナーⅡ	2	
特別研究Ⅰ	2	
特別研究Ⅱ	6	
確率および統計・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
伝送線路	1	
高周波電子回路	1	
組込みシステム	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	

群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
材料力学Ⅰ	1
流体工学Ⅰ	1
材料力学Ⅱ	1
流体工学Ⅱ	1
振動工学Ⅰ	1
材料力学Ⅲ	1

基礎機械材料学	1
粘性流体力学	1
熱力学Ⅰ	1
ディジタル電子制御Ⅰ	1
機構学Ⅰ	1
振動工学Ⅱ	1
応用材料力学	1
機械材料学	1
航空流体力学	1
熱力学Ⅱ	1
ディジタル電子制御Ⅱ	1
機構学Ⅱ	1
弾性力学	1
計算力学実習Ⅰ	1
機械要素	1
材料加工学	1
航空・宇宙工学	1
熱工学Ⅰ	1
計測工学Ⅰ	1
制御系設計論Ⅰ	1
メカトロニクスⅠ	1
ロボット実習	1
構造力学	1
機械設計	1
機械加工学	1
自動車工学	1
熱工学Ⅱ	1
計測工学Ⅱ	1
制御系設計論Ⅱ	1
メカトロニクスⅡ	1
バイオメカニクス	1

材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	

分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2

ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2
環境実習ＩA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2
環境生態工学概論	2
地球環境概論A	1
地域環境概論B	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
生態学概論Ⅱ	1
化学工学Ⅰ	1
気象学	1
土木工学Ⅰ	1

測量学及び演習	2
環境実習ⅡA	1
自然の浄化機構	1
環境社会学	1
環境倫理学	1
社会調査法及び演習	2
保全生態学	1
環境経済学	1
生理生態学	1
環境調査	1
化学工学Ⅱ	1
製図学及び演習	2
土木工学Ⅱ	1
環境政策論	1
環境移動現象論	1
廃棄物管理学Ⅰ	1
環境微生物学	1
環境計測学	1
先端技術	1
燃焼工学	1
廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1

水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

② 知能情報メディア課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
協定型インターンシップ	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2
メディア処理基礎	2
ネットワーク基礎	2
微分積分・演習	4

情報システム基礎	2
プログラミング基礎演習Ⅰ	2
プログラミング基礎演習Ⅱ	2
確率・統計	2
ディジタル信号処理	2
ソフトウェア基礎	2
知的財産概論	2
ハードウェア基礎	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
線形代数・演習	4
データ構造とアルゴリズム・演習	4
システムソフトウェア	2
情報学概論	2
人間工学概論	2
情報と職業	2
情報数学基礎	2
データベース	2
ディジタルクリエイティブ基礎	2
クラウドコンピューティング演習	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
多様なプログラミング言語	2
コンピュータビジョン	2
知能情報メディア演習	4
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
ニューロとAI	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2

実践プログラミング・演習	2
科学技術計算・演習	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2
ネットワークシステム・演習	4
コラボレーション演習	4
知能情報メディアセミナー	2
科学技術英語	2
特別研究	6
情報処理システムⅠ	2
データ分析	2
微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3
情報処理システムⅡ	2
確率統計Ⅰ	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2

データ構造とアルゴリズムⅠ	1	
機械学習Ⅰ	1	
数理・情報科学の学びと社会	1	
複素解析Ⅱ	1	
位相入門Ⅱ	1	
代数入門Ⅱ	1	
ベクトル解析入門	1	
現象の数理モデルⅡ	1	
拡散現象の数理Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
確率および統計・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
伝送線路	1	
高周波電子回路	1	

組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
材料力学Ⅰ	1
流体工学Ⅰ	1
材料力学Ⅱ	1

流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	
機械設計	1	
機械加工学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
計測工学Ⅱ	1	

制御系設計論Ⅱ	1	
メカトロニクスⅡ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	

固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1
医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
環境実習ＩＡ	1
地域環境概論A	1

生物学概論	2	
環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	
地域環境概論B	1	
地球環境概論B	1	
生態学概論Ⅰ	1	
SDGs概論	1	
水環境科学	1	
里山の生態学	1	
大気環境科学	1	
進化学	1	
生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	
生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	

廃棄物管理学Ⅰ	1
環境微生物学	1
環境計測学	1
先端技術	1
燃焼工学	1
廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

③　電子情報通信課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
協定型インターンシップ	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2
基礎数学Ⅰ・演習	2
情報通信基礎	2
計算機実習Ⅰ	1
基礎数学Ⅱ・演習	2
理数基礎Ⅰ・演習	2
基礎セミナー	2
線形代数学Ⅰ・演習	2
微分積分学Ⅰ・演習	2
電気回路基礎・演習	2
電子回路基礎・演習	1
微分積分学Ⅱ・演習	2
計算機実習Ⅱ	1
理数基礎Ⅱ・演習	2
線形代数学Ⅱ・演習	2
プログラミング法Ⅰ・演習	2
計算機システム基礎	2
ベクトル解析Ⅰ・演習	2
確率および統計・演習	2

物理・演習	1	
プログラミング法Ⅱ・演習	1	
ディジタル論理	2	
電子情報通信実験Ⅰ	2	
電気回路応用・演習	1	
電磁気学基礎・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
ベクトル解析Ⅱ・演習	1	
フーリエ解析	1	
電子回路応用・演習	1	
電磁気学応用・演習	1	
通信工学基礎	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
微分方程式とフーリエ変換	1	
電子情報通信実験Ⅱ	2	
特別講義	2	
職業指導	4	
ディジタルクリエイティブ基礎	2	
クラウドコンピューティング演習	2	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
統計的機械学習	1	
認知科学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	
高周波電子回路	1	
伝送線路	1	
組込みシステム	1	
群知能	1	
画像情報処理	1	
データサイエンス	1	

電子材料	1
知能ロボット	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
ニューラルネットワーク	1
パワーエレクトロニクス	1
応用プログラミング・演習	1
情報数学	1
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
アナログ電子回路	2
計算機制御・演習	1
ディジタル信号処理・演習	2
計測工学	1
ネットワーク通信システム	2
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
計算機アーキテクチャ	1
専門基礎研究	2
応用セミナー	2
科学技術英語	2
特別研究	6
情報処理システムⅠ	2
データ分析	2
微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3

情報処理システムⅡ	2
確率統計Ⅰ	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1

ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
材料力学Ⅰ	1	
流体工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	

計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	
機械設計	1	
機械加工学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
計測工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
メカトロニクスⅡ	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	

量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
食と分子科学	1	
半導体材料Ⅱ	1	
固体物性化学Ⅱ	1	
アドバンスト電気化学	1	
エネルギー変換工学Ⅱ	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1	
セラミックス材料工学Ⅱ	1	
アドバンスト環境化学Ⅱ	1	
バイオマテリアルⅠ	1	
構造解析学	1	
光化学Ⅰ	1	
逆合成解析化学Ⅰ	1	
高分子構造材料物性Ⅰ	1	

高分子材料工学Ⅰ	1	
ナノマテリアル	1	
バイオマテリアルⅡ	1	
光化学Ⅱ	1	
逆合成解析化学Ⅱ	1	
高分子構造材料物性Ⅱ	1	
高分子材料工学Ⅱ	1	
反応工学	1	
ディジタル信号処理	2	
仮想メディアシステム	2	
情報とセキュリティ	2	
システムソフトウェア	2	
データベース	2	
ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
コンピュータビジョン	2	
多様なプログラミング言語	2	
音声・音響メディア処理論	2	
環境としての情報技術	2	
言語メディア処理論	2	
CGとVR	2	
ニューロとAI	2	
データインテリジェンス	2	
ネットワーク構成論	2	
画像メディア処理論	2	
ソフトウェア開発法	2	
応用アルゴリズム	2	
環境実習ＩA	1	
地域環境概論A	1	
生物学概論	2	
環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	

地域環境概論B	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
生態学概論Ⅱ	1
化学工学Ⅰ	1
気象学	1
土木工学Ⅰ	1
測量学及び演習	2
環境実習ⅡA	1
自然の浄化機構	1
環境社会学	1
環境倫理学	1
社会調査法及び演習	2
保全生態学	1
環境経済学	1
生理生態学	1
環境調査	1
化学工学Ⅱ	1
製図学及び演習	2
土木工学Ⅱ	1
環境政策論	1
環境移動現象論	1
廃棄物管理学Ⅰ	1
環境微生物学	1
環境計測学	1

先端技術	1
燃焼工学	1
廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

④　機械工学・ロボティクス課程

授業科目	単位数
情報基礎	2

フレッシャーズセミナー	2	
協定型インターンシップ	2	
理工学のすすめ	2	
ASEANグローバルプログラム	2	
デザインシンキング	2	
グローバル人材育成プログラム	2	
プロジェクトリサーチⅠ	1	
プロジェクトリサーチⅡ	2	
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1	
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2	
微分積分	1	
基礎力学Ⅰ	1	
微分方程式	1	
基礎力学Ⅱ	1	
機械工学・ロボティクス入門	1	
数学・物理学演習Ⅰ	1	
偏微分	1	
線形代数Ⅰ	1	
力学Ⅰ	1	
重積分	1	
線形代数Ⅱ	1	
力学Ⅱ	1	
数学・物理学演習Ⅱ	1	
物理実験	2	
職業指導	4	
ディジタルクリエイティブ基礎	2	
クラウドコンピューティング演習	2	
確率・統計Ⅰ	1	
フーリエ変換	1	
電磁気学Ⅰ	1	
機械力学Ⅰ	1	

材料力学Ⅰ	1
流体工学Ⅰ	1
アナログ電子制御Ⅰ	1
確率・統計Ⅱ	1
ラプラス変換	1
電磁気学Ⅱ	1
機械力学Ⅱ	1
材料力学Ⅱ	1
流体工学Ⅱ	1
アナログ電子制御Ⅱ	1
計算機プログラミング実習	2
機械製図Ⅰ	2
ベクトル解析	1
振動工学Ⅰ	1
材料力学Ⅲ	1
粘性流体力学	1
熱力学Ⅰ	1
ディジタル電子制御Ⅰ	1
制御工学Ⅰ	1
機構学Ⅰ	1
基礎機械材料学	1
複素解析	1
振動工学Ⅱ	1
応用材料力学	1
航空流体力学	1
熱力学Ⅱ	1
ディジタル電子制御Ⅱ	1
制御工学Ⅱ	1
機構学Ⅱ	1
機械材料学	1
計算機応用実習	2

機械工学基礎実験	2	
機械製図Ⅱ	2	
計測工学Ⅰ	1	
弾性力学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械工学・ロボティクス実験	1	
機械要素	1	
メカトロニクスⅠ	1	
先進材料プロセス学	1	
材料加工学	1	
材料力学実習	1	
ロボット実習	1	
熱・流体実習	1	
計測工学Ⅱ	1	
構造力学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
計算力学実習Ⅱ	1	
機械設計	1	
メカトロニクスⅡ	1	
先進材料工学	1	
機械加工学	1	
材料力学・機械力学演習	1	
電子・制御演習	1	
バイオメカニクス	1	
材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	

システム工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
熱・流体演習	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
システム工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
設計製図	2	
セミナー	2	
科学技術英語	2	
特別研究	6	
情報処理システムⅠ	2	
データ分析	2	
微分方程式Ⅰ	2	
物理と微分方程式及び演習	3	
プログラミング及び実習Ⅲ	3	
情報処理システムⅡ	2	
確率統計Ⅰ	2	
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2	
シミュレーション及び演習	2	
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2	
微分方程式Ⅱ	2	
質点系の力学	2	
多変量解析及び演習	3	
複素解析Ⅰ	1	
位相入門Ⅰ	1	
代数入門Ⅰ	1	
幾何入門	1	
現象の数理モデルⅠ	1	
拡散現象の数理Ⅰ	1	

確率モデル及び演習	2	
オブジェクト指向及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅠ	1	
機械学習Ⅰ	1	
数理・情報科学の学びと社会	1	
複素解析Ⅱ	1	
位相入門Ⅱ	1	
代数入門Ⅱ	1	
ベクトル解析入門	1	
現象の数理モデルⅡ	1	
拡散現象の数理Ⅱ	1	
グラフィックス及び演習	2	
データ構造とアルゴリズムⅡ	1	
機械学習Ⅱ	1	
応用幾何	1	
波動現象の数理Ⅰ	1	
確率統計Ⅱ	1	
ネットワーク及び演習	2	
言語と計算Ⅰ	1	
最適化の数理Ⅰ	1	
波動現象の数理Ⅱ	1	
確率統計Ⅲ	1	
言語と計算Ⅱ	1	
最適化の数理Ⅱ	1	
確率および統計・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2	
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1	
電子物性	1	
半導体デバイス工学	1	
光デバイス	1	
ナノエレクトロニクス工学	1	

伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
化学と社会	2

資源・エネルギーと環境	2
化学と安全管理	2
生化学Ⅰ	1
量子材料科学Ⅰ	1
電気化学Ⅰ	1
結晶学入門Ⅰ	1
高分子化学Ⅰ	1
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1
分析化学	1
生化学Ⅱ	1
量子材料科学Ⅱ	1
電気化学Ⅱ	1
結晶学入門Ⅱ	1
高分子化学Ⅱ	1
機器分析化学	1
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1
化学工学	2
アドバンスト環境化学Ⅰ	1
循環系グリーンケミストリー	1
半導体材料Ⅰ	1
固体物性化学Ⅰ	1
エネルギー変換工学Ⅰ	1
医薬品のプロセス化学	1
分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1

アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2

データインテリジェンス	2	
ネットワーク構成論	2	
画像メディア処理論	2	
ソフトウェア開発法	2	
応用アルゴリズム	2	
環境実習ＩA	1	
地域環境概論A	1	
生物学概論	2	
環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	
地域環境概論B	1	
地球環境概論B	1	
生態学概論Ⅰ	1	
SDGs概論	1	
水環境科学	1	
里山の生態学	1	
大気環境科学	1	
進化学	1	
生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	

生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	
土木工学Ⅱ	1	
環境政策論	1	
環境移動現象論	1	
廃棄物管理学Ⅰ	1	
環境微生物学	1	
環境計測学	1	
先端技術	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	
水理学	1	
データサイエンス及び演習	1	
土壌地質学	1	
水域生態学	1	
環境分析化学実験	1	
空気調和工学	1	
資源循環論	1	
水環境施設実験	1	
廃棄物・大気環境施設実験	1	
水処理工学	1	
環境毒性学	1	
地理情報学	1	
資源管理学及び演習	1	
群集生態学	1	
排ガス処理工学	1	
水処理施設設計	1	
環境アセスメントB	1	
水道工学	1	

廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1
下水道工学	1
景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

⑤　応用化学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
協定型インターンシップ	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2
化学と社会	2
数学の基礎	2
化学の基礎	2
プロジェクト演習Ⅰ	2
資源・エネルギーと環境	2
物理の基礎	2
化学基礎実験	2
物理化学Ⅰ	2
有機化学Ⅰ	2
無機化学Ⅰ	2
物理基礎実験	2

物理化学実験	1	
機器分析化学実験	1	
物理化学Ⅱ	2	
有機化学Ⅱ	2	
無機化学Ⅱ	2	
化学と安全管理	2	
化学と情報処理	2	
地学概論	2	
生物学概論	2	
プロジェクト演習Ⅱ	2	
物理化学Ⅲ	2	
地学実験	2	
生物学実験	2	
化学の英語	2	
化学合成実験	2	
ディジタルクリエイティブ基礎	2	
クラウドコンピューティング演習	2	
アドバンスト数学Ⅰ	1	
アドバンスト物理Ⅰ	1	
アドバンスト数学Ⅱ	1	
アドバンスト物理Ⅱ	1	
アドバンスト数学Ⅲ	1	
アドバンスト物理Ⅲ	1	
分析化学	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
生化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
アドバンスト数学Ⅳ	1	

アドバンスト物理Ⅳ	1	
機器分析化学	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
生化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	
分子集合化学	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1	
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1	
セラミックス材料工学Ⅰ	1	
界面化学	1	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
食と分子科学	1	
アドバンスト物質科学合成実験	2	
半導体材料Ⅱ	1	
固体物性化学Ⅱ	1	
アドバンスト電気化学	1	
エネルギー変換工学Ⅱ	1	
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1	
セラミックス材料工学Ⅱ	1	
アドバンスト環境化学Ⅱ	1	
構造解析学	1	
バイオマテリアルⅠ	1	

光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
研究デザイン演習	2
科学技術英語	2
英語セミナー	2
特別研究	10
情報処理システムⅠ	2
データ分析	2
微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3
情報処理システムⅡ	2
確率統計Ⅰ	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1

幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1
複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1

半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1
群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2

ネットワーク通信システム	2	
計算機アーキテクチャ	1	
材料力学Ⅰ	1	
流体工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅱ	1	
流体工学Ⅱ	1	
振動工学Ⅰ	1	
材料力学Ⅲ	1	
基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	

機械設計	1
機械加工学	1
自動車工学	1
熱工学Ⅱ	1
計測工学Ⅱ	1
制御系設計論Ⅱ	1
メカトロニクスⅡ	1
バイオメカニクス	1
材料強度学Ⅰ	1
伝熱工学Ⅰ	1
ロボット工学Ⅰ	1
解析力学	1
材料強度学Ⅱ	1
伝熱工学Ⅱ	1
ロボット工学Ⅱ	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2

ソフトウェア開発法	2	
応用アルゴリズム	2	
環境実習ＩA	1	
地域環境概論A	1	
環境生態工学概論	2	
地球環境概論A	1	
地域環境概論B	1	
地球環境概論B	1	
生態学概論Ⅰ	1	
SDGs概論	1	
水環境科学	1	
里山の生態学	1	
大気環境科学	1	
進化学	1	
生物資源利用	1	
生態学概論Ⅱ	1	
化学工学Ⅰ	1	
気象学	1	
土木工学Ⅰ	1	
測量学及び演習	2	
環境実習ⅡA	1	
自然の浄化機構	1	
環境社会学	1	
環境倫理学	1	
社会調査法及び演習	2	
保全生態学	1	
環境経済学	1	
生理生態学	1	
環境調査	1	
化学工学Ⅱ	1	
製図学及び演習	2	

土木工学Ⅱ	1
環境政策論	1
環境移動現象論	1
廃棄物管理学Ⅰ	1
環境微生物学	1
環境計測学	1
先端技術	1
燃焼工学	1
廃棄物管理学Ⅱ	1
水理学	1
データサイエンス及び演習	1
土壌地質学	1
環境分析化学実験	1
水域生態学	1
排ガス処理工学	1
空気調和工学	1
資源循環論	1
水環境施設実験	1
廃棄物・大気環境施設実験	1
水処理工学	1
環境毒性学	1
地理情報学	1
資源管理学及び演習	1
群集生態学	1
水道工学	1
水処理施設設計	1
環境アセスメントB	1
下水道工学	1
廃棄物処理施設設計	1
数値計算法基礎及び演習	1
環境アセスメントA	1

景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1

⑥　環境生態工学課程

授業科目	単位数
情報基礎	2
フレッシャーズセミナー	2
協定型インターンシップ	2
理工学のすすめ	2
ASEANグローバルプログラム	2
デザインシンキング	2
グローバル人材育成プログラム	2
プロジェクトリサーチⅠ	1
プロジェクトリサーチⅡ	2
理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	1
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	2
環境実習ⅠA	1
地域環境概論A	1
生物学概論	2
地学概論	2
地学実験	2
環境生態工学概論	2
数学概論	2
化学概論	2
地域環境概論B	1
地球環境概論A	1
地球環境概論B	1
生態学概論Ⅰ	1
物理学概論	2
生物学実験	2
環境寄席	2

生態学概論Ⅱ	1
物理実験	2
化学実験	2
ディジタルクリエイティブ基礎	2
クラウドコンピューティング演習	2
SDGs概論	1
水環境科学	1
里山の生態学	1
大気環境科学	1
進化学	1
生物資源利用	1
化学工学Ⅰ	1
土木工学Ⅰ	1
測量学及び演習	2
環境社会学	1
環境倫理学	1
環境経済学	1
気象学	1
環境調査	1
社会調査法及び演習	2
保全生態学	1
生理生態学	1
環境実習ⅡA	1
自然の浄化機構	1
化学工学Ⅱ	1
製図学及び演習	2
土木工学Ⅱ	1
環境政策論	1
環境移動現象論	1
環境微生物学	1
廃棄物管理学Ⅰ	1

環境計測学	1	
先端技術	1	
数理生態学	1	
燃焼工学	1	
廃棄物管理学Ⅱ	1	
水理学	1	
データサイエンス及び演習	1	
土壌地質学	1	
個体群生態学	1	
水域生態学	1	
森林生態学	1	
環境分析化学実験	1	
環境毒性学	1	
排ガス処理工学	1	
空気調和工学	1	
資源循環論	1	
地理情報学	1	
資源管理学及び演習	1	
群集生態学	1	
水環境施設実験	1	
環境実習ⅢA	1	
廃棄物・大気環境施設実験	1	
水処理工学	1	
水道工学	1	
水処理施設設計	1	
環境アセスメントB	1	
生態系生態学	1	
下水道工学	1	
廃棄物処理施設設計	1	
環境アセスメントA	1	
数値計算法基礎及び演習	1	

景観生態学	1
微生物生態学	1
応用生態学	1
セミナーⅠ	2
セミナーⅡ	2
セミナーⅢ	2
特別研究	6
情報処理システムⅠ	2
データ分析	2
微分方程式Ⅰ	2
物理と微分方程式及び演習	3
プログラミング及び実習Ⅲ	3
情報処理システムⅡ	2
確率統計Ⅰ	2
アルゴリズム及び演習Ⅰ	2
シミュレーション及び演習	2
アルゴリズム及び演習Ⅱ	2
微分方程式Ⅱ	2
質点系の力学	2
多変量解析及び演習	3
複素解析Ⅰ	1
位相入門Ⅰ	1
代数入門Ⅰ	1
幾何入門	1
現象の数理モデルⅠ	1
拡散現象の数理Ⅰ	1
確率モデル及び演習	2
オブジェクト指向及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅠ	1
機械学習Ⅰ	1
数理・情報科学の学びと社会	1

複素解析Ⅱ	1
位相入門Ⅱ	1
代数入門Ⅱ	1
ベクトル解析入門	1
現象の数理モデルⅡ	1
拡散現象の数理Ⅱ	1
グラフィックス及び演習	2
データ構造とアルゴリズムⅡ	1
機械学習Ⅱ	1
応用幾何	1
波動現象の数理Ⅰ	1
確率統計Ⅱ	1
ネットワーク及び演習	2
言語と計算Ⅰ	1
最適化の数理Ⅰ	1
波動現象の数理Ⅱ	1
確率統計Ⅲ	1
言語と計算Ⅱ	1
最適化の数理Ⅱ	1
確率および統計・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	1
電子物性	1
半導体デバイス工学	1
光デバイス	1
ナノエレクトロニクス工学	1
伝送線路	1
高周波電子回路	1
組込みシステム	1
統計的機械学習	1
認知科学	1

群知能	1
画像情報処理	1
データサイエンス	1
電子材料	1
パワーエレクトロニクス	1
ニューラルネットワーク	1
知能ロボット	1
応用プログラミング・演習	1
人工知能	1
情報セキュリティ	1
アナログ電子回路	2
薄膜デバイス工学	2
電子工学	2
電磁波工学	1
符号理論	2
情報数学	1
計算機制御・演習	1
計測工学	1
回路設計・演習	1
結晶工学	2
量子力学	2
無線通信工学	2
ディジタル信号処理・演習	2
ネットワーク通信システム	2
計算機アーキテクチャ	1
材料力学Ⅰ	1
流体工学Ⅰ	1
材料力学Ⅱ	1
流体工学Ⅱ	1
振動工学Ⅰ	1
材料力学Ⅲ	1

基礎機械材料学	1	
粘性流体力学	1	
熱力学Ⅰ	1	
ディジタル電子制御Ⅰ	1	
機構学Ⅰ	1	
振動工学Ⅱ	1	
応用材料力学	1	
機械材料学	1	
航空流体力学	1	
熱力学Ⅱ	1	
ディジタル電子制御Ⅱ	1	
機構学Ⅱ	1	
弾性力学	1	
計算力学実習Ⅰ	1	
機械要素	1	
材料加工学	1	
航空・宇宙工学	1	
熱工学Ⅰ	1	
計測工学Ⅰ	1	
制御系設計論Ⅰ	1	
メカトロニクスⅠ	1	
ロボット実習	1	
構造力学	1	
機械設計	1	
機械加工学	1	
自動車工学	1	
熱工学Ⅱ	1	
計測工学Ⅱ	1	
制御系設計論Ⅱ	1	
メカトロニクスⅡ	1	
バイオメカニクス	1	

材料強度学Ⅰ	1	
伝熱工学Ⅰ	1	
ロボット工学Ⅰ	1	
解析力学	1	
材料強度学Ⅱ	1	
伝熱工学Ⅱ	1	
ロボット工学Ⅱ	1	
化学と社会	2	
資源・エネルギーと環境	2	
化学と安全管理	2	
生化学Ⅰ	1	
量子材料科学Ⅰ	1	
電気化学Ⅰ	1	
結晶学入門Ⅰ	1	
高分子化学Ⅰ	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅰ	1	
分析化学	1	
生化学Ⅱ	1	
量子材料科学Ⅱ	1	
電気化学Ⅱ	1	
結晶学入門Ⅱ	1	
高分子化学Ⅱ	1	
機器分析化学	1	
アドバンスト機器分析化学Ⅱ	1	
化学工学	2	
アドバンスト環境化学Ⅰ	1	
循環系グリーンケミストリー	1	
半導体材料Ⅰ	1	
固体物性化学Ⅰ	1	
エネルギー変換工学Ⅰ	1	
医薬品のプロセス化学	1	

分子集合化学	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	1
バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	1
セラミックス材料工学Ⅰ	1
界面化学	1
食と分子科学	1
半導体材料Ⅱ	1
固体物性化学Ⅱ	1
アドバンスト電気化学	1
エネルギー変換工学Ⅱ	1
有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	1
セラミックス材料工学Ⅱ	1
アドバンスト環境化学Ⅱ	1
バイオマテリアルⅠ	1
構造解析学	1
光化学Ⅰ	1
逆合成解析化学Ⅰ	1
高分子構造材料物性Ⅰ	1
高分子材料工学Ⅰ	1
ナノマテリアル	1
バイオマテリアルⅡ	1
光化学Ⅱ	1
逆合成解析化学Ⅱ	1
高分子構造材料物性Ⅱ	1
高分子材料工学Ⅱ	1
反応工学	1
ディジタル信号処理	2
仮想メディアシステム	2
情報とセキュリティ	2
システムソフトウェア	2
データベース	2

ヒューマンコンピュータインタラクション	2
コンピュータビジョン	2
多様なプログラミング言語	2
音声・音響メディア処理論	2
環境としての情報技術	2
言語メディア処理論	2
CGとVR	2
ニューロとAI	2
データインテリジェンス	2
ネットワーク構成論	2
画像メディア処理論	2
ソフトウェア開発法	2
応用アルゴリズム	2

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

心理学部開設科目（第30条関係）

（1）教養教育科目

授業科目	単位数
仏教の思想A	2
仏教の思想B	2
歎異抄の思想Ⅰ	2
歎異抄の思想Ⅱ	2
英語総合1(A)	1
英語総合1(B)	1
英語総合2(A)	1
英語総合2(B)	1
英語総合3(A)	1
英語総合3(B)	1
英語総合4(A)	1
英語総合4(B)	1
英語セミナーA1	2
英語セミナーA2	2
英語セミナーB1	2

英語セミナーB2	2
英語セミナーC1	2
英語セミナーC2	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーE1	2
英語セミナーE2	2
英語セミナーF1	2
英語セミナーF2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーI1	2
英語セミナーI2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語資格試験セミナー	2
海外英語研修	2
ドイツ語Ⅰ	2
ドイツ語Ⅱ	2
ドイツ語ⅢA	1
ドイツ語ⅢB	1
ドイツ語ⅢC	1
ドイツ語ⅢD	1
フランス語Ⅰ	2
フランス語Ⅱ	2
フランス語ⅢA	1
フランス語ⅢB	1
フランス語ⅢC	1
フランス語ⅢD	1
中国語Ⅰ	2
中国語Ⅱ	2
中国語ⅢA	1
中国語ⅢB	1
中国語ⅢC	1
中国語ⅢD	1

スペイン語Ⅰ	2
スペイン語Ⅱ	2
スペイン語ⅢA	1
スペイン語ⅢB	1
スペイン語ⅢC	1
スペイン語ⅢD	1
コリア語Ⅰ	2
コリア語Ⅱ	2
コリア語ⅢA	1
コリア語ⅢB	1
コリア語ⅢC	1
コリア語ⅢD	1
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2

中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2
スペイン語セミナーⅠC	2
スペイン語セミナーⅠD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
コリア語セミナーⅠA	2
コリア語セミナーⅠB	2
コリア語セミナーⅠC	2
コリア語セミナーⅠD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
海外中国語研修講座	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
ラテン語Ⅰ	1
ラテン語Ⅱ	1
ギリシア語Ⅰ	1

ギリシア語Ⅱ	1
ペルシア語ⅠA	2
ペルシア語ⅠB	2
ペルシア語ⅡA	2
ペルシア語ⅡB	2
トルコ語Ⅰ	2
トルコ語Ⅱ	2
アラビア語Ⅰ	2
アラビア語Ⅱ	2
哲学入門	2
哲学A	2
哲学B	2
倫理学入門	2
倫理学A	2
倫理学B	2
クリティカル・シンキング	2
論理学	2
宗教学入門	4
宗教の世界A	2
宗教の世界B	2
中国の思想A	2
中国の思想B	2
芸術の世界A	2
芸術の世界B	2
日本の文学A	4
日本の文学B	4
日本の文学C	2
アジアの文学A	2
アジアの文学B	2
西洋の文学A	2
西洋の文学B	2
文章表現法A	2
文章表現法B	2
言語と文化	2
歴史学入門	2
日本の歴史A	4
日本の歴史B	4

日本の文化	4
アジアの歴史A	4
アジアの歴史B	4
アジアの文化	2
西洋の歴史A	4
西洋の歴史B	2
西洋の歴史C	2
現代世界の歴史A	2
現代世界の歴史B	2
心理学	4
心の科学Ａ	2
心の科学Ｂ	2
応用心理学A	2
応用心理学Ｂ	2
教育学のすすめA	2
教育学のすすめB	2
現代社会と教育A	2
現代社会と教育B	2
教育原論A	2
教育原論B	2
学習・発達論A	2
学習・発達論B	2
人文科学セミナー	4
大学論	2
日本国憲法	2
法学のすすめ	2
政治学のすすめ	2
社会学のすすめ	2
地理学のすすめ	2
経済学のすすめ	2
経営学のすすめ	2
国際学のすすめ	2
文化人類学のすすめ	2
社会調査のすすめ	2
社会統計学のすすめ	2
人権論A	2
人権論B	2

現代社会とメディア	2
現代社会と福祉	2
現代社会と法	2
環境と社会	2
平和学A	2
ジェンダー論	2
国際社会論	2
現代社会の諸問題	2
地域論	2
企業と会計	2
現代社会と労働	2
社会思想史	2
英語で学ぶ日本の社会A	2
英語で学ぶ日本の社会B	2
数学入門	2
数学への旅	2
確率・統計入門	2
微分と積分	4
行列と行列式	4
数理統計学	4
数理と計算	2
数学の世界	4
数理と論証	2
宇宙の科学Ⅰ	4
宇宙の科学Ⅱ	2
地球科学のすすめ	2
地球科学	2
物理科学の世界	4
時間と空間の科学	2
エネルギー入門	2
自然科学史Ⅰ	2
自然科学史Ⅱ	2
科学論	2
技術論	2
平和学B	2
里山学	2
生物科学のすすめ	4

生命科学のすすめ	2
生命科学	2
生態学のすすめ	4
人類学のすすめ	4
日本の自然	4
生命誌	2
植物の自然誌	2
動物の自然誌	2
民族の自然誌	2
人類進化学	2
人間の生物学Ⅰ	2
人間の生物学Ⅱ	2
自然誌実習	4
野外観察法	2
環境学	4
情報科学入門	2
情報科学Ⅰ	2
情報科学Ⅱ	2
情報科学実習	4
健康とスポーツ	2
現代社会とスポーツ	2
スポーツ技術学演習	2
人間とスポーツ	2
スポーツと人権・平和	2
スポーツ文化史	2
スポーツ科学最前線	2
教養教育科目特別講義	2
バークレー語学	12
バークレー講義	6
バークレーボランティア	6

(2) 専攻科目

授業科目	単位数
フレッシャーズゼミ	2
心理学基礎演習A	2
心理学基礎演習B	2
心理学基礎演習C	2
心理学概論	2

発達心理学	2
臨床心理学概論	2
心理学的支援法	2
心理学研究法概論	2
心理学統計法概論	2
心理的アセスメントⅠ	2
生涯発達と関係支援	2
心理学とデータサイエンス	2
キャリアと心理	2
キャリアデザイン論	2
人体の構造と機能及び疾病	2
心理学実験	1
神経・生理心理学	2
障害者・障害児心理学	2
福祉心理学	2
健康・医療心理学	2
教育・学校心理学	2
脳と心	2
乳幼児の発達	2
児童思春期精神医学	2
子どもの心理療法	2
高齢者の心理と福祉	2
仏教と心理学	2
コミュニティとシステム支援	2
ストレスマネジメント	2
チーム医療	2
チーム学校とシステム論	2
心理学の職業的展開	2
仕事と社会人Ⅰ	2
心理学プロジェクト社会連携演習	2
生涯発達臨床心理学	2
ライフサイクルとカウンセリング	2
家族療法とシステムズアプローチ	2
目からウロコのコミュニケーション学	2
心理学演習	2
卒業研究	4
知覚・認知心理学	2

精神疾患とその治療	2
感情・人格心理学	2
心理関係行政論	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
学習・言語心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
量的心理学研究	2
質的心理学研究	2
生理学データと現場心理学（基礎）	2
臨床催眠学	2
生理学データと現場心理学（応用）	2
子育てとソーシャルサポート	2
音楽療法	2
ダンスセラピー	2
乳幼児の理解と支援実習	2
教育と心理支援	2
発達障害のアセスメント	2
心理的アセスメントII	2
不登校・いじめとスクールカウンセリング	2
青年心理と友人関係	2
思春期とジェンダー心理学	2
大人の発達障害	2
思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	2
中年期の危機とうつ	2
コミュニティ・アプローチ	2
愛着障害と親子関係	2
保育の心理学	2
障害児支援と療育	2
学童期の遊びと対人関係	2
発達障害と応用行動分析	2
思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	2
フォーカシングと体験過程療法	2
ひきこもりと精神的健康	2
認知行動療法	2
エンカウンターグループと回想法	2
ビハーラカウンセリング	2

死生観教育と心理療法	2
認知症の心と家族支援	2
高齢者の理解と支援実習	2
人格心理学と精神力動論	2
医療におけるシステムズアプローチ	2
緩和ケアとこころの治癒力	2
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2
学校システムにおける精神疾患と家族	2
不登校の解決と協働	2
発達障がいと家族	2
ひきこもりと家族支援	2
虐待と家族支援	2
ポジティブ心理学	2
コーチング心理学	2
コンサルテーション・リエゾン精神医学	2
構造派家族療法	2
保護者支援とチーム学校	2
コンサルテーション演習	2
特別支援とシステムズアプローチ	2
ブリーフセラピーとソリューション	2
非行と家族支援	2
オープン・ダイアローグ演習	2
キャリアカウンセリング	2
スポーツ心理学	2
スポーツ・メンタルリハーサル	2
マインドフルネス・ヨーガ	2
事例演習アドバンスI	2
事例演習アドバンスII	2
仕事と社会人Ⅱ	2
法学概論	4
政治学原理	4
経済原論	4
社会学概説	4

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表２　学部共通コース開設科目（第30条の２関係）

(1)　国際関係コース科目

授業科目	単位数
国際関係論Ⅰ	2
地域研究入門	2
中国語セミナーⅠA	2
中国語セミナーⅠB	2
中国語セミナーⅠC	2
中国語セミナーⅠD	2
中国語セミナーⅡA	2
中国語セミナーⅡB	2
中国語セミナーⅡC	2
中国語セミナーⅡD	2
海外中国語研修講座	2
ドイツ語セミナーⅠA	2
ドイツ語セミナーⅠB	2
ドイツ語セミナーⅠC	2
ドイツ語セミナーⅠD	2
ドイツ語セミナーⅡA	2
ドイツ語セミナーⅡB	2
ドイツ語セミナーⅡC	2
ドイツ語セミナーⅡD	2
フランス語セミナーⅠA	2
フランス語セミナーⅠB	2
フランス語セミナーⅠC	2
フランス語セミナーⅠD	2
フランス語セミナーⅡA	2
フランス語セミナーⅡB	2
フランス語セミナーⅡC	2
フランス語セミナーⅡD	2
スペイン語セミナーⅠA	2
スペイン語セミナーⅠB	2

スペイン語セミナーＩC	2
スペイン語セミナーＩD	2
スペイン語セミナーⅡA	2
スペイン語セミナーⅡB	2
スペイン語セミナーⅡC	2
スペイン語セミナーⅡD	2
コリア語セミナーＩA	2
コリア語セミナーＩB	2
コリア語セミナーＩC	2
コリア語セミナーＩD	2
コリア語セミナーⅡA	2
コリア語セミナーⅡB	2
コリア語セミナーⅡC	2
コリア語セミナーⅡD	2
ポルトガル語Ⅰ	2
ポルトガル語Ⅱ	2
ポルトガル語ⅢA	2
ポルトガル語ⅢB	2
ロシア語Ⅰ	2
ロシア語Ⅱ	2
ロシア語ⅢA	2
ロシア語ⅢB	2
英語セミナーD1	2
英語セミナーD2	2
英語セミナーG1	2
英語セミナーG2	2
英語セミナーH1	2
英語セミナーH2	2
英語セミナーJ1	2
英語セミナーJ2	2
英語コミュニケーションⅠ	2

英語コミュニケーションⅡ	2
Intercultural Discussion	2
中国語コミュニケーションⅠ	2
中国語コミュニケーションⅡ	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2
スペイン語コミュニケーションⅠ	2
スペイン語コミュニケーションⅡ	2
フランス語コミュニケーションⅠ	2
フランス語コミュニケーションⅡ	2
コリア語コミュニケーションⅠ	2
コリア語コミュニケーションⅡ	2
ヨーロッパ研究A	2
ヨーロッパ研究B	2
ヨーロッパ研究C	2
ヨーロッパ研究D	2
東アジア研究A	2
東アジア研究B	2
東南アジア研究A	2
東南アジア研究B	2
北米研究A	2
北米研究B	2
中南米研究A	2
中南米研究B	2
南北問題研究A	2
南北問題研究B	2
異文化研究A	2
異文化研究B	2
情報・コミュニケーションの技法	2
多文化映像論A	2
多文化映像論B	2

フィールドワーク実習	2	
国際関係論Ⅱ	2	
現代国際関係史	2	
国際ジャーナリズム論	2	
アメリカ経済史	4	
国際金融論	4	
国際協力論	4	
アジア経済史	4	
ヨーロッパ経済史	4	
地域経済論	4	
アジア経済論	4	
比較経済論	4	
開発経済学	4	
ヨーロッパ経済論	4	
農業・資源経済学	4	
日本経済史	4	
経済地理学	4	
経済思想史	2	
社会調査の技法	2	
フィールドワークの技法	2	
国際経営論	2	
多国籍企業論	2	
国際経営戦略論	2	
国際比較経営史	2	
国際比較社会論	2	
アジア企業経営論	2	
国際法Ⅰ	4	
国際法Ⅱ	2	
国際法Ⅲ	2	
国際私法	4	
国際政治論	4	

アフリカ政治論A	2	
アフリカ政治論B	2	
国際取引法	2	
開発援助論	2	
中東政治論	2	
アジア政治論	4	
中国政治論	2	
アメリカ政治論	2	
ヨーロッパ政治論	2	
国際環境法	2	
現代中国の法と社会	2	
文化・観光政策	2	
比較地域政策論	2	
アジアの地域・都市政策	2	
欧州の地域・都市政策	2	
北米・中南米の地域・都市政策	2	
特別演習Ⅰ	4	
特別演習Ⅱ	4	
特別演習Ⅲ	4	
演習	12	
演習Ⅰ	4	
演習Ⅰ	6	
演習Ⅱ	4	
卒業研究	4	
演習Ⅱ（卒業研究含む）	4	
演習Ⅱ（卒業研究含む）	6	
学部共通特別講義Ⅰ	4	
学部共通特別講義Ⅱ	4	
学部共通特別講義Ⅲ	2	
学部共通特別講義Ⅳ	2	
学部共通特別講義Ⅴ	2	

学部共通特別講義Ⅵ	2
学部共通特別講義Ⅶ	2

(2) 英語コミュニケーションコース科目

授業科目	単位数
Oral Communication ⅠA	4
Oral Communication ⅠB	4
Oral Communication ⅡA	4
Oral Communication ⅡB	4
Writing Ⅰ	2
Writing Ⅱ	2
米国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅰ	2
英国文化Ⅱ	2
米国文化Ⅱ	2
English in the World	2
文化比較	2
Intensive Reading	2
Reading Fluency	2
Communicative Grammar Ⅰ	2
英米事情	2
Business Writing	2
Critical Essay	2
Process Writing	2
Public Speaking	2
Debate and Discussion	2
Dynamics of Expression	2
Communicative Grammar Ⅱ	2
Intercultural Discussion	2
Global Understanding in English	4
海外研修	4
英語資格試験セミナー	2

Forum	2
Seminar Ⅰ	2
Seminar Ⅱ	2
卒業研究	4
学部共通特別講義Ⅰ	4
学部共通特別講義Ⅱ	4
学部共通特別講義Ⅲ	2
学部共通特別講義Ⅳ	2
学部共通特別講義Ⅴ	2

(3) スポーツサイエンスコース科目

授業科目	単位数
身体運動の生理学	2
身体運動の機能解剖学	2
身体運動の制御と学習	2
現代スポーツ論	2
近代スポーツ史	2
スポーツ栄養学	2
スポーツと経済	2
スポーツ競技力論	2
スポーツマネジメント論	2
エクササイズテクニック	2
スポーツメディア論	2
スポーツ医学	2
スポーツ統計学	2
スポーツ政策論	2
健康スポーツ論	2
体力学	2
フィットネスプログラミングⅠ	2
スポーツ心理学Ⅰ	2
スポーツマーケティング論	2
スポーツ法学	2

バイオメカニクス	2
地域スポーツ論	2
スポーツトレーニング論	2
スポーツ文化論	2
栄養と健康	2
スポーツ生理学	2
フィットネスプログラミングⅡ	2
スポーツ心理学Ⅱ	2
特別演習Ⅰ	4
特別演習Ⅱ	4
特別演習Ⅲ	4
学部共通特別講義Ⅰ	4
学部共通特別講義Ⅱ	4
学部共通特別講義Ⅲ	2
学部共通特別講義Ⅳ	2
学部共通特別講義Ⅴ	2
インターンシップ実習	4

(4) 環境サイエンスコース科目

授業科目	単位数
環境学A	2
環境学B	2
環境と倫理	2
環境と経済	2
環境とビジネス	2
環境と法	2
環境管理論Ⅰ	2
環境管理論Ⅱ	2
環境政策論Ⅰ	2
環境政策論Ⅱ	2
コンピュータシステム論	4
生態学A	2

生態学B	2
地球と環境	2
環境地理学	2
自然保護論	2
化学物質と環境	2
シミュレーション技法	2
複雑系の科学	2
都市経済論	2
環境史	2
環境アセスメント論	2
地域環境論	2
気候と気象	2
生物共棲論	2
水界生態論	2
環境フィールドワーク	4
環境実践研究	2
開発経済学	4
産業技術論	2
国際環境法	2
持続可能な発展概論	2
景観・まちなみ保存政策	2
科学技術政策	2
環境エネルギー政策	2
演習Ⅰ	8
演習Ⅱ	4
卒業研究	4
学部共通特別講義A	2
学部共通特別講義B	2
学部共通特別講義C	4

以上別表２に掲げる授業科目のほか，経済学部，経営学部，法学部及び政策学部教授会が教育上必要と認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表３　日本語科目及び日本事情に関する科目（第31条関係）

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
日本語		1	

別表４　教育職員免許状取得に関する科目（第32条関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論	4
	教育心理学	2
	特別支援教育論	2
教科及び教科の指導法に関する科目	国語科教育法A	2
	国語科教育法B	2
	国語科教育法Ⅰ	2
	国語科教育法Ⅱ	2
	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
	宗教科教育法A	2
	宗教科教育法B	2
	宗教科教育法Ⅰ	2
	宗教科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(2)　経済学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	職業指導	4
	日本史概説	4
	外国史概説	4
	法学概論	4

	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	国際法Ⅰ	4
	国際政治論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(3) 経営学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	商業科教育法Ⅰ	2
	商業科教育法Ⅱ	2
	職業指導	4
	日本史概説	4
	外国史概説	4
	法学概論	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	日本政治史	4
	日本経済史	4
	日本法制史A	2
	日本法制史B	2
	西洋法制史A	2
	西洋法制史B	2
	西洋政治史	4
	ヨーロッパ経済史	4
	アメリカ経済史	4
	アジア経済史	4
	経済地理学	4

	地理学（地誌）	4
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
	政治学原理	4
	国際政治論	4
	国際法Ⅰ	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(4)　法学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	日本史概説	4
	ヨーロッパ経済史	4
	日本経営史	2
	外国史概説	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	倫理学概論	4
	心理学概論	4
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2

(5)　削除

(6)　政策学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	日本史概説	4
	外国史概説	4
	人文地理学	4
	自然地理学	4
	地理学（地誌）	4
	倫理学概論	4

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(7) 国際学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法A	2
	英語科教育法B	2
	英語科教育法Ⅰ	2
	英語科教育法Ⅱ	2
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

(8) 農学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	理科教育法A	2
	理科教育法B	2
	理科教育法Ⅰ	2
	理科教育法Ⅱ	2
	農業科教育法Ⅰ	2
	農業科教育法Ⅱ	2
	職業指導	2
道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	生徒指導論（栄養教諭）	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習指導Ⅰ	1
	栄養教育実習指導Ⅱ	1
	教職実践演習（栄養教諭）	2

(9) 先端理工学部

	授業科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法A	2
	数学科教育法B	2

	数学科教育法Ⅰ	2
	数学科教育法Ⅱ	2
	工業科教育法Ⅰ	2
	工業科教育法Ⅱ	2
	理科教育法A	2
	理科教育法B	2
	理科教育法Ⅰ	2
	理科教育法Ⅱ	2
	情報科教育法Ⅰ	2
	情報科教育法Ⅱ	2

（10）心理学部

	授業科目	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

（11） 共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論A	2	全学共通開設
	教育原論B	2	全学共通開設
	教職論	2	全学共通開設
	学校教育社会学	2	全学共通開設
	教育社会学	2	社会・先端理工学部共通開設
	教育課程論	2	全学共通開設

	学習・発達論A	2	全学共通開設
	学習・発達論B	2	全学共通開設
	特別支援教育概論	2	全学共通開設
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳教育指導法	2	全学共通開設
	総合的な学習の時間・特別活動論	2	全学共通開設
	教育の方法と技術（ICT活用含む）	2	全学共通開設
	生徒・進路指導論	2	全学共通開設
	教育相談	2	全学共通開設
教育実践に関する科目	教育実習指導Ⅰ	1	全学共通開設
	教育実習指導ⅡA	4	全学共通開設
	教育実習指導ⅡB	2	全学共通開設
	教職実践演習（中・高）	2	全学共通開設

(12) その他

授業科目	単位数
介護等体験	2

別表５　削除

別表６　博物館学芸員資格取得に関する科目（第33条関係）

	授業科目	単位数
博物館学芸員に関する科目	生涯学習概論	2
	博物館概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3

別表７　本願寺派教師資格に関する科目（第33条の２関係）

(1)　文学部

	授業科目	単位数
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(2)　経済学部

経営学部

法学部

政策学部

国際学部

心理学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗教団史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(3)　社会学部

	授業科目	単位数
	真宗史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(4)　農学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗史	4
	勤式	4

	宗門法規	2
	教化法	4

(5)　先端理工学部

	授業科目	単位数
	真宗学概論	4
	仏教学概論	4
	真宗史	4
	勤式	4
	宗門法規	2
	教化法	4

(6)　共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
	（本山教師）仏教史	1	全学共通開設
	（本山教師）宗教概説	1	全学共通開設

別表８　削除

別表９　削除

別表10　図書館司書資格取得に関する科目（第33条の６関係）

	授業科目	単位数
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	2
	図書館情報学概論	2
	図書館制度・経営論	2
	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	情報サービス実習A	1
	情報サービス実習B	1
	図書館情報資源概論	2
	図書館情報資源特論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織実習A	1
	情報資源組織実習B	1

	児童サービス論	2
	図書・図書館史	2
	図書館基礎特論	2
	図書館サービス特論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館実習	1
	図書館施設論	2
	図書館総合演習	2

別表11　学校図書館司書教諭資格取得に関する科目（第33条の７関係）

	授業科目	単位数
学校図書館司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	2

別表12　栄養士資格取得に関する科目（第33条の８関係）

	授業科目	単位数
栄養士に関する科目	健康管理概論	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	生化学	2
	生化学実験	1
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2
	微生物学	2
	食品化学	2
	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品衛生学	2

	食品衛生学実験	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2
	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習（校外）	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1

別表13　管理栄養士受験資格取得に関する科目（第33条の９関係）

	授業科目	単位数
管理栄養士に関する科目	健康管理概論	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	生化学	2
	生化学実験	1
	分子栄養学	2
	解剖生理学	2
	解剖生理学実験	1
	運動生理学	2

	栄養生理学実験	1
	臨床医学概論	2
	臨床病態学	2
	微生物学	2
	微生物学実験	1
	食品化学	2
	食品学	2
	食品学実験Ⅰ	1
	食品学実験Ⅱ	1
	食品加工学実習	1
	食品衛生学	2
	食品衛生学実験	1
	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
	基礎栄養学	2
	基礎栄養学実習	1
	応用栄養学	2
	応用栄養学実習	1
	ライフステージ栄養学	2
	栄養評価論	2
	栄養教育論Ⅰ	2
	栄養教育論Ⅱ	2
	栄養教育論実習	1
	栄養カウンセリング論	2
	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学Ⅱ	2
	臨床栄養学Ⅲ	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	1
	臨床栄養学実習Ⅱ	1

	臨床栄養管理学	2
	公衆栄養学	2
	公衆栄養学実習	1
	公衆栄養活動論	2
	給食経営管理論Ⅰ	2
	給食経営管理論Ⅱ	2
	給食経営管理実習Ⅰ	1
	給食経営管理実習Ⅱ	1
	管理栄養士総合演習	2
	給食経営管理実習（校外）	1
	臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）	1
	臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	1
	臨地実習Ⅲ（臨床栄養学）	2

別表14　食品衛生管理者及び食品衛生監視員資格取得に関する科目（第33条の10関係）

	授業科目	単位数
食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目	分析化学	2
	有機化学	2
	生化学	2
	食品化学	2
	解剖生理学	2
	微生物学	2
	食品衛生学	2
	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2
	健康管理概論	2
	栄養疫学	2
	食品学	2
	食品機能・加工論	2
	基礎栄養学	2
	応用栄養学	2

	分子栄養学	2
	臨床病態学	2
	臨床医学概論	2
	公衆栄養学	2
	給食経営管理論Ⅰ	2

別表15　社会福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の11関係）

	授業科目	単位数
社会福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学と社会システム	2
	社会福祉原論	4
	社会福祉調査の基礎	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
	ソーシャルワークの理論と方法	4
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
	地域福祉論	4
	福祉サービスの組織と運営	2
	社会保障論	4
	高齢者福祉論Ⅰ	2
	障害者福祉論Ⅰ	2
	児童福祉論Ⅰ	2
	貧困に対する支援	2
	保健医療と福祉	2
	権利擁護を支える法制度	2
	刑事司法と福祉	2
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2

	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	6
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表16　精神保健福祉士受験資格取得に関する科目（第33条の12関係）

	授業科目	単位数
精神保健福祉士に関する科目	医学概論	2
	心理学と心理的支援	2
	社会学と社会システム	2
	社会福祉原論	4
	地域福祉論	4
	社会保障論	4
	権利擁護を支える法制度	2
	障害者福祉論Ⅰ	2
	刑事司法と福祉	2
	社会福祉調査の基礎	2
	精神医学と精神医療	4
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
	精神保健福祉の原理	4
	ソーシャルワークの理論と方法	4
	精神保健福祉援助技術論	4
	精神障害リハビリテーション論	2
	精神保健福祉制度論	2
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	4

	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2
	精神保健福祉援助実習	6

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表17　公認心理師受験資格取得に関する科目（第33条の13関係）

	授業科目	単位数
公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	2
	心理演習	2
	心理実習A	2
	心理実習B	2

以上の表に掲げる実習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

別表18　社会教育主事資格取得に関する科目（第33条の14関係）

	授業科目	単位数
社会教育主事に関する科目	生涯学習概論	4
	生涯学習支援論	4
	社会教育経営論	4
	エスニシティ論	2
	家族社会学	2
	逸脱の社会学	2
	地域社会論	2
	情報社会論	2
	社会運動論	2
	スポーツ社会学	2
	多様性の倫理学	2
	性と人権	2
	まちづくり論	2
	地域発展学	2
	レクリエーション運営	2
	健康とライフスタイル	2
	メディアと倫理	2
	高齢者福祉論Ⅰ	2

	家族福祉論	2
	ライフコースとセーフティネット	2
	多文化共生論	2
	国際福祉論	2
	社会教育実習	2
	社会教育演習	2
	社会教育課題研究	2

学則の変更事項を記載した書類

龍谷大学は、令和 5 年度から、既設の文学部臨床心理学科を基礎として、新たに「心理学部」を設置する。

ついては、下記のとおり龍谷大学学則の一部を変更する。

記

1. 心理学部設置に伴う変更

(1) 心理学部の設置を規定し、文学部臨床心理学科に関する規定を削除する。【第 2 条】

(2) 心理学部における教育研究上の目的を規定する。【第 2 条の 2】

(3) 心理学部の入学定員・編入学定員・収容定員を規定し、文学部臨床心理学科に関する規定を削除する。【第 4 条】

(4) 心理学部の学費を規定する。【第 22 条】

(5) 心理学部の授業科目の区分を規定する。【第 25 条】

(6) 心理学部において取得できる教育職員免許状の種類を規定し、文学部臨床心理学科に関する規定を削除する。【第 29 条第 2 項】

(7) 心理学部における公認心理師受験資格取得を規定する。【第 33 条の 13】

(8) 心理学部において卒業に必要な単位数を規定し、文学部臨床心理学科に関する規定を削除する。【第 34 条第 1 項】。

(9) 心理学部の開設科目を規定し、文学部臨床心理学科に関する規定を削除する。【別表 1】

(10) 心理学部における教育職員免許状取得に関する科目を規定する。【別表 4】

(11) 心理学部における本願寺派教師資格に関する科目を規定する。【別表 7】

(12) 心理学部における公認心理師受験資格取得に関する科目を規定する。【別表 17 】

2. 施行日

施行日を、令和 5 年 4 月 1 日とし、付則に規定する。

以 上

<table>
<tr><th>新　学　則</th><th>旧　学　則</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr>
<td>
第1条～第1条の2　（省略）

第2条　本学に次の学部を置き，各学部にはそれぞれに掲げる学科，課程及び専攻を置く。
<table>
<tr><th>学部</th><th>学科・課程</th><th>専攻</th></tr>
<tr><td>文学部</td><td>真宗学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>仏教学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>哲学科</td><td>哲学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>教育学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td>歴史学科</td><td>日本史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>東洋史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>仏教史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>文化遺産学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td>日本語日本文学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>英語英米文学科</td><td></td></tr>
<tr><td>経済学部</td><td>現代経済学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>国際経済学科</td><td></td></tr>
<tr><td>経営学部</td><td>経営学科</td><td></td></tr>
<tr><td>法学部</td><td>法律学科</td><td></td></tr>
<tr><td>社会学部</td><td>社会学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>コミュニティマネジメント学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>現代福祉学科</td><td></td></tr>
<tr><td>政策学部</td><td>政策学科</td><td></td></tr>
<tr><td>国際学部</td><td>国際文化学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>グローバルスタディーズ学科</td><td></td></tr>
<tr><td>農学部</td><td>生命科学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>農学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>食品栄養学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>食料農業システム学科</td><td></td></tr>
<tr><td>先端理工学部</td><td>数理・情報科学課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>知能情報メディア課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>電子情報通信課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>機械工学・ロボティクス課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>応用化学課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>環境生態工学課程</td><td></td></tr>
<tr><td>心理学部</td><td>心理学科</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>
第1条～第1条の2　（省略）

第2条　本学に次の学部を置き，各学部にはそれぞれに掲げる学科，課程及び専攻を置く。
<table>
<tr><th>学部</th><th>学科・課程</th><th>専攻</th></tr>
<tr><td>文学部</td><td>真宗学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>仏教学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>哲学科</td><td>哲学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>教育学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td>臨床心理学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>歴史学科</td><td>日本史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>東洋史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>仏教史学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>文化遺産学専攻</td></tr>
<tr><td></td><td>日本語日本文学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>英語英米文学科</td><td></td></tr>
<tr><td>経済学部</td><td>現代経済学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>国際経済学科</td><td></td></tr>
<tr><td>経営学部</td><td>経営学科</td><td></td></tr>
<tr><td>法学部</td><td>法律学科</td><td></td></tr>
<tr><td>社会学部</td><td>社会学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>コミュニティマネジメント学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>現代福祉学科</td><td></td></tr>
<tr><td>政策学部</td><td>政策学科</td><td></td></tr>
<tr><td>国際学部</td><td>国際文化学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>グローバルスタディーズ学科</td><td></td></tr>
<tr><td>農学部</td><td>生命科学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>農学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>食品栄養学科</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>食料農業システム学科</td><td></td></tr>
<tr><td>先端理工学部</td><td>数理・情報科学課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>知能情報メディア課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>電子情報通信課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>機械工学・ロボティクス課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>応用化学課程</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>環境生態工学課程</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>
文学部臨床心理学科募集停止に伴い削除

心理学部心理学科の設置を規定
</td>
</tr>
<tr>
<td>
第2条の2　各学部の教育理念・目的は，次のとおりとする。
<table>
<tr><th>学部名</th><th>教育理念・目的</th></tr>
<tr><td>文学部～先端理工学部</td><td>（省略）</td></tr>
<tr><td>心理学部</td><td>建学の精神に基づいて，現代社会が抱える諸課題に対し，心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ，主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。</td></tr>
</table>
</td>
<td>第2条の2　各学部の教育理念・目的は，次のとおりとする。</td>
<td>心理学部の教育研究上の目的を規定</td>
</tr>
<tr>
<td>第3条　（省略）</td>
<td>第3条　（省略）</td>
<td></td>
</tr>
</table>

第4条　本学学部の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科・課程・専攻			入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	真宗学科		145名	6名	592名
	仏教学科		118名	5名	482名
	哲学科	哲学専攻	74名	2名	300名
		教育学専攻	74名	2名	300名
	歴史学科	日本史学専攻	81名	3名	330名
		東洋史学専攻	74名	2名	300名
		仏教史学専攻	65名	2名	264名
		文化遺産学専攻	47名	2名	192名
	日本語日本文学科		101名	2名	408名
	英語英米文学科		101名	2名	408名
	小計		880名	28名	3,576名
経済学部～国際学部			（省略）	（省略）	（省略）
農学部	生命科学科		90名	8名	376名
	農学科		134名	9名	554名
	食品栄養学科		80名	4名	328名
	食料農業システム学科		134名	9名	554名
	小計		438名	30名	1,812名
先端理工学部			（省略）	（省略）	（省略）
心理学部	心理学科		255名	10名	1,040名
合計			5,138名	175名	20,902名

第4条　本学学部の収容定員は，次のとおりとする。

学部・学科・課程・専攻			入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	真宗学科		145名	6名	592名
	仏教学科		118名	5名	482名
	哲学科	哲学専攻	74名	2名	300名
		教育学専攻	74名	2名	300名
	臨床心理学科		99名	2名	400名
	歴史学科	日本史学専攻	81名	3名	330名
		東洋史学専攻	74名	2名	300名
		仏教史学専攻	65名	2名	264名
		文化遺産学専攻	47名	2名	192名
	日本語日本文学科		101名	2名	408名
	英語英米文学科		101名	2名	408名
	小計		979名	30名	3,976名
経済学部～国際学部			（省略）	（省略）	（省略）
農学部	生命科学科		90名	10名	380名
	農学科		134名	10名	556名
	食品栄養学科		80名	－	320名
	食料農業システム学科		134名	10名	556名
	小計		438名	30名	1,812名
先端理工学部			（省略）	（省略）	（省略）
合計			4,982名	167名	20,262名

文学部臨床心理学科の募集停止に伴い削除

心理学部の収容定員を規定

第5条～第21条　（省略）

第5条～第21条　（省略）

第22条　学費は，次のとおりとする。

	金額		備考
	文学部～先端理工学部	心理学部	
入学金	（省略）	260,000	編入学生及び転入学生の入学金は，160,000円を減免する。ただし，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科，転課程及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。 再入学生の入学金は，全額免除とする。
授業料	（省略）	1,007,000	
実験実習料	（省略）	二	
実習料	（省略）	二	
留学実習料	（省略）	二	
施設費	（省略）	260,000	入学初年度（1年次）の施設費は260,000円を減免する。 本学短期大学部出身者が本学へ編入学する場合は，編入初年度及び2年度目（3年次・4年次）の施設費をそれぞれ50,000円減免する。

第22条　学費は，次のとおりとする。

	金額	備考
	文学部～先端理工学部	
入学金	（省略）	編入学生及び転入学生の入学金は，160,000円を減免する。ただし，本学出身者（短期大学部出身者含む）が本学へ編入学する場合又は本学の学生が転学部，転学科，転課程及び転専攻する場合は，入学金全額を免除する。 再入学生の入学金は，全額免除とする。
授業料	（省略）	
実験実習料	（省略）	
実習料	（省略）	
留学実習料	（省略）	
施設費	（省略）	入学初年度（1年次）の施設費は260,000円を減免する。 本学短期大学部出身者が本学へ編入学する場合は，編入初年度及び2年度目（3年次・4年次）の施設費をそれぞれ50,000円減免する。

心理学部の学費を規定

2　（省略）

2　（省略）

第22条の2～第24条　（省略）

第25条　文学部，経済学部，経営学部，法学部，社会学部，政策学部，国際学部，農学部，先端理工学部及び心理学部の教育課程における授業科目は，専攻科目と教養教育科目とし，学修方法によりそれぞれ必修科目，選択必修科目，選択科目に区分する。

2～4　（省略）

第25条の2～第28条　（省略）

第29条　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

2　本学各学部において取得できる教育職員免許状の種類は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	教科	免許状の種類
文学部	真宗学科	宗教	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	仏教学科		
	哲学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	歴史学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部～先端理工学部	（省略）	（省略）	（省略）
心理学部	心理学科	公民	高等学校教諭一種免許状

第29条の2～第33条の12　（省略）

第33条の13　心理学部において，公認心理師受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表17のとおりとする。

第33条の14　（省略）

第34条　本学各学部において，卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

第22条の2～第24条　（省略）

第25条　文学部，経済学部，経営学部，法学部，社会学部，政策学部，国際学部，農学部及び先端理工学部の教育課程における授業科目は，専攻科目と教養教育科目とし，学修方法によりそれぞれ必修科目，選択必修科目，選択科目に区分する。

2～4　（省略）

第25条の2～第28条　（省略）

第29条　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

2　本学各学部において取得できる教育職員免許状の種類は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	教科	免許状の種類
文学部	真宗学科	宗教	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	仏教学科		
	哲学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
		公民	
	臨床心理学科	公民	高等学校教諭一種免許状
	歴史学科	社会	中学校教諭一種免許状
		地理歴史	高等学校教諭一種免許状
	日本語日本文学科	国語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
	英語英米文学科	英語	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
経済学部～先端理工学部	（省略）	（省略）	（省略）

第29条の2～第33条の12　（省略）

第33条の13　文学部において，公認心理師受験資格取得に関する科目として開設する授業科目は，別表17のとおりとする。

第33条の14　（省略）

第34条　本学各学部において，卒業の認定を受けるために必要な単位数は以下のとおりとする。

心理学部における授業科目の区分を規定

文学部臨床心理学科募集停止に伴い削除

心理学部において取得できる教育職員免許状の種類を規定

文学部臨床心理学科募集停止及び心理学部設置に伴い、心理学部における公認心理師受験資格取得を規定

（1）文学部 真宗学科　124単位以上 仏教学科　124単位以上 哲学科　124単位以上 歴史学科　124単位以上 日本語日本文学科　124単位以上 英語英米文学科　124単位以上	（1）文学部 真宗学科　124単位以上 仏教学科　124単位以上 哲学科　124単位以上 臨床心理学科　124単位以上 歴史学科　124単位以上 日本語日本文学科　124単位以上 英語英米文学科　124単位以上	文学部臨床心理学科募集停止に伴い削除
（2）～（9）　（省略）	（2）～（9）　（省略）	
（10）心理学部 心理学科　124単位以上		心理学部における卒業に必要な単位数を規定
2～4　（省略）	2～4　（省略）	
第35条～第70条　（省略）	第35条～第70条　（省略）	
別表１	別表１	
文学部開設科目（第30条関係） （1）～（2）③　（省略）	文学部開設科目（第30条関係） （1）～（2）③　（省略）	
	④　臨床心理学科	文学部臨床心理学科募集停止に伴い削除

授業科目	単位数	
臨床心理学基礎演習Ⅰ	4	科目削除
臨床心理学基礎演習Ⅱ	4	科目削除
臨床心理学演習ⅠA	2	科目削除
臨床心理学演習ⅠB	2	科目削除
臨床心理学演習ⅡA	2	科目削除
臨床心理学演習ⅡB	2	科目削除
卒業論文	4	科目削除
臨床心理学講読A1	2	科目削除
臨床心理学講読A2	2	科目削除
臨床心理学講読B1	2	科目削除
臨床心理学講読B2	2	科目削除
臨床心理学講読C1	2	科目削除
臨床心理学講読C2	2	科目削除
臨床心理学講読D1	2	科目削除
臨床心理学講読D2	2	科目削除
臨床心理学講読E1	2	科目削除
臨床心理学講読E2	2	科目削除
臨床心理学特殊講義A	2	科目削除
臨床心理学特殊講義B	2	科目削除
臨床心理学特殊講義C	2	科目削除
臨床心理学特殊講義D	2	科目削除
臨床心理学特殊講義E	2	科目削除
臨床心理学特殊講義F	2	科目削除
臨床心理学特殊講義G	2	科目削除
臨床心理学特殊講義H	2	科目削除
臨床心理学特殊講義I	2	科目削除
臨床心理学特殊講義J	2	科目削除
心理学概論A	2	科目削除
心理学概論B	2	科目削除

発達心理学概論	2	科目削除
臨床心理学概論A	2	科目削除
臨床心理学概論B	2	科目削除
対人行動学概論	2	科目削除
心理学的支援法A	2	科目削除
心理学的支援法B	2	科目削除
障害者・障害児心理学	2	科目削除
対人援助概論	2	科目削除
神経・生理心理学	2	科目削除
健康・医療心理学	2	科目削除
仏教カウンセリング	2	科目削除
特別支援教育方法論（教育・学校心理学）	2	科目削除
感情・人格心理学	2	科目削除
社会・集団・家族心理学A	2	科目削除
社会・集団・家族心理学B	2	科目削除
ビハーラカウンセリング	2	科目削除
（公）心理学実験A	1	科目削除
（公）心理学実験B	1	科目削除
心理的アセスメント	2	科目削除
心理学研究法A	2	科目削除
心理学研究法B	2	科目削除
心理学統計法A	2	科目削除
心理学統計法B	2	科目削除
人体の構造と機能及び疾病	2	科目削除
福祉心理学	2	科目削除
司法・犯罪心理学	2	科目削除
産業・組織心理学	2	科目削除
精神疾患とその治療	2	科目削除
心理演習	2	科目削除
法学概論	4	科目削除
政治学原理	4	科目削除
経済原論	4	科目削除
社会学概説	4	科目削除
キャリア形成論	2	科目削除
放送大学科目	30	科目削除
特別講座	30	科目削除

④　歴史学科

専攻	授業科目	単位数
（省略）	（省略）	（省略）

⑤　歴史学科　　番号繰上

専攻	授業科目	単位数
（省略）	（省略）	（省略）

⑤　日本語日本文学科

授業科目	単位数
（省略）	（省略）

⑥　日本語日本文学科　　番号繰上

授業科目	単位数
（省略）	（省略）

⑥　英語英米文学科

授業科目	単位数
（省略）	（省略）

⑦　英語英米文学科　　番号繰上

授業科目	単位数
（省略）	（省略）

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

経済学部開設科目（第30条関係）～先端理工学部開設科目（第30条関

経済学部開設科目（第30条関係）～先端理工学部開設科目（第30条関

係）　（省略）	係）　（省略）	
心理学部開設科目（第30条関係） （1）教養教育科目		心理学部の開設科目を規定
仏教の思想A　2		科目新設
仏教の思想B　2		科目新設
歎異抄の思想Ⅰ　2		科目新設
歎異抄の思想Ⅱ　2		科目新設
英語総合1(A)　1		科目新設
英語総合1(B)　1		科目新設
英語総合2(A)　1		科目新設
英語総合2(B)　1		科目新設
英語総合3(A)　1		科目新設
英語総合3(B)　1		科目新設
英語総合4(A)　1		科目新設
英語総合4(B)　1		科目新設
英語セミナーA1　2		科目新設
英語セミナーA2　2		科目新設
英語セミナーB1　2		科目新設
英語セミナーB2　2		科目新設
英語セミナーC1　2		科目新設
英語セミナーC2　2		科目新設
英語セミナーD1　2		科目新設
英語セミナーD2　2		科目新設
英語セミナーE1　2		科目新設
英語セミナーE2　2		科目新設
英語セミナーF1　2		科目新設
英語セミナーF2　2		科目新設
英語セミナーG1　2		科目新設
英語セミナーG2　2		科目新設
英語セミナーH1　2		科目新設
英語セミナーH2　2		科目新設
英語セミナーI1　2		科目新設
英語セミナーI2　2		科目新設
英語セミナーJ1　2		科目新設
英語セミナーJ2　2		科目新設
英語資格試験セミナー　2		科目新設
海外英語研修　2		科目新設
ドイツ語Ⅰ　2		科目新設
ドイツ語Ⅱ　2		科目新設
ドイツ語ⅢA　1		科目新設
ドイツ語ⅢB　1		科目新設
ドイツ語ⅢC　1		科目新設
ドイツ語ⅢD　1		科目新設
フランス語Ⅰ　2		科目新設
フランス語Ⅱ　2		科目新設
フランス語ⅢA　1		科目新設
フランス語ⅢB　1		科目新設
フランス語ⅢC　1		科目新設
フランス語ⅢD　1		科目新設
中国語Ⅰ　2		科目新設
中国語Ⅱ　2		科目新設
中国語ⅢA　1		科目新設
中国語ⅢB　1		科目新設
中国語ⅢC　1		科目新設
中国語ⅢD　1		科目新設
スペイン語Ⅰ　2		科目新設

スペイン語Ⅱ	2		科目新設
スペイン語ⅢA	1		科目新設
スペイン語ⅢB	1		科目新設
スペイン語ⅢC	1		科目新設
スペイン語ⅢD	1		科目新設
コリア語Ⅰ	2		科目新設
コリア語Ⅱ	2		科目新設
コリア語ⅢA	1		科目新設
コリア語ⅢB	1		科目新設
コリア語ⅢC	1		科目新設
コリア語ⅢD	1		科目新設
ドイツ語セミナーⅠA	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅠB	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅠC	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅠD	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅡA	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅡB	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅡC	2		科目新設
ドイツ語セミナーⅡD	2		科目新設
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2		科目新設
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2		科目新設
フランス語セミナーⅠA	2		科目新設
フランス語セミナーⅠB	2		科目新設
フランス語セミナーⅠC	2		科目新設
フランス語セミナーⅠD	2		科目新設
フランス語セミナーⅡA	2		科目新設
フランス語セミナーⅡB	2		科目新設
フランス語セミナーⅡC	2		科目新設
フランス語セミナーⅡD	2		科目新設
フランス語コミュニケーションⅠ	2		科目新設
フランス語コミュニケーションⅡ	2		科目新設
中国語セミナーⅠA	2		科目新設
中国語セミナーⅠB	2		科目新設
中国語セミナーⅠC	2		科目新設
中国語セミナーⅠD	2		科目新設
中国語セミナーⅡA	2		科目新設
中国語セミナーⅡB	2		科目新設
中国語セミナーⅡC	2		科目新設
中国語セミナーⅡD	2		科目新設
中国語コミュニケーションⅠ	2		科目新設
中国語コミュニケーションⅡ	2		科目新設
スペイン語セミナーⅠA	2		科目新設
スペイン語セミナーⅠB	2		科目新設
スペイン語セミナーⅠC	2		科目新設
スペイン語セミナーⅠD	2		科目新設
スペイン語セミナーⅡA	2		科目新設
スペイン語セミナーⅡB	2		科目新設
スペイン語セミナーⅡC	2		科目新設
スペイン語セミナーⅡD	2		科目新設
スペイン語コミュニケーションⅠ	2		科目新設
スペイン語コミュニケーションⅡ	2		科目新設
コリア語セミナーⅠA	2		科目新設
コリア語セミナーⅠB	2		科目新設
コリア語セミナーⅠC	2		科目新設
コリア語セミナーⅠD	2		科目新設
コリア語セミナーⅡA	2		科目新設
コリア語セミナーⅡB	2		科目新設
コリア語セミナーⅡC	2		科目新設
コリア語セミナーⅡD	2		科目新設

コリア語コミュニケーションⅠ	2		科目新設
コリア語コミュニケーションⅡ	2		科目新設
海外中国語研修講座	2		科目新設
ポルトガル語Ⅰ	2		科目新設
ポルトガル語Ⅱ	2		科目新設
ポルトガル語ⅢA	2		科目新設
ポルトガル語ⅢB	2		科目新設
ロシア語Ⅰ	2		科目新設
ロシア語Ⅱ	2		科目新設
ロシア語ⅢA	2		科目新設
ロシア語ⅢB	2		科目新設
ラテン語Ⅰ	1		科目新設
ラテン語Ⅱ	1		科目新設
ギリシア語Ⅰ	1		科目新設
ギリシア語Ⅱ	1		科目新設
ペルシア語ⅠA	2		科目新設
ペルシア語ⅠB	2		科目新設
ペルシア語ⅡA	2		科目新設
ペルシア語ⅡB	2		科目新設
トルコ語Ⅰ	2		科目新設
トルコ語Ⅱ	2		科目新設
アラビア語Ⅰ	2		科目新設
アラビア語Ⅱ	2		科目新設
哲学入門	2		科目新設
哲学A	2		科目新設
哲学B	2		科目新設
倫理学入門	2		科目新設
倫理学A	2		科目新設
倫理学B	2		科目新設
クリティカル・シンキング	2		科目新設
論理学	2		科目新設
宗教学入門	4		科目新設
宗教の世界A	2		科目新設
宗教の世界B	2		科目新設
中国の思想A	2		科目新設
中国の思想B	2		科目新設
芸術の世界A	2		科目新設
芸術の世界B	2		科目新設
日本の文学A	4		科目新設
日本の文学B	4		科目新設
日本の文学C	2		科目新設
アジアの文学A	2		科目新設
アジアの文学B	2		科目新設
西洋の文学A	2		科目新設
西洋の文学B	2		科目新設
文章表現法A	2		科目新設
文章表現法B	2		科目新設
言語と文化	2		科目新設
歴史学入門	2		科目新設
日本の歴史A	4		科目新設
日本の歴史B	4		科目新設
日本の文化	4		科目新設
アジアの歴史A	4		科目新設
アジアの歴史B	4		科目新設
アジアの文化	2		科目新設
西洋の歴史A	4		科目新設
西洋の歴史B	2		科目新設
西洋の歴史C	2		科目新設
現代世界の歴史A	2		科目新設

現代世界の歴史B	2		科目新設
心理学	4		科目新設
心の科学A	2		科目新設
心の科学B	2		科目新設
応用心理学A	2		科目新設
応用心理学B	2		科目新設
教育学のすすめA	2		科目新設
教育学のすすめB	2		科目新設
現代社会と教育A	2		科目新設
現代社会と教育B	2		科目新設
教育原論A	2		科目新設
教育原論B	2		科目新設
学習・発達論A	2		科目新設
学習・発達論B	2		科目新設
人文科学セミナー	4		科目新設
大学論	2		科目新設
日本国憲法	2		科目新設
法学のすすめ	2		科目新設
政治学のすすめ	2		科目新設
社会学のすすめ	2		科目新設
地理学のすすめ	2		科目新設
経済学のすすめ	2		科目新設
経営学のすすめ	2		科目新設
国際学のすすめ	2		科目新設
文化人類学のすすめ	2		科目新設
社会調査のすすめ	2		科目新設
社会統計学のすすめ	2		科目新設
人権論A	2		科目新設
人権論B	2		科目新設
現代社会とメディア	2		科目新設
現代社会と福祉	2		科目新設
現代社会と法	2		科目新設
環境と社会	2		科目新設
平和学A	2		科目新設
ジェンダー論	2		科目新設
国際社会論	2		科目新設
現代社会の諸問題	2		科目新設
地域論	2		科目新設
企業と会計	2		科目新設
現代社会と労働	2		科目新設
社会思想史	2		科目新設
英語で学ぶ日本の社会A	2		科目新設
英語で学ぶ日本の社会B	2		科目新設
数学入門	2		科目新設
数学への旅	2		科目新設
確率・統計入門	2		科目新設
微分と積分	4		科目新設
行列と行列式	4		科目新設
数理統計学	4		科目新設
数理と計算	2		科目新設
数学の世界	4		科目新設
数理と論証	2		科目新設
宇宙の科学Ⅰ	4		科目新設
宇宙の科学Ⅱ	2		科目新設
地球科学のすすめ	2		科目新設
地球科学	2		科目新設
物理科学の世界	4		科目新設
時間と空間の科学	2		科目新設
エネルギー入門	2		科目新設

自然科学史Ⅰ	2		科目新設
自然科学史Ⅱ	2		科目新設
科学論	2		科目新設
技術論	2		科目新設
平和学B	2		科目新設
里山学	2		科目新設
生物科学のすすめ	4		科目新設
生命科学のすすめ	2		科目新設
生命科学	2		科目新設
生態学のすすめ	4		科目新設
人類学のすすめ	4		科目新設
日本の自然	4		科目新設
生命誌	2		科目新設
植物の自然誌	2		科目新設
動物の自然誌	2		科目新設
民族の自然誌	2		科目新設
人類進化学	2		科目新設
人間の生物学Ⅰ	2		科目新設
人間の生物学Ⅱ	2		科目新設
自然誌実習	4		科目新設
野外観察法	2		科目新設
環境学	4		科目新設
情報科学入門	2		科目新設
情報科学Ⅰ	2		科目新設
情報科学Ⅱ	2		科目新設
情報科学実習	4		科目新設
健康とスポーツ	2		科目新設
現代社会とスポーツ	2		科目新設
スポーツ技術学演習	2		科目新設
人間とスポーツ	2		科目新設
スポーツと人権・平和	2		科目新設
スポーツ文化史	2		科目新設
スポーツ科学最前線	2		科目新設
教養教育科目特別講義	2		科目新設
バークレー語学	12		科目新設
バークレー講義	6		科目新設
バークレーボランティア	6		科目新設

(2) 専攻科目

授業科目	単位数		
フレッシャーズゼミ	2		科目新設
心理学基礎演習A	2		科目新設
心理学基礎演習B	2		科目新設
心理学基礎演習C	2		科目新設
心理学概論	2		科目新設
発達心理学	2		科目新設
臨床心理学概論	2		科目新設
心理学的支援法	2		科目新設
心理学研究法概論	2		科目新設
心理学統計法概論	2		科目新設
心理的アセスメントⅠ	2		科目新設
生涯発達と関係支援	2		科目新設
心理学とデータサイエンス	2		科目新設
キャリアと心理	2		科目新設
キャリアデザイン論	2		科目新設
人体の構造と機能及び疾病	2		科目新設
心理学実験	1		科目新設
神経・生理心理学	2		

障害者・障害児心理学	2		科目新設
福祉心理学	2		科目新設
健康・医療心理学	2		科目新設
教育・学校心理学	2		科目新設
脳と心	2		科目新設
乳幼児の発達	2		科目新設
児童思春期精神医学	2		科目新設
子どもの心理療法	2		科目新設
高齢者の心理と福祉	2		科目新設
仏教と心理学	2		科目新設
コミュニティとシステム支援	2		科目新設
ストレスマネジメント	2		科目新設
チーム医療	2		科目新設
チーム学校とシステム論	2		科目新設
心理学の職業的展開	2		科目新設
仕事と社会人Ⅰ	2		科目新設
心理学プロジェクト社会連携演習	2		科目新設
生涯発達臨床心理学	2		科目新設
ライフサイクルとカウンセリング	2		科目新設
家族療法とシステムズアプローチ	2		科目新設
目からウロコのコミュニケーション学	2		科目新設
心理学演習	2		科目新設
卒業研究	4		科目新設
知覚・認知心理学	2		科目新設
精神疾患とその治療	2		科目新設
感情・人格心理学	2		科目新設
心理関係行政論	2		科目新設
司法・犯罪心理学	2		科目新設
産業・組織心理学	2		科目新設
学習・言語心理学	2		科目新設
社会・集団・家族心理学	2		科目新設
量的心理学研究	2		科目新設
質的心理学研究	2		科目新設
生理学データと現場心理学（基礎）	2		科目新設
臨床催眠学	2		科目新設
生理学データと現場心理学（応用）	2		科目新設
子育てとソーシャルサポート	2		科目新設
音楽療法	2		科目新設
ダンスセラピー	2		科目新設
乳幼児の理解と支援実習	2		科目新設
教育と心理支援	2		科目新設
発達障害のアセスメント	2		科目新設
心理的アセスメントⅡ	2		科目新設
不登校・いじめとスクールカウンセリング	2		科目新設
青年心理と友人関係	2		科目新設
思春期とジェンダー心理学	2		科目新設
大人の発達障害	2		科目新設
思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	2		科目新設
中年期の危機とうつ	2		科目新設
コミュニティ・アプローチ	2		科目新設
愛着障害と親子関係	2		科目新設
保育の心理学	2		科目新設
障害児支援と療育	2		科目新設
学童期の遊びと対人関係	2		科目新設
発達障害と応用行動分析	2		科目新設
思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	2		科目新設
フォーカシングと体験過程療法	2		科目新設
ひきこもりと精神的健康	2		科目新設
認知行動療法	2		科目新設

エンカウンターグループと回想法	2	科目新設
ビハーラカウンセリング	2	科目新設
死生観教育と心理療法	2	科目新設
認知症の心と家族支援	2	科目新設
高齢者の理解と支援実習	2	科目新設
人格心理学と精神力動論	2	科目新設
医療におけるシステムズアプローチ	2	科目新設
緩和ケアとこころの治癒力	2	科目新設
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2	科目新設
学校システムにおける精神疾患と家族	2	科目新設
不登校の解決と協働	2	科目新設
発達障がいと家族	2	科目新設
ひきこもりと家族支援	2	科目新設
虐待と家族支援	2	科目新設
ポジティブ心理学	2	科目新設
コーチング心理学	2	科目新設
コンサルテーション・リエゾン精神医学	2	科目新設
構造派家族療法	2	科目新設
保護者支援とチーム学校	2	科目新設
コンサルテーション演習	2	科目新設
特別支援とシステムズアプローチ	2	科目新設
ブリーフセラピーとソリューション	2	科目新設
非行と家族支援	2	科目新設
オープン・ダイアローグ演習	2	科目新設
キャリアカウンセリング	2	科目新設
スポーツ心理学	2	科目新設
スポーツ・メンタルリハーサル	2	科目新設
マインドフルネス・ヨーガ	2	科目新設
事例演習アドバンスⅠ	2	科目新設
事例演習アドバンスⅡ	2	科目新設
仕事と社会人Ⅱ	2	科目新設
法学概論	4	科目新設
政治学原理	4	科目新設
経済原論	4	科目新設
社会学概説	4	科目新設

以上に掲げる授業科目のほか，教授会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

別表2～3　（省略）

別表2～3　（省略）

別表4　教育職員免許状取得に関する科目（第32条関係）

（1）～（9）　（省略）

別表4　教育職員免許状取得に関する科目（第32条関係）

（1）～（9）　（省略）

（10）心理学部

	授業科目	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職コンピュータ基礎	2
	体育実技	1

心理学部の科目を規定

（11）共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策・心理学部共通開設
	社会科・公民科	2	文・経済・経営・法・社会・

（10）共通開設科目

	授業科目	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	文・経済・経営・法・社会・政策学部共通開設
	社会科・公民科	2	文・経済・経営・法・社会・

号の繰下

対象に心理学部を規定

	教育法Ⅱ		政策・心理学部共通開設
教育の基礎的理解に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
教育実践に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）

（12）その他

授業科目	単位数
介護等体験	2

別表5～6　（省略）

別表7　本願寺派教師資格に関する科目（第33条の2関係）

（1）　（省略）

（2）経済学部
　　経営学部
　　法学部
　　政策学部
　　国際学部
　　心理学部

	授業科目	単位数
	（省略）	（省略）

（3）～（6）　（省略）

別表8～別表16　（省略）

別表17　公認心理師受験資格取得に関する科目（第33条の13関係）

	授業科目	単位数
公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	2
	心理演習	2
	心理実習A	2
	心理実習B	2

以上の表に掲げる実習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

	教育法Ⅱ		政策学部共通開設
教育の基礎的理解に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）
教育実践に関する科目	（省略）	（省略）	（省略）

（11）その他

授業科目	単位数
介護等体験	2

別表5～6　（省略）

別表7　本願寺派教師資格に関する科目（第33条の2関係）

（1）　（省略）

（2）経済学部
　　経営学部
　　法学部
　　政策学部
　　国際学部

	授業科目	単位数
	（省略）	（省略）

（3）～（6）　（省略）

別表8～別表16　（省略）

別表17　公認心理師受験資格取得に関する科目（第33条の13関係）

	授業科目	単位数
公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	2
	心理関係行政論	2
	心理実習A	2
	心理実習B	2

以上の表に掲げる実習科目の時間数及び履修方法については，別に定める。

対象に心理学部を規定

号の繰下

心理学部の本願寺派教師資格に関する科目を規定

科目新設及び科目削除

別表18　（省略）	別表18　（省略）	
付　則 1　この学則は，令和5年4月1日から施行する。 2　令和4年度以前の入学生については，なお従前の規程による。 3　文学部臨床心理学科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。		付則の追加

心理学部教授会規程

制定　令和 3 年 12 月 22 日

（審議決定事項）

第 1 条　教授会は、学則第 64 条に基づき、次の各号に掲げる事項を審議決定する。ただし、全学的に決定を要する事項はこれを除く。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の議決が必要なものとして学長が定めるもの

2　前項第 3 号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1) 教育職員の人事に関する事項

(2) 学部長及び評議員の選考に関する事項

(3) 研究及び教授に関する事項

(4) 学科課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項

(5) 学業評価に関する事項

(6) 学生の退学、休学、復学及び留学に関する事項

(7) 学生の補導厚生に関する事項

(8) 学部内諸規程の制定改廃に関する事項

(9) 学位称号に関する事項

(10) その他学部における重要な事項

3　教授会は，前 2 項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について、審議決定することができる。

（構成）

第 2 条　教授会は、学則第 63 条に規定する教育職員（以下「教授会構成員」という。）をもって構成する。

2　引続き 3 ヵ月以上教授会に出席できない者は、教授会の議を経て、その期間、教授会構成員の員数から除外することができる。

（構成員以外の者の出席）

第 3 条　学部長は、必要があると認めたときは、教授会構成員以外の職員を教授会に出席させ報告又は意見を求めることができる。ただし、表決には加えない。

（招集・議長）

第 4 条　教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

2　やむを得ない事由のため、学部長が欠席する場合は、予め学部長の指名した者が議長となりその職務を代行する。

（招集請求）

第 5 条　学部長は、教授会構成員の 3 分の 1 以上の者から請求のあった場合には、教授会を招集しなければならない。

（定足数）

第 6 条　教授会は、教授会構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。

（議決要件）

第 7 条　教授会の議決は、出席者の過半数の同意を得なければならない。

2　可否同数の時は議長の決するところによる。

（人事事項の審議）

第 8 条　教育職員の人事に関する事項を審議する場合は、教授会構成員の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、その議決は出席者の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

（不利益な人事事項の審議）

第 9 条　本人の不利益に属する人事事項を審議する場合は、教授会構成員の 3 分の 2 以上の出席を必要とし、その議決は教授会構成員の 4 分の 3 以上の同意を得なければならない。

（諸規程の参照）

第 10 条　前 2 条の人事に関する事項の審議には、教育職員選考基準等、人事に関する諸規程を参照しなければならない。

（審議対象者の退席）

第 11 条　第 8 条及び第 9 条の人事に関する事項を議する場合は、議長は当該者の退席を求めることができる。

（意向の聴取）

第 12 条　学部長は、次の各号に掲げる事項については、教授会の意向を聞かなければならない。

(1) 予算の新規要求
(2) 予算の執行に関する事項
(3) その他学部長が必要と認めた事項

（事務）

第 13 条　学部長は、教授会の事務を処理するため、指名する事務職員を出席させることができる。

（議事録）

第 14 条　議事録は、学部長が保管し、教授会構成員の要求があるときはこれを呈示しなければならない。

（改廃）

第 15 条　この規程を改正又は廃止する場合は、教授会構成員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

付　則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

― 目次 ―

1　設置の趣旨及び必要性 2

2　学部・学科等の特色 4

3　学部・学科等の名称及び学位の名称 11

4　教育課程の編成の考え方及び特色 11

5　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 17

6　編入学定員を設定する場合の具体的計画 22

7　実習の具体的計画 22

8　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を
実施する場合の具体的計画 25

9　取得可能な資格 26

10　入学者選抜の概要 27

11　教員組織の編制の考え方及び特色 29

12　施設、設備等の整備計画 31

13　2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 34

14　管理運営 34

15　自己点検・評価 35

16　情報の公表 36

17　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 41

18　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 43

１　設置の趣旨及び必要性

１－１　龍谷大学及び学部等の沿革並びに社会情勢の変化

龍谷大学は、寛永 16（1639）年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神（親鸞精神）を建学の精神とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的において発展を遂げてきた。

現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、政策学部、国際学部、農学部、先端理工学部の9 学部をはじめとする、9 学部1 短大10研究科を擁する総合大学である。

今般、新たに設置する「心理学部」の母体は、大学令によって大正 11（1922）年に龍谷大学（旧制）が発足した際に文学部に設置された「哲学科教育学専攻」を起源とする「臨床心理学科」であり、この間、社会のニーズに応えながら、一定の社会的評価を得てきた。

しかしながら、グローバル化や人工知能（AI）をはじめとするデジタル化の急速な進展に加え、自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響等により、社会環境や生活様式が大きく変容し、ますます予測困難な時代へと突入している。特に新型コロナウイルス感染症を契機に、人とのやり取りやコミュニケーション等の方法が変わろうとする中で、新たな心理的諸課題が生じるとともに、人とのつながりや対面の価値は従来よりも大きくなるものと思料する。

このような社会において、心理的困窮者への支援に加え、心理学を基礎とした対人支援のためのコミュニケーション・スキルを身につけ、現代社会が抱える心理的諸課題について具体的な解決のための方策を構築し、主体的かつ実践的に対応できる人材の養成は、業種・職種を問わず、高等教育機関に対する社会からの強い要請としてあるものと認識している。

１－２　龍谷大学心理学部の設置の趣旨並びに必要性

文学部臨床心理学科は、平成 14（2002）年 4 月に文学部哲学科教育学専攻内に設置された「臨床心理学領域」において培ってきた実践的教育内容を基盤に、平成 24（2012）年 4 月に開設された。以来、同学科では、臨床心理学を基礎とした対人支援を理解し、効果的な対人支援のコミュニケーション・スキルを修得した職業人を養成することを目指すとともに、現代社会の心理的支援に対する期待に応え、社会的に多様な職能との協働的支援によって社会の安全・安心の確保と発展に貢献する人間を育成することを使命として、これまで積極的に実践的な教学活動に取り組んできた。

「心理学部」は、臨床心理学科の設置以来、守り続けてきたこうした理念と培ってきた実践・実績を基盤に、現行の教学内容をさらに発展充実させ、「臨床心理学」における実践的スキルを基礎にした「社会と向き合い、人を支える心理学」を学ぶことのできる教学組織として設置するものである。心理学を基礎とする「対人支援のコミュニケーション・スキル」を身につけた人間の育成を目指す同学部は、本学の中長期計画「龍谷大学基本構想 400」の理念や使命を具現化し、社会に貢献するための具体的方策として、「龍谷大学ならでは」の新たな教学の柱となりうるものである。かつ、課題が山積する社会にあって、増加傾向のあ

る心理的困窮者を支援しうる専門性を有した人間の育成は、高等教育機関に向けた社会からの強い要請としてあるものと認識する。その点でも、同学部設置の意義はきわめて大きいものと考える。

以上のとおり、これまで本学において実践してきた「臨床心理学」の実績を踏まえつつ、教育理念・目的等を改めて明確に示し、充実した教学内容を展開することで、今後、社会から求められるであろう目的意識の高く、社会に貢献しうる有為な人間の養成に積極的に応えるべく、文学部臨床心理学科を基礎として、令和 5（2023）年度に「心理学部」（入学定員 255 名）を設置することを計画した。

１－３　心理学部において養成する人材像

（１）心理学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

（２）心理学部の卒業認定・学位授与の方針［学士（心理学）］（ディプロマポリシー）

心理学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

［学生に保証する基本的な資質］

（注）○：教養教育科目により保証する資質・能力　●：専攻科目により保証する資質・能力

（建学の精神の具現化）

○建学の精神の意義について理解している。

（知識・技能の修得）

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。

●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。

（課題解決のために必要な力の育成）

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。
●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。

（主体的な学修態度の醸成）
●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。
●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。
●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。

［学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法］
・学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位を必要とする。
・卒業年次には、「卒業研究」を提出しなければならない。卒業研究提出後に卒業研究発表会を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

教育理念・目的、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）との相関は、資料 1 のとおりである。

１－４　組織として研究対象とする中心的な学問分野

心理学部では、上記「1－2 龍谷大学心理学部の設置の趣旨並びに必要性」、「1－3（1）心理学部の教育理念・目的」を達成するために、主に①臨床心理学、②医療心理学、③生理心理学、④発達心理学、⑤教育心理学、⑥認知心理学、⑦福祉心理学、⑧産業心理学、⑨スポーツ心理学を中心的な学問分野とする。

同学部の基礎となる文学部臨床心理学科が展開してきた学問分野に加え、より広範な分野を対象とし、現代社会が抱える心理的諸課題の課題解決に資する研究に取り組む。

２　学部・学科等の特色

（１）教育課程

心理学部の教育課程（特に専攻科目のカリキュラム）の特色として、次の 3 点が上げられる。

１）基礎から卒業後のキャリアにまで繋がる心理学教育の「3 つの柱」

「専門基礎科目」では、卒業後のキャリアも視野に入れて、初年次から「3 つの柱（科

目群)」を設定し、心理学の知見に基づいた社会実践をする上で必要となる基礎的な専門教育を行う。具体的には、①「心理学基礎科目」、②「データサイエンス科目」、③「キャリア啓発科目」である。

①「心理学基礎科目」は、心理学の基礎となる考え方そのものを学ぶとともに、それらがどのように応用心理学と繋がるのかを理解することを目的として開講する科目である。社会のさまざまな分野や場面で、心理学を応用した有意義な実践対応ができるようになるためには、必然的に応用心理学の諸領域を広範に学修しなければならない。そのための基礎を低年次において確実に身につけることを目指す。

②「データサイエンス科目」は、これからの社会的介入において求められる「根拠に基づく対応」ができるように、心理的特性そのものをデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉えることを目的として開講する科目である。データサイエンスは、汎用性の高い学びであるという点だけではなく、心理学の基礎と応用とを結ぶ最も重要な視点を学びうるという点においても、卒業後のキャリアに資する重要な科目である。

③「キャリア啓発科目」は、実社会における心理学の応用の実際を学び、専門資格取得の有無にかかわりなく、卒業後のキャリアを意識した学修目標の設定を低年次の段階から促すことを目的として開講する科目である。従来の心理学の学修では、専門教育の成果が実社会で具体的にどのように活用される（されうる）のかについては、ほとんど触れられることがなかった。「社会と向き合い、人を支える心理学」の学びを掲げる心理学部では、現場で活躍する社会人などを招いた講義等を展開し、実社会での心理学の応用を理解する機会を積極的に提供する。なお、高年次に開講する「専門発展科目」のうちの「プログラム科目」においても「キャリア形成科目」を開講し、心理学部独自のキャリア教育を展開する。

２）専門的心理学教育の「2 つのプログラム」

「専門発展科目」では、「生涯発達カウンセリングプログラム」と「関係支援とコミュニケーションプログラム」という 2 つのプログラムを配置し、心理学の専門的な教育の充実を図る。

①「生涯発達カウンセリングプログラム」は、生涯発達の観点から発達段階に応じた「個人の心」に寄り添い、自らが「気づく」支援のあり方にアプローチするプログラムである。生涯発達の各ステージにおいて、心のなかに潜在する可能性に「気づく」ための「対人支援力」と「利他の精神」を涵養するための科目を配置するところに、同プログラムのカリキュラム上の特色がある。

「対人支援力」とは、「「心」への「傾聴」」である。この「傾聴」は2つに分けられる。ひとつは、「心」について「分析し理解しようとする」こと、すなわち心理アセスメント／臨床心理査定である。これは、心理学や精神医学等の学問的見地、及び生育歴や現在の生活状況などの発達段階に応じた情報を集め、統合し、多角的視点から実施するものであり、「マクロとミクロ両方の視点からの情報分析」である。もうひとつは、悩みを抱える人の語りや行動のなかに見え隠れする「気持ちに寄り添い、かかわろうとする」こと、すなわちカウンセリング／臨床心理面接である。ここには、悩みを抱える人の「気持ち」だけではなく、そこにかかわる自分自身の「気持ち」を聴き取ろうとすることも含まれ、人と人の「気持ち」に焦点をあてた「共感性」という非認知能力を育て、人の心の痛みに寄り添う「利他の精神」を発揮することでもある。

②「関係支援とコミュニケーションプログラム」は、家族関係、知人・交友関係、組織での人間関係などを理解するために「多様なコミュニケーションの解釈」を学び、社会で共に生きる人間の繋がりにアプローチするプログラムである。

同プログラムでは、心理学部の基礎となる文学部臨床心理学科で培ってきた対人支援にかかわる教育成果を継承し、家族療法やブリーフセラピーなどのカウンセリングの手法を柱に、人間関係や社会・集団関係における多様なコミュニケーションの方法を通して、実践的な心理学を学修する。あわせて、「公認心理師法」において従来の心理職とは異なる職能として明示された、「心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の支援を行うこと」（第2条第3号）、「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと」（同第4号）のできる人材の育成にも対応する。

さらに、2つのプログラムを横断的に接続する分野として「プログラム横断科目」を開設する。具体的には「データ心理学」の科目群を配置し、各自が設定した卒業研究に活かせるよう、効果的な調査研究の手法や分析方法などを学修することとする。

加えて、心理職の国家資格である公認心理師の受験資格課程関連科目を配置し、「心の健康」に資する対人支援の心理学教育を展開する。

３）キャリアビジョンに合わせた専門的かつ実践的な「9つの分野」

専門発展科目における「2つのプログラム」及び「プログラム横断科目」の下には、それぞれの学生が自身のキャリアビジョンに基づいて、関心のある分野を適切に選択することができるように、特徴的な心理実践に繋がる「9つの分野」（プログラムごとの4分野とプログラム横断科目の1分野）の科目群を設定する。具体的には、①乳幼児と保護者の心と支援、②子どもの心と支援、③思春期・青年期の心と支援、④成人・高齢者の心と支援（以上、生涯発達カウンセリングプログラム）、⑤チーム医療、⑥チーム学校、⑦ネ

ットワーク支援、⑧産業・メンタルヘルス（以上、関係支援とコミュニケーションプログラム）、⑨データ心理学（プログラム横断科目）である。

なお、低年次配当の「専門基礎科目」においても各分野に関する基礎的な科目を配置することで、分野別の系統的、体系的なカリキュラムに基づく専門的な学びの深化を実現していくこととする。

以下、各分野が想定する卒業後のキャリア、及び科目群の特徴を記すとともに、主要な科目（関連する専門基礎科目も含む）について概説する。

①「乳幼児と保護者の心と支援」分野は、卒業後のキャリアとして子育て支援にかかわる職種などを想定し、乳幼児期の発達にかかわる親子関係の特徴を中心に、周産期から乳幼児の子育てにかかわる母親に対する支援を実践的に学ぶ科目群を設置する。

同分野の基礎としては「乳幼児の発達」を開講するとともに、「子育てとソーシャルサポート」によって「子育て」に対する心理臨床的な介入を学びつつ、公的機関によるソーシャルサポートについての理解を深める。特に母親支援の方法として用いられることの多い「コミュニティ・アプローチ」を取り上げ、地域における母親支援プログラムを具体的に学修することを目的とする。さらに、同分野での実践的な心理的支援法を学ぶことを目的として「乳幼児の理解と支援実習」を開講し、体験的学修の機会も設定する。

②「子どもの心と支援」分野は、卒業後のキャリアとして療育支援機関や放課後デイサービスなどを想定し、幼児・児童期を中心とした子どもの発達を理解し、社会的な支援者養成が望まれている「療育的支援」を具体的に学ぶことを想定した科目群を設置する。

同分野では、障がい児者について学ぶ「発達障害のアセスメント」を開講するとともに、現在の幼稚園、保育所、小学校などで実施されている支援の実態を学ぶ「教育と心理支援」も開講し、療育的支援の必要性に対する理解を深める。さらに、最も重要な科目として「障害児支援と療育」を開講し、具体的な心理的支援のあり方の基本を理解するとともに、今、現場で求められている素養を身につけられるようにする。

③「思春期・青年期の心と支援」分野は、卒業後のキャリアとして放課後児童支援員、児童相談所心理職（心理判定員）および児童養護施設児童指導員などを想定し、思春期・青年期のアイデンティティ形成の多様性を理解し、その発達特徴に応じた支援のあり方を把握できるような科目群を設置する。

同分野では、現代社会における特徴的なエピソードを取り上げつつ、思春期・青年期特有の不適応の多様性を学修する「青年心理と友人関係」、「ひきこもりと精神的健康」、「大人の発達障害」などを開講する。また、支援現場で用いられる手法を学ぶ「認知行動療法」や「不登校・いじめとスクールカウンセリング」も開講し、現場でのか

かわり方の留意事項も把握できるようにする。さらに、これらの特徴を個別事例に照らし合わせながら学修を深めるため、支援の現場で求められている事例理解を中心とした実習科目を開講し、基礎実習として「思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ」、応用実習として「思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ」をそれぞれ配置する。

④「成人・高齢者の心と支援」分野は、卒業後のキャリアとして高齢者福祉施設や医療機関などでの就業を想定し、発達段階後期に位置づけられる成人や高齢者の死生観などにかかわる多様な心理的特性を理解し、「看取りの現場」で用いられているターミナルケアやビハーラなどの手法を学ぶ科目群を設置する。

同分野の基礎としては「福祉心理学」を開講するとともに、「ビハーラカウンセリング」「死生観教育と心理療法」も開講し、龍谷大学ならではの教育を展開する。また、「中年期の危機とうつ」の他、より幅広く現場に繋がる内容を学修できるように、「認知症の心と家族支援」、「エンカウンターグループと回想法」を開講する。さらに、こうした学びを基盤に、現場で求められている成人・高齢者への適切なアセスメントを実践的に学ぶ「高齢者の理解と支援実習」を開講する。

⑤「チーム医療」分野は、卒業後のキャリアとして主に医療機関や高齢者福祉施設などでの就業を想定し、医療システムに携わる多職種それぞれの立場や役割、支援のあり方などを学び、理解することで、チーム医療の一員に求められる知識・態度・姿勢などを涵養できるような科目群を設置する。

同分野の基礎的な特徴を把握するために、「チーム医療」を開講する。また、チーム医療で活用されている手法を理解する「家族療法とコミュニケーション・アプローチ」を開講する。さらに、応用的な科目として「医療におけるシステムズアプローチ」や「コンサルテーション・リエゾン精神医学」などを配置することで、多様な要請に応えなければならない医療現場での対応に関する理解を深めていく。

なお、これらは、「公認心理師法」において従来の心理職とは異なる職能として明示されている「関係者支援」のスキル修得に繋がるものである。

⑥「チーム学校」分野は、卒業後のキャリアとしてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を想定し、現場で新たに必要とされている保護者支援や教員コンサルテーションの実際を理解し、その手法を実践的に学ぶ科目群を設置する。

同分野の基礎となる教育現場での支援を把握するために、文部科学省が提唱している「チームとしての学校」に関する科目として、「チーム学校とシステム論」や「保護者支援とチーム学校」を開講する。また、現場での対応方法として効果的とされ、あるいは近年注目されている手法を学び、応用的な対応を理解するために、「ブリーフセラピーとソリューション」、「特別支援とシステムズアプローチ」、「学校システムにおける精神疾患と家族」などを開講する。さらに、教育現場での要請が最も強い「コ

ンサルテーション」を学ぶ「コンサルテーション演習」を開講し、間接的な関係者支援のあり方に関する理解を深めていく。

なお、これらは、「公認心理師法」において従来の心理職とは異なる職能として明示されている「関係者支援」のスキル修得に繋がるものである。

⑦「ネットワーク支援」分野は、卒業後のキャリアとして福祉関連施設での就業などを想定し、福祉関連の分野で対応を求められることが多いひきこもりや発達障がいなどに対して、家族や関係者などのシステム全体に対応できるようになるための基礎となる考え方を理解し、持続的な福祉的支援のあり方を俯瞰的に学ぶ科目群を設置する。

福祉的支援では、多くの人の繋がりという「ネットワーク」の全体像を理解できる視点が最も重要視されている。そこで、同分野の基礎として「コミュニティとシステム支援」を開講する。また、社会的に重視されている 4 つのエピソードを取り上げ、「ひきこもりと家族支援」、「虐待と家族支援」、「発達障がいと家族」、「非行と家族支援」として科目を開講する。さらに、ネットワークを活用した最新の支援方法を知り、これからの支援に求められている姿勢を理解する機会として「オープン・ダイアローグ演習」を配置する。

なお、これらは、「公認心理師法」において従来の心理職とは異なる職能として明示されている「関係者支援」のスキル修得に繋がるものである。

⑧「産業・メンタルヘルス」分野は、卒業後のキャリアとして公務員や民間企業等の幅広い業種・職種を想定し、法律的規定に基づいて、組織システムの人間関係を理解し、多様な会社組織のなかでの労務や人事にかかわる心理学的視点を学び、キャリア構築を容易とするような科目群を設置する。

同分野の基礎を学ぶ科目として「産業・組織心理学」を開講するとともに、特に重要な位置づけとなる「ストレスマネジメント」と「キャリアカウンセリング」も開講する。また、産業分野での最新の支援とされる「コーチング心理学」、及びその基礎となっている「ポジティブ心理学」も開講する。さらに、多くの現場で実践できるスキルを修得する機会として、「スポーツ・メンタルリハーサル」を開講し、より高度なキャリア構築への導入を図る。

⑨「データ心理学」分野は、卒業後のキャリアとして民間企業等、データサイエンスを活かした多様な業種・職種を想定し、心理学をより科学的なものとして理解し、心の動きや行動をデータとして処理、分析する方法や、臨床やトレーニングなどに活用されている最新の対応技術を学ぶ科目群を設置する。

同分野の基礎として、「脳と心」を開講するとともに、データ処理と分析の基本を学修する「心理学統計法概論」、「心理的アセスメントⅠ」、及び「量的心理学研究」

を開講する。また、「生理学データと現場心理学（基礎)」「生理学データと現場心理学（応用)」を開講し、心をデータとして見なすことの多彩な視点を理解できるようにする。さらに、データ心理学に基づく支援方法を学ぶ科目として、「臨床催眠学」を配置する。こうした科目により、データサイエンスを活かしたより高度なキャリアへの繋がりを意識する機会を提供する。

４）BYOD と無線 LAN 環境の整備

グローバル化や人工知能(AI)をはじめとするデジタル化等の技術革新が急速に進み、ますます予測困難となる時代においては、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動する人材育成が求められている。そのために必要となる問題解決学習等を含むアクティブ・ラーニングを実践していくには、ICT 環境の整備は非常に重要である。初等中等教育における ICT 環境の整備も急速に進んでおり、無線 LAN の整備に関しては大学の環境を追い越しつつある。さらに、タブレット PC 等を必携化し、アクティブ・ラーニングを全面的に取り入れている高等学校も増えつつある。

そこで心理学部では、教育課程におけるアクティブ・ラーニングを支える環境として、学生に自身の PC 等のデバイスを必ず携帯してもらう、BYOD(Bring Your Own Device)制を導入する。学内各所には PC を操作するための自習スペースを整備する。

また、ICT を活用するカリキュラムに合わせ、キャンパス内では場所を問わず無線 LAN が活用できる環境を整備し、オンライン授業やデータサイエンス科目におけるデータ処理等においても、いつでもどこでも自らのデバイスを用いて学修できるようにしている。

なお、中央教育審議会による「我が国の高等教育の将来像」答申（平成 17 年 1 月）においては、高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化として、1）世界的研究・教育拠点、2）高度専門職業人養成、3）幅広い職業人養成、4）総合的教養教育、5）特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、6）地域の生涯学習機会の拠点、7）社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）が示されている。

心理学部では、心理学の教育と研究を通じて得られる、対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間の育成を掲げている。その教育研究内容は、文学部臨床心理学科で育成してきた公認心理師など心理専門職養成の流れを組むものであり、引き続き、主に 2）高度専門職業人養成、3）幅広い職業人養成、4）総合的教養教育、7）社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の機能や特色を今般の改組によって充実・発展させるものと考える。

３　学部・学科等の名称及び学位の名称

３－１　学部・学科の名称

現代社会には多くの課題が存在している。そうしたなかにあって、人々は精神的・心理的な安定を求めながらも、それを維持・継続することが困難な状況に置かれている。特に近年は、心理的困窮を訴える人の増加傾向が顕著である。その結果、心理的困窮からの回復に対する専門的な支援への要請が高まっている。

また、ウェルビーイング（well-being）が注目される現代にあって、特段の心理的困窮を感じていない人々も含めて、心身ともにより良好で幸福な人生を送ったり、自身の属する組織・社会のあり方をより望ましい方向へと向かわせたりできるようになることはきわめて有意義であり、そのことに資する心理学の専門知見や実践力に対する期待も大きいものと思料する。

このような社会的な要請・期待に応えるべく、建学の精神に基づき、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成するカリキュラムを構想し、学部・学科名称を「心理学部・心理学科」とした。

なお、英訳名称については「Faculty of Psychology・Department of Psychology」とする。

３－２　学位の名称

設置の趣旨や育成する人材像等を反映し、学位は「学士（心理学）」とする。英訳名称については、「Bachelor of Psychology」とする。

４　教育課程の編成の考え方及び特色

４－１　教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。

［心理学部の教育内容］

（注）○：教養教育科目にかかる教育内容　●：専攻科目にかかる教育内容

（建学の精神の具現化）

○建学の精神の意義について理解するために、1 年次配当（第 1・第 2 セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

（知識・技能の修得）

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1 年次配当（第 1・第 2 セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1 年次配当（第 1・第 2 セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義 A」及び「基礎講義 B」を開講する。

●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけ、人とのつながりを形成するために、「初年次科目（フレッシャーズゼミ）」及び「導入科目（基礎演習）」を開講する。

（課題解決のために必要な力の育成）

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2 年次配当（第 3・第 4 セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2 年次配当（第 3・第 4 セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義 B」及び「基礎講義 C」を開講する。

●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけるために、「プログラム科目」、「演習」及び「卒業研究」を開講する。

（主体的な学修態度の醸成）

●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができるようにするために、4 年間を通じて演習科目（「導入科目（基礎演習）」及び「演習」）を開講する。

●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができるようにするために、「プログラム科目」及び「演習」を開講する。

●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生

涯就業力を身につけるために、「基礎講義 A」及び「基礎講義 B」にキャリア啓発にかかる科目を、「プログラム科目」にキャリア形成にかかる科目をそれぞれ開講する。別の「事例演習」を開講する。

４－２　履修順序（配当年次）の考え方

心理学部で実施する教育課程は、教養教育科目、専門基礎科目、専門発展科目、共通選択科目、資格関連科目に区分される（資料 2「カリキュラム全体イメージ図」参照）。

心理学部の開講科目は、入学時からの学修の積み重ね（順次性）を考慮し、第 1 セメスターから第 4 セメスターを中心に配置する教養教育科目及び 3 つの柱からなる専門基礎科目による学修により、第 5 セメスター以降に配置する専門発展科目を卒業後のキャリアデザインとも関連づけて選択できるようにする。また、専門発展科目のうち、プログラム科目では 2 つのプログラム（＋プログラム横断科目）の下に開講する 9 つの分野の科目群を、学生の関心やキャリアデザインに応じて選択履修できるようにしつつ、学びの進度に応じた科目配置を行うことで、系統性や順次性を担保する。

なお、学修のコアとなる演習系の科目（専門基礎科目の「演習科目」及び専門発展科目の「演習」）は、第 1 セメスターから第 8 セメスターにかけて必修科目として順次開講し、4 年間を通じて一貫した少人数教育を実現する。

また、教養教育科目と専攻科目の構成と考え方、特色は次のとおりである。

４－３　教養教育科目

心理学部の教養教育科目は、必修科目（8 単位）と選択必修科目（14 単位）、選択科目（14 単位以上）に分類される。

必修科目は、グローバル社会のなかで必須のコミュニケーション・スキルである英語にかかわる科目として「英語総合 1（A）、1（B）、2（A）、2（B）」を配置する。あわせて、英語以外の外国語コミュニケーション能力の向上を企図し、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語の 5 言語を「初修外国語」として位置づけ、それぞれ「Ⅰ・Ⅱ」の 2 科目を配置する（留学生は日本語も選択可）。英語及びそれ以外の言語を学ぶことで、語学の運用能力だけでなく、各言語の普遍的な構造・機能に対する理解を深め、グローバル社会のなかで世界を複眼的に考察する視点を培う。また、龍谷大学の建学の精神が立脚する基盤である釈尊及び親鸞の思想を学ぶ「仏教の思想 A、B」を配置する。

なお、英語にかかわる科目及び初修外国語科目は、第 1 セメスター・第 2 セメスターで連続開講し、学修効果を向上させる。「仏教の思想 A、B」も、第 1 セメスター・第 2 セメスターで連続開講し、初年次段階で「建学の精神」に基づく高度な倫理観の陶冶を目指す。

選択必修科目は、英語及び初修外国語科目を第 3 セメスター・第 4 セメスターにも配置し、第 1 セメスター・第 2 セメスターでの学修を踏まえ、「読む・書く・聴く・話す」の 4 技能の向上とグローバル社会のなかで世界を複眼的に考察する視点をさらに深めることと

する。その他、選択必修の教養科目については、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の 4 つの系列に分類され、各系列から偏りなく履修し、幅広い教養を身につけることのできるカリキュラム設計とする。そのうち、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」には、基幹科目（学びの入門となる科目、各学問領域の基礎となる科目）を設定し、各系列から必ず 1 科目を修得することとする。さらに、「スポーツ科学系科目」及び基幹科目以外の教養科目、「英語」・「初修外国語」以外の外国語科目を選択科目として位置づけて第 3 セメスター・第 4 セメスターに配置し、学生が個々の興味・関心に応じて履修することとする。

以上、教養教育科目の履修を通して、グローバル社会で活躍するための基礎となる語学力と幅広い教養知識、基本的な倫理観を醸成し、対人支援のための基礎力と人間力の涵養に繋げることを目指す。

４－４　専攻科目

（１）専門基礎科目

心理学部では、心理学の専門的な学びの基礎（大学での学びの基礎となる初年次教育を含む）を身につけることを目的とする専門基礎科目として、1 年次・2 年次（第 1 セメスターから第 4 セメスター）に演習科目及び講義科目を配置する。

1）演習科目

㋐ フレッシャーズゼミ【必修】

「フレッシャーズゼミ」を第 1 セメスターに配置し、アカデミックスキルの修得と学修活動を中心とした大学生活への順応、及び学修意欲の喚起などを目的とした初年次教育を実施する。

㋑ 心理学基礎演習【必修】

「心理学基礎演習 A、B、C」を第 2 セメスターから第 4 セメスターに配置し、第 5 セメスター以降に開講する「心理学演習」等の専門発展科目における学修の基盤となる「心理学の学びの基礎」の修得を目指す。

2）講義科目

㋐ 基礎講義 A【必修】

基礎講義 A は 3 つの柱（心理学基礎、データサイエンス、キャリア啓発）に関する必修科目によって構成し、第 1 セメスターから第 4 セメスターに配置する。

心理学基礎科目としては、初学者向けの概説科目である「発達心理学」「臨床心理学概論」などを開設し、その上で実践的な心理学に不可欠な「心理学的支援法」「心理学研究法概論」「心理学統計法概論」を開講する。データサイエンス科目としては、

「心理学とデータサイエンス」「心理的アセスメントⅠ」などを開講する。キャリア啓発科目としては、「キャリアと心理」「キャリアデザイン論」を開講する。

なお、心理学基礎科目のなかで開講する「生涯発達と関係支援」は、第3セメスター以降に順次専門性を高めて学修していくことになる2つのプログラム及び9つの分野それぞれの特徴を学ぶ科目として位置づける。

㋑ 基礎講義B【選択】

基礎講義Bは3つの柱に関する選択科目によって構成し、第2セメスターから第4セメスターに配置する。

心理学基礎科目としては、2つのプログラム（＋プログラム横断科目）の基礎となる科目を開講する（生涯発達カウンセリングプログラム関連：7科目、関係支援とコミュニケーションプログラム関連：6科目、プログラム横断科目関連：2科目）。その他、データサイエンス科目を2科目、キャリア啓発科目を3科目開講する。

㋒ 基礎講義C【選択必修】

基礎講義Cは、3つの柱のうちの心理学基礎科目のみで構成し、第3セメスター・第4セメスターに配置し、2つのプログラムに関する基礎的な科目を開講する。

「生涯発達カウンセリングプログラム」に関連する科目としては、「生涯発達臨床心理学」と「ライフサイクルとカウンセリング」を、「関係支援とコミュニケーションプログラム」に関連する科目としては、「家族療法とシステムズアプローチ」と「目からウロコのコミュニケーション学」をそれぞれ開講する。これらの科目を選択必修とすることで、第5セメスター以降、学生が自らプログラムや分野を選択して専門的な学びを深めていく上で重要となる点を総括的に学修する機会とする。

（2）専門発展科目

心理学部では、低年次での専門基礎科目及び教養教育科目における学びを通じて社会実践の方向性をある程度意識した上で、2つのプログラム（＋プログラム横断科目）及び9つの分野を主体的に選択して履修することで、分野に応じたより専門的な学修を進め、卒業後のキャリアへと繋げていく。そのために、高年次に専門発展科目として「心理学演習」（3年次・4年次）及び「卒業研究」（4年次）に加え、「プログラム科目」を配置する。

1）演習科目（卒業研究を含む）【必修】

「心理学演習」を第5セメスターから第8セメスターに、「卒業研究」を第7セメスター・第8セメスターにそれぞれ配置し、学生自身が関心に応じて演習を選択し、各分野に関連した研究課題を設定した上で、その課題の本質を理解した上で解決に取り組むことを目指す。

2）プログラム科目【選択】

演習科目において研究課題の解決に取り組む上で必要となる、専門的な学びの深化を図るため、「プログラム科目」を配置し、9 つの分野ごとの科目群及びキャリア形成科目を開講する。

分野ごとの科目群は、各分野の専門性を深めるために講義系の科目を幅広く開講するとともに、実践的な知識や手法の修得のために演習・実習系の科目も開講する。

キャリア形成科目としては、「仕事と社会人Ⅰ」（専門基礎科目）において学んだビジネスにおけるコミュニケーションやロジカルシンキング等を発展的に学修する「仕事と社会人Ⅱ」（第 5 セメスター）の他、大学院進学（心理専門職）を想定した「事例演習アドバンスⅠ」（第 7 セメスター）及び「事例演習アドバンスⅡ」（第 8 セメスター）を開講し、大学院生の担当するケースのスーパービジョンに陪席し、カウンセリングについて実践的に学修する機会を提供する。

3）共通選択科目【選択】

心理学部では、主に教職課程など資格取得において必要となる科目のうち、卒業要件を満たす選択科目を共通選択科目として配置する。

4）資格関連科目【自由科目】

心理学部では、資格関連科目（自由科目）を設置し、公認心理師受験資格課程の関連科目のうち、「公認心理師の職責」（第 4 セメスター）、「心理演習」（第 5 セメスター）、「心理実習 A」（第 6 セメスター）、及び「心理実習 B」（第 7 セメスター・第 8 セメスター）を開講するとともに、教職課程関連の 18 科目、本願寺派教師資格関連の 8 科目を開講する。

なお、心理学部における必修科目・選択科目等の構成として、必修科目は、心理学部の全ての学生が共通して学修する意義及び必要性を有する科目を配置する。具体的には、学修のコアとなる科目として 4 年間を通じて開講する演習（専門基礎科目の「演習科目」及び専門発展科目の「演習」）、及び心理学部の学びの基盤となる「心理学基礎」「データサイエンス」「キャリア啓発」の 3 つの柱から構成される専門基礎科目の講義科目のなかの「基礎講義 A」である。

選択必修科目は、高年次（3 年次以降）において 2 つのプログラム及び 9 つの分野を選択し、学生のキャリアデザインに沿った学修を深めていく上で重要となる内容を総括的に履修する科目を配置する。具体的には、専門基礎科目の講義科目のなかの「基礎講義 C」である。4 科目のうち 2 科目を選択し、4 単位を修得しなければならないものとする。

選択科目は、学生自身の関心や卒業後のキャリアデザインに即して専門的な学修を進めていくために、心理学の幅広い領域に対応した科目を配置する。具体的には、専門基礎科目

の講義科目のなかの「基礎講義 B」、専門発展科目の「プログラム科目」、及び共通選択科目である。これらの科目のなかから計 24 単位を修得しなければならないものとする（資料3「心理学部開講専攻科目分類一覧」参照）。

５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

学生が自らの学修目的に合わせて各科目の位置付け（卒業要件における必修、選択必修、選択および資格取得科目等）、開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目の配置や授業方法（講義・演習・実技・実験・実習等）を設定する。

なお、全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

５－１　教育方法

「教養教育科目」、「専攻科目」からなる教育課程に配置された各科目については、その内容に応じて、講義・演習・実技・実験実習の形式で実施し、到達目標達成に向けて適切に指導する。

①教養教育科目

大学全体の方針に基づき、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた「仏教の思想」科目、英語を含む「言語科目」、および人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目、スポーツ科学系科目からなる「教養科目」について、主に 1 年次・2 年次（第 1 セメスターから第 4 セメスター）に集中的に学ぶことによって、大学で学ぶ基盤となる能力の修得を念頭に指導する。

②専門基礎科目

心理学における専門的な学びの基礎（大学での学びの基礎となる初年次教育を含む）を修得することを目的として、「心理学基礎科目」、「データサイエンス科目」、「キャリア啓発科目」からなる「専門基礎科目」について、1 年次・2 年次（第 1 セメスターから第 4 セメスター）に演習形式及び講義形式で開講し、専任教員を中心とした各科目担当者が適切に指導する。

なお、低年次から主体的に学ぶ姿勢を醸成するため、全セメスターにおいて演習を必修科目として開講し、第 1 セメスターにおいては、初年次教育の充実を目的とした「フレッシャーズゼミ」を開講する。

③専門発展科目

「生涯発達カウンセリングプログラム」、「関係支援とコミュニケーションプログラム」

の 2 つのプログラムを設定し、本プログラムにはさらに特徴的な心理実践に繋がる「9 つの分野」の科目を設定することとし、それぞれの学生が自身のキャリアビジョンに基づいて、関心のある分野を適切に選択できるように指導する。なお、プログラム、分野の詳細は、「4　教育課程の編成の考え方及び特色」のとおりである。

今般計画する心理学部の入学定員は、学部全体で 255 名であり、教養教育科目のうち、必修科目である「英語総合 1（A）、1（B）、2（A）、2（B）」を含む言語科目については、基本的に 1 クラス 30 名～40 名程度の少人数教育を行う。また、同じく必修科目である「仏教の思想 A、B」は 1 クラス 60 名程度、「スポーツ技術学 A、B」は 1 クラス 35 名程度で授業を行う。その他の教養教育科目では原則として人数制限は設けないが、多数の受講希望が予想される授業科目については、年間開講数を増やす等の対応を行う。

専攻科目のうち、学部生全員が履修対象となる科目には、「フレッシャーズゼミ」、「心理学基礎演習 A、B、C」、「心理学演習」、「卒業研究」などがある。「フレッシャーズゼミ」、「心理学基礎演習 A、B、C」は 1 クラス 25 名程度を 10 クラス程度で運営する。

また、「心理学概論」、「心理的アセスメントⅠ」など一部の専門基礎科目における講義は学部生全員が受講するため、履修者数は 200 名を超えるが、質問カードや確認テスト等の活用により学生の理解度を各教員が把握し、それに応じた教育ができるように工夫する。

「卒業研究」は学士課程における学修の集大成として研究活動を行い、論文等の成果物の評価と口述試問評価によって単位を認定する必修科目であるが、20 名程度の学生を 1 名の専任教員が担当する。

５－２　履修指導方法

心理学部においては、専任教員と事務職員が相互に連携しつつ、学生の興味・関心や希望、能力に応じて丁寧に履修指導を行う。その目的は、学生が自身の進路を見定め、そのために必要な各種の科目を円滑に履修し、卒業後の進路に向けた準備を効果的に行うことを支援することにある。

新学年の授業開始前のガイダンスにおいて、履修登録、成績、単位の取得等に関する全般的な履修指導を実施する。その際、心理学部の履修要項や履修モデル等の説明資料を配付し、それらを参照しながら履修登録や教育課程の内容等について理解促進を図る。

そのため、入学時やセメスター毎に専任教員及び事務職員による履修ガイダンスを実施するとともに、入学から専門基礎科目の修得までの 2 年次（第 4 セメスター）までの間、「フレッシャーズゼミ」、「心理学基礎演習 A、B、C」及び教務課窓口において、専任教員、事務職員が継続的に履修指導や学修指導を行う。学生が自由に相談できるよう、専任教員によるオフィスアワーを実施する。

また、取得単位数が指定基準を下回る学生（単位僅少者）に対しては、半期に 1 回程度の個別指導により状況を把握したうえで、履修計画の再考を促す等、個々の事情に応じた指導

を行うことする。

これらの具体的な内容は、以下のとおりである。

①主な履修指導体制（「履修説明会」による指導（セメスター毎に実施）含む）

履修説明会は、毎年 4 月と 9 月に実施し、専任教員と事務職員が履修の方法、留意点などについての指導を行う。特に入学直後に実施する説明会においては、1 年次からの履修計画の重要性などについて、詳細に説明する。また、その後の履修説明会においても、学年進行に応じ、必要な情報を周知していく。

履修モデルについては、カリキュラムマップとして載せ、各年次及びセメスターで履修するべき科目の具体例を新入生に提示することで 4 年間の学修の全体像や、専門分野への道筋を分かりやすく示す。併せて、カリキュラムマップは他学部同様、履修要項に掲載し、学修の目標やそのための履修のあり方を明確にする。

シラバスには、各授業の授業概要、到達目標、各回の授業計画や予習復習内容、教科書、参考書、成績評価基準等が明確に記されていることを周知し、選択科目についてはそれらを熟読して自らの学修目標の実現を助ける科目を適切に選択するように指導する。

履修登録や教務に関連した情報の提供は、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（Ryukoku University System Integration Service）により行う。履修指導や教務に関連した学生の疑問点に関しては、教務委員会が中心となり指導や助言を行う。

②クラス担任制による指導（第 1 セメスター（入学時）に実施）

入学時に 25 名程度でクラスを構成し、大学生活上の様々なフォローアップを行う体制を構築する。各クラスには主に専任教員をクラス担任として配置し、学生一人ひとりの希望を聞き取りながら学修指導を行う。また、クラス担当者は学年が進行しても、随時コミュニケーションを取れる体制を構築し、必要に応じてアドバイスを行う。

③指導教員による指導（第 5 セメスター（3 年次）に実施）

各指導教員は学生の履修状況や希望、将来的な展望を勘案しながら、細やかな指導及びアドバイスを適切に行い、それぞれの学生が「専門発展科目」における 2 つのプログラム、9 つの分野を適切に選択できるよう専任教員を中心とした効果的な指導を実施する。

５－３　卒業要件

心理学部心理学科の卒業要件は、4 年以上在学し、教養教育科目から 36 単位以上【必修 8 単位（「仏教の思想」科目：4 単位/言語科目：4 単位）、選択必修 14 単位（言語科目：8 単位/人文科学系科目：2 単位/社会科学系科目：2 単位/自然科学系科目：2 単位）、選択科目 14 単位】、学部専攻科目から 70 単位以上（必修 42 単位、選択必修 4 単位）を修得し、合計 124 単位以上修得することとする。

科目区分	種別	科目	単位数	卒業要件単位数
教養教育科目	必修	仏教の思想	4	36
		言語科目	4	
	選択必修	言語科目	8	
		人文科学系科目	2	
		社会科学系科目	2	
		自然科学系科目	2	
	選択	―	14	
専攻科目	必修	フレッシャーズゼミ	2	42
		心理学基礎演習 A,B,C	各 2	
		心理学概論	2	
		発達心理学	2	
		臨床心理学概論	2	
		心理学的支援法	2	
		心理学研究法概論	2	
		心理学統計法概論	2	
		心理的アセスメントⅠ	2	
		生涯発達と関係支援	2	
		心理学とデータサイエンス	2	
		キャリアと心理	2	
		キャリアデザイン論	2	
		心理学演習（5～8 セメスター）	各 2	
		卒業研究	4	
	選択必修	生涯発達臨床心理学	2	4
		ライフサイクルとカウンセリング	2	
		家族療法とシステムズアプローチ	2	
		目からウロコのコミュニケーション学	2	
	選択	―	―	24
フリーゾーン ※1				18
合　　計				124

※1　フリーゾーンとは、教養教育科目、専攻科目の区分を問わずに修得可能な領域である。ただし、自由科目は除く。

５－４　履修モデル

心理学部における履修モデルを、次のとおり提示する。

（１）履修モデル①（資料 4「生涯発達カウンセリングプログラム 履修モデル」参照）

生涯発達カウンセリングプログラムは、生涯発達の観点から発達段階に応じた「個人の心」に寄り添い、自らが「気づく」支援のあり方にアプローチするプログラムである。子育て支援、療育支援機関や放課後デイサービス、児童養護施設、高齢者福祉施設などを進路として想定し、生涯発達の各ステージにおいて、心の中に潜在する可能性に「気づく」ための「対人支援力」と「利他の精神」を涵養するための科目を配置する。

（２）履修モデル②（資料 5「関係支援とコミュニケーションプログラム 履修モデル」参照）

関係支援とコミュニケーションプログラムは、家族関係、知人・交友関係、組織での人間関係などを理解するために「多様なコミュニケーションの解釈」を学び、社会で共に生きる人間の繋がりにアプローチするプログラムである。医療機関やスクールカウンセラー、福祉施設、公務員や民間企業などを進路として想定し、人間関係や社会・集団関係における多様なコミュニケーションの方法を通して、実践的な心理学を学修する。

なお、2 つのプログラムを横断的に接続するための「プログラム横断科目」として「データ心理学」の科目群を配置し、各自が設定した卒業研究に活かせるよう、効果的な調査研究の手法や分析方法などを学修する。

加えて、心理職の国家資格である公認心理師の受験資格課程関連科目も配置し、「心の健康」に資する対人支援の心理学教育を展開する（資料 6「公認心理師受験資格課程科目 履修モデル」参照）。

５－５　履修科目の登録上限

心理学部では、各セメスターにおける履修登録制限単位数は予習・復習を含む学修時間の確保を考慮のうえ各年次で以下のとおり定め、学生が 4 年間にわたって計画的に授業科目を履修するよう指導する。

＜履修登録制限単位数＞

年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
単位	24	24	24	24	24	24	48	

５－６　他大学等における授業科目の履修

本学が加盟している「大学コンソーシアム京都」においては、京都地域を中心とした 48 の大学・短期大学が単位互換包括協定を締結している。また本学は、本学学生が放送大学の科目を受講することが可能となる「放送大学科目履修制度」に関わる協定を締結している。

これら各々に用意されている科目のうち、その教育内容が本学心理学部の開設科目に相当するものについては、これを同学部の開設科目として読み替えることとする。なお、履修要件等の詳細については、別途履修要項に定めることとする。

６　編入学定員を設定する場合の具体的計画

令和 7（2025）年度より編入学生を受け入れる。編入学定員は 10 名とする。

編入学生の既修得単位は、入学時に他大学・短期大学・高等専門学校において修得した単位のうち、本学の開設授業科目と単位数が同等以上で名称や内容に類似性があり、本学の開設授業科目として読替えが可能である科目について単位認定を行う。

教務委員が編入学生一人ひとりの単位修得状況を精査したうえで単位認定の可否を判断し、その妥当性について教務委員会で審議し、教授会で単位認定を承認する。

教育上の配慮として、入学時にオリエンテーションを実施し、本学の教育全般について理解促進を図る（資料 7「編入学生履修モデル」参照）。

７　実習の具体的計画

（１）実習の目的

公認心理師受験資格課程科目として、次の（ア）から（ウ）の学修を通じて、公認心理師に求められる知識や技術の修得を目的とする。

（ア）公認心理師としての職責の自覚

公認心理師の役割についての理解、法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報の適切な取扱いができ、保健医療、福祉、教育その他の分野における具体的な業務の内容について説明できるようになることを目的とする。

（イ）問題解決能力と生涯学習

課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力や、社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につけることを目的とする。

（ウ）多職種連携・地域連携

多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明でき、支援を行う関係者の役割分担について理解し、チームの一員とし

ての態度を身につけることを目的とする。

（２）実習先の確保の状況

実習先は 16 施設から承諾を得ている（資料 8「学外実習先一覧」、資料 9「実習施設等承諾書」参照）。内訳は、保健医療分野 9 施設、福祉分野 3 施設、教育分野 3 施設、産業・労働分野 1 施設である。

（３）実習先との契約内容

各実習先とは「心理実習 A・B（学外実習）に係る協定書」（資料 10「学外実習協定書」参照）を締結する。実習期間中に知り得た秘密の保持や事故等による損害賠償、その他必要な事項を定めている。保健医療分野においては、個人情報の取り扱いに関する誓約書を実習先の求めに応じて提出する（資料 11「実習に関する誓約書」参照）。

（４）実習水準の確保の方策

事前指導として、次の（ア）から（ウ）までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、理解を深めるための情報収集やグループ学習を行い、実習における実習生各自の目標を定める。

（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ）多職種連携及び地域連携
（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

また、事後指導として、実習報告会の実施や実習の振り返りレポートを作成し、実習を通して学んだ内容の総括を行う。

なお、新型コロナウイルス感染症等により、オンラインで実習を実施する場合においても、本来現地で予定していた内容と同じような形での実習が実施できるように実習指導者と事前に打ち合わせを十分に行う。そのため、必要な実習水準の確保だけでなく、実習施設内の見学についても施設内の画像や動画の使用などを依頼し、できる限り通常の訪問実習との相違を減らし、学生にとって必要な学びの機会を確保する。また、オンライン実習の他にも、大学に実習先の指導者を招聘して上述の内容を行う。

（５）実習先との連携体制

実習先との連携体制については、実習前に実習担当教員や実習助手が実習先指導者との間で実習の依頼にあたっての各種打ち合わせや実習内容、指導方針などについて綿密な打ち合わせを行う。実習当日については、実習担当教員が実習に同行し、必要に応じて実習先指導者と連携を図りながら実習にあたる。実習後には実習レポートや実習のお礼状なども交えながら、実習状況の振り返りや次回以降の実習に向けた打ち合わせを行う。

（６）実習前の準備状況

定期健康診断を受診するとともに、新型コロナウイルス感染症への対策として、実習前の体調管理のための「体調チェックシート」を実習開始２週間前から毎日記入し、実習期間中も同様に行うこととし、日頃からの体調管理を徹底する。また、実習前、実習中、実習期間後を含め、体調不良が生じた場合の対応についても実習生へ周知し、行動履歴を記録させておくことで、新型コロナウイルス等の感染症に罹患した場合でも、接触者の特定ができるようにする（資料 12「学外実習の実施にあたって」参照）。なお、学生については、学生教育研究災害傷害保険に加入するほか、賠償責任保険にも加入し、実習先での怪我・トラブル等に対して備える。

また、実習生への事前指導の中で、実習を実施するにあたり、身につけておくべき基本的態度として、情報管理や守秘義務を徹底している。

（７）事前・事後における指導計画

事前指導において、各実習施設における心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深めるための情報収集やグループ学習を行う。具体的には、まず履修登録者全体で実習全体の概要や実習にあたってのマナー、守秘義務、感染対策などの指導を行なう。また、実習先や実習先に関連する用語、疑問点などをグループ学習や個別学習などを通して行い、その後、学生には自身が実習を行う施設に関して、調査学習やレポート学習を課すこととし、さらに学修を深める。

事後指導においては、実習報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成や、報告会を通しての振り返りを実施する。まず実習施設ごとに実習後の振り返りとして、実習記録をつける実習ノート（資料 13「実習ノート」参照）なども用いて、実習報告書作成、学んだ内容などのレポート課題、お礼状の作成を通して指導を行う。さらに実習報告会を開催し、各実習先で学修した内容を（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解の観点から発表し、互いに共有を図ることで学びを深め、最終的には、実習報告会での学びをレポートとしてまとめ、振り返ることで、実習で培った学びの定着化を図る。

（８）教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習には 10 名程度の実習担当教員が指導にあたる。その他に実習助手１名も指導補助にあたる。実習助手は、実習生との連絡調整、各実習先との連絡調整、事前・事後指導の補助、各種書類や実習ノートの管理・保管、事務処理等を担当する。巡回指導には 10 名程度の教員があたり、実習先や実習分野に長けた実習担当教員を割り当て、その実習担当教員が事前指導・事後指導・当日の実習引率や巡回指導を実施する。なお、各実習先へは公共交通機関を利用して学生が各自で移動することとする。

（９）実習施設における指導者の配置計画

実習施設における実習指導者については、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術を持ち、公認心理師法第 2 条の各号に掲げられている行為の業務に 5 年以上従事または従事した経験のある者が実習指導にあたる。なお、基本的には実習先指導者が実習指導にあたるが、実習先都合等でそれが難しい場合や 15 名を超える学生の実習指導を行う場合にはその実習先や実習分野に長けた実習担当教員が指導にあたる。

（１０）成績評価体制及び単位認定方法

実習における成績評価は、実習への出欠状況、学生自身の振り返り評価、実習先の指導者の評価、実習担当教員の評価を基に総合的に行う。実習態度、意欲、課題に対する他者との取り組み状況、知識の獲得、実習ノートの記録、提出物に対する取り組み等から評価する。

８　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

８－１　RYUKOKU インターンシップ

企業・行政機関等において行う学外（国内）実習として、全学共通で「RYUKOKU インターンシップ」（実習期間原則 2 週間（10 日間）以上）を実施する。

（１）実習先の確保の状況

実習先は本学のインターンシップ支援オフィスが確保する。実習先の確保にあたっては、これまでの実習生の受入れ実績を踏まえ、受入れ承諾の見込がある企業・団体等に対して要項を郵送するとともに、本学卒業生の在籍企業を中心に訪問する等して実習先の確保を図る（資料 14「RYUKOKU インターンシップ　実習受入先一覧」参照）。

（２）実習先との連携体制

実習期間には、新規の受入れ先を中心に担当教員が訪問するなどして連携を密に取りつつ対応する。併せて、学生からの実習報告を確認しながら学生の状況に合わせた支援を行う。

また、不測の事態に備えて、実習中の事故等を対象とする保険に加入するとともに、緊急対応体制を整える。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、事前・事後学修および実習先での学修状況に基づき、プログラム担当教員からの成績評価をもとに行い、教授会で単位認定を承認する。

８－２　BIE Program（Berkeley Intercultural English Program ）

学外（海外）実習として、龍谷大学が北米拠点として設置した RUBeC（Ryukoku University Berkeley Center）を利用した独自の留学プログラム「BIE Program」（Berkeley Intercultural English Program）を実施する。

（１）実習先の確保の状況

実習先は、本学北米拠点である RUBeC である。

（２）実習先との連携体制

RUBeC は、カリフォルニア州バークレーの浄土真宗センター内にあり、本学協定校のスタッフが常駐し、学生のサポートを行っている。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、BIE Program のプログラム種別に応じて、プログラム担当者からの成績表をもとに行う。「バークレーボランティア」、「バークレー語学」、「バークレー講義」があり、RUBeC 教務会議及び教務委員会での成績承認手続を経て、教授会で単位認定を承認する。

（４）その他特記事項

留学期間は在学期間に算入される。

９　取得可能な資格

心理学部では、卒業要件に含まれる科目を履修することで、公認心理師受験資格の取得を可能とする。また、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、教職関連科目を履修することで、高等学校教諭一種免許（公民）の取得を可能とする。

加えて、浄土真宗本願寺派教師資格科目を履修することで、民間資格である浄土真宗本願寺派教師資格の受験資格取得を可能とする。

資格の名称	国家資格	民間資格	備　考
高等学校教諭一種免許状（公民）	○		資格取得が可能
公認心理師受験資格課程　*1	○		資格取得が可能
浄土真宗本願寺派教師資格		○	受験資格取得が可能

*1　公認心理師の受験資格を取得するためには、学部における所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修した上で修了する必要がある、あるいは、法の規定する認定施設で２年間の実務に就けば国家試験の受験資格が与えられる。

１０　入学者選抜の概要

１０－１　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学部では、建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

①心理学部の教育理念や目的を十分に理解している人
②明確な目的意識と心理学の学びに対する強い意欲を持っている人
③心理学的支援の基礎となるコミュニケーション・スキルを高め、人間社会の諸課題の解決に必要な力を身につけるために主体的に学修できる人

ついては、高等学校等での学習では、コミュニケーションの基本となる「言葉」に関する教科である「国語」、「英語（外国語）」を中心としつつ、数学も含め専門的な学修に必要な基礎的学力を養いうる教科についても幅広く学んでおくことを望む。また、多くの人と積極的にかかわる姿勢が育まれていることを望む。

１０－２　選抜方法

心理学部のアドミッション・ポリシーに基づき、学力試験をはじめ、大学入学共通テストの結果などを入試ごとに組み合わせて実施する。また、入学者選抜の多様化を図るため、以下で説明する複数の選抜方法を取り入れる。

１０－２－１　一般選抜入学試験

一般選抜入試は、前期日程・中期日程・後期日程において実施する。募集人員については、前期日程：75 名、中期日程：25 名、後期日程：3 名である。

１０－２－２　共通テスト利用入学試験

共通テスト利用入試は、大学入学共通テストを受験した者を対象に、前期日程・中期日程・後期日程の 3 期に分けて実施する。募集人員については、前期日程：24 名、中期日程：10 名、後期日程：2 名である。

１０－２－３　公募推薦入学試験

公募推薦入試は、2 教科型公募推薦入試を実施する。募集人員については、33 名である。

１０－２－４　龍谷大学付属平安高校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験

龍谷大学付属平安高等学校、教育連携校、関係校、指定校（高大連携協定校含む）からの推薦入試では、これら各高等学校との信頼関係にもとづき、それぞれ学生募集枠を設定し、

実施する。募集人員については、龍谷大学付属平安高校推薦入学試験：15 名、教育連携校推薦入学試験：4 名、関係校推薦入学試験：5 名、指定校推薦入学試験：38 名である。

１０－２－５　総合型選抜入学試験

心理学を学ぶ意欲が高く、課題に対して積極的に取り組むことができ、第一志望として入学を志す者を選抜する入試を実施する。心理学部で学ぶにあたっての学修計画や、志望理由などについて事前課題として課し、さらに面接や課題論文を通して一貫した意欲や積極性を測る。募集人員については、10 名である。

１０－２－６　総合型選抜入学試験〔スポーツ活動選抜、文化・芸術・社会活動選抜〕

スポーツの振興や国際的なスポーツ交流を目的として、スポーツの分野において優れた能力と実績を有するとともに、心理学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。また、文化活動・芸能活動・ボランティア等の社会活動、各種検定等の面において顕著な実績を有するとともに、心理学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。募集人員については、両入学試験を合わせて 6 名である。

１０－２－７　帰国生徒特別入学試験、外国人留学生入学試験

保護者の海外勤務その他の事情により、外国の教育を受けて帰国した者を受け入れるための入試を実施する。また、多様な文化を背景にした者で、心理学部の教育理念に共感できる者を受け入れるため、外国人留学生のための入試を実施する。

入学後の外国人留学生に対しては、本学の国際化事業を担当する「グローバル教育推進センター」と協力し、学修面や生活面の支援体制を構築している。また、留学生寮には日本人チューターを配置し、日常生活をサポートする体制を構築している。

なお、本学では、留学生が万一、退学や除籍となった場合は、文部科学省の指導に基づき帰国手続きをサポートするなど、留学生の適切な受入及び在籍管理を徹底している。

募集人員については、帰国生徒特別入学試験：若干名、外国人留学生入学試験：5 名である。

１０－２－８　社会人推薦入学試験

入学年度の 4 月 1 日現在において、満 23 歳に達している者で勤労者等（就業者・就業予定者等、就業経験のある者）、主婦等（主婦、その他家事従事者）、寺院関係者のいずれかに該当する者を対象として実施する。募集人員については、若干名である。

１０－３　選抜体制

心理学部の入学定員は 255 名である。なお、募集人員の比率は、一般選抜（一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験）54.5%、学校推薦型選抜（公募推薦入学試験、龍谷大学付

属平安高校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験）37.2%、総合型選抜（総合型選抜入学試験、スポーツ活動選抜入学試験、社会・文化・芸術活動選抜入学試験）6.3%、その他（帰国生徒特別入学試験、外国人留学生入学試験、社会人推薦入学試験）2.0%である。

一般選抜入学試験、共通テスト利用入学試験及び公募推薦入学試験は、入試部を中心とした全学体制で実施し、心理学部設置委員会（心理学部教授会）で合否判定を行う。

また、公募推薦入学試験以外の学校推薦型選抜及び総合型選抜については、心理学部が実施し、心理学部設置委員会（心理学部教授会）が合否判定を行う。

１０－４　編入学制度

心理学部では､3 年次に編入学制度を設ける｡3 年次編入学定員は 10 名とし､令和 7(2025)年度入試から実施する｡心理学部の専門課程の履修に必要な素養について試験を課し、心理学部教授会が合否判定を行う。

１１　教員組織の編制の考え方及び特色

１１－１　教員配置の基本的考え方

心理学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）において掲げた教育目標を達成するため、専任教員は、龍谷大学の「教育職員選考基準」（資料 15「教育職員選考基準（抜粋）」参照）に照らして任用する。

心理学部の教員編制にあたっては、現在の文学部臨床心理学科から 12 名、教養教育科目担当から 2 名、仏教の思想科目担当から 1 名、心理学を専門とする短期大学部教員 1 名の移籍と、新規採用教員 7 名をもって編制する。

１１－２　中核となる科目や必修科目における教員配置

１１－２－１　教養教育科目

教養教育科目のうち、必修科目は「仏教の思想 A、B」と「英語総合 1（A）、1（B）、2（A）、2（B）」である。「仏教の思想 A、B」（本学の建学の精神を学ぶための必修科目）に関しては、専任教員 1 名と兼担教員が担当する。また、グローバル社会において欠くことのできない英語教育「英語総合 1（A）、1（B）、2（A）、2（B）、3（A）、3（B）、4（A）、4（B）」については、本学深草キャンパスで実施されている従前の教育プログラムに照らし、少人数教育（1 クラス 30 名～40 名程度）を実現可能とする数の兼担教員もしくは兼任教員を配置する。

１１－２－２　専攻科目

専攻科目では、1 年次・2 年次（第 1 セメスターから第 4 セメスター）において展開する

専門基礎科目において重要な演習系科目として、1年次（第1セメスター）に初年次教育の充実を企図した「フレッシャーズゼミ」、1年次（第2セメスター）から段階的に心理学の基礎を学ぶ「心理学基礎演習A」、2年次（第3セメスター）に「心理学基礎演習B」、2年次（第4セメスター）に「心理学基礎演習C」を専任教員が中心に担当する。

また、その他基礎科目についても、「生涯発達カウンセリングプログラム」、「関係支援とコミュニケーションプログラム」所属の各専任教員を中心として、適切に配置する。

3年次・4年次（第5セメスターから第8セメスター）において展開する専門発展科目においては、学生の専門性を伸長させるために「2つのプログラム」「9つの分野」を設定して科目を開講し、それぞれ専任教員が「心理学演習」、「卒業研究」を中心とした基幹科目を担当する。

以上のように専攻科目では、各専任教員を中心に科目を担当することで、基礎から発展までを一貫した指導体制を構築することが可能となり、体系的な教育の展開と学修の質を担保する。

また、一部科目では兼担教員、兼任教員が担当することになるが、専任教員が中心となって担当者をコーディネートすることによって、有機的な連携体制の構築が可能となる。

１１－３　実務経験のある専任教員の配置

実務経験のある専任教員を配置することは、心理学部心理学科において掲げた教育理念・目的、教育課程編成・実施の方針を履行する上で不可欠であるとともに、実務と理論をつなぐ観点からも重要である。そのため、児童精神医学、病院臨床、学校臨床、福祉臨床、特別支援臨床、ビハーラ活動、地方自治体における心理職、民間企業等において実務経験を積んだ多様な現場経験を有する専任教員を配置する。

１１－４　教員組織の研究分野と研究体制

基礎となる文学部臨床心理学科所属教員に関連した臨床心理学を中心とした研究分野に併せて、心理学部においては、新たに「ネットワーク支援」、「産業メンタルヘルス」を専門とする新規教員を配置し、研究分野の充実を図る。

また、本学大学院文学研究科の付置施設である「臨床心理相談室」については、設置目的である「龍谷大学建学の精神に則り，臨床心理学の実践にかかわる教育と研究を行い、その成果を社会に還元すること」に鑑み、心理学部所属教員もその運営に積極的に関与し、本学の特色ある心理学研究、および教育課程における学内実習施設として展開する。

なお、学会活動については、現在、文学部臨床心理学科専任教員は文学部・短期大学部設置の学会である「龍谷学会」、および「龍谷大学臨床心理学会」に所属し、研究活動に取り組んでいるところである。同学科を基礎とする心理学部においても、文学部・短期大学部と合同で「龍谷学会」を運営し、併せて「龍谷大学臨床心理学会」においても、対象とする研究分野を広げ、研究活動をより充実させる予定である。

１１－５　教員組織の年齢構成

本学の定年年齢は「職員定年規程」において、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳に達した年度末である旨が定められている。

専任教員を集計した場合、学部完成年度末（令和 9（2027）年 3 月 31 日）時点における年齢構成は、下表のとおりとなる。70 歳代 : 2 名、60 歳代 : 8 名、50 歳代 : 7 名、40 歳代 : 5 名、30 歳代以下 : 1 名となっている。

今後の教員補充に関しては、専門領域等も勘案しながら、年齢層に著しい偏りが生じないように、積極的に若い世代の教員も採用し、経験豊富な教員と相乗効果によって、より活発な教学組織となることを目指す（資料 16「職員定年規程」、資料 17「特別任用教員規程」参照）。

年　齢	70 歳以上	65-69 歳	60-64 歳	50-59 歳	40-49 歳	30-39 歳	合計
人　数	2 名	3 名	5 名	7 名	5 名	1 名	23 名

また、専任教員の職階構成は下表のとおりである。職階構成のバランスは良く、後継の育成という観点からも望ましい構成だと判断している。

職階	教授	准教授	講師	助教
人数	14 名	6 名	3 名	0 名

１２　施設、設備等の整備計画

１２－１　校地、運動場の整備計画

心理学部は主に 1 年次・2 年次生は深草キャンパス（京都市伏見区）、3 年次・4 年次生は大宮キャンパス（京都市下京区）で教育研究を行う。

深草キャンパスは、現在 154,774.66 ㎡の校地面積を有し、6 学部（文学部（主に 1 年次・2 年次）、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部）、5 研究科（経営学研究科、経済学研究科、法学研究科、政策学研究科、国際学研究科）、1 短期大学部を設置している。多数の教室や演習室、図書館、情報処理実習室に加え、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設を整備しており、心理学部設置後も、既設学部等とは十分に共用可能である。

学生の休息・談話スペースについては、主に 3 号館、4 号館、22 号館の地階に食堂を設けるとともに、成就館にカフェレストラン、中央広場にベンチ等を配置するほか、教室棟のホールなどに適宜机・椅子を設置する等、オープンな空間の確保に留意している。

大宮キャンパスは、現在 20,419.04 ㎡の校地面積を有し、文学部の 3 年次・4 年次及び文学研究科、実践真宗学研究科を設置している。多数の教室、演習室、図書館、情報処理実習室に加え、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生

施設を含む各種施設を整備しており、心理学部設置後も、他学部等と十分に共用可能である。

学生が休息や談話するスペースについては、キャンパス内の清和館 1 階食堂や 2 階の談話室、清風館の地階のラウンジや 2 階の談話室を備えている。また、西黌新棟の 1 階ロビーではオープンな談話スペースを設けている。

運動場については、近隣に南大日グラウンド（スクールバスで約 15 分程度）を有するほか、キャンパス内に体育館（メインフロアー、トレーニング室 9 室）及びテニスコートを設けている。

１２－２　校舎等施設の整備計画

校舎等の施設は、既存施設を活用するとともに新たに新棟を整備する。新棟は、同学部が 3 年次から大宮キャンパスを拠点として教育研究等を行う、令和 7（2025）年度から利用できるよう準備を進めている。本施設は、隣接する付属平安高等学校・中学校も利用予定であるが、本学と付属平安高等学校・中学校が使用するエリアを明確に区別し利用することから、教育研究上の問題は生じない。

新棟全体の延べ床面積は 4,098.46 ㎡を予定しており、そのうち本学が使用する部分の延べ床面積は 3,098.83 ㎡、付属平安高等学校・中学校が使用する部分の延べ床面積は 999.63 ㎡になる。具体的な施設としては、講義室 2 室、演習室 6 室、研究室 21 室、付置相談室、食堂等を整備する。また、新たな設備として生理実験室を整備し、教育研究環境の更なる充実を図ることとする。

既存施設については、科目の配置状況やその授業形態を踏まえたうえで必要な教室を確保する。現在、深草キャンパスでは、講義室 103 室、演習室 120 室、実験・実習室 29 室、情報処理室 15 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 760 台設置）が整備されており、大宮キャンパス（新棟を除く）では講義室 18 室、演習室 27 室、実験・実習室 14 室、情報処理実習室 5 室及びセルフラーニング室 1 室（パソコン 207 台設置）が整備されている。

これらの施設を既設学部等と共同で利用する予定であり、校地・校舎面積も大学設置基準上の面積を充足している。

１２－３　図書等の資料及び図書館の整備計画

3 つのキャンパス（京都市：深草・大宮、滋賀県大津市：瀬田）を有する本学は、キャンパス毎に図書館を設置し、それぞれ、キャンパスの学部・研究科等に即した分野の蔵書構成をとっている。3 館の蔵書数は、令和 3（2021）年度末で約 2,317,000 冊であり、心理学部の学生は、1 年次・2 年次生は深草図書館を、3 年次・4 年次生以降は大宮図書館を主として利用することとなる。

深草図書館は、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部に対応した社会科学系

の学習・研究用図書、雑誌に加え、文学部 1 年次・2 年次生および短期大学部に対応した人文科学系の基本図書を重点的に収集している。また、深草キャンパスでは、京都団地（深草・大宮）における教養教育科目が集中的に開講されていることから、一般教養に関する図書も幅広く所蔵している。同館の蔵書数は、図書約 1,066,300 冊、雑誌約 7,700 種類、視聴覚資料約 39,000 点である。

一方、大宮図書館は、文学部 3 年次・4 年次生、大学院生及び研究者の学習・研究用として、人文科学系の基本図書の他に、専門図書や専門的な逐次刊行物を重点的に収集している。従来、文学部哲学科教育学専攻において、「教育心理学」、「知覚・認知心理学」関係の教育、研究が展開されてきたことに加え、さらに、平成 24（2012）年度文学部臨床心理学科開設以降は、臨床心理学を中心とした心理学分野に関する資料の充実を図ってきた（資料 18「学術雑誌等一覧」参照）。同館の蔵書数は、図書約 765,000 冊、雑誌約 5,500 種類、視聴覚資料約 6,200 点である。

上記の図書や雑誌等の紙媒体資料に加え、現在、166 種類のオンラインデータベース（電子ジャーナルを含む）や電子書籍の電子媒体資料も一部を除き、学内・学外から利用可能である。

深草図書館は、和顔館（地下 2 階地上 3 階建て）と 8 号館（地下 2 階地上 5 階建て）に加え、書庫として紫光館（地下 1 階地上 5 階建て）から成っている。和顔館は、事務室をはじめとする管理スペース、開架、閲覧席、AV&PC コーナー、サービスカウンターや飲食可能なリーディングテラス等を、8 号館は、雑誌閲覧室と書庫（学術雑誌や製本雑誌収蔵）をそれぞれ有し、一体として機能している。閲覧席数は、両館あわせて約 1,400 席（AV&PC コーナー、インターネット端末を含む）である。

大宮図書館は、事務室をはじめとする管理スペース、閲覧室、閲覧カウンター、貴重書庫、貴重書閲覧室、マイクロ資料室、軽読書室等を有する地上 4 階（1 階は半地下）スペースと 7 層の積層書庫から成っており、別棟となる西黌の地下書庫とは専用通路で繋がっている。閲覧席数は 342 席（インターネット端末、CD-ROM 端末を含む）である。

また、各図書館内には、ナレッジコモンズとして、図書館の多様な所蔵資料を積極的に活用しながら主体的かつ協調的に学び合うオープンスペースである「ナレッジスクエア」と複数人での発表やグループ学習等に最適な「グループワークルーム」を設置している。

開館時間については、学生の積極的な学修支援のために、両館とも通常授業期間の平日は 22 時、土曜・日曜日は 17 時まで開館している（大宮図書館は試験期間中のみ日曜日開館）。また、相互協力については、学内 3 図書館間の相互貸借、文献複写サービスをはじめとして、他大学図書館との相互貸借・文献複写サービス、大学コンソーシアム京都共通閲覧システム、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会共通閲覧証協定に参加等、他大学図書館等関係機関との協力も積極的に行っている。

心理学部の 3 つの柱である「心理学基礎科目」、「データサイエンス科目」、「キャリア啓発科目」を軸とした基礎から卒業後のキャリアまで繋がる学修を支援するため、検索や統計的な分析等に利便性の高い電子系資料も積極的に導入しつつ、アクティブに学ぶ知の交

流空間と読書に適したサイレントな空間をあわせもつ「知の広場」として機能する図書館を整備していく計画である。

１３　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

上述のとおり、本学は、大学本部がある深草キャンパス（京都市伏見区）以外に、大宮キャンパス（京都市下京区）及び瀬田キャンパス（滋賀県大津市）の３つのキャンパスを有している。

心理学部は、主に１年次・２年次生：深草キャンパス、３年次・４年次生：大宮キャンパスで教育研究を行う。両キャンパス間は、スクールバスを利用することにより、約 15 分で移動可能である。また、３年次以上の学生が深草キャンパスで開講される１年次・２年次配当科目の再履修等が必要になった場合でも、受講に支障のない時間割編成を行う。

なお、心理学部専任教員の担当授業科目は、深草・大宮両キャンパスに及ぶが、同一曜日に両キャンパスで科目を担当する場合、十分な移動時間を確保し授業に支障を来さないよう配慮しており、２キャンパスで授業を行うことによる教員の教育・研究上の支障は生じない。また、原則、専任教員の研究室は大宮キャンパスに配置しているが、深草キャンパスにおける学生対応については、共同研究室や教員と学生が講義時間外に履修指導等を行うためのスペースを用意しており、学生からの様々な要望に対応できるよう配慮している。

１４　管理運営

龍谷大学学則第 64 条にもとづき教授会を設置する。本教授会は、心理学部教授会規程にもとづき専任の教授、准教授、講師を構成員とする。また、教授会における審議・決定事項として、（1）教育職員の人事に関する事項、（2）学部長及び評議員の選考に関する事項、（3）研究及び教授に関する事項、（4）学科課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項、（5）学業評価に関する事項、（6）学生の退学、休学、復学及び留学に関する事項、（7）学生の補導厚生に関する事項、（8）学部内諸規程の制定改廃に関する事項、（9）学位称号に関する事項、（10）その他学部における重要な事項が定められている。

本教授会は学部長が招集し議長となり、構成員の３分の２以上の出席により成立することとし、月２回程度の開催を予定している。

なお、教授会の円滑な運営を図るため、学部長、教務主任、研究主任、キャリア主任、学生生活主任等からなる執行部会議を設け、教授会の議題の精選、審議事項の調整を図る予定である。

１５　自己点検・評価

本学では、建学の精神にもとづく特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為の人材を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することを目指している。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で教育研究の質を自ら保証すること（内部質保証）が重要であると考えている。

こうした認識のもと、龍谷大学学則第 1 条の 2 に、「本学は教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う」と定めるとともに、「内部質保証に関する方針」を定めている。本方針は、「1 基本的な考え方」「2 内部質保証の推進に責任を負う組織」「3 組織としての自己点検・評価」及び「4 教員個人の諸活動に対する自己点検」の 4 項目で構成し、本学の内部質保証システムを明示している。具体的には、「組織としての自己点検・評価（以下、「組織の自己点検・評価」）」及び「教員個人の諸活動に対する自己点検（以下、「教員活動自己点検」）」の 2 つの制度で内部質保証を推進している。

組織の自己点検・評価では、「大学評価に関する規程」に基づき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、その下に、大学評価に関する具体的な事項を審議・決定する大学評価委員会を設置している。さらに、すべての学部等に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動を行う体制を整えている。点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。毎年度、すべての学内組織が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各組織にフィードバックし、改善及び向上を図るものである。

教員活動自己点検では、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の 4 領域において、年度始めに基本方針を定めた後、年度末までに諸活動について自己点検を行い、自ら改善及び向上に取り組み、教育研究活動等を活性化させることを目指している。

自己点検・評価の結果公表については、「内部質保証に関する方針」、「大学評価に係る公表の方針」、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、大学全体に係る自己点検・評価シートと自己点検・評価によって顕在化した全学的課題の一覧をホームページに掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についてもホームページで公表している。

本学は、令和 3（2021）年 3 月に、公益財団法人大学基準協会から大学基準に適合しているとの認定を受けた。評価結果においては、適合認定のほか、大学の諸活動に対して、「長所」7 件、「改善課題」8 件の提言を受けた。「長所」については、さらなる伸長方策を、「改善課題」については、改善計画を策定し、本学の内部質保証システムの中で、さらに改善・改革を重ねるスパイラルアップ（好循環）を生み出せるよう取り組んでいるところであ

る。「改善課題」として提言された課題については、令和 6（2024）年 7 月末までに、公益財団法人大学基準協会に「改善報告書」を提出する。

心理学部も自己点検・評価委員会を設置し、本学の内部質保証システムに基づき、「組織としての自己点検・評価」と「教員活動自己点検」を実施し、学部理念や目標に照らし、教育研究活動等の課題改善や質の向上を図る。

１６　情報の公表

本学では、在学生・保護者・卒業生・受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信している。特に大学の基本情報については、平成 23（2011）年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）を踏まえ、情報の公表に関する規程を整備し、また、これにもとづき「情報公表（基礎データ）」のページを本学ホームページ内に新たに設置し、法人並びに教育情報の積極的な公表に努めている。具体的な内容は以下のとおりである。

（１）大学の教育研究上の目的に関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神、使命及び理念」に関する情報をホームページ内に掲載し、本学の教育研究上の目的に関する情報を公表している。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報 ＞ 1. 学校法人龍谷大学寄附行為
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/rules2018/reiki_honbun/i600RG00000001.html

②「建学の精神、使命及び理念」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 建学の精神
http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営を行う役員・評議員のほか、本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務組織等に関する情報をホームページ内に掲載している。

①「役員・役職者一覧」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 役員・役職一覧 ＞ 龍谷大学役職者

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_02.html

②「教育研究組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 教育研究組織図
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html

③「研究関連組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 研究関連組織図
https://www.kenkyubu.ryukoku.ac.jp/wp-content/uploads/%E2%91%A0%E7%A0%94%E7%A9%B6%E9%96%A2%E9%80%A3%E7%B5%84%E7%B9%94%E5%9B%B3-1.jpg

④「事務組織」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 事務組織図
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位・業績等の情報を掲載している。また、教員数については、職階・男女・年齢別の情報をホームページ内に掲載している。

①「教員データベース」
HOME ＞ 教員データベース
http://www.ryukoku.ac.jp/who/

②「教員数（職階別・男女別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（職階別・男女別数）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞ 教員数（年齢別数）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

学部ごとに定める入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）をホームページ内の「教育活動に関する情報」に、入学者数・収容定員・在学生数等をホームページ内の「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」にそれぞれ掲載している。また、卒業生数・修了生数をホームページ内の「学位授与数」に、就職者や進学者数等、就職に関する情報をホームページ内の「就職・進路決定率」にそれぞれ掲載している。

①「教育活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等
http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html

③「学位授与数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）＞学位授与数
http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook_09.html

④「就職・進路決定率」
HOME ＞ 就職支援 ＞ 就職関連統計資料 ＞ 就職・進路決定率
http://career.ryukoku.ac.jp/statistical/index.html#gyoshu

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目ごとに、その授業方法、内容、年間（半期）の授業計画等に関する情報をホームページ内の「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」
HOME ＞ 学部・大学院・短大 ＞ web シラバス
https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110Init.do

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法・基準等に関する情報をホームページ内の「学修の成果に係る評価」に掲

載している。

①「学修の成果に係る評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学修の成果に係る評価
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「各学部の卒業要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各学部の卒業要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

③「各研究科の修了要件単位数」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 教育活動に関する情報 ＞ 6.卒業要件単位数の内訳と授与する学位 ・各研究科の修了要件単位数
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内の「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」に、関連する情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ） ＞ 校地・校舎等の施設・設備に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料・施設費・入学金等の学費、並びにその他諸会費に関する情報をホームページ内に掲載している。さらに、次年度の学費について保護者向けに通知すること等により、学生から徴収する費用についての情報を公表している。

①「学費」
HOME ＞ 学生生活 ＞ 学費・奨学金 ＞ 学費
http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報をホームページ内の「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援や進路選択に関する情報をホームページ内の「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学生生活・課外活動に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 進路・就職支援に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

（１０）その他

①「認証評価結果」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 認証評価
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

②「自己点検・評価」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 自己点検・評価（内部質保証）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html

③「学則・諸規程等」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）＞ 学則・諸規程等に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

④「財務及び経営に関する情報」
HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 財務情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/finance.html

対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」にもとづき、マスメディア等に対して積極的な情報発信を行っている。

また、受験生向けの大学案内誌、本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介す

る広報誌『龍谷』等により、幅広いステークホルダーに対する情報発信を展開している。

１７　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

１７－１　FD に関する取組

教学マネジメントを支える基盤である FD ならびに教学 IR を推進するための全学的な組織として、学修支援・教育開発センター（以下「センター」という。）を置き、教育の質保証・質向上に向けた事業を展開している。

センターのもとに置かれた学修支援・教育開発センター会議（以下「センター会議」という。）は、センター長、各学部教務主任及び各研究科から選出された委員で構成され、全学的な観点から、以下に示したセンター事業に関する審議・決定を行っている。また、センター会議のもとに、FD・教学 IR 企画推進委員会を置き、新たな事業展開に資する企画・立案や情報収集を行い、センター会議における審議のための原案策定を行っている。

＜教育改善を図るための主なセンター事業＞

① 教育開発・研究事業

新たな教育手法の開発や研究のための事業として、センターが指定するテーマに基づく「指定研究プロジェクト」と、学内公募に基づく「自己応募研究プロジェクト」を実施し、教育改善や教材開発等を図る取組に対して経費支援を行っている。これらのプロジェクトの研究成果について、FD 報告会やポスター展示を実施し、全学に公開・共有している。

また、ポストコロナを見据えたオンライン教育（ICT 活用教育を含む）の質向上を図り、新たな教育手法の開発や改善につなげるために、学生ならびに教員を対象としたアンケートを適宜実施している。得られた結果については、全学的に共有するとともに、対面とオンラインを含めた今後の授業のあり方に関する検討につなげている。

② 教育改善活動支援事業

全学的な教育改善活動として、毎年度、学期ごとに「学生による学期末の授業アンケート」を実施し、授業改善に活用できるよう、LMS（学習管理システム）を通じて各授業担当教員に集計結果を提供している。また、全学ならびに学部単位の集計結果については、センター会議において共有するとともに、各学部等に提供し、FD に活用しているほか、Web サイト上で公開し、学外への情報公表を推進している。

また、「龍谷大学における教学 IR の定義」（2017 年度策定）に基づき、教育活動に関する調査及びデータ分析を行い、その分析結果を共有し、全学レベル・学部レベルの教学事項にかかるエビデンスベースの意思決定を支援している。

③ 教育活動交流・研修事業

毎年度、文教政策の動向や大学教育に求められる社会情勢等を踏まえ、将来的な教育活動の実施や研修に資するテーマを設定した FD フォーラムを開催し、学外にも公開している。また、センターが主催する FD 研修会のほか、各学部との共催による FD 報告会を開催している。さらに、学部学生会（選挙で選出された代議員で構成される正課授業の改善に取り組む学生組織）と協働した FD の開催や、学生会が主催する学生 FD サロンを通じて、学修者の視点に立った教育改善活動に取り組んでいる。

④ 学内外との連携、情報収集・発信

高等教育をめぐる動向を適切に捉え、本学の教育改善活動に活かすために、学内外の連携を推進し、情報収集に努めている。また、本学の教育改善活動に関する情報公表に努めており、Web サイトに各種報告書を掲載するほか、授業に役立つ支援ツールも掲載している。

［主な学外連携先］

全国私立大学 FD 連携フォーラム、一般社団法人大学 IR コンソーシアム、一般社団法人私立大学連盟、公財財団法人大学コンソーシアム京都、全国高等教育研究所等協議会　等

［主な情報公表］

学生による学期末の授業アンケート結果、学修支援・教育開発センター通信、龍谷 ICT 教育賞報告書、ルーブリック作成ガイドブック、シラバス作成の手引き　等

１７－２　SD に関する取組

本学では、2020 年に制定した「学校法人龍谷大学スタッフ・ディベロップメント（SD）実施基本方針（以下「基本方針」という。）」において、SD の目的を「建学の精神の具現化、教育理念・目的の実現に向け、教職員が、教育研究活動および管理運営における職責を適切かつ効果的に遂行するために求められる能力を向上させること」と定めている。

法人および大学・短期大学部、付属校の運営を担う全ての教職員を SD の対象とし、教育職員、事務職員それぞれの職務や職責に応じて、教育研究活動および管理運営の適切かつ効果的な遂行のために必要な能力を開発するために SD を実施している。

具体的には、ボード・デベロップメント（BD）研修、大学の長期計画に関するワークショップ、建学の精神に関する研修、人権研修、ハラスメント研修、情報セキュリティに関する研修等があり、参加対象を教育職員、事務職員に区分せず、全学的かつ組織的に実施している。

上記に加えて、事務職員については、キャリア形成に向けて、事務職員に求められる必要な知識と技能を計画的・継続的に修得するために各種の研修制度を用意している。

研修の目的としては、学校法人龍谷大学就業規則及び事務職員研修規程において、「職

員は、その職責遂行のため自発的に研修に励み、かつ、法人の行う研修をうけなければならない」、「研修は、教育と訓練によって、必要な知識と技能を修得させ、事務職員の資質向上と自己啓発を促し、業務の推進を計る人材を養成することを目的とする」、「研修は、長期的な人材養成の一環として、継続的・計画的に行うものとし、事務職員の自主的な研修についても、これを奨励するものとする」と規定されている。事務職員は、本学の目標である「教育」「研究」「社会連携」を深く理解し、大学目標の実現を積極的に遂行するスタッフであることを認識し、その業務の遂行にあたっては、自ら担当する業務が諸政策遂行の一環業務であることを常に意識し、他の業務担当者との連携をはかり教学と経営の両視点からの政策を提案し得るよう、一業務分野の第一人者として専門知識向上に努めるとともに、マネジメント能力を育成するよう支援するための各種研修を実施している。

なお、具体的には、各事務職員の資格に応じた「資格別研修」、特定のテーマを持って選抜された事務職員による海外の大学調査をおこなう「海外高等教育研修」、本学が加盟する私立大学連盟等が主催する研修会に参加する「選抜研修」、部署内の業務改善や知識の修得を目指す「部署別研修」等のプログラムを用意している。

１８　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１８－１　教育課程内の取組

心理学部のカリキュラムを通じて、学生のキャリア形成を支援する。学生が低年次から「働くことの意味」や「自身の将来像」、「仕事を通した自己実現」を意識し、それを達成するための能力やスキル、さらには「人間力」を身につけることができるようにするために、学部のカリキュラムにキャリア開発・形成に資する科目を体系的に配置する。具体的には次のような取り組みを行うとともに、その他の心理学に関わる専門的な科目においてもキャリア形成を意識した教育を実施する。

（１）「キャリアと心理」（第１セメスター）

必修科目として、第１セメスターに開講する。大学での学びを大学卒業後の進路選択や職業選択、長期的な人生設計に役立てられるように、講義やディスカッションを通して考えることを目標とする。

（２）「キャリアデザイン論」（第２セメスター）

必修科目として、第２セメスターに開講する。学生自身のキャリア形成の基礎となるものであり、将来社会に参加することについて見通しをもつことと自分自身のキャリアデザイン力の涵養を目指す。

（３）「心理学の職業的展開」（第３セメスター）

選択科目として、第３セメスターに開講する。社会の中で心理学がどのように活用されているのか、また心理学にどのような期待が寄せられているのかを学ぶものである。

（４）「仕事と社会人Ⅰ・Ⅱ」（第４セメスター・５セメスター）

選択科目として、第４セメスター・第５セメスターに開講する。「働く」ことについて、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学ぶ。

（５）「事例演習アドバンスⅠ・Ⅱ」（第７セメスター・８セメスター）

本講義では大学院生の担当しているケースのスーパービジョンへの陪席を通し、カウンセリングについて理解する機会をもつ。心理職としての自分自身の将来についての検討を促す。

上記の体系的な学びを卒業年次の「卒業研究」に結実させることにより、自らの専門性を確立・完成させ、自身が目指すキャリアが実現できるよう指導する。

１８－２　教育課程外の取組

本学はキャリアセンターと学部等が連携・協力し、学生のキャリア形成に資する種々の取組を実施している。具体的な内容は次のとおりであり、心理学部においてもキャリア形成に資する同様の取組を実施する。

1 年次では将来の進路を考えるためのガイダンスを、2 年次では学部の特性にあわせながら、職業観や勤労観の醸成、自己を見つめ直す機会の提供を目的としたガイダンスを実施している。3 年次・4 年次では進路・就職活動の段階に合わせたガイダンスや採用選考対策のセミナーを開催している。また、資格取得を目指す学生に対しては、外部の専門学校や資格試験予備校と提携しながら、資格取得・就職支援のための講座を開講している。

この他にも、グローバルキャリアを志す学生に対応したプログラムの展開や、学生自身が自己の成長を認識することを可能にするアセスメントテストの実施など、総合的な進路・就職支援を行っている。以上のような、多様な支援プログラムを実施するとともに、履修登録システムと連動した「就職状況把握システム」を運用し、全卒業年次生のデータを集積している。これにより、進路・就職活動が滞っている学生を把握し、活動状況に応じて適切な支援を行っている。また、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、face to face の面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行っている。なお、面談にはキャリアコンサルタント資格を有する職員が対応している。

さらに、大学院生、留学生、障がいのある学生及び課外活動に取り組む学生等に対しては、学生の個々の資質に応じて、それぞれの特性を踏まえた進路・就職支援を展開している。

１８－３　適切な体制の整備について

本学では、各学部にキャリア主任を置き、キャリア主任がキャリアセンターと学部を繋ぐ役割を果たすことで、教育課程内で体系的なキャリア教育を展開できるようにしている。学内の支援組織については、「全学キャリア会議」、「キャリア政策会議」、「キャリア主任会議」、「学部キャリア委員会」がその任に当たっている。

全学キャリア会議は、本学におけるキャリア支援の基本方針、実施大綱、その他重要事項を審議・決定する。学長を議長とする本会議には各学部長が委員として参加し、学部と大学全体との有機的な連携を図っている。

キャリア政策会議は、全学キャリア会議の審議事項に関して、全学的なキャリア支援政策及びそれに係る基本方針等を立案し、全学キャリア会議に提案するために設置されている。

キャリア主任会議は、キャリア支援の問題について全学的に協議・調整を行う。本会議には、学部キャリア主任が委員として参加することで、各学部とキャリアセンターが支援上の諸課題を共有しながら、キャリア支援の円滑な推進を図っている。

学部キャリア委員会は、学部のキャリア教育及び就職支援を推進するため、学部ごとに設置された組織である。心理学部のキャリア委員会には、キャリア主任をはじめ、キャリアセンター職員等が委員として参加し、学部におけるキャリア教育について検討するとともに、キャリアセンターと就職支援の有機的な連携・推進を図る。なお、キャリアセンターにおいては、各学部担当の職員を配置し、それぞれの特徴に応じたキャリア支援を展開している。

このように適切な体制を整備し、学生のキャリア形成、そしてめざすキャリアの実現を支援する。

以上

設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

資料 1	教育理念・目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの相関
資料 2	カリキュラム全体イメージ図
資料 3	心理学部開講専攻科目分類一覧
資料 4	「生涯発達カウンセリングプログラム」履修モデル
資料 5	「関係支援とコミュニケーションプログラム」履修モデル
資料 6	「公認心理師受験資格課程科目」履修モデル
資料 7	編入学生 履修モデル
資料 8	学外実習先一覧
資料 9	（省略）実習施設等承諾書
資料 10	学外実習協定書
資料 11	実習に関する誓約書
資料 12	学外実習の実施にあたって
資料 13	実習ノート
資料 14	RYUKOKU インターンシップ実習受入先一覧
資料 15	教育職員選考基準（抜粋）
資料 16	職員定年規程
資料 17	特別任用教員規程
資料 18	学術雑誌等一覧

資料１

教育理念・目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの相関

心理学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（DP）

①卒業認定・学位授与の方針文

心理学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとり必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

②学生に保証する基本的な資質・能力

○ 教養教育科目により保証する資質・能力　● 専攻科目により保証する資質・能力

（建学の精神の具現化）	（知識・技能の修得）	（課題解決のために必要な力の育成）	（主体的な学修態度の醸成）
○建学の精神の意義について理解している。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。 ●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。 ●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。	●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。 ●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。 ●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。

③学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

・学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。
・卒業年次には、「卒業研究」を提出しなければならない。卒業研究提出後に卒業研究発表会を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

教育課程編成・実施の方針（CP）

①教育課程編成・実施の方針文

心理学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。

②教育内容

○ 教養教育科目にかかる教育内容　● 専攻科目にかかる教育内容

（建学の精神の具現化）	（知識・技能の修得）	（課題解決のために必要な力の育成）	（主体的な学修態度の醸成）
○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義A」及び「基礎講義B」を開講する。 ●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけ、人とのつながりを形成するために、「初年次科目（フレッシャーズゼミ）」及び「導入科目（基礎演習）」を開講する。	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義B」及び「基礎講義C」を開講する。 ●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけるために、「プログラム科目」、「演習」及び「卒業研究」を開講する。	●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができるようにするために、4年間を通じて演習科目（「導入科目（基礎演習）」及び「演習」）を開講する。 ●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができるようにするために、「プログラム科目」及び「演習」を開講する。 ●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけるために、「基礎講義A」及び「基礎講義B」にキャリア啓発にかかる科目を、「プログラム科目」にキャリア形成にかかる科目をそれぞれ開講する。別の「事例演習」を開講する。

資料２

心理学部心理学科　カリキュラム全体イメージ図

1年生		2年生		3年生		4年生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

教養教育科目

専攻科目

専門基礎科目　～基礎的な心理学教育～

基礎から卒業後のキャリアにつながる心理学教育の3つの柱

心理学基礎科目

心理学の基礎となる考え方そのものを学び、どのように応用心理学と繋がるのかを理解する。

データサイエンス科目

心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉える。

キャリア啓発科目

卒業後のキャリアを意識し、実社会において心理学がどのように活用されるのかを学ぶ。

専門基礎科目において、学生が専門的な学びを深めるための基礎となる科目を配置。2つのプログラムに関する基礎となる科目も開講し、3年次以降の社会実践の方向性を意識づける。

基礎講義A（必修）
→ 基礎講義B
→ 基礎講義C（選択必修）
学生がプログラム・分野を選択し、専門的な学びを深めていく上で重要となる点を総括的に学修する

専門発展科目　～専門的な心理学教育～

「生涯発達カウンセリングプログラム」と「関係支援とコミュニケーションプログラム」の2つのプログラムを配置し、専門的な心理学教育の充実を図る

生涯発達カウンセリングプログラム
発達段階に応じた「個人の心」にアプローチ

- 乳幼児と保護者の心と支援
- 子どもの心と支援
- 思春期・青年期の心と支援
- 成人・高齢者の心と支援

プログラム横断科目
2つのプログラムを横断的に接続する分野

- データ心理学

関係支援とコミュニケーションプログラム
社会で共に生きる人のつながりアプローチ

- チーム医療
- チーム学校
- ネットワーク支援
- 産業・メンタルヘルス

専門基礎科目の「3つの柱」のひとつである「キャリア啓発科目」を必修科目と位置づけ

専門発展科目の中にも「キャリア形成科目」を配置し、高度な専門性や発展的な内容に基づくキャリア教育を展開

キャリア啓発科目（必修） → キャリア形成科目

演習科目　4年間を通して「演習（ゼミ）」を履修し、学修の集大成として「卒業研究」に取り組む

フレッシャーズゼミ	心理学基礎演習A	心理学基礎演習B	心理学基礎演習C	心理学演習・卒業研究

共通選択科目（教職課程など資格取得において必要となる科目）

公認心理師受験資格課程科目（自由科目）

公認心理師の職責	心理演習	心理実習A	心理実習B

資料３

心理学部開講専攻科目分類一覧

科目区分			授業科目	公認心理師 課程科目	科目分類 （3つの柱、2プログラム・プログラム横断科目、9つの分野）	
専門基礎科目	演習科目	初年次科目	フレッシャーズゼミ			
		導入科目	心理学基礎演習A			
			心理学基礎演習B			
			心理学基礎演習C			
	講義科目	基礎講義A	心理学概論	②	データサイエンス	
			発達心理学	⑫	心理学基礎	
			臨床心理学概論	③	心理学基礎	
			心理学的支援法	⑮	心理学基礎	
			心理学研究法概論	④	データサイエンス	
			心理学統計法概論	⑤	データサイエンス	
			心理的アセスメントⅠ	⑭	心理学基礎	
			生涯発達と関係支援		心理学基礎	
			心理学とデータサイエンス		データサイエンス	
			キャリアと心理		キャリア啓発	
			キャリアデザイン論		キャリア啓発	
		基礎講義B	人体の構造と機能及び疾病	㉑	心理学基礎	
			心理学実験	⑥	データサイエンス	
			神経・生理心理学	⑩	データサイエンス	
			障害者・障害児心理学	⑬	心理学基礎	
			福祉心理学	⑰	心理学基礎	
			健康・医療心理学	⑯	心理学基礎	
			教育・学校心理学	⑱	心理学基礎	
			脳と心		心理学基礎	
			乳幼児の発達		心理学基礎	
			児童思春期精神医学		心理学基礎	
			子どもの心理療法		心理学基礎	
			高齢者の心理と福祉		心理学基礎	
			仏教と心理学		心理学基礎	
			コミュニティとシステム支援		心理学基礎	
			ストレスマネジメント		心理学基礎	
			チーム医療		心理学基礎	
			チーム学校とシステム論		心理学基礎	
			心理学の職業的展開		キャリア啓発	
			仕事と社会人Ⅰ		キャリア啓発	
			心理学プロジェクト社会連携演習		キャリア啓発	
		基礎講義C	生涯発達臨床心理学		心理学基礎	
			ライフサイクルとカウンセリング		心理学基礎	
			家族療法とシステムズアプローチ		心理学基礎	
			目からウロコのコミュニケーション学		心理学基礎	
専門発展科目	演習科目		心理学演習			
	卒業研究		卒業研究			
	プログラム科目		知覚・認知心理学	⑦	プログラム横断科目	データ心理学
			精神疾患とその治療	㉒	生涯発達	思春期青年期
			感情・人格心理学	⑨	生涯発達	乳幼児
			心理関係行政論	㉓	生涯発達	成人・高齢者
			司法・犯罪心理学	⑲	関係支援	ネットワーク支援
			産業・組織心理学	⑳	関係支援	産業メンタルヘルス
			学習・言語心理学	⑧	関係支援	チーム医療
			社会・集団・家族心理学	⑪	関係支援	ネットワーク支援
			量的心理学研究		プログラム横断科目	データ心理学
			質的心理学研究		プログラム横断科目	データ心理学
			生理学データと現場心理学（基礎）		プログラム横断科目	データ心理学
			臨床催眠学		プログラム横断科目	データ心理学
			生理学データと現場心理学（応用）		プログラム横断科目	データ心理学
			子育てとソーシャルサポート		生涯発達	乳幼児
			音楽療法		生涯発達	乳幼児
			ダンスセラピー		生涯発達	子ども
			乳幼児の理解と支援実習		生涯発達	乳幼児
			教育と心理支援		生涯発達	子ども
			発達障害のアセスメント		生涯発達	子ども
			心理的アセスメントII		生涯発達	子ども
			不登校・いじめとスクールカウンセリング		生涯発達	思春期青年期
			青年心理と友人関係		生涯発達	思春期青年期
			思春期とジェンダー心理学		生涯発達	思春期青年期
			大人の発達障害		生涯発達	思春期青年期
			思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ		生涯発達	思春期青年期
			中年期の危機とうつ		生涯発達	成人・高齢者
			コミュニティ・アプローチ		生涯発達	乳幼児
			愛着障害と親子関係		生涯発達	乳幼児
			保育の心理学		生涯発達	乳幼児
			障害児支援と療育		生涯発達	子ども
			学童期の遊びと対人関係		生涯発達	子ども
			発達障害と応用行動分析		生涯発達	子ども
			思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ		生涯発達	思春期青年期
			フォーカシングと体験過程療法		生涯発達	思春期青年期
			ひきこもりと精神的健康		生涯発達	思春期青年期
			認知行動療法		生涯発達	思春期青年期
			エンカウンターグループと回想法		生涯発達	成人・高齢者
			ビハーラカウンセリング		生涯発達	成人・高齢者
			死生観教育と心理療法		生涯発達	成人・高齢者
			認知症の心と家族支援		生涯発達	成人・高齢者
			高齢者の理解と支援実習		生涯発達	成人・高齢者
			人格心理学と精神力動論		生涯発達	思春期青年期
			医療におけるシステムズアプローチ		関係支援	チーム医療
			緩和ケアとこころの治癒力		関係支援	チーム医療
			家族療法とコミュニケーション・アプローチ		関係支援	チーム医療
			学校システムにおける精神疾患と家族		関係支援	チーム学校
			不登校の解決と協働		関係支援	チーム学校
			発達障がいと家族		関係支援	ネットワーク支援
			ひきこもりと家族支援		関係支援	ネットワーク支援
			虐待と家族支援		関係支援	ネットワーク支援
			ポジティブ心理学		関係支援	産業メンタルヘルス
			コーチング心理学		関係支援	産業メンタルヘルス
			コンサルテーション・リエゾン精神医学		関係支援	チーム医療
			構造派家族療法		関係支援	チーム医療
			保護者支援とチーム学校		関係支援	チーム学校
			コンサルテーション演習		関係支援	チーム学校
			特別支援とシステムズアプローチ		関係支援	チーム学校
			ブリーフセラピーとソリューション		関係支援	チーム学校
			非行と家族支援		関係支援	ネットワーク支援
			オープン・ダイアローグ演習		関係支援	ネットワーク支援
			キャリアカウンセリング		関係支援	産業メンタルヘルス
			スポーツ心理学		関係支援	産業メンタルヘルス
			スポーツ・メンタルリハーサル		関係支援	産業メンタルヘルス
			マインドフルネス・ヨーガ		関係支援	産業メンタルヘルス
			事例演習アドバンスI		キャリア形成	
			事例演習アドバンスII		キャリア形成	
			仕事と社会人Ⅱ		キャリア形成	
共通選択科目			法学概論			
			政治学原理			
			経済原論			
			社会学概説			
自由科目			公認心理師の職責	①		
			心理演習	㉔		
			心理実習A	㉕		
			心理実習B	㉕		

資料４

◆心理学部心理学科 「生涯発達カウンセリングプログラム」 履修モデル

〔卒業後の進路〕 子育て支援、療育支援機関や放課後デイサービス、児童養護施設、高齢者福祉施設など

※以下では、「子どもの心と支援」の分野の科目を中心に履修

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													34
	言語科目	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3(A)●	1	英語総合4(A)●	1									
		英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3(B)●	1	英語総合4(B)●	1									
		フランス語Ⅰ●	2	フランス語Ⅱ●	2													
	人文科学系科目	哲学入門●	2	文章表現法B	2	歴史学入門	2	大学論	2									
	社会科学系科目	社会学のすすめ●	2	人権論B	2	現代社会と法	2											
	自然科学系科目	数学への旅●	2	地球科学	2													
	スポーツ科学系科目							スポーツと人権・平和	2									
専攻科目	専門基礎科目	フレッシャーズゼミ◎	2	心理学基礎演習A◎	2	心理学基礎演習B◎	2	心理学基礎演習C◎	2									50
		心理学概論◎	2	心理学的支援法◎	2	心理学研究法概論◎	2	心理的アセスメントⅠ◎	2									
		発達心理学◎	2	生涯発達と関係支援◎	2	心理学統計法概論◎	2	神経・生理心理学	2									
		臨床心理学概論◎	2	キャリアデザイン論◎	2	心理学とデータサイエンス◎	2	福祉心理学	2									
		キャリアと心理◎	2	健康・医療心理学	2	障害者・障害児心理学	2	ライフサイクルとカウンセリング●	2									
						教育・学校心理学	2	子どもの心理療法	2									
						乳幼児の発達	2	仕事と社会人Ⅰ	2									
						生涯発達臨床心理学●	2											
	専門発展科目									心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	38
										知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	卒業研究(通年)◎	2	卒業研究(通年)◎	2	
										精神疾患とその治療	2	社会・集団・家族心理学	2					
										感情・人格心理学	2	障害児支援と療育	2					
										量的心理学研究	2	学童期の遊びと対人関係	2					
										ダンスセラピー	2	発達障害と応用行動分析	2					
										教育と心理支援	2							
										発達障害のアセスメント	2							
										心理的アセスメントⅡ	2							
修得単位数		22		22		22		20		18		12		4		4		124

◎:必修科目 ●:選択必修科目

資料５

◆心理学部心理学科 「関係支援とコミュニケーションプログラム」 履修モデル（プログラム横断科目も履修）

〔卒業後の進路〕 医療機関やスクールカウンセラー、福祉施設、公務員や民間企業など

※以下では、「産業・メンタルヘルス」「データ心理学」の分野の科目を中心に履修

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													36
	言語科目	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3(A)●	1	英語総合4(A)●	1									
		英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3(B)●	1	英語総合4(B)●	1									
		中国語Ⅰ●	2	中国語Ⅱ●	2													
	人文科学系科目	倫理学入門●	2	日本の歴史B	2	論理学	2											
	社会科学系科目	社会調査のすすめ●	2	人権論B	2	現代社会と労働	2	企業と会計	2									
	自然科学系科目	確率・統計入門●	2			数理と論証	2											
	スポーツ科学系科目	現代社会とスポーツ	2															
専攻科目	専門基礎科目	フレッシャーズゼミ◎	2	心理学基礎演習A◎	2	心理学基礎演習B◎	2	心理学基礎演習C◎	2									48
		心理学概論◎	2	心理学的支援法◎	2	心理学研究法概論◎	2	心理的アセスメントⅠ◎	2									
		発達心理学◎	2	生涯発達と関係支援◎	2	心理学統計法概論◎	2	神経・生理心理学	2									
		臨床心理学概論◎	2	キャリアデザイン論◎	2	心理学とデータサイエンス◎	2	脳と心	2									
		キャリアと心理◎	2	健康・医療心理学	2	ストレスマネジメント	2	目からウロコのコミュニケーション学●	2									
						心理学の職業的展開	2	仕事と社会人Ⅰ	2									
						家族療法とシステムズアプローチ●	2	心理学プロジェクト社会連携演習	2									
	専門発展科目									心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	40
										知覚・認知心理学	2	社会・集団・家族心理学	2	卒業研究（通年）◎	2	卒業研究（通年）◎	2	
										司法・犯罪心理学	2	生理学データと現場心理学（応用）	2					
										産業・組織心理学	2	キャリアカウンセリング	2					
										量的心理学研究	2	スポーツ心理学	2					
										質的心理学研究	2	スポーツ・メンタルリハーサル	2					
										生理学データと現場心理学（基礎）	2	マインドフルネス・ヨーガ	2					
										ポジティブ心理学	2							
										コーチング心理学	2							
修得単位数		24		20		22		18		18		14		4		4		124

◎:必修科目　●:選択必修科目　水色網掛け:プログラム横断科目

資料６

◆心理学部心理学科 「公認心理師受験資格課程科目」 履修モデル（生涯発達カウンセリングプログラム）

〔卒業後の進路〕 子育て支援、療育支援機関や放課後デイサービス、児童養護施設、高齢者福祉施設、大学院進学など

※以下では、「乳幼児と保護者の心と支援」の分野の科目を中心に履修

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2													36
	言語科目	英語総合1(A)◎	1	英語総合2(A)◎	1	英語総合3(A)●	1	英語総合4(A)●	1									
		英語総合1(B)◎	1	英語総合2(B)◎	1	英語総合3(B)●	1	英語総合4(B)●	1									
		ドイツ語Ⅰ●	2	ドイツ語Ⅱ●	2													
	人文科学系科目	クリティカル・シンキング●	2	日本の文学B	2	アジアの文化	2	大学論	2									
	社会科学系科目	経済学のすすめ●	2	人権論B	2	現代社会と福祉	2											
	自然科学系科目	数学入門●	2	生命科学	2													
	スポーツ科学系科目	人間とスポーツ	2															
専攻科目	専門基礎科目	フレッシャーズゼミ◎	2	心理学基礎演習A◎	2	心理学基礎演習B◎	2	心理学基礎演習C◎	2									49
		心理学概論◎	2	心理学的支援法◎	2	心理学研究法概論◎	2	心理的アセスメントⅠ◎	2									
		発達心理学◎	2	生涯発達と関係支援◎	2	心理学統計法概論◎	2	心理学実験	1									
		臨床心理学概論◎	2	キャリアデザイン論◎	2	心理学とデータサイエンス◎	2	神経・生理心理学	2									
		キャリアと心理◎	2	人体の構造と機能及び疾病	2	障害者・障害児心理学	2	福祉心理学	2									
				健康・医療心理学	2	教育・学校心理学	2	ライフサイクルとカウンセリング●	2									
						乳幼児の発達	2											
						生涯発達臨床心理学●	2											
	専門発展科目									心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	40
										知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	卒業研究（通年）◎	2	卒業研究（通年）◎	2	
										精神疾患とその治療	2	社会・集団・家族心理学	2					
										感情・人格心理学	2	コミュニティ・アプローチ	2					
										心理関係行政論	2	愛着障害と親子関係	2					
										司法・犯罪心理学	2	保育の心理学	2					
										産業・組織心理学	2							
										子育てとソーシャルサポート	2							
										音楽療法	2							
										乳幼児の理解と支援実習	2							
	自由科目							公認心理師の職責	2	心理演習	2	心理実習A	2	心理実習B（通年）	1	心理実習B（通年）	1	8
修得単位数		24		24		22		17		22		14		5		5		133

◎：必修科目　●：選択必修科目　黄色網掛け：公認心理師受験資格課程科目

資料７

◆心理学部心理学科 「生涯発達カウンセリングプログラム」 編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 子育て支援、療育支援機関や放課後デイサービス、児童養護施設など

※以下では、「成人・高齢者の心と支援」の分野の科目を中心に履修

科目区分		1年次		2年次		3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目									仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2					4
	言語科目																	
	人文科学系科目																	
	社会科学系科目																	
	自然科学系科目																	
	スポーツ科学系科目																	
専攻科目	専門基礎科目									心理学の職業的展開	2	神経・生理心理学	2					12
												福祉心理学	2					
												高齢者の心理と福祉	2					
												仏教と心理学	2					
												仕事と社会人Ⅰ	2					
	専門発展科目									心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	46
										知覚・認知心理学	2	エンカウンターグループと回想法	2	卒業研究（通年）◎	2	卒業研究（通年）◎	2	
										精神疾患とその治療	2	ビハーラカウンセリング	2	司法・犯罪心理学	2			
										感情・人格心理学	2	死生観教育と心理療法	2	産業・組織心理学	2			
										心理関係行政論	2	認知症の心と家族支援	2	仕事と社会人Ⅱ	2			
										量的心理学研究	2	高齢者の理解と支援実習	2					
										質的心理学研究	2							
										大人の発達障害	2							
										中年期の危機とうつ	2							
										緩和ケアとこころの治癒力	2							
修得単位数		62								24		24		10		4		124

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位（教養教育科目（フリーゾーンを含む）54単位、専攻科目8単位）を超えない範囲で認定する。

◎：必修科目

◆心理学部心理学科 「関係支援とコミュニケーションプログラム」 編入学生履修モデル

〔卒業後の進路〕 医療機関やスクールカウンセラー、福祉施設、公務員や民間企業など

※以下では、「チーム学校」の分野の科目を中心に履修

科目区分		1年次		2年次		3年次				4年次				修得単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目	「仏教の思想」科目					仏教の思想A ◎	2	仏教の思想B ◎	2					4
	言語科目													
	人文科学系科目													
	社会科学系科目													
	自然科学系科目													
	スポーツ科学系科目													
専攻科目	専門基礎科目					教育・学校心理学	2	チーム学校とシステム論	2					8
						心理学の職業的展開	2	ライフサイクルとカウンセリング	2					
	専門発展科目					心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	心理学演習◎	2	50
						知覚・認知心理学	2	学習・言語心理学	2	卒業研究（通年）◎	2	卒業研究（通年）◎	2	
						司法・犯罪心理学	2	社会・集団・家族心理学	2	仕事と社会人Ⅱ	2	スポーツ心理学	2	
						学校システムにおける精神疾患と家族	2	保護者支援とチーム学校	2	コーチング心理学	2			
						不登校の解決と協働	2	コンサルテーション演習	2					
						ひきこもりと家族支援	2	特別支援とシステムズアプローチ	2					
						不登校・いじめとスクールカウンセリング	2	ブリーフセラピーとソリューション	2					
						青年心理と友人関係	2	ひきこもりと精神的健康	2					
						思春期とジェンダー心理学	2	非行と家族支援	2					
修得単位数		62				24		24		8		6		124

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位（教養教育科目（フリーゾーンを含む）54単位、専攻科目8単位）を超えない範囲で認定する。

◎：必修科目

資料８

公認心理師　学外実習先一覧

No	領域	実習先名称	実習 受入人数	郵便番号	所在地	施設責任者
1	医療	湖南クリニック	30名 （15名×2回）	520-2144	滋賀県大津市大萱1丁目19-25 ロイヤルダイコマ2F	院長　楢林　理一郎
2		湖南病院	30名 （15名×2回）	520-2433	滋賀県野洲市八夫2077番地	院長　木田　孝太郎
3		長岡病院	30名 （15名×2回）	617-0843	京都府長岡京市友岡4丁目18番1号	理事長　中野　種樹
4		神戸労災病院	30名 （15名×2回）	651-0053	兵庫県神戸市中央区籠池通4-1-23	精神科部長　植村　太郎
5		日本赤十字社　神戸赤十字病院	5名	651-0073	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-1	院長　山下　晴央
6		総合病院 京都南病院	10名 （5名×2回）	600-8876	京都市下京区西七条南中野町8	院長　住岡　秀史
7		彦根市立病院	30名 （15名×2回）	522-8539	滋賀県彦根市八坂町1882	彦根市病院事業管理者 金子　隆昭
8		まちだクリニック	30名 （15名×2回）	570-0066	大阪府守口市梅園町2-30 カーサローズヒル2階	院長　町田　英世
9		千春会病院	30名 （15名×2回）	617-0826	京都府長岡京市開田2丁目14-26	理事長　菊地　孝三
10	福祉	特別養護老人ホーム　ビハーラ本願寺	30名 （15名×2回）	610-0116	城陽市奈島内垣内1番地	施設長　内本　隆宏
11		特別養護老人ホーム　ビハーラ本願寺 おもちゃライブラリー	30名 （15名×2回）	610-0116	城陽市奈島内垣内1番地	施設長　内本　隆宏
12		社会福祉法人 京都府社会福祉事業団桃山学園	30名 （15名×2回）	612-8012	京都府京都市伏見区桃山町遠山50	園長　岩本　俊也
13	教育	本願寺中央幼稚園	10名	600-8356	京都府京都市下京区堀川通り花屋町下ル本願寺内	園長　日野　昭文
14		京都市教育相談総合センター	30名 （15名×2回）	604-8184	京都市中京区姉小路通東洞院東入曇華院前町706-3	所長　今北　幸洋
15		宇治市教育委員会 宇治市不登校児童生徒自立支援教室 「Uji ふれあい教室」	30名 （15名×2回）	611-0021	宇治市宇治琵琶45番地の14	教育長　岸本　文子
16	産業	特定非営利活動法人 大学院連合メンタルヘルスセンター	60名 （30名×2回）	540-0012	大阪市中央区谷町1-6-4 天満橋八千代ビル10階	代表理事　三戸　秀樹

資料１０

心理実習 A・B（学外実習）に係る協定書

実習先名称（以下「甲」という。）と龍谷大学（以下「乙」という。）は、乙が甲に依頼する心理実習 A・B における学外実習（以下「実習」という。）において次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、乙が学生に課す心理実習の一環である学外実習に関して、甲がその受入れをするに当たり、基本的な事項を定めることを目的とする。

（実習の実施）

第２条　実習の実施に当たっては、実施場所、実習期間等の必要事項について、甲乙協議のうえ、その都度定めるものとする。

（実習生の義務）

第３条　甲の実習を希望する学生（以下「実習生」という。）は、実習教育と実習指導において要求される資質と能力を事前に可能な限り身につけるものとする。

２　実習生は、実習において要求される専門知識・態度及び意義・目的に関して、乙における実習教育に基づいて学習するものとする。

３　実習生は、実習において甲に所属し実習を担当する職員（以下「実習指導者」という。）の指導の下に真摯に取り組むものとする。

４　実習生は、実習において要求される守秘義務、信用失墜行為禁止義務及び誠実義務を果たすものとする。

（秘密の保持）

第４条　乙は、実習生に対し、実習期間中に知り得た個人情報について、実習期間中はもとより、実習終了後においても、みだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用しないように指導監督する。

２　実習生が前項に違反し、第三者に損害を与えたときは、乙がその賠償の責めを負うものとする。

（実習期間中の事故等）

第５条　実習中に、実習生の故意又は過失等により、甲又は甲の利用者及び第三者に損害を与えた場合は、実習生又は乙がその損害賠償の責任を負うものとし、その責任の範囲は、乙が加入する賠償責任保険によるものとする。

２　実習期間中において実習生に発生した負傷、災害、感染等による事故の責任は、甲に故意又は過失がある場合を除き、実習生又は乙が負うものとする。

（緊急時の対応）

第６条　乙は甲に対し、あらかじめ実習中の事故、病気、天災等緊急時における連絡先を伝えておくものとする。ただし、やむを得ない事情により甲が乙に対して連絡することが困難な場合は、当該事故等に対して甲の判断で対応後、速やかに連絡するものとする。

（実習中止の措置）

第７条　実習中に第２項各号に定める事態が生じた場合は、実習中止について実習指導者と乙に所属する教員とが即時に協議するものとする。

２　乙に所属する教員は、実習中に次の各号に定める事態が生じた場合、実習中止の措置を取り得ることがあり得ることを、実習開始時に実習生へ伝達し、了解を得ておくものとする。

（１）実習生に帰すべき責任によって実習継続が困難と判断される事態になったとき
（２）乙に帰すべき責任によって実習継続が困難と判断される事態が生じた場合
（３）甲の不適切な実習指導等によって実習の継続が困難になった場合
（４）その他

（実習費）
第８条　実習生の受入れに要する実習費は、甲乙協議のうえ、別途定めるものとする。

（個人情報の目的外使用の禁止）
第９条　甲は、実習生の個人情報を本人の同意なく第三者に提供しない。また、実習以外の目的には使用しないものとする。
２　甲は、実習生の個人情報の管理については万全を期すものとする。

（有効期間）
第 10 条　この協定の有効期間は、契約締結日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、期間満了の 30 日前までに甲乙いずれからもこの協定を解除させる旨の申入れがない場合は、この協定は期間満了日から自動的に 1 年間延長されるものとし、以後も同様とする。
２　「実習中止の措置」に該当する状況に至った場合は、甲乙協議のうえ、本協定の解除又は変更を行うことができる。

（その他）
第 11 条　本協定の履行に関し、特に定めのない事項の取扱い及び解釈上、疑義が生じた場合の取扱いについては、その都度、甲乙協議によるものとする。

以上、協定の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲乙記名捺印のうえ、各自 1 通を保有するものとする。

年　　月　　日

（甲）

（乙）京都市下京区七条通大宮東入大工町 125 の 1
龍谷大学心理学部
心理学部長　吉川 悟

資料１１

実習に関する誓約書

XXXXXXXXXXXX
XX　XX　様

私は、貴院での実習期間中は、貴院における規則および指示を遵守し、誠実に実習することを誓約いたします。

また、実習中に知り得た患者および貴院関係者の個人情報、貴院が所有する種々の情報資産や秘密事項などを実習中はもちろんのこと、実習終了後も第三者に故意または過失によって漏洩したり、貴院の許可なく使用したりしないことを誓約いたします。

私は、この誓約に違反した場合、それ以降の実習を中止することに異議ありません。

年　　月　　日

所　属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（自署）

資料１２

年　　月　　日

学外実習の実施にあたって

新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みながら、学外実習を行います。

実習実施にあたっては指導教員の管理指導の下で実施しますので、下記の留意事項を熟読の上、実習に取り組んで下さい。

なお、実習実施にあたっては社会情勢、大学の方針、実習先の受け入れ都合等あることから大学、学生、実習先のそれぞれが実施可能とした場合に限り行うこととなります。また、実習の開始時期は実習施設によって異なり、場合によっては実習を中止することもあります。不安もあるかと思いますが必ず下記事項を厳守して行動するようにお願いいたします。

記

１．実習前

（１）体調管理

①「体調チェックシート」を原則、実習開始２週間前から毎日記入し、実習期間中も同様に行う。

②日頃からできるだけ人混みを避け、マスク着用や手洗い、うがい、咳エチケット等を心掛けること。

③発熱や咳、喉の痛みなどの風邪の症状や体調不良等がみられた場合には、必ず実習助手に連絡の上、自宅にて休養する。

④次のような場合は身近な医療機関（かかりつけ医）に連絡をして相談する。相談先、受診先に迷った場合は、お住まいの府県の新型コロナ相談センターに連絡する。

・嗅覚障害、味覚障害、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

・重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

・上記以外の方で発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状が続く場合

⑤事前に 37.5 度以上の発熱や風邪症状があった場合、実習開始日からさかのぼって 14 日以内に海外への渡航、新型コロナウイルス陽性者との接触がある、もしくは疑われる場合は、実習開始前に必ず実習助手に報告し、該当する場合には実習の開始を延期する。

（２）実習実施にあたって

①オンライン授業への対応

（ア）実習のためにオンライン授業等への出席に影響が生じる場合は、事前にその授業担当教員に連絡を入れて実習実施の了承を得る。

②その他

（ア）実習当日、体温が 37.5 度以上や体調不良の者、新型コロナウイルスに感染または感染の疑いがある者、またはそのような状態にある近親者等と接触していた場合は実習先担当教員の判断のもと実習を中止する。

（イ）新型コロナウイルス感染拡大状況によって、実習を中止する場合がある。その時は教員、実習助手の指示に従い、行動する。
（ウ）発熱や風邪症状がみられた場合は、症状の改善がみられてから 1 週間は自宅待機とし、実習の再開にあたっては教員、実習助手の指示に従う。
（エ）実習開始に向けて睡眠等の生活習慣を整え、健康に留意する。
（オ）マスクや手指消毒グッズなどは、実習に必要な量を予め購入できる時に準備しておく。

2．実習中

（1）基本事項

①実習中は実習施設スタッフ及び実習指導者の指示に従い、行動する。
②各実習施設が厚生労働省の感染防止対策に準じ、感染防止対策を講じながら業務を行っている。実習施設の一員と認識して行動し、感染予防に努める。

（2）実習当日

①実習当日の朝、自宅で検温を行い、体調に異常がないことを確認する。
②体調不良や検温で 37.5℃以上の場合は、実習を欠席する。
④実習の際は「体調チェックシート」を必ず持参し、実習施設から提出を求められた場合には提出をする。
⑤実習中は不織布マスクを必ず持参し、常時着用して実習を行う。なお、医療機関においては、自作布マスクやポリエステルマスクは不可とし、他施設においても原則不可とする。
⑥実習施設への入退室時は、実習施設の感染予防対策に従うことを基本とするが、石鹸での手洗いやアルコールでの手指消毒、うがいを徹底する（ハンカチ持参）。ただし、実習施設によっては消毒液の在庫量に限りがある場合もあることから、アルコールでの手指消毒の使用は実習施設の指示に従い、可能な限り受講生自身がアルコール入りのティッシュ等を持参して手指消毒を行うこととし、十分な手洗いを基本とする。
⑦文具等は各自が持参する。
⑧実習後は感染予防のため手洗いを行う。

（3）その他

①実習期間中は、外出や接触した相手が分かるように行動記録を手帳等に記録すること。もし感染の疑いや感染した場合には、大学から行動記録の提出が求められるため、すぐに対応できるように記録しておく。

3．実習後

（1）実習当日

①実習後はすみやかに帰宅する。
②帰宅中もマスクを着用し、できるだけ人混みを避けると共に帰宅後は手洗い、うがいを徹底する。

（2）実習期間終了後

①予定していた実習期間が終了したら、必ず実習報告書や体調チェックシート（コピー可）をすみやかに実習助手に提出する。大学への入構が難しい状況の場合は、実習助手に相談を行うこと。

②実習最終日から数えて 2 週間は、外出や接触した相手が分かるように行動記録を手帳などに記録しておく。もし感染の疑いや感染した場合には、大学から行動記録の提出が求められるため、必ず実施しておくこと。

4．体調不良が生じた場合の対応について

（1）実習日前日まで

①発熱や咳、喉の痛みなどの風邪症状、新型コロナウイルスに感染または感染が疑われるような症状、自身や同居人が濃厚接触者となった場合は、実習助手へ連絡の上、自宅にて待機する。

②実習助手から実習施設に連絡、関係部署等と調整。

③症状が改善後、実習の再開にあたっては大学と実習先で調整の上、検討する。

④万が一、自宅待機中に症状の悪化が疑われる場合には、身近な医療機関（かかりつけ医）に各自で連絡を入れて指示を仰ぎ、その結果を実習助手に報告する。

（2）実習日当日（実習前）

①発熱や咳、喉の痛みなどの風邪症状、新型コロナウイルスに感染または感染が疑われるような症状、自身や同居人が濃厚接触者となった場合は、実習助手へ連絡の上、自宅にて待機する。

②実習助手が実習施設や関係部署等と情報共有。

③症状が改善後、実習の再開にあたっては大学と実習先で調整の上、検討する。

④万が一、自宅待機中に症状の悪化が疑われる場合には身近な医療機関（かかりつけ医）に各自で連絡を入れて指示を仰ぎ、その結果を実習助手に報告する。

（3）実習中

①実習中に発熱や咳のどの痛みなどの風邪症状、体調不良が生じた際は、必ず引率教員もしくは実習先指導者に報告し、その日の実習を中止する。

②手洗いうがい等を行い、マスクを着用して帰宅後、実習助手に連絡を入れる。

③実習助手が実習施設や関係部署等と情報共有を行う。

④症状が改善後、実習の再開にあたっては大学と実習先で調整の上、検討する。

⑤万が一、自宅待機中に症状の悪化が疑われる場合には、身近な医療機関（かかりつけ医）に各自で連絡を入れて指示を仰ぎ、その結果を実習助手に報告する。

（4）実習期間後

①発熱や咳、喉の痛みなどの風邪症状、新型コロナウイルスに感染または感染が疑われるような症状、自身や同居人が濃厚接触者となった場合は、実習助手へ連絡の上、自宅にて待機する。

②実習助手が関係部署等と調整。場合によっては実習施設に連絡。

③症状が改善後、その後の活動再開については大学内で検討する。

④万が一、自宅待機中に症状の悪化が疑われる場合には、身近な医療機関（かかりつけ医）に各自で連絡を入れて指示を仰ぎ、その結果を実習助手に報告する。

以上

資料１３

年度

心 理 実 習 Ａ ・ Ｂ

実 習 ノ ー ト

学 籍 番 号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふりがな
実習生氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員確認印

実習担当教員名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 印

実習時間表

心理実習A　28時間(以上)

番号	実習内容 【必要実習時間】	実習時間数
1	オリエンテーション 【2時間】	時間　分
2	実習を行う施設に関して、（ア）～（ウ）に関する理解を深めるための情報収集ならびにグループ学習を行い、実習における各自の目標を定める 【6時間】	時間　分
3	4分野の内、2分野以上での実習 【14時間(以上)】 ※1実習の1回の内容は、「実習先施設に関する事前学習」「見学等実習」「実習記録の作成」「実習担当教員による事後指導」「お礼状の作成」となる。	時間　分
	＜内訳＞	
	A)保健医療分野での実習 【7時間(以上)】	時間　分
	B)福祉分野での実習 【7時間(以上)】	時間　分
	C)教育分野での実習 【7時間(以上)】	時間　分
	D)産業・労働分野での実習 【7時間(以上)】	時間　分
4	実習報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成とその実施 【6時間】	時間　分

心理実習Aでは、「主要5分野」の実習施設における、
（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ）他職種連携および地域連携
（ウ）公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解
に関してグループ学習並びに施設での見学等の実習を行い、実習担当教員又は当該施設実習指導者から指導を受ける。

実習時間表

心理実習B　54時間(以上)

番号	実習内容 【必要実習時間】	実習時間数
1	オリエンテーション 【2時間】	時間　分
2	心理実習Aでの振り返りと心理実習Bにおける目標設定 【2時間】	時間　分
3	4分野の内、2分野以上かつ3施設以上での実習 【30時間】 ※１実習の1回の内容は、「実習先施設に関する事前学習」「見学等実習」「実習記録の作成」「実習担当教員による事後指導」「お礼状の作成」となる。 ※２心理実習Aで医療機関での見学等による実習を実施しなかった実習生は、医療機関での実習が必須。 ※3心理実習Aで実習を行わなかった分野での実習をできるだけ行うものとする。	時間　分
	＜内訳＞	
	A)保健医療分野での実習 【10時間(以上)】	時間　分
	B)福祉分野での実習 【10時間(以上)】	時間　分
	C)教育分野での実習 【10時間(以上)】	時間　分
	D)産業・労働分野での実習 【10時間(以上)】	時間　分
4	心理実習A・Bで実習を行った施設での「心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ」の実際に関するまとめと考察ならびにプレゼンテーション 【6時間】	時間　分
5	心理実習A・Bで実習を行った施設での「他職種連携及び地域連携」の実際に関するまとめと考察ならびにプレゼンテーション 【6時間】	時間　分
6	心理実習A・Bで実習を行った施設での「公認心理師としての職業倫理および法的義務」の実際に関するまとめと考察ならびにプレゼンテーション 【6時間】	時間　分
7	心理実習Bの振り返りとレポート作成 【2時間】	時間　分

心理実習Bでは、心理実習Aでの学習をもとに「主要5分野」の実習施設での見学を中心としてさらなる実習を実施し、
（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ）他職種連携および地域連携
（ウ）公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解
に関して、実習担当教員または当該施設の実習指導者から指導を受ける。

実習の記録

実習生氏名		学籍番号	
実施日	年　月　日(　)	時間	:　～　:	時間数	時間　分

実習項目（以下の項目は実習サブマニュアルpp.12-13の実習内容と対応している。該当する項目の□に✓をつける。）

□ オリエンテーション（心理実習A・B）

□ 実習を行う施設に関する情報収集ならびにグループ学習（心理実習A）

□ 実習報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成とその実施（心理実習A）

□ 心理実習Aでの振り返りと心理実習Bにおける目標設定（心理実習B）

□ 「心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ」のまとめとプレゼンテーション（心理実習B）

□ 「他職種連携及び地域連携」のまとめとプレゼンテーション（心理実習B）

□ 「公認心理師としての職業倫理および法的義務」のまとめとプレゼンテーション（心理実習B）

□ 心理実習Bの振り返りとレポート作成（心理実習B）

実習内容（実習項目で選択した実習内容を記入する。）

振り返りと課題（どのようなことを感じ、考えたかについて記入する。）

担当者からのコメント ※コメントがあれば記載をお願いいたします。	確　認　印

学外実習報告書①

（ 保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働 分野 ） No.

実習生氏名		学籍番号			
実習機関名					
実施日	年　月　日(　)	時間	:　～　:	時間数	時間　分

実習における目標や課題

実習の流れ（実習当日の流れを記入する。）

実習内容（学んだ内容について具体的に記入する）

振り返りと考察、反省、課題点

担当者からのコメント ※コメントがあれば記載をお願いいたします。	確　認　印

学外実習報告書②

（ 保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働 分野 ） No.

実習生氏名		学籍番号	
実習機関名			

事前学習

実施日	年 月 日( )	時間	: ～ :	時間数	時間 分

事前学習内容（事前学習として取り組んだ内容を記入する。）

事後学習

項目	実施日	時間	時間数
①記録の作成	年 月 日( )	: ～ :	時間 分
②実習担当教員による事後指導	年 月 日( )	: ～ :	時間 分
③お礼状の作成	年 月 日( )	: ～ :	時間 分
予備欄			
	年 月 日( )	: ～ :	時間 分
	年 月 日( )	: ～ :	時間 分
	年 月 日( )	: ～ :	時間 分

事後学習内容（①～③について振り返り、気づいたことや課題などを記入する。）

担当者からのコメント ※コメントがあれば記載をお願いいたします。	確 認 印

資料１４

RYUKOKU インターンシップ実習受入先一覧

No.	企業名	受入予定人数
1	株式会社セントラルフルーツ	2
2	神戸トヨペット株式会社	2
3	NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議	2
4	SMBC日興証券株式会社	3
5	エバオン株式会社	3
6	つるや株式会社（つるやゴルフ）	1
7	ネッツトヨタ中央大阪株式会社	5
8	東近江市役所	2
9	フルタニ産業株式会社	2
10	マルホ発條工業株式会社	2
11	一般財団法人休暇村協会	4
12	一般財団法人大阪スポーツみどり財団	4
13	影近設備工業株式会社	2
14	学校法人龍谷大学付属平安中学校・高等学校	1
15	株式会社OVO	2
16	株式会社SC鳥取	5
17	株式会社カンセツ	1
18	株式会社サカイ引越センター	4
19	株式会社ジェイ・エス・ビー（Unilife）	2
20	株式会社ジオリゾーム	1
21	株式会社チクマ	2
22	株式会社フジタ　大阪支店	1
23	株式会社プリンスホテル　ザ・プリンス 京都宝ヶ池	1
24	株式会社プリンスホテル　びわ湖大津プリンスホテル	2
25	株式会社塚腰運送	1
26	HOS株式会社	1
27	株式会社日吉	1
28	吉川運輸株式会社	2
29	京都信用保証協会	1
30	近江八幡市役所	5
31	湖南広域行政組合	5
32	公益財団法人　京都府公園公社	2
33	公成建設株式会社	1
34	高見株式会社（TAKAMI　BRIDAL）	10
35	剤盛堂薬品株式会社	3
36	滋賀ダイハツ販売株式会社	1
37	社会福祉法人みささぎ会	3
38	森トラスト・ホテルズ＆リゾーツ株式会社　琵琶湖マリオットホテル	3
39	生活協同組合コープしが	2
40	双林株式会社	1
41	大成建設株式会社　関西支店	1

No.	企業名	受入予定人数
42	大津市議会局	12
43	大塚産業マテリアル株式会社	2
44	奈良トヨタ株式会社	1
45	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社	2
46	由利ロール株式会社	2
47	守山市役所	2
48	社会福祉法人京都福祉サービス協会	2
49	枚方市役所	1
50	株式会社アウルコーポレーション	2
51	一般財団法人大阪教育文化振興財団　キッズプラザ大阪	2
52	株式会社ホンダカーズ兵庫	3
53	株式会社ヤマダヤ	3
54	株式会社京滋マツダ	2
55	協和テクノロジィズ株式会社	2
56	公益財団法人京都府スポーツ協会	1
57	平林金属株式会社	2
58	株式会社平和堂	5
59	株式会社キャットアイ	5
60	株式会社イシダ	4
61	株式会社レイマック	2
62	株式会社ベネッセスタイルケア	10
63	株式会社京写	2
64	シミズ薬品株式会社	3
65	日本住宅流通株式会社	3
66	小山株式会社	1
67	安全索道株式会社	2
68	大和電設工業株式会社	2
69	村田機械株式会社	1
70	中島工業株式会社	5
71	テック・ワーク株式会社	4

資料１５

○教育職員選考基準（抜粋）

平成６年３月 10 日

第１章　通則
（目的）
第１条　専任教育職員（以下「専任教員」という。）の採用及び昇任の選考は，この基準によって行う。
（運用上の原則）
第２条　本基準は，全学的に定める標準基準であり，運用にあたっては，各学部の事情を考慮しつつすすめることとする。
（選考の原則）
第３条　第１条の選考は，人格，経歴及び教育・研究・社会的業績等を総合的に考慮して行う。
（採用及び昇任の基準）
第４条　教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　博士の学位を有し，研究上の業績を有する者
(2)　大学卒業後14年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(3)　前２号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の特に優れた知識，能力及び実績を有する者
２　准教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　大学卒業後５年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　修士の学位を有する者
(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の優れた知識，能力及び実績を有する者
３　講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　その他特殊な専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
４　助教の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
(3)　専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者
５　助手の選考は，次の各号のいずれかに該当する者を対象として行う。
(1)　学士の学位を有する者
(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者
６　各学部は，第２条の趣旨にのっとり，前５項各号の基準を標準として，選考に関して別に定めることができる。

第5条～第22条　　（省略）

資料１６

○職員定年規程

昭和 54 年 2 月 9 日

第1条　この規程は，「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき，本学専任職員の定年について規定する。
第2条　教育職員の定年は，教授については満68歳とし，准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。
2　事務職員の定年は，満65歳とする。
第3条　定年による退職期日は，定年に達した当該年度末とする。
第4条　退職手当の支給については，別に定める。

付　則
1　この規程は，昭和54年4月1日から施行する。ただし，将来の情勢の推移を考慮して，施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
2　「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付　則(昭和62年5月19日第2条第2項，第3項改正・追加)
この規程は，昭和62年5月19日から施行する。

付　則(昭和63年1月13日第2条改正)
この規程は，昭和63年1月13日から施行する。

付　則(平成4年1月16日題名改正)
この規程は，平成4年1月16日から施行する。
＜参考＞
(評議会議事録に次の事項を記載する)
龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程(制定昭和62年5月19日)に規定する「教育研究上の特別な事情」とは，新学部の設置を意味するものとする。また，第2条第2項は，昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付　則(平成16年3月25日第2条改正)
この規程は，平成16年3月25日から施行する。

付　則(平成19年2月22日第2条改正)
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

資料１７

○特別任用教員規程

平成26年7月10日

（目的）

第1条　龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）の教育・研究の向上をはかるために特別任用教員を置く。

2　前項の任用，服務，給与，諸手当等については，別に定める場合を除いて，この規程の定めるところによる。

（資格・義務）

第2条　特別任用教員とは，教学上特に必要と認められた者で，給与，諸手当及び任用期間等の適用について特別の取扱いをすることを条件として採用された,次の各号の一に該当する者をいう。

(1)　本学の教育方針に賛同し，学部教授会又は大学院研究科委員会が教育研究遂行上必要と認める者で，教授の資格を有する者。ただし，現に本学専任教員として在籍する者及び本学を定年退職した者を除く。

(2)　本学を定年退職した者で，大学院研究科委員会が大学院の講義編成上特に必要と認める者

(3)　本学の教育方針に賛同し，学部教授会が講義編成上特に必要と認める者で，教授，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）の資格を有する者

(4)　再雇用制度の利用を申し出た者

2　特別任用教員は，本学以外の学校の専任教員となることはできない。

3　特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）は，授業及び研究に関して教授会又は大学院研究科委員会に意見を述べることができる。

（任用）

第3条　特別任用教員としての任用及び勤務条件については，当該教員の所属するべき教授会の議を経て，学長の進達により理事長が決定する。

2　特別任用教員Aに任用される者は，特別任用教員A就任承諾書（別記様式）を，学長に提出しなければならない。

3　特別任用教員Bに任用される者は，特別任用教員B就任承諾書（別記様式）及び特別任用

教員B雇用契約書を，学長に提出しなければならない。

（区分）

第4条　特別任用教員は，任用期間の定めのない特別任用教員Aと，任用期間の定めのある特別任用教員Bに区分する。

2　第２条第１項第１号，第２号及び第４号に該当する者は，特別任用教員Aとして任用する。

3　第２条第１項第３号に該当する者は，当該特別任用教員の担当する科目，任用時の本学及び各学部の状況等を考慮の上，特別任用教員A又は特別任用教員Bのいずれかとして任用する。

（特別任用教員A）

第5条　特別任用教員Aの定年は，教授にあっては満68歳，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）にあっては満65歳に達した年度末とする。ただし，第２条第１項第２号に該当する者は，満70歳に達した年度末とする。

2　前項の規定にかかわらず，大学院研究科を担当する特別任用教員Aについて，当該特別任用教員Aが所属する大学院研究科委員会が必要と認める場合，２年以内に限り定年を延長することが出来る。

3　特別任用教員Aの昇任についての基準は，別に定める。

（特別任用教員B）

第6条　特別任用教員Bの任用期間は３年とする。

2　特別任用教員Bの任用にあたっては，任用期間を定める合理的理由を教授会等において定め，募集要項等において予め明示しなければならない。

3　第１項の規定にかかわらず，当該特別任用教員が担当する科目について学部の教学諸条件に照らし，当該特別任用教員Bが所属する学部教授会又は大学院研究科委員会が必要と認める場合には，さらに１回を限度としてこれを更新することができる。ただし，その期間は２年以内とする。

4　第１項及び第３項の規定にかかわらず，特別任用教員Bの任用及び更新は，任用期間最終年において，教授にあっては満68歳，准教授，講師，助教及び助手（実験・実習講師及び実験・実習助手を含む。）にあっては満65歳に達した年度末とする。

（職務）

第7条　特別任用教員は，授業・研究・学生指導，その他これらに関連する業務に従事することをその職務とする。ただし，実験・実習講師及び実験・実習助手の職務については別

に定める。

2　第２条第１項第１号及び第２号の特別任用教員の授業時間数は，１週３コマ（６時間）とする。

3　第２条第１項第３号及び第４号の特別任用教員の授業担当時間数は，専任教員の担当授業時間数に関する基準を準用する。ただし，別表の給与表において「特０」の支給を受ける特別任用教員の授業担当時間数は，１週３コマ（６時間）とする。

（クロスアポイントメント）

第7条の2　特別任用教員のクロスアポイントメントに関する事項については，学校法人龍谷大学就業規則第10条の３の規定を準用する。

（出産休暇）

第7条の3　特別任用教員の出産休暇については，学校法人龍谷大学就業規則第32条の規定を準用する。

（給与）

第8条　特別任用教員の給与は，別表の給与表により支給する。

2　給与表における等級・号俸の決定は，勤務条件・年齢・職階等を考慮して，当該特別任用教員所属の学部教授会又は大学院研究科委員会の申請により，学長がこれを決定する。

3　授業担当時間数が第７条第２項及び第３項の時間数を超える場合は，第９条第３項に定める分担外手当を支給する。

（諸手当）

第9条　特別任用教員には，給与規程を準用した扶養家族手当，住宅手当，厚生・福利手当，通勤手当及び分担外手当を支給する。

2　期末手当は，前条第１項に規定する基本給，扶養家族手当及び当該期における分担外手当を支給の基礎とし，上半期，下半期にそれぞれ1.5ヶ月分を支給する。

3　分担外手当は，１コマあたり月額で教授29,300円，准教授27,300円，講師・助教26,200円をそれぞれ支給する。

（帰国旅費）

第10条　海外から着任した特別任用教員で，大学が認めたときは，部局長会の議を経て帰国旅費を支給する場合がある。

2　旅費の支給基準は，国内の国際空港までは国内出張旅費規程（グリーン料金は支給しない。）を準用し，国内の国際空港から最寄りの空港までのエコノミーの実費とする。

（退職手当）

第11条　特別任用教員には，退職時に退職手当を支給する。

2　前項の算定基準は，最終月の本俸月額×勤務年数×0.5とする。

3　前２項の規定にかかわらず，第14条によって懲戒解雇となった者には，退職手当を支給しない。

（教育研究費・個人研修費）

第12条　特別任用教員（実験・実習講師及び実験・実習助手を除く。）の教育研究費は，別に定める基準により支給する。

2　実験・実習講師及び実験・実習助手の個人研修費は，別に定める基準により支給する。

（育児休業）

第12条の2　特別任用教員の育児休業及び育児短時間勤務に関する事項については，特別任用教員Aは職員育児休業及び育児短時間勤務に関する規程を，特別任用教員Bは任期を定めた職員の育児休業及び育児短時間勤務に関する規程を準用する。

（介護休業）

第12条の3　特別任用教員の介護休業に関する事項については，特別任用教員Aは職員介護休業規程を，特別任用教員Bは任期を定めた職員の介護休業規程を準用する。

（社会保険）

第13条　特別任用教員は，日本私立学校振興・共済事業団の加入者となることができる。

（懲戒）

第14条　特別任用教員の懲戒に関する事項については，学校法人龍谷大学就業規則第５条第３項，第59条，第60条及び第61条の規定を準用する。

（解雇）

第15条　特別任用教員の解雇に関する事項については，学校法人龍谷大学就業規則第42条の規定を準用する。

付　則

１　この規程は，制定日（平成26年7月10日）から施行し，平成27年4月1日に就任する者から適用する。

２　従前の特別任用教員規程により任用された者を任用期間を定めて更新する場合は，なお，従前の規程による。

３　従前の特別任用教員規程により任用された者を任用期間の定めのない特別任用教員として採用する場合は，本規程を適用し，勤務年数は，従前の規程における任用期間を通算する。

付　則（平成27年11月12日第12条の２，第12条の３新設）

この規程は，制定日（平成27年11月12日）から施行する。

付　則（平成28年11月24日第７条の２新設）

この規程は，制定日（平成28年11月24日）から施行する。

付　則（抄）（平成29年３月22日第２条，第４条，第５条改正）

１　この規程は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（令和２年３月５日第10条改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和２年12月３日旧第７条の２繰下，第７条の２新設）

この規程は，制定日（令和２年12月３日）から施行する。

付　則（令和３年２月12日第９条改正）

この規程は，制定日（令和３年２月12日）から施行し，令和２年４月１日から適用する。

別表（第8条関係）

特別任用教員給与表

等級 号俸	Ⅰ　教授	Ⅱ　准教授	Ⅲ　講師・助教・助手	Ⅳ　実験講師・実習講師・実験助手・実習助手	適用条項
特0	教育職員 Ⅰ等級47号俸の40％				第2条第1項第3号のうち，大学の事情により特に就任を要請した者
特Ⅰ	教育職員 Ⅰ等級47号俸の50％	教育職員 Ⅱ等級35号俸の50％	教育職員 Ⅲ等級21号俸の50％	教育職員 Ⅵ等級16号俸の50％	第2条第1項第3号及び第4号
特Ⅱ	教育職員 Ⅰ等級47号俸の60％				第2条第1項第1号及び第2号のうち，主として大学院の講義を担当する者
特Ⅲ	教育職員 Ⅰ等級47号俸の70％				第2条第1項第1号及び第2号のうち，大学の事情により特に就任を要請した者

別記様式（第3条関係）

特別任用教員A就任承諾書

私は，龍谷大学○○○○学部の特別任用教員Aとして，○○年○○月○○日に就任することを承諾いたします。

○○年○○月○○日

龍谷大学
学長　　殿

署名　　捺印

特別任用教員B就任承諾書

私は，龍谷大学○○○○学部の特別任用教員Bとして，○○年○○月○○日から，○○年○○月○○日まで勤務することを承諾いたします。

○○年○○月○○日

龍谷大学
学長　　殿

署名　　捺印

資料１８

学術雑誌等　一覧

No.	タイトル等	和洋区分
1	緩和ケア = The Japanese journal of hospice and palliative care.	和
2	Bildung und Erziehung.	洋
3	Psychological review.	洋
4	Comparative education review.	洋
5	Harvard educational review.	洋
6	Pädagogik und Schulalltag	洋
7	Zeitschrift für Pädagogik	洋
8	Zeitschrift für Pädagogik. Beiheft	洋
9	Educational leadership : journal of the Department of Supervision and Curriculum Development, N.E.A. / National Educational Association.	洋
10	Review of educational research / American Educational Research Association.	洋
11	Sociology of education / American Sociological Association.	洋
12	Journal of educational research.	洋
13	The High school journal / School of Education, North Carolina University.	洋
14	Teachers College record / Teachers College, Columbia University.	洋
15	Journal of transformative education.	洋
16	Developmental psychology / American Psychological Association.	洋
17	季刊教育法.	和
18	教育 / 国土社 [編].	和
19	教育學研究 / 日本教育學會.	和
20	月刊社会教育 / 国土社 [編].	和
21	児童心理 = Child study.	和
22	社会教育 = Social education.	和
23	教育心理学研究 / 日本教育心理学協会編集.	和
24	大阪教育大学幼児教育学研究 / 大阪教育大学幼児教育学研究室 [編集].	和
25	学校運営研究.	和
26	教育学論集 / 大阪市立大学文学部教育学研究室.	和
27	教育学科研究年報 / 関西学院大学文学部教育学科 [編].	和
28	教育社会学研究 / 日本教育社会学会 [編].	和
29	教育心理学年報 / 日本教育心理学会編集.	和
30	教育哲学研究 / 教育哲学会 [編].	和
31	教育と情報 / 文部省大臣官房情報処理課編集.	和
32	駒澤大學教育学研究論集 / 駒澤大學文学部教育学研究室.	和
33	心理學研究 / 日本心理學會編輯.	和
34	生活指導.	和
35	日本の社会教育 / 日本社会教育学会 [編].	和
36	発達 : 明日の世界をつくる子どもたちの発達と人間自身の : hattatsu.	和
37	こころの科学 = Human mind.	和
38	学遊 = Gakuyu / 第一法規.	和
39	海外子女教育.	和
40	教育と教育思想 / 教育思想研究会 [編].	和
41	教職課程.	和
42	日本の教育史学 : 教育史学会紀要 = Historical research of education : bulletin of the Society for Historical Research of Education.	和
43	日本比較教育学会紀要 / 日本比較教育学会.	和
44	別冊発達 : bessatsu hatta[t]su.	和
45	愛知学院大学教養部紀要 / 愛知学院大学教養部.	和
46	ひと.	和
47	人間性心理学研究 / 「人間性心理学研究」編集委員会.	和

48	別冊ひと.	和
49	Encounter : 出会いの広場 / 人間関係研究会 [編].	和
50	臨床教育心理学研究.	和
51	社会教育研究年報 / 名古屋大学教育学部社会教育研究室 [編集].	和
52	鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編 = Bulletin of the Faculty of Education, Kagoshima University. Studies in education / 鹿児島大学教育学部.	和
53	教育諸学研究論文集 / 神戸女子大学教育学科研究会 [編].	和
54	教育論叢 = The research journal of the Department of Teacher Education / 近畿大学教職教育部 [編].	和
55	教育学部論集 / 佛教大学学会 [編集].	和
56	児童教育研究 / 安田女子大学児童教育学会 [編].	和
57	授業研究. 別冊 / 授業研究センター.	和
58	日本社会教育学会紀要 / 日本社会教育学会 [編].	和
59	授業研究21. 別冊, ファックス版 / 明治図書[編].	和
60	日本語教育 / 日本語教育学会 [編].	和
61	授業づくりネットワーク : 授業づくりの情報誌 / ネットワーク編集委員会 [編集].	和
62	臨床教育学研究 = The study of clinical education / 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究編集委員会 [編集].	和
63	大阪大学教育学年報 / [大阪大学人間科学部教育学研究室編].	和
64	比較教育学研究 = Comparative education / 日本比較教育学会編.	和
65	臨床心理学研究 / 日本臨床心理学会 [編集].	和
66	比較教育学 / 日本比較教育学会紀要編集委員会 [編集].	和
67	應用心理学研究 = Japanese journal of applied psychology / 日本応用心理学会 [編].	和
68	教育方法学研究 : 日本教育方法学会紀要.	和
69	社会心理学研究 = Research in social psychology.	和
70	関西教育学会紀要 / 関西教育学会 [編].	和
71	奈良女子大学教育学科年報 / 奈良女子大学文学部教育学・教育方法学・心理学教室 [編集].	和
72	日本教育行政学会年報 / 教育開発研究所 [編].	和
73	授業研究21.	和
74	季刊人間と教育 / 民主教育研究所.	和
75	異文化間教育 = Intercultural education / 異文化間教育学会編集.	和
76	教育実践研究紀要 / 京都教育大学教育学部附属教育実践総合センター [編] = Journal of educational research / Center for Educational Research and Training, Kyoto University of Education.	和
77	学校マネジメント.	和
78	勤労者福祉 / 全国勤労者福祉振興協会//編.	和
79	東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要 = Bulletin of Higashiosaka College and Higashiosaka Junior College / 東大阪大学・東大阪大学短期大学部 [編集].	和
80	関西教育学会研究紀要 / 関西教育学会 [編集].	和
81	ろう教育科学 / ろう教育科学会編.	和
82	近畿大学教育論叢 = The research journal of the Department of Teacher Education, Kinki University / 教職教育部 [編].	和
83	発達心理学研究 / 日本発達心理学会 [編] = The Japanese journal of developmental psychology / Japan Society of Developmental Psychology.	和
84	授業力&学級統率力.	和
85	愛知県立大学教育福祉学部論集 / 愛知県立大学教育福祉学部 [編].	和
86	明治大学心理社会学研究 / 明治大学文学部心理社会学科 [編].	和
87	内外教育.	和
88	カリキュラム研究 / 日本カリキュラム学会編.	和
89	認知心理学研究 : the Japanese journal of cognitive psychology / 日本認知心理学会 [編].	和

90	臨床教育学研究 = Studies in clinical research on human development and education / 日本臨床教育学会 編集.	和
91	日本学習社会学会年報 / 日本学習社会学会 [編].	和
92	行動分析学研究 / 日本行動分析学会.	和
93	早稲田大学教育研究フォーラム / 早稲田大学文学学術院教育学研究室 [編].	和
94	早稲田教育学研究 = Waseda educational research / 早稲田大学文学学術院教育学会 [編].	和
95	社会教育学研究 / 日本社会教育学会 [編].	和
96	教育情報学研究 / 東北大学大学院教育情報学研究部・教育部 [編].	和
97	筑波大学教育学系論集 / 筑波大学教育学系 [編].	和
98	国立教育政策研究所年報 / 国立教育政策研究所 [編].	和
99	教育におけるアドミニストレーション / 名古屋大学教育学部教育経営学研究室 [編集].	和
100	地域教育経営に学ぶ / 名古屋大学教育学部教育経営学研究室 [編集].	和
101	鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教育センター紀要.	和
102	佛教大学教育学部学会紀要.	和
103	植草学園大学研究紀要 = Bulletin of Education and Health Sciences, Uekusa	和
104	教育学論究 / 教育学論究編集委員会 [編].	和
105	Psychoanalytic frontier : 京都精神分析心理療法研究所紀要 : bulletin of Kyoto Institute of Psychoanalysis and Psychotherapy.	和
106	人間発達学研究 / 愛知県立大学大学院人間発達学研究科 [編].	和
107	独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要.	和
108	The Educational forum.	洋
109	The American journal of psychology.	洋
110	British journal of sociology of education.	洋
111	Intercultural education / International Association for Intercultural Education.	洋
112	International journal of lifelong education.	洋
113	Journal of the American Academy of Religion.	洋
114	Process studies.	洋
115	Buddhist	洋
116	印度學佛教學研究 / 日本印度學佛教學會 [編].	和
117	大谷學報 / 大谷學會 [編].	和
118	宗學院論集 / 本願寺派宗學院.	和
119	眞宗學 / 龍谷大學眞宗學會 [編].	和
120	眞宗研究會紀要 / 龍谷大学大学院真宗研究会.	和
121	眞宗研究 : 眞宗連合學會研究紀要 / 眞宗連合學會 [編集].	和
122	親鸞教学 / 大谷大学真宗学会 [編].	和
123	東方學 / 東方學會 [編].	和
124	東洋学論叢 / [東洋大学文学部].	和
125	佛教學研究 / 竜谷大學佛教學會 [編].	和
126	理想 / 理想社.	和
127	龍谷教学 / 龍谷教学会議.	和
128	龍谷史壇.	和
129	佛教文化研究所紀要 / 龍谷大学 [編].	和
130	宗教研究 / 宗教研究會 [編].	和
131	愛知学院大学文学部紀要 / 愛知学院大学文学会.	和
132	大崎學報.	和
133	研究紀要 / 華頂短期大学 [編].	和
134	教化研究 / 教化研究所 [編].	和
135	京都女子大学人文論叢.	和
136	三康文化研究所所報 / 三康文化研究所.	和
137	三康文化研究所年報 / 三康文化研究所.	和
138	大法輪.	和

139	天台學報 / 天台學會 [編].	和
140	同朋仏教 / 同朋大学仏教学会.	和
141	東洋学研究 / 東洋大学東洋学研究所 [編].	和
142	日蓮教学研究所紀要 / 立正大学日蓮教学研究所 [編].	和
143	日本思想史研究 / 東北大学文学部日本思想史学研究室 [編].	和
144	豊山学報 / 大正大学豊山学会 [編].	和
145	高田学報 / 高田学報社.	和
146	真宗教学研究 / 真宗同学会 [編集].	和
147	在家佛教 : zaike bukkyō	和
148	基督教研究 / 京都同志社大學神學科内基督教研究會 [編].	和
149	人間文化 : 愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所.	和
150	密教文化 / 高野山大學密教研究會 [編].	和
151	大乘 / 大乗刊行会.	和
152	駒澤大學北海道教養部論集 / 駒沢大學北海道教養部 [編].	和
153	高野山大学密教文化研究所紀要 / 高野山大学密教文化研究所 [編].	和
154	福音と世界 / 新教出版社 [編].	和
155	九州龍谷短期大学紀要 / 九州龍谷学会.	和
156	中央仏教学院紀要 / 中央仏教学院紀要編集委員会.	和
157	佛教文化 / 佐賀龍谷短期大学仏教文化研究所.	和
158	仏教学論集 / 立正大学大学院仏教学研究会.	和
159	叡山学院研究紀要 / 叡山学院.	和
160	日本研究 : 国際日本文化研究センター紀要 / 国際日本文化研究センター.	和
161	中外日報.	和
162	いのち / 九州龍谷短期大学 [編].	和
163	解放の真宗 / 解放真宗研究会 [編].	和
164	生命の足音 : 教化センター紀要 / 大阪教区教化センター.	和
165	現代密教 / 智山伝法院.	和
166	文学部論集 / 佛教大学学会 [編].	和
167	密教学会報 / 高野山大学密教学会, 1	和
168	深草教学 / 浄土宗西山深草派教学部.	和
169	学びの友 / 中央仏教学院通信教育部.	和
170	真宗文化 : 真宗文化研究所年報 / 光華女子大学・光華女子短期大学真宗文化研究所 [編].	和
171	東方學會報 / 東方学会 [編].	和
172	大正大學研究紀要. 人間學部・文學部 / 大正大學出版部 [編].	和
173	佛教大學大學院紀要 / 佛教大學大學院.	和
174	教行信証研究 / 黎明学舎.	和
175	中国思想史論集.	和
176	寺門興隆 : jimonkohryu.	和
177	佛教音楽ニューズレター / 本願寺仏教音楽・儀礼研究所.	和
178	浄土真宗総合研究 / 教学伝道研究センター [編集].	和
179	佛教大学大学院紀要. 社会学研究科篇 / 佛教大学大学院 [編].	和
180	佛教大学大学院紀要. 社会福祉学研究科篇 / 佛教大学大学院 [編].	和
181	本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター / 浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター (本願寺仏教音楽・儀礼研究所).	和
182	教學院紀要 / 眞宗高田派教學院//編.	和
183	月刊住職 : gekkanjushoku.	和
184	道 / 公益財団法人仏教伝道協会[発行]..	和
185	佛光寺時報.	和
186	仏教看護・ビハーラ / 仏教看護・ビハーラ学会編.	和
187	グリーフケア / 上智大学グリーフケア研究所 [編].	和
188	親鸞の水脈 / 真宗文化センター [編].	和

189	死の臨床 / 死の臨床研究会.	和
190	ホスピスケアと在宅ケア : 日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌 / 日本ホスピス・在宅ケア研究会 [編].	和
191	The Review of metaphysics.	洋
192	Zeitschrift für philosophische Forschung	洋
193	The classical quarterly. New series.	洋
194	The Classical review. New series.	洋
195	Ethics : an international journal of social, political, and legal philosophy.	洋
196	History of religions : an international journal for comparative historical studies.	洋
197	The journal of religion.	洋
198	Kant	洋
199	Philosophical review / Faculty of the Sage School of Philosophy, Cornell University.	洋
200	Philosophy and phenomenological research / International Phenomenological Society.	洋
201	Revue de l'histoire des religions.	洋
202	Revue de métaphysique et de morale	洋
203	Philosophy.	洋
204	Mind : a quarterly review of philosophy / the Mind Association.	洋
205	Man and world.	洋
206	Philosophical quarterly / Scots Philosophical Club.	洋
207	Philosophical studies : an international journal for philosophy in the analytic tradition.	洋
208	Philosophische Rundschau : eine Vierteljahresschrift für Philosophische Kritik	洋
209	Revue internationale de philosophie : revue trimestrielle.	洋
210	Studia Leibnitiana : Zeitschrift für Geschichte der Philosophie und der Wissenschaften	洋
211	Husserl studies.	洋
212	Philosophical investigations.	洋
213	Topoi.	洋
214	Philosophisches Jahrbuch.	洋
215	Environmental ethics : an interdisciplinary journal dedicated to the philosophical aspects of environmental problems.	洋
216	Heidegger studies.	洋
217	Continental philosophy review.	洋
218	Think : philosophy for everyone : a journal of the Royal Institute of Philosophy.	洋
219	Royal Institute of Philosophy supplement.	洋
220	American Catholic philosophical quarterly : journal of the American Catholic Philosophical Association.	洋
221	Revue thomiste : questions du temps présent	洋
222	紀要. 言語・文学編 / 愛知県立大学外国語学部.	和
223	紀要. 地域研究・関連諸科学編 / 愛知県立大学外国語学部 [編].	和
224	國學院大學日本文化研究所紀要.	和
225	國士舘大學教養論集 / 國士舘大學教養學會 [編集].	和
226	思想 / 岩波書店 [編].	和
227	白山哲学 / 東洋大学哲学会 [編集].	和
228	横浜市立大学論叢. 社会科学系列 / 横濱市立大學學術研究會編.	和
229	龍谷哲学 / 龍谷大学哲学会 [編].	和
230	科学哲学 / 日本科学哲学会 [編].	和
231	関西大学哲学 / 関西大学哲学会 [編].	和
232	中国哲学論集 / 九州大学中国哲学研究会 [編].	和
233	基督教学研究 / 京都大学基督教学会.	和
234	古代哲学研究 / 古代哲学談話会.	和
235	金光教學 / 金光教學院研究部編集.	和
236	思索 / 東北大学哲学研究会.	和

237	神學研究 / 關西學院大學神學部 [編].	和
238	人文科學科紀要. 哲学 / 東京大學教養學部人文科學科哲學研究室編.	和
239	哲学科紀要 / 上智大学哲学科.	和
240	哲學研究 / 京都哲學會 [編].	和
241	哲学年誌 / 法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻 [編].	和
242	哲学論叢 / 大阪大学文学部哲学哲学史第二講座 [編].	和
243	哲学会誌 / 大阪市立大学哲学会 [編].	和
244	同志社哲學年報 / Societas Philosophiae Doshisha.	和
245	Philosophia / 早稲田大學哲學會.	和
246	実践哲学研究 / 実践哲学研究会 [編].	和
247	富山大学人文学部紀要 / 富山大学人文学部.	和
248	人間学紀要 / 上智大学一般教育人間学研究室 [編].	和
249	文研論集 / 専修大学大学院学友会 [編].	和
250	哲学会誌 / 学習院大学哲学会 [編].	和
251	立正大学哲学・心理学会紀要 / 立正大学哲学・心理学会 [編].	和
252	倫理学研究 / 関西倫理学会.	和
253	倫理學年報 / 日本倫理學會編.	和
254	文経論叢. 哲学篇 / 弘前大学人文学部.	和
255	創文 / 創文社.	和
256	哲学論叢 / 哲学論叢刊行会編.	和
257	紀要. 哲学科 / 中央大学文学部 [編].	和
258	東洋哲学研究所紀要 / 東洋哲学研究所 [編].	和
259	東北学院大学論集. 人間・言語・情報 / 東北学院大学学術研究会 [編].	和
260	関西学院哲学研究年報 / 関西学院大学哲学研究室 [編].	和
261	国学院大学日本文化研究所報 / 国学院大学日本文化研究所.	和
262	哲学論文集 / 九州大学哲学会 [編].	和
263	ヘーゲル學報 : 西洋近現代哲學研究 / 京都ヘーゲル讀書會編.	和
264	創価大学人文論集 / 創価大学人文学会.	和
265	カンティアーナ / 大阪大学文学部哲学哲学史第二講座.	和
266	Σ υ μ π ο σ ι ο ν / 広島大学文学部哲学研究室 [編集].	和
267	人文学論集 / 大阪府立大学人文学会 [編].	和
268	上智哲学誌.	和
269	人文科学研究 / 高知大学人文学部人文学科 [編集].	和
270	哲学論究 / 同志社大学哲学会 [編].	和
271	文化と哲学 / 静岡大学哲学会 [編].	和
272	美學美術史論集 / 成城大學大學院文學研究科 [編].	和
273	姫路獨協大学外国語学部紀要 / 姫路獨協大学外国語学部 [編集].	和
274	倫理学紀要 / 東京大学文学部倫理学研究室.	和
275	立命館哲学 / 立命館大学哲学会 [編].	和
276	倫理学研究 / 広島大学倫理学研究会.	和
277	山口大学哲学研究 / [山口大学哲学研究会編].	和
278	成城美学美術史 / 成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻.	和
279	紀要. 地域研究・国際学編 / 愛知県立大学外国語学部 [編].	和
280	論集 / 三重大学人文学部哲学思想学系, 三重大学教育学部哲学倫理学教室.	和
281	論集 / 東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室 [編].	和
282	哲學 / 日本哲學會 [編].	和
283	宗教哲学研究 / 京都宗教哲学会編.	和
284	コムニカチオン = Kommunikation / 日本ヤスパース協会 [編].	和
285	新キェルケゴール研究 = Kierkegaard studies / キェルケゴール協会 [編].	和
286	モラリア / 東北大学倫理学研究会 [編集].	和
287	臨床哲学ニューズレター / 大阪大学文学部倫理学研究室 [編集].	和

288	臨床哲学のメチエ : 臨床の知のネットワークのために =Métier de la philosophie clinique	和
289	近世哲学研究 / 京大・西洋近世哲学史懇話会 [編].	和
290	哲学の探求 : 全国若手哲学研究者ゼミナール報告集.	和
291	UTCP研究論集 / 21世紀COE共生のための国際哲学交流センター [編].	和
292	University of Tokyo Center for Philosophy bulletin.	和
293	東北学院大学教養学部論集 / 東北学院大学学術研究会 [編].	和
294	東北哲学会年報 / 東北哲学会.	和
295	Nagoya journal of philosophy.	和
296	立正大学哲学会紀要 / 立正大学哲学会 [編].	和
297	論集 / 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室 [編].	和
298	アルケー : 関西哲学会年報 / 関西哲学会 [編輯].	和
299	人文科学論叢 / 熊本大学大学院人文社会科学研究部(文学系) [編].	和
300	人間存在論 = Menschenontologie / 京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会 [編集].	和
301	Inquiry : an interdisciplinary journal of philosophy and the social sciences.	洋
302	Numen : international review for the history of religions.	洋
303	Phronesis : a journal for ancient philosophy.	洋
304	The Thomist : a speculative quarterly review / Dominican Fathers of the Province of St. Joseph.	洋
305	Artibus Asiae / Institute of Fine Arts, New York University.	洋
306	The Eastern Buddhist. New series / the Eastern Buddhist Society.	洋
307	The Adyar Library bulletin / the Adyar Library and Research Centre, the Theosophical Society.	洋
308	Indian linguistics : journal of the Linguistic Society of India / Linguistic Society of India.	洋
309	Journal of the American Oriental Society.	洋
310	ournal asiatique : recueil de mémoires et de notices relatifs aux études orientales	洋
311	Journal of Indian philosophy.	洋
312	The journal of intercultural studies / Kansai University of Foreign Studies, Intercultural Research Institute.	洋
313	Oriens Extremus : Zeitschrift für Sprache, Kunst und Kultur der Länder des fernen Ostens	洋
314	Tibet journal : an international publication for the study of Tibet published by the Library of Tibetan Works and Archives / the Library of Tibetan Works and Archives.	洋
315	Wiener Zeitschrift für die Kunde des Morgenlandes	洋
316	Bulletin of Tibetology. New series.	洋
317	Journal of the Pali Text Society.	洋
318	Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens und Archiv für indische Philosophie	洋
319	The journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland.	洋
320	Berliner indologische Studien	洋
321	Asian religious studies information.	洋
322	Bulletin of the Deccan College Research Institute.	洋
323	Asiatische Studien : Zeitschrift der Schweizerischen Gesellschaft	洋
324	A review of rare Buddhist texts	洋
325	Nagoya studies in Indian culture and Buddhism : Saṃbhāṣā	洋
326	Studies in central and east Asian religions : journal of the Seminar for Buddhist Studies, Copenhagen & Aarhus.	洋
327	Journal of the International Association of Buddhist Studies.	洋
328	Indologica taurinensia.	洋
329	The East Asian library journal.	洋
330	International journal of Buddhist thought & culture.	洋
331	Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft	洋
332	Archives of Asian art.	洋

333	Gandhāran studies	洋
334	東洋学術研究 / 東洋学術研究所 [編].	和
335	徳島大学教養部紀要. 人文・社会科学 / 徳島大学教養部.	和
336	名古屋学院大学論集. 人文・自然科学篇.	和
337	南都佛教 / 南都佛教研究会.	和
338	佛教研究 / 国際佛教徒協會 [編].	和
339	駒沢大学文化 / 駒沢大学文学部文化学教室.	和
340	立命館文學 / 立命館研究所編輯.	和
341	大倉山論集 / 大倉山文化科学研究所.	和
342	駒沢大学大学院仏教学研究会年報 / 駒沢大学大学院仏教学研究会.	和
343	駒澤大學佛教學部研究紀要 / 駒澤大學 [編].	和
344	駒澤大学佛教学部論集 / 駒澤大学佛教学部研究室 [編集].	和
345	常照 : 仏教大学図書館報.	和
346	湘南史学 / 東海大学大学院日本史学友会.	和
347	禅研究所紀要 / 愛知学院大学禅研究所.	和
348	大正大学綜合佛教研究所年報 / 大正大学綜合佛教研究所.	和
349	中央学術研究所紀要 / 中央学術研究所 [編].	和
350	ビブリア : 天理図書館報 / 典籍学会.	和
351	東海史學 / 東海大学史学会.	和
352	東海佛教 / 東海印度学仏教学会.	和
353	成田山仏教研究所紀要 / 成田山新勝寺 [編].	和
354	日本西蔵学会々報 / 日本西蔵学会.	和
355	佛教學 / 山喜房佛書林.	和
356	佛教学セミナー / 大谷大学佛教学会.	和
357	佛教文化研究 / 佛教文化研究所 [編輯].	和
358	文化 / 東北帝國大學文科會編輯.	和
359	法華文化研究 / 立正大学法華経文化研究所 [編].	和
360	密教學 / 種智院大学密教学会.	和
361	密教学研究 / 大正大学真言学研究室内日本密教学会事務局.	和
362	立正史学 / 立正大学史学会.	和
363	行信学報 / 行信教校.	和
364	日本佛教學會年報 / 日本佛教學會.	和
365	佛教文化 / 東京大学佛教青年会.	和
366	佛教大学佛教文化研究所年報 / 佛教大学佛教文化研究所.	和
367	武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要 / 武蔵野女子大学仏教文化研究所.	和
368	京都文化短期大学紀要 / 京都文化短期大学学会 [編].	和
369	印度哲学仏教学 / 北海道印度哲学仏教学会 [編].	和
370	一味 / 一味出版部.	和
371	金沢文庫研究 / 神奈川県立金沢文庫 [編].	和
372	精神科学 / 日本大学文理学部哲学研究室 [編].	和
373	札幌学院大学人文学会紀要 / 札幌学院大学人文学会.	和
374	龍谷大学佛教学研究室年報.	和
375	研究紀要 / 京都女子大学宗教・文化研究所.	和
376	佛教大学総合研究所報.	和
377	佛教學報.	和
378	徳島大学教養部倫理学科紀要 / 徳島大学教養部倫理学研究室.	和
379	財団法人松ケ岡文庫研究年報 / 松ケ岡文庫.	和
380	日本文化史研究 / 帝塚山短期大学日本文化史学会 [編集].	和
381	美術資料.	和
382	宗教学会報 / 大谷大学宗教学会.	和
383	教化研究 / 浄土宗総合研究所 [編集].	和

384	A.R.I.紀要 / Abhidharma Research Institute.	和
385	研究紀要 / 長岡短期大学 [編].	和
386	西山学会年報 / 西山学会 [編].	和
387	研究報告 / 花園大學國際禅學研究所 [編].	和
388	東方.	和
389	佛教大学仏教学会紀要 / 佛教大学仏教学会.	和
390	仏教学会報 / 高野山大学仏教学研究室.	和
391	研究所報 / 大谷大学真宗総合研究所.	和
392	原始仏教 = Original buddhism / 原始仏教研究室編.	和
393	東洋大学中国哲學文學科紀要 / 東洋大学文学部中国哲学文学科 [編].	和
394	インド哲学仏教学研究 / 東京大学文学部印度哲学研究室.	和
395	椙山女学園大学研究論集. 人文科学篇.	和
396	椙山女学園大学研究論集. 社会科学篇.	和
397	椙山女学園大学研究論集. 自然科学篇.	和
398	日本思想史学 / 日本思想史学会 [編].	和
399	インド学チベット学研究 = Journal of Indian and Tibetan studies / インド哲学研究会 [編].	和
400	国際仏教学大学院大学研究紀要 / 国際仏教学大学院大学 [編].	和
401	天理大学おやさと研究所年報 = Annual bulletin of Oyasato Research Institute, Tenri University.	和
402	仏教文化研究論集 / 東京大学仏教青年会.	和
403	高野山大学密教文化研究所紀要. 別冊 / 高野山大学密教文化研究所 [編].	和
404	種智院大学密教資料研究所紀要 / 種智院大学密教資料研究所 [編集].	和
405	広島大学大学院文学研究科論集.	和
406	戒律文化 / 戒律文化研究会 [編].	和
407	創価大学国際仏教学高等研究所年報 = Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University / 創価大学・国際仏教学高等研究所 [編].	和
408	広島大学大学院文学研究科論集. 特輯号.	和
409	広島大学文学部紀要. 特輯号 / 広島大学文学部 [編].	和
410	成田山仏教図書館報.	和
411	東方人文學誌 = Oriental humanities / 文津出版社 [編].	和
412	禅研だより / 愛知学院大学禅研究所参禅会 [編集].	和
413	白山中国学 / 東洋大学中国学会 [編].	和
414	寶章.	和
415	東アジア仏教研究 / 東アジア仏教研究会 [編集].	和
416	愛知学院大学人間文化研究所報.	和
417	種智院大学研究紀要 / 種智院大学 [編].	和
418	日本仏教綜合研究 / 日本仏教綜合研究学会 [編].	和
419	寺院史研究 / 寺院史研究会.	和
420	研究紀要 / 醍醐寺文化財研究所.	和
421	Journal of Indological studies / Association for the Study of the History of Indian Thought.	和
422	興隆学林紀要 / 興隆学林専門学校 [編集].	和
423	武蔵野大学仏教文化研究所紀要 / 武蔵野大学仏教文化研究所 [編].	和
424	南アジア古典学 / 九州大学大学院人文科学府・文学部インド哲学史研究室 [編].	和
425	日蓮仏教研究 / 常円寺日蓮仏教研究所 [編].	和
426	紀要 / 蓮花寺佛教研究所 [編輯].	和
427	山家學会紀要 / 山家學会 [編].	和
428	奈良学研究 / 帝塚山短期大学奈良学学会 [編].	和
429	西日本宗教学雑誌 / 西日本宗教学会.	和
430	哲学 / 広島哲学会 [編].	和
431	四天王寺大学紀要.	和
432	佛教大学大学院紀要. 文学研究科篇 / 佛教大学大学院 [編].	和

433	佛教大学大学院紀要. 教育学研究科篇 / 佛教大学大学院 [編].	和
434	西山学報 / 京都西山短期大学, 西山学会 [編].	和
435	成田山文化財団年報 / 成田山仏教図書館, 成田山霊光館, 成田山書道美術館 [編集].	和
436	法鼓佛學學報.	和
437	仏教学部論集 / 佛教大学仏教学部 [編].	和
438	広島大学現代インド研究 : 空間と社会 / 広島大学現代インド研究センター [編] = / the Center for Contemporary India Studies, Hiroshima University.	和
439	Critical review for Buddhist studies	和
440	Acta Tibetica et Buddhica.	和
441	東アジア仏教学術論集 : 韓・中・日国際仏教学術大会論文集 / 東洋大学東洋学研究所 [編集].	和
442	佛學研究	和
443	美術史研究 / 早稲田大学美術史学会 [編集].	和
444	東洋思想文化.	和
445	川崎大師教学研究所紀要.	和
446	成田圖書館報.	和
447	場所 = Basho / 西田哲学研究会編.	和
448	共生思想研究年報 / 東洋大学共生思想研究センター編 = Annual report of kyosei studies / Research Center for Kyosei Philosophy, Toyo University.	和
449	国際哲学研究 = Journal of international philosophy / 東洋大学国際哲学研究センター編.	和
450	国際哲学研究. 別冊 / 東洋大学国際哲学研究センター編 = / edited & published by International Research Center for Philosophy, Toyo University.	和
451	圓光佛學學報.	和
452	中華佛學研究.	和
453	広島大学文学部論集.	和
454	對法雜誌 / 対法雑誌刊行会 [編].	和
455	Indo	洋
456	Buddhist studies review.	洋
457	Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry : official publication of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry.	洋
458	Research in developmental disabilities.	洋
459	Journal of experimental psychology. Animal learning and cognition.	洋
460	Attention deficit and hyperactivity disorders.	洋
461	Journal of attention disorders.	洋
462	Psychotherapy : theory, research and practice.	洋
463	心理学評論.	和
464	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集.	和
465	家族療法研究 = Japanese journal of family therapy.	和
466	精神医学 / 医学書院.	和
467	臨床教育人間学 : 年報 / 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学講座 [編].	和
468	早稲田大学臨床心理学研究 / 早稲田大学大学院人間科学研究科心理相談室 [編].	和
469	神戸親和女子大学大学院研究紀要.	和
470	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科研究誌.	和
471	同志社心理 = Doshisha puske.	和
472	立正大学心理学研究年報 / 立正大学心理学部, 立正大学大学院心理学研究科 [編].	和
473	龍谷大学大学院臨床心理相談室紀要 / 龍谷大学大学院臨床心理相談室 [発行]..	和
474	関西学院大学心理科学研究 / 関西学院大学心理科学研究室 [編].	和

学生の確保の見通し等を記載した書類

― 目　次 ―

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し 2

ア　定員充足の見込み

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ウ　学生納付金の設定の考え方

②学生確保に向けた具体的な取組状況 5

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要） 6

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 7

学生の確保の見通し等を記載した書類

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

本学は、既設の文学部臨床心理学科を基礎として、令和 5（2023）年 4 月の心理学部設置をめざしており、次のとおり、学生の確保の見通し等を説明する。

1）既設の文学部臨床心理学科の志願状況から見る学生確保の見込み

心理学部は、上述のとおり、文学部臨床心理学科を基礎として設置するものであり、入学定員・収容定員は次のとおり計画している。

心理学部心理学科				文学部臨床心理学科		
入学定員	編入学定員	収容定員	←	入学定員	編入学定員	収容定員
255 名	＜3 年次＞ 10 名	1,040 名		99 名	＜3 年次＞ 2 名	400 名

文学部臨床心理学科の志願者数は、年々増加傾向にある。平成 29（2017）年度に 1,798 名であった志願者は、令和 3（2021）年度では 2,632 名となっており、志願倍率は 26.6 倍と、多くの志願者数と高い倍率を維持している（別添：資料 1 を参照）。

令和 3（2021）年度の志願者数を用いて、心理学部の入学定員 255 名で志願倍率を試算すると、10.3 倍の高い倍率となる。そのため、心理学部として入学定員を増員しても、今後も安定的に多くの志願者の獲得が期待でき、定員充足を達成できるものと考えている。

2）広範囲から志願者を獲得できるエリアと恵まれた交通アクセス

本学は、京都市及び滋賀県大津市に計 3 つのキャンパスを有しており、心理学部は主に 1･2 年次：深草キャンパス（京都市伏見区）、3･4 年次：大宮キャンパス（京都市下京区）を拠点に教育研究活動を展開する予定である。

1･2 年次が通う深草キャンパスは京都市伏見区に位置し、JR 奈良線「稲荷駅」、京阪本線「龍谷大前深草駅」や京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋駅」からアクセスが可能である。また、3・4 年次が通う大宮キャンパスは京都市下京区に位置し、JR 東海道本線「京都駅」や JR 山陰本線「梅小路京都西駅」からのアクセスが可能である。両キャンパスは今後も一定規模の 18 歳人口が見込まれる近畿圏（大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県）の主要都市からの通学が可能である。こうした交通至便なキャンパスに設置する心理学部は、上記の志願状況のとおり、今後も多くの志願者を獲得できるものと考えている。

3）学生流出入動態からみる学生確保の見通し

本学が立地する近畿圏は、学生の流出入状況において、流入が流出を上回る流入超過エリアにあたる。この中で、心理学部が位置する京都府の流出入状況を分析する。資料 2 は、近畿圏内の学生流出入状況を県別に示したものである。京都府は、流入者数が 26,717 名であることに対して、流出者数は 7,633 名であり、流入超過の状況にある。また、近畿圏は関東圏とともに、高校の生徒数（大学進学者数）の規模が大きいエリアである。

他方、資料 3 は、心理学部の基礎となる文学部臨床心理学科の過去 5 年間の都道府県別志願者数を表したものである。令和 3（2021）年度の志願者が最も多い都道府県は大阪府（33.2%）であり、京都府（16.6%）、滋賀県（8.1%）、兵庫県（7.9%）、奈良県（7.4%）と続いている。このように、文学部臨床心理学科は、近畿圏で全体の約 75%の志願者数を集めている状況がある。上述のとおり、近畿圏は流入超過であるとともに、多くの高校生を擁するエリアであり、その近畿圏を主な志願者の対象としている本学は、十分な学生確保を図れる環境を有しているといえる。

上記 1）～ 3）を踏まえ、心理学部の定員充足の見込みは十分にあるものと判断する。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1）第三者機関による調査

心理学部の設置構想に基づき、第三者機関である「高等教育総合研究所」への委託による「龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称)）」設置に係る学生確保の見通し調査」を実施した（別添：資料 4 を参照)。

調査対象は近畿圏の高等学校 131 校の合計 18,697 名であり、本アンケート調査は、心理学部開設年度（令和 5 年）に大学 1 年生となる令和 3（2021）年度時点での高校 2 年生を対象としている。

本アンケート調査の方法は、アンケート用紙とともに、心理学部の概要を記したパンフレット（別添：資料 5 を参照）を高校へ郵送して実施した。調査結果において、「心理学部」を「受験したいと思う」と回答した人は、1,599 名（8.6%）であった。その 1,599 名に、入学希望を聞いたところ、「入学したい」と回答した人は 627 名（39.2%）であり、入学定員 255 名を大きく上回る結果（入学定員の 2.46 倍）となっている。

今回の調査は、主に近畿圏の高校 2 年生という、限られた者を対象としたアンケート調査である。本学のこれまでの実績やブランド力を勘案すると、実際にはより多くの志願者数が期待できると考えられ、心理学部の学生確保の見通しは良好であると判断している。

2）18 歳人口動態と学問系統別志願状況

国内 18 歳人口の減少は今後も継続的に進み、近畿エリアの 18 歳人口は、令和 14（2032）年度には令和 2（2020）年度と比較し約 3 万人減少すると見込まれている。龍谷大学の志願者数の多くを占める近畿圏においても令和 2（2020）年度の 18 歳人口を 100%とした場合、令和 14（2032）年度には、84.9%まで減少すると見込まれている。しかし、令和 2（2020）年度の近畿エリアにおける地元大学への進学者率は 46.3%であるが、これは平成 23（2011）年度の 44.7%と比較して 1.6 ポイント上昇しており、地元志向が強まっている傾向にある（別添：資料 6 を参照）。

一方、日本私立学校振興・共催事業団「私学経営情報センター」が発行している「私立大学・短期大学等 入学志願動向」の学部系統別志願者数によると、心理学部が属する「人文科学系」は平成 29（2017）年度の 556,791 名から令和 2（2020）年度には 608,854 名へと増加傾向にあった。しかし、令和 3（2021）年度は私立大学全体の志願者が減少したことに伴い、「人文科学系」の志願者数も 520,901 名（前年比 85.6%）へと減少したが、全志願者数の 13.6%を占めており、多くの志願者を集めている分野に属しているといえる（別添：資料 7 を参照）。

これらの状況を踏まえると、18 歳人口が減少していく状況下において、厳しい状況が続くものの、立地や本学の志願状況の推移から、安定した志願者確保は十分に可能であると認識する。

3）大学全体の志願状況と社会的評価

大手の進学支援関連企業が採用する豊島継男事務所の統計によると、令和 3（2021）年度の私立大学一般選抜入学試験志願者順位において、本学は全国 12 位であり、令和 2（2020）年度の 16 位から順位が大きく上がった。私立大学全体の志願者数が減少し、志願者順位の上位大学でも大きく減少する中、本学は 3,098 名の増加となり、受験生から志願される大学としてそのポジションを確立している（別添：資料 8 を参照）。

また、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが毎年実施している「進学ブランド力調査」でも、令和 3（2021）年度における本学の大学全体の「志願度」は関西エリア 9 位であった（私立大学に限定すると 6 位）。過去 5 年間をみても、本学は全体で 9 位のポジションを維持しており、受験生からの志願度は安定的に高いといえる（別添：資料 9 を参照）。

さらに、心理学部が属する文系分野における「志願度」では、令和 3（2021）年度は関西エリアで 6 位であり、受験生からの志願度は高い状況にあるといえる（別添：資料 9 を参照）。

ウ　学生納付金の設定の考え方

＜心理学部＞

学生納付金の設定にあたっては、大学の健全な運営・心理学部の教育研究の実現に鑑み、次のとおり設定した。

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度合計
龍谷大学心理学部心理学科	260,000	1,007,000	0	1,267,000

また、本学部が競合すると考えられる近隣の心理系学部・学科の学生納付金（初年度納入金）は次のとおりである。ほぼ中間に位置する金額設定であり、合理的な金額設定であると考えている。

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度合計
同志社大学心理学部心理学科	200,000	973,000	193,000	1,366,000
立命館大学総合心理学部総合心理学科	200,000	1,206,600	0	1,406,600
関西大学社会学部心理学専攻	260,000	930,000	0	1,190,000
近畿大学総合社会学部総合社会学科心理系専攻	250,000	1,085,000	20,000	1,355,000
追手門学院大学心理学部心理学科	160,000	850,000	185,000	1,195,000

※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づく。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

1）記者発表やホームページなどによる情報発信

令和 3（2021）年 4 月より、心理学部の概要を掲載した特設サイトを開設し、同学部の教育内容や特色等を広く発信している（https://www.ryukoku.ac.jp/newfaculty/）。情報のアップデートの頻度を高くし、イベント実施情報や入試情報などを網羅する。本サイトについては、後述のダイレクトメールや SNS での発信の際に、QR コードやリンクを常に設置し、情報入手の動線を整備している。

加えて、令和 4（2022）年 3 月には事業戦略発表会（記者発表）を開催し、30 社を超える参加があった。その中にはマスコミ・報道機関以外の業種からの参加もあり、広く社会へ心理学部の特色等を発信することができた。

2）**オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問**

令和 4（2022）年度は本学の各キャンパスにおいて計 6 回（3/27、8/6、8/7、8/20、8/21、9/25）のオープンキャンパスを開催し、積極的に心理学部の紹介を行う予定である。すでに開催のあった 3/27 のオープンキャンパスでは、事前予約制で来場者数が制限される中、全体で約 2,000 名の参加があり、そのうち約 300 名が心理学部紹介イベントへ参加した。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、模擬講義等の動画などオンラインコンテンツの充実も図り、今後、対面によるオープンキャンパスが実施できなかった場合に備えた情報提供の環境も強化をしていく予定である。

また、国内の 100 か所以上で開催される進学相談会や高校内ガイダンス、高校訪問などの機会を通して、高校生に向けて心理学部の学び・魅力を周知するよう努めている。

3）**各種媒体を通じた広報**

大学案内誌などの資料請求者へ心理学部紹介のリーフレットを同封し発送しているほか、ダイレクトメールを令和 3（2021）年 12 月、令和 4（2022）年 3 月に合計約 170,000 名に発送した。高校生の情報入手環境を考慮して、SNS を通じた積極的な情報発信や、動画を用いた紙媒体では伝えきれない大学・学部の魅力発信も並行して実施する。

また、近畿圏を中心に主要な公共交通機関への広告出稿も予定しており、より多くの高校生へ心理学部開設をアピールする。

4）**多様な入試制度の整備**

多様なバックグラウンドを持った学生を受け入れるべく、本学は、多彩な入試制度を整備・用意している。具体的には、学力を基準として選抜の客観性と公平性を担保しつつ、様々な地域から多様な人材を集める方法としての一般選抜や学校推薦型選抜、学生の個性や動機・意欲、能力・経験などで適性をはかっていく総合型選抜である。これらの多様な入試制度により、「異なる能力」、「異なる地域」、「異なる動機・意欲」から、価値観の多様な学生を受け入れることをめざしている。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

複雑化する社会の将来像を見据えたとき、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応できる人材の養成である。学修者を主体とし、個々人の強みを最大限に活かすことを可能とする教育を行っていくことが必要であり、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」でも述べられているとおり「学修者本位の教育への転換」、すなわち「何を教えた

か」から、「何を学び、身に付けることができたのか」を学生が実感できる教育体系を構築する必要がある。

このような認識のもと、心理学部では次の教育理念・目的を掲げ、育成する人材像を示している。

＜心理学部の教育理念・目的＞

建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1）社会的な人材需要の動向

文部科学省の「教育相談等に関する調査研究協力者会議」による報告書「児童生徒の教育相談の充実について―生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり―（報告）」（平成 19（2007）年 7 月）にも確認できるように、教育機関において心理相談業務に従事する「スクールカウンセラー」の必要性がより強く提唱されるようになっている。実際、文部科学省は全公立小中学校へのスクールカウンセラーの配置を進めてきた。しかしながら、スクールカウンセラーの拡大に伴う資質・経験のばらつきや人材不足に対する懸念、あるいはもっぱら非常勤勤務であることによる相談体制の不十分さなど、さまざまな課題が指摘され、スクールカウンセラーの常勤化に向けた調査研究が行われている（令和 3（2021）年度文部科学省委託調査研究）。

また、児童福祉法に基づき、厚生労働省が「放課後児童健全育成事業」として推進している「放課後児童クラブ」などの二次的な集団教育の現場には、特別支援の対象となる子どもが集団適応を目的として参与することも多く、療育（発達支援）的プログラムの提供が求められている。それにもかかわらず、特別支援教諭養成カリキュラムの一部を除き、大学・専門学校などでは「療育訓練のスキルを持つ専門職」を養成するプログラムに対応していないのが現状である。その結果、専門職の人材不足が発生している。

産業領域においても、心理学を学んだ人材の需要が高まっている。メンタルヘルス不調により連続 1 か月以上の休業をした労働者がいた割合は、事業所の規模に応じて増加し、500～999 人以上で 82.5%、1,000 人以上で 88.9%が該当している（別添：資料 10 を参照）。メンタルヘルスのサポートを必要とする事業所内外における労働者のメンタルヘルスサポート体制が整備されるとともに、セルフケア及びラインによるケアの充実に向けた教育の提供も進んでいる。こうした傾向は今後さらに強まると思われ、産業心理学やメンタルヘルスの分野に精通した人材の育成ニーズは高まるばかりである。

更に、新型コロナウイルス感染症の拡大により、労働者の働く環境は急速かつ大幅な変化に直面している。特に、テレワークや在宅ワーク導入による対面コミュニケーションの希薄化がメンタルヘルスに与える影響は看過できない。しかも、これらの一旦普及した新しい働き方は、コロナ禍が一定収束した後も定着すると見られており、労働者のメンタルヘルス向上を支援するスキルを備えた人材を育成する機会の拡充は一層重要になっている。

加えて、第四次産業革命下で求められる人材の必要性やミスマッチの状況を明確化するため、文部科学省、経済産業省、厚生労働省の三省連携で IT 人材等の需給を試算した結果、令和 12（2030）年で約 45 万人（中位推計）の IT 人材が不足するとされており、社会的な人材需要は今後、益々高まっていくと推測される（別添：資料 11 を参照）。データサイエンスを学び、スキルを身につけることによって、IT 人材の不足解消に寄与することができる。また、データサイエンスと心理学を組み合わせた学びは、心理学をより科学的なものとして理解し、心の動きや行動をデータとして処理、分析する方法を学ぶことであり、より高度な IT 人材の輩出に繋がるものと考える。

2）地域的な人材需要の動向

心理学部は、文学部臨床心理学科を基礎としていることから、同学科の実績を根拠に説明を行う。近畿圏（近畿 2 府 4 県）に本社を置く企業等へ就職状況について、平成 28（2016）年度から令和 2（2020）年度の過去 5 年間平均では 53.2%が当該地域へ就職している。また、令和 2（2020）年度は 60.4%となっており、府県別でみると大阪府が 30.2%となっている（別添：資料 12 を参照）。

これらの実績から、近畿圏に本社を置く企業等へ人材を輩出することができており、すなわち、心理学を学んだ人材に対する地域的な人材需要が高くあると判断している。

また、同学科の卒業年次生のうち、就職・進学希望者に対する進路決定率は、毎年 97%以上の高い水準を維持し、平成 28（2016）年度から令和 2（2020）年度の過去 5 年間平均では 98.4%となっている（別添：資料 13 を参照）。

心理学部の設置により、入学定員は 156 名増員となるが、上記「1）社会的な人材需要の動向」および「2）地域的な人材需要の動向」で説明したように、心理学を学んだ人材に対する社会的・地域的な需要は高いものと判断しており、就職先を確実に確保できるものと考えている。

なお、高い進路決定率を維持できている理由の一つは、本学におけるキャリア支援の取り組みが社会に浸透してきた成果であると分析している。

3）第三者機関による調査

心理学部の設置構想に基づき、第三者機関である「高等教育総合研究所」への委託による「龍谷大学「心理学部 心理学部（仮称）」の設置に係る人材需要の見通し調査」を実施した

（別添：資料 14 を参照）。

調査は龍谷大学卒業生の採用実績のある企業等 4,196 件の事業所に対して、心理学部の概要を記したパンフレット（別添：資料 5（再掲）を参照）及びアンケート用紙を送付して実施し、707 社（16.8%）からの回答を得た。回答企業の本社所在地は、大阪府が 41.0%、兵庫県が 14.6%、京都府が 12.2%となっており、業種別では、製造業が 18.2%、社会福祉施設・事業所が 12.6%、卸売・小売業が 11.3%であった。

調査結果において、心理学部の養成する人材の社会的ニーズについて「高い」と回答した企業等は 18.2%、「どちらかと言えば高い」と回答した企業等は 60.8%であり、多くの企業が本学部の養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。また、卒業生を「採用したい」と回答した企業等は 242 件であり、採用可能人数を合計すると、入学定員 255 名を大きく上回る 407 名の採用意向が示された。このことから、心理学部には安定した人材需要があると考えられる。

なお、学生への進路支援については、学部とキャリアセンターの有機的な連携により、キャリア支援（キャリア教育、進路・就職支援等）の体制を構築しており、引き続ききめ細やかな支援を実施する。これにより心理学部を設置し収容定員を増員しても、就職先を確実に確保できるものと考えている。

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

資料 1	過去 5 年間の志願者数推移
資料 2	近畿圏内における学生流入出状況
資料 3	文学部臨床心理学科 都道府県別志願者数（過去 5 年間）
資料 4	龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称）」設置に係る学生確保の見通し調査（設置についての高校生アンケート調査）報告書
資料 5	心理学部パンフレット
資料 6	近畿 2 府 4 県の 18 歳人口予測、地元残留率の推移
資料 7	私立大学等入学志願動向：系統別
資料 8	私立大学一般選抜入学試験志願者上位 30 大学（平成 29～令和 3 年度入試）
資料 9	進学ブランド力調査志願度（平成 29～令和 3 年度・関西エリア）
資料 10	厚生労働省令和 2 年労働安全衛生調査（実態調査）
資料 11	IT 人材需給に関する調査（概要）
資料 12	文学部臨床心理学科 都道府県別就職状況
資料 13	文学部臨床心理学科 進路決定率
資料 14	龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称）」設置に係る人材需要の見通し調査（設置についての採用意向アンケート調査）報告書

資料１

過去5年間の志願者数推移

学部・学科・課程・専攻		平成29（2017）年度	平成30（2018）年度	令和元（2019）年度	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	前年差	前年比
文学部	真宗学科	690	847	1,151	1,001	1,178	177	117.7%
	仏教学科	714	1,006	1,024	1,061	1,075	14	101.3%
	哲学専攻	839	960	1,089	1,229	1,238	9	100.7%
	教育学専攻	910	812	1,127	715	1,338	623	187.1%
	臨床心理学科	1,798	2,191	2,263	2,129	2,632	503	123.6%
	日本史学専攻	1,792	2,055	1,932	1,907	2,375	468	124.5%
	東洋史学専攻	699	865	842	896	1,271	375	141.9%
	仏教史学専攻	612	574	791	628	648	20	103.2%
	文化遺産学専攻	841	835	1,075	938	798	▲ 140	85.1%
	日本語日本文学科	1,921	2,272	2,452	2,283	2,762	479	121.0%
	英語英米文学科	1,196	1,274	1,582	1,192	1,274	82	106.9%
文学部合計		12,012	13,691	15,328	13,979	16,589	2,610	118.7%
経済学部		8,953	9,870	9,024	8,850	9,893	1,043	111.8%
経営学部		9,083	8,601	8,915	8,672	9,616	944	110.9%
法学部		5,507	6,920	6,484	6,294	6,917	623	109.9%
政策学部		5,599	5,238	6,123	6,043	5,337	▲ 706	88.3%
国際学部	国際文化学科	3,923	3,925	4,489	4,037	4,316	279	106.9%
	グローバルスタディーズ学科	1,563	2,085	1,875	1,520	1,485	▲ 35	97.7%
国際学部合計		5,486	6,010	6,364	5,557	5,801	244	104.4%
先端理工学部	数理・情報科学課程	927	765	1,094	1,307	1,323	16	101.2%
	知能情報メディア課程	1,091	1,009	1,570	1,512	1,364	▲ 148	90.2%
	電子情報通信課程	1,072	1,085	1,453	1,526	1,473	▲ 53	96.5%
	機械工学・ロボティクス課程	1,601	1,326	1,683	2,058	1,792	▲ 266	87.1%
	応用化学課程	695	841	1,111	1,102	1,182	80	107.3%
	環境生態工学課程	772	602	981	856	785	▲ 71	91.7%
先端理工学部合計		6,158	5,628	7,892	8,361	7,919	▲ 442	94.7%
社会学部	社会学科	3,331	3,804	3,884	3,723	4,130	407	110.9%
	コミュニティマネジメント学科	1,450	2,439	1,959	1,692	2,276	584	134.5%
	現代福祉学科	1,262	2,032	2,143	1,808	1,991	183	110.1%
社会学部合計		6,043	8,275	7,986	7,223	8,397	1,174	116.3%
農学部	植物生命科学科	1,326	905	1,199	1,139	920	▲ 219	80.8%
	資源生物科学科	1,503	1,290	1,376	1,606	1,533	▲ 73	95.5%
	食品栄養学科	1,261	1,118	1,049	1,171	1,314	143	112.2%
	食料農業システム学科	1,162	1,041	1,304	1,720	1,383	▲ 337	80.4%
農学部合計		5,252	4,354	4,928	5,636	5,150	▲ 486	91.4%
大学合計		64,093	68,587	73,044	70,615	75,619	5,004	107.1%

資料２

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料2　近畿圏内における学生流入出状況

２（出典）

学校基本調査「出身高校の所在地県別 入学者数」

３（引用範囲）

近畿圏における「出身高校の所在地県別 入学者数」

4（その他の説明）

・上記のデータを加工し、近畿２府４県の学生流入出状況を図表及びグラフにまとめた。

以　上

資料３

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料3　文学部 臨床心理学科 都道府県別志願者数（過去5年間）

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

資料４

龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称）」
設置に係る学生確保の見通し調査
（設置についての高校生アンケート調査）
報告書

令和４年１月

株式会社　高等教育総合研究所

目次

１　調査の概要　2

２　全質問項目の集計結果　3

３　集計結果のポイント　8

学生確保の見通し調査結果　まとめ　13

添　付　資　料　14

資料１　高校生アンケート用紙　15

資料２　高校生アンケート概要　17

1　調査の概要

調　査　目　的　：	龍谷大学が、2023（令和 5）年 4 月に設置予定の「心理学部 心理学科（仮称）」について、大学外の第三者機関によるアンケート調査を用いて、学生確保の見通しを測ることを目的とする。
調　査　対　象　：	近畿地区２府４県の高等学校から本学への志願動向、進学状況等を踏まえ、561 校をアンケートの対象とした。そのうち、131 校の２学年在籍者（2023（令和 5）年度の大学進学対象者）から調査の協力を得た。
調　査　時　期　：	2021（令和 3）年 11 月～2022（令和 4）年 1 月
調　査　内　容　：	無記名。選択肢式で全 11 問。 主な質問事項は、回答者の基本情報（性別・居住地・希望進路など）や興味・関心のある学問分野、進学先検討時に重視する点、本学部への受験意欲・入学意欲について。
調　査　方　法　：	各校の教職員の監督の元で、アンケートを実施し、アンケート用紙はその場で回収し、ご返送いただいた。
回　収　件　数　：	18,697 件 ※実施高校の内訳は以下の通り

■実施高校の内訳は以下の通り。

		設置				総計
		県立	市立	私立	府立	
都道府県	京都府	－	2	13	8	23
	滋賀県	12	－	4	－	16
	大阪府	－	3	29	14	46
	奈良県	3	1	4	－	8
	兵庫県	18	4	12	－	34
	和歌山県	2	－	2	－	4
総計		35	10	64	22	131

２　全質問項目の集計結果

※構成比はいずれも少数第２位を四捨五入した。したがって、合計は必ずしも 100.0％とは一致しない。

問1　あなたが現在お住まいの府県について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	滋賀県	3,593	19.2%
2	京都府	3,049	16.3%
3	大阪府	5,506	29.4%
4	兵庫県	5,058	27.1%
5	奈良県	931	5.0%
6	和歌山県	476	2.5%
7	その他	56	0.3%
	無回答	28	0.1%
合計		18,697	100.0%

問2　あなたの性別について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	男	8,790	47.0%
2	女	9,335	49.9%
3	回答しない	473	2.5%
	無回答	99	0.5%
合計		18,697	100.0%

問3　所属クラス（コース）について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	文系クラス（コース）	11,273	60.3%
2	理系クラス（コース）	3,779	20.2%
3	コース選択はない	1,903	10.2%
4	その他	1,476	7.9%
	無回答	266	1.4%
合計		18,697	100.0%

問4　高校卒業後の希望進路を教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	国公立大学	3,397	18.2%
2	私立大学	9,261	49.5%
3	短期大学	491	2.6%
4	専門学校	2,148	11.5%
5	就職	709	3.8%
6	現時点では未定	2,541	13.6%
	無回答	150	0.8%
合計		18,697	100.0%

問5　あなたが進学したい分野について教えてください（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 18,697 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	回答率
1	文学・歴史	2,337	12.5%
2	心理	2,572	13.8%
3	経済・経営・商学	4,371	23.4%
4	法学・政治	1,433	7.7%
5	社会・福祉	1,522	8.1%
6	外国語・国際関係	2,014	10.8%
7	教育・保育	2,674	14.3%
8	理学・工学・情報	2,747	14.7%
9	農・畜産・水産	648	3.5%
10	医・歯・薬	909	4.9%
11	看護・医療	2,337	12.5%
12	栄養・家政	1,007	5.4%
13	スポーツ・健康科学	1,911	10.2%
14	芸術	1,551	8.3%
15	その他	1,289	6.9%
	無回答	294	1.6%

問6　あなたが進学先を決定する際の要因について教えてください（最も当てはまるもの2つにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 18,697 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	回答率
1	学部・学科等の学びの分野	10,558	56.5%
2	資格の取得	5,806	31.1%
3	就職実績	3,887	20.8%
4	校舎・施設の充実	2,542	13.6%
5	設置形態（国公立・私立）	759	4.1%
6	学費	2,453	13.1%
7	奨学金制度の有無	471	2.5%
8	学校の伝統・知名度	871	4.7%
9	入試の難易度・入試科目	2,529	13.5%
10	高校教員の意見	187	1.0%
11	家族の意見	1,487	8.0%
12	先輩・友人の意見	422	2.3%
13	アクセス・立地	1,822	9.7%
	無回答	236	1.3%

以下の設問は、「龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）概要（リーフレット）をご覧の上、回答いただいた。

問7　龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）には以下のような特色があります。あなたの興味・関心のある内容について教えてください。（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 18,697 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	回答率
1	3 つの柱（心理学基礎科目、データサイエンス科目　キャリア啓発科目）による卒業後のキャリアを視野に入れた心理学が学べる点	4,651	24.9%
2	2つのプログラム（生涯発達カウンセリング、関係支援とコミュニケーション）による、専門的心理学が学べる点	2,004	10.7%
3	9つの分野（乳幼児と保護者の心と支援、子どもの心と支援、思春期・青年期の心と支援、成人・高齢者の心と支援、チーム医療、チーム学校、ネットワーク支援、産業・メンタルヘルス、データ心理学）によるキャリアビジョンに合せた専門的かつ実践的な心理学が学べる点	4,611	24.7%
4	基礎心理学から応用心理学まで心理学が学べる点	5,109	27.3%
5	大学院への進学等により、将来的に公認心理師・臨床心理士の資格取得がめざせる点	3,350	17.9%
	無回答	897	4.8%

問8　あなたは龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）を受験したいと思いますか（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	受験したい	1,599	8.6%
2	受験しない	16,131	86.3%
	無回答	967	5.2%
合計		18,697	100.0%

問9～問10は問8で「受験したい」と回答した 1,599 人が回答対象である。

問9　龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	入学したい	627	39.2%
2	併願校の結果によっては入学したい	967	60.5%
	無回答	5	0.3%
合計		1,599	100.0%

問10　受験の際に利用したい入試方法について教えてください（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 1,599 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	構成比
1	一般選抜（一般入試・大学入学共通テスト利用入試）	881	55.1%
2	学校推薦型選抜（公募推薦・指定校推薦など）	808	50.5%
3	総合型選抜	216	13.5%
	無回答	57	3.6%

問11は問8で「受験しない」と回答した 16,131 人が回答対象である。

問11　あなたが問8で「受験しない」と回答した理由について教えてください（あてはまるものすべてにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 16,131 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	回答率
1	興味・関心のある学問分野ではないから	11,553	71.6%
2	興味・関心のある学問分野だが、他大学への進学を希望しているから	2,557	15.9%
3	興味・関心のある学問分野だが、新設学部への進学は不安だから	462	2.9%
4	通学距離が遠いから	1,239	7.7%
5	学費が高いから	1,069	6.6%
6	卒業後、進学を考えていないから	935	5.8%
7	その他	447	2.8%
	無回答	157	1.0%

３　集計結果のポイント

※構成比はいずれも少数第２位を四捨五入した。したがって、合計は必ずしも 100.0％とは一致しない。

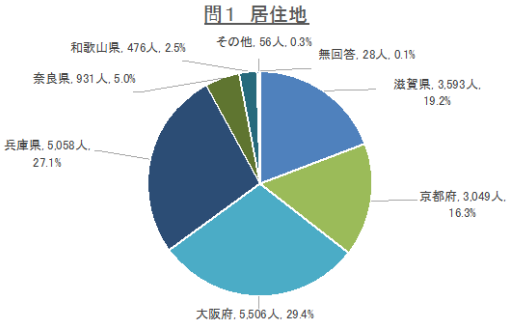
◆　回答者の基本情報

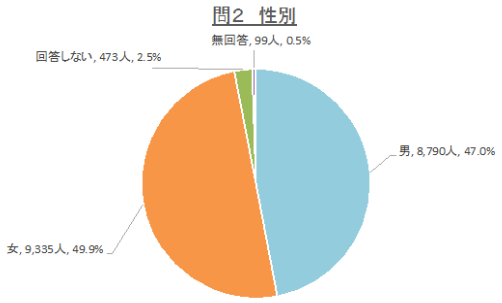
回答者 18,697 人に、問１で居住地を質問したところ、１番多かったものが「大阪府」で 5,506 人（29.4％）、２番目が「兵庫県」で 5,058 人（27.1％）、３番目が「滋賀県」で 3,593 人（19.2％）であった。

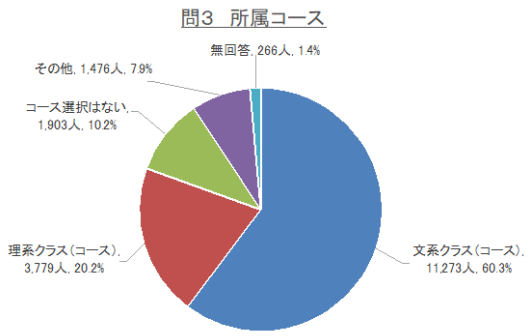
問２は性別を質問し、「男」が 8,790 人（47.0％）、「女」が 9,335 人（49.9％）、「回答しない」が 473 人（2.5％）であった。

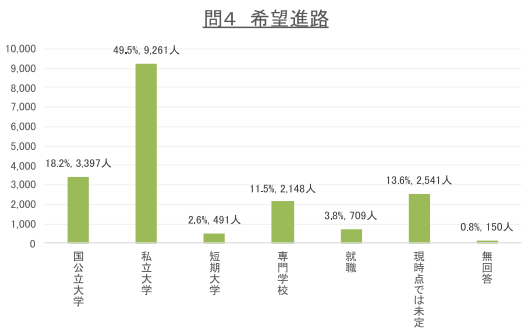
問３で回答者の所属クラス（コース）について質問したところ、「文系クラス（コース）」が 11,273 人（60.3％）、「理系クラス（コース）」が 3,779 人（20.2％）、「コース選択はない」が 1,903 人（10.2％）、「その他」が 1,476 人（7.9％）であった。

問４で、高校卒業後の希望進路を質問したところ、「私立大学」が 9,261 人（49.5％）で１番多く、「国公立大学」が 3,397 人（18.2％）、「現時点では未定」が 2,541 人（13.6％）であった。



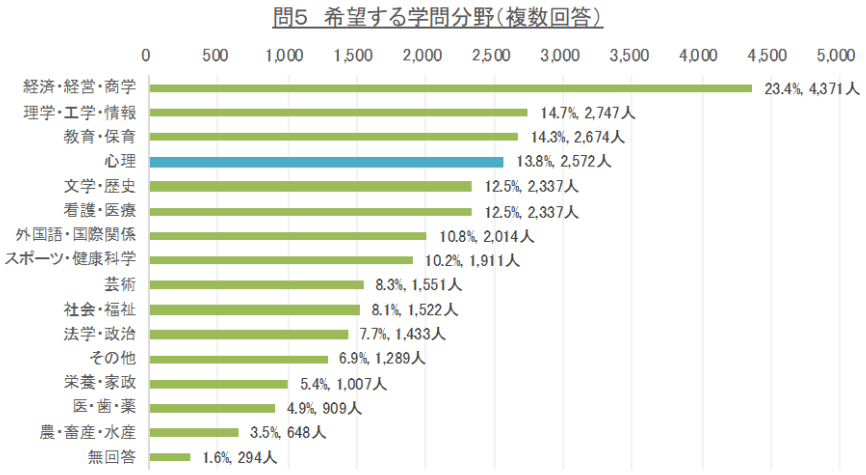






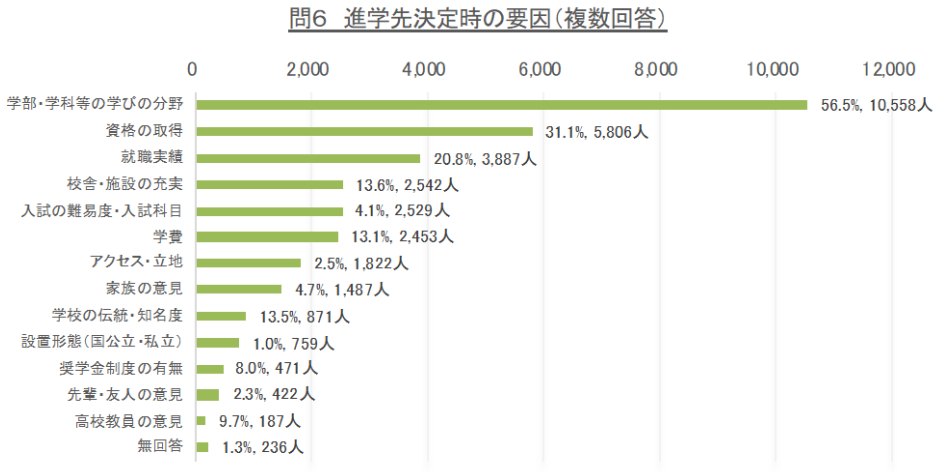
◆ 回答者の 13.8%が希望する学問分野に「心理」を選択

回答者 18,697 人に、問５で進学したい分野について質問したところ、１番多かったものが「経済・経営・商学」で 4,371 人（23.4%）、次に「理学・工学・情報」で 2,747 人（14.7%）、「教育・保育」で 2,674 人（14.3%）、「心理」で 2,572 人（13.8%）の順であった。（複数回答の結果、グラフは回答の多い順）



◆ 回答者の 56.5%が「学部・学科等の学びの分野」を進学先決定時に重視

回答者 18,697 人に、問６で進学先を決定する要因について質問したところ、「学部・学科等の学びの分野が 10,558 人（56.5%）で最も多かった。次いで「資格の取得」で 5,806 人（31.1%）、「就職実績」が 3,887 人（20.8%）となった。（複数回答の結果、グラフは回答の多い順）



◆ 本学部の「基礎心理学から応用心理学まで心理学が学べる点」に興味を示す

回答者 18,697 人に、問 7 では「心理学部 心理学科（仮称）」の興味・関心のある内容について質問した。その結果、「基礎心理学から応用心理学まで心理学が学べる点」が 5,109 人（27.3%）で一番多く、「3 つの柱（心理学基礎科目、データサイエンス科目 キャリア啓発科目）による卒業後のキャリアを視野に入れた心理学が学べる点」が 4,651 人（24.9%）、「９つの分野（乳幼児と保護者の心と支援、子どもの心と支援、思春期・青年期の心と支援、成人・高齢者の心と支援、チーム医療、チーム学校、ネットワーク支援、産業・メンタルヘルス、データ心理学）によるキャリアビジョンに合せた専門的かつ実践的な心理学が学べる点」が 4,611 人（24.7%）であった。これら３項目が 20%を超える回答率であった。（複数回答の結果、表は回答の多い順）

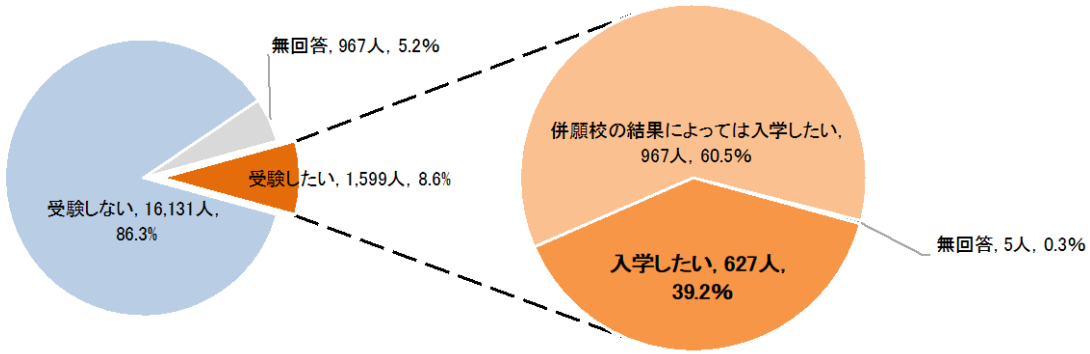
選択項目		回答数	回答率
1	基礎心理学から応用心理学まで心理学が学べる点	5,109	27.3%
2	3 つの柱（心理学基礎科目、データサイエンス科目　キャリア啓発科目）による卒業後のキャリアを視野に入れた心理学が学べる点	4,651	24.9%
3	9つの分野（乳幼児と保護者の心と支援、子どもの心と支援、思春期・青年期の心と支援、成人・高齢者の心と支援、チーム医療、チーム学校、ネットワーク支援、産業・メンタルヘルス、データ心理学）によるキャリアビジョンに合せた専門的かつ実践的な心理学が学べる点	4,611	24.7%
4	大学院への進学等により、将来的に公認心理師・臨床心理士の資格取得がめざせる点	3,350	17.9%
5	2つのプログラム（生涯発達カウンセリング、関係支援とコミュニケーション）による、専門的心理学が学べる点	2,004	10.7%
	無回答	897	4.8%

◆ 1,599 人が受験意志を示し、627 人が強い入学意志を示す

問８では「心理学部 心理学科（仮称）」への受験意向を質問した。その結果、回答者 18,697 人のうち、1,599 人(8.6%)が受験意志（入学定員（255 名予定）の 6.27 倍）を示す「受験したい」と回答した。そのうち 627 人（39.2%）合格した場合の入学意志を示す「合格した場合、入学したい」と回答した。

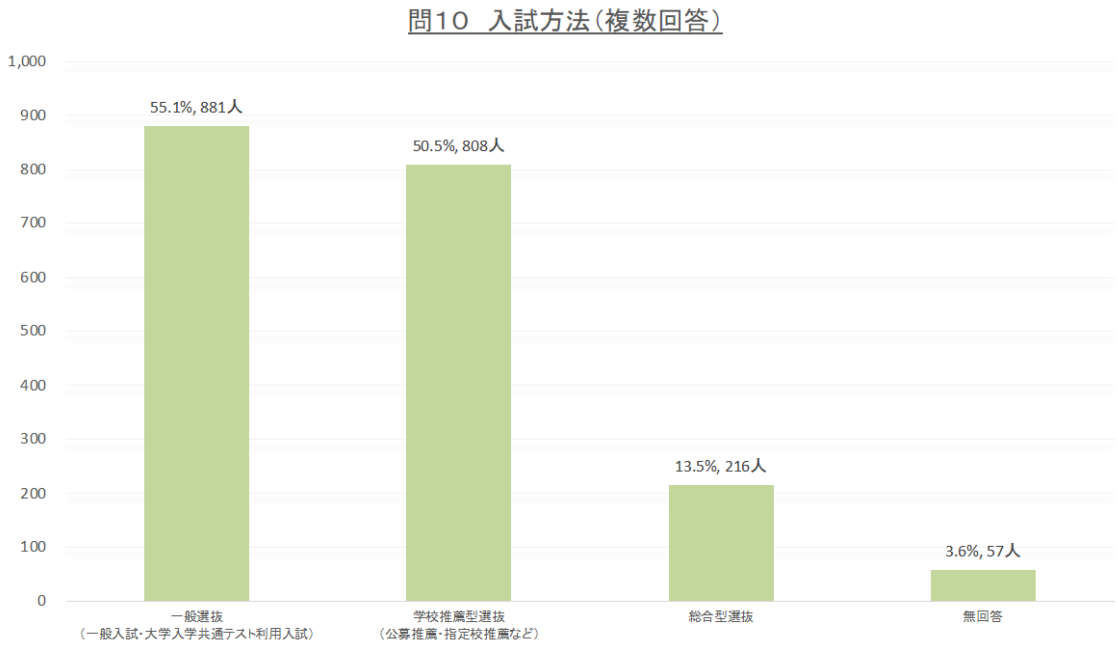
入学定員である 255 名（予定）を大きく上回る結果（入学定員の 2.46 倍）となった。

問8，９ 受験意向、入学意向



◆ 回答対象者の 55.1%が「一般選抜」を利用したいと回答

問８で受験意志を示した 1,599 人に対し、受験の際に利用したいと入試方法について質問したところ、「一般選抜」を利用すると回答したのは 881 人（55.1%）、「学校推薦型選抜」が 808 人（50.5%）、「総合型選抜」が 216 人（13.5%）であった。（複数回答の結果）



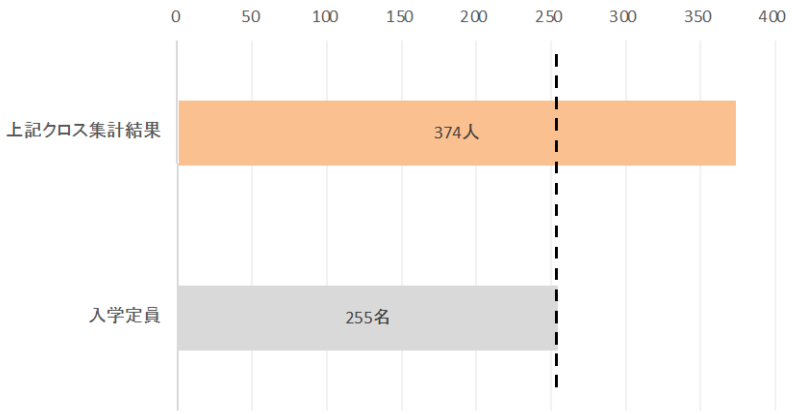
学生確保の見通し調査結果　まとめ

2023（令和 5）年 4 月に設置構想中の龍谷大学「心理学部 心理学科」（仮称、入学定員 255 名を予定）の学生確保の見通しを測るため、設置予定地である京都府をはじめとする近畿地区 2 府 4 県の高等学校から本学への志願動向、大学進学状況等を踏まえ、561 校にアンケート調査を依頼し、131 校に実施いただいた。計 18,697 件の高校 2 年生（2021（令和 3）年度時点）から回答を得た。

入学意志を持つ者の数を精査するために、卒業後の進路（問４）、関心のある学問分野（問５）、本学部への受験意志（問８）、入学意志（問９）でクロス集計を行った。その結果、卒業後の進路を「私立大学」とし、「心理学」に興味・関心があると回答した 1,522 人のうち、本学部へ受験意志を示し、かつ「入学したい」と強い入学意志を示した者を算出したところ、374 人が該当した。

回答結果より、この 374 人は本学部への受験及び合格後の入学の確度が高い層と考えられるとともに、本学部の入学定員である 255 名（予定）を大きく上回った。

設問	問4　希望進路	問5　学問分野	問8　受験意志	問9　入学意志
回答選択肢 回答者合計 18,697 件	「私立大学」 9,261 人	「心理学」 1,522 人	「受験したい」 858 人	「合格した場合、入学したい」 374 人



以上の結果より、2023 年設置構想中である龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）の学生確保の見通しについては問題がないと考えられる。

添　付　資　料

資料１　高校生アンケート調査・アンケート用紙
資料２　高校生アンケート調査・アンケート概要

資料１　高校生アンケート用紙

龍谷大学　心理学部 心理学科（仮称）
設置構想についての高校生アンケート調査

対象：2021年度　高校2年生の皆さん

龍谷大学は、2023年4月に心理学部 心理学科 （仮称） の設置を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、構想の参考にさせていただきたいと考えています。なお、本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはございません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。
※このアンケート調査は龍谷大学から委託された第三者機関（高等教育総合研究所）が実施しています。

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。

正しい回答　誤った回答

正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。

問１ あなたが現在お住まいの府県について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 滋賀県　○ 京都府　○ 大阪府　○ 兵庫県　○ 奈良県　○ 和歌山県
○ その他 [　　]

問２ あなたの性別について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 男　○ 女　○ 回答しない

問３ 所属クラス（コース）について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 文系クラス（コース）　○ 理系クラス（コース）　○ コース選択はない
○ その他 [　　]

問４ 高校卒業後の希望進路について教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 国公立大学　○ 私立大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ 現時点では未定

問５ あなたが進学したい分野について教えてください（あてはまるものすべてにマーク）

○ 文学・歴史　○ 心理　○ 経済・経営・商学
○ 法学・政治　○ 社会・福祉　○ 外国語・国際関係
○ 教育・保育　○ 理学・工学・情報　○ 農・畜産・水産
○ 医・歯・薬　○ 看護・医療　○ 栄養・家政
○ スポーツ・健康科学　○ 芸術　○ その他 [　　]

問６ あなたが進学先を決定する際の要因について教えてください（最もあてはまるもの２つにマーク）

○ 学部・学科等の学びの分野　○ 資格の取得　○ 就職実績
○ 校舎・施設の充実　○ 設置形態（国公立・私立）　○ 学費
○ 奨学金制度の有無　○ 学校の伝統・知名度　○ 入試の難易度・入試科目
○ 高校教員の意見　○ 家族の意見　○ 先輩・友人の意見
○ アクセス・立地

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

以下の設問は、「龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）概要」（ﾘｰﾌﾚｯﾄ）をご覧の上、回答をお願いします。

問７ 龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）には以下のような特色があります。あなたの興味・関心のある内容について教えてください。（あてはまるものすべてにマーク）

- 〇 3つの柱（心理学基礎科目、データサイエンス科目　キャリア啓発科目）による卒業後のキャリアを視野に入れた心理学が学べる点
- 〇 ２つのプログラム（生涯発達カウンセリング、関係支援とコミュニケーション）による、専門的心理学が学べる点
- 〇 ９つの分野（乳幼児と保護者の心と支援、子どもの心と支援、思春期・青年期の心と支援、成人・高齢者の心と支援、チーム医療、チーム学校、ネットワーク支援、産業・メンタルヘルス、データ心理学）によるキャリアビジョンに合せた専門的かつ実践的な心理学が学べる点
- 〇 基礎心理学から応用心理学まで心理学が学べる点
- 〇 大学院への進学等により、将来的に公認心理師・臨床心理士の資格取得がめざせる点

問８ あなたは龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）を受験したいと思いますか（あてはまるもの１つにマーク）

〇 受験したい　⇨問9～10にお答えください　　〇 受験しない　⇨問11にお答えください

問9～問10は問8で「受験したい」と回答された方にお尋ねします。

問９ 龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか（あてはまるもの１つにマーク）

〇 入学したい　　〇 併願校の結果によっては入学したい

問 10 受験の際に利用したい入試方法について教えてください（あてはまるものすべてにマーク）

- 〇 一般選抜（一般入試・大学入学共通テスト利用入試）
- 〇 学校推薦型選抜（公募推薦・指定校推薦など）
- 〇 総合型選抜

問11は問8で「受験しない」と回答された方にお尋ねします。

問 11 あなたが問8で「受験しない」と回答した理由について教えてください。（あてはまるものすべてにマーク）

- 〇 興味・関心のある学問分野ではないから
- 〇 興味・関心のある学問分野だが、他大学への進学を希望しているから
- 〇 興味・関心のある学問分野だが、新設学部への進学は不安だから
- 〇 通学距離が遠いから
- 〇 学費が高いから
- 〇 卒業後、進学を考えていないから
- 〇 その他

設問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

資料２　高校生アンケート概要



龍谷大学 心理学部 心理学科（概要）

龍谷大学が構想している、心理学部 心理学科の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後変更する可能性があります。

学部・学科 概要

文学部 臨床心理学科を改組。
（入学定員を99名から255名に増員）

入学定員	学位	設置場所
255名	学士（心理学）	1・2年次 ：深草キャンパス（京都市伏見区） 3・4年次 ：大宮キャンパス（京都市下京区）

養成する人材像

現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や
良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ
主体的かつ実践的に対応できる人材を養成する。

幅広い学びの実現

データサイエンスも取り入れた、基礎から卒業後のキャリアまで繋がる心理学教育の「3つの柱」

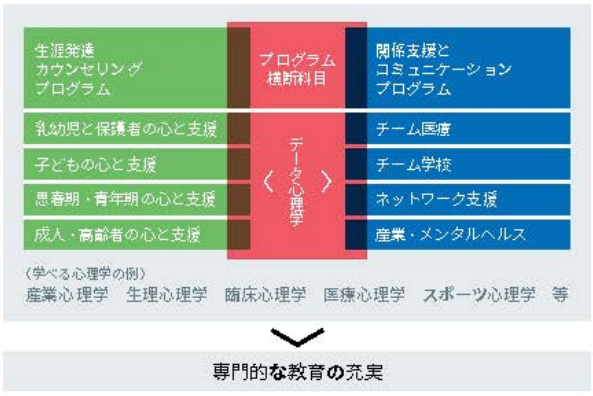
1. 心理学基礎科目
心理学の基礎となる考え方そのものを学び、どのように応用心理学と繋がるのかを理解する。

2.データサイエンス科目
心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉える。

3.キャリア啓発科目
卒業後のキャリアを意識し、実社会において心理学がどのように活用されるのかを学ぶ。



専門的心理学教育の「2つのプログラム」キャリアビジョンに合わせた専門的かつ実践的な「9つの分野」



発達段階に応じた「個人の心」にアプローチする「生涯発達カウンセリングプログラム」と、社会で共に生きる人の繋がりにアプローチする「関係支援とコミュニケーションプログラム」の2つのプログラムを配置し、心理学の専門的な教育の充実を図ります。さらに、2つのプログラムを横断的に接続する分野として「プログラム横断科目」を開設します。

「2つのプログラム」および「プログラム横断科目」の下には、特徴的な心理実践に繋がる「9つの分野」の科目群を設定し、学生自身のキャリアビジョンに合わせて、関心のある分野の科目を自由に選択し、幅広く学ぶことができます。

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状(公民)※1　　**公認心理師受験資格課程**※2　　**認定心理士資格**

※1:教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。
※2:公認心理師の受験資格を取得するためには、学部における所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修した上で修了する必要があります。

卒業後の進路

心理学を通じて修得する知識やスキルは、対人支援の現場だけではなく、広く一般社会でも活用できるものです。
さまざまな進路において、より良い社会づくりのために貢献し活躍することが期待されます。

心理学を活かした「支援」の仕事

医療領域	病院・クリニック・リハビリテーション施設の心理職員　等
教育領域	学童保育スタッフ　学習支援員　幼稚園カウンセラー　学校カウンセラー　等
産業領域	キャリアカウンセラー　安全管理者　等
福祉領域	児童養護・高齢者・障がい者福祉施設職員　放課後等デイサービス職員　児童相談所児童心理司　等
司法領域	家庭裁判所調査官　少年院・少年鑑別所の心理職員(法務技官)　警察職員(心理員)　等
大学院進学	心理専門職(公認心理師・臨床心理士)の資格取得や専門研究を深める

心理学の学びを活かしたさまざまな仕事

コミュニケーション・スキルを活かした販売職や営業職、データサイエンスと心理学の専門性をかけ合わせた
企画・開発職など、多様な業種・職種で心理学の学びを活かすことができます。

民間企業	マスコミ　商社　情報通信　IT企業　銀行・証券会社　保険会社 メーカー(自動車・電機・機器・医薬品等)　スーパー・小売業　観光・サービス業 不動産・建設業　運輸(航空・鉄道・郵便等)　電力・ガス業　教育関係　等
公務員	地方・国家公務員　警察官　消防士　公立高校教員　国公立大学事務職員

初年度学費(他大学含む)

単位(円)

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等(諸会費は除く)	初年度学費
龍谷大学 心理学部 心理学科	260,000	1,007,000	0	1,267,000
同志社大学 心理学部 心理学科	200,000	973,000	193,000	1,366,000
立命館大学 総合心理学部 総合心理学科	200,000	1,206,600	0	1,406,600
関西大学 社会学部 心理学専攻	260,000	930,000	0	1,190,000
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 心理系専攻	250,000	1,085,000	20,000	1,355,000
追手門学院大学 心理学部 心理学科	160,000	850,000	155,000	1,165,000

※龍谷大学 心理学部 心理学科の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2021年10月時点)。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

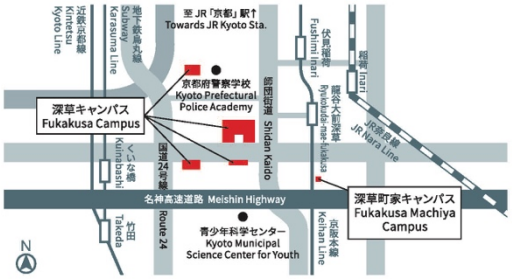
設置キャンパスの紹介

深草キャンパス（1・2年次）

〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67

京都駅南東、京都市伏見区にある深草キャンパスは、1960年親鸞聖人七百回忌記念として開設しました。7つの文系学部で構成され、留学生を含む多くの学生が学んでおり、さまざまな文化が混ざり合う多文化共生キャンパスです。2020年には、新たに課外活動の拠点である成就館が完成。これまでの課外活動支援に加え、地域・社会との新たな出会いの創出をめざします。





- JR奈良線「稲荷」駅下車 南西へ徒歩約８分
- 京阪本線「龍谷大前深草」駅下車 西へ徒歩約３分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車 東へ徒歩約７分

JR大阪駅	→	JR稲荷駅	33分
京阪京橋駅	→	京阪龍谷大前深草駅	39分
近鉄奈良駅	→	京阪龍谷大前深草駅	40分
JR三ノ宮駅	→	JR稲荷駅	55分

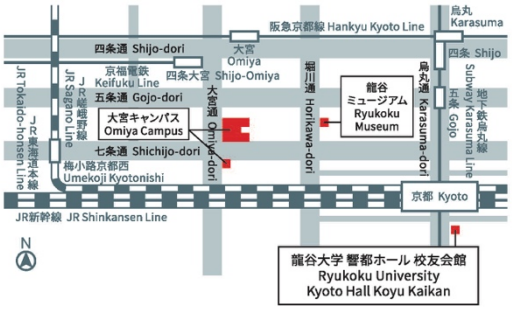
大宮キャンパス（3・4年次）

〒600-8268　京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

龍谷大学の歴史は、1639（寛永16）年、京都西本願寺に創設された学寮に始まります。その発祥の地が大宮キャンパスです。重要文化財の本館をはじめ、教室棟の南黌・北黌、正門、旧守衛所といった歴史的建造物が佇みます。豊かな蔵書を誇る大宮図書館には、国宝を含め、教育・研究に役立つ貴重資料が多く保存されています。

2025年には新たな教育研究施設が完成予定です。





- JR東海道本線／近鉄京都線／京都市営地下鉄 烏丸線「京都」駅下車 北西へ徒歩約10分（市バス約３分）
- JR山陰本線（嵯峨野線）「梅小路京都西」駅下車 北東へ徒歩約10分
- 京阪本線「七条」駅下車 西へ徒歩約20分
- 阪急京都本線「大宮」駅下車 南へ徒歩約20分（市バス約５分）
- 最寄りのバス停：市バス七条大宮・京都水族館前

JR大阪駅	→	JR京都駅	28分
京阪京橋駅	→	JR京都駅	42分
近鉄奈良駅	→	JR京都駅	44分
JR三ノ宮駅	→	JR京都駅	50分

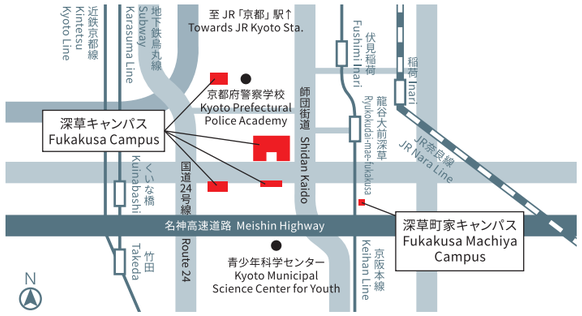
RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 心理学部設置事務室〕　〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1　Tel 075-343-3463（平日 9:00～17:00）

設置キャンパスの紹介

深草キャンパス（1・2年次）

〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67

京都駅南東、京都市伏見区にある深草キャンパスは、1960年親鸞聖人七百回忌記念として開設しました。7つの文系学部で構成され、留学生を含む多くの学生が学んでおり、さまざまな文化が混ざり合う多文化共生キャンパスです。2020年には、新たに課外活動の拠点である成就館が完成。これまでの課外活動支援に加え、地域・社会との新たな出会いの創出をめざします。





・JR奈良線「稲荷」駅下車 南西へ徒歩約８分
・京阪本線「龍谷大前深草」駅下車 西へ徒歩約３分
・京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車 東へ徒歩約７分

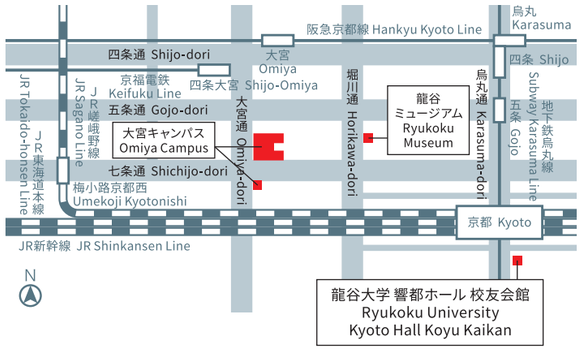
JR大阪駅	→	JR稲荷駅	33分
京阪京橋駅	→	京阪龍谷大前深草駅	39分
近鉄奈良駅	→	京阪龍谷大前深草駅	40分
JR三ノ宮駅	→	JR稲荷駅	55分

大宮キャンパス（3・4年次）

〒600-8268　京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

龍谷大学の歴史は、1639（寛永16）年、京都西本願寺に創設された学寮に始まります。その発祥の地が大宮キャンパスです。重要文化財の本館をはじめ、教室棟の南黌・北黌、正門、旧守衛所といった歴史的建造物が佇みます。豊かな蔵書を誇る大宮図書館には、国宝を含め、教育・研究に役立つ貴重資料が多く保存されています。

2025年には新たな教育研究施設が完成予定です。





・JR東海道本線／近鉄京都線／京都市営地下鉄 烏丸線
「京都」駅下車 北西へ徒歩約10分（市バス約３分）
・JR山陰本線（嵯峨野線）「梅小路京都西」駅下車 北東へ徒歩約10分
・京阪本線「七条」駅下車 西へ徒歩約20分
・阪急京都本線「大宮」駅下車 南へ徒歩約20分（市バス約５分）
・最寄りのバス停：市バス七条大宮・京都水族館前

JR大阪駅	→	JR京都駅	28分
京阪京橋駅	→	JR京都駅	42分
近鉄奈良駅	→	JR京都駅	44分
JR三ノ宮駅	→	JR京都駅	50分

RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 心理学部設置事務室〕　〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1　Tel 075-343-3463（平日 9:00〜17:00）

You, Unlimited

資料５



More United

More Empowered

心のつながりを探究し、社会に力を生み出す。

誰もが自分らしく生き、支え合える社会を実現するために。
人と人とのつながりを深く理解し、共に行動する人間を育む。
龍谷大学心理学部は、人間関係の大切さを探究することによって、
現代社会の課題を解決に導き、共に歩み続ける未来を拓いていきます。

龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）
2023年４月 開設予定（設置構想中）
設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学 心理学部 心理学科（概要）

龍谷大学が構想している、心理学部 心理学科の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後変更する可能性があります。

学部・学科 概要

文学部 臨床心理学科を改組。
（入学定員を99名から255名に増員）

入学定員	学位	設置場所
255名	学士（心理学）	1・2年次 ：深草キャンパス（京都市伏見区） 3・4年次 ：大宮キャンパス（京都市下京区）

養成する人材像

現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や
良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ
主体的かつ実践的に対応できる人材を養成する。

幅広い学びの実現

データサイエンスも取り入れた、基礎から卒業後のキャリアまで繋がる心理学教育の「3つの柱」

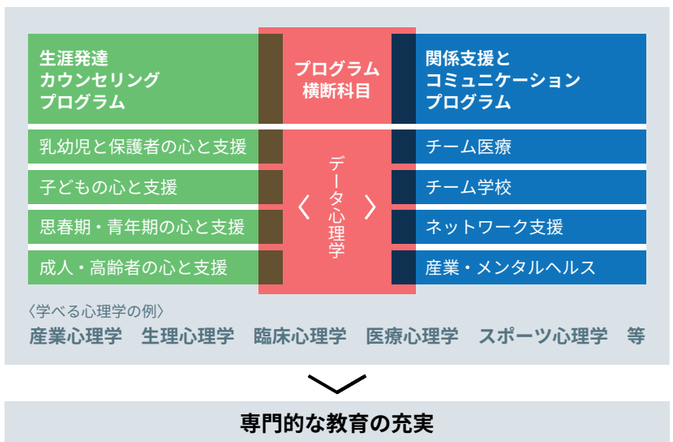
1. 心理学基礎科目
心理学の基礎となる考え方そのものを学び、どのように応用心理学と繋がるのかを理解する。

2. データサイエンス科目
心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉える。

3. キャリア啓発科目
卒業後のキャリアを意識し、実社会において心理学がどのように活用されるのかを学ぶ。



専門的心理学教育の「2つのプログラム」キャリアビジョンに合わせた専門的かつ実践的な「9つの分野」



発達段階に応じた「個人の心」にアプローチする**「生涯発達カウンセリングプログラム」**と、社会で共に生きる人の繋がりにアプローチする**「関係支援とコミュニケーションプログラム」**の2つのプログラムを配置し、心理学の専門的な教育の充実を図ります。さらに、2つのプログラムを横断的に接続する分野として**「プログラム横断科目」**を開設します。

「2つのプログラム」および「プログラム横断科目」の下には、特徴的な心理実践に繋がる「9つの分野」の科目群を設定し、学生自身のキャリアビジョンに合わせて、関心のある分野の科目を自由に選択し、幅広く学ぶことができます。

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状（公民）※1　　**公認心理師受験資格課程**※2　　**認定心理士資格**

※1：教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。
※2：公認心理師の受験資格を取得するためには、学部における所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修した上で修了する必要があります。

卒業後の進路

心理学を通じて修得する知識やスキルは、対人支援の現場だけではなく、広く一般社会でも活用できるものです。
さまざまな進路において、より良い社会づくりのために貢献し活躍することが期待されます。

心理学を活かした「支援」の仕事

医療領域	病院・クリニック・リハビリテーション施設の心理職員　等
教育領域	学童保育スタッフ　学習支援員　幼稚園カウンセラー　学校カウンセラー　等
産業領域	キャリアカウンセラー　安全管理者　等
福祉領域	児童養護・高齢者・障がい者福祉施設職員　放課後等デイサービス職員　児童相談所児童心理司　等
司法領域	家庭裁判所調査官　少年院・少年鑑別所の心理職員（法務技官）　警察職員（心理員）　等
大学院進学	心理専門職（公認心理師・臨床心理士）の資格取得や専門研究を深める

心理学の学びを活かしたさまざまな仕事

コミュニケーション・スキルを活かした販売職や営業職、データサイエンスと心理学の専門性をかけ合わせた企画・開発職など、多様な業種・職種で心理学の学びを活かすことができます。

民間企業	マスコミ　商社　情報通信　IT企業　銀行・証券会社　保険会社 メーカー（自動車・電機・機器・医薬品等）　スーパー・小売業　観光・サービス業 不動産・建設業　運輸（航空・鉄道・郵便等）　電力・ガス業　教育関係　等
公務員	地方・国家公務員　警察官　消防士　公立高校教員　国公立大学事務職員

初年度学費（他大学含む）

単位（円）

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等（諸会費は除く）	初年度学費
龍谷大学 心理学部 心理学科	260,000	1,007,000	0	1,267,000
同志社大学 心理学部 心理学科	200,000	973,000	193,000	1,366,000
立命館大学 総合心理学部 総合心理学科	200,000	1,206,600	0	1,406,600
関西大学 社会学部 心理学専攻	260,000	930,000	0	1,190,000
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 心理系専攻	250,000	1,085,000	20,000	1,355,000
追手門学院大学 心理学部 心理学科	160,000	850,000	155,000	1,165,000

※龍谷大学 心理学部 心理学科の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます（2021年10月時点）。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

資料 6

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料6 近畿 2 府 4 県の 18 歳人口予測と地元残留率

２（出典）

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研 マーケットリポート

３（引用範囲）

18 歳人口・進学率・残留率の推移（近畿）
https://souken.shingakunet.com/research/2021/04/182020-f075.html

以 上

資料７

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料７　私立大学等入学志願動向

２（出典）

日本私立学校振興・共済事業団　「私立大学・短期大学等入学志願動向」

３（引用範囲）

入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者、志願倍率、合格率、歩留率、入学定員及び入学定員充足率　（いずれも全体の動向及び理・工学系の動向）
https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm

以　上

資料８

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料８　私立大学 一般入学試験志願者 上位 30 大学（平成 29～令和 3 年度入試）

２（出典）

豊島継男事務所 一般入試志願状況レポート

以　上

資料９

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料９　進学ブランド力調査 志願度（平成 29～令和 3 年度・関西エリア）

２（出典）

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研　進学ブランド力調査

３（引用範囲）

志願度（全国及び関西エリア）
http://souken.shingakunet.com/research/2012/07/post-66a6.html

以　上

資料 10

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料10　厚生労働省　令和2年労働安全衛生調査（実態調査）

２（出典）

厚生労働省「令和2年労働安全衛生調査（実態調査）結果の概要」

３（引用範囲）

メンタルヘルス対策に関する事項

以　上

資料 11

【 省 略 】

１（書類等の題名）

資料11　IT人材需給に関する調査（概要）

２（出典）

経済産業省「IT人材需給に関する調査（概要）」

以　上

資料１２

文学部臨床心理学科 都道府県別就職状況

本社設置 都道府県	平成28（2016）年度 卒業	平成29（2017）年度 卒業	平成30（2018）年度 卒業	令和元（2019）年度 卒業	令和2（2020）年度 卒業	令和2年度 構成比	5年間 合計
北海道		1	2			0.0%	3
山形県					1	1.9%	1
福島県		1				0.0%	1
埼玉県	1		1	1		0.0%	3
千葉県	1			1	1	1.9%	3
東京都	21	15	23	22	9	17.0%	90
神奈川県					2	3.8%	2
新潟県	1					0.0%	1
石川県		2	1	1	1	1.9%	5
福井県	2					0.0%	2
長野県					1	1.9%	1
岐阜県	1	1		2		0.0%	4
静岡県		2	2			0.0%	4
愛知県		3	3			0.0%	6
三重県					2	3.8%	2
滋賀県	5	1	4	6	3	5.7%	19
京都府	18	11	7	12	6	11.3%	54
大阪府	14	23	20	8	16	30.2%	81
兵庫県	2	4	3	1	3	5.7%	13
奈良県			1		3	5.7%	4
和歌山県	1				1	1.9%	2
近畿圏合計	40	39	35	27	32	—	173
近畿圏比率	54.1%	57.4%	49.3%	45.8%	60.4%	—	53.2%
鳥取県	1			1		0.0%	2
岡山県	1		1	1		0.0%	3
広島県		1	1	1	1	1.9%	4
徳島県				1		0.0%	1
香川県				1	1	1.9%	2
福岡県	1	3	2			0.0%	6
その他	4				2	3.8%	6
総計	74	68	71	59	53	100.0%	325

※当該年度卒業生のうち、就職決定者のみを集計

資料１３

文学部臨床心理学科　進路決定率

	平成28（2016）年度卒業	平成29（2017）年度卒業	平成30（2018）年度卒業	令和元（2019）年度卒業	令和2（2020）年度卒業	5年間平均
卒業者	97	83	99	77	91	93
就職・進学等希望者①	97	83	99	77	89	92
進路決定者数②	95	83	97	76	87	91
進路決定率対希望者②/①	97.9%	100.0%	98.0%	98.7%	97.8%	98.4%

資料１４

龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称）」
設置に係る人材需要の見通し調査
(設置についての採用意向アンケート調査)
報告書

令和４年１月

株式会社　高等教育総合研究所

目次

1　調査の概要　2

2　全質問項目の集計結果　3

3　集計結果のポイント　14

人材需要の見通し調査結果　まとめ　18

添　付　資　料　19

資料１　採用意向アンケート用紙　20

資料２　採用意向アンケート概要　22

1　調査の概要

調　査　目　的　：	龍谷大学が、2023（令和 5）年 4 月に設置予定の「心理学部 心理学科（仮称）」（以下、本学部）について、第三者機関によるアンケート調査を用いて、人材需要の見通しを測ることを目的とする。
調　査　対　象　：	本学部が卒業後の進路に想定する業種・職種を踏まえ、関東地区１都３県及び近畿２府４県を対象に、民間企業、医療、公務、社会福祉施設等の 4,196 件の事業所に調査を依頼した。
調　査　時　期　：	2021（令和 3）年 11 月～2022（令和 4）年 1 月
調　査　内　容　：	無記名。選択肢式で全 9 問。一部記述式を含む 主な質問事項は、回答企業等の基本情報（業種・所在地など）、本学部卒業生の採用の意欲、採用可能人数、本学部に関する意見・要望など。
調　査　方　法　：	調査対象先の採用担当者あてに依頼状・アンケート調査用紙・学部概要・返送用封筒を送付。ご協力いただける場合、回答済みのアンケート調査用紙のみをご返送いただいた。
回　収　件　数　：	707 件

2　全質問項目の集計結果

※構成比はいずれも少数第２位を四捨五入した。したがって、合計は必ずしも 100.0％とは一致しない。

問１　貴社・貴団体の業種を教えてください（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	マスコミ・広告	13	1.8%
2	商社	36	5.1%
3	情報通信・ソフトウェア・IT	67	9.5%
4	金融・保険	28	4.0%
5	卸売・小売	80	11.3%
6	観光・ホテル	17	2.4%
7	建設・不動産	45	6.4%
8	運輸	48	6.8%
9	人材	5	0.7%
10	サービス	44	6.2%
11	製造	129	18.2%
12	医療・病院	20	2.8%
13	教育関係	14	2.0%
14	公務・団体	21	3.0%
15	社会福祉施設・事業所	89	12.6%
16	司法・矯正・警察・児童相談所	27	3.8%
17	その他	21	3.0%
	無回答	3	0.4%
合計		707	100.0%

問２　貴社・貴団体の所在地を教えてください（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	東京都	84	11.9%
2	神奈川県	14	2.0%
3	千葉県	10	1.4%
4	埼玉県	12	1.7%
5	滋賀県	58	8.2%
6	京都府	86	12.2%
7	大阪府	290	41.0%
8	兵庫県	103	14.6%
9	奈良県	32	4.5%
10	和歌山県	12	1.7%
11	その他	5	0.7%
	無回答	1	0.1%
合計		707	100.0%

問３　貴社・貴団体の従業員規模を教えてください（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	50 名以下	115	16.3%
2	51 名～100 名	107	15.1%
3	101 名～300 名	162	22.9%
4	301 名～500 名	82	11.6%
5	501 名以上	241	34.1%
	無回答	0	0.0%
合計		707	100.0%

問４　貴社・貴団体で新卒生を採用する際に、求める能力を教えてください（あてはまるもの全てにマーク）

※複数回答項目のため、回答数は述べ。

※回答率は、回答者 707 件のうち、各項目を挙げた者の割合

選択項目		回答数	回答率
1	コミュニケーション能力	645	91.2%
2	基礎的な学力	303	42.9%
3	専門的な知識・技能	132	18.7%
4	主体性	441	62.4%
5	実行力	324	45.8%
6	考える力	455	64.4%
7	チームで働く力	506	71.6%
8	判断力	278	39.3%
9	表現力	142	20.1%
10	多様性	155	21.9%
11	理解力	314	44.4%
12	忍耐力	302	42.7%
13	適応力	391	55.3%
14	豊富な実習経験	16	2.3%
15	語学力	32	4.5%
16	取得資格・免許（見込み含む）	133	18.8%
17	インターンシップ・ボランティア等の経験	16	2.3%
18	その他	15	2.1%
	無回答	4	0.6%

問５　龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」で養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	高い	129	18.2%
2	どちらかと言えば高い	430	60.8%
3	どちらかと言えば高くない	115	16.3%
4	高くない	16	2.3%
	無回答	17	2.4%
合計		707	100.0%

問６　龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」の卒業生を採用したいですか（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	242	34.2%
2	採用しない	54	7.6%
3	分からない	405	57.3%
	無回答	6	0.8%
合計		707	100.0%

問７は問６で「採用したい」と回答した 242 件が回答対象である。

問７　採用可能人数をお答えください（あてはまるもの１つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	1 名	38	15.7%
2	2 名	28	11.6%
3	3 名	15	6.2%
4	4 名	1	0.4%
5	5 名以上	26	10.7%
6	人数は未定だが、最低 1 名	134	55.4%
	無回答	0	0.0%
合計		242	100.0%

問８　「採用したい」と回答いただいた理由についてご自由にお書きください。

※下記の 130 件の回答を得た。原文ママ。参考として、業種（問１の回答）を右に付記した

番号	回答	業種（問１）
1	心理学を活かし、お客様との接客を柔軟に行うことができると考えたからです。	卸売・小売
2	龍谷大学学生のレベルは高く、期待値が高いため	商社
3	龍谷大学生には学力が高いイメージがあるため	
4	コミュニケーションスキルを身に付けた人材に入社頂きたいと考えているため	サービス
5	養成する人材像が求める人物像とマッチしているため	公務・団体
6	データサイエンスでの知見、経験の活用による価値提供	製造
7	現責任者を含め、OB、OG にもご活躍頂いているため	卸売・小売
8	現在、龍谷大学の卒業生が社内で活躍しているため。	卸売・小売

9	仕事をする上で必要不可欠なコミュニケーションスキルにおいて、身につく学びをされているため。	商社
10	優秀であろうから	建設・不動産
11	営業、マーケティングの分野で購買心理にそった活動が期待されるため	製造
12	傾聴力に長けていると感じたため	製造
13	対人能力が高い人材と思うため	商社
14	当社は学部学科不問で様々な人材の確保をしたいため 新たな学部を卒業される学生さんの採用を大切にしたいと思ったためです	商社
15	統計学の科学的手法を理解していることは望ましいから	情報通信・ソフトウェア・IT
16	心理学といった定量での測定がむずかしいものをデータサイエンスでしっかりととらえ、実社会に落とし込む非常に理に叶った学部設計だと感じました。	（無回答）
17	ビジネスで必要な人間理解、コミュニケーション力が鍛えられていると感じるため	運輸
18	心理学の勉強は非常に役立つものだと考えられるため	商社
19	他学部でも優秀な学生さんが多いため	金融・保険
20	今までにないタイプの従業員がいる事は多様性が増し、組織の活性化が期待できるから。	建設・不動産
21	心理学で学んだことが、社会においてもコミュニケーションの面で発揮できると考えるため	運輸
22	当社は直接心理学が必要な企業ではありませんが、お客様の考え、要望を読み解く力として必要な知識であると考えます。	サービス
23	お客様の気持ちに寄り添った対応が必須のため	サービス
24	人間に対する心理学的見地からのコミュニケーション能力が必要な業務であるため	運輸
25	相手の立場になって考えるうえで必要な能力と考えるため	卸売・小売
26	介護職員や相談員としてのスキルが期待できる。	医療・病院
27	お客様の心に寄り添えることを期待したいと考えているため	建設・不動産
28	メンタル、心理面での理解度の高い人材が社内にいるとよいため。 採用している学部が経済、経営、商業、法学に偏っているため	卸売・小売
29	色々な知識をお持ちの方が会社にいることが大切と考えるため	サービス
30	関西で心理学部が少ないので、様々な可能性を秘めていると思うから	製造
31	メンタルヘルス対応を充実させるために、心理学の基礎知識を有する人材が必要なため。	製造

32	主体性のある人材育成を目指しているため	運輸
33	幅広く、全ての学生を公平に判断したい。	建設・不動産
34	貴重な人材である。	運輸
35	御校の卒業生が活躍しており是非採用したい。	卸売・小売
36	いろんな学部、学科を経験した学生を採用したいため	製造
37	指導する側とされる側それぞれへの教育ができる人材を求めているため	サービス
38	毎年、総合職採用の募集に苦慮しているため	サービス
39	文系（営業職）の人材で、実際に他校ではあるが、心理学部出身で活躍している者がいるため	製造
40	心理学部だけに限らず、貴学の多種多様な学部、学生同士で交流をされてきた学生であれば、問 4 で回答した能力が培われていると判断するため	商社
41	お客様と接する機会が多く、現場で役に立つと考えられるため。 従業員の悩みを解消してくれるのではないかと考えたため。	卸売・小売
42	卒業生がよく頑張っているため	卸売・小売
43	少なくとも他者が何を考えているかについて興味関心があると思うから	人材
44	人物中心の採用を行っているため	製造
45	システムエンジニアは文系も理系も関係ないので、学ぶ習慣があれば採用したいため	情報通信・ソフトウェア・IT
46	必ずではないが、人材を見極めたいため	（無回答）
47	働く上で、コミュニケーションスキルは非常に重要であると考えますので、データサイエンスや心理学は有効であると考えるため。	情報通信・ソフトウェア・IT
48	心理学は必須項目と位置づけられるため	金融・保険
49	今後採用予定がでてくると思われるため	運輸
50	心理学科卒業の方を配属したいため	社会福祉施設・事業所
51	子供服を扱う企業として子どもの心理学を実際に活かしてもらえる可能性を感じた為。 特に現代の子供の心理を研究し、よりよい商品を提供していきたい。	卸売・小売
52	多角的な視野で取り組む必要があるため	運輸
53	理由は特にありません。	サービス
54	今後の社会で相手を読みとく力、心理的なコミュニケーションが大事になってくるから。	卸売・小売
55	弊社が求めている人材であるコミュニケーション力を身に付けた学生がいると考えたため	建設・不動産

56	心理学を学ぶことで、相手のことを思いやり、チームとして目標に向かって協力することができると感じたため。	製造
57	出身の方に活躍いただいているから	情報通信・ソフトウェア・IT
58	貴学出身の方に多く活躍いただいているため。	情報通信・ソフトウェア・IT
59	これからの企業運営には、心理学的な観点を含めた、組織を俯瞰する力が求められると考えるため	商社
60	学部、学科に関係なく、当社を希望する学生であれば選考を行いたいため	教育関係
61	過去に心理学科卒の新入社員の採用実績があるため	建設・不動産
62	論理的思考力があり、向上心と最新技術対応に努力する人が必要であるため	情報通信・ソフトウェア・IT
63	当社に心理学部出身者がいないため。 龍谷大学には優秀な学生が多いため。	商社
64	多様な価値観の組合員と接する仕事となりますので、心の動きの学びを活かすことができると思っております。	卸売・小売
65	若い人たちへのコンピュータシステムの開発および設計、ノウハウの伝承のため	情報通信・ソフトウェア・IT
66	心理学の学びを活かした仕事として、コミュニケーションスキルを活かした営業職を求めているため	卸売・小売
67	専門的に心理学を学んだ人とそうでない人を採用した場合、コミュニケーション能力や成長スピードにどれくらいの違いがあるのか興味があります。	金融・保険
68	データサイエンスの知見は重要だと考えているため。	金融・保険
69	資格のいる仕事なので資格取得できれば採用したい。	
70	人とのつながりを大切にしている会社でお客様と良好なコミュニケーションをとる上で活かすことができる学びと思うから。	卸売・小売
71	障害福祉分野において社会福祉士や介護福祉士のように公認心理士の配置も重要となっているため。	社会福祉施設・事業所
72	多様性が求められる現代社会において、良好な人間関係構築のためにコミュニケーションスキルは不可欠であり、それを身に付けた学生は十分採用する意義があると考える。	建設・不動産
73	在職者に卒業生が多数活躍している為。	金融・保険
74	多様な人材を人物本位で採用します。	サービス
75	良好な人間関係の構築に必要なスキルを身に付けることで、営業で活かせると考えてます。	金融・保険

76	貴学の卒業生は何事にも真面目に積極的に取り組める人材が多く、前向きで主体性のある学生を引き続き採用したいため。	商社
77	御校の学生様はすばらしい方が多いです。	社会福祉施設・事業所
78	・人の心理について学ばれることにより、市場調査やマーケティング部門での活躍に期待できる。・人事部門における社員のフォロー担当の素養があると感じる。	情報通信・ソフトウェア・IT
79	チームワークのよい職場・企業を目指しており、心理学の造詣が深い人材に期待している。	製造
80	質の高い学生の雇用	運輸
81	毎年、事務総合職を採用しています。	医療・病院
82	心理ということで、営業などでもその対人スキルは活かされそうだから。	製造
83	幅広く活躍してもらえそうな為。	卸売・小売
84	児童養護施設で専門の知識を発揮してくれると思うから。	社会福祉施設・事業所
85	実務で役立ちそうな履修内容なので。	司法・矯正・警察・児童相談所
86	心理学に基づき、コミュニケーションスキルを学ばれた学生は、必要な人材だと考えるため。	卸売・小売
87	利用者さんのメンタルの安定を図りたいから。	社会福祉施設・事業所
88	養成する人材像に期待できる為。	金融・保険
89	自己理解や他者理解のコミュニケーションにおいて、需要な学びであり、あらゆる仕事において必要な能力が得られると思います。	製造
90	福祉施設では対人支援の仕事となるため、十分学んでこられたことを活かせるため、実際に同学科を卒業した学生の就職がある。	社会福祉施設・事業所
91	他学部の龍大卒業生が在籍している。	社会福祉施設・事業所
92	・障害者支援に役立てたい（精神・知的）職員のメンタルケアに役立てたい	社会福祉施設・事業所
93	基礎的な知識を学んでいるから。	社会福祉施設・事業所
94	高齢者介護施設では相手の気持ちを知ることが必要です。単なる技術だけではなく相手に寄り添った支援ができる人材を望んでいます。又介護施設だけ	社会福祉施設・事業所

	ではなく相談員へとステップアップする事もできるので是非採用したいと思います。	
95	職員及び保護者に対する支援	社会福祉施設・事業所
96	営業や人と接する仕事において、集団心理、消費者行動などの心理学の知識が大いに役立つから。	建設・不動産
97	本人の人柄と資格次第です。	公務・団体
98	人と接する業務を行う上で、心理学科で学習したことを活かせると思うため。	社会福祉施設・事業所
99	考える力に長けていると思う為。	運輸
100	一般的な営業職でもコミュニケーションをとりながら相手の心理を読む能力が必要だから。	商社
101	お客様との接客において、学校で身に付けた能力が活きると感じたため。	卸売・小売
102	人材不足、従業員の若返り（平均年齢を下げる）	人材
103	コミュニケーションスキルが期待できる為。	観光・ホテル
104	弊社にOG・OBが多く、いつも良いご縁を頂いております。	卸売・小売
105	対人間関係、お客様、社内とも信頼関係を築き業務を行っているため、心理の学びは活かされるものであると考えます。	卸売・小売
106	学部不問 多様な学生を採用したい	卸売・小売
107	人材の資格素質を習得してるから。	サービス
108	心理学の学習を通して身に付いたスキルが当社での業務に実践的に活かされると考えるため。	卸売・小売
109	良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルは、営業職などお客様相手の仕事では強味になり、会社の財産となる人材だと思うから。	金融・保険
110	コミュニケーション力を身に付けた人材を育成していただけている為。	サービス
111	当社が運営しております学童・児童館施設において、心身ともに大きく成長する学童期の子どもたち１人ひとりの性格や特徴を理解し、関わっていただける学びをされると考えたから。	社会福祉施設・事業所
112	物流業界でも人との関わりはかかせないお仕事になりますので、学んでいただいたコミュニケーションスキルが活かせると思った為。	運輸
113	心理学を学ぶことにより、自身のメンタルケアもできることが、どの仕事においても求められるスキルだと考える。	商社
114	心理的な考え方について深く学習した方は、きっと対面の営業においてもその力を発揮することが出来ると感じたためです。	建設・不動産

115	コミュニケーションスキルやデータサイエンスは今後益々の需要が見込まれます。	情報通信・ソフトウェア・IT
116	貴校の学生は毎年採用したいと考えています。	情報通信・ソフトウェア・IT
117	私共の社会福祉事業者は今後増加が予測される認知症への対応が急務となっています。症状に対する医療的ケアは進みますが、携わる職員のケアが大切になって参ります。心理的な部分に長けている人材が必要と感じています。	社会福祉施設・事業所
118	高齢者施設において、高齢者の行動や考え方について専門的な知識のもと、ケアの方向性等を示せる人材を求めていきたい。	社会福祉施設・事業所
119	お客さまのニーズを見極める、あるいは相手の立場で考え行動できる人材が採用できるのではないかと思ったためです。	サービス
120	心理学を学ぶことで、他者に寄り添った関わりも持てると考えています。	社会福祉施設・事業所
121	貴学から卒業し、入社に繋がった社員は役職者としての立場を全うして下さっており、近年、弊社における受験者も人としての評価が高いため。	サービス
122	採用については、施設単位ではなく法務者として実施しているが、心理職の採用枠があり、矯正として心理職を募集しているため。	司法・矯正・警察・児童相談所
123	コミュニケーションスキルを身につけ主体的かつ実践的に対応できる人材を養成するという人物像と当社の求める人物像がマッチする所があるため。	情報通信・ソフトウェア・IT
124	龍谷大学様出身の方が弊社で活躍している為、今後も是非採用させて頂きたく思っております。	観光・ホテル
125	心理について客観的な視点で考えることができそうなので。	商社
126	コミュニケーション力がある方であれば採用したいと思います。	医療・病院
127	公認心理士が資格を活かせる人材を望んでいるため。（当法人は障害福祉事業所であり、発達の気になる児童の支援を行っている。）	社会福祉施設・事業所
128	心理学部の学生さんだけではなく、貴校の学生さんは積極的に採用したいと考えております。	製造
129	多様性のある様々な人材を採用したいと考えているため。	金融・保険
130	当庁の上部組織が採用活動を一括して行っているため、当庁に採用の権利はないことを申し添えます。	公務・団体

問９　龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください

※下記の２件の回答を得た。原文ママ。参考として、業種（問１の回答）を右に付記した。

番号	回答	業種（問１）
1	産業領域については、今後企業ニーズが高まってくると思っています	製造
2	特にありません	製造

3　集計結果のポイント

※構成比はいずれも少数第２位を四捨五入した。したがって、合計は必ずしも 100.0％とは一致しない。

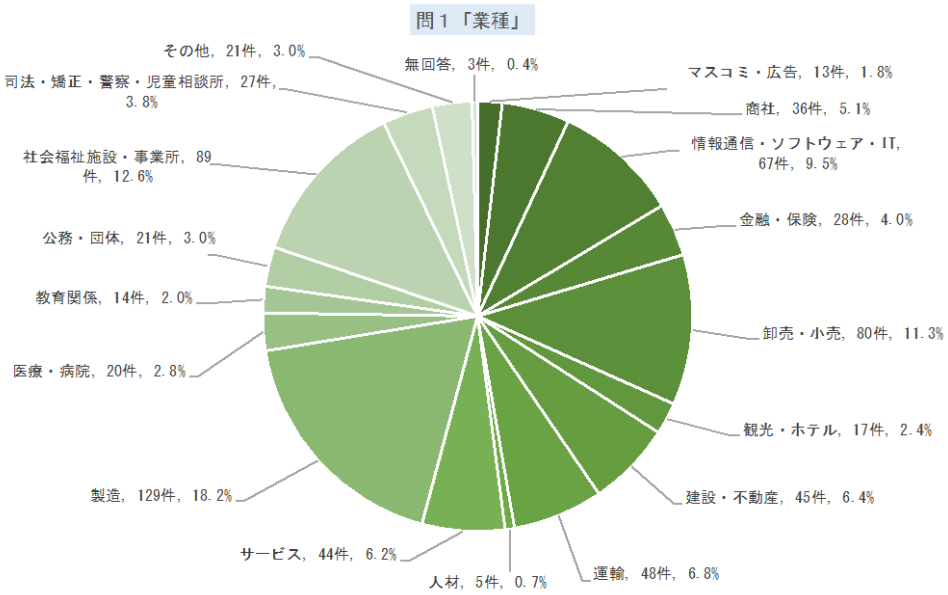
◆　回答団体の基本情報

龍谷大学が 2023（令和 5）年 4 月に設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」に係る人材需要アンケート調査において、返送を得た有効回答 707 件の集計を行った。

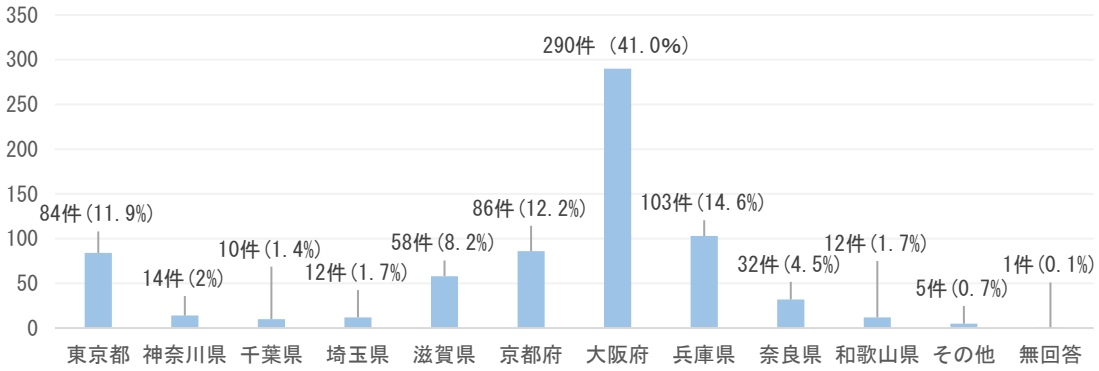
その結果、回答事業所について、業種別で見た場合、最も回答が多かったのは、「製造」で 129 件（18.2％）であった。次いで「社会福祉施設・事業所」が 89 件（12.6％）「卸売・小売」で 80 件（11.3％）の順となった。

所在地について、最も回答が多かったのが「大阪府」で 290 件（41.0％）、次に「兵庫県」で 103 件（14.6％）、「京都府」で 86 件（12.2％）であった。

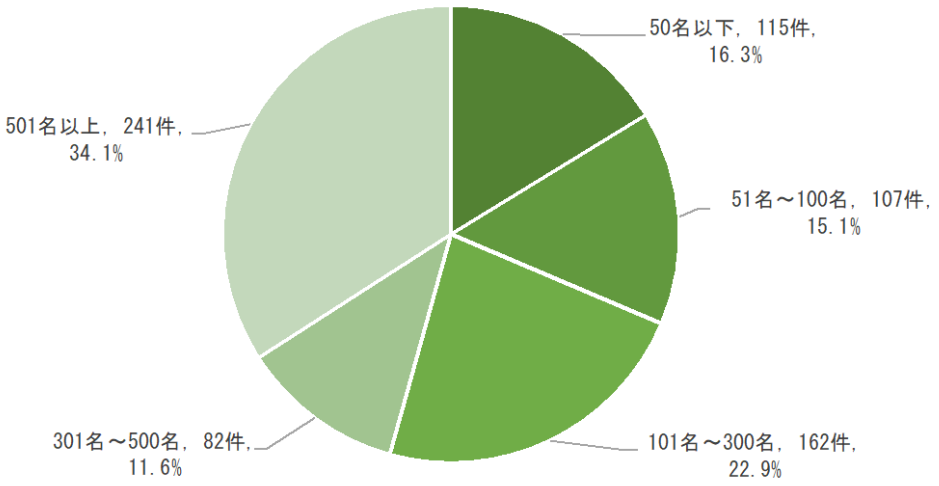
また、従業員規模について、もっとも回答が多かったのが「501 名以上」で 241 件（34.1％）、次いで「101 名～300 名」で 162 件（22.9％）、「51 名～100 名」で 107 件（15.1％）の順となった。



問２「所在地」



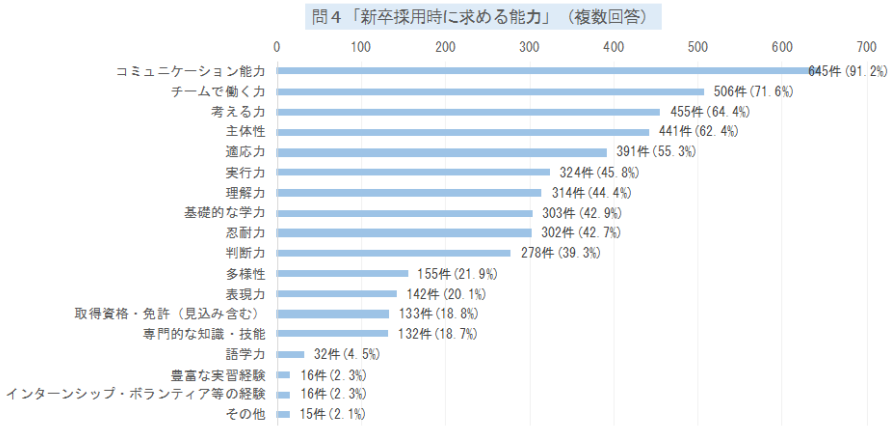
問３「従業員規模」



◆ 回答団体の 8 割以上が新卒採用時に「コミュニケーション能力」を重視

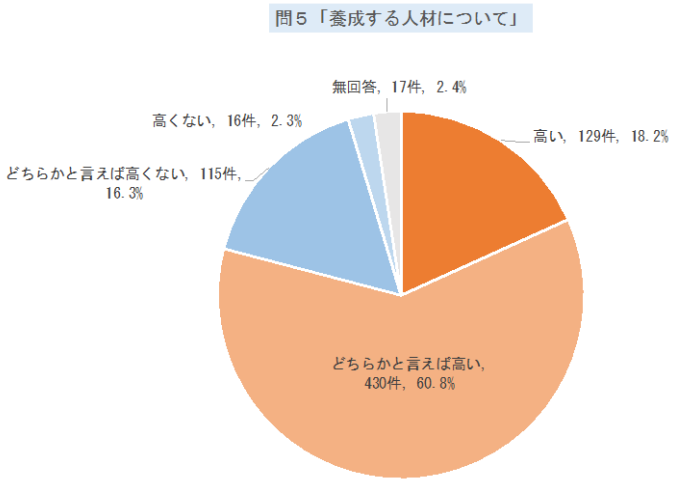
問 4 は新卒採用時に求める能力について質問をした。一番多かったのが「コミュニケーション能力」で 645 件（91.2%）、次いで「チームで働く力」が 506 件（71.6%）、「考える力」が 455 件（64.4%）、「主体性」が 441 件（62.4%）であった。

これら 4 項目は 60%を超える回答率となっている。（複数回答の結果、グラフは回答の多い順）



◆ 回答団体の 8 割近くが本学部の養成する人材について社会的ニーズがあると回答

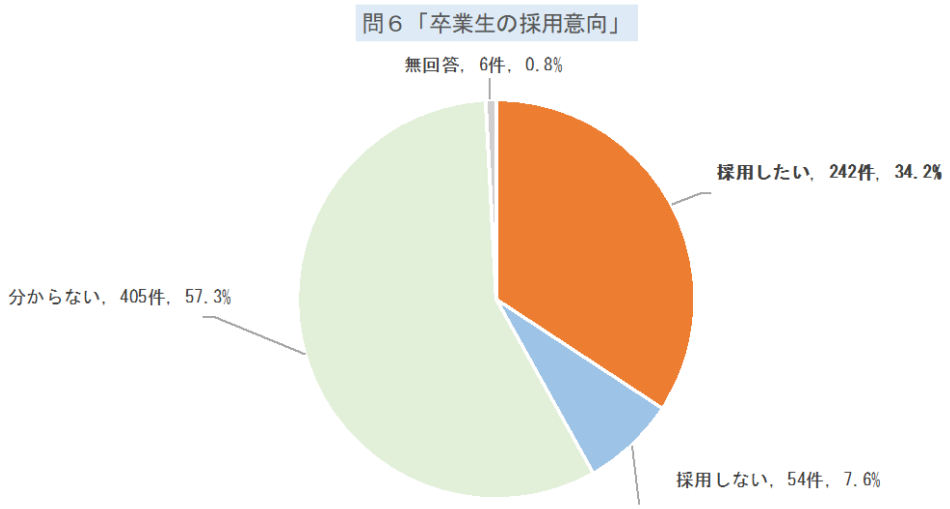
問 5 は本学部が養成する人材の社会的ニーズについて質問をした。その結果、「高い」が 129 件（18.2%）、「どちらかと言えば高い」が 430 件（60.8%）であった。合計すると 559 件（79.0%）が、本学部が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。



◆ 回答団体の 34.2%が採用意欲を示し、採用可能人数は 407 人

問６、問７では、「心理学部 心理学科（仮称）」を卒業する学生に対する採用意向と採用可能と思われる人数について質問をした。その結果、「採用したい」と 242 件（34.2%）の回答を得た。

また、「採用したい」と回答した 242 件に対して、採用可能と思われる人数を質問した。その結果、「人数は未定だが、最低１名」で 134 件(55.4%）が最も多く、次いで「１名」で 38 件（15.7%）の順であった。採用可能人数を合計すると、407 人であった。（※採用可能人数の計算方法は、「採用可能人数」と回答数を掛け合わせたものである。）



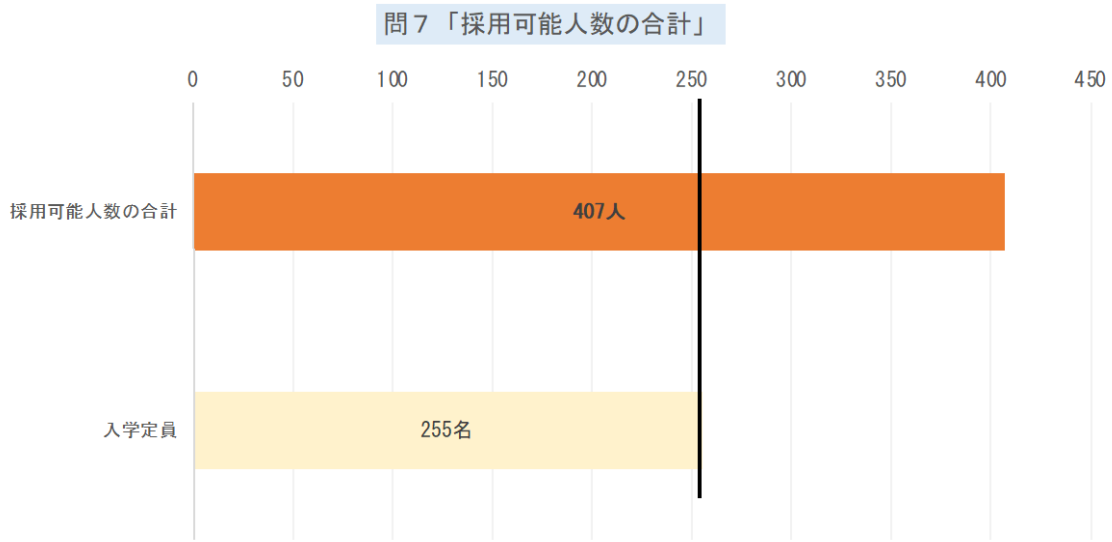
選択項目		回答数	合計人数
1	１名	38 件	38 人
2	２名	28 件	56 人
3	３名	15 件	45 人
4	４名	1 件	4 人
5	５名以上	26 件	130 人
6	人数は未定だが、最低１名	134 件	134 人
合計		242 件	407 人

人材需要の見通し調査結果　まとめ

「心理学部 心理学科（仮称）」が卒業後の進路に想定する業種・職種を踏まえ、関東地区１都３県及び近畿２府４県を対象に、民間企業、医療、公務、社会福祉施設等の4,196件の事業所に調査を依頼したところ、707件から回答を得た。

このうち、559件（79.0%）が、「心理学部 心理学科（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。また、問６で、「心理学部 心理学科（仮称）」を卒業した人材を採用したいかと質問したところ、242件が「採用したい」と採用意志を示した。さらに「採用したい」と回答した242件に対して、採用可能と思われる人数を質問したところ、合計407人となった。（※採用可能と思われる人数の合計407人の算出方法は17ページを参照。）

以上の結果から、龍谷大学が設置構想中である「心理学部 心理学科（仮称）」の入学定員255名を大幅に上回る結果となった。したがって、2023（令和5）年4月設置構想中の龍谷大学「心理学部 心理学科（仮称）」の卒業生の社会的人材需要については問題がないと判断できる。



添　付　資　料

資料１　採用意向アンケート調査・アンケート用紙
資料２　採用意向アンケート調査・アンケート概要

資料１　採用意向アンケート用紙

龍谷大学　心理学部 心理学科（仮称）設置構想中
採用意向アンケート

調査対象：人事・採用ご担当者

平素は格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。
龍谷大学（本部：京都府京都市伏見区）は、2023年4月に心理学部 心理学科 （仮称）の開設を構想しています。 本学ではこのアンケート調査を通して、将来心理学部卒業生の採用をご検討いただく皆様から率直なご意見をお伺いし、設置構想の参考にさせていただき、教育内容の充実を図って参りたいと考えております。なお、本アンケートは匿名回答であり、事業所名が特定されることはございません。また、集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。 つきましては、別紙「龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）概要リーフレット」をご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

―――

【アンケート記入にあたっての注意事項】
・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用してください。
・訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。



正しい回答のように丁寧に塗りつぶしてください。誤った回答の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

―――

問１ 貴社・貴団体の業種を教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ マスコミ・広告	○ 商社	○ 情報通信・ソフトウェア・IT
○ 金融・保険	○ 卸売・小売	○ 観光・ホテル
○ 建設・不動産	○ 運輸	○ 人材
○ サービス	○ 製造	○ 医療・病院
○ 教育関係	○ 公務・団体	○ 社会福祉施設・事業所
○ 司法・矯正・警察・児童相談所	○ その他 [　　]	

問２ 貴社・貴団体の所在地を教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 東京都	○ 神奈川県	○ 千葉県	○ 埼玉県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府
○ 兵庫県	○ 奈良県	○ 和歌山県	○ その他 [　　]			

問３ 貴社・貴団体の従業員規模を教えてください（あてはまるもの1つにマーク）

○ 50名以下　○ 51名～100名　○ 101名～300名　○ 301名～500名　○ 501名以上

アンケートは裏面に続きます。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問４ 貴社・貴団体で新卒生を採用する際に、求める能力を教えてください（あてはまるもの全てにマーク）

○ コミュニケーション能力	○ 基礎的な学力
○ 専門的な知識・技能	○ 主体性
○ 実行力	○ 考える力
○ チームで働く力	○ 判断力
○ 表現力	○ 多様性
○ 理解力	○ 忍耐力
○ 適応力	○ 豊富な実習経験
○ 語学力	○ 取得資格・免許（見込み含む）
○ インターンシップ・ボランティア等の経験	○ その他

以下の設問は「龍谷大学 心理学部 心理学科（仮称）概要リーフレット」をご覧の上、お答えください。

問５ 龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」で養成する人材は社会的ニーズが高いと思われますか（あてはまるもの1つにマーク）

○ 高い　○ どちらかと言えば高い　○ どちらかと言えば高くない　○ 高くない

問６ 龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」の卒業生を採用したいですか（あてはまるもの１つにマーク）

○ 採用したい　○ 採用しない　○ 分からない

問７・問８は問６で「採用したい」と回答された方のみにお尋ねします。

問７ 採用可能人数をお答えください（あてはまるもの１つにマーク）

○ 1名　○ 2名　○ 3名　○ 4名　○ 5名以上　○ 人数は未定だが、最低1名

問８ 「採用したい」と回答いただいた理由についてご自由にお書きください

問９ 龍谷大学が設置構想中の「心理学部 心理学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください

質問は以上となります。ご協力いただきありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

資料２　採用意向アンケート概要



龍谷大学 心理学部 心理学科（概要）

龍谷大学が構想している、心理学部 心理学科の概要です。※本内容は現時点での計画であり、今後変更する可能性があります。

学部・学科 概要

文学部 臨床心理学科を改組。
（入学定員を99名から255名に増員）

入学定員	学位	設置場所
255名	学士（心理学）	1・2年次 ：深草キャンパス（京都市伏見区） 3・4年次 ：大宮キャンパス（京都市下京区）

養成する人材像

現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や
良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ
主体的かつ実践的に対応できる人材を養成する。

幅広い学びの実現

データサイエンスも取り入れた、基礎から卒業後のキャリアまで繋がる心理学教育の「3つの柱」

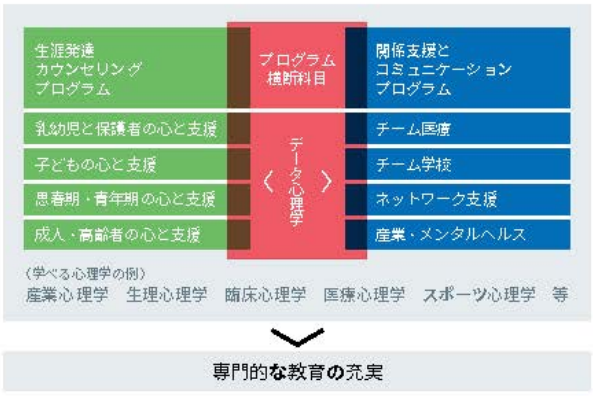
1. 心理学基礎科目
心理学の基礎となる考え方そのものを学び、どのように応用心理学と繋がるのかを理解する。

2.データサイエンス科目
心の動きや行動をデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉える。

3.キャリア啓発科目
卒業後のキャリアを意識し、実社会において心理学がどのように活用されるのかを学ぶ。



専門的心理学教育の「2つのプログラム」キャリアビジョンに合わせた専門的かつ実践的な「9つの分野」



発達段階に応じた「個人の心」にアプローチする「生涯発達カウンセリングプログラム」と、社会で共に生きる人の繋がりにアプローチする「関係支援とコミュニケーションプログラム」の2つのプログラムを配置し、心理学の専門的な教育の充実を図ります。さらに、2つのプログラムを横断的に接続する分野として「プログラム横断科目」を開設します。

「2つのプログラム」および「プログラム横断科目」の下には、特徴的な心理実践に繋がる「9つの分野」の科目群を設定し、学生自身のキャリアビジョンに合わせて、関心のある分野の科目を自由に選択し、幅広く学ぶことができます。

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状(公民)※1　　**公認心理師受験資格課程**※2　　**認定心理士資格**

※1:教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。
※2:公認心理師の受験資格を取得するためには、学部における所定科目を履修し、卒業後に大学院に進学して所定科目を履修した上で修了する必要があります。

卒業後の進路

心理学を通じて修得する知識やスキルは、対人支援の現場だけではなく、広く一般社会でも活用できるものです。
さまざまな進路において、より良い社会づくりのために貢献し活躍することが期待されます。

心理学を活かした「支援」の仕事

医療領域	病院・クリニック・リハビリテーション施設の心理職員　等
教育領域	学童保育スタッフ　学習支援員　幼稚園カウンセラー　学校カウンセラー　等
産業領域	キャリアカウンセラー　安全管理者　等
福祉領域	児童養護・高齢者・障がい者福祉施設職員　放課後等デイサービス職員　児童相談所児童心理司　等
司法領域	家庭裁判所調査官　少年院・少年鑑別所の心理職員(法務技官)　警察職員(心理員)　等
大学院進学	心理専門職(公認心理師・臨床心理士)の資格取得や専門研究を深める

心理学の学びを活かしたさまざまな仕事

コミュニケーション・スキルを活かした販売職や営業職、データサイエンスと心理学の専門性をかけ合わせた
企画・開発職など、多様な業種・職種で心理学の学びを活かすことができます。

民間企業	マスコミ　商社　情報通信　IT企業　銀行・証券会社　保険会社 メーカー(自動車・電機・機器・医薬品等)　スーパー・小売業　観光・サービス業 不動産・建設業　運輸(航空・鉄道・郵便等)　電力・ガス業　教育関係　等
公務員	地方・国家公務員　警察官　消防士　公立高校教員　国公立大学事務職員

初年度学費(他大学含む)

単位(円)

大学・学部・学科・専攻	入学金	授業料	教育充実費等(諸会費は除く)	初年度学費
龍谷大学 心理学部 心理学科	260,000	1,007,000	0	1,267,000
同志社大学 心理学部 心理学科	200,000	973,000	193,000	1,366,000
立命館大学 総合心理学部 総合心理学科	200,000	1,206,600	0	1,406,600
関西大学 社会学部 心理学専攻	260,000	930,000	0	1,190,000
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 心理系専攻	250,000	1,085,000	20,000	1,355,000
追手門学院大学 心理学部 心理学科	160,000	850,000	155,000	1,165,000

※龍谷大学 心理学部 心理学科の学費は予定です。
※他大学における上記学費は各大学ホームページ掲載情報に基づきます(2021年10月時点)。
※その他、諸会費が必要な場合があります。

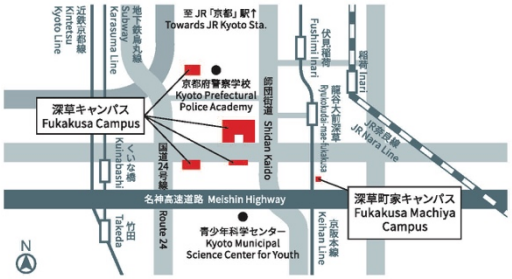
設置キャンパスの紹介

深草キャンパス（1・2年次）

〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67

京都駅南東、京都市伏見区にある深草キャンパスは、1960年親鸞聖人七百回忌記念として開設しました。7つの文系学部で構成され、留学生を含む多くの学生が学んでおり、さまざまな文化が混ざり合う多文化共生キャンパスです。2020年には、新たに課外活動の拠点である成就館が完成。これまでの課外活動支援に加え、地域・社会との新たな出会いの創出をめざします。





- JR奈良線「稲荷」駅下車 南西へ徒歩約８分
- 京阪本線「龍谷大前深草」駅下車 西へ徒歩約３分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車 東へ徒歩約７分

JR大阪駅	→	JR稲荷駅	33分
京阪京橋駅	→	京阪龍谷大前深草駅	39分
近鉄奈良駅	→	京阪龍谷大前深草駅	40分
JR三ノ宮駅	→	JR稲荷駅	55分

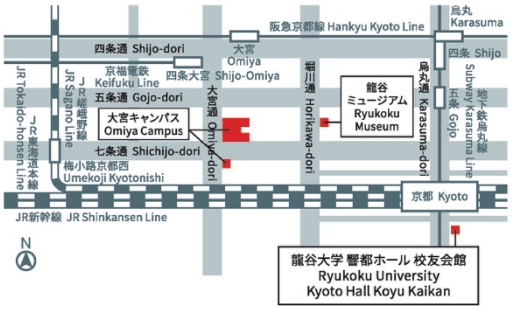
大宮キャンパス（3・4年次）

〒600-8268　京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

龍谷大学の歴史は、1639（寛永16）年、京都西本願寺に創設された学寮に始まります。その発祥の地が大宮キャンパスです。重要文化財の本館をはじめ、教室棟の南黌・北黌、正門、旧守衛所といった歴史的建造物が佇みます。豊かな蔵書を誇る大宮図書館には、国宝を含め、教育・研究に役立つ貴重資料が多く保存されています。

2025年には新たな教育研究施設が完成予定です。





- JR東海道本線／近鉄京都線／京都市営地下鉄 烏丸線「京都」駅下車 北西へ徒歩約10分（市バス約３分）
- JR山陰本線（嵯峨野線）「梅小路京都西」駅下車 北東へ徒歩約10分
- 京阪本線「七条」駅下車 西へ徒歩約20分
- 阪急京都本線「大宮」駅下車 南へ徒歩約20分（市バス約５分）
- 最寄りのバス停：市バス七条大宮・京都水族館前

JR大阪駅	→	JR京都駅	28分
京阪京橋駅	→	JR京都駅	42分
近鉄奈良駅	→	JR京都駅	44分
JR三ノ宮駅	→	JR京都駅	50分

RYUKOKU UNIVERSITY
〔龍谷大学 心理学部設置事務室〕　〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1　Tel 075-343-3463（平日 9:00～17:00）

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｲﾘｻﾜ　ﾀｶｼ 入澤　崇 ＜平成29年4月＞		修士 (文学) ※		龍谷大学　学長 （平成29.4.1～令和5.3.31）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	ﾖｼｶﾜ　ｻﾄﾙ 吉川　悟 ＜令和5年4月＞		文学士		臨床催眠学 学校システムにおける精神疾患と家族 緩和ケアとこころの治癒力 構造派家族療法 事例演習アドバンスI 事例演習アドバンスII 心理学演習 卒業研究 心理実習A 心理実習B	3 前 3 前 3 前 3 後 4 前 4 後 3・4 前・後 4 通 3 後 4 通	2 2 2 2 2 2 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成17.4)	5日
2	専	教授	ｱｶﾂ　ﾂﾈﾕｷ 吾勝　常行 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		フレッシャーズゼミ ※ 心理学基礎演習A 心理学基礎演習B 心理学基礎演習C 仏教と心理学 ※ ライフサイクルとカウンセリング ※ ビハーラカウンセリング 高齢者の理解と支援実習 ※ 心理学演習 卒業研究	1 前 1 後 2 前 2 後 2 後 2 後 3 後 3 後 3・4 前・後 4 通	2 2 2 2 1.1 0.3 2 0.9 4 4	5 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成21.4)	5日
3	専	教授	ｱｶﾂ　ﾚｲｺ 赤津　玲子 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		生涯発達と関係支援 ※ 家族療法とシステムズアプローチ チーム学校とシステム論 心理関係行政論 ※ 司法・犯罪心理学 質的心理学研究 不登校の解決と協働 保護者支援とチーム学校 心理学演習 卒業研究 教育相談	1 後 2 前 2 後 3 前 3 前 3 前 3 前 3 後 3・4 前・後 4 通 3 前	0.9 2 2 0.3 2 2 2 2 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成24.4)	5日
4	専	教授	ｳﾁﾀﾞ　ﾄｼﾋﾛ 内田　利広 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		生涯発達と関係支援 ※ ライフサイクルとカウンセリング ※ 心理関係行政論 ※ 不登校・いじめとスクールカウンセリング 思春期の子ども理解と支援実習 I 思春期の子ども理解と支援実習 II フォーカシングと体験過程療法 事例演習アドバンスI 事例演習アドバンスII 心理学演習 卒業研究	1 後 2 後 3 前 3 前 3 前 3 後 3 後 4 前 4 後 3・4 前・後 4 通	1.1 0.4 0.3 2 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (令和3.4)	5日
5	専	教授	ｺﾀﾞﾏ　ﾘｭｳｼﾞ 児玉　龍治 ＜令和5年4月＞		修士※ (教育学)		フレッシャーズゼミ ※ 心理学基礎演習A 心理学実験 福祉心理学 高齢者の心理と福祉 ライフサイクルとカウンセリング ※ 心理関係行政論 ※ エンカウンターグループと回想法 認知症の心と家族支援 高齢者の理解と支援実習 ※ 心理学演習 卒業研究	1 前 1 後 2 後 2 後 2 後 2 後 3 前 3 後 3 後 3 後 3・4 前・後 4 通	2 2 1 2 2 0.3 0.3 2 2 1.1 4 4	5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成23.4)	5日
6	専	教授	ｼｹﾞﾉｲ　ｶｽﾞﾋﾛ 滋野井　一博 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		心理学基礎演習A 心理学基礎演習B 障害者・障害児心理学 心理学基礎演習C ライフサイクルとカウンセリング ※ 心理関係行政論 ※ 発達障害のアセスメント 障害児支援と療育 心理学演習 卒業研究	1 後 2 前 2 前 2 後 2 後 3 前 3 前 3 後 3・4 前・後 4 通	2 2 2 2 0.1 0.3 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成22.4)	5日
7	専	教授	ﾀｶﾊﾞﾔｼ　ﾏﾅﾌﾞ 髙林　学 ＜令和5年4月＞		修士 (人間形成基礎) 修士 (数学)		フレッシャーズゼミ ※ 心理学基礎演習A 心理学基礎演習B 心理学基礎演習C 心理学演習 卒業研究 コミュニティとシステム支援 虐待と家族支援 家族療法とコミュニケーション・アプローチ オープン・ダイアローグ演習	1 前 1 後 2 前 2 後 3・4 前・後 4 通 2 前 3 前 3 前 3 後	2 2 2 2 4 4 2 2 2 2	5 1 1 1 2 1 1 1 1 1	徳島県中央こども女性相談センター (平成29.4)	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
8	専	教授	ﾀｹﾀﾞ　ﾄｼﾉﾌﾞ 武田　俊信 ＜令和5年4月＞		医学博士		児童思春期精神医学 ライフサイクルとカウンセリング ※ 精神疾患とその治療 心理関係行政論 ※ 大人の発達障害 認知行動療法 心理学演習 卒業研究	2 前 2 後 3 前 3 前 3 前 3 後 3・4 前・後 4 通	2 0.1 2 0.3 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成22.4)	5日
9	専	教授	ﾋｶﾞｼ　ﾕﾀｶ 東　豊 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		医療におけるシステムズアプローチ 心理演習 事例演習アドバンスII 心理学演習 卒業研究	3 前 3 前 4 後 3・4 前・後 4 通	2 2 2 4 4	1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成24.4)	5日
10	専	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ　ﾅｵﾋﾄ 藤原　直仁 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		心理学とデータサイエンス 心理学の職業的展開 心理学基礎演習B 心理学基礎演習C 心理学実験 神経・生理心理学 脳と心 生理学データと現場心理学（基礎） 生理学データと現場心理学（応用） 心理学演習 卒業研究	2 前 2 前 2 前 2 後 2 後 2 後 2 後 3 前 3 後 3・4 前・後 4 通	2 0.4 2 2 1 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 短期大学部 教授 (平成10.4)	5日
11	専	教授	ﾏｽﾀﾞ　ﾔｽﾋｺ 増田　靖彦 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語ⅢＡ フランス語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成24.4)	5日
12	専	教授	ﾐﾂﾊﾞﾔｼ　ﾏﾕﾐ 三林　真弓 ＜令和5年4月＞		修士 (家政学)		生涯発達臨床心理学 ライフサイクルとカウンセリング ※ 感情・人格心理学 子育てとソーシャルサポート 乳幼児の理解と支援実習 コミュニティ・アプローチ 事例演習アドバンスII 心理学演習 卒業研究	2 前 2 後 3 前 3 前 3 前 3 後 4 後 3・4 前・後 4 通	2 0.1 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 2 1	京都文教大学 臨床心理学部 教授 (平成14.4)	5日
13	専	教授	ﾐﾅｸﾁ　ﾏｻﾄ 水口　政人 ＜令和5年4月＞		修士 (経営学) 修士 (心理学)		フレッシャーズゼミ ※ 心理学基礎演習A 心理学基礎演習B 心理学基礎演習C 心理関係行政論 ※ 産業・組織心理学 コーチング心理学 スポーツ・メンタルリハーサル 心理学演習 卒業研究	1 前 1 後 2 前 2 後 3 前 3 前 3 前 3 後 3・4 前・後 4 通	2 2 2 2 0.3 2 2 2 4 4	5 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (令和4.4)	5日
14	専	教授	ﾓﾘﾀ　ﾖｼﾊﾙ 森田　喜治 ＜令和5年4月＞		教育学修士		子どもの心理療法 ライフサイクルとカウンセリング ※ 心理学演習 卒業研究	2 後 2 後 3・4 前・後 4 通	2 0.1 4 4	1 1 2 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成14.4)	5日
15	専	准教授	ｲﾄｳ　ﾋﾃﾞｱｷ 伊東　秀章 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		心理学概論 心理学研究法概論 目からウロコのコミュニケーション学 心理学基礎演習B 心理学基礎演習C 質的心理学研究 コンサルテーション演習 ブリーフセラピーとソリューション 心理学演習 卒業研究	1 前 2 前 2 後 2 前 2 後 3 前 3 後 3 後 3・4 前・後 4 通	2 2 2 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成29.4)	5日
16	専	准教授	ｷｮ(ｶﾄﾞﾔ)　ｽﾐ 許(角家)　秀美 ＜令和5年4月＞		博士 (言語文化学)		フレッシャーズゼミ ※ コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語セミナーⅡＡ コリア語セミナーⅡＢ	1 前 1 前 1 後 3 前 3 後	2 2 2 2 2	5 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成25.4)	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	専	准教授	ｺﾏｻ　ﾋﾛﾉﾘ 小正　浩徳 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		フレッシャーズゼミ ※	1 前	2	5	龍谷大学 文学部 准教授 (平成24.4)	5日
							心理学基礎演習A	1 後	2	1		
							心理学基礎演習B	2 前	2	1		
							心理学とデータサイエンス	2 前	0.4	1		
							心理学の職業的展開	2 前	2	1		
							心理学基礎演習C	2 後	2	1		
							ライフサイクルとカウンセリング ※	2 後	0.3	1		
							心理関係行政論 ※	3 前	0.1	1		
							教育と心理支援	3 前	2	1		
							思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	3 前	2	1		
							死生観教育と心理療法	3 後	2	1		
							学童期の遊びと対人関係	3 後	2	1		
							思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	3 後	2	1		
							仕事と社会人Ⅰ	2 後	2	1		
							仕事と社会人Ⅱ	3 前	2	1		
							心理学演習	3・4 前・後	4	2		
							卒業研究	4 通	4	1		
18	専	准教授	ﾉﾛ　ｾｲ 野呂　靖 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		フレッシャーズゼミ ※	1 前	2	5	龍谷大学 文学部 准教授 (平成23.4)	5日
							キャリアと心理 ※	1 前	1.2	1		
							キャリアデザイン論	1 後	2	1		
							仏教と心理学 ※	2 後	0.9	1		
							心理学プロジェクト社会連携演習	2 後	2	1		
							仏教の思想A	1 前	2	1		
							仏教の思想B	1 後	2	1		
							（本山教師）仏教史 ※	1 前	0.4	1		
							仏教学概論	2 通	4	1		
19	専	准教授	ﾋﾛﾊｼ　ﾘｮｳｲﾁ 廣橋　諒一 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		心理学基礎演習B	2 前	2	1	龍谷大学 文学部 実習助手 (平成30.4)	5日
							公認心理師の職責	2 後	2	1		
							心理学基礎演習C	2 後	2	1		
							ひきこもりと家族支援	3 前	2	1		
							心理演習	3 前	2	1		
							非行と家族支援	3 後	2	1		
							心理学演習	3・4 前・後	4	2		
							卒業研究	4 通	4	1		
20	専	准教授	ﾎﾘｳﾁ　ｳﾀｺ 堀内　詩子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		発達心理学	1 前	2	1	京都文教大学 こども教育学部 講師 (平成23.4)	5日
							心理学基礎演習A	1 後	2	1		
							心理学基礎演習B	2 前	2	1		
							乳幼児の発達	2 前	2	1		
							心理学基礎演習C	2 後	2	1		
							心理的アセスメントⅠ	2 後	2	1		
							ライフサイクルとカウンセリング ※	2 後	0.3	1		
							音楽療法	3 前	2	1		
							保育の心理学	3 後	2	1		
							心理学演習	3・4 前・後	4	2		
							卒業研究	4 通	4	1		
21	専	講師	ｳﾒﾉ(ﾆｼﾑﾗ)　ｻﾄﾐ 梅野(西村)　智美 ＜令和6年4月＞		博士 (臨床心理学)		心理学基礎演習B	2 前	2	1	神戸松蔭女子学院大学 非常勤講師 (令和4.4)	5日
							教育・学校心理学	2 前	2	1		
							心理学基礎演習C	2 後	2	1		
							チーム医療	2 後	2	1		
							心理演習	3 前	2	1		
							コンサルテーション・リエゾン精神医学	3 後	2	1		
	兼任	講師	ｳﾒﾉ(ﾆｼﾑﾗ)　ｻﾄﾐ 梅野(西村)　智美 ＜令和5年4月＞		博士 (臨床心理学)		フレッシャーズゼミ ※	1 前	2	5	神戸松蔭女子学院大学 非常勤講師 (令和4.4)	
							心理学基礎演習A	1 後	2	1		
22	専	講師	ｼﾀﾞ　ﾉｿﾞﾑ 志田　望 ＜令和5年4月＞		博士 (臨床心理学)		フレッシャーズゼミ ※	1 前	2	5	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	5日
							心理学基礎演習A	1 後	2	1		
							人体の構造と機能及び疾病	1 後	2	1		
							キャリアと心理 ※	1 前	0.8	1		
							心理学統計法概論	2 前	2	1		
							心理学実験	2 後	1	1		
							心理関係行政論 ※	3 前	0.3	1		
							量的心理学研究	3 前	2	1		
							発達障がいと家族	3 前	2	1		
							特別支援とシステムズアプローチ	3 後	2	1		
							心理学演習	3・4 前・後	4	2		
							卒業研究	4 通	4	1		
23	専	講師	ﾏｷ　ｸﾐｺ 牧　久美子 ＜令和6年4月＞		博士 (臨床心理学)		ストレスマネジメント	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	5日
							ポジティブ心理学	3 前	2	1		
							心理演習	3 前	2	1		
							キャリアカウンセリング	3 後	2	1		
							心理学演習	3・4 前・後	4	2		
							卒業研究	4 通	4	1		
	兼任	講師	ﾏｷ　ｸﾐｺ 牧　久美子 ＜令和5年4月＞		博士 (臨床心理学)		フレッシャーズゼミ ※	1 前	2	5	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
							心理学基礎演習A	1 後	2	1		

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
24	兼担	教授	ｱﾝﾄﾞｳ　ｼﾝｼﾞﾛｳ 安藤　真次郎 ＜令和6年4月＞		文学修士		スペイン語セミナーＩＡ スペイン語セミナーＩＢ	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成10.4)	
25	兼担	教授	ｲｼｻﾞｷ　ﾏﾅﾌﾞ 石埼　学 ＜令和5年4月＞		修士※ (法学)		日本国憲法	1 前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 (平成22.4)	
26	兼担	教授	ｲﾃﾞ　ｹﾝｼﾞ 井手　健二 ＜令和6年10月＞		修士 (経営情報学)		企業と会計	2 後	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成25.4)	
27	兼担	教授	ｲﾉｳｴ　ﾖｼﾕｷ 井上　善幸 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ 大学論 ※	2 前 2 後 2 後	2 2 0.4	1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (平成16.4)	
28	兼担	教授	ｲﾏｲ　ｱﾂｼ 今井　敦 ＜令和5年4月＞		Doktor der Philosophie (哲学博士) (オーストリア)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢＡ ドイツ語ⅢＢ ドイツ語コミュニケーションⅠ ドイツ語コミュニケーションⅡ 西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 後 3 前 1 前 1 後	2 2 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成23.4)	
29	兼担	教授	ｲﾏﾑﾗ　ｷﾖｼ 今村　潔 ＜令和5年4月＞		文学修士		西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成23.4)	
30	兼担	教授	ｳｴｶﾞｷ　ﾕﾀｶ 上垣　豊 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		西洋の歴史Ａ 西洋の歴史Ｂ 西洋の歴史Ｃ 大学論 ※	1 前 2 前 2 後 2前・後	8 4 4 0.8	2 2 2 2	龍谷大学 法学部 教授 (平成8.4)	
31	兼担	教授	ｳｼｵ　ﾋﾛﾔ 牛尾　洋也 ＜令和5年4月＞		法学修士※		里山学 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 法学部 教授 (平成4.4)	
32	兼担	教授	ｵｵﾆｼ　ﾄｼﾋﾛ 大西　俊弘 ＜令和6年10月＞		学校教育学修士		教育課程論 教育の方法と技術（ICT活用含む）	2 後 3 後	2 2	1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成19.4)	
33	兼担	教授	ｵｶﾀﾞ　ﾉﾘﾕｷ 岡田　典之 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ） 言語と文化	2 前 2 後 1 前	1 1 2	1 1 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成21.4)	
34	兼担	教授	ｵｸﾉ　ﾂﾈﾋｻ 奥野　恒久 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		日本国憲法	1 前	4	2	龍谷大学 政策学部 教授 (平成23.4)	
35	兼担	教授	ｶﾄﾞｵｶ　ｹﾝｲﾁ 角岡　賢一 ＜令和5年4月＞		文学修士		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成7.4)	
36	兼担	教授	ｶﾈｺ　ｼﾝﾔ 金子　眞也 ＜令和6年4月＞		文学修士※		中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ 中国語ⅢＣ 中国語ⅢＤ	2 前 2 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (昭和63.4)	
37	兼担	教授	ｶﾜｲ　ﾐｶ 河合　美香 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ医学)		スポーツ技術学演習 人間とスポーツ 健康とスポーツ	1 前 1 前 2 前	14 2 4	7 1 2	龍谷大学 法学部 教授 (平成19.4)	
38	兼担	教授	ｶﾜｼﾏ　ﾉﾌﾞﾋﾛ 川島　伸博 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ａ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 前 1 後 1 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (平成24.4)	
39	兼担	教授	ｸﾆﾏﾂ　ﾕﾀｶ 國松　豊 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		人類進化学 人類学のすすめ 人間の生物学Ⅰ	2 前 1 前 2 前	4 4 2	2 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成26.4)	
40	兼担	教授	ｸﾗﾌﾁﾂｸ ﾏﾘｳｼｭ ｺﾝﾗﾂﾄﾞ クラフチック マリウシュ　コンラッド ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		経済学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成18.4)	
41	兼担	教授	ｸﾜﾂｶ　ｹﾝﾀﾛｳ 鍬塚　賢太郎 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		地理学のすすめ 地域論	1 前 2 前	6 4	3 2	龍谷大学 経営学部 教授 (平成23.4)	
42	兼担	教授	ｺｳﾉ　ｼﾞｭﾝｺ 河野　淳子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成17.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
43	兼担	教授	ｺﾅｶﾞﾔ　ﾀﾞｲｽｹ 小長谷　大介 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		物理科学の世界 自然科学史Ⅰ 自然科学史Ⅱ 技術論 平和学Ｂ	1 前 1 前 2 前 2 後 2 前	8 6 2 2 2	2 3 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成14.4)	
44	兼担	教授	ｺﾏﾂ　ﾄﾓｺ 小松　知子 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		日本語	1前･後	6	6	龍谷大学 経営学部 教授 (平成26.4)	
45	兼担	教授	ｻｶｸﾞﾁ　ﾊﾙﾋｺ 阪口　春彦 ＜令和5年4月＞		博士 (社会福祉学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 短期大学部 教授 (平成9.4)	
46	兼担	教授	ｻｸﾗｲ　ｼﾞﾛｳ 櫻井　次郎 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		環境学	1 前	4	1	龍谷大学 政策学部 教授 (令和4.4)	
47	兼担	教授	ｻｻｷ　ﾋﾛｵ 佐々木　浩雄 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		スポーツ技術学演習 スポーツ文化史	1 前 2 前	4 2	2 1	龍谷大学 文学部 教授 (令和4.4)	
48	兼担	教授	ｻﾄｳ　ｶｽﾞﾋﾛ 佐藤　和弘 ＜令和5年4月＞		文学修士 ※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語セミナーＩＡ ドイツ語セミナーＩＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (平成12.4)	
49	兼担	教授	ｻﾉ　ﾄｳｾｲ 佐野　東生 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		ペルシア語ＩＢ ペルシア語ⅡＢ	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 国際学部 教授 (平成14.4)	
50	兼担	教授	ｼﾏﾊﾞﾔｼ　ｼｮｳｼﾞ 嶋林　昭治 ＜令和6年4月＞		修士 (社会学) 修士 (英語教育)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	2 前 2 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成14.4)	
51	兼担	教授	ﾀｸﾞﾁ　ﾘﾂｵ 田口　律男 ＜令和5年4月＞		文学修士		日本の文学Ａ 日本の文学Ｃ 文章表現法Ａ	1 前 2 前 1 前	4 2 4	1 1 2	龍谷大学 経済学部 教授 (平成12.4)	
52	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ　ﾏｻﾋｺ 竹内　真彦 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		中国語Ⅰ 中国語セミナーＩＣ 中国語セミナーＩＤ 中国語セミナーⅡＡ 中国語セミナーⅡＢ 中国の思想Ａ 中国の思想Ｂ 海外中国語研修講座 アジアの文化	1 前 2 前 2 後 3 前 3 後 1 前 1 後 2 前 2 前	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成13.4)	
53	兼担	教授	ﾀﾞﾃ　ﾋﾛﾉﾘ 伊達　浩憲 ＜令和7年4月＞		修士 (経済学)		経済原論	3 通	4	1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成19.4)	
54	兼担	教授	ﾀﾏｷ　ｺｳｼﾞ 玉木　興慈 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		（本山教師）宗教概説 真宗学概論	1 前 2 通	1 4	1 1	龍谷大学 文学部 教授 (平成29.4)	
55	兼担	教授	ﾂﾂｲ　ﾉﾘｺ 筒井　乃り子 ＜令和5年4月＞		社会学修士		教養教育科目特別講義 ※	1 前	1	1	龍谷大学 社会学部 教授 (平成11.4)	
56	兼担	教授	ﾃｼﾏ　ﾋﾃﾞｷ 手嶋　英貴 ＜令和5年4月＞		DOKTOR DER PHILOSOPHIE （ドイツ）		アジアの文学Ａ アジアの文学Ｂ 文章表現法Ａ 文章表現法Ｂ 人文科学セミナー	1 前 1 前 1 前 1 後 2 通	4 4 2 2 4	2 2 1 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (令和3.4)	
57	兼担	教授	ﾄﾞｰﾙﾄﾝ　ﾌﾗﾝｸ ドールトン フランク ＜令和5年4月＞		応用言語学博士 (ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成13.4)	
58	兼担	教授	ﾅｶﾉ　ﾋﾛﾕｷ 中野　寛之 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		時間と空間の科学 宇宙の科学Ⅰ 宇宙の科学Ⅱ 大学論 ※	1 前 1 前 2 前 2 前	6 8 2 0.3	3 2 1 1	龍谷大学 法学部 教授 (令和4.4)	
59	兼担	教授	ﾆﾜ　ﾄｵﾙ 丹羽　徹 ＜令和5年4月＞		法学修士※		日本国憲法	1 前	2	1	龍谷大学 法学部 教授 (平成27.4)	
60	兼担	教授	ﾊｼﾓﾄ　ﾏｻｺ 橋本　雅子 ＜令和6年4月＞		体育学士		教職論 道徳教育指導法 総合的な学習の時間・特別活動論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）	2 前 3 後 3 前 3 通 4 前 4 通 4 通 4 後	4 2 2 2 1 4 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 短期大学部 教授 (平成27.4)	
61	兼担	教授	ﾊｾｶﾞﾜ　ﾀｹｼ 長谷川　岳史 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		アジアの文化	2 前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成14.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
62	兼担	教授	ﾊｾｶﾞﾜ　ﾋﾛｼ 長谷川　裕 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		スポーツ技術学演習 スポーツ科学最前線	1 前 1 前	2 2	1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成元.4)	
63	兼担	教授	ﾊﾏｲ　ｺｳｲﾁ 浜井　浩一 ＜令和5年4月＞		教育学士		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 法学部 教授 (平成15.4)	
64	兼担	教授	ﾊﾔｼ　ﾅｵｷ 林　尚毅 ＜令和5年4月＞		博士 (経営学)		経営学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成22.4)	
65	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ　ﾀﾂｵ 原田　太津男 ＜令和6年4月＞		修士 (経済学)		国際社会論	2 前	2	1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成25.4)	
66	兼担	教授	ﾋﾛｾ　ｼﾞｭﾝ 廣瀬　純 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーⅡA フランス語セミナーⅡB フランス語セミナーⅡC フランス語セミナーⅡD 人文科学セミナー	1 前 1 後 3 前 3 後 3 前 3 後 2 通	2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成16.4)	
67	兼担	教授	ﾌﾅﾀﾞ　ｻﾄｼ 船田　智史 ＜令和7年10月＞		博士 (理学)		教育の方法と技術（ICT活用含む）	3 後	2	1	龍谷大学 政策学部 教授 (令和4.4)	
68	兼担	教授	ﾏｴｶﾜ　ﾀｶﾌﾐ 前川　貴史 ＜令和5年10月＞		PhD in Language and Linguistics (イングランド)		海外英語研修	1 後	2	1	龍谷大学 社会学部 教授 (平成25.4)	
69	兼担	教授	ﾏﾂｲ　ﾘｭｳｺﾞ 松居　竜五 ＜令和6年10月＞		博士 (学術)		大学論 ※	2 後	0.3	1	龍谷大学 国際学部 教授 (平成13.4)	
70	兼担	教授	ﾏﾂｳﾗ　ｻﾄｺ 松浦　さと子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会学のすすめ 現代社会とメディア 現代社会の諸問題	1 前 2 前 2 後	4 2 2	2 1 1	龍谷大学 政策学部 教授 (平成14.4)	
71	兼担	教授	ﾏﾂﾅｶﾞ　ｹｲｺ 松永　敬子 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 経営学部 教授 (平成20.4)	
72	兼担	教授	ﾐﾊﾗ　ﾘｭｳｼ 三原　龍志 ＜令和5年4月＞		教育学士		日本語	1 前･後	4	4	龍谷大学 文学部 教授 (平成23.4)	
73	兼担	教授	ﾐﾔｳﾗ　ﾄﾐﾔｽ 宮浦　富保 ＜令和5年4月＞		農学博士		里山学 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成14.4)	
74	兼担	教授	ﾑﾗｻﾜ　ﾏﾎﾛ 村澤　真保呂 ＜令和5年4月＞		修士 (人間・環境学)		里山学 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 社会学部 教授 (平成14.4)	
75	兼担	教授	ﾑﾗﾀ　ｹﾝｻﾌﾞﾛｳ 村田　健三郎 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		スポーツ技術学演習 体育実技	1 前 2 後	4 1	2 1	龍谷大学 政策学部 教授 (昭和58.4)	
76	兼担	教授	ﾔﾜﾀ　ｺｳｲﾁ 八幡　耕一 ＜令和5年4月＞		博士 (国際広報ﾒﾃﾞｨｱ)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 国際学部 教授 (平成23.4)	
77	兼担	教授	ﾛｻﾞｰﾃｨ　ｻｲﾓﾝ ロザーティ　サイモン ＜令和5年4月＞		M.A. TESOL (英国)		バークレー語学 バークレー講義 バークレーボランティア	1 前 1 前 1 前	12 6 6	1 1 1	龍谷大学 経済学部 教授 (平成元.4)	
78	兼担	准教授	ｱﾗｲ　ｼﾞｭﾝ 新井　潤 ＜令和5年10月＞		理学修士		情報科学入門 情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ 情報科学実習	2 前 2 後 3 前 1 後	2 2 2 8	1 1 1 2	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成9.4)	
79	兼担	准教授	ｲｼﾂﾞｶ　ﾀｹｼ 石塚　武志 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		現代社会と法	2 前	2	1	龍谷大学 法学部 准教授 (平成23.4)	
80	兼担	准教授	ｲｼﾊﾗ　ﾘｮｳｶﾞ 石原　凌河 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 政策学部 准教授 (平成28.4)	
81	兼担	准教授	ｲﾄｳ　ﾀｶﾖｼ 伊藤　貴祥 ＜令和5年4月＞		言語学博士 (韓国)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢA コリア語ⅢB コリア語セミナーⅡC コリア語セミナーⅡD	1 前 1 後 2 前 2 後 3 前 3 後	2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 法学部 准教授 (令和4.4)	
82	兼担	准教授	ｳｽｲ　ﾄﾓｺ 碓井　智子 ＜令和5年4月＞		博士 (人間・環境学)		英語総合１（B） 英語総合２（B）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 (平成27.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
83	兼担	准教授	ｳﾁﾀﾞ　ｼﾞｭﾝｼﾝ 内田　准心 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		（本山教師）仏教史 ※	1 前	0.6	1	龍谷大学 文学部 准教授 (令和4.4)	
84	兼担	准教授	ｳﾁﾓﾄ　ｺｳﾕｳ 打本　弘祐 ＜令和5年4月＞		博士 (社会学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 農学部 准教授 (平成27.4)	
85	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ　ｹﾝｽｹ 岡本　健資 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		里山学 ※ 大学論 ※	1 前 2 前	0.1 0.4	1 1	龍谷大学 政策学部 准教授 (平成21.4)	
86	兼担	准教授	ｷﾉｼﾀ　ﾉﾘｱｷ 木下　謙朗 ＜令和5年4月＞		博士 (日本語教育学)		日本語 言語と文化	1 前・後 1 前	8 2	8 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成27.4)	
87	兼担	准教授	ｸﾄﾞｳ　ｶｽﾞﾔ 工藤　和也 ＜令和5年4月＞		博士 (言語学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語セミナーＧ１ 英語セミナーＧ２	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成26.4)	
88	兼担	准教授	ｸﾎﾞ　ﾄｼﾋｻ 久保　利久 ＜令和5年4月＞		博士 (数学)		確率・統計入門 数理統計学 数学の世界 数学への旅 微分と積分 大学論 ※ 行列と行列式	1 前 2 前 2 前 1 前 1 前 2 後 1 後	4 4 4 4 4 0.3 4	2 1 1 2 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成28.4)	
89	兼担	准教授	ｻｻｷ　ﾀﾞｲｺﾞ 佐々木　大悟 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		歎異抄の思想Ⅰ 歎異抄の思想Ⅱ	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 短期大学部 准教授 (平成26.4)	
90	兼担	准教授	ｼｵﾉｻﾞｷ　ｼﾝﾔ 塩野﨑　信也 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		トルコ語Ⅰ トルコ語Ⅱ	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (令和4.4)	
91	兼担	准教授	ｼﾌﾞﾔ　ﾘｮｳ 渋谷　亮 ＜令和5年4月＞		博士 (人間科学)		教育原論Ａ 教育原論Ｂ 教育学のすすめＡ 教育学のすすめＢ 現代社会と教育Ａ 現代社会と教育Ｂ 人文科学セミナー	2 前 2 後 1 前 1 後 2 前 2 後 2 通	4 4 2 2 2 2 4	2 2 1 1 1 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成31.4)	
92	兼担	准教授	ｼﾏﾈ　ﾖｼｴ 島根　良枝 ＜令和5年4月＞		修士 (経済学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成22.9)	
93	兼担	准教授	ｼﾐｽﾞ　ﾏﾕｺ 清水　万由子 ＜令和6年4月＞		博士 (地球環境学)		環境と社会	2 前	2	1	龍谷大学 政策学部 准教授 (平成24.4)	
94	兼担	准教授	ﾀｹｳﾁ　ﾂﾅﾌﾐ 竹内　綱史 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		宗教学入門 宗教の世界Ａ 宗教の世界Ｂ 人文科学セミナー 大学論 ※	1 前 1 前 1 後 2 通 2 後	8 4 4 4 0.6	2 2 2 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 (平成21.4)	
95	兼担	准教授	ﾀﾆｶﾞｷ　ﾀｹﾄ 谷垣　岳人 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		日本の自然 ※ 里山学 ※ 教養教育科目特別講義 ※ 生態学のすすめ	1 前 1 前 1 前 1 前	0.9 0.3 0.1 8	2 1 1 2	龍谷大学 政策学部 准教授 (平成18.4)	
96	兼担	准教授	ﾀﾝﾉ　ｹﾝｲﾁ 丹野　研一 ＜令和5年4月＞		博士 (農学)		植物の自然誌 自然誌実習 ※ 里山学 ※ 生物科学のすすめ	2 前 2 後 1 前 1 前	2 0.8 1.1 12	1 1 1 3	龍谷大学 文学部 准教授 (平成30.4)	
97	兼担	准教授	ﾂﾏｷ　ｼﾝｺﾞ 妻木　進吾 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		社会調査のすすめ	1 前	4	2	龍谷大学 経営学部 准教授 (平成25.4)	
98	兼担	准教授	ﾄｳﾔﾏ　ｶｵﾙ 東山　薫 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		心理学 心の科学Ａ 心の科学Ｂ 学習・発達論Ａ 学習・発達論Ｂ 人文科学セミナー	1 前 1 前 1 後 2 前 2 後 2 通	8 2 2 2 2 4	2 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成27.4)	
99	兼担	准教授	ﾄﾓﾅｶﾞ　ﾕｳｺﾞ 友永　雄吾 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		里山学 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 国際学部 准教授 (平成27.4)	
100	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾐﾈ　ﾄｼﾉﾌﾞ 長嶺　寿宣 ＜令和7年4月＞		Ph.D. (英語教授法)		介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）	3 通 4 前 4 通 4 通 4 後	2 1 4 2 6	1 1 1 1 3	龍谷大学 国際学部 准教授 (令和2.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
101	兼担	准教授	ﾅｶﾓﾄ　ｶｽﾞﾋｺ 中本　和彦 ＜令和6年10月＞		博士 (学校教育学)		教育課程論 社会科・公民科教育法Ⅰ 社会科・公民科教育法Ⅱ 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）	2 後 3 前 3 後 3 通 4 前 4 通 4 通 4 後	2 2 2 2 1 4 2 6	1 1 1 1 1 1 1 3	龍谷大学 法学部 准教授 (平成31.4)	
102	兼担	准教授	ﾆｭｳﾔ　ｼｭｳｲﾁ 入谷　秀一 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		哲学入門 倫理学入門 人文科学セミナー 大学論 ※	1 前 1 前 2 通 2 前	8 4 4 0.6	4 2 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成28.4)	
103	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾜﾗ　ﾀｶﾄ 藤原　崇人 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		アジアの歴史Ａ アジアの歴史Ｂ 歴史学入門 人文科学セミナー	1 前 1 後 2 前 2 通	4 4 4 4	1 1 2 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成22.4)	
104	兼担	准教授	ﾌﾀﾞﾉ　ｶｽﾞｵ 札埜　和男 ＜令和7年4月＞		博士 (文学)		総合的な学習の時間・特別活動論 介護等体験 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導ⅡＡ 教育実習指導ⅡＢ 教職実践演習（中・高）	3 前 3 通 4 前 4 通 4 通 4 後	2 2 1 4 2 6	1 1 1 1 1 3	龍谷大学 文学部 准教授 (令和4.4)	
105	兼担	准教授	ﾏｴﾀﾞ　ｱｷﾋﾛ 前田　哲宏 ＜令和5年4月＞		修士 (学校教育学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 文学部 准教授 (平成31.4)	
106	兼担	准教授	ﾏﾂﾊﾀ　ﾅｵｺ 松畑　尚子 ＜令和5年4月＞		修士※ (体育学)		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ	1 前 1 前	4 4	2 2	龍谷大学 法学部 准教授 (平成28.4)	
107	兼担	准教授	ﾏﾅﾍﾞ　ｸﾆﾋﾛ 眞鍋　邦大 ＜令和5年4月＞		博士 (農学)		経営学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 経営学部 准教授 (令和4.4)	
108	兼担	准教授	ﾑﾗｾ　ﾌﾐｺ 村瀬　文子 ＜令和5年4月＞		博士 (言語学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成29.4)	
109	兼担	准教授	ﾔｽﾀﾞ　ｹｲｼ 安田　圭史 ＜令和5年4月＞		Máster en Artes Liberales (学術修士) (スペイン)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢＡ スペイン語ⅢＢ スペイン語セミナーⅡＡ スペイン語セミナーⅡＢ スペイン語セミナーⅡＣ スペイン語セミナーⅡＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 3 前 3 後 3 前 3 後	2 2 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成22.4)	
110	兼担	准教授	ﾔﾏｵｶ　ｶﾅｺ 山岡　華菜子 ＜令和5年4月＞		博士 (言語文化学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 経営学部 准教授 (令和3.4)	
111	兼担	准教授	ﾔﾏﾀﾞ　ﾏｺﾄ 山田　誠 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		日本の自然 ※ 自然誌実習 ※ 地球科学のすすめ 環境学	1 前 2 前 1 前 1 前	0.5 0.8 4 8	2 1 2 2	龍谷大学 経済学部 准教授 (平成29.4)	
112	兼担	講師	ｳﾁﾀﾞ　ﾕｷ 内田　有紀 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 法学部 講師 (平成29.4)	
113	兼担	講師	ｳﾁﾃ　ｺｳﾀ 内手　弘太 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		真宗教団史	1 通	4	1	龍谷大学 文学部 講師 (平成31.4)	
114	兼担	講師	ｽｽﾞｷ　ﾋﾛｵ 鈴木　啓央 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ技術学演習 健康とスポーツ	1 前 2 前	6 4	3 2	龍谷大学 経済学部 講師 (平成29.4)	
115	兼担	講師	ｾﾝｶﾞ　ﾕｶ 千賀　由佳 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーⅡＣ 中国語セミナーⅡＤ	1 前 1 後 3 前 3 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 法学部 講師 (令和2.4)	
116	兼担	講師	ﾀｶｵ　ｷﾂﾞｸ 高尾　築 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		経済学のすすめ	1 前	4	2	龍谷大学 経済学部 講師 (令和3.4)	
117	兼担	講師	ﾃｼﾏ　ﾔｽﾉﾌﾞ 手嶋　泰伸 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		日本の歴史Ａ 日本の歴史Ｂ 日本の文化 歴史学入門 大学論 ※	1 前 1 後 2 後 2 前 2 前	4 4 4 4 0.3	1 1 1 2 1	龍谷大学 文学部 講師 (令和2.4)	
118	兼担	講師	ﾅｶﾈ　ｻﾄｺ 中根　智子 ＜令和5年4月＞		博士 (国際関係学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 国際学部 講師 (平成23.9)	
119	兼担	講師	ﾅｶﾑﾗ　ｱﾔｶ 中村　文香 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		経済学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 経済学部 講師 (令和3.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
120	兼担	講師	ﾑﾗﾀ　ﾄﾓﾐ 村田　智美 ＜令和5年4月＞		修士 (社会学)		教養教育科目特別講義 ※	1 前	0.1	1	龍谷大学 社会学部 講師 (平成21.4)	
121	兼任	講師	ｱｵﾔﾏ　ﾁｻ 青山　千紗 ＜令和5年4月＞		Doctorat de Linguistique Theorique (フランス)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
122	兼任	講師	ｱｻｶ　ﾄﾓｷ 朝香　知己 ＜令和6年4月＞		博士 (神学)		ジェンダー論	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
123	兼任	講師	ｱｻﾜｶ　ﾋﾛﾋｺ 浅若　裕彦 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（A） 英語総合２（A）	1 前 1 後	1 1	1 1	大谷大学 国際学部 教授 (平成8.4)	
124	兼任	講師	ｱﾏｶﾞｻｷ　ﾄｼｵ 尼崎　俊朗 ＜令和5年4月＞		MA in TESL (米国)		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合１（B） 英語総合２（B）	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
125	兼任	講師	ｱﾗｲ　ｸﾐｺ 荒井　久美子 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		思春期とジェンダー心理学	3 前	2	1	京都文教大学 非常勤講師 (令和3.4)	
126	兼任	講師	ｱﾗｷ　ｶｵﾘ 荒木　香織 ＜令和7年10月＞		Doctor of Phylosophy (Exercise and Sport Science) (アメリカ)		スポーツ心理学	3 後	2	1	株式会社 CORAZON ﾁｰﾌｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ (平成28.4)	
127	兼任	講師	ｱﾗｷ　ﾔｽﾋﾛ 荒木　康裕 ＜令和5年4月＞		文学修士※		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語総合３（B） 英語総合４（B）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
128	兼任	講師	ｱﾗﾔ　ﾐｴｺ 顕谷　美枝子 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		英語総合３（A） 英語総合４（A）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
129	兼任	講師	ｱﾘｴﾀﾄﾞﾐﾝｹﾞｽﾀﾞﾆｴﾙ アリエタ　ドミンゲス　ダニエル ＜令和5年4月＞		Doctorado en Estudios Literarios (Ph.D. in Literary Studies) (スペイン)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢC スペイン語ⅢD	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
130	兼任	講師	ｲ　ｼﾞｮﾝﾋｮﾝ 李　妍炫 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化学)		コリア語ⅢC コリア語ⅢD	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
131	兼任	講師	ｲｲｼﾞﾏ　ﾕｳﾀﾛｳ 飯島　雄太郎 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語ⅢA ドイツ語ⅢB	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
132	兼任	講師	ｲｶﾞﾗｼ　ﾉﾘｺ 五十嵐　徳子 ＜令和6年10月＞		博士 (言語文化学)		ロシア語Ⅱ	2 後	2	1	天理大学 教授 (平成27.4)	
133	兼任	講師	ｲｸｼﾏ　ﾋﾛｺ 生島　弘子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		倫理学B	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
134	兼任	講師	ｲｹｵ　ﾔｽｼ 池尾　靖志 ＜令和6年4月＞		修士 (国際関係学)		平和学A	2 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
135	兼任	講師	ｲｹﾀﾞ　ﾏﾘｱ イケダ　マリア ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		英語で学ぶ日本の社会B	1 前	2	1	京都産業大学 経済学部 准教授 (平成28.4)	
136	兼任	講師	ｲｹﾊﾀ　ﾁｶｺ 池端　千賀子 ＜令和5年4月＞		博士 (アメリカ研究)		英語資格試験セミナー	1 前	2	1	大阪公立大学 特任講師 (令和4.4)	
137	兼任	講師	ｲｻﾞﾜ　ｷﾖｼ 井澤　清 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		ラテン語Ⅰ ラテン語Ⅱ	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
138	兼任	講師	ｲｼｲ　ﾓﾄｺ 石井　素子 ＜令和5年4月＞		修士※ (教育学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
139	兼任	講師	ｲｿﾉ　ﾖｼﾐ 磯野　吉美 ＜令和5年4月＞		修士 (言語・文化学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
140	兼任	講師	ｲﾃﾞ　ｼﾝﾔ 井出　真也 ＜令和6年4月＞		修士※ (法学)		国際社会論 法学概論	2 前 3 通	2 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
141	兼任	講師	ｲﾄｳ　ｶﾉ(ｻﾖｺ) 伊藤　華野(佐陽子) ＜令和7年10月＞		修士 (教育学) 修士 (学校教育学)		マインドフルネス・ヨーガ	3 後	2	1	京都西山短期大学 准教授 (平成28.4)	
142	兼任	講師	ｲﾄｳ　ｼｮｳｴｲ 伊藤　正栄 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語総合３（A） 英語総合４（A）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
143	兼任	講師	ｲﾉｳｴ　ｹｲｺ 井上　惠子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		スポーツ技術学演習	1 前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
144	兼任	講師	ｲﾏｲ　ｹｲｽｹ 今井　啓介 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツ技術学演習	1 前	12	6	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
145	兼任	講師	ｲﾜｻｷ　ﾀｹﾄ 岩﨑　豪人 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		クリティカル・シンキング	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
146	兼任	講師	ｳ　ﾖｳﾒｲ 于　耀明 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
147	兼任	講師	ｳｴﾆｼ　ﾏｺﾄ 上西　実 ＜令和5年4月＞		修士 (理学)		日本の自然 ※ 野外観察法 自然誌実習 ※	1 前 2 前 2前・後	2.1 2 5.6	2 1 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
148	兼任	講師	ｳｴﾆｼ　ﾔｽﾕｷ 上西　泰之 ＜令和5年4月＞		文学修士※		アジアの歴史Ａ	1 前	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
149	兼任	講師	ｳｼﾈ　ﾔｽﾋﾛ 牛根　靖裕 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		アジアの歴史Ａ アジアの歴史Ｂ	1 前 1 後	4 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
150	兼任	講師	ｴｼﾛ　ﾀﾀﾞｵ 江城　忠雄 ＜令和5年4月＞		文学修士※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢＡ ドイツ語ⅢＢ ドイツ語ⅢＣ ドイツ語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後	4 4 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
151	兼任	講師	ｵ　ﾁｭﾝｷﾞﾙ 呉　春吉 ＜令和5年4月＞		学術修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
152	兼任	講師	ｵｳ　ｱｼﾝ 王　亜新 ＜令和5年4月＞		修士※ (経済学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
153	兼任	講師	ｵｳ　ﾀｲｾﾝ 王　大川 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
154	兼任	講師	ｵｳ　ﾄﾓﾋﾛ 王　智弘 ＜令和5年4月＞		博士 (国際協力学)		環境学	1 前	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
155	兼任	講師	ｵｵﾀ　ｿｳｼﾞ 太田　宗志 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		法学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
156	兼任	講師	ｵｵﾀﾆ　ﾀｹﾌﾐ 大谷　岳文 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		哲学Ａ 論理学	1 前 2 前	2 4	1 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
157	兼任	講師	ｵｵﾏﾂ　ｶﾖｺ 大松　佳代子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢＡ ドイツ語ⅢＢ ドイツ語ⅢＣ ドイツ語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後	4 4 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
158	兼任	講師	ｵｶﾞｼﾜ　ﾋﾛﾄｼ 小柏　裕俊 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＢ フランス語セミナーＩＣ フランス語セミナーＩＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
159	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ　ﾀﾞｲｽｹ 岡本　大典 ＜令和6年10月＞		学士 (法学)		スポーツと人権・平和	2 後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
160	兼任	講師	ｵｻﾞｷ　ﾕｳｺ 尾﨑　裕子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語総合１（A） 英語総合２（A） 英語セミナーＤ１ 英語セミナーＤ２	1 前 1 後 3 前 3 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
161	兼任	講師	ｵｻﾀﾞ　ｷﾖｼ 長田　希好 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（A） 英語総合２（A）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
162	兼任	講師	ｶｷﾓﾄ　ﾖｼﾐ 柿本　佳美 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		倫理学Ａ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
163	兼任	講師	ｶｸ　ﾋｴｲ 郭　斐映 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
164	兼任	講師	ｶｻｲ　ｴﾘｺ 葛西　映吏子 ＜令和5年4月＞		博士 (社会学)		ジェンダー論 社会学のすすめ	2 前 1 前	2 6	1 3	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
165	兼任	講師	ｶｼﾞﾀ　ﾏﾅﾌﾞ 梶田　学 ＜令和5年4月＞		教育学学士		日本の自然 ※	1 前	0.8	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
166	兼任	講師	ｶﾂﾗ　ﾏｻﾐﾁ 桂　正道 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		宗門法規	1 前	2	1	浄土真宗本願寺派 寺院活動支援部長 (平成31.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
167	兼任	講師	ｶﾄｳ　ｼﾝｺﾞ 加藤　真悟 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		教化法 ※	1 通	1.3	2	浄土真宗本願寺派 自然寺代表役員 (平成12.10)	
168	兼任	講師	ｶﾄｳ　ﾔｽｺ 加藤　泰子 ＜令和5年4月＞		博士 (アメリカ研究)		社会調査のすすめ	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
169	兼任	講師	ｶﾄﾞﾜｷ　ｺｳﾒｲ 門脇　浩明 ＜令和6年4月＞		Ph.D. Biological Sciences		民族の自然誌	2 前	2	1	京都大学 白眉センター 特定准教授 (平成30.4)	
170	兼任	講師	ｶﾅﾏﾙ(ﾊﾀﾉ)　ﾄｼﾕｷ 金丸（波多野）　敏幸 ＜令和5年4月＞		博士 (人間・環境学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	京都大学 国際高等教育院 准教授 (平成19.10)	
171	兼任	講師	ｶﾏｸﾗ　ﾏｲ 鎌倉　真依 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		日本の自然 ※	1 前	0.8	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
172	兼任	講師	ｶﾐﾀﾆ　ﾖｼﾛｳ 神谷　佳郎 ＜令和5年4月＞		M.A. (TESOL) (米国) 修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	神戸学院大学 法学部 准教授 (平成27.4)	
173	兼任	講師	ｶﾐﾉ　ﾔｽﾕｷ 神野　恭行 ＜令和5年4月＞		外国語学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
174	兼任	講師	ｶﾞﾙｼｱ ｱﾙﾊﾞﾚｽ ｱﾝﾄﾞﾚｽ ガルシア　アルバレス　アンドレス ＜令和5年4月＞		修士 (応用言語学) 修士 (スペイン語教授法学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
175	兼任	講師	ｶﾜｲ　ﾘｮｳｿﾞｳ 河合　良三 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語ⅢＣ ドイツ語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
176	兼任	講師	ｶﾜｷﾀ　ｼﾞｭﾝｺ 河北　純子 ＜令和5年4月＞		学術修士		スポーツ技術学演習	1 前	8	4	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
177	兼任	講師	ｶﾜﾀﾞ　ﾉﾌﾞﾐﾁ 川田　伸道 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
178	兼任	講師	ｶﾝ　ｸﾞﾝ 韓　軍 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ	1 前 1 後 2 前	2 2 1	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
179	兼任	講師	ｷｸｶﾜ　ﾏｻｺ 菊川　雅子 ＜令和5年4月＞		修士 (アメリカ研究) M.A. in American Studies (米国)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語セミナーＡ１ 英語セミナーＡ２	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
180	兼任	講師	ｷﾀ　ﾙﾒ 喜多　留女 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
181	兼任	講師	ｷﾄﾞ　ﾖｼﾉﾌﾞ 木戸　好信 ＜令和5年4月＞		修士※ (英文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
182	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ　ｺｳﾒｲ 木下　英雄 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		社会統計学のすすめ	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
183	兼任	講師	ｷﾑ　ｼﾞｮﾝﾄﾞｸ 金　鍾徳 ＜令和5年4月＞		Ph.D. in Linguistics (フランス)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢＣ コリア語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	同志社大学 グローバル地域 文化学部 准教授 (平成30.4)	
184	兼任	講師	ｷﾑ　ｼﾞｮﾝﾎ 金　情浩 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語コミュニケーションⅠ コリア語コミュニケーションⅡ	1 前 1 後 2 後 3 前	2 2 2 2	1 1 1 1	京都女子大学 文学部 准教授 (平成27.4)	
185	兼任	講師	ｷﾑ　ﾖｷﾞｮﾝ 金　汝卿 ＜令和5年4月＞		修士 (人間・環境学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
186	兼任	講師	ｷﾑ　ﾖﾝﾁｬﾝ 金　容賛 ＜令和6年4月＞		博士 (国際関係学)		平和学Ａ	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
187	兼任	講師	ｸｫﾝ　ｾﾐ 権　世美 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
188	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ　ｱﾂｺ 工藤　敦子 ＜令和5年4月＞		文学修士※		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
189	兼任	講師	ｸﾆﾄﾓ　ｶｽﾞﾋﾛ 國友　万裕 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
190	兼任	講師	ｸﾘﾓﾄ　ﾕﾐ 栗本　裕見 ＜令和7年4月＞		修士※ (法学)		政治学原理	3 通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
191	兼任	講師	ｸﾛﾀﾞ　ｲｯﾍﾟｲ 黒田　一平 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ） 英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	2 前 2 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
192	兼任	講師	ｸﾜｶﾞｷ　ﾕﾀｶ 桒垣　豊 ＜令和6年4月＞		工学修士		環境と社会	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
193	兼任	講師	ｹｲ　ﾍｲｹﾞﾂ 荊　秉月 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 講師 (令和4.4)	
194	兼任	講師	ｺﾞ　ｴｲｷﾞｮｸ 呉　英玉 ＜令和5年4月＞		学士 (漢語言文学教育) (中国) 修士※ (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
195	兼任	講師	ｺｳ　ｲｴﾝ 高　岩 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
196	兼任	講師	ｺｳｼﾞﾓﾄ　ｻﾁｺ 柑本　幸子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
197	兼任	講師	ｺｳﾓﾄ　ﾔｽｺ 河本　恭子 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		生命科学のすすめ ※ 生命科学	1 前 1 後	0.9 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
198	兼任	講師	ｺﾞｰﾏﾝ　ｼﾞｮﾝ ゴーマン　ジョン ＜令和6年4月＞		Bachelor of Arts in Soviet Studies (USA) Masters in Film Studies (Ireland)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
199	兼任	講師	ｺﾞﾄｳ　ｹｲｼﾞ 後藤　桂治 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		確率・統計入門 数理と計算	1 前 2 前	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
200	兼任	講師	ｺﾆｼ　ﾄｼｵ 小西　敏夫 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) 文学修士 (大韓民国)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
201	兼任	講師	ｻｲﾄｳ　ﾐﾎ 齋藤　美保 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		動物の自然誌	2 前	2	1	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 (令和4.3)	
202	兼任	講師	ｻｲﾓﾝ　ｼｹﾞｷ 西紋　茂樹 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
203	兼任	講師	ｻｶｲ（ﾊｼｸﾞﾁ）ﾒｸﾞﾐ 坂井（橋口）めぐみ ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		科学論	2 前	2	1	日本学術振興会特別研究員 RPD (令和4.4)	
204	兼任	講師	ｻｶｶﾞﾐ　ﾏｻｱｷ 阪上　雅昭 ＜令和6年4月＞		理学博士		エネルギー入門	2 前	4	2	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 (平成8.4)	
205	兼任	講師	ｻｶﾀ　ｺﾉﾐ 坂田　彩 ＜令和6年10月＞		修士※ (言語文化)		スペイン語コミュニケーションⅠ スペイン語コミュニケーションⅡ	2 後 3 前	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
206	兼任	講師	ｻｸﾗｷﾞ　ﾖｳｺ 櫻木　陽子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
207	兼任	講師	ｻﾄｳ　ﾀｶﾉﾘ 佐藤　貴宣 ＜令和6年4月＞		博士 (人間科学)		学校教育社会学	2 前	4	2	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員 (令和2.4)	
208	兼任	講師	ｻﾄｳ　ﾅﾂｷ 佐藤　夏樹 ＜令和5年10月＞		博士 (文学)		現代世界の歴史Ｂ	1 後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
209	兼任	講師	ｻﾄｳ　ﾏｽﾐ 佐藤　万寿美 ＜令和5年4月＞		工学士		教職コンピュータ基礎	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
210	兼任	講師	ｻﾅﾀﾞ　ﾐﾂﾙ 真田　満 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
211	兼任	講師	ｻﾙｶﾞﾛﾛ　ﾙﾃﾞｨ サルガロロ　ルディ ＜令和5年4月＞		Doctorat en droit, economie et administration, mention sciences juridiques, specialite droit public (フランス)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
212	兼任	講師	ｻﾜ　ﾕｳｽｹ 澤　祐介 ＜令和6年4月＞		修士 (理学)		野外観察法	2 前	2	1	公益財団法人 山階鳥類研究所 研究員 (令和2.6)	
213	兼任	講師	ｼｵﾀ　ｼﾞｭﾝ 塩田　潤 ＜令和5年4月＞		博士 (政治学)		政治学のすすめ	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
214	兼任	講師	ｼｽﾈﾛｽ　ﾏﾇｴﾙ シスネロス　マヌエル ＜令和6年4月＞		Master in Japanese Studies※ (メキシコ)		スペイン語セミナーＩＣ スペイン語セミナーＩＤ	2 前 2 後	2 2	1 1	関西大学 スペイン語講師 (平成29.4)	
215	兼任	講師	ｼﾉﾀﾞ　ﾅｵﾋｻ 信田　尚久 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		哲学Ｂ	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
216	兼任	講師	ｼﾏ　ﾚｲｺ 島　令子 ＜令和6年4月＞		言語学修士		英語セミナーＢ１ 英語セミナーＢ２	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
217	兼任	講師	ｼﾐｽﾞ　ﾀｸﾏ 清水　拓磨 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		法学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
218	兼任	講師	ｼﾞｬｰﾌｧｰﾘｰ ｱﾎﾞﾙｶﾞｰｾﾑ ジャーファリー アボルガーセム ＜令和6年10月＞		Ph. D in Religious Studies (Iran)		ペルシア語ⅡＡ	2 後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
219	兼任	講師	ｼﾗｻｷ　ｱｲ 白﨑　藍 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
220	兼任	講師	ｼﾝﾉ　ﾏﾓﾙ 新野　守 ＜令和5年4月＞		教育学修士		スポーツ技術学演習 現代社会とスポーツ	1 前 1 前	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
221	兼任	講師	ｽｶﾞﾉ　ﾐﾁﾅﾘ 菅野　瑞治也 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	京都外国語大学 外国語学部 教授 (平成元.4)	
222	兼任	講師	ｽﾄﾞｳ　ｱｷｺ 須藤　明子 ＜令和5年4月＞		博士 (獣医学)		日本の自然 ※	1 前	0.8	2	株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役 (平成10.10)	
223	兼任	講師	ｾｷ　ﾊﾂﾐ 関　初海 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		英語総合３（A） 英語総合４（A）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
224	兼任	講師	ｾｻﾞｷ　ｹｲｼﾞ 瀬崎　圭二 ＜令和5年10月＞		博士 (学術)		日本の文学Ｂ	1 後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
225	兼任	講師	ｾﾉｵ　ﾄﾓﾉﾘ 妹尾　知則 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		日本国憲法 現代社会と労働	1 前 2 前	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
226	兼任	講師	ｿｳ　ｲｷﾝ 曹　偉琴 ＜令和5年4月＞		修士 (社会言語学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＣ	1 前 1 後 2 前	4 4 1	2 2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
227	兼任	講師	ｿｳ　ｴｲ 宋　穎 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
228	兼任	講師	ﾀｶﾀﾞ　ﾄｼｼﾞ 高田　敏司 ＜令和6年4月＞		学士 (社会学)		現代社会と福祉	2 前	2	1	京都新聞編集局 次長兼報道部長 (平成27.10)	
229	兼任	講師	ﾀｶﾀﾞ　ﾊﾙﾐ 高田　治美 ＜令和6年4月＞		文学修士		英語総合３（A） 英語総合４（A）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
230	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ　ｱﾂｼ 高柳　敦 ＜令和5年4月＞		博士 (農学)		里山学 ※	1 前	0.1	1	京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 准教授 (令和元.11)	
231	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ　ｾｲｼﾞ 武田　征士 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生命誌	2 前	4	2	京都府立大学 生命環境学部 准教授 (平成23.11)	
232	兼任	講師	ﾀｼﾞ　ｶｽﾞｺ 太治　和子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1 前 1 後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
233	兼任	講師	ﾀｼﾞﾏ　ﾄｵﾙ 但馬　亨 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		数学への旅 科学論 数学入門	1 前 2 前 1 前	4 2 4	2 1 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
234	兼任	講師	ﾀﾅｶ　ﾄﾓﾕｷ 田中　智之 ＜令和5年4月＞		博士 (臨床心理学)		臨床心理学概論 心理学的支援法 青年心理と友人関係	1 前 1 後 3 前	2 2 2	1 1 1	堺女子短期大学 助教 (令和4.4)	
235	兼任	講師	ﾀﾅｶ　ﾅｵ 田中　直 ＜令和5年4月＞		博士 (国際関係学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
236	兼任	講師	ﾀﾅｶ　ﾕﾘ 田中　友理 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
237	兼任	講師	ﾀﾆ　ﾏｻﾄ 谷　正人 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		ペルシア語ＩＡ	2 前	2	1	神戸大学人間発達環境学研究科 准教授 (平成25.4)	
238	兼任	講師	ﾀﾆ　ﾒｸﾞﾐ 谷　めぐみ ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		スポーツ技術学演習 人間とスポーツ	1 前 1 前	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
239	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ　ﾔｽﾋｻ 谷口　裕久 ＜令和5年4月＞		修士 (国際学)		文化人類学のすすめ	1 前	4	2	大阪観光大学 国際交流学部 教授 (平成27.4)	
240	兼任	講師	ﾀﾏｷ　ｼﾝﾀ 玉木　晋太 ＜令和6年4月＞		修士※ (教育学)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
241	兼任	講師	ﾀﾞﾏｯｺ　ｵﾘﾊﾞｰ ダマッコ　オリバー ＜令和5年4月＞		MA（TESOL） Linguistics (イギリス)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ） 英語セミナーＩ１ 英語セミナーＩ２	1 前 1 後 2 前 2 後 1 前 1 後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
242	兼任	講師	ﾁｮｳ　ﾄｳｷ 趙　冬輝 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
243	兼任	講師	ﾁﾝ　ﾌｸｷ 陳　福輝 ＜令和5年4月＞		修士 (言語・文化学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＣ 中国語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
244	兼任	講師	ﾂｶﾀﾞ　ﾘｮｳﾀ 塚田　亮太 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		中国語ⅢＣ 中国語ⅢＤ	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
245	兼任	講師	ﾂﾂｲ　ｶﾖｺ 筒井　香代子 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
246	兼任	講師	ﾂﾂｲ　ﾘｮｳﾀ 筒井　亮太 ＜令和7年10月＞		修士 (臨床心理学)		愛着障害と親子関係	3 後	2	1	たちメンタルクリニック心理士 (平成28.4)	
247	兼任	講師	ﾃｲ　ｱｲﾘ 鄭　愛莉 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
248	兼任	講師	ﾃｲ　ﾋｮｳ 鄭　萍 ＜令和5年4月＞		修士※ (教育学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	4 4 1 1	2 2 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
249	兼任	講師	ﾃﾗｵ　ｴﾘｺ 寺尾　江利子 ＜令和5年4月＞		博士 (言語文化) Diploma de Estudios Avanzados (D.E.A) (スペイン)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
250	兼任	講師	ﾃﾗﾓﾄ　ｾｲｼ 寺本　聖史 ＜令和5年4月＞		準学士		勤式 ※	1 通	1.0	1	浄土真宗本願寺派 勤式指導所講師 (平成7.4)	
251	兼任	講師	ﾄｳ　ｶﾝ 佟　岩 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ 中国語セミナーＩＡ 中国語セミナーＩＢ 中国語コミュニケーションＩ 中国語コミュニケーションⅡ	2 前 2 後 2 前 2 後 2 後 3 前	1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
252	兼任	講師	ﾄｳｺｳ　ﾋﾛﾋﾃﾞ 東光　博英 ＜令和6年4月＞		文学修士		ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ ポルトガル語ⅢＡ ポルトガル語ⅢＢ	2 前 2 後 3 前 3 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
253	兼任	講師	ﾄﾞﾗｸﾞﾅ　ﾗﾙｶ　ﾏﾘｱ ドラグナ　ラルカ　マリア ＜令和5年4月＞		修士※ (人間科学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ） 英語セミナーＨ１ 英語セミナーＨ２	1 前 1 後 1 前 1 後 2 前 2 後 3 前 3 後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
254	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ　ﾖｳｺ 内藤　陽子 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		日本の自然 ※	1 前	0.8	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
255	兼任	講師	ﾅｶｲ　ﾕｳｷ 中井　祐希 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		文章表現法Ａ	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
256	兼任	講師	ﾅｶｵ　ｻﾁｺ 中尾　幸子 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
257	兼任	講師	ﾅｶﾞｵｶ　ｱｷﾗ 長岡　明 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語総合３（Ａ） 英語総合４（Ａ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
258	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｱｷﾗ 中川　昭 ＜令和5年4月＞		Master in TESOL (米国)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
259	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｵｵｷ 中川　大城 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		教化法 ※	1 通	1.6	2	浄土真宗本願寺派 得度習礼教師教修 講師 (平成28.4)	
260	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ｾﾂｺ 中川　節子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢＡ スペイン語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
261	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ﾖｼﾕｷ 中川　義行 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		数理と論証 現代社会の諸問題	2 前 2 後	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
262	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ　ﾘｷ 中川　理季 ＜令和5年4月＞		修士※ (社会学)		人権論Ａ	1 前	2	1	公益財団法人 世界人権問題 研究センター 専任研究員 (令和元.4)	
263	兼任	講師	ﾅｶｾ　ｺｳｲﾁ 中瀬　浩一 ＜令和6年10月＞		博士 (学校教育学)		特別支援教育概論	2 後	4	2	同志社大学 文化情報学部 教授 (令和3.4)	
264	兼任	講師	ﾅｶﾆｼ　ﾉﾘｺ 中西　典子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
265	兼任	講師	ﾅｶﾈ　ｶﾂﾐ 中祢　勝美 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	天理大学 国際学部 准教授 (平成28.4)	
266	兼任	講師	ﾅｶﾉ　ﾕｷﾅﾘ 中野　礼生 ＜令和5年4月＞		文学修士※		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
267	兼任	講師	ﾅｶﾞﾉ　ｺｳｼﾞ 永野　浩二 ＜令和7年4月＞		教育学修士		中年期の危機とうつ	3 前	2	1	追手門学院大学 教授 (平成30.4)	
268	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ　ﾁｻｺ 中村　秩祥子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術) Graduate Diploma in TESOL (ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
269	兼任	講師	ﾅﾗﾓﾄ　ﾏｻﾋﾛ 楢本　昌広 ＜令和5年4月＞		学士 (工学)		勤式 ※	1 通	0.7	1	龍谷山本願寺 式務部課長 (令和3.4)	
270	兼任	講師	ﾅﾘｱｲ　ﾐｷ 成相　美紀 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ医学)		スポーツ技術学演習	1 前	6	3	京都先端科学大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	
271	兼任	講師	ﾅﾘﾄﾐ　ｼｭｳﾄ 成冨　守登 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		法学のすすめ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
272	兼任	講師	ﾅﾙｺ　ｱﾂｼ 成子　篤 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		時間と空間の科学	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
273	兼任	講師	ﾆｼｶﾜ　ｶｽﾞｼﾞ 西川　一二 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		学習・発達論Ａ 学習・発達論Ｂ	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
274	兼任	講師	ﾆｼｶﾜ　ﾕﾐｺ 西川　由美子 ＜令和5年4月＞		修士 (アメリカ研究)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
275	兼任	講師	ﾆｼｻｺ　ｾｲｲﾁﾛｳ 西迫　成一郎 ＜令和5年4月＞		社会学修士※		心の科学Ａ 心の科学Ｂ	1 前 1 後	2 2	1 1	相愛大学 准教授 (平成12.4)	
276	兼任	講師	ﾆｼﾀﾞ　ﾋﾛｶｽﾞ 西田　廣和 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
277	兼任	講師	ﾆｼﾑﾗ　ｻﾔｺ 西村　佐彩子 ＜令和7年10月＞		博士 (心理学)		人格心理学と精神力動論	3 後	2	1	京都教育大学 准教授 (平成27.4)	
278	兼任	講師	ﾆｼﾔﾏ　ｼｭﾝｲﾁ 西山　俊一 ＜令和5年4月＞		修士※ (経営学)		教職コンピュータ基礎	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
279	兼任	講師	ﾈｸﾞﾛﾝ　ﾛﾍﾞﾙﾄ ネグロン　ロベルト ＜令和5年4月＞		博士 (情報科学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
280	兼任	講師	ﾈﾑ　ｶｽﾞﾕｷ 根無　一行 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		宗教の世界Ａ 宗教の世界Ｂ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
281	兼任	講師	ﾉｶﾞﾐ　ｹｲｺ 野上　慶子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育発達学)		応用心理学Ａ 応用心理学Ｂ	2 前 2 後	2 2	1 1	日本学術振興会 特別研究員 (DC2) (令和4.4)	
282	兼任	講師	ﾉｶﾞﾐ　ﾀﾞｲｻｸ 野上　大作 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		宇宙の科学Ⅱ	2 前	2	1	京都大学大学院 理学研究科 准教授 (平成12.10)	
283	兼任	講師	ﾊﾟｸ　ｼﾝﾁｬ 朴　伸次 ＜令和5年4月＞		Master of Arts (Sociology) from Department of Sociology (アメリカ)		国際学のすすめ 英語で学ぶ日本の社会Ａ	1 前 1 後	4 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
284	兼任	講師	ﾊﾟｸ　ﾐｷﾞｮﾝ 朴　美暻 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		現代社会とメディア	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
285	兼任	講師	ﾊｸｼｮｳ　ﾎﾟｰﾙ ハクショウ　ポール ＜令和6年4月＞		Masters of Education (M.Ed)		英語セミナーＣ１ 英語セミナーＣ２ 英語セミナーＨ１ 英語セミナーＨ２	2 前 2 後 3 前 3 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
286	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ　ﾄｼｴ 橋本　淑恵 ＜令和7年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語セミナーⅡＡ ドイツ語セミナーⅡＢ	3 前 3 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
287	兼任	講師	ﾊﾅﾑﾗ　ｼｭﾝｷﾁ 花村　俊吉 ＜令和6年4月＞		修士※ (理学)		動物の自然誌	2 前	2	1	京都大学アフリカ地域研究資料センター・特任研究員 (平成28.5)	
288	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ　ﾕｷｺ 早川　由希子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	立命館大学 言語教育センター 外国語嘱託講師 (令和3.4)	
289	兼任	講師	ﾊﾔｼ　ﾋﾃﾞﾔ 林　英哉 ＜令和5年4月＞		Dr. phil. (Deutsche Philologie) (ドイツ)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語セミナーＩＣ ドイツ語セミナーＩＤ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
290	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ　ﾔｽﾔ 原田　靖也 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	1 前 1 後 2 前 2 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
291	兼任	講師	ﾊﾞﾝﾊﾞ　ﾁﾋ 馬場　智姫 ＜令和5年4月＞		文学修士		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
292	兼任	講師	ﾋｶﾞ　ﾔｽｼ 比嘉　靖 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツ技術学演習	1 前	8	4	大阪体育大学 体育学部 准教授 (平成27.4)	
293	兼任	講師	ﾋﾟﾅｳ　ﾊｲｹ ピナウ　ハイケ ＜令和5年4月＞		Magister Artium (ドイツ)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語セミナーＩＡ ドイツ語セミナーＩＢ ドイツ語セミナーⅡＣ ドイツ語セミナーⅡＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 3 前 3 後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	京都外国語大学 外国語学部 准教授 (平成25.4)	
294	兼任	講師	ﾋﾗｵｶ　ﾀｶﾋﾛ 平岡　敬浩 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		数学入門 数学への旅	1 前 1 前	4 4	2 2	立命館大学 授業担当講師 (平成25.4)	
295	兼任	講師	ﾋﾗﾀ　ｴﾐ 平田　絵未 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	大谷大学 文学部 助教 (令和3.4)	
296	兼任	講師	ﾋﾛｾ　ﾕｳｷ 廣瀬　優希 ＜令和7年4月＞		博士 (臨床心理学)		ダンスセラピー	3 前	2	1	京都文教大学 非常勤講師 (平成30.4)	
297	兼任	講師	ﾌｸﾓﾄ　ﾀｶｼ 福元　崇志 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		芸術の世界Ｂ	2 後	2	1	国立国際美術館 主任研究員 (平成27.4)	
298	兼任	講師	ﾌｼﾞｲ　ｱｷﾋﾛ 藤井　晶宏 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		英語セミナーＦ１ 英語セミナーＦ２	2 前 2 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
299	兼任	講師	ﾌｼﾞｵｶ　ﾏｻｷ 藤岡　真樹 ＜令和5年4月＞		博士 (人間・環境学)		現代世界の歴史Ａ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
300	兼任	講師	ﾌｼﾞｻﾜ　ﾖｼﾕｷ 藤澤　良行 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	大阪樟蔭女子大学 名誉教授 (令和3.4)	
301	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾂｺ 藤本　厚子 ＜令和5年4月＞		修士 (応用英語)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ） 英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
302	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｱﾂｼ 藤本　篤 ＜令和6年4月＞		修士 (アメリカ研究)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
303	兼任	講師	ﾌｾ　ｼｽﾞｶ 布施　静香 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		植物の自然誌	2 前	2	1	京都大学大学院 理学研究科 助教 (平成25.12)	
304	兼任	講師	ﾌﾅｷ　ﾃﾂｵ 舟木　徹男 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		社会思想史	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
305	兼任	講師	ﾌﾞﾘｯｼﾞﾏﾝ･ﾊﾞｰｸ ブリッジマン・バーク ＜令和6年4月＞		B.A. Social Sciences - Majored Psychology (Canada) Masters of Education -TESOL (Australia)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ） 英語セミナーＪ１ 英語セミナーＪ２	2 前 2 後 3 前 3 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
306	兼任	講師	ﾍﾟｸ　ｽｼﾞﾝ 白　秀珍 ＜令和6年4月＞		修士※ (人間科学)		コリア語ⅢＡ コリア語ⅢＢ コリア語セミナーＩＡ コリア語セミナーＩＢ	2 前 2 後 2 前 2 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
307	兼任	講師	ﾍﾊﾞﾙ　ｼﾝｼﾞｮｳ 邊春　真乗 ＜令和5年4月＞		準学士		勤式 ※	1 通	0.7	1	龍谷山本願寺 式務部課長 (令和元.12)	
308	兼任	講師	ﾍﾔ　ｻﾁｺ 部矢　祥子 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		日本の文学Ａ 日本の文学Ｂ	1 前 1 後	4 4	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
309	兼任	講師	ﾎｺﾔﾏ　ﾉﾘｺ 鋒山　智子 ＜令和7年4月＞		文学士		心理的アセスメントⅡ 発達障害と応用行動分析	3 前 3 後	2 2	1 1	社会福祉法人花ノ木　花ノ木医療福祉センター児童発達支援センター 副センター長 (令和2.4)	
310	兼任	講師	ﾎﾘｹ　ﾕｷﾖ 堀家　由妃代 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		教育学のすすめＡ 教育学のすすめＢ	1 前 1 後	2 2	1 1	佛教大学 教育学部 准教授 (平成19.4)	
311	兼任	講師	ﾎﾞﾜﾄｰ　ﾊﾟﾄﾘｽ ボワトー　パトリス ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語セミナーＩＡ フランス語セミナーＩＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
312	兼任	講師	ﾎﾝﾀﾞ　ﾀﾀﾞﾉﾘ 本多　忠紀 ＜令和5年4月＞		理学修士		生命科学のすすめ 生命科学	1 前 1 後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
313	兼任	講師	ﾎﾝﾏ　ﾁｶｹﾞ 本間　千景 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
314	兼任	講師	ﾏﾁﾀﾞ　ﾋﾃﾞﾖ 町田　英世 ＜令和5年10月＞		医学士		健康・医療心理学 ひきこもりと精神的健康	1 後 3 後	2 2	1 1	医療法人まちだクリニック 院長 (平成15.11)	
315	兼任	講師	ﾏﾂｲ　ﾅﾂｷ 松井　夏津紀 ＜令和6年4月＞		修士 (言語教育情報学)		英語総合３（Ｂ） 英語総合４（Ｂ） 英語セミナーＥ１ 英語セミナーＥ２	2 前 2 後 2 前 2 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
316	兼任	講師	ﾏﾂｴ　ｹｲｼ 松枝　啓至 ＜令和5年4月＞		博士 (人間・環境学)		哲学Ａ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
317	兼任	講師	ﾏﾂｵｶ　ｴﾘｺ 松岡　絵梨子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語総合１（Ａ） 英語総合２（Ａ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
318	兼任	講師	ﾏﾂﾊﾞﾗ　ﾌﾐ 松原　史 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		芸術の世界Ａ	2 前	2	1	北野天満宮 北野文化研究所 室長 (平成30.4)	
319	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ　ﾏｻｵ 松本　雅生 ＜令和5年10月＞		博士 (理学)		情報科学実習	1 後	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
320	兼任	講師	ﾏﾙﾔﾏ　ﾋﾃﾞﾕｷ 丸山　英幸 ＜令和5年4月＞		博士 (人間・環境学)		哲学Ａ	1 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
321	兼任	講師	ﾐｳﾗ　ﾏｻｷ 三浦　正樹 ＜令和6年4月＞		教育方法学修士		学習・発達論Ａ 学習・発達論Ｂ	2 前 2 後	2 2	1 1	芦屋大学 臨床教育学部 教授 (平成5.4)	
322	兼任	講師	ﾐｶﾐ　ﾃｲｼﾞ 三上　禎次 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		日本の自然 ※ 自然誌実習 ※ 地球科学	1 前 2 前 1 後	1.3 0.8 4	2 1 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
323	兼任	講師	ﾐﾑﾗ　ﾋﾄﾋｺ 三村　仁彦 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		英語総合１（Ｂ） 英語総合２（Ｂ）	1 前 1 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
324	兼任	講師	ﾐﾔｵ　ﾓﾄｺ 宮尾　元子 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		英語総合３（A） 英語総合４（A）	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
325	兼任	講師	ﾐﾔﾍﾞ　ﾏｻﾌﾐ 宮部　雅文 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		教化法 ※	1 通	2.5	2	浄土真宗本願寺派 布教使課程指導員 (平成24.4)	
326	兼任	講師	ﾐﾔﾏｴ　ﾁｶｺ 宮前　千雅子 ＜令和5年10月＞		修士 (文学)		人権論Ｂ	1 後	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
327	兼任	講師	ﾑﾗｲ　ﾐﾉﾙ 村井　実 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		教職コンピュータ基礎	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
328	兼任	講師	ﾓﾓｿﾞﾉ　ﾋﾛﾅﾘ 桃園　裕成 ＜令和5年4月＞		文学士		勤式 ※	1 通	1.6	1	浄土真宗本願寺派 僧侶養成部 (平成31.4)	
329	兼任	講師	ﾓﾘ　ｷﾐﾖ 森　貴実代 ＜令和5年4月＞		修士 (外国語教育学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢＡ コリア語ⅢＢ コリア語セミナーＩＣ コリア語セミナーＩＤ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後	2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
330	兼任	講師	ﾓﾘﾓﾄ　ｾｲｲﾁ 森本　誠一 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		倫理学Ａ	1 前	4	2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
331	兼任	講師	ﾓﾘﾓﾄ　ﾖｼｵ 森本　芳生 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		教育学のすすめＡ 教育学のすすめＢ	1 前 1 後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
332	兼任	講師	ﾔｽﾑﾗ　ｹｲｺ 安村　恵子 ＜令和5年4月＞		文学修士※		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語ⅢＣ フランス語ⅢＤ 倫理学Ｂ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前	2 2 1 1 2	1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
333	兼任	講師	ﾔｷﾞ　ﾘｭｳｲﾁﾛｳ 八木　隆一郎 ＜令和7年4月＞		社会学修士		量的心理学研究 社会・集団・家族心理学	3 前 3 後	2 2	1 1	公益社団法人国際経済労働研究所 専務理事兼統括研究員 (平成25.4)	
334	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ　ｼｮｳ 山口　尚 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		哲学Ｂ	2 前	2	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
335	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ　ﾀｹｼ 山口　威 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) 修士 (人間・環境学) DEA (文学研究) (フランス)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語ⅢＡ フランス語ⅢＢ フランス語ⅢＣ フランス語ⅢＤ 西洋の文学Ａ 西洋の文学Ｂ フランス語コミュニケーションＩ フランス語コミュニケーションⅡ	1 前 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後 1 前 1 後 2 後 3 前	2 2 1 1 1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
336	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ　ﾓﾄｷ 山口　元樹 ＜令和6年4月＞		博士 (史学)		アラビア語Ⅰ アラビア語Ⅱ	2 前 2 後	2 2	1 1	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 (令和2.5)	
337	兼任	講師	ﾔﾏｼﾀ　ﾀｹｵ 山下　丈夫 ＜令和6年4月＞		修士※ (言語文化学)		ロシア語Ⅰ ロシア語ⅢＡ ロシア語ⅢＢ	2 前 3 前 3 後	2 2 2	1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
338	兼任	講師	ﾔﾏｽﾞﾐ　ﾄｵﾙ 山澄　亨 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		現代世界の歴史Ａ 現代世界の歴史Ｂ	1 前 1 後	2 2	1 1	椙山女学園大学 現代マネジメント学部 教授 (平成22.4)	
339	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ｱﾕﾐ 山本　亜由美 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		人類学のすすめ 人間の生物学Ⅱ	1 前 2 後	8 2	2 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
340	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ｷｮｳｺ 山本　恭子 ＜令和6年4月＞		修士※ (文学)		中国語ⅢＣ 中国語ⅢＤ	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
341	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ﾃﾂｼﾞ 山本　哲司 ＜令和6年4月＞		文学修士※		社会学概説	2 通	4	1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
342	兼任	講師	ﾖｳﾄｳ 楊　涛 ＜令和5年4月＞		英語教育修士※		英語総合１（B） 英語総合２（B） 英語セミナーＡ１ 英語セミナーＡ２	1 前 1 後 1 前 1 後	1 1 2 2	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
343	兼任	講師	ﾖｼｶﾜ　ｱﾔｺ 吉川　絢子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語ⅢＡ コリア語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（心理学部心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
344	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ　ﾀｶｼ 吉田　卓司 ＜令和6年4月＞		法学修士※		生徒・進路指導論	2 前	2	1	藍野大学医療保健学部看護学科 准教授 (平成23.4)	
345	兼任	講師	ﾗﾌｨｯﾄ　ﾗﾌｧｴﾙ ラフィット　ラファエル ＜令和6年4月＞		日本文化・言語専攻修士 (フランス) フランス語教育専攻言語学修士 (フランス)		フランス語セミナーＩＣ フランス語セミナーＩＤ	2 前 2 後	2 2	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
346	兼任	講師	ﾘｭｳ　ｽﾐ 柳　綏美 ＜令和5年4月＞		修士※ (文学)		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ	1 前 1 後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
347	兼任	講師	ﾘｭｳ　ﾊﾞｲﾚｲ 劉　梅玲 ＜令和5年4月＞		博士 (社会文化)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1 前 1 後	4 4	2 2	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
348	兼任	講師	ﾚｲ　ﾁｮ 励　儲 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語ⅢＡ 中国語ⅢＢ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
349	兼任	講師	ﾛﾍﾟｽ　ﾊﾟｿｽ　ﾌｧﾝ　ﾎｾ ロペス　パソス フアン　ホセ ＜令和5年4月＞		Doctor en Filosofia (スペイン)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語ⅢＣ スペイン語ⅢＤ	1 前 1 後 2 前 2 後	2 2 1 1	1 1 1 1	天理大学 国際学部 准教授 (平成27.4)	
350	兼任	講師	ﾜｶｲ　ﾀｶﾌﾐ 若井　貴史 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		知覚・認知心理学 学習・言語心理学	3 前 3 後	2 2	1 1	関西福祉科学大学 EAP研究 客員研究員 (平成30.4)	
351	兼任	講師	ﾜｹ　ｼｭｳｺﾞｳ 和氣　秀剛 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		教化法 ※	1 通	2.5	2	中央仏教学院 学校教育部講師 (平成31.4)	
352	兼任	講師	ﾜﾀﾞ　ﾄｼﾋﾛ 和田　利博 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		ギリシア語Ⅰ ギリシア語Ⅱ	2 前 2 後	1 1	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令和4.4)	
353	兼任	講師	ﾜﾀﾞ　ﾕｳｺ 和田　七夕子 ＜令和5年4月＞		博士 (バイオサイエンス)		生命科学のすすめ ※	1 前	1.1	1	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 助教 (平成16.4)	

1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	人	5人	人	1人	6人	
	修　士	人	人	人	4人	人	2人	1人	7人	
	学　士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	1人	1人	1人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	3人	2人	5人	人	1人	12人	
	修　士	人	人	2人	5人	人	2人	1人	10人	
	学　士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。

3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号(その3)　別添資料

◆ 規程に基づいて特例として定年年齢を延長する教員

(心理学部心理学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	採用根拠等
9	専	教授	ﾋｶﾞｼ　ﾕﾀｶ 東　豊 ＜令和5年4月＞		「特別任用教員規程」第2条第1項第2号適用 ・2022年度心理学部設置委員会（R4.4.6開催）にて承認
14	専	教授	ﾓﾘﾀ　ﾖｼﾊﾙ 森田　喜治 ＜令和5年4月＞		「特別任用教員規程」第2条第1項第2号適用 ・2022年度心理学部設置委員会（R4.4.6開催）にて承認